

平成 19 年度 大阪湾広域廃棄物処理場整備事業

海生生物育成調査

報 告 書

平成 2 0 年 3 月

(財)ひょうご環境創造協会

目 次

第1章 調査概要	
1. 調査目的	1
2. 調査実施日	1
3. 調査場所	1
4. 調査内容	3
5. 調査方法	4
第2章 春季調査結果	
1. 調査実施日	7
2. 水質調査	
(1) 一般観測	7
(2) 機器測定	9
3. 生物調査	
(1) 目視観察	17
(2) 粹取り採取および分析	37
第3章 夏季調査結果	
1. 調査実施日	41
2. 水質調査	
(1) 一般観測	41
(2) 機器測定	43
3. 生物調査	
(1) 目視観察	51
(2) 粹取り採取および分析	73
第4章 秋季調査結果	
1. 調査実施日	77
2. 水質調査	
(1) 一般観測	77
(2) 機器測定	79
3. 生物調査	
(1) 目視観察	87
(2) 粹取り採取および分析	107

第5章 冬季調査結果	
1. 調査実施日	111
2. 水質調査	
(1) 一般観測	111
(2) 機器測定	113
3. 生物調査	
(1) 目視観察	121
(2) 粹取り採取および分析	140

第6章 考察	
1. 水質と付着生物の分布	
(1) 相対光量と海藻の分布	144
(2) DOと付着動物の分布	145
2. 生物調査結果に基づく総合評価	
(1) 評価対象	147
(2) 評価項目	147
(3) 評価方法	147
(4) 評価結果	148
3. まとめ	
(1) 水質と付着生物	152
(2) 総合評価	152
(3) 全体評価	153

資料編

- ・ 粹取り分析結果
- ・ 写真集
- ・ 平成19年度 海生生物育成調査の概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、神戸沖、尼崎沖、大阪沖、泉大津沖の各処分場において、潜水による生物の目視観察および採り採取を実施し、海生生物の生息状況、神戸沖処分場および大阪沖処分場に導入した緩傾斜式石積み護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討することを目的とする。

2. 調査実施日

- ・ 春季調査 平成19年 5月27日～平成19年 5月30日
- ・ 夏季調査 平成19年 8月 1日～平成19年 8月11日
- ・ 秋季調査 平成19年11月 1日～平成19年11月11日
- ・ 冬季調査 平成20年 2月 1日～平成19年 2月 8日

3. 調査場所

(1) 神戸沖処分場

調査地点は、緩傾斜護岸である1地点(A-2) 傾斜護岸である1地点(A-4) 直立護岸である2地点(A-5、7)の計4点に設定した。(図1-3-1)

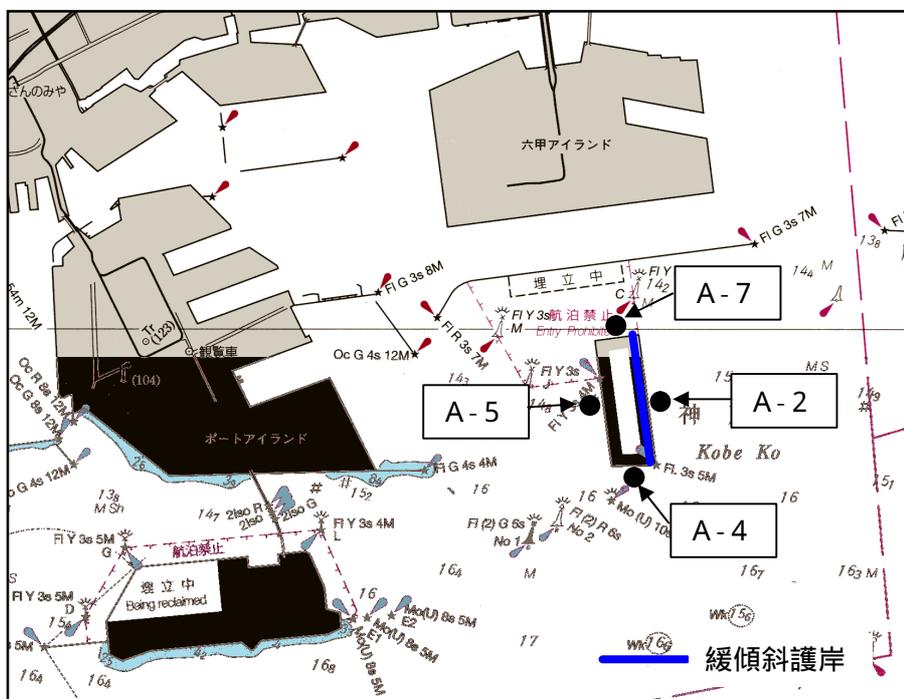


図1-3-1 神戸沖処分場調査地点

(2) 尼崎沖処分場

調査地点は、直立護岸である4地点（B - 1、2、6、7）と護岸から離れた1地点（B - 5）の計5点に設定した。（図1 - 3 - 2）

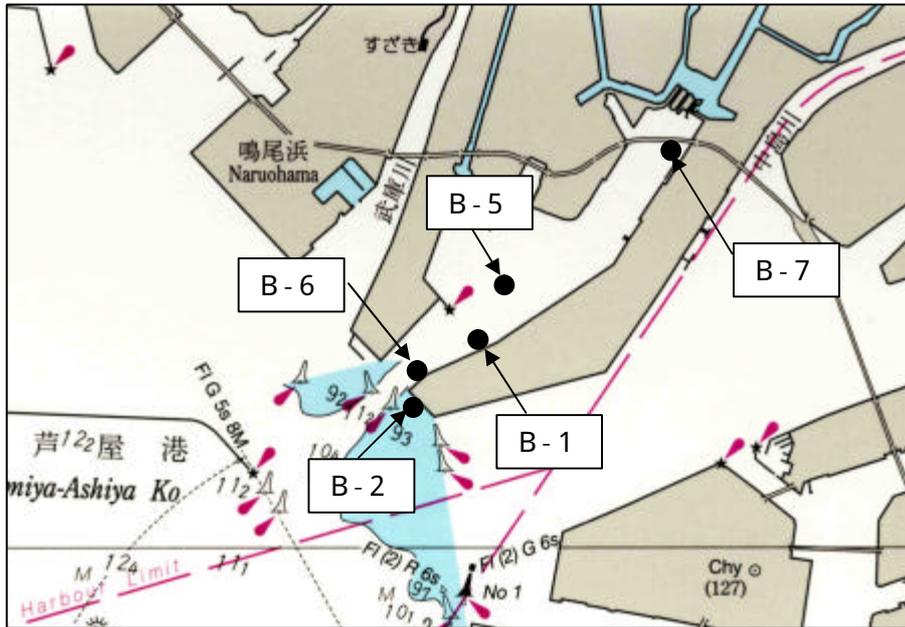


図1 - 3 - 2 尼崎沖処分場調査地点

(3) 大阪沖処分場

調査地点は、直立護岸である1地点（C - 1）、傾斜護岸である1地点（C - 2）、緩傾斜護岸である1地点（C - 3）の計3点に設定した。（図1 - 3 - 3）

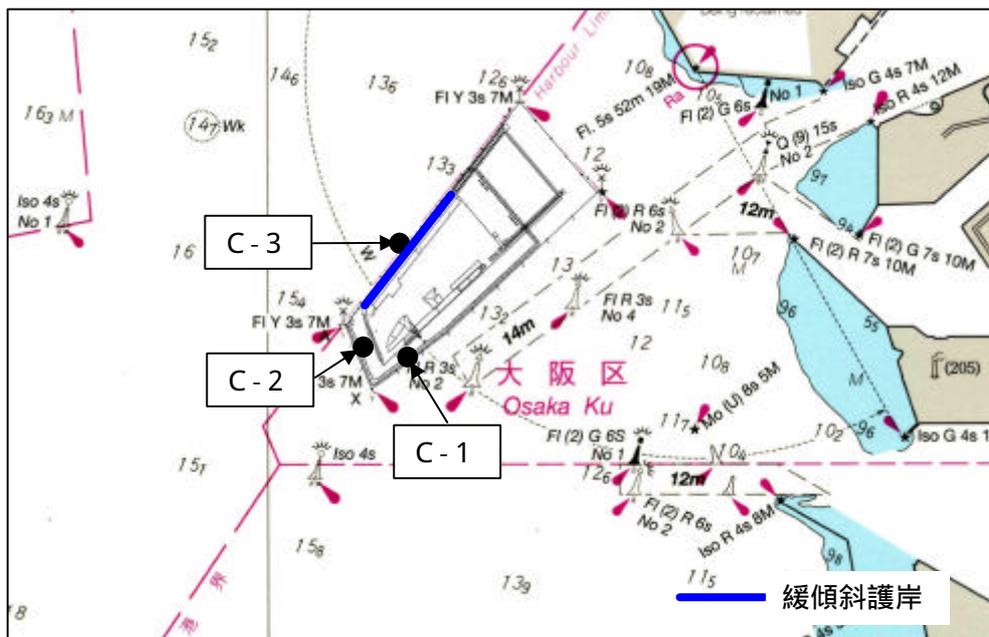


図1 - 3 - 3 大阪沖処分場調査地点

(4) 泉大津沖処分場

調査地点は、直立護岸である2地点(D-1、3)、傾斜護岸である1地点(D-2)、エコ岸壁1地点(D-5)の計4点に設定した。(図1-3-4)

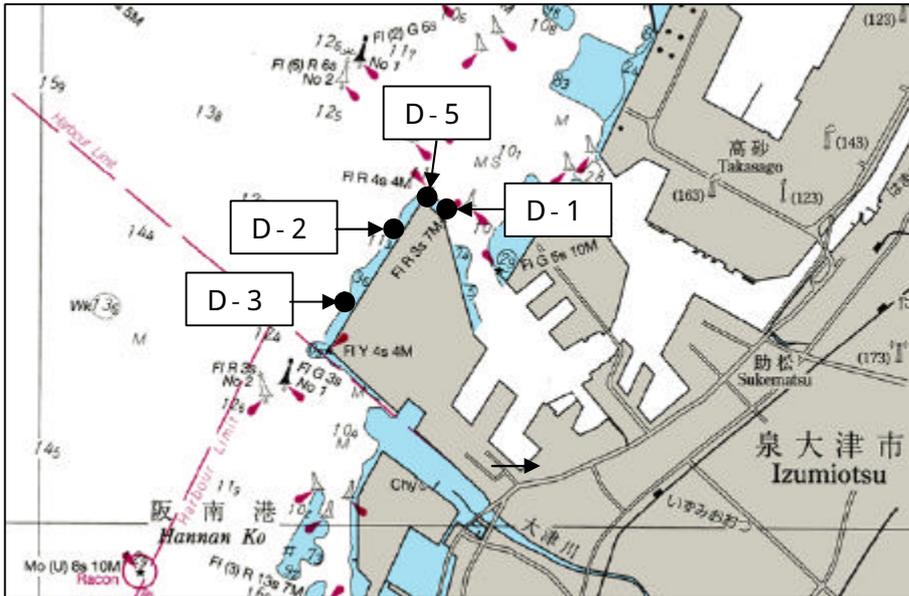


図1-3-4 泉大津沖処分場調査地点

4. 調査内容

調査内容は、各調査地点における水質環境を把握するための水質調査(一般観測・機器測定)、生物の分布状況を把握するための生物調査(目視観察・採り取り採取および分析)である。

調査内容および項目を表1-4-1に示した。

表1-4-1 調査内容および項目

調査内容		調査項目	調査方法	数量
水質	一般観測	天候・雲量・気温 風向・風速・風浪階級 水色・透明度	目視観測・機器観測	14地点 (A-2、4、5、7) (B-1、2、5、6、7) (C-1、2、3) (D-1、2)
	機器測定	水温・塩分・DO・光量	機器観測(海面下0.5m、以深1m間隔)	
生物	目視観察	植物(種類・被度) 動物(種類・個体数・被度) 魚類(種類・個体数)	目視観察・写真撮影 ビデオ撮影	15地点 (A-2、4、5、7) (B-1、2、6、7) (C-1、2、3) (D-1、2、3、5)
	採り取り採取 および分析	植物(種類・湿重量) 動物(種類・個体数・湿重量)	採り取り採取・写真撮影 室内分析	

5. 調査方法

(1) 水質調査

神戸沖処分場4地点(A-2、4、5、7)、尼崎沖処分場5地点(B-1、2、5、6、7)、大阪沖処分場3地点(C-1、2、3)、泉大津沖処分場2地点(D-1、2)の計14地点において行った。

一般観測

天候および雲量、気温、風向および風速、風浪階級、水色、透明度を船上からの目視観測および機器観測にて測定した。気温はアスマン乾湿計、風速はピラム通風計、水色は標準色カード、透明度は透明度板を用いてそれぞれ測定を行った。

機器測定

水温、塩分、DO(溶存酸素)、光量(光量子束密度)の4項目について、水質測定器を使用し、船上から機器のセンサーを海中に投下し、海面下0.5m、海面下1.0m以深については1m間隔で測定を行った。(図1-5-1)

水中光量は海面上の空中光量を100%とする相対光量(%)として取り扱った。

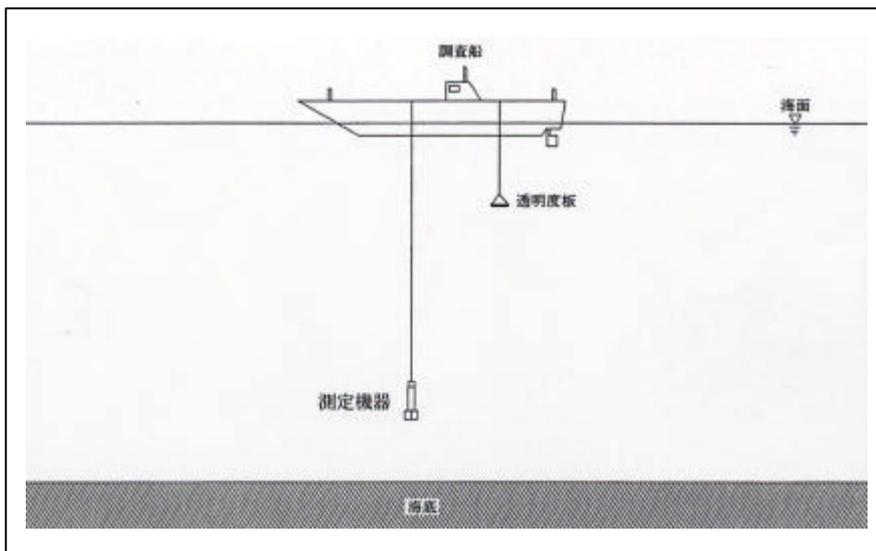


図1-5-1 機器測定状況

(2) 生物調査

目視観察

神戸沖処分場4地点(A-2、4、5、7) 尼崎沖処分場4地点(B-1、2、6、7) 大阪沖処分場3地点(C-1~3) 泉大津沖処分場3地点(D-1~3)の計14地点において、50×50cmの方形枠を用い、平均海面+1mより海底面まで1mごとに植物(種類、被度) 動物(種類、個体数、被度)の潜水目視観察と写真撮影を行った。また、護岸周辺の魚類(種類、個体数、大きさ)を潜水目視観察した(図1-5-3)。基質の表記は原則として表1-5-1の類型区分に従った。

なお、D-5(エコ岸壁)においては、図1-5-2に示すように、水深+1mより海底まで幅50cm×高さ100cmの範囲で連続的に動植物の潜水目視観察と写真撮影を行った(図内↑部)。また、6つの遊水室のうち、中央部上下の2箇所をそれぞれ上室と下室として、可能な限りで動植物の潜水目視観察と写真撮影を行った(図内■)。

表1-5-1 基質の類型区分

記号	区分の基準
B (ブロック)	-
R (岩盤)	-
S (転石)	等身大以上
Pl (巨礫)	等身大~大人の頭
Pm (大礫)	大人の頭~こぶし大
Ps (小礫)	こぶし大~米粒大
Sd (砂)	米粒大以下~粒子が認められる程度
Md (砂)	粒子が認められない

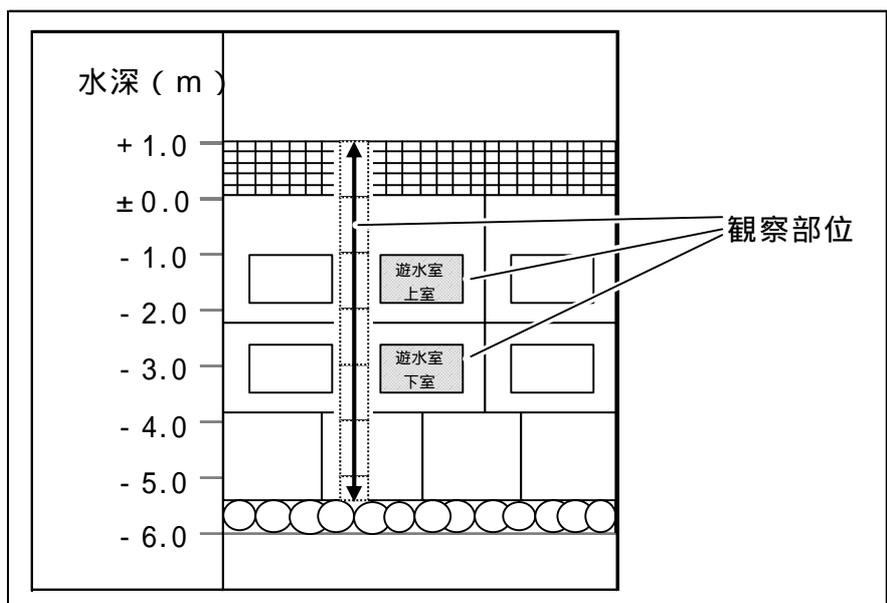


図1-5-2 D-5(エコ岸壁)における観察部位

枠取り採取および分析

神戸沖処分場1地点(A-2)、大阪沖処分場1地点(C-2)、泉大津沖処分場2地点(D-2、3)の計4地点において、上層(平均海面±0m)、中層(平均海面-2m)、下層(平均海面-4m)の3層において潜水により50×50cm枠内の付着生物を採取し、10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、1mmふるい上に残った生物の種類、個体数(動物のみ)、湿重量の分析を行った。

目視および分析結果の表記

目視観察および枠取り採取による分析で出現した植物の分類は、吉田・吉永・中嶋「日本産海藻目録(2000年改訂版)」(2000)に従った。動物の分類は、門については「新日本動物図鑑(上・中・下)」(1982)、綱以下については、軟体動物門では奥谷編「日本近海産貝類図鑑」(2000)、節足動物門と棘皮動物門では西村「原色検索日本海岸動物図鑑()」(1995)、魚類では中坊編「日本産魚類検索(・)」(2000)、その他は原則として「新日本動物図鑑(上・中・下)」に従った。

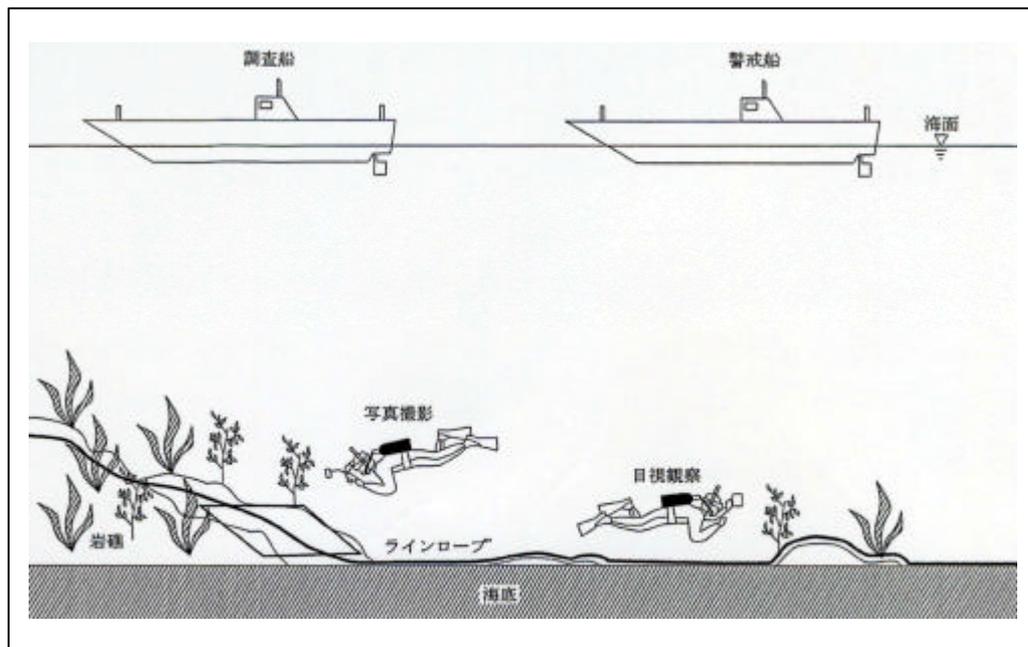


図1-5-3 潜水作業状況

第2章 春季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成19年 5月27日
- (2) 尼崎沖処分場 平成19年 5月24日
- (3) 大阪沖処分場 平成19年 5月28日
- (4) 泉大津沖処分場 平成19年 5月30日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表2-1-1に示した。

天気・雲量・気温

- A. 神戸沖では天気は晴、雲量は3、気温は23.4~27.9であった。
- B. 尼崎沖では天気は快晴、雲量は1、気温は23.5~27.0であった。
- C. 大阪沖では天気は晴、雲量は2~4、気温は18.1~22.6であった。
- D. 泉大津沖では天気は晴、雲量は5~8、気温は20.2~23.1であった。

風浪階級・風向・風速

- A. 神戸沖では風浪階級は1~2、風速は3.9~7.2m/s、風向は南西であった。
- B. 尼崎沖では風浪階級は1~2、風速は1.2~6.4m/s、風向は東から西であった。
- C. 大阪沖では風浪階級は1、風速は0(無風)~3.1m/s、風向は北東から東北東であった。
- D. 泉大津沖では風浪階級は1、風速は2.1~4.3m/s、風向は北北東から北西であった。

透明度・水色

- A. 神戸沖では透明度は2.5~2.7m、水色は全地点ともボトルグリーンであった。
- B. 尼崎沖では透明度は1.0~1.3m、水色は調査地点B-1、5、7でブロンズ、調査地点B-2、6で油色であった。
- C. 大阪沖では透明度は2.2~3.0m、水色は調査地点C-1、2でオリーブグリーン、調査地点C-3でシダーグリーンであった。
- D. 泉大津沖では透明度は2.2~2.8m、水色は調査地点D-1でシダーグリーン、D-2でボトルグリーンであった。

表 2 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (5月27日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7	
	調査時間	14:20~14:45	9:40~10:03	10:38~11:00	11:40~12:03	
	天気・雲量	晴・3	晴・3	晴・3	晴・3	
	気温	27.9	23.4	24.4	25.6	
	風浪階級	2	1	2	2	
	風速・風向	3.9m/s・南西	6.4m/s・南西	7.2m/s・南西	5.8m/s・南西	
	透明度	2.7m	2.5m	2.6m	2.6m	
	水色	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	
水深	16.1m	16.5m	11.8m	10.2m		
尼崎沖 (5月24日)	調査地点	B - 1	B - 2	B - 5	B - 6	B - 7
	調査時間	11:20~11:34	12:16~12:36	8:58~9:19	11:54~12:12	10:35~10:57
	天気・雲量	快晴・1	快晴・1	快晴・1	快晴・1	快晴・1
	気温	24.5	25.3	23.5	26.5	27.0
	風浪階級	1	2	1	1	1
	風速・風向	4.5m/s・西	4.7m/s・西	1.2m/s・東	6.4m/s・西	5.2m/s・南東
	透明度	1.3m	1.0m	1.1m	1.1m	1.3m
	水色	ブロンズ 5Y 4.0/5.5	油色 5Y 6.0/6.0	ブロンズ 5Y 4.0/5.5	油色 5Y 6.0/6.0	ブロンズ 5Y 4.0/5.5
水深	8.0m	7.5m	13.7m	10.4m	9.7m	
大阪沖 (5月28日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3		
	調査時間	9:10~10:10	10:20~11:50	13:00~13:56		
	天気・雲量	晴・2	晴・4	晴・4		
	気温	18.1	18.8	22.6		
	風浪階級	1	1	1		
	風速・風向	3.1m/s・北東	2.6m/s・東北東	calm		
	透明度	2.3m	2.2m	3.0m		
	水色	オリーブグリー 3GY 3.5/5.0	オリーブグリー 3GY 3.5/5.0	シタグリー 5Y 2.5/1.5		
水深	13.1m	13.4m	10.2m			
泉大津沖 (5月30日)	調査地点	D - 1	D - 2			
	調査時間	16:10~16:25	13:30~14:00			
	天気・雲量	晴・5	晴・8			
	気温	23.1	20.2			
	風浪階級	1	1			
	風速・風向	2.1m/s・北西	4.3m/s・北北東			
	透明度	2.2m	2.8m			
	水色	シタグリー 5Y 2.5/1.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5			
水深	15.1m	12.0m				

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表 2 - 1 - 2、図 2 - 1 - 1、鉛直分布図を図 2 - 1 - 2 に示した。

水温

- A . 神戸沖では 15.8~20.2 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に低下した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 15.3~23.0 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて低下した。このうち、調査地点 B - 1 では水深 ± 0 ~ - 0.5m で、調査地点 B - 2、5、6 では水深 ± 0 ~ - 3 m で水温が著しく低下する躍層がみられた。地点間で比較すると、B - 7 の表層でやや低かった。
- C . 大阪沖では 16.0~20.3 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて徐々に低下した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- D . 泉大津沖では 16.4~19.7 の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけて徐々に低下した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

塩分

- A . 神戸沖では 28.5~32.4 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 22.9~32.2 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 B - 1 では水深 ± 0 ~ - 0.5m で、調査地点 B - 2、5、6 では水深 ± 0 ~ - 4 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、B - 7 の表層でやや高かった。
- C . 大阪沖では 25.5~32.4 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 C - 1、2 では水深 - 1 ~ 4 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- D . 泉大津沖では 29.6~32.5 の範囲を示した。鉛直分布をみると、2 地点とも表層から底層にかけて徐々に高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

DO

- A . 神戸沖では 1.6~9.5mg/L の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に低くなった。地点間で比較すると、水深が深い A - 2、4 の底層で低かった。
- B . 尼崎沖では 0.1~15.7mg/L の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて低くなり、特に水深 - 1 ~ 6 m では著しく低くなった。地点間で比較すると、水深が深い調査地点 B - 5 の水深 - 7 ~ 9 m と B - 7 の水深 - 6 m 以深では特に低く、DO は 1.0mg/L を下回った。
- C . 大阪沖では 2.3~8.4mg/L の範囲を示し、調査地点 C - 1、2 では表層から底層にかけて低くなる傾向がみられたが、調査地点 C - 3 では、水深 - 1 ~ 3 m で高く、水深 - 4 m 以深で徐々に低くなる傾向がみられた。
- D . 泉大津沖では 2.0~8.0mg/L の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけて徐々に低くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

光量

- A . 神戸沖では光量子束密度は $0.5 \sim 1200.1 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。4 地点とも水深 - 7 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- B . 尼崎沖では光量子束密度は $0.4 \sim 1012.6 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 5 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 B - 2 では水深 - 3 m で、調査地点 B - 1、7 では水深 - 4 m で、B - 5 では水深 - 5 m で、B - 6 では水深 - 6 m で相対光量が 1 % 以下のとなった。調査地点 B - 1 の表層ではその他の調査地点の表層に比べてやや低い値を示した。
- C . 大阪沖では光量子束密度は $1.8 \sim 2044.3 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 3 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 C - 1 では水深 - 8 m で、調査地点 C - 2、3 では水深 - 9 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- D . 泉大津沖では光量子束密度は $0.7 \sim 1615.1 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 2 地点とも底層ほど低くなった。2 地点とも水深 - 9 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。

表 2 - 1 - 2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 ()	塩分 (-)	DO (mg/L)	相对光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A - 2	15.9 ~ 19.5	29.2 ~ 32.3	2.2 ~ 9.0	0.1 ~ 75.2	1.1 ~ 1,023.6
	A - 4	15.8 ~ 19.9	28.5 ~ 32.4	1.6 ~ 9.0	0.0 ~ 61.6	0.5 ~ 1,144.6
	A - 5	16.8 ~ 20.0	28.7 ~ 31.8	3.7 ~ 9.5	0.3 ~ 58.1	6.1 ~ 1,200.1
	A - 7	16.7 ~ 20.2	28.7 ~ 31.7	3.1 ~ 9.3	0.4 ~ 56.9	7.5 ~ 1,167.0
尼崎沖	B - 1	15.7 ~ 22.3	26.4 ~ 31.9	2.2 ~ 15.3	0.1 ~ 41.1	2.6 ~ 876.3
	B - 2	16.5 ~ 22.9	23.4 ~ 31.3	2.3 ~ 15.7	0.2 ~ 67.6	2.3 ~ 1,012.6
	B - 5	15.3 ~ 21.6	25.2 ~ 32.2	0.7 ~ 15.2	0.1 ~ 75.7	0.4 ~ 214.8
	B - 6	15.6 ~ 23.0	22.9 ~ 32.2	1.7 ~ 15.7	0.3 ~ 63.5	1.0 ~ 241.5
	B - 7	15.6 ~ 20.0	28.1 ~ 31.7	0.1 ~ 14.7	0.2 ~ 68.3	0.4 ~ 155.7
大阪沖	C - 1	16.0 ~ 19.7	25.5 ~ 32.4	2.3 ~ 8.3	0.1 ~ 64.2	1.8 ~ 1,104.9
	C - 2	16.1 ~ 20.1	26.5 ~ 32.4	2.5 ~ 7.8	0.1 ~ 78.4	2.3 ~ 2,044.3
	C - 3	16.4 ~ 20.3	27.0 ~ 32.3	2.9 ~ 8.4	0.8 ~ 71.6	11.6 ~ 1,042.5
泉大津沖	D - 1	16.4 ~ 19.7	29.6 ~ 32.4	2.0 ~ 8.0	0.2 ~ 75.9	0.7 ~ 227.6
	D - 2	16.4 ~ 19.4	30.2 ~ 32.5	2.1 ~ 7.8	0.5 ~ 69.8	12.7 ~ 1,615.1

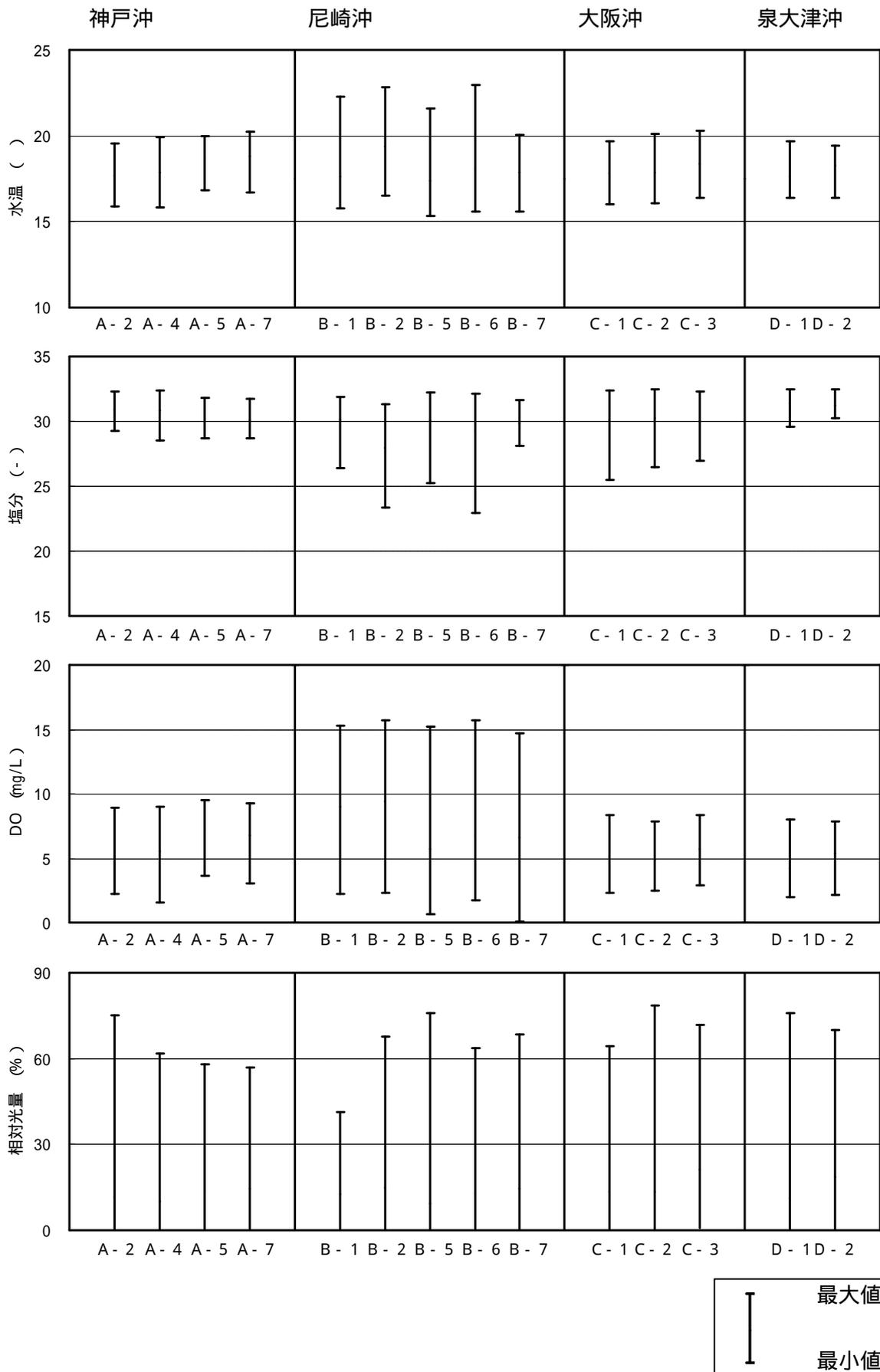


图 2 - 1 - 1 水质测定结果概要图

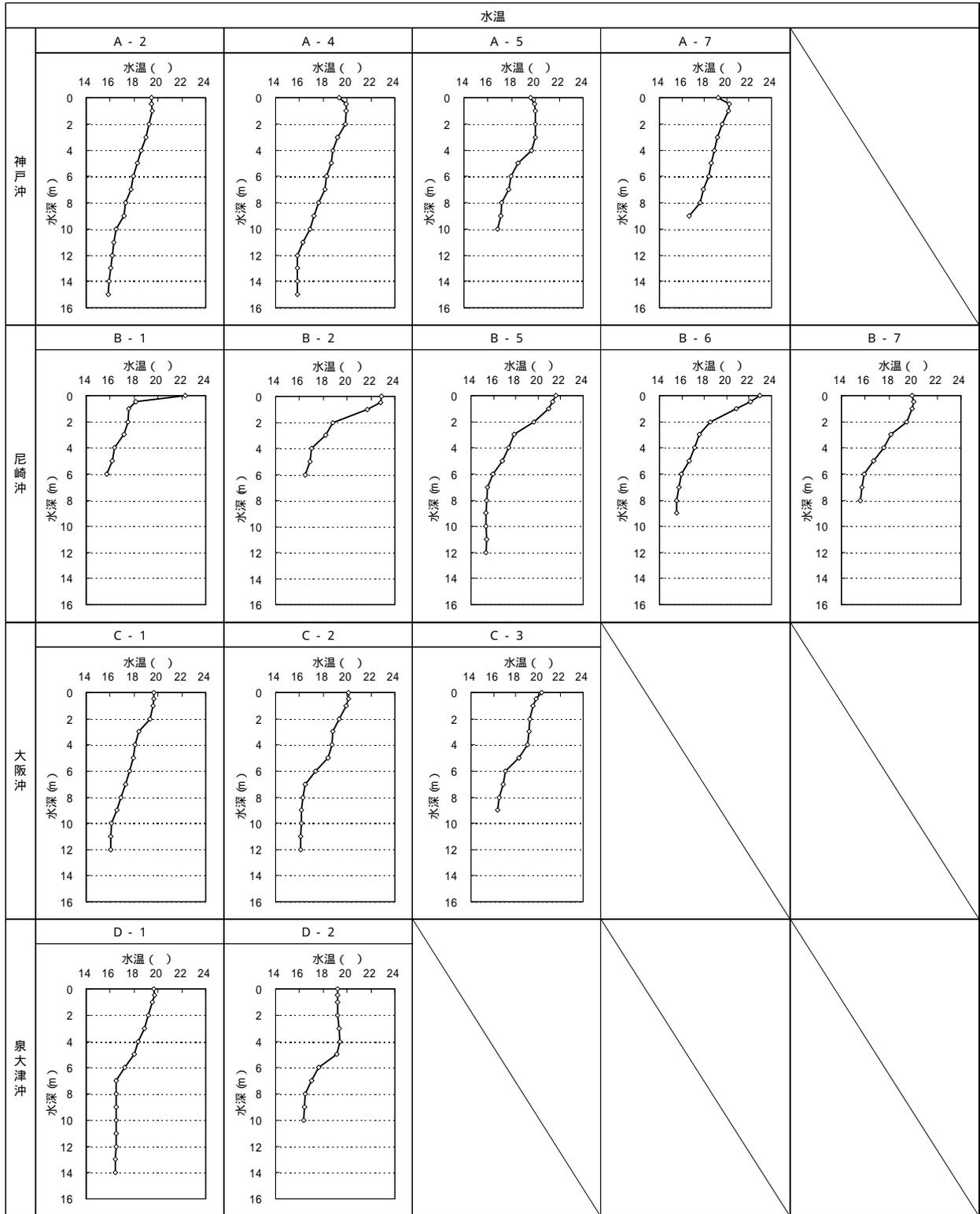


図 2 - 1 - 2 (1) 鉛直分布図 (水温)

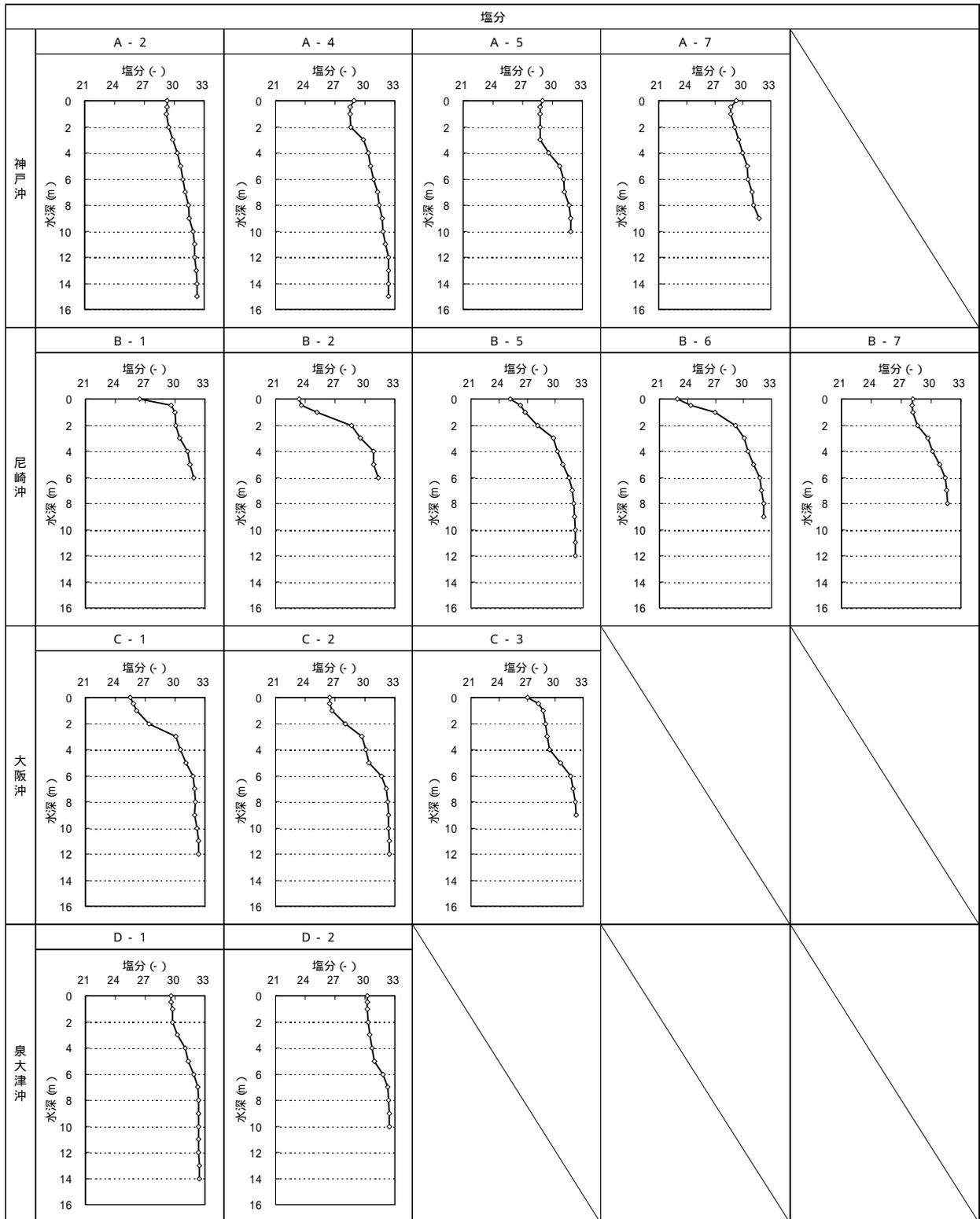


図 2 - 1 - 2 (2) 鉛直分布図 (塩分)

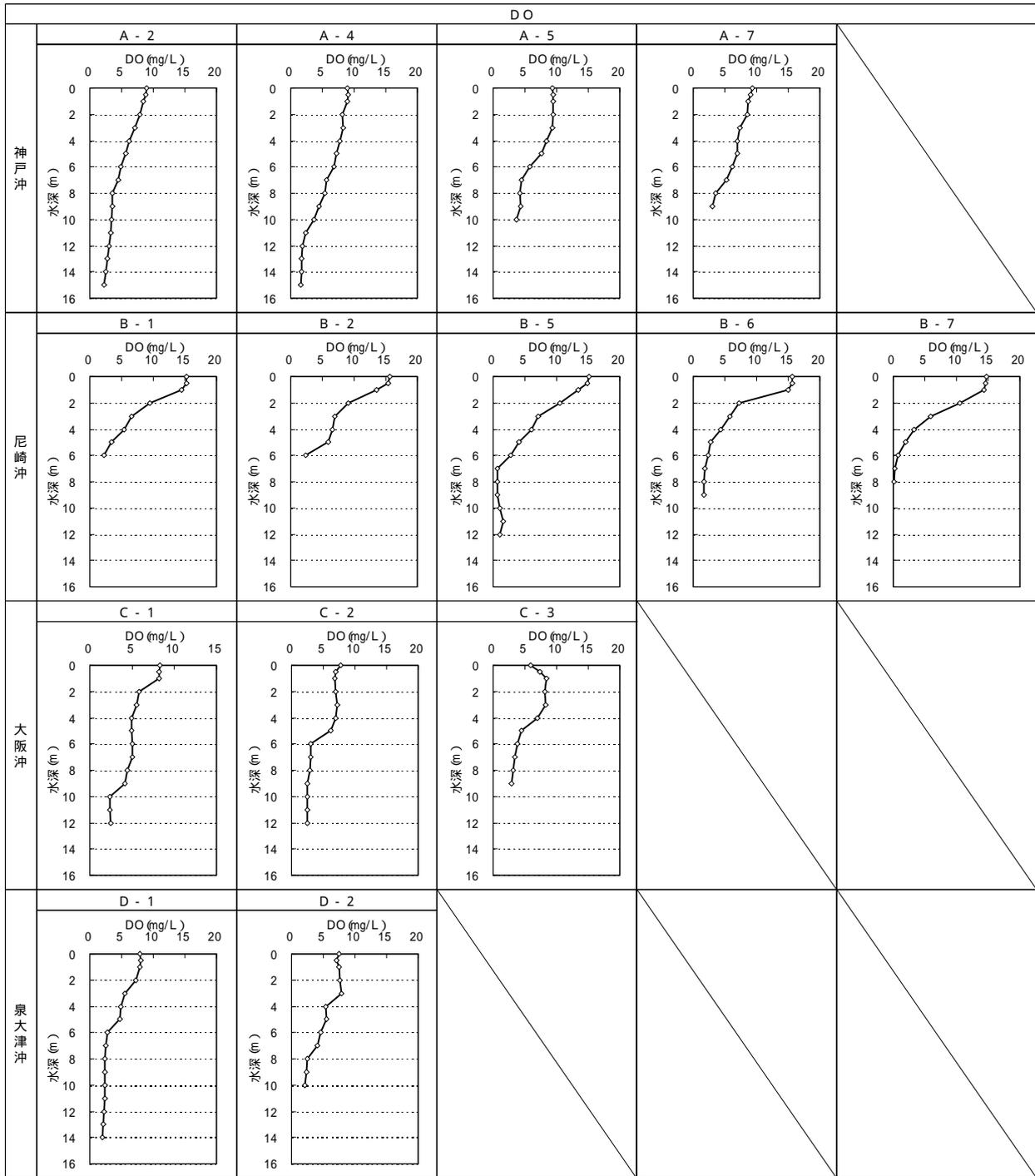


図 2 - 1 - 2 (3) 鉛直分布図 (DO)

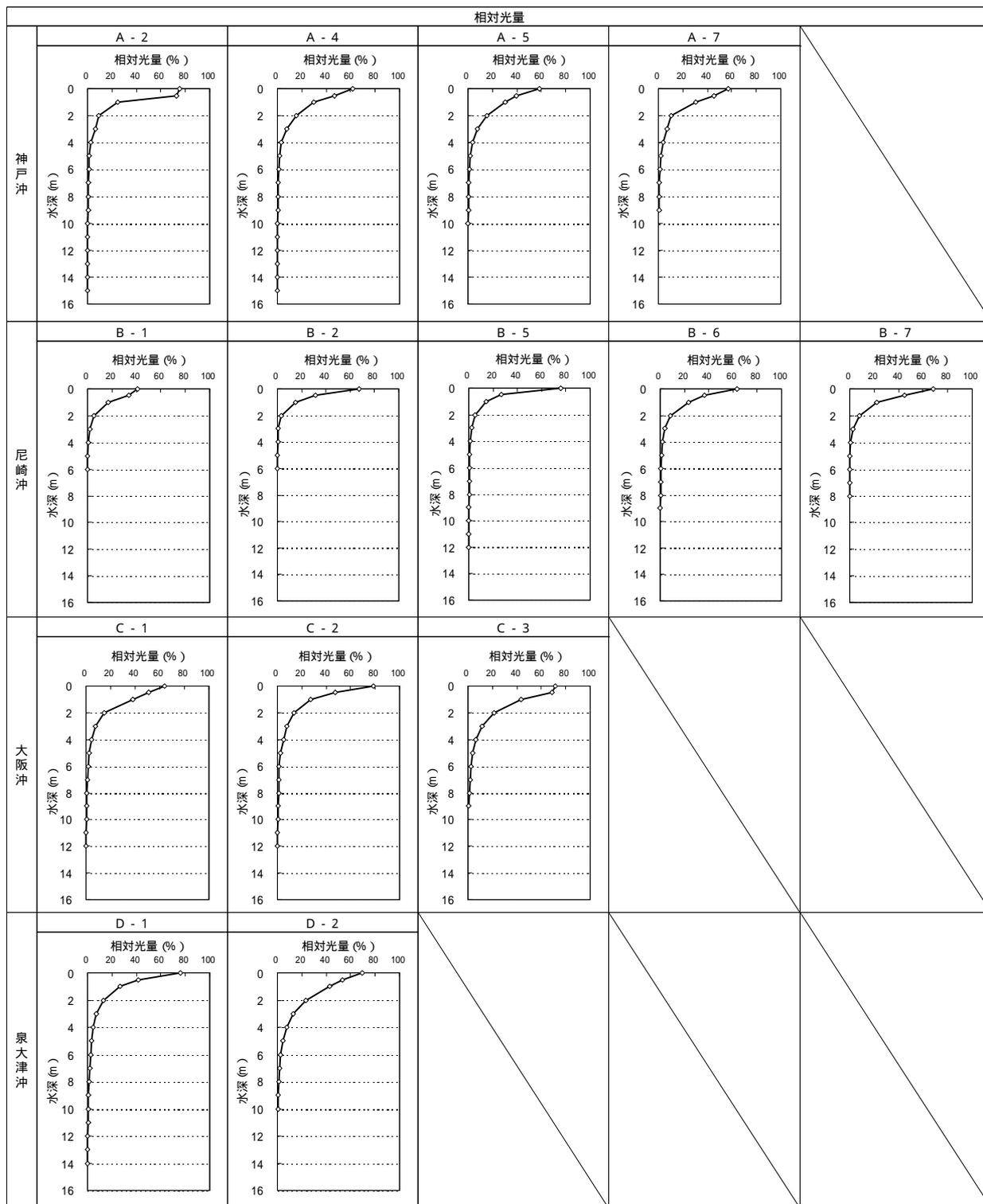


図 2 - 1 - 2 (4) 鉛直分布図 (相对光量)

3. 生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表2-2-1、動物の目視観察の結果を表2-2-2、魚類の目視観察の結果を表2-2-3に示した。

植物

A. 神戸沖処分場

調査地点A-2では、植物は水深+1～-8mに分布し、13種類が確認された。種類数が多かったのは水深-3mで9種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深+1～-1mで緑藻綱のアオサ属が30～40%、水深-1mで紅藻綱のフダラクが40%、水深-2mで藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが50%、水深-5～6mで紅藻綱のススカケベニが30～60%であった。

調査地点A-4では、植物は水深±0～-8mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは水深-4mで8種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0～-1mで紅藻綱のフダラクが30～50%であった。

調査地点A-5では、植物は水深±0～-9mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは水深-4mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深-5～6mで紅藻綱のススカケベニが40～50%であった。

調査地点A-7では、植物は水深±0～-8mに分布し、4種類が確認された。種類数が多かったのは水深-1mと水深-4～6mで2種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

B. 尼崎沖処分場

調査地点B-1、2、6では、植物は確認されなかった。

調査地点B-7では、植物は水深-1～2mに分布し、3種類の植物が確認された。種類数が多かったのは水深-2mで2種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

C. 大阪沖処分場

調査地点C-1では、植物は水深±0～-10mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは水深-3mで6種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深-3～4mで緑藻綱のアオサ属が30～35%、水深-5～6mで紅藻綱のススカケベニが30～45%であった。この他に、藻場構成種として、水深-3mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%で、水深-3～4mで褐藻綱のシダモクが被度5～10%で確認された。

調査地点C-2では、植物は水深±0～-10mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは水深-4mで5種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深-2～3mで紅藻綱のフダラクが65～70%、水深-6～8mで紅藻綱のススカケベニが80～85%であった。この他に、藻場構成種として、水深-3～4mで褐藻綱のタマハハキモクが被度15%で、水深-5mで褐藻綱のシダモクが20%で確認された。

調査地点C - 3では、植物は水深±0 ~ - 9 mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 mで4種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mと水深 - 3 mで緑藻綱のアオサ属が80~90%、水深 - 4 mで紅藻綱のススカケベニが30%であった。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、植物は水深±0 ~ - 1 mに分布し、2種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mで2種類であった。被度5%以上でみられた種類はなかった。

調査地点D - 2では、植物は水深±0 ~ - 10mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mと水深 - 6 mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 mで紅藻綱のフダラクが30%、水深 - 4 ~ 6 mで紅藻綱のカバノリが30~50%であった。

調査地点D - 3では、植物は水深 - 1 ~ 11mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mと - 7 mで4種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。藻場構成種として、水深 - 1 mで褐藻綱のワカメが被度20%で確認された。

調査地点D - 5では、植物は水深+1 ~ - 4 mに分布し、2種類が確認された。種類数は壁面では2種類、遊水室内では、上室において2種類、下室において1種類で、種類数が多かったのは、壁面の各水深と遊水室上室の下面で2種類であった。エコ岸壁において被度30%以上でみられた種類を示すと、壁面の水深+1 ~ - 3 mで緑藻綱のアオノリ属が30~60%であった。遊水室内においては被度30%以上でみられた種類はなかった。

表 2 - 2 - 1 (1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年5月27日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
	緑藻綱	アオノリ属	+	+									
	アオサ属	30	30	40	+	10	10	+					
褐藻綱	タマハハキモク				50	10							
紅藻綱	フダラク		+	40	+	10							
	ムカデノリ科				+	10	10	+					
	オゴノリ属				+								
	オキツノリ				+	+							
	ツノマタ属					+							
	イギス科					+	+	10	10	10	+		
	ベニスナゴ					+	20						
	ススカケベニ					+	10	60	30	20	+		
	サビ亜科						+	+					
	イワノカワ科						+	+	+	+			
出現種類数 (13)		2	3	2	6	9	7	6	3	3	2	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年5月27日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	小礫砂										
	緑藻綱	アオサ属		+	+			+	+	5	+		
褐藻綱	フクロノリ			+	+								
紅藻綱	フダラク		50	30	5	+	+						
	コスジフシツナギ			+	+								
	ツノマタ属			+			+	+					
	マクサ				+	+							
	カバノリ					+	+	+					
	オキツノリ						+						
	イギス科						+	+	+	+	+		
	ススカケベニ						+	+	5	+			
	サビ亜科						+	+					
	イワノカワ科						+	+	+				
出現種類数 (12)		-	2	5	4	3	8	7	4	3	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年5月27日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
	緑藻綱	アオサ属		+	+			20	+				
	アオノリ属		10										
褐藻綱	フクロノリ			+									
紅藻綱	イギス科			+	+	+	+	+	+				
	ベニスナゴ						+						
	ススカケベニ						10	40	50	10	+	+	
	サビ亜科						+	+	+				
	カバノリ						+						
	イワノカワ科						+	+	+	+	+		
	マサゴシバリ						+						
出現種類数 (10)		-	2	3	1	1	7	6	4	2	2	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成19年5月27日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
緑藻綱	アオサ属	5	10	+	+					
	シオグサ属		+							
紅藻綱	イギス科					+	+	+		
	ススカケベニ					10	+	10	+	+
出現種類数 (4)	-	1	2	1	1	2	2	2	1	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (5) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年5月24日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	ケーソン							
基質	ケーソン							
出現種類数 (4)	出現なし							

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (6) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年5月24日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	
種類名	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫							
基質	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫							
出現種類数 (4)	出現なし										

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (7) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年5月24日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	ケーソン						
基質	ケーソン						
出現種類数 (4)	出現なし						

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (8) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年5月24日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+			
	アオサ属			+		
紅藻綱	イギス科			+		
出現種類数 (3)	-	-	1	2	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成19年 5月28日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫								
	緑藻綱	アオサ属		20	20	15	15	15	35	30	20	5			
褐藻綱	シダモク								10	5					
	タマハハキモク							5	5	+					
	フクロノリ										+				
紅藻綱	イトグサ属			+		+									
	ツルツル					+									
	イギス科					+	+	+			+		+	25	5
	ベニスナゴ						5								
	フダラク						+			15	+				
ススカケベニ							+	+	30	45	20	10	+		
出現種類数 (10)		-	1	2	1	4	6	4	5	3	3	1	2	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成19年 5月28日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫							
	緑藻綱	ポタンアオサ		20									
褐藻綱	アオサ属			25	15	+	5	+	+				
	タマハハキモク						15	15					
	フクロノリ							+					
紅藻綱	シダモク								20		+		
	フダラク			15	65	70	15						
	イトグサ属			+									
	ムカデノリ					+							
	イギス科						+						+
ススカケベニ								20	80	80	85	20	+
イワノカワ科									+	10	+		
出現種類数 (11)		-	1	3	2	4	5	3	3	3	2	1	2

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

注 2：ポタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表 2 - 2 - 1 (11) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成19年 5月28日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	アオサ属		90	+	25	80	15	15	10		
紅藻綱	アオリ属		+	15	+							
	イトグサ属			+								
	イギス属				+							
	イワノカワ科					+	+	+				
ススカケベニ							30	25	10	15	+	+
ムカデノリ								+				
出現種類数 (7)		-	2	3	3	2	3	4	2	1	1	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成19年 5月30日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質												
	ケーソン	泥											
緑藻綱	アオサ属	+	+										
	ミル		+										
出現種類数 (2)	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成19年 5月30日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオノリ属	+	+												
	シオグサ属	+	+	+											
	アオサ属	+	+	+											
	ミル		+												
紅藻綱	ハネモ属		+	+	+										
	フダラク	+	30	20	20	20									
	ツノマタ属	+													
	イギス科		+	+	20	10	10	+	+	+	+				
	ムカデノリ属			+											
	カバノリ				+	30	50	40	+	+	+	+			
	タオヤギソウ				+	+	20	20	+	+	+				
	サビ亜科					+	+	+	+						
	イワノカワ科					+	+	+	+						
	マクサ							+							
	ススカケベニ							+	20	+	+	+			
出現種類数 (15)	-	5	7	6	5	6	5	7	6	4	4	2	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成19年 5月30日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+												
	シオグサ属		+												
	アオノリ属		+												
	ハネモ属			+		+									
褐藻綱	ワカメ		20	+											
紅藻綱	タオヤギソウ					+	+	+	10	+	+				
	カバノリ								+						
	イギス科								20	10	+	+	+		
	ススカケベニ								10	+	+	+			
出現種類数 (9)	-	-	4	2	-	2	1	1	4	3	3	2	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2 - 2 - 1 (15) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年 5月30日

観察場所	エコ岸壁													
	水深 (m)	壁面						遊水室						
		+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
種類名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
緑藻綱	アオサ属	10	+	+	+	+				+				
	アオノリ属	60	50	30	30	10						+		
出現種類数 (2)	2	2	2	2	2	-	-	-	1	2	-	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

動物

A．神戸沖処分場

調査地点 A - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 m と水深 - 5 ~ 7 m で 5 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 + 1 m で節足動物門のイワフジツボが 60%、水深 ± 0 ~ - 1 m で軟体動物門のムラサキイガイが 70%、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30 ~ 90% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のイボニシとレイシガイがそれぞれ 34 個体と 18 個体、水深 - 4 ~ 8 m で棘皮動物門のキヒトデが 16 ~ 37 個体確認された。

調査地点 A - 4 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、15 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 ± 0 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 4 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 80 ~ 100%、水深 ± 0 m で軟体動物門のムラサキイガイが 40% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 64 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のイボニシとレイシガイがそれぞれ 25 個体と 12 個体、水深 - 6 m で棘皮動物門のキヒトデが 26 個体確認された。

調査地点 A - 5 では、動物は水深 + 1 ~ - 9 m に分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 90 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 16 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のレイシガイが 27 個体、水深 - 3 m と水深 - 5 ~ 6 m で棘皮動物門のキヒトデが 11 ~ 15 個体確認された。

調査地点 A - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、11 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のムラサキイガイが 90%、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 80 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 22 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のイボニシとレイシガイがそれぞれ 12 個体と 19 個体確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点 B - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 6 m に分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のマガキが 30%、水深 ± 0 ~ - 1 m で軟体動物門のムラサキイガイが 65 ~ 95%、水深 - 2 m で原索動物門のカタユレイボヤが 85% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 24 個体、水深 - 1 m で棘皮動物門のキヒトデが 11 個体確認された。

調査地点 B - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 3 m で軟体動物門のムラサキイガイが 85 ~ 100%、水深 - 3 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 35% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは棘皮動物門のキヒトデで、水深 - 2 m で 9 個体確認された。

調査地点 B - 6 では、動物は水深 + 1 ~ - 5 m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 ~ 4 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 2 m で軟体動物門のムラサキイガイが 70 ~ 100%、水深 - 3 m で環形動物門多毛綱(泥巢)が 30% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 4 個体確認された。

調査地点 B - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 4 m に分布し、15 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 1 m で軟体動物門のムラサキイガイが 60 ~ 85%、水深 - 3 m で腔腸動物門のヒドロ虫綱が 45% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 8 個体確認された。

C . 大阪沖処分場

調査地点 C - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、28 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 m と水深 - 9 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のムラサキイガイが 55%、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 15 個体確認された。

調査地点 C - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のムラサキイガイが 65%、水深 - 3 ~ 5 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 65 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のタマキビが、水深 - 1 m で軟体動物門のレイシイガイとともに 14 個体確認された。

調査地点 C - 3 では、動物は水深 ± 0 ~ - 9 m に分布し、13 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 6 ~ 8 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 m で軟体動物門のムラサキイガイが 65% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 m で棘皮動物門のキヒトデが 45 個体確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、動物は水深 + 1 ~ - 11mに分布し、23 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 ± 0 m、 - 2 mおよび水深 - 4 mで8種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 1 mで軟体動物門のムラサキイガイが 70~80%、水深 - 2 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30%、水深 - 2 ~ 5 mで原索動物門のユウレイボヤ属が 30~80%、水深 - 8 ~ 10mで環形動物門多毛綱（泥巣）が 30%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 36 個体、水深 ± 0 mで軟体動物門のレイシガイが 11 個体、水深 - 1 ~ 2 mと水深 - 11mで棘皮動物門のキヒトデが 15~64 個体確認された。

調査地点D - 2では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、22 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 6 mで8種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 2 mで軟体動物門のムラサキイガイが 40~95%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビとカラマツガイがそれぞれ 17 個体と 11 個体、水深 - 2 ~ 3 mで棘皮動物門のキヒトデが 22~32 個体確認された。

調査地点D - 3では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 ~ 4 mで 10 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 2 mで軟体動物門のムラサキイガイが 60~95%、水深 - 2 ~ 3 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30~70%、水深 - 4 ~ 5 mで触手動物門のコケムシ綱が 30~40%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 56 個体、水深 - 2 mと水深 - 7 mで棘皮動物門のキヒトデが 12~17 個体確認された。

調査地点D - 5では、動物は水深 + 1 ~ - 5.5mに分布し、11 種類が確認された。種類数は壁面で8種類、遊水室内では上室において5種類、下室において7種類であった。種類数が多かったのは、壁面の水深 - 1 ~ 2 mと水深 - 5 ~ 5.5m、遊水室内の上室の側面と下室の側面でいずれも5種類であった。エコ岸壁において被度 30%以上でみられた種類を示すと、壁面の水深 ± 0 ~ - 1 mで節足動物門のサンカクフジツボが 30%、遊水室内の上室の上面で節足動物門のサンカクフジツボが 30%、上室の側面で触手動物門のコケムシ綱が 30%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、壁面の水深 - 1 ~ 2 mで棘皮動物門のキヒトデが 11 個体確認された。遊水室内で個体数が最も多かったのは棘皮動物門のキヒトデで、上室と下室の下面で 11~50 個体確認された。

表 2 - 2 - 2 (1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

		平成19年 5月27日											
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
	腔腸動物門	ヒドロ虫綱				+							
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	90	30	20	10	10	+			
触手動物門	アミコケムシ科									+	+	+	
軟体動物門	ケガキ	+											
	ムラサキガイ		70	10									
	タマキビ	(2)											
	イボニシ		(34)										
	レイシガイ		(18)	(2)	(1)								
節足動物門	イワフジツボ	60	+										
	ヤドカリ科					(1)							
	サンカクフジツボ					+	10	10	10	+			
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(2)	(6)	(7)	(3)	(4)			
	キヒトデ					(6)	(19)	(26)	(29)	(37)	(16)	(9)	(1)
	サンショウウニ						(1)						
	マナマコ								(1)		(1)	(1)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+									
	ユウレイボヤ属				+								
	エボヤ							+				+	
	出現種類数 (18)	4	4	4	4	5	4	5	5	5	4	4	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

		平成19年 5月27日											
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+									
	ヒドロ虫綱			+									
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	90	95	100	80	20	+				
触手動物門	フサコケムシ科					+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(64)											
	ヨメガカサ		(1)										
	ムラサキガイ		40	+									
	イボニシ		(25)										
	レイシガイ		(12)										
節足動物門	イワフジツボ	20											
	サンカクフジツボ						+	+	+				
棘皮動物門	キヒトデ			(7)	(1)	(1)	(3)	(5)	(26)	(8)	(9)	(2)	(9)
	イトマキヒトデ										(1)		(3)
原索動物門	ユウレイボヤ属					+							
	ホヤ綱 (群体性)						+						
	出現種類数 (15)	2	6	4	2	4	4	3	3	1	2	1	2

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

		平成19年 5月27日											
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+									
	イソギンチャク目			+									
	チギレイソギンチャク			+	+								
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	100	100	90	10	+					
触手動物門	コケムシ綱				+								
軟体動物門	アミコケムシ科										+	+	
	アラレタマキビ	(16)											
	ムラサキガイ		20										
	イボニシ		(9)										
	カラマツガイ		(2)										
	レイシガイ		(27)	(6)									
	コシダカガンガラ						(1)						
節足動物門	イワフジツボ		+										
	サンカクフジツボ						+						
棘皮動物門	キヒトデ			(4)	(6)	(12)	(5)	(15)	(11)	(9)	(6)	(3)	
	サンショウウニ			(1)		(1)							
	イトマキヒトデ						(7)	(5)	(2)	(1)			
	マナマコ						(2)	(2)	(4)	(3)			
	サンショウウニ							(1)	(2)	(1)			
	ムラサキウニ							(1)					
原索動物門	ユウレイボヤ属			+	+	5	+	+	+	+	+	+	+
	エボヤ			+		+	+	+	+	+	+	+	+
	ホヤ綱 (群体性)					+	+	+	+	+	+	+	+
	シロボヤ												+
	出現種類数 (24)	1	7	8	5	5	8	9	7	7	5	6	-

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

観察枠 No.		平成19年 5月27日									
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
腔腸動物門	イソギンチャク目							+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	80	100	100	+				
軟体動物門	アラレタマキビ	(22)									
	ムラサキイガイ		90	+							
	イボニシ		(12)								
	レイシガイ		(19)	(7)				(1)			
棘皮動物門	イトマキヒトデ		(1)	(6)			(3)		(2)	(1)	
	キヒトデ		(8)	(2)	(1)		(1)		(6)	(2)	(3)
	マナマコ			(1)							
	サンショウウニ			(1)		(1)					
原索動物門	エボヤ				+				+		
出現種類数 (11)		1	6	7	3	3	3	2	4	2	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (5) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

観察枠 No.		平成19年 5月24日							
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
海綿動物門	海綿動物門					+	5	+	
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		5						
	チギレイソギンチャク			10	10	5	+	+	
	Anthopleura属								+
環形動物門	カンザシゴカイ科				+	+	+	+	+
	多毛綱 (泥巣)					10	15	10	+
	ミスヒキゴカイ科								+
触手動物門	コケムシ綱							+	5
軟体動物門	アラレタマキビ	(24)							
	タマキビ	(5)							
	マガキ		30						
	ムラサキイガイ		65	95					
	ミドリイガイ			+					
	シマメノウフネガイ						+		
節足動物門	イワフジツボ	+	10						
棘皮動物門	キヒトデ			(11)		(2)	(1)	(2)	(8)
原索動物門	カタユウレイボヤ				85	+	5	+	
	スチエラ科				10	15	+		
出現種類数 (18)		3	4	4	4	7	8	7	6

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (6) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

観察枠 No.		平成19年 5月24日									
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+							
	チギレイソギンチャク			+	20	35	5	+			
	シオガマサンゴ									+	+
	ヒドロ虫綱										+
環形動物門	カンザシゴカイ科				+	+	+	+	+		
	多毛綱 (泥巣)						25	10	20	+	
触手動物門	コケムシ綱			+			+				
軟体動物門	アラレタマキビ	(8)									
	タマキビ	(4)									
	マガキ		15								
	ムラサキイガイ		85	100	100	100	+				
	コウロエンカワヒバリガイ		+								
節足動物門	イワフジツボ		+								
棘皮動物門	キヒトデ			(7)	(9)			(1)	(3)	(3)	(2)
原索動物門	スチエラ科				+	+	+				+
	カタユウレイボヤ					+	+	+	+	+	+
	エボヤ							+	+		
出現種類数 (17)		2	5	5	5	5	7	6	5	3	5

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (7) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年 5月24日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		10	+			
チギレイソギンチャク			5	10	25	5	+	
ヒドロ虫綱						20	+	
Anthopleura属								+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+		+	+	+	+
	多毛綱 (泥巢)					30	25	5
触手動物門	コケムシ綱						+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(4)						
	マガキ		15					
	ムラサキイガイ		70	100	95	25		
	コウロエンカワヒバリガイ		+					
	シマメノウネガイ							+
節足動物門	イワフジツボ		+					
棘皮動物門	キヒトデ			(1)	(1)	(2)		(2)
原索動物門	スチエラ科			+	10	5	5	
	カタコウレイボヤ				15	15	+	+
	出現種類数 (16)	1	7	5	6	8	8	6

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (8) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年 5月24日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+			
チギレイソギンチャク				+	+		
ヒドロ虫綱					+	45	5
Anthopleura属						+	5
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	+	5		
	多毛綱 (泥巢)				+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(8)					
	マガキ		10				
	イボニシ		(2)				
	ムラサキイガイ		60	85	10		
	コウロエンカワヒバリガイ		+	+			
棘皮動物門	キヒトデ			(1)	(3)		(3)
原索動物門	スチエラ科			+	+		
	カタコウレイボヤ				+	5	5
	ザラボヤ						+
出現種類数 (15)		1	6	6	8	3	5

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

観察枠 No.		平成19年5月28日													
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫								
海綿動物門	海綿動物門														
腔腸動物門	Anthopleura属						5	+	+	+					
	シオガマサンゴ											+	+		
	ヒドロ虫綱														
環形動物門	カンザシゴカイ科			15	100	100	100	100	15	5	+	+	+	+	+
	ミスヒキゴカイ科					+	+								
	多毛綱 (泥巢)													20	+
	ウスマキゴカイ科									+	+	+	+	+	+
触手動物門	コケムシ綱			5	+					+	+	+			
軟体動物門	アラレタマキビ	(15)													
	タマキビ	(1)													
	ムラサキガイ														
	マガキ		55	10	+										
	カラマツガイ		25												
	イボニシ		(6)												
	レイシガイ		(4)												
	シマメノウフネガイ			(2)	(3)	(1)	(5)	(2)							
	カゴメガイ						(1)								
	ナミマガシワ科								(1)						
	ムギガイ									+					
筋足動物門	イワフジツボ		+									(1)			
棘皮動物門	キヒトデ			(3)		(2)	(2)	(1)			(5)	(7)	(2)		(1)
	マナモコ						(3)					(1)		(2)	
	サンショウウニ									(1)	(1)			+	
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			10	+	+	+	+	5	+	+				
	カタユレイボヤ				+	+		+	+	+	+		+	10	+
	エボヤ				+			+						+	
-	卵塊		+											+	
	出現種類数 (28)	2	6	6	7	6	8	7	6	9	8	7	6	9	4

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

観察枠 No.		平成19年5月28日													
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10		
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫									
海綿動物門	海綿動物門							+							
腔腸動物門	Anthopleura属						+								
	シオガマサンゴ								+			+			
	ヒドロ虫綱														
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	100	100	65	+	+	+		+		
	ウスマキゴカイ科				+		+		+	+	+				
	多毛綱 (泥巢)						+	+	+	+	+	+			
触手動物門	コケムシ綱			+	15			+	+	+	+	+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(2)													
	タマキビ	(14)													
	ムラサキガイ		65	15	+										
	マガキ		+	5											
	カラマツガイ		(4)												
	レイシガイ			(14)		(3)	(3)								
	ムギガイ					(6)									
棘皮動物門	キヒトデ			(2)	(3)			(1)	(6)	(5)	(1)	(1)			
	イトマキヒトデ				(1)				(1)		(1)	(1)			
	マナモコ									(1)	(2)	(2)	(2)		
	サンショウウニ										(1)				
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+									
	スチエラ科			+											
	エボヤ			+	+										
	カタユレイボヤ						+								
-	卵塊		+			+		+							
	出現種類数 (24)	2	4	9	8	5	6	6	7	6	6	5	3		

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (11) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

観察枠 No.		平成19年5月28日													
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9			
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫			
環形動物門	ウスマキゴカイ						+	+	+	+	+	+			
	カンザシゴカイ科							+	5	15	5	+			
	多毛綱 (泥巢)								+	+	+	+			
触手動物門	コケムシ綱						+		+	+	+	+			
軟体動物門	ムラサキガイ		+	65	25										
	コシダカガンガラ						(1)								
筋足動物門	イワフジツボ		+												
	ミネフジツボ				+	+									
	ヤドカリ科								(1)						
棘皮動物門	キヒトデ				(45)	(2)			(1)	(1)	(1)	(1)			
	イトマキヒトデ				(1)			(1)	(2)		(1)	(1)			
	サンショウウニ							(1)							
	マナモコ									(1)		(5)			
-	出現種類数 (13)	-	2	1	4	4	5	3	6	6	6	3			

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

		平成19年5月30日													
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥	
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+											
	ヒドロ虫綱			+											
	シオガマサンゴ												+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	30	20	10	10	+	+	+				
	多毛綱 (泥棲)							+	+	20	20	30	30	30	
触手動物門	コケムシ綱				+	+	+	20	20	10	10	+			
	アミコケムシ科												+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(36)													
	ケガキ		10												
	ムラサキイガイ		70	80	10	+									
	イボニシ		(6)												
	レイシガイ		(11)												
節足動物門	イワフジツボ		+												
	ワタリガニ科		(1)												
	ヨーロッパフジツボ		+												
棘皮動物門	キヒトデ			(15)	(16)						(3)	(4)	(3)	(9)	(64)
	イトマキヒトデ				(3)			(1)							
	マナマコ					(1)	(2)	(2)	(1)						
	サンショウウニ												(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	10	+									
	コウレイホヤ属			+	40	60	80	30	10	+	+				
	シロホヤ				5	10	5	5	5	+	+				
	エボヤ												+		
	出現種類数 (23)	1	8	6	8	7	8	7	6	7	6	6	2	1	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

		平成19年5月30日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	泥						
	腔腸動物門	ヒドロ虫綱				+	+									
	チギレイソギンチャク				+	+										
	シオガマサンゴ											+	+		+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+											
	多毛綱 (泥棲)									+	+	+	10	10	10	10
触手動物門	コケムシ綱								20	+	+	+				
	アミコケムシ科								+	+	+	10	10	10	20	10
軟体動物門	アラレタマキビ	(17)														
	カラマツガイ	(11)														
	ベッコウガサ	(2)														
	ヨメガカサ	(2)														
	カモガイ	(1)														
	イボニシ		(2)													
	ムラサキイガイ		95	40	40											
	レイシガイ			(5)												
	コシダカガンガラ					(1)		(1)	(3)							
	ムギガイ							(3)								
節足動物門	シマメノウフネガイ								+							
	イワフジツボ	+														
	サンカクフジツボ								+	+						
棘皮動物門	キヒトデ				(32)	(22)	(9)	(7)	(1)	(3)						
	イトマキヒトデ				(7)	(4)	(3)	(3)	(4)	(2)	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	
	出現種類数 (22)	6	2	2	6	6	3	7	8	6	4	4	3	4	4	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

		平成19年5月30日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	チギレイソギンチャク			+	+	10	+									
	ヒドロ虫綱							10								
	シオガマサンゴ												+	+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	30	70	20	10	+							
	多毛綱 (泥棲)							+	10	20	+	+	+	+		
触手動物門	フサコケムシ科					+	+	20	+							
	コケムシ綱					+	+	30	40	20	+					
	アミコケムシ科								+	10	+	5	10	10	+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(56)														
	カラマツガイ		(3)													
	ムラサキイガイ		95	90	60	10	+									
	レイシガイ				(8)											
節足動物門	ナミマガシワ科												+			
	イワフジツボ		+													
	サンカクフジツボ										+	+				
棘皮動物門	キヒトデ				(12)	(2)					(17)	(8)	(4)	(3)	(1)	(3)
	マナマコ					(1)										
	イトマキヒトデ									(1)	(1)					
	サンショウウニ									(1)	(1)	(1)	(3)			
原索動物門	シロホヤ			+	+	5	+	5	+							
	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+	+	+	+							
	コウレイホヤ属			+	+	10	5	5	+							
	エボヤ							+								
	出現種類数 (24)	1	4	4	8	10	10	8	8	7	6	5	4	3	3	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2 - 2 - 2 (15) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年5月30日

観察場所		工コ岸壁												
		壁面						遊水室						
水深 (m)		+1 ~ ±0	±0 ~ -1	-1 ~ -2	-2 ~ -3	-3 ~ -4	-4 ~ -5	-5 ~ -5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	網 金網 石	ケーソン						上面	側面	下面	上面	側面	下面
			腔腸動物門	ヒドロ虫綱								+		
触手動物門	コケムシ綱		+	+	+	+	+	+	+	30	+	+	+	
	フサコケムシ科		+											
軟体動物門	ムラサキイガイ	20												
節足動物門	サンカクフジツボ		30	20	20	+			30	10	+	+	+	
	ワタリガニ科													rr
棘皮動物門	キヒトデ		(6)	(11)	(8)	(6)	(3)	(6)	r	r	c		r	c
	イトマキヒトデ							(1)						
	サンショウウニ							(1)					r	
	マナマコ													rr
原索動物門	コウレイボヤ属		+	10	10	10	+	+		+	+		+	
	出現種類数 (11)	1	4	5	4	4	3	5	3	5	4	2	5	3

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
 注 2 : () 内の数値は個体数を示す。
 注 3 : rr = 1 - 2 個体、r = 3 - 10 個体、c = 11 - 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

魚類

A．神戸沖処分場

調査地点A - 2では6種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで4種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、メバルが水深 - 2 ~ 4 mで51個体以上、水深 - 4 ~ 6 mで11 ~ 50個体確認された。

調査地点A - 4では4種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで2種類と多かった。水深2 m範囲で個体数が最も多かったのはササノハベラで、水深 - 4 ~ 6 mで3 ~ 10個体確認された。

調査地点A - 5では4種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで3種類と多かった。水深2 m範囲で個体数が最も多かったのはメバルとササノハベラで、ともに水深 - 4 ~ 6 mで3 ~ 10個体確認された。

調査地点A - 7では水深 - 4 m以深で2種類が確認された。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 6 mでハゼ科が11 ~ 50個体確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点B - 1、6、7では魚類は確認されなかった。

調査地点B - 2では水深 - 4 ~ 6 mでクロダイが1 ~ 2個体確認されたのみであった。

C．大阪沖処分場

調査地点C - 1では3種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで2種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 4 mでメバルが51個体以上確認された。

調査地点C - 2では魚類は確認されなかった。

調査地点C - 3では2種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mと水深 - 4 ~ 6 mでともに1種類であった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 4 mでメバルが51個体以上確認された。

D．泉大津沖処分場

調査地点D - 1では3種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで2種類と多かった。水深2 m範囲に個体数が最も多かったのはメバルとウミタナゴで、それぞれ水深 - 8 ~ 10 mと水深10 ~ 11で3 ~ 10個体確認された。

調査地点D - 2では水深 - 6 ~ 8 mで3種類が確認されたのみであった。水深2 m範囲に個体数が最も多かったのはウミタナゴで3 ~ 10個体確認された。

調査地点D - 3では6種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで5種類と多かった。水深2 m範囲に個体数が最も多かったのはメバル、ウミタナゴおよびササノハベラで、メバルが水深 - 6 ~ 10 mで、ウミタナゴとササノハベラが水深 - 8 ~ 10 mでそれぞれ3 ~ 10個体確認された。

調査地点D - 5では6種類が確認され、エコ岸壁の遊水室内で5種類と多かった。観察部位の範囲で11個体以上みられた種類を示すと、エコ岸壁の遊水室内と周辺においてメバルが11 ~ 50個体、エコ岸壁の遊水室内においてウミタナゴが11 ~ 50個体、エコ岸壁の周辺においてウミタナゴが51個体以上確認された。

表 2 - 2 - 3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年 5月27日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名		基質				
		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
魚類	メバル (3 ~ 5)		cc	c		
	ナベカ (5)		rr			
	アナハゼ (12)		rr			
	クジメ (12)		rr			
	ササノハベラ (6 ~ 10)			rr	rr	
	ハゼ科 (3 ~ 4)				c	r
出現種類数 (6)		-	4	2	2	1

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年 5月27日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名		基質				
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
魚類	コモンフグ (12)	rr				
	アイナメ (25)		rr			
	スズメダイ (10)			rr		
	ササノハベラ (8)			r		
	出現種類数 (4)	1	1	2	-	-

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年 5月27日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名		基質				
		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
魚類	メバル (3 ~ 12)		rr	r	rr	
	ササノハベラ (5 ~ 8)			r		
	カサゴ (3)				rr	
	アイナメ (15)				rr	
	出現種類数 (4)	-	1	2	3	-

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成19年 5月27日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8
種類名		基質			
		ブロック	ブロック	小礫 砂	小礫 砂
魚類	ネズツボ科 (4 ~ 5)			r	r
	ハゼ科 (3 ~ 5)			c	r
出現種類数 (2)		-	-	2	2

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (5) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年5月24日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	出現なし			

表 2 - 2 - 3 (6) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年5月24日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫
	魚類	クロダイ (35)		rr	
出現種類数 (1)		-	-	1	-

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (7) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年5月24日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	出現なし			

表 2 - 2 - 3 (8) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年5月24日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4
種類名	基質	ケーソン	ブロック 巨礫
	出現なし		

表 2 - 2 - 3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成19年5月28日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
種類名		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	メバル(2~3)		cc			
	クロダイ(35)		rr			
	クジメ(13)			rr		
出現種類数(3)		-	2	1	-	-

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成19年5月28日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
種類名		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
出現なし						

表 2 - 2 - 3 (11) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成19年5月28日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 9
種類名		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	メバル(2~3)		cc			
	クジメ(14)			rr		
出現種類数(2)		-	1	1	-	-

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成19年5月30日

種類名		水深 (m)	±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -11
		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
魚類	メバル(5~10)			rr		rr	r	
	アナハゼ(6)			rr				
	ウミタナゴ(15~18)							r
	出現種類数(3)		-	2	-	1	1	1

注1: rr = 1 ~ 2個体、r = 3 ~ 10個体、c = 11 ~ 50個体、cc = 51個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成19年5月30日

種類名		水深 (m)	±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -12	-12 ~ -13
		基質	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫大礫
魚類	アナハゼ(10)					rr			
	コモンフグ(12)					rr			
	ウミタナゴ(10~12)					r			
	出現種類数(3)		-	-	-	3	-	-	-

注1: rr = 1 ~ 2個体、r = 3 ~ 10個体、c = 11 ~ 50個体、cc = 51個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成19年5月30日

種類名		水深 (m)	±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -12	-12 ~ -13
		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫泥
魚類	イソギンポ科(5)		rr						
	メバル(6~12)					r	r		
	アナハゼ(10)					rr			
	ウミタナゴ(10~18)					r			
	ササノハベラ(8~12)					r	rr		
	クジメ(12)					rr	rr		
	出現種類数(6)		1	-	-	5	3	-	-

注1: rr = 1 ~ 2個体、r = 3 ~ 10個体、c = 11 ~ 50個体、cc = 51個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2 - 2 - 3 (15) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年5月30日

種類名		観察部位	エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
		基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	スズキ(40)		rr		
	メバル(5~12)		c	c	r
	クロダイ(30)		rr		
	ウミタナゴ(5~8)		c	cc	
	アナハゼ(6)		rr		
	クジメ(10~15)				r
出現種類数(6)			5	2	2

注1: rr = 1 ~ 2個体、r = 3 ~ 10個体、c = 11 ~ 50個体、cc = 51個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取および分析

植物の粹取り分析結果を表 2 - 2 - 4、動物の粹取り分析結果を表 2 - 2 - 5 に示した。

植物

1 . 神戸沖処分場 (A - 2)

上層では 4 種類が出現し、総湿重量 54.24 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 48.38 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では 8 種類が出現し、総湿重量 315.31 g / 0.25m² であり、藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが 214.80 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では 10 種類が出現し、総湿重量 148.51 g / 0.25m² であり、紅藻綱のススカケベニが 135.89 g / 0.25 m² と最も多かった。

2 . 大阪沖処分場 (C - 2)

上層では 4 種類が出現し、総湿重量 156.90 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 155.20 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では 7 種類が出現し、総湿重量 203.15 g / 0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 151.48 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では 12 種類が出現し、総湿重量は 524.54 g / 0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 185.01 g / 0.25 m² と最も多かった。

3 . 泉大津沖処分場 (D - 2)

上層では 5 種類が出現し、総湿重量は 3.59 g / 0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 2.19 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では 10 種類が出現し、総湿重量は 95.30 g / 0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 69.64 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では 13 種類が出現し、総湿重量は 321.40 g / 0.25m² であり、紅藻綱のタオヤギソウが 259.68 g / 0.25 m² と最も多かった。

4 . 泉大津沖処分場 (D - 3)

上層では 2 種類が出現し、総湿重量は 0.31 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 0.31 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では 3 種類が出現し、総湿重量は 13.35 g / 0.25m² であり、藻場構成種である褐藻綱のワカメが 12.76 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では 3 種類が出現し、総湿重量は 0.03 g / 0.25m² であり、緑藻綱のアオサ属が 0.03 g / 0.25 m² と最も多かった。

表 2 - 2 - 4 枠取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ± 0.0m)	中 (M.W.L. -2.0m)	下 (M.W.L. -4.0m)
神戸沖 A - 2 (5月27日)	出現種類数	4	8	10
	総湿重量 (g/0.25㎡)	54.24	315.31	148.51
	優占種	第1位 ホトアサ村 48.38 (89)	タマハキモク 214.80 (68)	スサカハニ 135.89 (92)
		第2位 アサ村 5.85 (11)	アサ属 100.38 (32)	ムカデノリ 15.09 (10)
第3位 シオクサ属 0.01 (-)		ユズジフツナギ 0.11 (-)	フダラク 6.69 (5)	
大阪沖 C - 2 (5月28日)	出現種類数	4	7	12
	総湿重量 (g/0.25㎡)	156.90	203.15	524.54
	優占種	第1位 ホトアサ村 155.20 (99)	フダラク 151.48 (75)	フダラク 185.01 (35)
		第2位 アサ属 0.96 (1)	アサ村 33.60 (17)	タマハキモク 175.62 (33)
第3位 アサリ属 0.45 (-)		スサカハニ 13.27 (7)	ハニスナゴ 70.37 (13)	
泉大津沖 D - 2 (5月30日)	出現種類数	5	10	13
	総湿重量 (g/0.25㎡)	3.59	95.30	321.40
	優占種	第1位 フダラク 2.19 (61)	フダラク 69.64 (73)	タヤキソウ 259.68 (81)
		第2位 ホトアサ村 1.11 (31)	ムカデノリ 21.10 (22)	カノリ 45.73 (14)
第3位 イトクサ属 0.28 (8)		ツルツル 2.15 (2)	ツルツル 10.69 (3)	
泉大津沖 D - 3 (5月30日)	出現種類数	2	3	3
	総湿重量 (g/0.25㎡)	0.31	13.35	0.03
	優占種	第1位 ホトアサ村 0.31 (100)	ワカメ 12.76 (96)	アサ属 0.03 (100)
		第2位 伴ス科 + (-)	ミル 0.59 (4)	イトクサ属 + (-)
第3位		スサカハニ + (-)	キヌイトクサ属 + (-)	

注) 表中の+は0.01g未満を示す。また、()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

動物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では 34 種類が出現し、総個体数 26,054 個体/0.25m²、総湿重量 757.19 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 24,751 個体/0.25m²、649.60 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 72 種類が出現し、総個体数 15,612 個体/0.25m²、総湿重量 408.59 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイがそれぞれ 6,144 個体/0.25m²、302.59 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 55 種類が出現し、総個体数 5,314 個体/0.25m²、総湿重量 128.66 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のユンボソコエビ属が 2,725 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のキヒトデが 40.19 g /0.25m²と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では 33 種類が出現し、総個体数 15,427 個体/0.25m²、総湿重量 1,753.75 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 14,537 個体/0.25m²、1,341.88 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 53 種類が出現し、総個体数 3,509 個体/0.25m²、総湿重量 81.71 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 1,711 個体/0.25m²、22.92 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 68 種類が出現し、総個体数 5,044 個体/0.25 m²、総湿重量 106.63 g /0.25 m²であった。個体数では節足動物門のトゲワレカラが 1,576 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 47.98 g /0.25m²と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では 36 種類が出現し、総個体数 25,158 個体/0.25m²、総湿重量 4,469.62 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 24,305 個体/0.25m²、4,459.52 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 44 種類が出現し、総個体数 8,150 個体/0.25m²、総湿重量 495.20 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 6,425 個体/0.25m²、414.32 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 44 種類が出現し、総個体数 438 個体/0.25m²、総湿重量 66.18 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のアリアケドロクダムシが 205 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のイトマキヒトデが 42.92 g /0.25m²と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では 27 種類が出現し、総個体数 22,109 個体/0.25m²、総湿重量 3,806.90 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 20,864 個体/0.25m²、3,656.36 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 57 種類が出現し、総個体数 12,916 個体/0.25m²、総湿重量 1,860.59 g /0.25m²であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 7,936 個体/0.25m²と最も多く、湿

重量では軟体動物門のムラサキイガイが 1,266.56 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では 70 種類が出現し、総個体数 2,480 個体/0.25m²、総湿重量 254.02 g / 0.25m² であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 497 個体/0.25m² と最も多く、湿重量では原索動物門のシロボヤが 87.45 g / 0.25m² と最も多かった。

表 2 - 2 - 5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ± 0.0m)	中 (M.W.L. - 2.0m)	下 (M.W.L. - 4.0m)
神戸沖 A - 2 (5月27日)	出現種類数(種類)	34	72	55
	総個体数 (個体/0.25m ²)	26,054	15,612	5,314
	総湿重量 (g/0.25m ²)	757.19	408.59	128.66
	個体数 からみた	第1位 ムラサキイガイ 24,751 (95)	イソカサネカンザシゴカイ 6,144 (39)	シロボヤ属 2,725 (51)
	優占種	第2位 ヲソコエビ属 209 (1)	マルエビ科 5,264 (34)	カサネカンザシゴカイ 384 (7)
	第3位 ヲソコエビ科 186 (1)	トゲウモ科 1,090 (7)	カサネカンザシゴカイ 372 (7)	
	湿重量 からみた	第1位 ムラサキイガイ 649.60 (86)	イソカサネカンザシゴカイ 302.59 (74)	ヒトヒト 40.19 (31)
	優占種	第2位 レイシイガイ 58.36 (8)	マルエビ科 28.94 (7)	イトマキヒト 39.57 (31)
	第3位 体ニシ 36.15 (5)	カサネカンザシゴカイ 17.18 (4)	カサネカンザシゴカイ 19.53 (15)	
	大阪沖 C - 2 (5月28日)	出現種類数(種類)	33	53
総個体数 (個体/0.25m ²)		15,427	3,509	5,044
総湿重量 (g/0.25m ²)		1,753.75	81.71	106.63
個体数 からみた		第1位 ムラサキイガイ 14,537 (94)	ムラサキイガイ 1,711 (49)	トゲウモ科 1,576 (31)
優占種		第2位 ヲソコエビ幼虫 357 (2)	シロボヤ属 672 (19)	イソカサネカンザシゴカイ 1,420 (28)
第3位 マガキ 167 (1)		マルエビ科 239 (7)	シロボヤ 711 (14)	
湿重量 からみた		第1位 ムラサキイガイ 1,341.88 (77)	ムラサキイガイ 22.92 (28)	イソカサネカンザシゴカイ 47.98 (45)
優占種		第2位 マガキ 397.59 (23)	レイシイガイ 15.85 (19)	マガキ 8.04 (8)
第3位 カサネカンザシゴカイ 3.45 (-)		ヒトヒト 12.47 (15)	トゲウモ科 6.53 (6)	
泉大津沖 D - 2 (5月30日)		出現種類数(種類)	36	44
	総個体数 (個体/0.25m ²)	25,158	8,150	438
	総湿重量 (g/0.25m ²)	4,469.62	495.20	66.18
	個体数 からみた	第1位 ムラサキイガイ 24,305 (97)	ムラサキイガイ 6,425 (79)	アリアケトヒトヒト 205 (47)
	優占種	第2位 ヒトヒト属 308 (1)	マルエビ科 308 (4)	マガキ 53 (12)
	第3位 ヒトヒト属 191 (1)	Dodecaceria sp. 189 (2)	シロボヤ 33 (8)	
	湿重量 からみた	第1位 ムラサキイガイ 4,459.52 (100)	ムラサキイガイ 414.32 (84)	イトマキヒト 42.92 (65)
	優占種	第2位 マガキ 2.22 (-)	イトマキヒト 30.49 (6)	コシカカシゴカイ 11.52 (17)
	第3位 シロボヤ属 1.72 (-)	ヒトヒト 23.10 (5)	ヒトヒト 4.50 (7)	
	泉大津沖 D - 3 (5月30日)	出現種類数(種類)	27	57
総個体数 (個体/0.25m ²)		22,109	12,916	2,480
総湿重量 (g/0.25m ²)		3,806.90	1,860.59	254.02
個体数 からみた		第1位 ムラサキイガイ 20,864 (94)	イソカサネカンザシゴカイ 7,936 (61)	イソカサネカンザシゴカイ 497 (20)
優占種		第2位 イソカサネカンザシゴカイ 543 (2)	ムラサキイガイ 2,944 (23)	アリアケトヒトヒト 373 (15)
第3位 シロボヤ属 297 (1)		イソカサネカンザシゴカイ 498 (4)	シロボヤ 300 (12)	
湿重量 からみた		第1位 ムラサキイガイ 3,656.36 (96)	ムラサキイガイ 1,266.56 (68)	シロボヤ 87.45 (34)
優占種		第2位 マガキ 116.73 (3)	イソカサネカンザシゴカイ 335.36 (18)	ヒトヒト 39.63 (16)
第3位 カサネカンザシゴカイ 8.90 (-)		レイシイガイ 54.00 (3)	イソカサネカンザシゴカイ 25.72 (10)	

注) 表中の () 内の数値は総量に対する占有率を示し、- は1%未満を示す。

第3章 夏季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成19年 8月 4日
- (2) 尼崎沖処分場 平成19年 8月 6日
- (3) 大阪沖処分場 平成19年 8月11日
- (4) 泉大津沖処分場 平成19年 8月 1日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表3-1-1に示した。

天気・雲量・気温

- A. 神戸沖では天気は曇り、雲量は10、気温は26.4~27.2であった。
- B. 尼崎沖では天気は晴、雲量は3~4、気温は27.9~32.4であった。
- C. 大阪沖では天気は晴~快晴、雲量は1~2、気温は29.4~33.0であった。
- D. 泉大津沖では天気は晴、雲量は6~8、気温は34.0~34.6であった。

風浪階級・風向・風速

- A. 神戸沖では風浪階級は1~2、風速は3.7~4.9m/s、風向は西であった。
- B. 尼崎沖では風浪階級は1、風速は1.7~4.1m/s、風向は南から西であった。
- C. 大阪沖では風浪階級は1~2、風速は0.8~6.9m/s、風向は北北西から西であった。
- D. 泉大津沖では風浪階級は1、風速は2.7~6.0m/s、風向は北から北西であった。

透明度・水色

- A. 神戸沖では透明度は2.0~2.5m、水色は全地点ともオリーブグリーンであった。
- B. 尼崎沖では透明度は1.2~1.4m、水色は全地点ともシダーグリーンであった。
- C. 大阪沖では透明度は1.7~4.3m、水色は調査地点C-1、2でオリーブグリーン、調査地点C-3でボトルグリーンであった。
- D. 泉大津沖では透明度は1.6~1.8m、水色は2地点ともオリーブグリーンであった。

表3 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (8月4日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7	
	調査時間	12:20~13:00	8:35~9:20	9:50~10:35	10:50~11:35	
	天気・雲量	曇り・10	曇り・10	曇り・10	曇り・10	
	気温	27.2	26.4	26.4	27.2	
	風浪階級	1	2	2	2	
	風速・風向	4.3m/s・西	4.4m/s・西	3.7m/s・西	4.9m/s・西	
	透明度	2.3m	2.2m	2.0m	2.5m	
	水色	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	
水深	15.9m	16.7m	11.9m	10.7m		
尼崎沖 (8月6日)	調査地点	B - 1	B - 2	B - 5	B - 6	B - 7
	調査時間	10:08~10:30	8:50~9:20	8:16~8:40	9:30~9:51	10:45~11:10
	天気・雲量	晴・4	晴・3	晴・3	晴・4	晴・3
	気温	32.0	31.2	27.9	31.8	32.4
	風浪階級	1	1	1	1	1
	風速・風向	4.0m/s・西	2.0m/s・西	1.7m/s・南	3.4m/s・西	4.1m/s・南西
	透明度	1.4m	1.2m	1.4m	1.3m	1.3m
	水色	シタグリーン 5Y 2.5/1.5	シタグリーン 5Y 2.5/1.5	シタグリーン 5Y 2.5/1.5	シタグリーン 5Y 2.5/1.5	シタグリーン 5Y 2.5/1.5
水深	6.5m	5.4m	13.1m	8.1m	6.8m	
大阪沖 (8月11日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3		
	調査時間	9:15~10:15	11:34~12:48	10:30~11:30		
	天気・雲量	晴・2	快晴・1	快晴・1		
	気温	29.4	32.5	33.0		
	風浪階級	1	2	1		
	風速・風向	0.8m/s・北北西	6.9m/s・西	3.5m/s・西		
	透明度	1.7m	2.5m	4.3m		
	水色	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	ホトグリーン 3G 3.0/4.5		
水深	12.8m	12.7m	9.9m			
泉大津沖 (8月1日)	調査地点	D - 1	D - 2			
	調査時間	12:35~12:57	11:12~11:34			
	天気・雲量	晴・8	晴・6			
	気温	34.6	34.0			
	風浪階級	1	1			
	風速・風向	2.7m/s・北西	6.0m/s・北			
	透明度	1.6m	1.8m			
	水色	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0			
水深	14.3m	12.3m				

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表 3 - 1 - 2、図 3 - 1 - 1、鉛直分布図を図 3 - 1 - 2 に示した。

水温

- A . 神戸沖では 21.8~24.9 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に低下した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 21.5~28.1 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて著しく低下した。地点間で比較すると、水深が深かった B - 5 の底層で低かったが、他の地点ではほぼ同様の範囲であった。
- C . 大阪沖では 23.1~28.2 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて低下する傾向がみられた。このうち、調査地点 C - 1 では水深 - 6 ~ 8 m に躍層がみられた。地点間で比較すると、C - 3 で水温の変化の範囲が小さかった。
- D . 泉大津沖では 21.6~25.5 の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけて徐々に低下した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

塩分

- A . 神戸沖では 29.0~32.1 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 20.5~31.8 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 B - 2、5、6、7 では水深 - 0.5 ~ 2 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、B - 2 の表層がやや低かった。
- C . 大阪沖では 26.2~31.5 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 C - 1 では水深 - 0.5 ~ 2 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。地点間で比較すると調査地点 C - 1 の表層がやや低かった。
- D . 泉大津沖では 29.4~32.1 の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけて徐々に高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

DO

- A . 神戸沖では0.4~7.6mg/Lの範囲を示し、4地点とも表層から底層にかけて徐々に低くなった。地点間で比較すると、調査地点A - 2の水深 - 16m以深では特に低く、DOは1.0 mg/Lを下回った。
- B . 尼崎沖では0.1~13.1mg/Lの範囲を示し、5地点とも表層から底層にかけて低くなり、特に水深 - 2 m以深ではDOが著しく低くなる傾向がみられた。地点間で比較すると、水深が深い調査地点B - 5の水深 - 8 m以深では特に低く、DOは1.0mg/Lを下回った。
- C . 大阪沖では1.1~11.3mg/Lの範囲を示し、調査地点C - 1、2では表層から底層にかけて低くなる傾向がみられたが、調査地点C - 3では、概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点C - 1の表層で高かった。
- D . 泉大津沖では0.0~15.1mg/Lの範囲を示し、調査地点D - 1では水深 - 2 ~ 4 mで、D - 2では水深 - 3 ~ 6 mで、DOが著しく低くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、調査地点D - 1では水深 - 7 mで、D - 2では水深 - 8 mでDOが1.0 mg/Lを下回り、このうち調査地点D - 2では水深 - 9 m以深でDOが0.0mg/Lと特に低かった。

光量

- A . 神戸沖の光量子束密度は $0.5 \sim 1361.7 \mu E/0.25m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は4地点とも底層ほど低くなった。調査地点A - 2、4、5では水深 - 6 mで、調査地点A - 7では水深 - 7 mで相対光量が1%以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- B . 尼崎沖の光量子束密度は $0.5 \sim 1897.4 \mu E/0.25m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は5地点とも底層ほど低くなった。調査地点B - 1、5、6では水深 - 4 mで相対光量が1%以下となった。
- C . 大阪沖の光量子束密度は $6.5 \sim 1593.9 \mu E/0.25m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は3地点とも底層ほど低くなった。調査地点C - 1では水深 - 7 mで相対光量が1%以下となった。地点間で比較すると、鉛直分布の減衰傾向は調査地点C - 3でやや緩やかであった。
- D . 泉大津沖の光量子束密度は $1.1 \sim 2101.8 \mu E/0.25m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は2地点とも底層ほど低くなった。調査地点D - 1では水深 - 4 mで、調査地点D - 2では水深 - 5 mで相対光量が1%以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。

表 3 - 1 - 2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 ()	塩分 (-)	DO (mg/L)	相对光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A - 2	21.9 ~ 24.9	29.0 ~ 31.9	0.4 ~ 7.6	0.1 ~ 87.6	0.8 ~ 1,361.7
	A - 4	21.8 ~ 24.5	29.3 ~ 32.1	1.2 ~ 6.9	0.1 ~ 57.3	0.5 ~ 460.5
	A - 5	23.3 ~ 24.7	29.1 ~ 30.9	3.9 ~ 7.6	0.2 ~ 66.1	1.5 ~ 607.5
	A - 7	22.0 ~ 24.9	29.3 ~ 31.8	1.8 ~ 7.0	0.4 ~ 59.0	3.5 ~ 515.7
尼崎沖	B - 1	23.4 ~ 27.9	25.5 ~ 30.5	1.6 ~ 12.5	0.6 ~ 99.8	12.3 ~ 1,897.4
	B - 2	24.3 ~ 27.7	20.5 ~ 29.9	3.8 ~ 11.4	1.5 ~ 51.7	5.4 ~ 183.5
	B - 5	21.5 ~ 27.4	24.8 ~ 31.8	0.1 ~ 12.7	0.0 ~ 93.6	0.5 ~ 1,370.0
	B - 6	22.9 ~ 27.8	22.7 ~ 31.1	1.7 ~ 13.1	0.2 ~ 98.8	3.8 ~ 1,839.3
	B - 7	23.5 ~ 28.1	24.4 ~ 30.5	2.2 ~ 12.4	1.7 ~ 54.7	6.9 ~ 220.5
大阪沖	C - 1	23.7 ~ 28.1	26.2 ~ 31.3	1.5 ~ 11.3	0.3 ~ 55.1	6.5 ~ 1,217.9
	C - 2	23.1 ~ 28.2	28.6 ~ 31.5	1.1 ~ 7.5	1.0 ~ 59.3	22.5 ~ 1,295.7
	C - 3	25.3 ~ 27.5	28.2 ~ 30.7	5.6 ~ 7.3	1.8 ~ 75.5	38.2 ~ 1,593.9
泉大津沖	D - 1	21.6 ~ 25.5	29.4 ~ 32.1	0.1 ~ 15.1	0.1 ~ 57.0	1.1 ~ 590.0
	D - 2	21.7 ~ 25.4	29.5 ~ 32.1	0.0 ~ 12.3	0.1 ~ 94.4	2.2 ~ 2,101.8

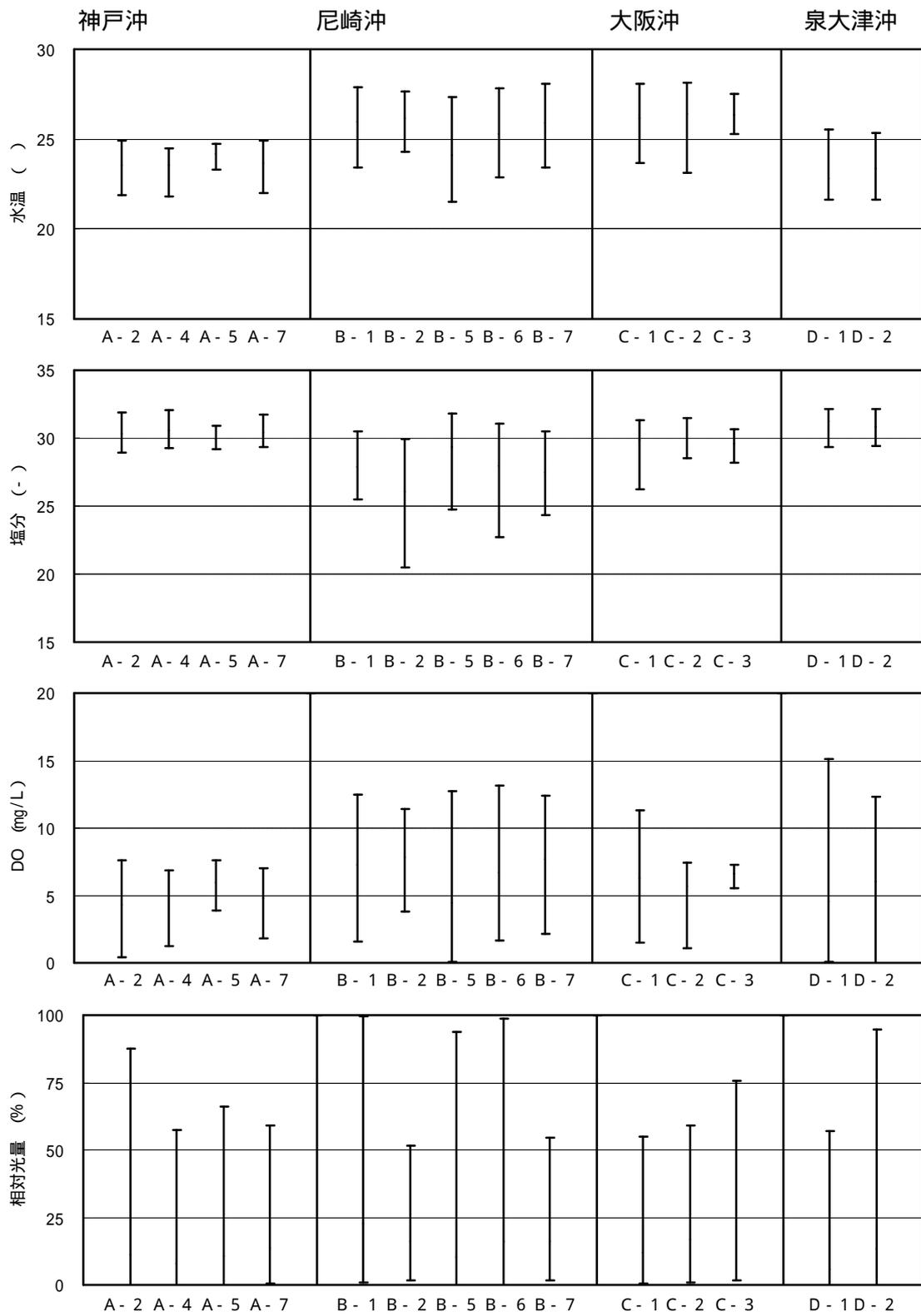


図 3 - 1 - 1 水質測定結果概要図

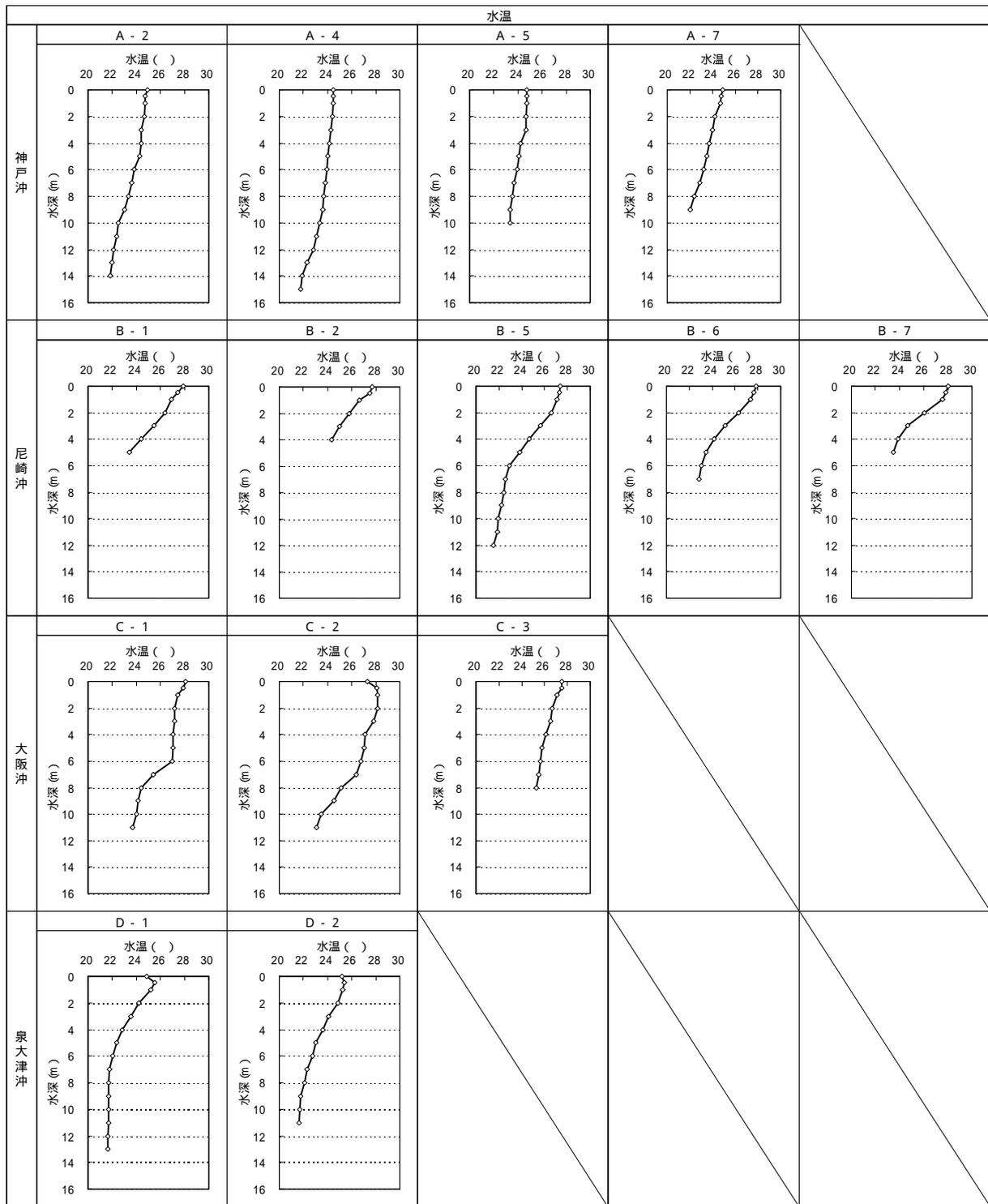


図3 - 1 - 2 (1) 鉛直分布図 (水温)

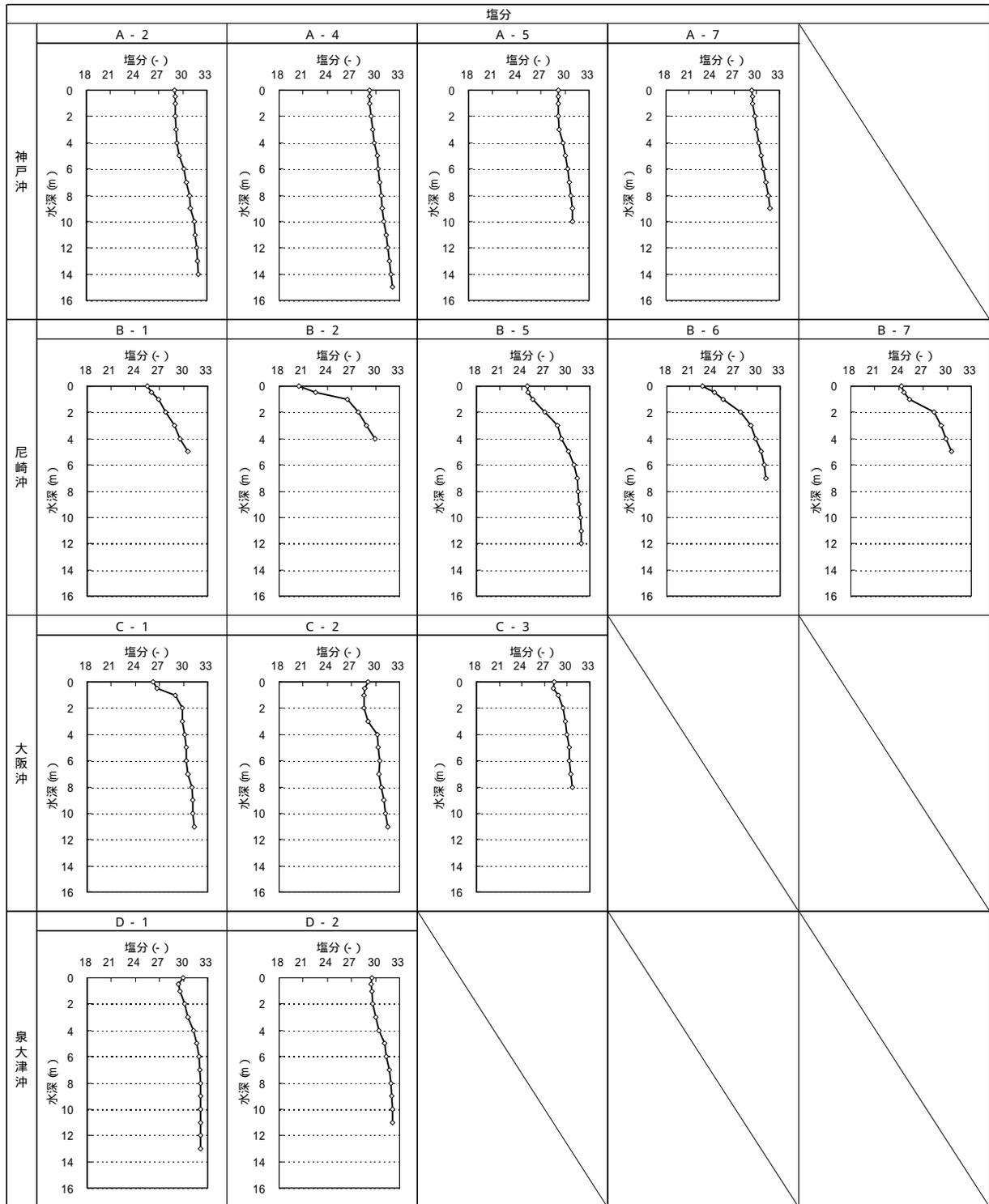


図3 - 1 - 2 (2) 鉛直分布図 (塩分)

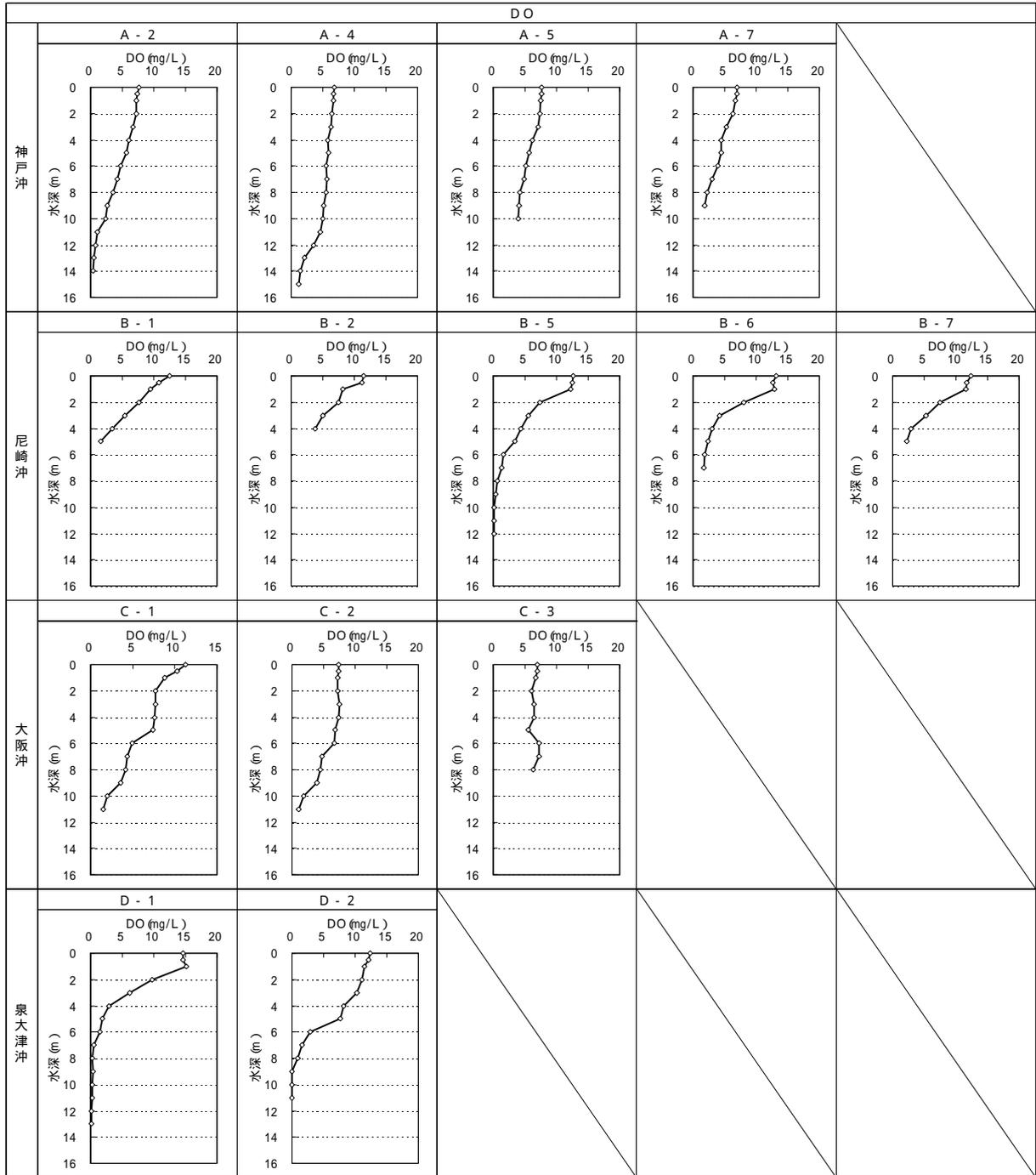


図3 - 1 - 2 (3) 鉛直分布図 (DO)

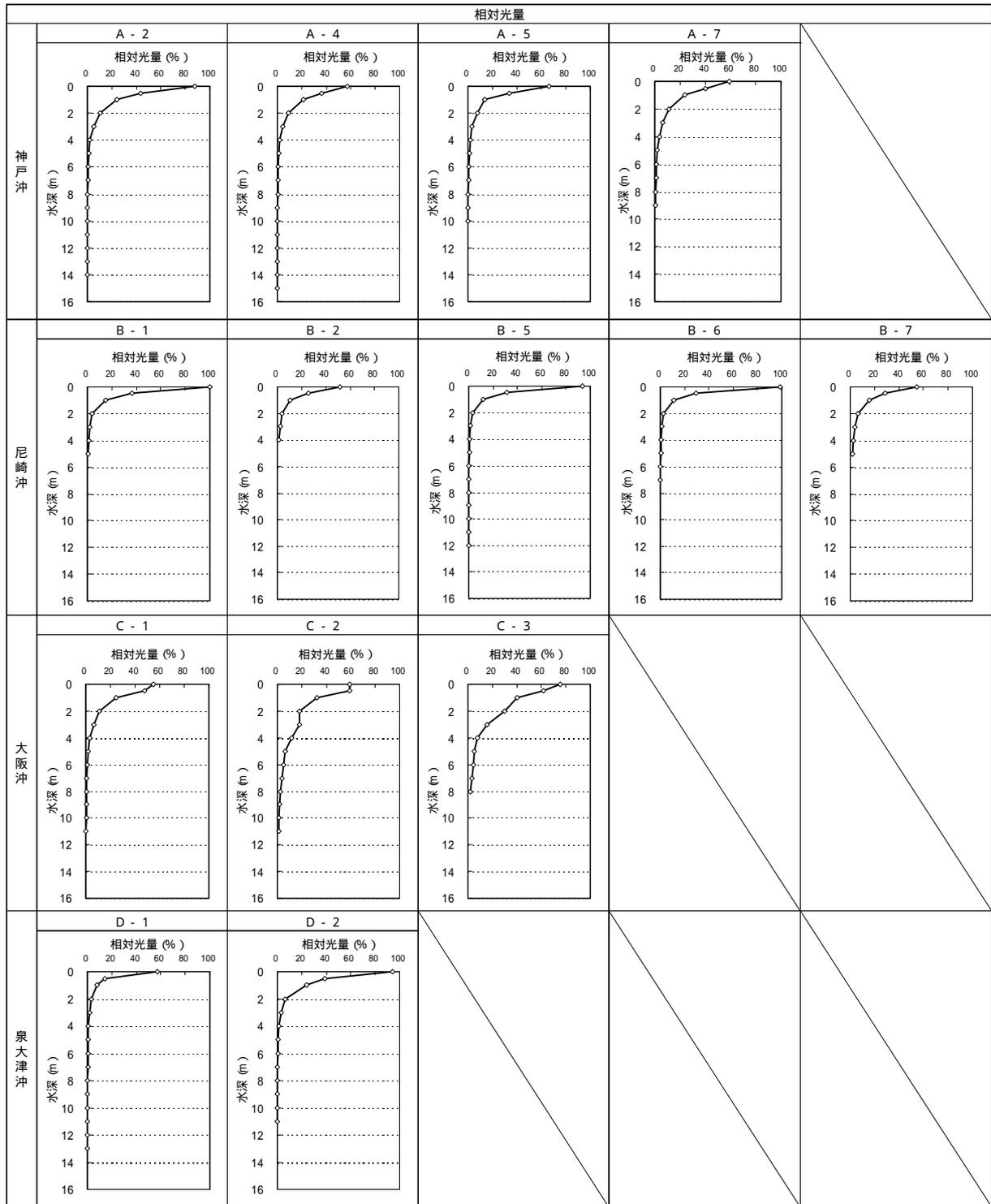


図3 - 1 - 2 (4) 鉛直分布図 (相对光量)

3 . 生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表3 - 2 - 1、動物の目視観察の結果を表3 - 2 - 2、魚類の目視観察の結果を表3 - 2 - 3に示した。

植物

A . 神戸沖処分場

調査地点A - 2では、植物は水深+ 1 ~ - 8 mに分布し、12 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで6種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深± 0 mで緑藻綱のアオサ属が70%、水深 - 4 ~ 5 mで紅藻綱のイギス科が30%であった。この他に、藻場構成種として、水深 - 2 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5 %未満で確認された。

調査地点A - 4では、植物は水深± 0 ~ - 8 mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mで5種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深± 0 mで珪藻綱が60%、水深 - 4 mでは紅藻綱のイギス科が30%であった。

調査地点A - 5では、植物は水深+ 1 ~ - 1 mと水深 - 4 ~ 8 mに分布し、5種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 7 mで3種類であった。被度 30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点A - 7では、植物は水深± 0 ~ - 1 mと水深 - 4 ~ 6 mに分布し、3種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 mで3種類であった。被度 30%以上でみられた種類はなかった。

B . 尼崎沖処分場

調査地点B - 1、2、6では、植物は確認されなかった。

調査地点B - 7では、植物は水深 - 1 mと水深 - 3 mに分布し、2種類が確認された。種類数は各水深とも1種類で、被度 30%以上でみられた種類はなかった。

C . 大阪沖処分場

調査地点C - 1では、植物は水深±0 ~ - 9 mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで7種類であった。被度 30%以上でみられた種類はなかった。藻場構成種として、水深 - 3 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5 ~ 10%で、水深 - 3 ~ 5 mで褐藻綱のシダモクが被度5 %未満で確認された。

調査地点C - 2では、植物は水深±0 ~ - 10mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで7種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 mで緑藻綱のアオサ属が75%、水深 - 3 mで緑藻綱のアオノリ属が35%、紅藻綱のフダラクが30%、水深 - 6 mでは紅藻綱のススカケベニが 35%であった。この他に、藻場構成種として、水深 - 3 ~ 5 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度 20%以下で、水深 - 4 ~ 6 mで褐藻綱のシダモクが被度5 %以下で確認された。

調査地点C - 3では植物は水深±0 ~ - 9 mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mで7種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のボタンアオサが60%、水深 - 1 mと水深 - 3 ~ 4 mで緑藻綱のアオサ属が55 ~ 70%、水深 - 7 mで紅藻綱のススカケベニが40%であった。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、植物は水深±0 ~ - 1 mに分布し、2種類が確認された。種類数は各水深とも1種類であった。被度 30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点D - 2では、植物は水深±0 ~ - 10mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 mと水深 - 4 mで9種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 mで緑藻綱のミルが30%、水深 - 5 mで紅藻綱のカバノリが40%であった。

調査地点D - 3では、植物は水深±0 m、水深 - 7 ~ 8 mおよび水深 - 11mに分布し、4種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 7 mで3種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 7 mで紅藻綱のイギス科が30%であった。

調査地点D - 5では、植物は水深+1 ~ - 3 mまで出現し、2種類が確認された。種類数は、壁面で1種類、遊水室内では上室において2種類、下室において1種類で、種類数が多かったのは遊水室上室の下面で2種類であった。エコ岸壁において被度 30%以上でみられた種類を示すと、壁面の水深 + 1 ~ ± 0 mで緑藻綱のアオサ属が30%であった。遊水室内において被度 30%以上でみられた種類はなかった。

表 3 - 2 - 1 (1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年 8月 4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
緑藻綱	アオノリ属	+										
	シオグサ属		10									
	アオサ属		70	10	10	+						
褐藻綱	タマハハキモク				+							
紅藻綱	フダラク		+									
	オキツノリ		+			+						
	ツノマタ属		+	+	+	+						
	イギス科				+	20	30	30	+	+	+	
	ススカケベニ					+	+	20	10	+	+	
	マクサ					+						
	ムカデノリ科						+					
	イワノカワ科						+	10	+	+		
出現種類数 (12)	1	5	2	4	6	4	3	3	3	2	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年 8月 4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
緑藻綱	アオサ属		+	10	10	+						
	アオノリ属		20	+								
紅藻綱	ツノマタ属		+	+	+	+						
	フダラク			+	+							
	イギス科						30	10	10	+	+	
	オキツノリ						+					
	ススカケベニ							20	+	+		
	サビ亜科							20	+			
珪藻綱	珪藻綱		60	+								
出現種類数 (9)	-	4	5	3	2	3	3	3	2	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年 8月 4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
緑藻綱	アオサ属	10	10	+								
	アオノリ属		20	20								
紅藻綱	イギス科					+	10	20	+			
	イワノカワ科						10	+	+	+		
	ススカケベニ								10	+		
出現種類数 (5)	1	2	2	-	-	2	2	2	3	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成19年 8月 4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
緑藻綱	アオサ属		+	+		+				
紅藻綱	イギス科					+	+			
	ススカケベニ					+	+	+		
出現種類数 (3)	-	1	1	-	-	3	2	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (5) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	基質							
	ケーソン							
出現なし								

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (6) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫						
出現なし										

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (7) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質						
	ケーソン						
出現なし							

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 3 - 2 - 1 (8) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質					
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属					
	シオグサ属					
出現種類数 (2)	-	-	1	-	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表3-2-1(9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成19年8月11日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫								
	緑藻綱	アオサ属		15	15	15	+	20	15	10	5				
	アオリ属			+											
	シオグサ属						+								
褐藻綱	タマハキモク						10	5							
	シダモク						+	+	+	+					
紅藻綱	イギス科				10	15	10	10	+	+	+	+	+	+	+
	ススカケベニ					+	10	+	5	15	20	10			
	ツルツル							+	5						
珪藻綱	珪藻綱				5	15	10	10	20	25	20	5			
出現種類数(9)		-	1	2	3	4	7	7	6	5	3	3	1	1	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成19年8月11日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫							
	緑藻綱	ポタンアオサ		20									
	アオサ属			75	10	10	+	+	+				
	アオリ属			10		35							
	シオグサ属			+									
褐藻綱	タマハキモク			+		10	20	+					
	シダモク						+	+	5				
紅藻綱	フダラク			+	15	30							
	ススカケベニ				+	+	10	20	35	20	20	5	+
	イワノカワ科				+	+	+	+	5	+	+	+	+
	イギス科				+	+	+	+	+	+	+	+	+
出現種類数(10)		-	1	5	3	7	6	6	5	3	3	2	2

注1：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2：ポタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表3-2-1(11) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成19年8月11日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	ポタンアオサ		60	15							
	アオリ属		+	+								
	アオサ属			55	10	70	65	15	10			
	シオグサ属			5								
紅藻綱	フダラク			5	+							
	イワノカワ科			+	+							
	サビ亜科					+						
	ススカケベニ					+		10	5	40	10	+
	イギス科							+	5	+	+	+
藍藻綱	藍藻綱		+									
珪藻綱	珪藻綱			5								
出現種類数(11)		-	3	7	4	3	1	3	3	2	2	2

注1：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2：ポタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表3-2-1(12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-1)

平成19年8月1日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質												
	ケーソン	泥											
緑藻綱	アオサ属	+											
	ミル		+										
出現種類数(2)	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-2)

平成19年8月1日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	シオグサ属	+	10	+											
	アオサ属	+	+	+											
	アオノリ属		+												
	ミル		30												
紅藻綱	ハネモ属			+	+										
	フダラク		+	20	10	10									
	イギス科		20	+	10	10	10	+	+	20	20	+			
	ツノマダ属			+	+										
	ムカデノリ属			+				+							
	カバノリ			10	10	10	40	10	+						
	ベニスナゴ				+	+									
	オキツノリ			+	+										
	タオヤギソウ					+	+	+	+						
	サビ亜科					+	+	+	+						
	イワノカワ科					+	+	+	+						
	マクサ							+							
	ススカケベニ							10	20	+	10	+			
珪藻綱	珪藻綱		10	10	20	10	10								
出現種類数(18)	-	2	7	9	8	9	6	8	5	2	2	2	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-3)

平成19年8月1日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
紅藻綱	タオヤギソウ									+					
	イギス科									30	+			+	
	ススカケベニ									+	+				
珪藻綱	珪藻綱	+													
出現種類数(4)	-	1	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	1	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(15) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-5)

平成19年8月1日

観察場所	エコ岸壁												
	壁面							遊水室					
水深(m)	+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻綱	アオサ属	30	+	+	+					+		+	+
褐藻綱	シダモク									+			
出現種類数(2)		1	1	1	1	-	-	-	-	2	-	1	1

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

動物

A．神戸沖処分場

調査地点 A - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 9 m に分布し、15 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 + 1 m で節足動物門のイワフジツボが 40%、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 40 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のイボニシが 60 個体、水深 - 5 ~ 6 m で棘皮動物門のキヒトデが 11 ~ 27 個体確認された。

調査地点 A - 4 では、動物は水深 + 1 ~ - 10 m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30 ~ 90% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 220 個体、水深 - 1 m で軟体動物門のレイシガイが 23 個体確認された。

調査地点 A - 5 では、動物は水深 + 1 ~ - 9 m に分布し、22 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 90% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 32 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のイボニシが、水深 - 4 m で軟体動物門のコシダカガンガラがともに 11 個体確認された。

調査地点 A - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 6 m に分布し、12 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 1 m で軟体動物門のムラサキイガイが 50 ~ 60%、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 40 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 64 個体、水深 - 1 m で軟体動物門のレイシガイが 31 個体確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点 B - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 6 m に分布し、14 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 70%、軟体動物門のムラサキイガイが 30%、水深 - 3 m で腔腸動物門のヒドロ虫綱が 35%、水深 - 4 m で環形動物門多毛綱(泥巣)が 40% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 5 個体確認された。

調査地点 B - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、23 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で軟体動物門のムラサキイガイが 30 ~ 100%、水深 - 2 ~ 4 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 60 ~ 90% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 7 個体確認された。

調査地点 B - 6 では、動物は水深 + 1 ~ - 5 m に分布し、19 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 m で 10 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 m と水深 - 3 m で腔腸動物門のヒドロ虫綱が 30 ~ 40%、水深 - 2 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 60%、軟体動物門のムラサキイガイが 100% であった。一桝あたりの個体数が最も多

かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 3 個体確認された。

調査地点 B - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 4 m に分布し、14 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類はなかった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 1 m で軟体動物門のイボニシが 10 個体確認された。

C . 大阪沖処分場

調査地点 C - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、23 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のマガキが 45%、水深 - 1 m で触手動物門のコケムシ綱が 30%、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 85 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 11 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のレイシガイが 26 個体確認された。

調査地点 C - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のムラサキイガイが 80%、水深 - 1 ~ 5 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 40 ~ 95%、水深 - 2 m で触手動物門のコケムシ綱が 30% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のタマキビが 52 個体確認された。

調査地点 C - 3 では、動物は水深 + 1 m と水深 - 1 ~ 9 m に分布し、13 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 m で 5 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 5 m と水深 - 7 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 60 ~ 65% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは棘皮動物門のキヒトデで、水深 - 2 m で 9 個体確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、動物は水深 + 1 ~ - 10mに分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 ~ 3 mで9種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m ~ - 1 mで軟体動物門のムラサキイガイが 80~90%、水深 - 2 ~ 4 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30~80%、水深 - 5 ~ 10mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 80%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 32 個体、水深 - 2 mで棘皮動物門のキヒトデが 11 個体確認された。

調査地点D - 2では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、31 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 mで 11 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 1 mで軟体動物門のムラサキイガイが 30~100%、水深 - 1 mで腔腸動物のチギレイソギンチャクが 30%、水深 - 2 ~ 3 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 50%、水深 - 4 ~ 5 mで触手動物門のコケムシ綱が 30%、水深 - 9 ~ 12mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 30~80%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビとカモガイがそれぞれ 70 個体と 15 個体、水深 - 4 ~ 5 mと水深 - 9 mで棘皮動物門のキヒトデが 13~18 個体、水深 - 6 mで棘皮動物門のイトマキヒトデが 11 個体確認された。

調査地点D - 3では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 mで 11 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 ~ - 3 mで軟体動物門のムラサキイガイが 80~100%、水深 - 2 ~ 3 mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 30%、水深 - 3 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30%、水深 - 5 ~ 6 mと水深 - 9 ~ 12mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 70~80%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 120 個体、水深 - 7 mで棘皮動物門のサンショウウニが 18 個体、水深 - 7 ~ 9 mで棘皮動物門のキヒトデが 12~27 個体確認された。

調査地点D - 5では、動物は水深 + 1 ~ - 5.5mに分布し、14 種類が確認された。種類数は壁面で 13 種類、遊水室内では上室、下室ともに 6 種類で、種類数が多かったのは壁面の水深 - 3 ~ 5 mで 9 種類であった。エコ岸壁において被度 30%以上でみられた種類を示すと、壁面の水深 + 1 ~ ± 0 mで軟体動物門のムラサキイガイが 70%、水深 ± 0 ~ - 5 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 40~90%、水深 - 3 ~ 5 mで触手動物門のフサコケムシ科が 30%、遊水室内では上室の上面と側面、下室の上面と側面で環形動物門のカンザシゴカイ科が 70~90%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、壁面の水深 - 4 ~ 5 mで棘皮動物門のキヒトデが 10 個体であった。遊水室内で個体数が最も多かったのは棘皮動物門のキヒトデとマナマコで、キヒトデが上室の側面、下面および下室の側面で 3 ~ 10 個体、マナマコが下室の下面で 3 ~ 10 個体確認された。

表3-2-2(1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成19年8月4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
腔腸動物門			+	+	+							
環形動物門			100	90	40	20	+	+	+			
触手動物門			10									
軟体動物門	(60)											
		(1)	(7)									
		(1)	(1)	(1)	(3)	(1)						
節足動物門	40											
					(2)	(1)						
棘皮動物門				(1)	(2)	(2)	(1)	(2)		(2)		
					(4)	(5)	(11)	(27)	(3)	(5)	(2)	
原索動物門				+							(1)	
出現種類数(15)	2	1	5	5	7	6	4	5	2	2	2	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成19年8月4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
腔腸動物門		+										
		+	+	+	5	5						
		+	10	10	5	10	+					
環形動物門		30	80	90	90	20	10	+				+
触手動物門		+	20	5	5	+						
軟体動物門	(220)	+	+	+	+	+						
		(7)	(23)									
節足動物門	+											
棘皮動物門			(1)		(2)	(1)	(2)		(2)	(1)		(2)
					(1)						(1)	
原索動物門			+	+	+		(2)	(1)			(1)	
				+	+							
出現種類数(17)	2	7	8	7	9	8	4	1	1	1	2	2

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成19年8月4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
腔腸動物門		+	+	+	+							
			+									
環形動物門			10	20	10							
触手動物門		+	+	+	+							
軟体動物門	(32)		+	+	+							
	(2)											
		+										
		(11)										
		(4)	(2)									
						(1)						
						(11)						
節足動物門	+											
			(1)									
棘皮動物門					(1)							
						(2)	(1)	(3)	(5)	(4)	(2)	
原索動物門						(4)				(1)		
			+	+	+			+				
							+	+				
出現種類数(22)	3	5	9	6	7	5	4	5	2	4	1	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-7)

平成19年8月4日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
腔腸動物門	ヒドロ虫綱		+				+	+		
	タテジマイソギンチャク		+							
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	40	100	70				
	ミスヒキゴカイ科					+				
触手動物門	コケムシ綱				+	+				
軟体動物門	カモガイ	(1)								
	アラレタマキビ	(64)								
	ムラサキガイ		60	50						
	レイシガイ		(2)	(31)						
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(4)	(7)	(3)				
	キヒトデ			(3)	(5)	(4)	(4)	(2)		
	サンショウウニ			(1)	(1)					
	出現種類数(12)	2	5	6	5	5	1	2	1	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(5) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-1)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	基質							
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			15	+	35	+	+
	タテジマイソギンチャク			+				
	チギレイソギンチャク				70	10	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+		5	15	5	+
	多毛綱(泥巢)				+	20	40	15
	ミスヒキゴカイ科							+
軟体動物門	アラレタマキビ	(5)						
	ムラサキガイ		15	25	30	5		
	マガキ		+					
	コウロエンカワヒバリガイ		+					
節足動物門	イワフジツボ		5					
	Balanus属		+	15				
棘皮動物門	キヒトデ						(1)	(4)
原索動物門	カタコウレイボヤ					+	+	+
	出現種類数(14)	1	6	4	5	6	6	7

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(6) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-2)

平成19年8月6日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門					+				
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+							
	ヒドロ虫綱			+			+	5	+	+
	チギレイソギンチャク				60	65	90	10		
	シオガマサンゴ									+
環形動物門	カンザシゴカイ科					+	10	+		
	ミスヒキゴカイ科					+				
	多毛綱(泥巢)					+	15	20	15	10
触手動物門	コケムシ綱							5		
軟体動物門	アラレタマキビ	(7)								
	ムラサキガイ		20	70	100	30	+			
	マガキ		20							
	コウロエンカワヒバリガイ		+							
	タマキビ		(1)							
	イボニシ							(1)		
	ウミフクロウ								(1)	(1)
節足動物門	イワフジツボ		10							
	Balanus属		+	+	+					
棘皮動物門	キヒトデ							(4)	(5)	(4)
	イトマキヒトデ							(1)		
原索動物門	カタコウレイボヤ						15	15	+	+
	スチエラ科						+	+		
	ホヤ綱(群体性)									+
	出現種類数(23)	1	7	3	3	6	6	8	6	5

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(7) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-6)

平成19年8月6日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	海綿動物門	海綿動物門				+		+
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+					
	ヒドロ虫綱			40	+	30	+	+
	チギレイソギンチャク			+	60	15	5	+
環形動物門	カンザシゴカイ科				+	25	5	+
	ミズヒキゴカイ科						+	
	多毛綱(泥集)						+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(3)						
	ムラサキイガイ		20	15	100	10	+	
	コウロエンカワヒバリガイ		+					
	マガキ		+					
	レイシガイ							(1)
節足動物門	タテジマフジツボ		+					
	Balanus属		+	5				
	イワフジツボ		+					
棘皮動物門	マナモコ						(1)	
	キヒトデ							(1)
原索動物門	スチエラ科					+	+	+
	カタコウレイボヤ					20	10	15
出現種類数(19)		1	7	4	5	6	10	7

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(8) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-7)

平成19年8月6日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+		
ヒドロ虫綱				+	10	+	
チギレイソギンチャク				+	5	+	10
環形動物門	カンザシゴカイ科			5	+	15	5
	多毛綱(泥集)				25		
	ミズヒキゴカイ科					+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(3)					
	ムラサキイガイ		10				
	コウロエンカワヒバリガイ		+				
	マガキ		5				
	イボニシ			(10)			
節足動物門	Balanus属		5	5			
原索動物門	カタコウレイボヤ						+
-	卵塊			+			
出現種類数(14)		1	5	7	4	4	3

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

観察枠 No.		平成19年8月11日													
水深(m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門				+										
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	ヒドロ虫綱			+	+			+	+		+	+	+	+	+
	Anthopleura属			+				+							
	チギレイソギンチャク				+	+			+	+			+		+
	シオガマサンゴ									+			+		+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	25	100	100	85	85	10	5	+	+	+	+	+
	ミスヒキゴカイ科				+	+	+			+					
	多毛綱(泥巢)					+	+	+	+			+	+	+	+
	ウスマキゴカイ科								+	+	+	+		+	+
触手動物門	コケムシ綱			30											
軟体動物門	アラレタマキビ	(11)													
	マガキ		45												
	レイシガイ		(26)												
	ムラサキガイ		+												
	イボニシ		(2)												
	コシダカガンガラ						(1)								
棘皮動物門	キヒトデ					(3)									
	サンショウウニ									(1)					
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			+	+	+	+	+			+			+	
	エボヤ				+	+				+					
	カタユウレイボヤ				+	+		+	+						
-	卵塊				+										
	出現種類数(23)	1	6	5	8	9	5	6	6	7	4	4	5	4	5

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

観察枠 No.		平成19年8月11日											
水深(m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			+	+								
	チギレイソギンチャク				+					+			
	シオガマサンゴ											+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			55	65	95	95	40	+	+	+	+	
	レイシガイ			(1)		(1)							
	ウスマキゴカイ科									+			+
	多毛綱(泥巢)												+
触手動物門	コケムシ綱			+	30	+							
軟体動物門	タマキビ	(52)											
	ムラサキガイ		80	15									
	カラマツガイ		(1)										
	マガキ		10	+									
	コシダカガンガラ					(3)							
	シマメノウフネガイ					(4)							
	ナミマガシワ科						+						
節足動物門	サンカクフジツボ										+		
	ヤドカリ科					(1)							
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)		(2)
	キヒトデ					(1)							
	サンショウウニ							(1)					
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			+									
	出現種類数(21)	1	3	7	4	8	3	3	3	4	3	2	3

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(11) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

観察枠 No.		平成19年8月11日										
水深(m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	チギレイソギンチャク					+						
	ヒドロ虫綱										+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	5	5	65	15	60	15	
	多毛綱(泥巢)				5	+	+	+	+	+	+	+
	ウスマキゴカイ科					+	+	+		+		
	ミスヒキゴカイ科											+
触手動物門	コケムシ綱			+		+						
軟体動物門	アラレタマキビ	(8)										
	ムラサキガイ			20								
	ムギガイ						(2)					
棘皮動物門	キヒトデ			(4)	(9)							
	サンショウウニ						(2)					
	イトマキヒトデ									(2)		(1)
	出現種類数(13)	1	-	4	3	4	5	3	3	2	3	3

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3 - 2 - 2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

		平成19年8月1日												
観察種 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
	ヒドロ虫綱		+											
	チギレイソギンチャク			+	+	+								
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	40	80	30	+	+	+	+			
	多毛綱 (泥棲)					+	10	80	80	80	80	80	80	
触手動物門	フサコケムシ科			+	+	10	+							
	コケムシ綱						+	+						
軟体動物門	アラレタマキビ	(32)												
	ケガキ		+											
	ムラサキイガイ		90	80	+									
	イボニシ		(2)											
節足動物門	イワフジツボ	+												
棘皮動物門	キヒトデ			(5)	(11)	(6)							(1)	
	イトマキヒトデ				(1)	(1)								
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+								
	シロボヤ			+	+	+	+	+	+					
	エボヤ						+	+	+					
	ユウレイボヤ属						+	+	+					
	出現種類数 (18)	2	6	8	9	9	7	6	5	2	2	1	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 3 - 2 - 2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

		平成19年8月1日														
観察種 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	ヒドロ虫綱			+	10	10	+							+	+	+
	チギレイソギンチャク			30	10	+	+	+								
	シオガマサンゴ												+	+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	50	50	20	10	+	+						
	多毛綱 (泥棲)								+	+	10	30	80	80	80	
触手動物門	フサコケムシ科			+	+											
	コケムシ綱				+	+	30	30	+	+						
軟体動物門	アラレタマキビ	(70)														
	コガモガイ	(3)														
	ヒザラガイ	(1)														
	カラマツガイ	(2)														
	ベッコウガサ	(1)														
	マツバガイ	(1)	(1)													
	カモガイ	(15)														
	イボニシ		(1)													
	ムラサキイガイ		100	30	+											
	ユメガカサ		(4)													
	サザエ			(1)												
	コシタカガンガラ			(2)			(4)		(2)							
	ムギガサ			(4)												
	レイシガイ					(1)										
	シマメノウフネガイ								+	+	+					
	キクザルガイ科								+	+						
節足動物門	イワフジツボ	+														
	サンカクフジツボ						+	+								
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(1)	(2)	(4)	(4)	(11)	(9)	(3)	(1)	(8)	(1)	(4)		
	キヒトデ				(4)	(16)	(13)	(2)	(4)	(5)	(18)	(4)	(1)	(2)		
	サンショウウニ					(2)	(2)									
	マナマコ					(2)	(1)									
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)				+											
	出現種類数 (31)	8	5	5	11	7	10	9	8	6	3	4	5	5	5	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 3 - 2 - 2 (14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

		平成19年8月1日														
観察種 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	ケーン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	チギレイソギンチャク		+													
	ヒドロ虫綱			+	+	+	10	+	+	+	+	+				
	シオガマサンゴ											+	+	+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	+	+	30	20	10	+							
	多毛綱 (泥棲)						10	70	70	+	10	80	80	70	70	
触手動物門	フサコケムシ科				+											
	コケムシ綱						+	+								
軟体動物門	アラレタマキビ	(120)														
	タマキビ	(3)														
	カラマツガイ		(3)													
	ムラサキイガイ		90	90	100	80	+									
節足動物門	イワフジツボ		+													
棘皮動物門	サンショウウニ					(6)	(1)			(18)	(4)					
	キヒトデ							(2)		(27)	(12)	(16)	(1)			
	イトマキヒトデ									(7)	(3)	(2)				
原索動物門	シロボヤ				+	+	+	+	+							
	ホヤ綱 (単体性)				+	+	+	+								
	ユウレイボヤ属				+	+	+	+								
	エボヤ				+	+	+	+								
	ホヤ綱 (群体性)				+	+	+	+								
	出現種類数 (21)	2	6	4	6	9	11	8	6	6	7	6	3	2	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表3 - 2 - 2 (15) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年8月1日

観察場所		工口岸壁												
		壁面							遊水室					
水深 (m)		+1 ~ ±0	±0 ~ -1	-1 ~ -2	-2 ~ -3	-3 ~ -4	-4 ~ -5	-5 ~ -5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
	腔腸動物門	チゲレイソギンチャク									+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科	+	90	90	80	60	40	10	80	90	20	90	70	+
触手動物門	フサコケムシ科	+	10	20	20	30	30	10	+	10	+	10	20	+
	コケムシ綱				+	10	20	20				+	10	+
	アミコケムシ科					+	+	+						
軟体動物門	ムラサキガイ	70	+											
節足動物門	サンカクフジツボ									+				
棘皮動物門	キヒトデ		(3)	(1)	(4)	(6)	(10)	(2)	rr	r	r	rr	r	rr
	サンショウウニ			(1)		(2)								rr
	イトマキヒトデ					(1)	(1)							rr
	マナマコ					(1)								r
原索動物門	シロボヤ			+	+	+								
	エボヤ			+	+	+	+		+					
	ユウレイボヤ属					+	+	+						
	出現種類数 (14)	3	4	6	6	9	9	7	4	5	4	4	4	6

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

注3: rr = 1 ~ 2個体、r = 3 ~ 10個体、c = 11 ~ 50個体、cc = 51個体以上を示す。

魚類

A．神戸沖処分場

調査地点A - 2では14種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで9種類と最も多かった。水深2 m範囲に個体数が最も多かったのはメジナ、ササノハベラ、ウミタナゴ、スズメダイ、メバル、ネズツポ科およびマダコで、メジナが水深 - 2 ~ 4 mで、ササノハベラが水深 - 2 ~ 6 mで、ウミタナゴとスズメダイが水深 - 4 ~ 6 mで、メバルが水深 - 4 ~ 8 mで、マダコが水深 - 6 ~ 8 mで、ネズツポ科が水深 - 8 ~ 10 mでそれぞれ3 ~ 10個体確認された。

調査地点A - 4では13種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで8種類と最も多かった。個体数で水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 8 mでスズメダイが11 ~ 50個体確認された。

調査地点A - 5では12種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで8種類と最も多かった。水深2 m範囲に個体数が最も多かったのはササノハベラ、キュウセン、ウミタナゴ、メバルおよびマダコで、ササノハベラが水深±0 ~ - 4 m、キュウセンが水深 - 2 ~ 4 m、ウミタナゴとマダコが水深 - 4 ~ 6 m、メバルが水深 - 4 ~ 8 mでそれぞれ3 ~ 10個体確認された。

調査地点A - 7では9種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで6種類と最も多かった。個体数で水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 8 mでハゼ科が11 ~ 50個体確認された。

B．尼崎沖処分場

尼崎沖処分場では、全ての地点で魚類は確認されなかった。

C．大阪沖処分場

調査地点C - 1では4種類が確認され、水深 - 6 ~ 10 mで2種類と最も多かった。個体数で水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 6 ~ 10 mでメバルが11 ~ 50個体確認された。

調査地点C - 2では8種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで5種類と最も多かった。個体数で水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 8 mでメバルが、水深 - 6 ~ 8 mでスズメダイがそれぞれ51個体以上確認された。このほかに水深 - 2 ~ 8 mでキュウセンが11 ~ 50個体確認された。

調査地点C - 3では4種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで3種類と最も多かった。個体数で水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 9 mでキュウセンが51個体以上確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では水深 - 4 ~ 6 mでメバルが1 ~ 2 個体確認されたのみであった。

調査地点D - 2では9 種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで9 種類と最も多かった。個体数で水深 2 m範囲に 11 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 6 mでウミタナゴが 11 ~ 50 個体確認された。

調査地点D - 3では8 種類が確認され、水深 - 6 ~ 8 mで7 種類と最も多かった。水深 2 m範囲に個体数が最も多かったのはメバルとウミタナゴで、メバルが水深 - 2 ~ 4 mと水深 - 6 ~ 8 mで、ウミタナゴが水深 - 2 ~ 8 mでそれぞれ3 ~ 10 個体確認された。

調査地点D - 5では 10 種類が確認され、エコ岸壁の遊水室内で7 種類と最も多かった。観察部位の範囲で 11 個体以上みられた種類を示すと、エコ岸壁の遊水室内と周辺においてメバルとスズメダイが、エコ岸壁の周辺においてマアジがそれぞれ 50 個体以上確認された。このほかに遊水室内と周辺においてウミタナゴが、貫通孔においてメバルがそれぞれ 11 ~ 50 個体確認された。

表3 - 2 - 3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年8月4日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	魚類	メジナ (18~20)		r		
コモンフグ(4)			rr			
アナハゼ (8~10)			rr	rr		
ササノハベラ (8~15)			r	r		
ウミタナゴ(8~12)				r		
アイナメ(30)				rr		
クロダイ(25)				rr		
スズメダイ(7~10)				r		
カサゴ(5)				rr		
メバル(6~8)				r	r	
ネズッコ科(5~7)						r
カレイ科(7)						rr
ハゼ科(8)					rr	
その他	マダコ(15~20)			rr	r	rr
出現種類数(14)		-	4	9	2	4

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3 - 2 - 3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年8月4日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
	魚類	ウミタナゴ(10~12)		r		
イシダイ(20)			rr			
メジナ(15~20)			r			
アイナメ(25~30)			rr	rr		
メバル(8~15)			rr	r		
キュウセン(15~20)			rr	r		rr
ササノハベラ(10~20)			r	r	r	rr
クロダイ(20~25)				r	r	rr
ウマツラハギ(20~25)				r		
アナハゼ(12)				rr		
スズメダイ(8~10)				c	c	r
クジメ(15)						rr
コモンフグ(12)						rr
出現種類数(13)		-	7	8	3	6

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成19年8月4日

種類名		水深(m)	±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10
		基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
魚類	イソギンポ科(4)		rr				
	ササノハベラ(8~10)		r	r			
	キュウセン(6~12)			r	rr		
	クジメ(15)				rr		
	クロダイ(25)				rr		
	アミメハギ(6)				rr		
	ウミタナゴ(8~12)				r		
	メバル(5~8)				r	r	
	カレイ科(8~20)				rr		rr
	アナハゼ(10)					rr	
カサゴ(10)					rr		
その他	マダコ(10~20)			rr	r		
	出現種類数(12)		2	3	8	3	1

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-7)

平成19年8月4日

種類名		水深(m)	±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8
		基質	ブロック	ブロック	小礫 砂	小礫 砂
魚類	イソギンポ科(4)		rr			
	クジメ(20)				rr	
	アナハゼ(10)				rr	
	ネズッコ科(5~10)				r	r
	マダイ(3~6)				rr	rr
	キュウセン(10~12)				r	r
	ハゼ科(4~6)				c	c
カレイ科(5~7)					r	
その他	マダコ(15)			rr		
	出現種類数(9)		1	1	6	5

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 3 - 2 - 3 (5) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年 8 月 6 日

水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6
種類名	ケーソン	ケーソン	ケーソン
出現なし			

表 3 - 2 - 3 (6) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年 8 月 6 日

水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8
種類名	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫
出現なし				

表 3 - 2 - 3 (7) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年 8 月 6 日

水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 5
種類名	ケーソン	ケーソン	ケーソン
出現なし			

表 3 - 2 - 3 (8) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年 8 月 6 日

水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4
種類名	ケーソン	ブロック 巨礫
出現なし		

表3 - 2 - 3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成19年8月11日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
基質		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	ウミタナゴ(10)		r			r
	キュウセン(20)			r		
	クジメ(20~25)				r	
	メバル(6~14)				c	c
出現種類数 (4)		-	1	1	2	2

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3 - 2 - 3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成19年8月11日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
基質		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	クロダイ(30~35)		r			
	スズキ(50~60)		rr			
	キュウセン(17~20)		c	c	c	
	ウミタナゴ(8~12)			r	r	
	メバル(6~14)			cc	cc	
	ササノハベラ(10~17)				r	
	スズメダイ(10~12)				cc	
	クジメ(35)					rr
出現種類数 (8)		-	3	3	5	1

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3 - 2 - 3 (11) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成19年8月11日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	クジメ(15~28)			rr	rr	
	キュウセン(18~21)			cc	cc	cc
	メバル(8~12)				r	
	クロダイ(35)					rr
出現種類数 (4)		-	-	2	3	2

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-1)

平成19年8月1日

水深(m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10	-10~11
種類名		基質					
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
魚類	メバル(7)			rr			
出現種類数(1)		-	-	1	-	-	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-2)

平成19年8月1日

水深(m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10	-10~12	-12~13
種類名		基質						
		ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫大礫
魚類	メバル(8~12)		rr		r	rr	r	
	クロダイ(18~30)			r	r			
	ウミタナゴ(8~12)			c	r			
	アナハゼ(12)				rr			
	キュウセン(8~12)				r			
	スズキ(30)				rr			
	イシダイ(20~25)				r			
	キチヌ(25~30)				rr			
その他	マダコ(15~20)				rr	rr		rr
出現種類数(9)		-	1	2	9	2	1	1

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-3)

平成19年8月1日

水深(m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10	-10~12	-12~13
種類名		基質						
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫泥
魚類	イソギンボ科(5)	rr	rr					
	メバル(6~12)		r		r	rr		
	ウミタナゴ(10~12)			r	r			
	カサゴ(12~15)		rr		rr	rr		
	イシダイ(18)				rr			
	クロダイ(25)				rr			
	クジメ(12~15)				rr	rr		
その他	マダコ(15~20)		rr		rr			
出現種類数(8)		1	5	1	7	3	-	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3(15) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-5)

平成19年8月1日

観察部位		エコ岸壁		
種類名		遊水室内	周辺	貫通孔
		基質		
		ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	イシダイ(5)	rr		
	メバル(5~10)	cc	cc	c
	スズメダイ(8~12)	cc	cc	r
	ウミタナゴ(8~12)	c	c	
	クロダイ(25~30)	rr		
	カサゴ(5)	rr		
	クジメ(12~20)	rr		r
	マアジ(10~12)		cc	
	カレイ科(8)			rr
その他	マダコ(15~20)		r	
出現種類数(10)		7	5	4

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

(2) 枠取り採取および分析

植物の枠取り分析結果を表3 - 2 - 4、動物の枠取り分析結果を表3 - 2 - 5に示した。

植物

1 . 神戸沖処分場 (A - 2)

上層では8種類が出現し、総湿重量 38.22g/0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 19.84g/0.25m² と最も多かった。

中層では9種類が出現し、総湿重量 7.80g/0.25m² であり、緑藻綱のアナアオサが 7.50g/0.25m² と最も多かった。

下層では8種類が出現し、総湿重量 11.15g/0.25m² であり、紅藻綱のムカデノリが 7.31g/0.25m² と最も多かった。

2 . 大阪沖処分場 (C - 2)

上層では4種類が出現し、総湿重量 13.37g/0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 12.51g/0.25m² と最も多かった。

中層では9種類が出現し、総湿重量 173.50g/0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 79.09g/0.25m² と最も多かった。

下層では10種類が出現し、総湿重量は 169.23g/0.25m² であり、紅藻綱のススカケベニが 152.78g/0.25m² と最も多かった。

3 . 泉大津沖処分場 (D - 2)

上層では4種類が出現し、総湿重量は 1.09g/0.25m² であり、珪藻綱が 0.88g/0.25m² と最も多かった。

中層では9種類が出現し、総湿重量は 27.74g/0.25m² であり、紅藻綱のフダラクが 26.63g/0.25m² と最も多かった。

下層では9種類が出現し、総湿重量は 131.10g/0.25m² であり、紅藻綱のツノマタ属が 123.71g/0.25m² と最も多かった。

4 . 泉大津沖処分場 (D - 3)

上層では2種類が出現し、総湿重量は 0.20g/0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 0.18g/0.25m² と多かった。

中層では2種類が出現し、総湿重量は 0.04g/0.25m² であり、紅藻綱のイトグサ属が 0.04g/0.25m² と多かった。

下層では植物は出現しなかった。

表 3 - 2 - 4 粹取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ± 0.0m)	中 (M.W.L. - 2.0m)	下 (M.W.L. - 4.0m)	
神戸沖 A - 2 (8月4日)	出現種類数	8	9	8	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	38.22	7.80	11.15	
	優占種	第1位	ホトアサ 19.84 (52)	アサ 7.50 (96)	ムカヅリ 7.31 (66)
		第2位	シオクサ属 14.97 (39)	ヌルハギモク 0.18 (2)	アサ 1.60 (14)
		第3位	アサ属 1.66 (4)	ヌカハニ 0.05 (1)	フダク 0.92 (8)
大阪沖 C - 2 (8月11日)	出現種類数	4	9	10	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	13.37	173.50	169.23	
	優占種	第1位	ホトアサ 12.51 (94)	フダク 79.09 (46)	ヌカハニ 152.78 (90)
		第2位	Lyngbya sp. 0.57 (4)	アサ 47.64 (27)	シダモク 9.35 (6)
		第3位	アサ属 0.22 (2)	ヌカハニ 45.87 (26)	アサ 5.64 (3)
泉大津沖 D - 2 (8月1日)	出現種類数	4	9	9	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	1.09	27.74	131.10	
	優占種	第1位	珪藻綱 0.88 (81)	フダク 26.63 (96)	ツノクサ属 123.71 (94)
		第2位	アサ属 0.16 (15)	シオクサ属 0.87 (3)	ムカヅリ 6.48 (5)
		第3位	アサ属 0.05 (5)	トクサ属 0.07 (-)	ハニシコク 0.48 (-)
泉大津沖 D - 3 (8月1日)	出現種類数	2	2	0	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.20	0.04	0.00	
	優占種	第1位	ホトアサ 0.18 (90)	トクサ属 0.04 (100)	出現種なし
		第2位	Lyngbya sp. 0.02 (10)	Licmophora sp. + (-)	
		第3位			

注) 表中の+は0.01g未満を示す。また、()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

動物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では 29 種類が出現し、総個体数 1,213 個体/0.25m²、総湿重量 63.52g/0.25m²であった。個体数では節足動物門のユスリカ科幼虫が 684 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のカラマツガイが 58.43g/0.25m²と最も多かった。

中層では 80 種類が出現し、総個体数 9,039 個体/0.25m²、総湿重量 259.74g/0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 1,696 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のレイシガイが 56.35g/0.25m²と最も多かった。

下層では 56 種類が出現し、総個体数 1,086 個体/0.25m²、総湿重量 92.16g/0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 300 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のイトマキヒトデが 59.36g/0.25m²と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では 29 種類が出現し、総個体数 7,731 個体/0.25m²、総湿重量 3,120.22g/0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 7,301 個体/0.25m²、2,880.28g/0.25m²と最も多かった。

中層では 62 種類が出現し、総個体数 1,656 個体/0.25m²、総湿重量 22.12g/0.25m²であった。個体数では節足動物門のマルエラワレカラが 286 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では触手動物門のチゴケムシが 6.12g/0.25m²と最も多かった。

下層では 50 種類が出現し、総個体数 846 個体/0.25m²、総湿重量 21.54g/0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 231 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のコシダカガンガラが 12.32g/0.25m²と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では 30 種類が出現し、総個体数 22,193 個体/0.25m²、総湿重量 7,390.84g/0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 20,743 個体/0.25m²、7,361.28g/0.25m²と最も多かった。

中層では 52 種類が出現し、総個体数 10,235 個体/0.25m²、総湿重量 77.64g/0.25m²であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 8,560 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では腔腸動物門のイソギンチャク目が 30.89g/0.25m²と最も多かった。

下層では 45 種類が出現し、総個体数 564 個体/0.25m²、総湿重量 74.53g/0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 186 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のコシダカガンガラが 31.62g/0.25m²と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では 29 種類が出現し、総個体数 14,271 個体/0.25m²、総湿重量 5,382.17g/0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキイガイがそれぞれ 13,291 個体/0.25m²、湿重量は 5,298.77g/0.25m²と最も多かった。

中層では 53 種類が出現し、総個体数 11,275 個体/0.25m²、総湿重量 6,362.81g/0.25m²であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 3,714 個体/0.25m²と最も多く、湿

重量では軟体動物門のムラサキガイが5,825.47g/0.25m²と最も多かった。

下層では57種類が出現し、総個体数2,078個体/0.25m²、総湿重量229.56g/0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが472個体/0.25m²と最も多く、湿重量では触手動物門のフサコケムシが100.47g/0.25m²と最も多かった。

表3-2-5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ±0.0m)	中 (M.W.L. -2.0m)	下 (M.W.L. -4.0m)
神戸沖 A-2 (8月4日)	出現種類数(種類)	29	80	56
	総個体数 (個体/0.25m ²)	1,213	9,039	1,086
	総湿重量 (g/0.25m ²)	63.52	259.74	92.16
	個体数	第1位 ヌリカ科幼虫 684 (56)	ムササギガイ 1,696 (19)	ムササギガイ 300 (28)
	からみた	第2位 ヒゲナカヨコエビ属 201 (17)	ウエドノクダムシ 1,472 (16)	キヌタガイ 156 (14)
	優占種	第3位 ムササギガイ 195 (16)	イソカネカザシヨガイ 1,144 (13)	Dodecaceria sp. 107 (10)
	湿重量	第1位 ムササギガイ 58.43 (92)	レイガイ 56.35 (22)	イトナヒトデ 59.36 (64)
	からみた	第2位 レイガイ 2.38 (4)	ムササギガイ 44.24 (17)	コシカカシカ 13.16 (14)
	優占種	第3位 ムササギガイ 1.02 (2)	イソカネカザシヨガイ 43.36 (17)	ヒトデ 6.98 (8)
大阪沖 C-2 (8月11日)	出現種類数(種類)	29	62	50
	総個体数 (個体/0.25m ²)	7,731	1,656	846
	総湿重量 (g/0.25m ²)	3,120.22	22.12	21.54
	個体数	第1位 ムササギガイ 7,301 (94)	ヌメカサ 286 (17)	ムササギガイ 231 (27)
	からみた	第2位 アシカゴガイ 121 (2)	トケルカサ 187 (11)	コホソコエビ属 141 (17)
	優占種	第3位 シロマダラシリス 69 (1)	ウミムシ 170 (10)	トケルカサ 85 (10)
	湿重量	第1位 ムササギガイ 2,880.28 (92)	フコケムシ 6.12 (28)	コシカカシカ 12.32 (57)
	からみた	第2位 マカキ 234.03 (8)	ムササギガイ 2.50 (11)	ムササギガイ 2.52 (12)
	優占種	第3位 アシカゴガイ 2.55 (-)	キヌタガイ 2.33 (11)	ヌメカサ 1.82 (8)
泉大津沖 D-2 (8月1日)	出現種類数(種類)	30	52	45
	総個体数 (個体/0.25m ²)	22,193	10,235	564
	総湿重量 (g/0.25m ²)	7,390.84	77.64	74.53
	個体数	第1位 ムササギガイ 20,743 (93)	イソカネカザシヨガイ 8,560 (84)	ムササギガイ 186 (33)
	からみた	第2位 イソキンチャク目 725 (3)	イソキンチャク目 747 (7)	Typosyllis sp. 59 (10)
	優占種	第3位 多岐腸目 141 (1)	ムササギガイ 404 (4)	ヒトデ 43 (8)
	湿重量	第1位 ムササギガイ 7,361.28 (100)	イソキンチャク目 30.89 (40)	コシカカシカ 31.62 (42)
	からみた	第2位 多岐腸目 10.08 (-)	シカカシカ 27.01 (35)	イトナヒトデ 20.34 (27)
	優占種	第3位 イソキンチャク目 7.38 (-)	イソカネカザシヨガイ 5.03 (6)	ヒトデ 7.95 (11)
泉大津沖 D-3 (8月1日)	出現種類数(種類)	29	53	57
	総個体数 (個体/0.25m ²)	14,271	11,275	2,078
	総湿重量 (g/0.25m ²)	5,382.17	6,362.81	229.56
	個体数	第1位 ムササギガイ 13,291 (93)	イソカネカザシヨガイ 3,714 (33)	ムササギガイ 472 (23)
	からみた	第2位 ヌメカサ 243 (2)	ムササギガイ 2,850 (25)	ヨシハモガニ 377 (18)
	優占種	第3位 シロマダラシリス 188 (1)	イソキンチャク目 980 (9)	イソカネカザシヨガイ 278 (13)
	湿重量	第1位 ムササギガイ 5,298.77 (98)	ムササギガイ 5,825.47 (92)	フサコケムシ 100.47 (44)
	からみた	第2位 マカキ 60.98 (1)	イソカネカザシヨガイ 157.54 (2)	イトナヒトデ 27.76 (12)
	優占種	第3位 ヌメカサ 8.48 (-)	レイガイ 81.36 (1)	ウミカサ 17.76 (8)

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

第4章 秋季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成19年11月11日
- (2) 尼崎沖処分場 平成19年11月 2日
- (3) 大阪沖処分場 平成19年11月 3日
- (4) 泉大津沖処分場 平成19年11月 1日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表4-1-1に示した。

天気・雲量・気温

- A. 神戸沖では天気は曇り～晴、雲量は6～10、気温は18.0～18.8であった。
- B. 尼崎沖では天気は曇り～晴、雲量は6～9、気温は14.8～16.6であった。
- C. 大阪沖では天気は晴、雲量は2～3、気温は14.8～19.0であった。
- D. 泉大津沖では天気は雨、雲量は10、気温は17.4～18.2であった。

風浪階級・風向・風速

- A. 神戸沖では風浪階級は1～2、風速は5.2～6.4m/s、風向は西から北西であった。
- B. 尼崎沖では風浪階級は1、風速は1.2～3.3m/s、風向は北西から北であった。
- C. 大阪沖では風浪階級は1、風速は1.6～3.3m/s、風向は北東から東であった。
- D. 泉大津沖では風浪階級は1、風速は1.7～2.5m/s、風向は南東であった。

透明度・水色

- A. 神戸沖では透明度は4.5～6.1m、水色は調査地点A-2、7でボトルグリーン、調査地点A-4、5で黒緑であった。
- B. 尼崎沖では透明度は3.1～3.6m、水色は全地点とも黒緑であった。
- C. 大阪沖では透明度は3.2～8.5m、水色は調査地点C-1、3でボトルグリーン、調査地点C-2でオリーブグリーンであった。
- D. 泉大津沖では透明度は2.8～3.1m、水色は2地点ともボトルグリーンであった。

表 4 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (11月11日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7	
	調査時間	11:35~12:55	8:40~9:22	9:49~10:35	10:45~11:25	
	天気・雲量	晴・6	曇り・10	曇り・9	曇り・8	
	気温	18.8	18.4	18.0	18.0	
	風浪階級	1	1	2	1	
	風速・風向	5.4m/s・北西	6.4m/s・西	5.2m/s・西	5.7m/s・西	
	透明度	6.1m	4.7m	4.6m	4.5m	
	水色	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	黒緑 3G 2.0/1.5	黒緑 3G 2.0/1.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	
水深	17.0m	17.5m	11.9m	10.6m		
尼崎沖 (11月2日)	調査地点	B - 1	B - 2	B - 5	B - 6	B - 7
	調査時間	9:38~9:55	8:25~8:50	10:35~11:02	8:58~9:21	10:05~10:28
	天気・雲量	曇り・9	曇り・9	晴・6	曇り・9	晴・7
	気温	15.2	14.8	16.6	14.8	15.4
	風浪階級	1	1	1	1	1
	風速・風向	3.3m/s・北西	1.4m/s・北西	2.0m/s・北西	2.3m/s・北	1.2m/s・北
	透明度	3.5m	3.1m	3.3m	3.6m	3.1m
	水色	黒緑 3G 2.0/1.5	黒緑 3G 2.0/1.5	黒緑 3G 2.0/1.5	黒緑 3G 2.0/1.5	黒緑 3G 2.0/1.5
水深	6.6m	5.6m	14.0m	8.3m	6.6m	
大阪沖 (11月3日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3		
	調査時間	11:10~12:00	9:52~11:04	9:00~9:45		
	天気・雲量	晴・3	晴・3	晴・2		
	気温	19.0	15.8	14.8		
	風浪階級	1	1	1		
	風速・風向	1.6m/s・東	2.4m/s・東	3.3m/s・北東		
	透明度	3.8m	3.2m	8.5m		
	水色	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0	ホトケグリー 3G 3.0/4.5		
水深	13.2m	15.6m	9.6m			
泉大津沖 (11月1日)	調査地点	D - 1	D - 2			
	調査時間	9:05~9:25	11:26~11:45			
	天気・雲量	雨・10	雨・10			
	気温	17.4	18.2			
	風浪階級	1	1			
	風速・風向	1.7m/s・南東	2.5m/s・南東			
	透明度	2.8m	3.1m			
	水色	ホトケグリー 3G 3.0/4.5	ホトケグリー 3G 3.0/4.5			
水深	13.8m	12.8m				

(2) 機器測定

水質測定結果の概要を表4-1-2、図4-1-1、鉛直分布図を図4-1-2に示した。

水温

- A . 神戸沖の水温は 19.1~20.9 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけてわずかに上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖の水温は 20.5~23.0 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて徐々に上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- C . 大阪沖では 17.7~22.4 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて上昇した。このうち、調査地点C - 1では水深±0 ~ -0.5mに、調査地点C - 2では水深 - 9 ~ 10mに水温が著しく上昇する躍層がみられた。地点間で比較すると、調査地点C - 1で水温の変化の範囲が大きかった。
- D . 泉大津沖では 21.4~22.7 の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけてわずかに上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

塩分

- A . 神戸沖では 31.3~32.4 の範囲を示し、4 地点とも概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 29.2~32.4 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- C . 大阪沖では 28.0~32.6 の範囲を示し、調査地点C - 1では水深±0 ~ -0.5mに、調査地点C - 2では水深 - 9 ~ 10mに塩分が著しく高くなる躍層がみられた。一方で、調査地点C - 3では概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点C - 1で塩分の変化の範囲が大きかった。
- D . 泉大津沖では 32.2~32.9 の範囲を示し、2 地点とも概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

DO

- A . 神戸沖では 4.8~8.3mg/L の範囲を示し、調査地点 A - 2、4、7 では表層から底層にかけて徐々に低くなったが、調査地点 A - 5 では概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点 A - 5 では DO の変化の範囲が小さかった。
- B . 尼崎沖では 1.2~6.1mg/L の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて低くなった。地点間で比較すると、水深が深い調査地点 B - 5 で変化の範囲が大きく、水深 - 9 m の DO は 1.2 mg/L と低かった。
- C . 大阪沖では 4.0~7.4mg/L の範囲を示し、調査地点 C - 1、2 では表層から底層にかけて徐々に低くなったが、調査地点 C - 3 では概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点 C - 3 では DO の変化の範囲が小さかった。
- D . 泉大津沖では 3.8~5.9mg/L の範囲を示し、調査地点 D - 1 では概ね鉛直混合していたが、調査地点 D - 2 では表層から底層にかけて徐々に低くなった。

光量

- A . 神戸沖では光量子束密度は $0.7 \sim 1,245.0 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 A - 5 では水深 - 8 m で、調査地点 A - 2、4 では水深 - 12 m で相対光量が 1 % 以下となったが、調査地点 A - 7 では底層でも 2.4% と高かった。
- B . 尼崎沖では光量子束密度は $1.4 \sim 883.5 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。水深の深かった調査地点 B - 5 では水深 - 10m で相対光量が 1 % 以下となったが、その他の地点では底層でも 1 % 以上であった。鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- C . 大阪沖では光量子束密度は $1.7 \sim 1,549.0 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 C - 2 では水深 - 8 m、調査地点 C - 1 では水深 - 9 m で相対光量が 1 % 以下となったが、調査地点 C - 3 では底層でも 25.9% と非常に高かった。
- D . 泉大津沖では光量子束密度は $0.4 \sim 78.5 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 D - 2 では水深 - 9 m、調査地点 D - 1 では水深 - 11m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。

表 4 - 1 - 2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 ()	塩分 (-)	DO (mg/L)	相对光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A - 2	19.1 ~ 20.8	31.3 ~ 32.1	5.1 ~ 8.3	0.3 ~ 95.6	3.5 ~ 1,245.0
	A - 4	19.9 ~ 20.9	31.3 ~ 32.4	5.7 ~ 7.8	0.4 ~ 73.5	0.7 ~ 121.7
	A - 5	19.6 ~ 20.0	31.6 ~ 31.8	7.9 ~ 8.3	0.5 ~ 97.0	1.4 ~ 292.0
	A - 7	19.7 ~ 20.5	31.4 ~ 31.8	4.8 ~ 7.4	2.4 ~ 61.4	24.1 ~ 608.4
尼崎沖	B - 1	20.5 ~ 22.6	29.5 ~ 31.8	2.5 ~ 5.5	4.8 ~ 63.5	15.2 ~ 199.9
	B - 2	21.4 ~ 22.1	29.8 ~ 31.3	3.6 ~ 5.2	5.9 ~ 52.1	8.0 ~ 70.5
	B - 5	20.5 ~ 23.0	29.2 ~ 32.4	1.2 ~ 6.1	0.4 ~ 58.7	1.4 ~ 188.7
	B - 6	21.2 ~ 22.7	30.3 ~ 31.9	2.8 ~ 5.7	2.3 ~ 66.2	3.3 ~ 95.6
	B - 7	20.9 ~ 22.1	29.6 ~ 31.0	2.9 ~ 4.5	1.4 ~ 63.0	19.4 ~ 883.5
大阪沖	C - 1	17.7 ~ 22.4	28.0 ~ 32.4	4.0 ~ 6.4	0.4 ~ 92.2	6.8 ~ 1,549.0
	C - 2	20.1 ~ 22.3	30.4 ~ 32.6	5.0 ~ 7.4	0.1 ~ 66.1	1.7 ~ 1,112.4
	C - 3	20.1 ~ 21.0	31.1 ~ 31.8	4.2 ~ 5.2	25.9 ~ 88.7	26.2 ~ 89.7
泉大津沖	D - 1	21.7 ~ 22.4	32.2 ~ 32.5	4.2 ~ 4.8	0.8 ~ 79.8	0.4 ~ 40.9
	D - 2	21.4 ~ 22.7	32.2 ~ 32.9	3.8 ~ 5.9	0.8 ~ 86.6	0.7 ~ 78.5

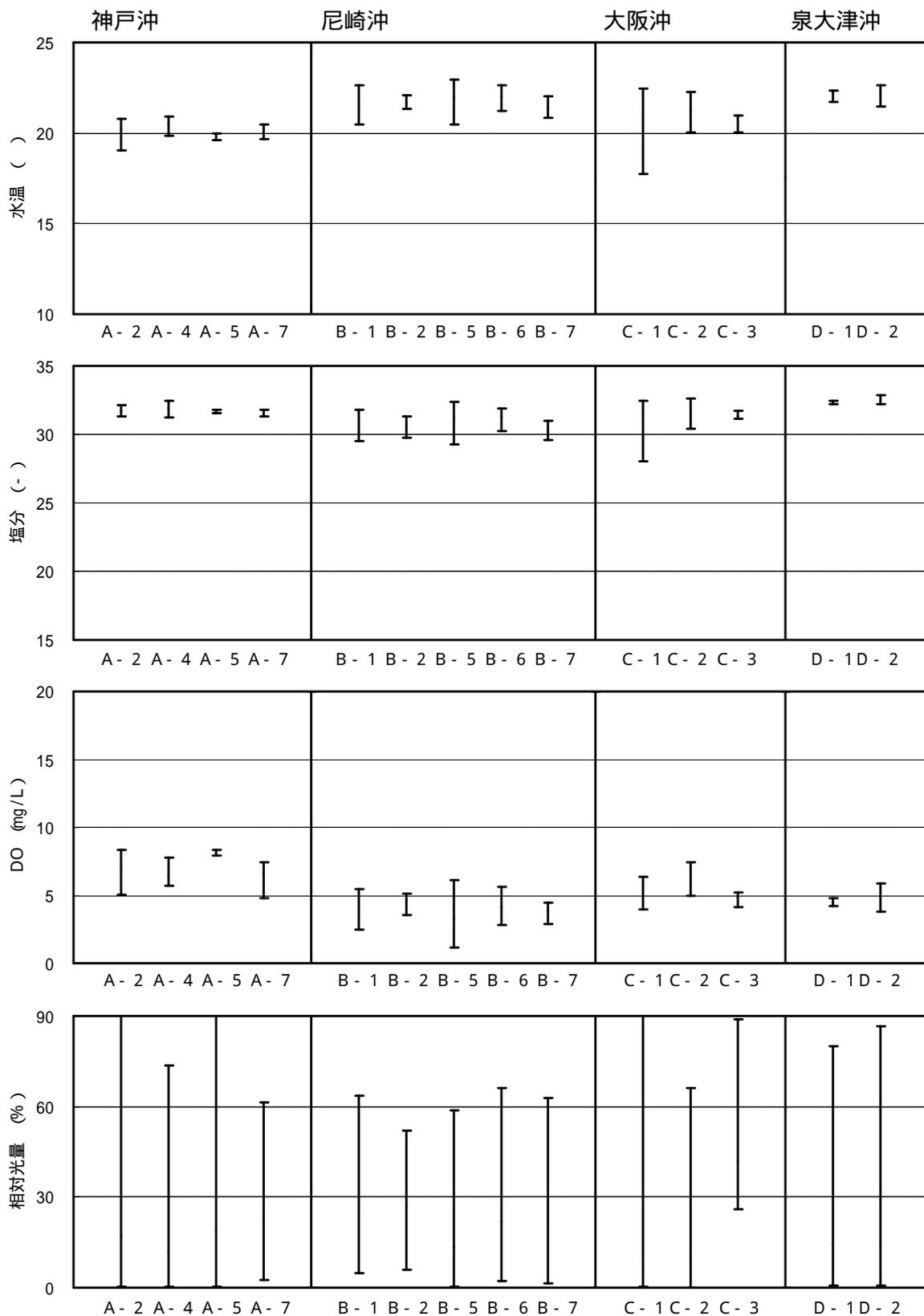
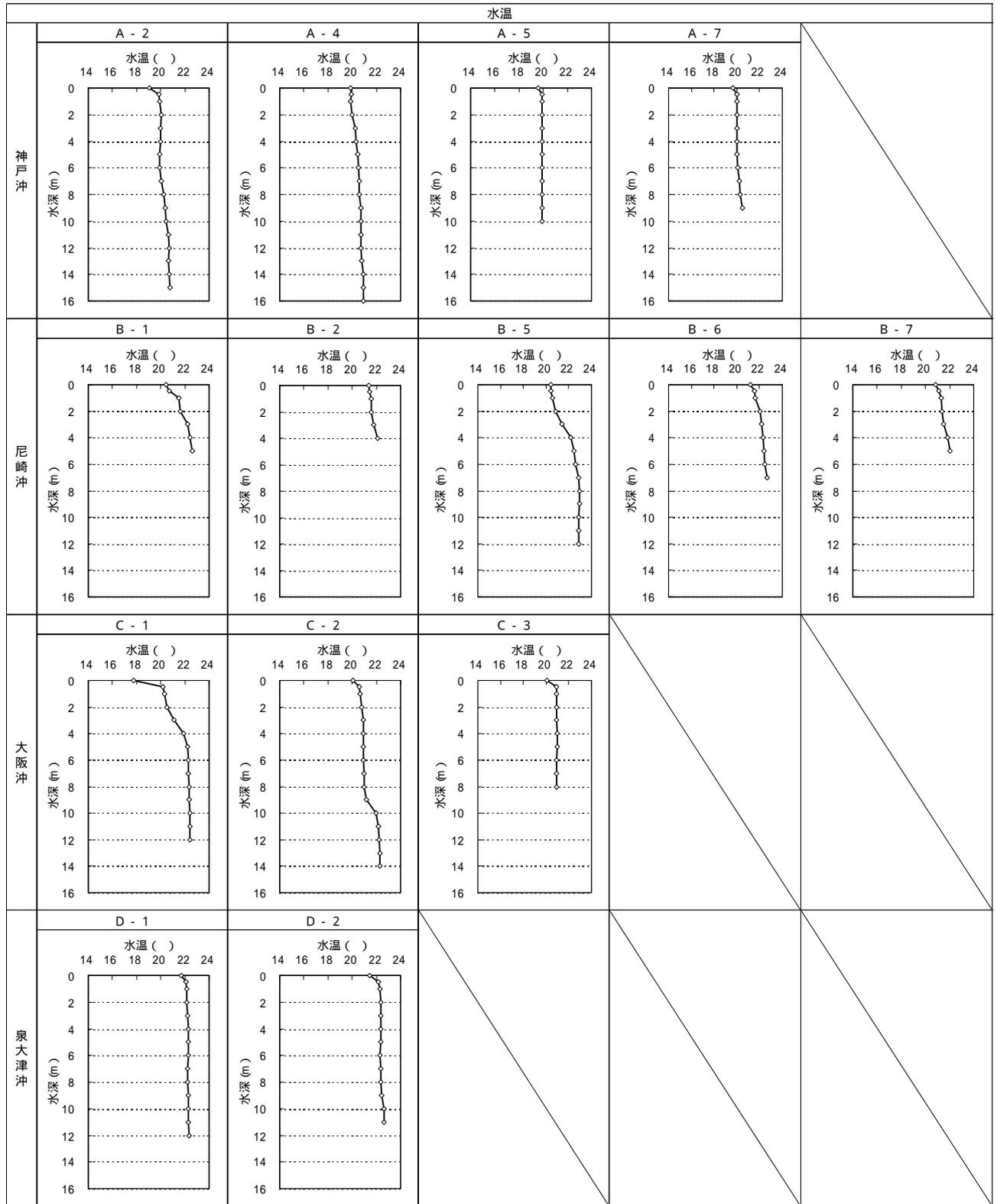


図 4 - 1 - 1 水質測定結果概要図





4 - 1 - 2 (1) 鉛直分布図 (水温)

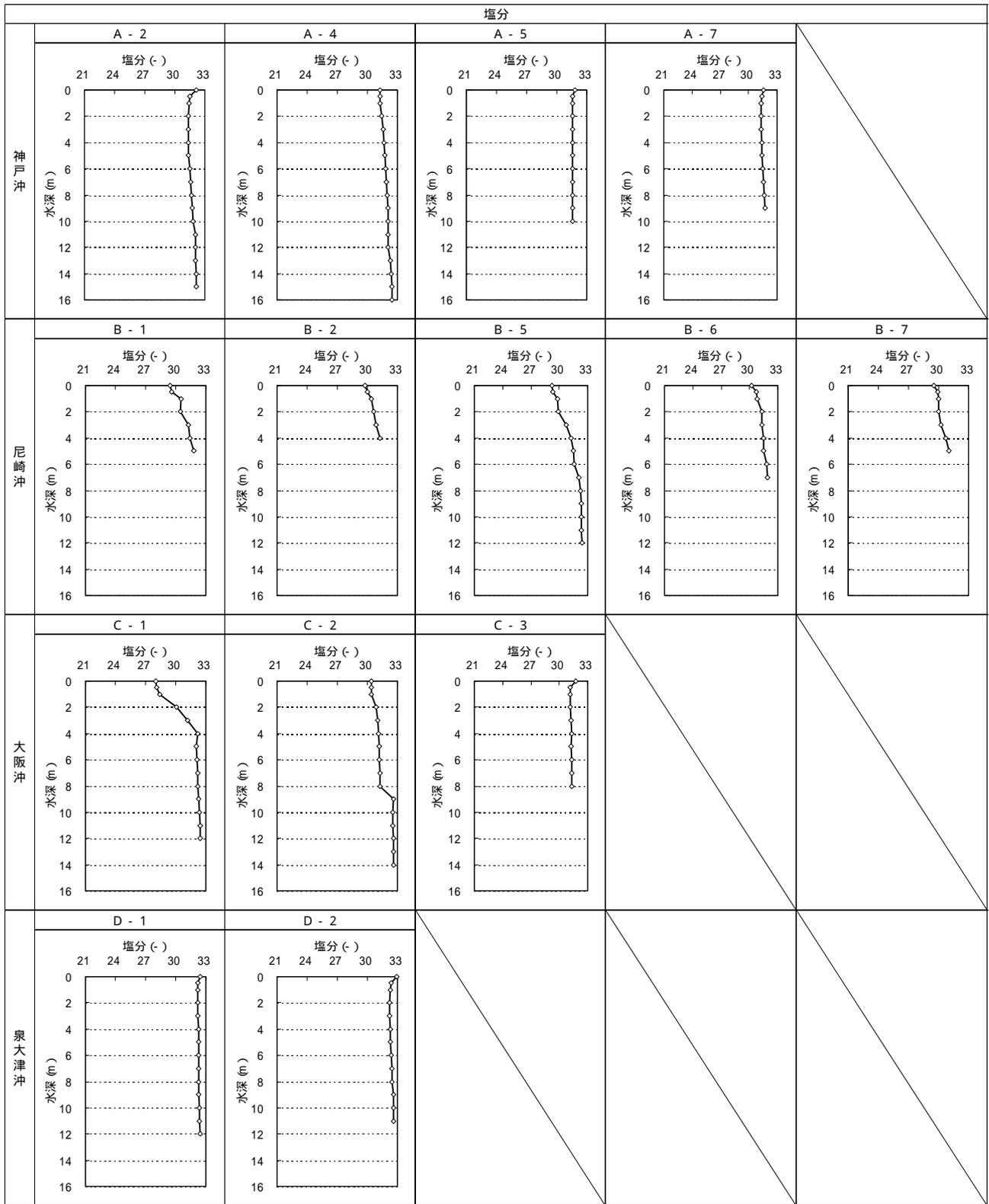


図4 - 1 - 2 (2) 鉛直分布図 (塩分)

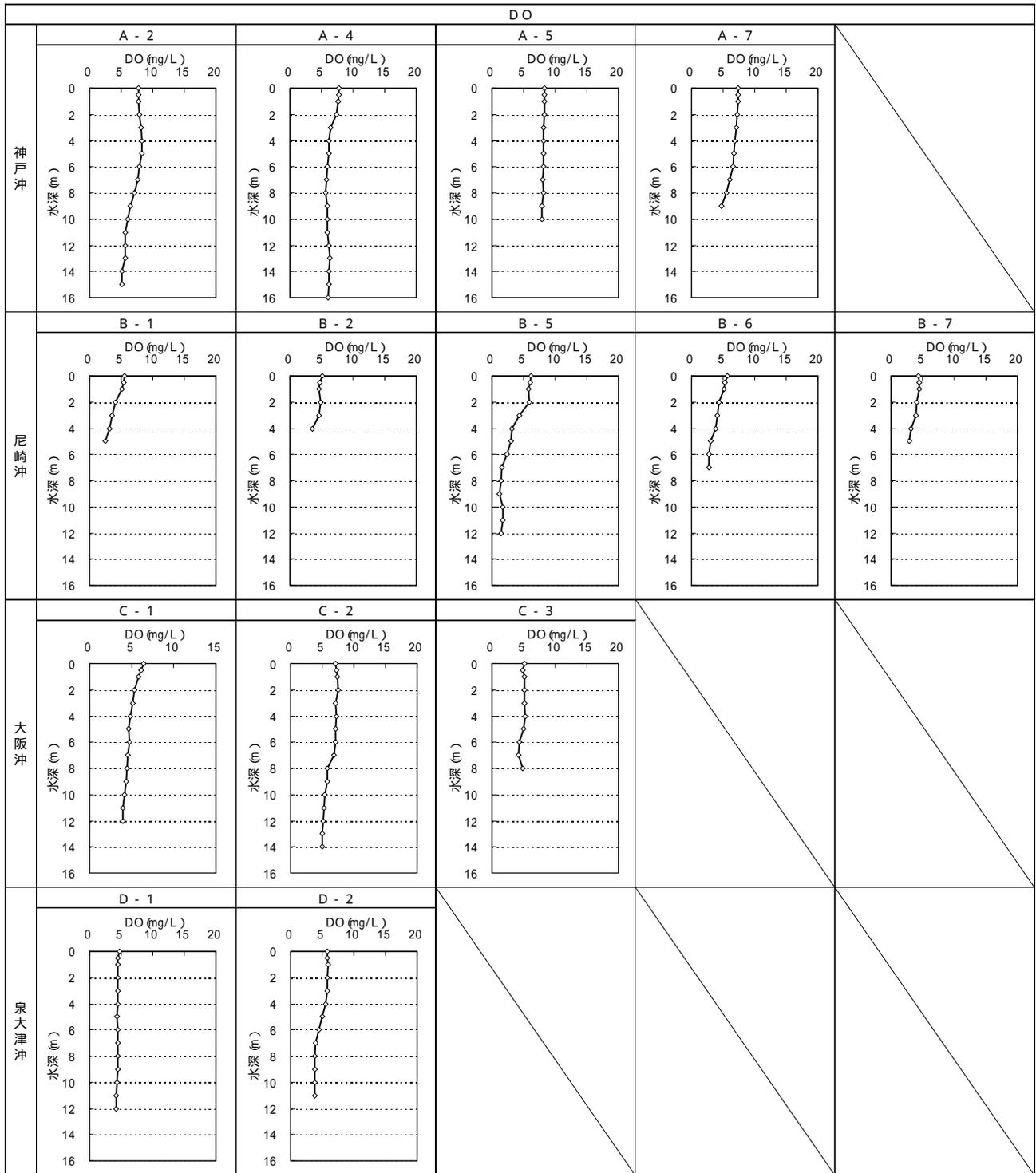


図4 - 1 - 2 (3) 鉛直分布図 (DO)

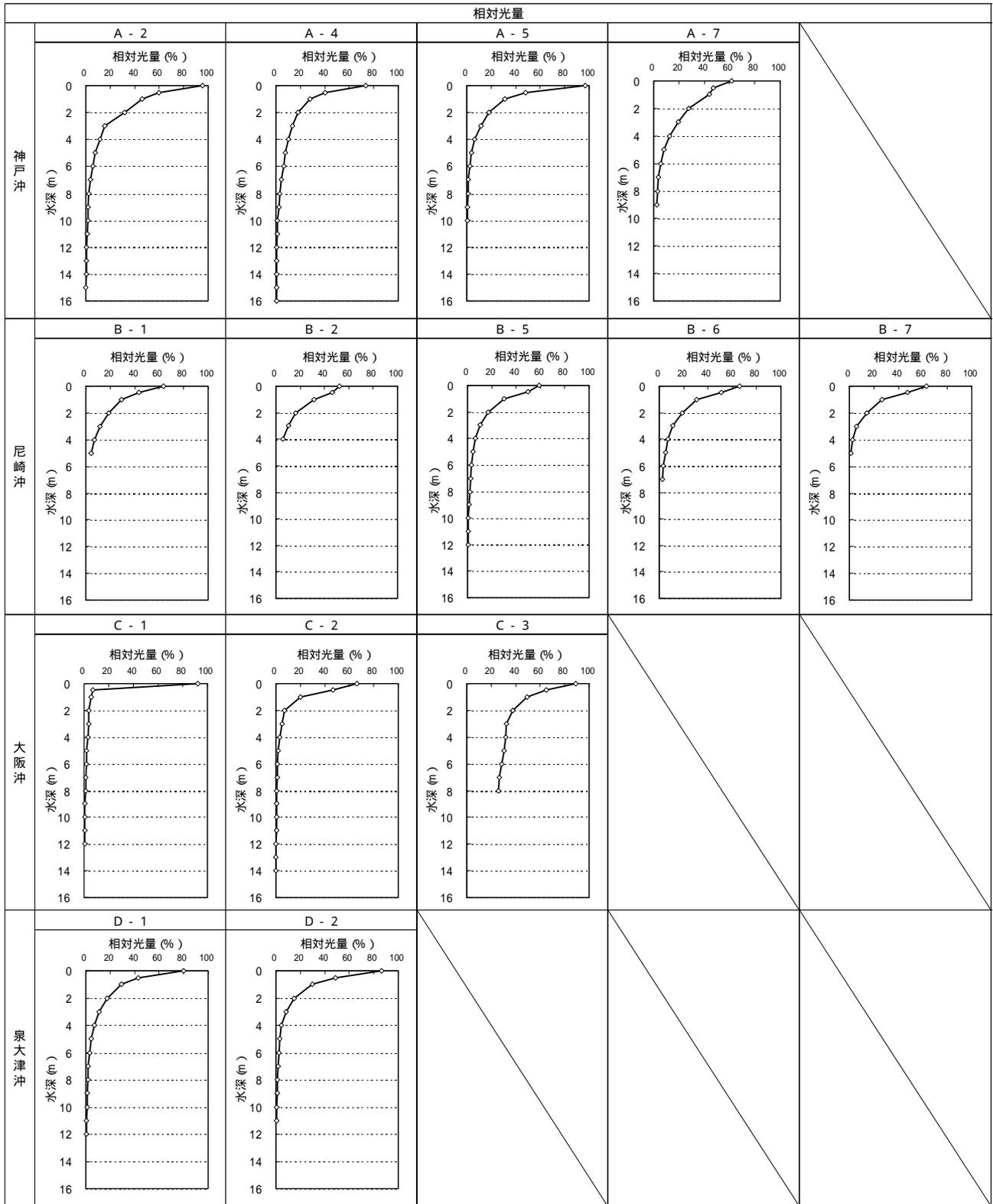


図4 - 1 - 2 (4) 鉛直分布図 (相对光量)

3. 生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表4-2-1、動物の目視観察の結果を表4-2-2、魚類の目視観察の結果を表4-2-3に示した。

植物

A. 神戸沖処分場

調査地点A-2では、植物は水深+1～-5mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは水深-2m、-4mおよび水深-5mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0～-1mで緑藻綱のアオサ属が30～80%であった。この他に、藻場構成種として、水深-2mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点A-4では、植物は水深±0～-6mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0mで4種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0mで緑藻綱のアオサ属が40%であった。

調査地点A-5では、植物は水深±0～-2mと水深-4～5mに分布し、5種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点A-7では、植物は水深±0～-1mと水深-4～5mに分布し、4種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0mで緑藻綱のアオサ属が50%であった。

B. 尼崎沖処分場

調査地点B-1、6では、植物は確認されなかった。

調査地点B-2では、植物は水深±0mと水深-2mに分布し、2種類が確認された。種類数はいずれの水深も1種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点B-7では、植物は水深-1～3mに分布し、3種類が確認された。種類数が多かったのは水深-1mで2種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

C . 大阪沖処分場

調査地点C - 1では、植物は水深±0 ~ - 4 mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで6種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。藻場構成種として、水深 - 3 mで褐藻綱のシダモクが被度5 ~ 10%で、水深 - 3 ~ 4 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点C - 2では、植物は水深±0 ~ - 7 mに分布し、6種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 ~ 5 mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 mで緑藻綱のアオサ属が75%であった。この他に、藻場構成種として、水深 - 3 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%未満で、水深 - 4 mで褐藻綱のシダモクが被度5%で確認された。

調査地点C - 3では、植物は水深±0 ~ - 8 mに分布し、4種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、植物は水深±0 mのみに分布し、3種類が確認された。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のアオサ属が30%であった。

調査地点D - 2では、植物は水深±0 ~ - 4 mと水深 - 6 ~ 7 mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mで5種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 ~ - 2 mで珪藻綱が30 ~ 60%、水深 - 1 mで緑藻綱のミルが30%であった。

調査地点D - 3では、植物は水深±0 ~ - 2 mと水深 - 7 ~ 8 mに分布し、8種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで4種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで珪藻綱が60%であった。

調査地点D - 5では、植物はエコ岸壁の壁面の水深+1 ~ ±0 mのみに分布し、緑藻綱のアオサ属が被度10%で確認されたのみであった。遊水室内では、上室、下室ともに植物は確認されなかった。

表 4 - 2 - 1 (1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年11月11日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
緑藻綱	アオサ属	+	80	30	10	10	+	+				
褐藻綱	タマハハキモク				+							
紅藻綱	フダラク			+								
	イギス科				20	10	+	+				
	イワノカワ科						+	+				
藍藻綱	藍藻綱	+										
珪藻綱	珪藻綱		+									
出現種類数 (7)	2	2	2	3	2	3	3	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年11月11日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
緑藻綱	アオサ属		40	10	+	+						
	シオグサ属		+									
紅藻綱	フダラク		+	+	+							
	イギス科				+	+						
	カバノリ						+	+				
	サビ亜科							10	+			
藍藻綱	藍藻綱		20									
出現種類数 (7)	-	4	2	3	2	1	2	2	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年11月11日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
緑藻綱	アオサ属		20	+	+							
	シオグサ属		+	+	+							
紅藻綱	イギス科					+	+					
	イワノカワ科					+						
藍藻綱	藍藻綱		+									
出現種類数 (5)	-	3	2	2	-	2	1	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成19年11月11日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
緑藻綱	アオサ属	50	+			+				
紅藻綱	イギス科					+	+			
藍藻綱	藍藻綱	10								
珪藻綱	珪藻綱	+								
出現種類数 (4)	-	3	1	-	-	2	1	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (5) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年11月2日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	基質							
	ケーソン							
出現なし								

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (6) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年11月2日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属									
紅藻綱	イギス科									
出現種類数 (2)	-	1	-	+	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (7) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年11月2日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質						
	ケーソン						
出現なし							

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (8) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年11月2日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質					
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
緑藻綱	シオグサ属					
紅藻綱	イギス科					
藍藻綱	藍藻綱					
出現種類数 (3)	-	-	2	1	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

観察枠 No.		平成19年11月3日													
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫								
緑藻綱	アオサ属		+	+			+								
	シオグサ属						+								
褐藻綱	シダモク						5	10							
	タマハハキモク						+		+						
紅藻綱	イギス科				5		+	10							
	イワノカワ科						+								
藍藻綱	藍藻綱					15									
出現種類数 (7)		-	1	1	1	1	6	2	1	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

観察枠 No.		平成19年11月3日											
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫							
緑藻綱	ポタンアオサ		15										
	アオサ属			75	+		+	+					
褐藻綱	タマハハキモク					+							
	シダモク						5						
紅藻綱	イギス科					+	+	+	+				
	イワノカワ科					+		+		+			
出現種類数 (6)		-	1	1	1	3	3	3	1	1	-	-	-

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

注 2：ポタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表 4 - 2 - 1 (11) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

観察枠 No.		平成19年11月3日										
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		+		5	5		+				
	シオグサ属			20	+		+					
紅藻綱	イギス科					+		+	5	+		
	イワノカワ科						+	+			+	
出現種類数 (4)		-	1	1	2	2	2	3	1	1	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成19年11月1日													
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質												
	ケ-ソン	泥											
緑藻綱	アオサ属	30											
	アオリ属	+											
珪藻綱	珪藻綱	+											
出現種類数 (3)		-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成19年11月1日															
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属	10	10												
	アオリ属	+													
	ミル		30												
紅藻綱	シオグサ属	+													
	イギス科		+												
	カバノリ						+		+						
	サビ亜科							+							
珪藻綱	珪藻綱	60	40	30	+										
	出現種類数 (9)	-	3	5	1	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成19年11月1日															
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属	10													
	アオリ属	+													
	シオグサ属	+													
紅藻綱	イギス科		+												
	イワノカワ科								+	+					
	カバノリ								+	+					
藍藻綱	藍藻綱	+													
珪藻綱	珪藻綱	60	10	+											
	出現種類数 (8)	-	4	3	1	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。

表 4 - 2 - 1 (15) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年11月1日														
観察場所	エコ岸壁													
	壁面							遊水室						
水深 (m)	+1 ~ ±0	±0 ~ -1	-1 ~ -2	-2 ~ -3	-3 ~ -4	-4 ~ -5	-5 ~ -5.5	上室			下室			
種類名	基質または部位							上面	側面	下面	上面	側面	下面	
	網	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン	ケ-ソン							
緑藻綱	アオサ属	10												
出現種類数 (1)		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5% 未満を示す。

動物

A．神戸沖処分場

調査地点 A - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 + 1 m で節足動物門のイワフジツボが 40%、水深 - 1 ~ 2 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30 ~ 70%、水深 - 4 ~ 5 m で節足動物門のサンカクフジツボが 80% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のイボニシが 54 個体確認された。

調査地点 A - 4 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 ~ 2 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 30 ~ 70%、水深 - 1 ~ 4 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30 ~ 90% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビとタマキビがそれぞれ 126 個体と 16 個体、水深 ± 0 m で節足動物門のヤドカリ科が 12 個体確認された。

調査地点 A - 5 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、25 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 ± 0 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 30%、水深 - 1 ~ 3 m と環形動物門のカンザシゴカイ科が 80 ~ 90%、水深 - 4 m で節足動物門のサンカクフジツボが 30% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 18 個体、水深 ± 0 m で軟体動物門のレイシガイが 21 個体確認された。

調査地点 A - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、19 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 10 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 2 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 50 ~ 60%、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 40 ~ 100% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 31 個体、水深 - 1 m で軟体動物門のイボニシが 11 個体確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点 B - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 6 m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 ± 0 ~ - 1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイとマガキがそれぞれ 50% と 40%、水深 - 1 m で節足動物門の Balanus 属が 60%、水深 - 5 ~ 6 m で環形動物門多毛綱（泥巣）が 30% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 18 個体確認された。

調査地点 B - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 m で節足動物門のフジツボ属が 35%、水深 - 3 ~ 4 m で腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 30 ~ 35% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 25 個体確認された。

調査地点 B - 6 では、動物は水深 + 1 ~ - 5 m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 7 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 65%、水深 - 1 m で腔腸動物門のチグレインソギンチャクが 35%、水深 - 3 ~ 5 m で環形動物門多毛綱（泥巣）が 45 ~ 65% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 24 個体確認された。

調査地点 B - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 4 m に分布し、12 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 ± 0 ~ - 1 m で 5 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門多毛綱（泥巣）が 85 ~ 90% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 3 個体確認された。

C . 大阪沖処分場

調査地点 C - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 60 ~ 95% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 11 個体確認された。

調査地点 C - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、20 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m と水深 - 6 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 75%、水深 - 4 ~ 6 m で節足動物門のサンカクフジツボが 45 ~ 95% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のタマキビが 83 個体確認された。

調査地点 C - 3 では、動物は水深 ± 0 ~ - 9 m に分布し、20 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 ~ 3 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 6 m で節足動物門のサンカクフジツボが 30% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のヨメガカサで、水深 + 1 m で 8 個体確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、動物は水深 + 1 ~ - 10mに分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 ~ 3 mで8種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 mで原索動物門のシロボヤが30%、水深 - 2 ~ 6 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30~50%、水深 - 5 ~ 10mで環形動物門多毛綱（泥巢）が30~80%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが28個体、水深 ± 0 mで軟体動物門のイボニシが22個体確認された。

調査地点D - 2では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、19 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 + 1 mで7種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 3 ~ 12mで環形動物門多毛綱（泥巢）が60~80%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビとカモガイがそれぞれ38個体と11個体確認された。

調査地点D - 3では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 mで7種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 4 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30~50%、水深 - 4 ~ 8 mで環形動物門多毛綱（泥巢）が30%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが60個体確認された。

調査地点D - 5では、動物は水深 + 1 ~ - 5.5mに分布し、11 種類が確認された。種類数は壁面で11種類、遊水室内では上室において8種類、下室において5種類で、種類数が多かったのは壁面の水深 ± 0 ~ - 1 mと水深 - 2 ~ 3 mで8種類であった。エコ岸壁において被度 30%以上でみられた種類を示すと、壁面の水深 ± 0 ~ - 4 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が40~80%、壁面の水深 - 3 ~ 5.5mで環形動物門多毛綱（泥巢）が50~80%、上室の上面で原索動物門のシロボヤが50%、上室の側面、下室の上面及び側面で環形動物門のカンザシゴカイ科で30%~40%、下室の側面で環形動物門多毛綱（泥巢）が30%であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは棘皮動物門のイトマキヒトデで水深4~5 mと水深5~5.5mでそれぞれ1個体確認された。なお、遊水室内では計数の対象となる種類は出現しなかった。

表 4 - 2 - 2 (1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年11月11日												
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
腔腸動物門		+										
ヒドロ虫綱												
チギレイソギンチャク			+									
ハナギンチャク科												+
環形動物門				30	70	20	+	+				
カンザシゴカイ科												
多毛綱 (泥巢)						+	+	+	+	+	+	
触手動物門				+								
コケムシ綱				10	+							
フサコケムシ科												
軟体動物門		+										
ケガキ		(54)	(4)									
イボニシ			(3)	(2)	(2)	(4)	(9)					
レイシガイ						(1)						
環眼目						(1)	(1)					
節足動物門												
イワフジツボ	40											
ヤドカリ科		(2)	(1)									
サンカクフジツボ			+	+	20	80	80	10	+			
棘皮動物門			(5)		(1)			(2)	(2)	(3)		
イトマキヒトデ					(3)			(6)	(2)	(3)		
キヒトデ												
原索動物門				+	+							
ホヤ綱 (群体性)												
出現種類数 (18)	3	4	9	5	8	5	5	5	3	2	1	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年11月11日												
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
腔腸動物門												
チギレイソギンチャク		10	70	30	40	10	10	+	+			
ハナギンチャク科												+
環形動物門		+	50	90	80	30						
カンザシゴカイ科						10	10	10	10	+	+	
多毛綱 (泥巢)												
触手動物門		+	+	+								
コケムシ綱												
フサコケムシ科												
軟体動物門												
アラレタマキビ	(126)											
カモガイ	(2)											
タマキビ	(16)											
イボニシ		(8)										
レイシガイ			(1)		(1)							
ミドリイガイ					+							
キクザルガイ科												
節足動物門	+									+		
イワフジツボ												
ヤドカリ科		(12)	(2)	(3)		(1)						
棘皮動物門					(1)							
イトマキヒトデ						10						
原索動物門		+	+	+		10		+				
ホヤ綱 (群体性)												
出現種類数 (17)	4	6	7	7	5	5	2	3	3	1	1	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年11月11日												
観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
腔腸動物門												
ヒドロ虫綱												
タデジマイソギンチャク			+									
チギレイソギンチャク		5										
イソギンチャク目			30	20	10							
シオガマサンゴ			+									
ハナギンチャク科												
環形動物門				90	90	80	+	+				
カンザシゴカイ科												
ミスヒキゴカイ科												
触手動物門				+	+	+						
コケムシ綱				10	10	+						
フサコケムシ科												
軟体動物門												
アラレタマキビ	(18)											
カモガイ	(3)											
ミドリイガイ			+									
イボニシ			(3)									
レイシガイ			(21)	(2)								
ケガキ			+									
カモガイ												
シマメノウフネガイ						(1)						
節足動物門												
イワフジツボ	+	+										
ヤドカリ科		(2)										
サンカクフジツボ						30	20	+				
棘皮動物門					(1)	(2)	(3)	(1)	(1)		(1)	
サンショウウニ												
キヒトデ												
原索動物門					+	+						
ホヤ綱 (群体性)												
シロボヤ					+							
出現種類数 (25)	3	8	6	6	7	5	4	5	3	2	2	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

		平成19年11月11日									
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
	腔腸動物門	ヒドロ虫綱		+							
	タテジマイソギンチャク		5								
	チギレイソギンチャク		+	60	50	+					
	ハナギンチャク科										+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	40	100	100	+	+			
	多毛綱 (泥巢)										
触手動物門	フサコケムシ科			+	+						
	コケムシ綱			+	+	+					
軟体動物門	カモガイ	(3)									
	アラレタマキビ	(31)									
	イボニシ		(5)	(11)							
	ミドリイガイ			+	+						
	レイシガイ			(2)	(4)						
	シマメノウフネガイ						+	+			
節足動物門	サンカクフジツボ		+	+	+	+	20	+	+		
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(3)	(4)	(6)	(1)	(2)	(1)	(1)	
	サンショウウニ					(2)	(1)				
	キヒトデ						(4)	(1)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)			+	+	+					
	出現種類数 (19)	2	6	10	9	7	7	5	2	1	1

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (5) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

		平成19年11月2日								
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		5	+	+				
	チギレイソギンチャク		+	15	15	10	+	+	+	
	ヒドロ虫綱						+			
	イソギンチャク目							+		
環形動物門	多毛綱 (泥巢)			+	15	10	25	30	30	
	カンザシゴカイ科				10	+	+	+	+	
触手動物門	コケムシ綱					+				
軟体動物門	アラレタマキビ	(18)								
	コウロエンカワヒバリガイ		50							
	マガキ		40							
	ミドリイガイ		+	15	15					
	イボニシ		(3)							
節足動物門	イワフジツボ		+							
	Balanus 属			60	25					
原索動物門	スチエラ科			+						
	マンハッタンボヤ			+		10	+			
	出現種類数 (16)	1	7	7	6	5	5	4	3	

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (6) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

		平成19年11月2日										
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+							
	チギレイソギンチャク			10	5	35	30	+				
	ヒドロ虫綱			+					+			
	イソギンチャク目									+		
	シオガマサンゴ									+		
環形動物門	多毛綱 (泥巢)			10	15	15	20	20	5	+	5	
	カンザシゴカイ科				5	+	+					
	ミスヒキゴカイ科					+	+					
軟体動物門	アラレタマキビ	(25)										
	マガキ		15									
	ミドリイガイ		+	10	+	+						
	コウロエンカワヒバリガイ		15									
	イボニシ		(6)									
節足動物門	イワフジツボ	+	+									
	Balanus 属			35	5							
原索動物門	スチエラ科			+								
	マンハッタンボヤ								+			
	出現種類数 (17)	2	6	7	6	4	4	2	3	3	1	

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (7) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年11月2日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+			+	
	チギレイソギンチャク			35	10		+	+
	ヒドロ虫綱						+	
	イソギンチャク目							+
環形動物門	多毛綱 (泥巢)			5	10	45	60	65
	カンザシゴカイ科				15	+	+	+
触手動物門	コケムシ綱							+
軟体動物門	アラレタマキビ	(24)						
	コウロエンカワヒバリガイ		65	+				
	ミドリイガイ		5	25	5			
	マガキ		+					
節足動物門	Balanus属		+	5				
	イワフジツボ		+	5				
原索動物門	シロボヤ			10		+		
	カタコウレイボヤ					+		
	マンハッタンボヤ					5		
	出現種類数 (16)	1	6	7	6	5	4	5

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (8) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年11月2日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+		
	チギレイソギンチャク			+	+		
	イソギンチャク目						+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+			
	多毛綱 (泥巢)				85	90	15
	ミスヒキゴカイ科					+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(3)					
	タマキビ	(1)					
	コウロエンカワヒバリガイ		25				
	ミドリイガイ		+	+			
節足動物門	タテジマフジツボ		20				
	Balanus属		+	5			
	出現種類数 (12)	2	5	5	2	2	2

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成19年11月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	海綿動物門	海綿動物門			+	+			+	+				+	+
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	Anthopleura属			+				+							
	チギレイソギンチャク			+											
	ヒドロ虫綱														+
	シオガマサンゴ											+	+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			85	95	65	60	65	5	5	+	+	+	+	+
	多毛綱 (泥巢)							+	+						
	ミスヒキゴカイ科							+							
	ウスマキゴカイ科														
触手動物門	コケムシ綱			10	+										
軟体動物門	アラレタマキビ	(11)													
	タマキビ	(2)													
	レイシガイ		(5)	(1)		(1)									
	マガキ		+												
	ユキノカサガイ科		(1)												
	コシダカガンガラ						(2)	(1)	(1)						
	オミマガシワ科						(1)	(1)	(1)						
	ミドリイガイ						+								
節足動物門	サンカクフジツボ							+	+		+				
	ヤドカリ類												(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	5	+	+								
	カタコウレイボヤ				+										
	卵塊				+	+									
	出現種類数 (24)	2	4	8	6	6	5	7	6	4	4	3	3	4	2

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成19年11月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	海綿動物門	海綿動物門					+						
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		+										
	チギレイソギンチャク			5	+								
	シオガマサンゴ								+			+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	75	15	+	+	+	+	+	+	+
	多毛綱 (泥棲)				+		+	+	+				
	ミスヒキゴカイ科					+	+	+					
	ウスマキゴカイ科									+			+
触手動物門	コケムシ綱			+	5				+				
軟体動物門	タマキビ	(83)											
	アラレタマキビ	(7)											
	マガキ		+	15									
	コシダカガンガラ				(1)	(1)							
	ナミマガシワ科						(1)						
	カメガイ								(1)				
	シマメノウフネガイ									(2)			
節足動物門	タデジマフジツボ		+										
	サンカクフジツボ			+			90	95	45	+	+	+	
	ヤドカリ科					+							
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)					+							
	出現種類数 (20)	2	3	5	6	5	5	4	6	4	2	3	3

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (11) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成19年11月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	腔腸動物門	タデジマイソギンチャク			+							
	チギレイソギンチャク			+	+	+						
	イソギンチャク目											+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	20	+	+	5	10	15	+	+
	多毛綱 (泥棲)				+	+	+	+	+	+	+	5
	ウスマキゴカイ科											+
軟体動物門	カラマツガイ		(3)									
	ヨメガカサ		(8)									
	レイシガイ			(1)								
	ナミマガシワ科				(5)		(1)					
	裸鰓目					(1)						
	ムキガイ					(2)						
節足動物門	Balanus属			+								
	タデジマフジツボ			+								
	サンカクフジツボ					+	+	10	30	10	+	
棘皮動物門	ヤドカリ類					(2)						
	イトマキヒトデ				(1)	(1)						
原索動物門	スチエラ科			+	+							
	ホヤ綱 (群体性)			+	+							
	エボヤ			+	+							
	出現種類数 (20)	-	2	7	8	8	4	3	3	3	3	4

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 4 - 2 - 2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成19年11月1日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
	腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		5										
	チギレイソギンチャク			10	10	5	5	+						
	シオガマサンゴ										+			
環形動物門	カンザシゴカイ科			20	30	40	50	40	40	20	20	+	+	
	多毛綱 (泥棲)			+	+	+	10	30	30	50	50	80	80	
触手動物門	コケムシ綱			+	+									
軟体動物門	アラレタマキビ	(28)												
	ケガキ		10											
	カラマツガイ		(1)											
	イボニシ		(22)											
	ミドリイガイ			+	+	+	+							
	ムラサキイガイ			+										
	シマメノウフネガイ					+	+	+	+	+	+	+		
節足動物門	イワフジツボ	+	+											
	ヨーロッパフジツボ			+	+									
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	10	+	10	+						
	シロボヤ			30	+	+	+							
	ユウレイボヤ属							+						
	出現種類数 (18)	2	5	8	8	8	7	6	3	3	4	3	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-2)

		平成19年11月1日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック														
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	チギレイソギンチャク		+													
	シオガマサンゴ												+			
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	10	10	+	+								
	多毛綱(泥棲)			+	10	60	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
触手動物門	コケムシ綱						+	+								
	アミコケムシ科										+	+	+	+	+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(38)														
	コガモガイ	(3)														
	カラマツガイ	(6)														
	ベッコウガサ	(1)														
	マツバガイ	(2)														
	カモガイ	(11)														
	ヒヅラガイ		(1)													
	ミドリイガイ			+	+									+	+	+
	シマメノウフネガイ						+		+	+						
節足動物門	イワフシツボ	+														
棘皮動物門	イトマキヒトデ								(1)		(1)	(1)				
原索動物門	ホヤ綱(群体系)			+	+		+									
	出現種類数(19)	7	2	5	5	3	6	3	3	3	3	4	3	3	3	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-3)

		平成19年11月1日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン														
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	チギレイソギンチャク		+	20	10	5	+							+		
	シオガマサンゴ															
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	30	50	50	20	10							
	多毛綱(泥棲)			+	+	10	30	30	30	30	30	20	20	20	10	
触手動物門	コケムシ綱			+	+	+	+									
	アミコケムシ科												+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(60)														
	カモガイ	(1)														
	タマキビ	(5)														
	イボニシ		(2)													
	レイシガイ			(1)												
	ミドリイガイ					+	+									
	シマメノウフネガイ							+				+				
節足動物門	イワフシツボ		+													
原索動物門	エボヤ				+		+									
	ホヤ綱(群体系)					+	+						+			
	出現種類数(18)	3	4	4	4	6	7	3	2	3	2	4	3	1	1	-

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(15) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場(D-5)

		平成19年11月1日															
観察場所		エコ岸壁															
水深(m)		+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	遊水室								
種類名	基質または部位	綱	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上室			下室					
		金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面			
腔腸動物門	チギレイソギンチャク	10	10	+	+	+			10	10		20	+				
環形動物門	カンザシゴカイ科	20	80	60	70	40	20	+	10	30		30	40				
	多毛綱(泥棲)		+	10	20	50	70	80		+		10	30				
触手動物門	コケムシ綱				+	10	20	20	+	20		+	+				
	フサコケムシ科		+		+					+							
軟体動物門	ミドリイガイ	+	+	+	+												
	ムラサキイガイ	20	+														
棘皮動物門	イトマキヒトデ							(1)	(1)								
原索動物門	ホヤ綱(群体系)	+	+	+							+						
	シロボヤ	+	5	5	+	+			50	+		+	+				
	ユウレイボヤ属				+												
	出現種類数(11)	6	8	6	8	5	4	4	5	7	-	5	5	-	-		

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2: ()内の数値は個体数を示す。

魚類

A．神戸沖処分場

調査地点A - 2では11種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで8種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深±0 ~ - 2 mでメジナが、水深 - 2 ~ 6 mでボラが、水深 - 8 ~ 10 mでマアジがそれぞれ51個体以上確認された。このほかに水深 - 2 ~ 4 mでウミタナゴが11 ~ 50個体確認された。

調査地点A - 4では11種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで10種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深±0 ~ - 4 mでボラが51個体以上確認された。

調査地点A - 5では8種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで6種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、個体数では、水深 - 4 ~ 6 mでボラが51個体以上確認された。

調査地点A - 7では6種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで5種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 6 mでボラが51個体以上確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点B - 1、2、6では魚類は確認されなかった。

調査地点B - 7では水深 - 2 ~ 4 mでクロダイが3 ~ 10個体確認されたのみであった。

C．大阪沖処分場

調査地点C - 1では6種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで4種類と多かった。水深2 m範囲で個体数が最も多かったのはキュウセン、アイゴ、スズキおよびメバルで、キュウセンが水深 - 2 ~ 4 mで、アイゴとスズキが水深 - 4 ~ 6 mで、メバルが水深 - 2 ~ 10 mで3 ~ 10個体確認された。

調査地点C - 2では8種類が確認され、水深 - 4 ~ 6 mで8種類と多かった。水深2 m範囲で11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 10 mでスズメダイが51個体以上、水深 - 2 ~ 8 mでボラが11 ~ 50個体確認された。

調査地点C - 3では7種類が確認され、水深 - 2 ~ 4 mで7種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 4 mでボラが51個体以上、水深 - 2 ~ 4 mでアイゴ、メジナが、水深で - 2 ~ 6 mでスズメダイがそれぞれ11 ~ 50個体確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では水深 - 10~11mで2種類が確認されたのみであった。水深2 m範囲で個体数が最も多かったのはクロダイで、水深 - 10~11mで3~10個体確認された。

調査地点D - 2では3種類が確認され、水深 - 6~8 mで3種類と多かった。水深2 m範囲に11個体以上みられた種類を示すと、水深 - 4~6 mでウミタナゴが11~50個体確認された。

調査地点D - 3ではイソギンポ科が水深±0~-4 mで1~2個体確認されたのみであった。

調査地点D - 5では9種類が確認され、エコ岸壁の周辺で8種類と多かった。11個体以上みられた種類を示すと、遊水室内においてメバルとスズメダイが11~50個体、エコ岸壁の周辺においてスズメダイとマアジがそれぞれ51個体以上、メバルとクロダイが11~50個体確認された。

表 4 - 2 - 3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成19年11月11日

種類名		水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
		基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
魚類	メジナ (15 ~ 20)		cc	r			
	ウミタナゴ (15 ~ 18)		r	c			
	オヤビッチャ (8 ~ 10)		r				
	イソギンボ科 (7)		rr				
	ボラ (30 ~ 50)			cc	cc		
	キュウセン (12 ~ 20)			r	r	rr	
	クロダイ (20 ~ 30)			r	r		
	カサゴ (8 ~ 10)			rr	rr		
	ササノハベラ (15 ~ 20)			r			
	メバル (10 ~ 15)			r	r	rr	
マアジ (15 ~ 20)						cc	
出現種類数 (11)			4	8	5	2	1

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成19年11月11日

種類名		水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
		基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
魚類	ウミタナゴ (12 ~ 15)		r	r			
	メジナ (20 ~ 25)		r	r			
	ボラ (35 ~ 50)		cc	cc			
	スズメダイ (10 ~ 12)		r	r			
	スズキ (30)			rr			
	メバル (12 ~ 18)			r	r	r	
	キュウセン (15 ~ 20)			rr	r	rr	rr
	ササノハベラ (12 ~ 20)			r	r	r	rr
	クロダイ (20 ~ 30)			r	r		
	カワハギ (15 ~ 20)			rr	rr		
カサゴ (5)					rr		
出現種類数 (11)			4	10	5	4	2

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成19年11月11日

種類名		水深 (m)	±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
		基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
魚類	イソギンボ科 (5)		rr				
	ササノハベラ (10 ~ 15)			r			
	キュウセン (12 ~ 20)			r	r	r	
	クロダイ (25 ~ 40)			r	rr		
	ボラ (25 ~ 50)				cc		
	カワハギ (20)				rr		
	ウミタナゴ (12 ~ 15)				r		
	カサゴ (5 ~ 10)				r	rr	
出現種類数 (8)			1	3	6	2	-

注 1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成19年11月11日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8
基質		矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
種類名 魚類	メバル(10~12)		rr	rr	
	ボラ(35~50)			cc	
	キュウセン(3~20)			r	r
	ササノハベラ(12~18)			r	
	ハゼ科(5)				r
その他	マダコ(15)			rr	
出現種類数 (6)		-	1	5	2

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (5) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成19年11月2日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン
出現なし				

表 4 - 2 - 3 (6) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成19年11月2日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫
出現なし					

表 4 - 2 - 3 (7) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成19年11月2日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 5
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン
出現なし				

表 4 - 2 - 3 (8) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成19年11月2日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4
基質		ケーソン	ブロック 巨礫
種類名 魚類	クロダイ(20~23)		r
出現種類数 (1)		-	1

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成19年11月3日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
基質		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名						
魚類	クロダイ(28)		rr			
	キュウセン(20)		r			
	アイゴ(10)			r		
	スズキ(50~55)			r		
	カワハギ(12)			rr		
	メバル(8~13)		r	r	r	r
出現種類数(6)		-	3	4	1	1

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成19年11月3日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10
基質		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名						
魚類	ボラ(40~50)		c	c	c	
	ササノハベラ(18~20)		r	r		
	スズメダイ(10~12)		cc	cc	cc	cc
	メジナ(12~16)		r	r	r	
	クロダイ(18~23)		r	r	r	
	キュウセン(17~20)		r	r		
	メバル(14)			r	r	r
	カワハギ(10)			rr		
出現種類数(8)		-	6	8	5	2

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (11) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成19年11月3日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名						
魚類	アイゴ(10~12)		c			
	ボラ(35~45)		cc			
	メジナ(13~15)		c			
	スズメダイ(10~12)		c	c		
	ウミタナゴ(13)			rr		
	ササノハベラ(14)			rr		
	クロダイ(22~25)			r	r	
出現種類数(7)		-	7	2	-	-

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成19年11月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -11
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
	魚類						
	クロダイ (20 ~ 30)						r
	キチヌ (25)						rr
	出現種類数 (2)	-	-	-	-	-	2

注1: rr = 1 ~ 2 個体, r = 3 ~ 10 個体, c = 11 ~ 50 個体, cc = 51 個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成19年11月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -12	-12 ~ -13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫
	魚類							
	キチヌ (25 ~ 30)		rr		rr			
	クロダイ (20 ~ 35)			r	r			
	ウミタナゴ (8 ~ 12)			c	r			
	出現種類数 (3)	-	1	2	3	-	-	-

注1: rr = 1 ~ 2 個体, r = 3 ~ 10 個体, c = 11 ~ 50 個体, cc = 51 個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成19年11月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ -4	-4 ~ -6	-6 ~ -8	-8 ~ -10	-10 ~ -12	-12 ~ -13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 泥
	魚類							
	イソギンポ科 (5)	rr	rr					
	出現種類数 (1)	1	1	-	-	-	-	-

注1: rr = 1 ~ 2 個体, r = 3 ~ 10 個体, c = 11 ~ 50 個体, cc = 51 個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 4 - 2 - 3 (15) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成19年11月1日

観察部位		エコ岸壁		
基質		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	魚類			
	ニジギンポ (6)	rr		
	メバル (8 ~ 18)	c	c	rr
	スズメダイ (8 ~ 12)	c	cc	
	クロダイ (15 ~ 35)	rr	c	
	ウミタナゴ (12 ~ 15)		r	
	カサゴ (8 ~ 12)		rr	
	キチヌ (20)		rr	
	マアジ (12 ~ 15)		cc	
	オヤビッチャ (8)		r	
	出現種類数 (9)	4	8	1

注1: rr = 1 ~ 2 個体, r = 3 ~ 10 個体, c = 11 ~ 50 個体, cc = 51 個体以上を示す。
 注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 枠取り採取および分析

植物の枠取り分析結果を表4 - 2 - 4、動物の枠取り分析結果を表4 - 2 - 5に示した。

植物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では8種類が出現し、総湿重量 7.14 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 6.56 g / 0.25m² と最も多かった。

中層では5種類が出現し、総湿重量 3.54 g / 0.25m² であり、藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが 2.28 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では8種類が出現し、総湿重量 0.39 g / 0.25m² であり、紅藻綱のイトグサ属が 0.18 g / 0.25m² と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では4種類が出現し、総湿重量 0.72 g / 0.25m² であり、藍藻綱の Phormidium sp. が 0.57 g / 0.25m² で最も多かった。

中層では6種類が出現し、総湿重量 0.29 g / 0.25m² であり、緑藻綱のアオサ属が 0.17 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では11種類が出現し、総湿重量は 9.43 g / 0.25m² であり、藻場構成種である褐藻綱のシダモクが 7.89 g / 0.25m² と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では6種類が出現し、総湿重量は 0.68 g / 0.25m² であり、緑藻綱のアオサ属が 0.47 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では6種類が出現したがそれぞれ僅かに確認されたのみであり、総湿重量は 0.01 g 未満 / 0.25m² であった。

下層では7種類が出現し、総湿重量は 0.81 g / 0.25m² であり、紅藻綱のカバノリが 0.78 g / 0.25m² と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では4種類が出現し、総湿重量は 0.18 g / 0.25m² であり、藍藻綱の Lyngbya sp. が 0.13 g / 0.25m² と最も多かった。

中層では2種類が出現し、総湿重量は 0.02 g / 0.25m² であり、緑藻綱のアオサ属が 0.02 g / 0.25m² と最も多かった。

下層ではサンゴモ目の 1 種類が僅かに出現したのみであり、総湿重量は 0.01 g 未満 / 0.25m² であった。

表 4 - 2 - 4 棗取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ±0.0m)	中 (M.W.L. -2.0m)	下 (M.W.L. -4.0m)	
神戸沖 A - 2 (11月11日)	出現種類数	8	5	8	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	7.14	3.54	0.39	
	優占種	第1位	ホトアサ 6.56 (92)	タマハキモク 2.28 (64)	イトクサ属 0.18 (46)
		第2位	ヒメアサ 0.28 (4)	アサ属 1.12 (32)	アサ属 0.13 (33)
第3位		アオリ属 0.15 (2)	キヌイトフツカサネ 0.09 (3)	シオクサ属 0.05 (13)	
大阪沖 C - 2 (11月3日)	出現種類数	4	6	11	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.72	0.29	9.43	
	優占種	第1位	Phormidium sp. 0.57 (79)	アサ属 0.17 (59)	シダモク 7.89 (84)
		第2位	ホトアサ 0.08 (11)	タマハキモク 0.12 (41)	タマハキモク 1.35 (14)
第3位		Lyngbya sp. 0.06 (8)	シオクサ属 ツリマタ属 ムカデノリ キヌイトフツカサネ + (-)	アサ属 0.07 (1)	
泉大津沖 D - 2 (11月1日)	出現種類数	6	6	7	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.68	+	0.81	
	優占種	第1位	アサ属 0.47 (69)	アサ属 アオリ属 シオクサ属 イトクサ属 珪藻綱 サソモ目 + (-) - (-)	カハノリ 0.78 (96)
		第2位	シオクサ属 0.15 (22)		イトクサ科 0.03 (4)
第3位		アオリ属 イトクサ属 0.03 (4)		シオクサ属 オージユイネラ属 キヌイトフツカサネ イトクサ属 Melosira sp. + (-)	
泉大津沖 D - 3 (11月1日)	出現種類数	4	2	1	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.18	0.02	+	
	優占種	第1位	Lyngbya sp. 0.13 (72)	アサ属 0.02 (100)	サソモ目 - (100)
		第2位	アサ属 0.04 (22)	キヌイトフツカサネ + (+)	
第3位		アオリ属 0.01 (6)			

注1) 表中の+は0.01g未満を、-は定量不能を示す。

注2) ()内の数値は総量に対する占有率を示し、+は1%未満を、-は定量不能を示す。

動物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では 29 種類が出現し、総個体数 481 個体/0.25m²、総湿重量 14.56 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が 138 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のレイシガイが 4.73 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 92 種類が出現し、総個体数 2,200 個体/0.25m²、総湿重量 72.70 g /0.25m²であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 476 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のムギガイが 9.81 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 53 種類が出現し、総個体数 2,270 個体/0.25m²、総湿重量 177.02 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、節足動物門のタテジマフジツボがそれぞれ 1,656 個体/0.25m²、97.76 g /0.25m²と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では 24 種類が出現し、総個体数 406 個体/0.25m²、総湿重量 32.93 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のシリケンウミセミが 64 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のマガキが 27.68 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 46 種類が出現し、総個体数 838 個体/0.25m²、総湿重量 10.72 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイがそれぞれ 385 個体/0.25m²、4.56 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 78 種類が出現し、総個体数 910 個体/0.25m²、総湿重量 45.16 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 145 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のサンショウウニが 16.78 g /0.25m²と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では 22 種類が出現し、総個体数 238 個体/0.25m²、総湿重量 2.62 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが 83 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では節足動物門のクロフジツボが 1.42 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 39 種類が出現し、総個体数 804 個体/0.25m²、総湿重量 28.11 g /0.25m²であった。個体数では環形動物門の *Ophiodromus* sp. が 202 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では原索動物門のシロボヤが 15.82 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 40 種類が出現し、総個体数 1,957 個体/0.25m²、総湿重量 34.04 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが 696 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では節足動物門のサンカクフジツボが 15.05 g /0.25m²と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では 30 種類が出現し、総個体数 227 個体/0.25m²、総湿重量 12.84 g /0.25m²であった。個体数では腔腸動物門のタテジマイソギンチャクが 87 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のイボニシが 7.14 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 44 種類が出現し、総個体数 2,207 個体/0.25m²、総湿重量 61.78 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のイソヨコエビ属が 682 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動

物門のレイシガイが 18.45 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では 55 種類が出現し、総個体数 2,902 個体 / 0.25m²、総湿重量 170.16 g / 0.25m² であった。個体数では環形動物門の Polydora sp. が 623 個体 / 0.25m² と最も多く、湿重量では原索動物門のシロボヤが 75.84 g / 0.25m² と最も多かった。

表 4 - 2 - 5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ± 0.0m)	中 (M.W.L. - 2.0m)	下 (M.W.L. - 4.0m)
神戸沖 A - 2 (11月11日)	出現種類数(種類)	29	92	53
	総個体数 (個体 / 0.25m ²)	481	2,200	2,270
	総湿重量 (g / 0.25m ²)	14.56	72.70	177.02
	個体数	第1位 ヒゲナガヨロビ属 138 (29)	イソカネンガシヨガイ 476 (22)	タテマツツホ 1,656 (73)
	からみた	第2位 ヌリカ科幼虫 104 (22)	Dodecaceria sp. 392 (18)	ムギガイ 86 (4)
	優占種	第3位 ヨロビ科ヒナリガイ 92 (19)	Polydora sp. 251 (11)	Polydora sp. 84 (4)
	湿重量	第1位 レイシガイ 4.73 (32)	ムギガイ 9.81 (13)	タテマツツホ 97.76 (55)
	からみた	第2位 イボニシ 4.23 (29)	ムシヒキゴガイ 8.44 (12)	イヌヒトド 37.70 (21)
	優占種	第3位 マガキ 2.31 (16)	レイシガイ 8.19 (11)	レイシガイ 34.56 (20)
	大阪沖 C - 2 (11月3日)	出現種類数(種類)	24	46
総個体数 (個体 / 0.25m ²)		406	838	910
総湿重量 (g / 0.25m ²)		32.93	10.72	45.16
個体数		第1位 シラケウミヒメ 64 (16)	イソカネンガシヨガイ 385 (46)	ムギガイ 145 (16)
からみた		第2位 ヌリカ科幼虫 58 (14)	ムホヨロビ属 85 (10)	サンカクフツツホ 84 (9)
優占種		第3位 ヒゲナガヨロビ属 49 (12)	イソヨロビ属 71 (8)	イソカネンガシヨガイ 76 (8)
湿重量		第1位 マガキ 27.68 (84)	イソカネンガシヨガイ 4.56 (43)	サンショウウニ 16.78 (37)
からみた		第2位 カマツガイ 1.42 (4)	シラメノウツホガイ 3.64 (34)	サンカクフツツホ 7.18 (16)
優占種		第3位 タテマツツホ 1.38 (4)	ウスカシオガイ 0.53 (5)	シラメノウツホガイ 4.45 (10)
泉大津沖 D - 2 (11月1日)		出現種類数(種類)	22	39
	総個体数 (個体 / 0.25m ²)	238	804	1,957
	総湿重量 (g / 0.25m ²)	2.62	28.11	34.04
	個体数	第1位 ウスカシオガイ 83 (35)	Ophiodromus sp. 202 (25)	ウスカシオガイ 696 (36)
	からみた	第2位 Polydora sp. 56 (24)	ウスカシオガイ 128 (16)	Polydora sp. 543 (28)
	優占種	第3位 カマツガイ 19 (8)	Polydora sp. 116 (14)	Ophiodromus sp. 235 (12)
	湿重量	第1位 クロフツツホ 1.42 (54)	シロホヤ 15.82 (56)	サンカクフツツホ 15.05 (44)
	からみた	第2位 ウスカシオガイ 0.63 (24)	サンカクフツツホ 5.02 (18)	ウスカシオガイ 12.28 (36)
	優占種	第3位 カマツガイ 0.19 (7)	ウスカシオガイ 3.18 (11)	ムギガイ 0.98 (3)
	泉大津沖 D - 3 (11月1日)	出現種類数(種類)	30	44
総個体数 (個体 / 0.25m ²)		227	2,207	2,902
総湿重量 (g / 0.25m ²)		12.84	61.78	170.16
個体数		第1位 タテマツツホ 87 (38)	イソヨロビ属 682 (31)	Polydora sp. 623 (21)
からみた		第2位 カマツガイ 31 (14)	Ophiodromus sp. 434 (20)	Ophiodromus sp. 441 (15)
優占種		第3位 シロマツラリス 30 (13)	イソキソチヤク目 123 (6)	イソキソチヤク目 336 (12)
湿重量		第1位 イボニシ 7.14 (56)	レイシガイ 18.45 (30)	シロホヤ 75.84 (45)
からみた		第2位 タテマツツホ 2.11 (16)	ススチキガニ 15.28 (25)	レイシガイ 15.46 (9)
優占種		第3位 ヨロビ科ヒナリガイ 1.04 (8)	イボニシ 5.04 (8)	イソキソチヤク目 15.20 (9)

注) 表中の () 内の数値は総量に対する占有率を示す。

第5章 冬季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成20年 2月 3日
- (2) 尼崎沖処分場 平成20年 2月 8日
- (3) 大阪沖処分場 平成20年 2月 2日
- (4) 泉大津沖処分場 平成20年 2月 1日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表5 - 1 - 1に示した。

天気・雲量・気温

- A. 神戸沖では天気は雨または曇り、雲量は10、気温は4.8~5.4であった。
- B. 尼崎沖では天気は晴~曇り、雲量は5~9、気温は6.2~8.0であった。
- C. 大阪沖では天気は曇り、雲量は10、気温は4.7~5.8であった。
- D. 泉大津沖では天気は晴、雲量は6~7、気温は6.2~7.6であった。

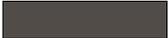
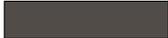
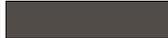
風浪階級・風向・風速

- A. 神戸沖では風浪階級は1、風速は1.3~2.7m/s、風向は北北東から南西であった。
- B. 尼崎沖では風浪階級は1~2、風速は2.1~3.3m/s、風向は西から北であった。
- C. 大阪沖では風浪階級は1、風速は3.3~3.7m/s、風向は北東であった。
- D. 泉大津沖では風浪階級は2、風速は2.6~4.1m/s、風向は北北東から北東であった。

透明度・水色

- A. 神戸沖では透明度は2.8~3.1m、水色は調査地点A - 2、4、7でシダーグリーン、調査地点A - 5で黒緑であった。
- B. 尼崎沖では透明度は1.6~2.0m、水色は全地点ともシダーグリーンであった。
- C. 大阪沖では透明度は3.1~3.7m、水色は調査地点C - 1でオリーブグリーン、調査地点C - 2、3でシダーグリーンであった。
- D. 泉大津沖では透明度は4.3~4.4m、水色は2地点とも鉄色であった。

表5 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (2月3日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7	
	調査時間	11:41~12:40	8:45~9:37	9:42~10:30	10:40~11:25	
	天気・雲量	雨・10	雨・10	曇り・10	雨・10	
	気温	5.0	4.8	5.2	5.4	
	風浪階級	1	1	1	1	
	風速・風向	2.7m/s・西	1.7m/s・北北東	1.3m/s・西	1.4m/s・南西	
	透明度	2.8m	3.1m	2.8m	2.8m	
	水色	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	黒緑 3G 2.0/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	
水深	16.7m	17.1m	11.8m	9.7m		
尼崎沖 (2月8日)	調査地点	B - 1	B - 2	B - 5	B - 6	B - 7
	調査時間	10:40~10:48	9:30~9:43	8:30~8:55	10:00~10:20	11:30~11:46
	天気・雲量	晴・7	晴・5	晴・8	晴・7	曇り・9
	気温	6.9	6.5	6.2	7.1	8.0
	風浪階級	1	1	2	1	1
	風速・風向	2.9m/s・西	3.3m/s・西	3.3m/s・西	2.3m/s・西	2.1m/s・北
	透明度	1.9m	1.9m	1.6m	2.0m	1.7m
	水色	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 
水深	6.7m	7.7m	13.7m	8.4m	6.9m	
大阪沖 (2月2日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3		
	調査時間	11:25~12:06	9:50~11:10	9:05~9:41		
	天気・雲量	曇り・10	曇り・10	曇り・10		
	気温	5.8	5.4	4.7		
	風浪階級	1	1	1		
	風速・風向	3.3m/s・北東	3.7m/s・北東	3.7m/s・北東		
	透明度	3.1m	3.7m	3.5m		
	水色	オリブ-グリーン 3GY 3.5/5.0 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 	シダ-グリーン 5Y 2.5/1.5 		
水深	14.4m	14.0m	11.9m			
泉大津沖 (2月1日)	調査地点	D - 1	D - 2			
	調査時間	11:00~11:16	12:55~13:07			
	天気・雲量	晴・7	晴・6			
	気温	6.2	7.6			
	風浪階級	2	2			
	風速・風向	2.6m/s・北北東	4.1m/s・北東			
	透明度	4.4m	4.3m			
	水色	鉄色 5BG 2.5/4.5 	鉄色 5BG 2.5/4.5 			
水深	14.8m	12.4m				

(2) 機器測定

水質測定結果の概要を表 5 - 1 - 2、図 5 - 1 - 1、鉛直分布図を図 5 - 1 - 2 に示した。

水温

- A . 神戸沖の水温は 7.2~10.8 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて上昇した。このうち、調査地点 A - 2、5、7 では水深 ± 0 ~ - 1 m で、A - 4 では水深 - 10 ~ 12m で水温が著しく上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖の水温は 7.6~10.6 の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて上昇した。このうち、調査地点 B - 1、5、6 では水深 ± 0 ~ - 1 m で水温が著しく上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- C . 大阪沖では 8.0~10.8 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて上昇した。このうち、調査地点 C - 1、C - 2 では水深 ± 0 ~ - 1 m で水温が著しく上昇した。地点間で比較すると、調査地点 C - 3 で水温の変化の範囲が小さかった。
- D . 泉大津沖では 8.6~9.8 の範囲を示し、2 地点とも表層から底層にかけてわずかに上昇した。このうち、調査地点 D - 1 では概ね鉛直混合していたが、C - 2 では水深 ± 0 ~ - 0.5 m で水温が著しく上昇した。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

塩分

- A . 神戸沖では 29.7~33.1 の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 A - 2 では水深 - 6 ~ 7 m で、調査地点 A - 4 では水深 - 9 ~ 11m で、A - 5 では水深 - 9 ~ 10m で、A - 7 では水深 - 4 ~ 6 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- B . 尼崎沖では 27.3~32.6 の範囲を示し、5 地点とも水深 - 0.5 ~ 1 m にかけての塩分が最も低く、以深は底層にかけて徐々に高くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- C . 大阪沖では 28.7~33.0 の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて高くなった。このうち、調査地点 C - 1 では水深 - 1 ~ 2 m で塩分が著しく高くなる躍層がみられた。一方で、調査地点 C - 3 では概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点 C - 1 の表層で塩分が低かった。
- D . 泉大津沖では 31.1~32.2 の範囲を示し、2 地点とも概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、調査地点 D - 1 の表層のほうがわずかに低かった。

DO

- A . 神戸沖では 6.1~11.4mg/L の範囲を示し、4 地点とも表層から底層にかけて徐々に低くなった。地点間で比較すると、水深が浅い調査地点 A - 7 で変化の範囲が小さかった。
- B . 尼崎沖では 4.6~17.1mg/L の範囲を示し、5 地点とも表層から底層にかけて低くなった。また、5 地点とも水深 - 2 ~ 4 m 付近に DO が著しく低くなる躍層がみられた。地点間で比較すると、調査地点 B - 5、7 で変化の範囲が大きかった。
- C . 大阪沖では 6.6~11.1mg/L の範囲を示し、3 地点とも表層から底層にかけて徐々に低くなった。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。
- D . 泉大津沖では 8.8~10.4mg/L の範囲を示し、2 地点とも概ね鉛直混合していた。地点間で比較すると、ほぼ同様の範囲であった。

光量

- A . 神戸沖では光量子束密度は $0.7 \sim 185.9 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 A - 2、5、7 では水深 - 7 m で、調査地点 A - 4 では水深 - 8 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- B . 尼崎沖では光量子束密度は $0.8 \sim 334.6 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 4 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 B - 1、5、7 では水深 - 5 m で、調査地点 B - 6 では水深 - 6 m で相対光量が 1 % 以下となったが、調査地点 B - 2 では底層でも 1 % 以上であった。鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- C . 大阪沖では光量子束密度は $0.9 \sim 342.9 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 3 地点とも底層ほど低くなった。調査地点 C - 3 では水深 - 8 m で、調査地点 C - 1、2 では水深 - 9 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。
- D . 泉大津沖では光量子束密度は $2.4 \sim 953.9 \mu E/m^2/sec$ の範囲を示し、相対光量は 2 地点とも底層ほど低くなった。相対光量は 2 地点とも水深 - 9 m で相対光量が 1 % 以下となり、鉛直分布の減衰傾向はほぼ同じであった。

表 5 - 1 - 2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 ()	塩分 (-)	DO (mg/L)	相对光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A - 2	7.5 ~ 10.8	29.7 ~ 33.1	6.1 ~ 11.4	0.4 ~ 49.5	0.7 ~ 95.2
	A - 4	8.3 ~ 10.4	30.6 ~ 33.0	7.5 ~ 11.3	0.3 ~ 69.1	0.7 ~ 185.9
	A - 5	7.2 ~ 9.8	30.4 ~ 32.6	8.2 ~ 11.3	0.5 ~ 70.2	0.9 ~ 114.0
	A - 7	7.9 ~ 9.9	29.9 ~ 32.4	9.1 ~ 11.4	0.9 ~ 62.3	1.9 ~ 135.4
尼崎沖	B - 1	7.6 ~ 10.3	28.0 ~ 32.1	7.2 ~ 13.8	0.8 ~ 82.7	2.6 ~ 271.0
	B - 2	8.4 ~ 10.0	27.3 ~ 32.1	7.3 ~ 12.9	1.2 ~ 59.0	3.2 ~ 160.5
	B - 5	8.0 ~ 10.6	29.0 ~ 32.6	4.6 ~ 15.8	0.2 ~ 89.0	0.8 ~ 334.6
	B - 6	7.8 ~ 10.3	27.5 ~ 32.3	6.1 ~ 13.3	0.5 ~ 78.2	1.5 ~ 225.8
	B - 7	8.8 ~ 10.5	28.9 ~ 32.4	6.6 ~ 17.1	0.5 ~ 46.6	2.1 ~ 180.4
大阪沖	C - 1	8.1 ~ 10.7	28.7 ~ 32.9	6.8 ~ 9.8	0.2 ~ 86.4	0.9 ~ 342.9
	C - 2	8.0 ~ 10.8	30.5 ~ 33.0	6.6 ~ 10.5	0.3 ~ 80.0	1.2 ~ 317.5
	C - 3	9.4 ~ 10.5	31.3 ~ 32.9	7.2 ~ 11.1	0.4 ~ 53.4	1.6 ~ 211.9
泉大津沖	D - 1	9.3 ~ 9.8	31.1 ~ 32.2	8.8 ~ 10.4	0.1 ~ 52.3	2.4 ~ 953.9
	D - 2	8.6 ~ 9.4	32.0 ~ 32.1	9.1 ~ 10.1	0.6 ~ 44.9	4.6 ~ 350.0

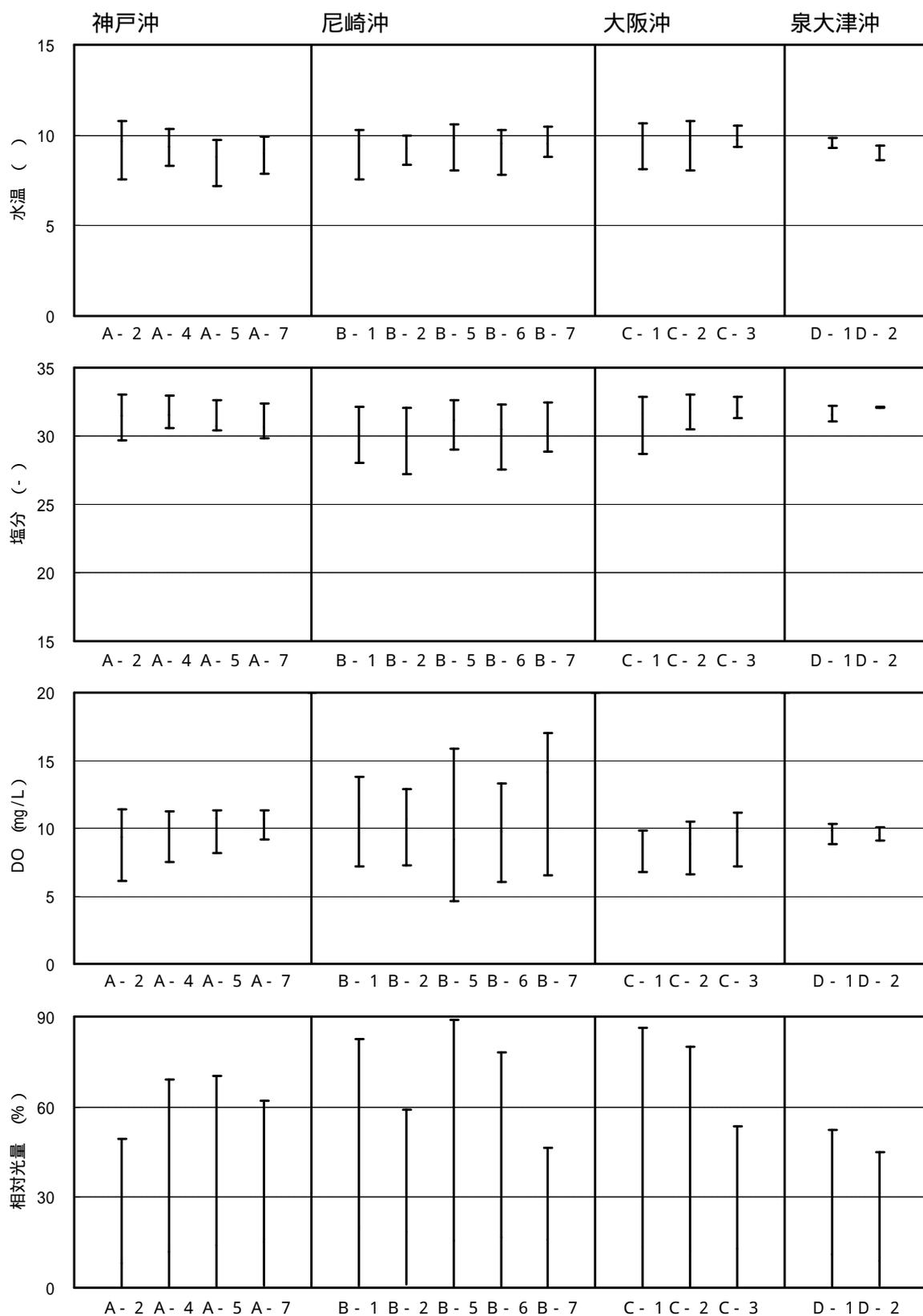
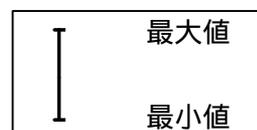


図 5 - 1 - 1 水質測定結果概要図



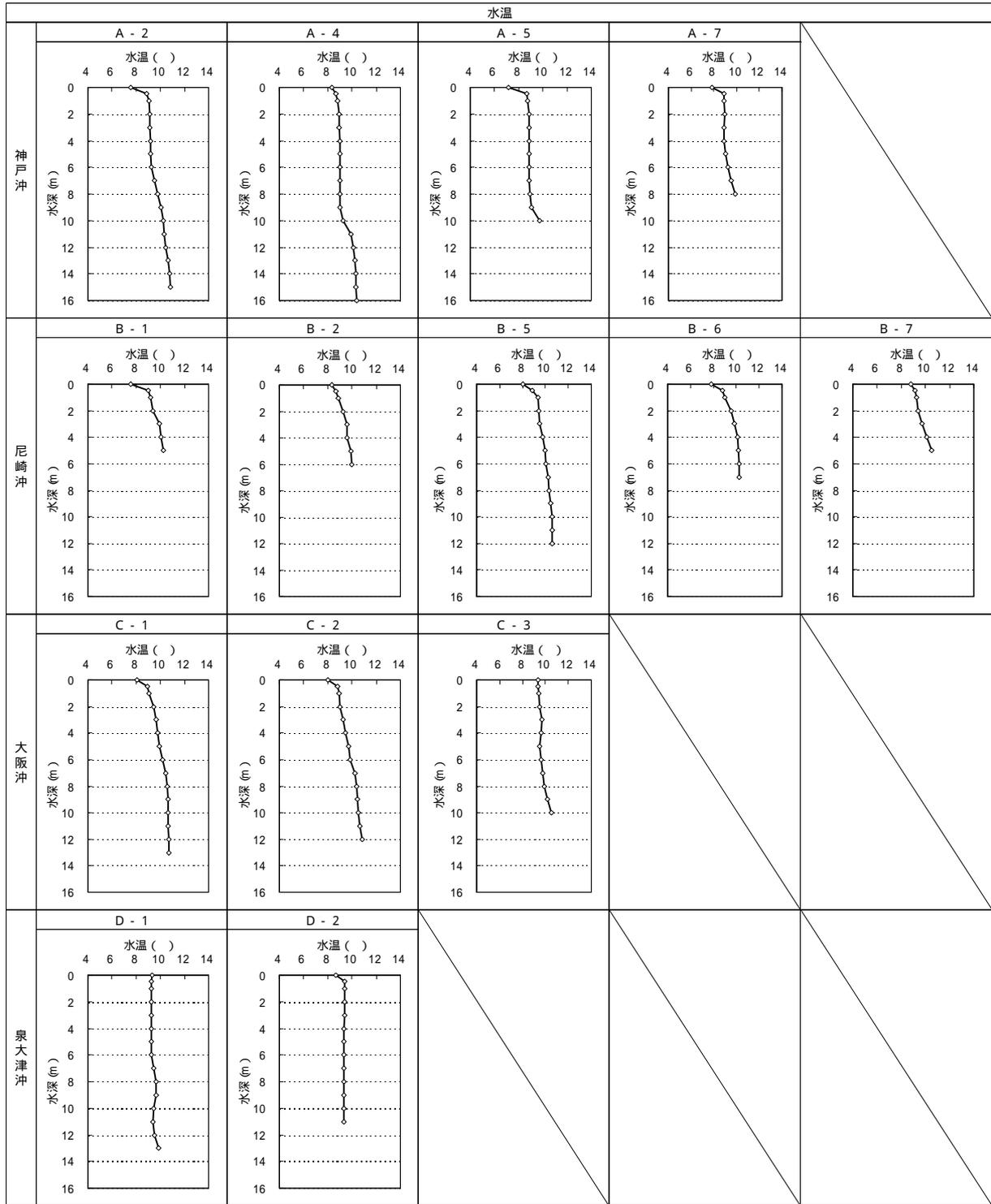


図5 - 1 - 2 (1) 鉛直分布図 (水温)

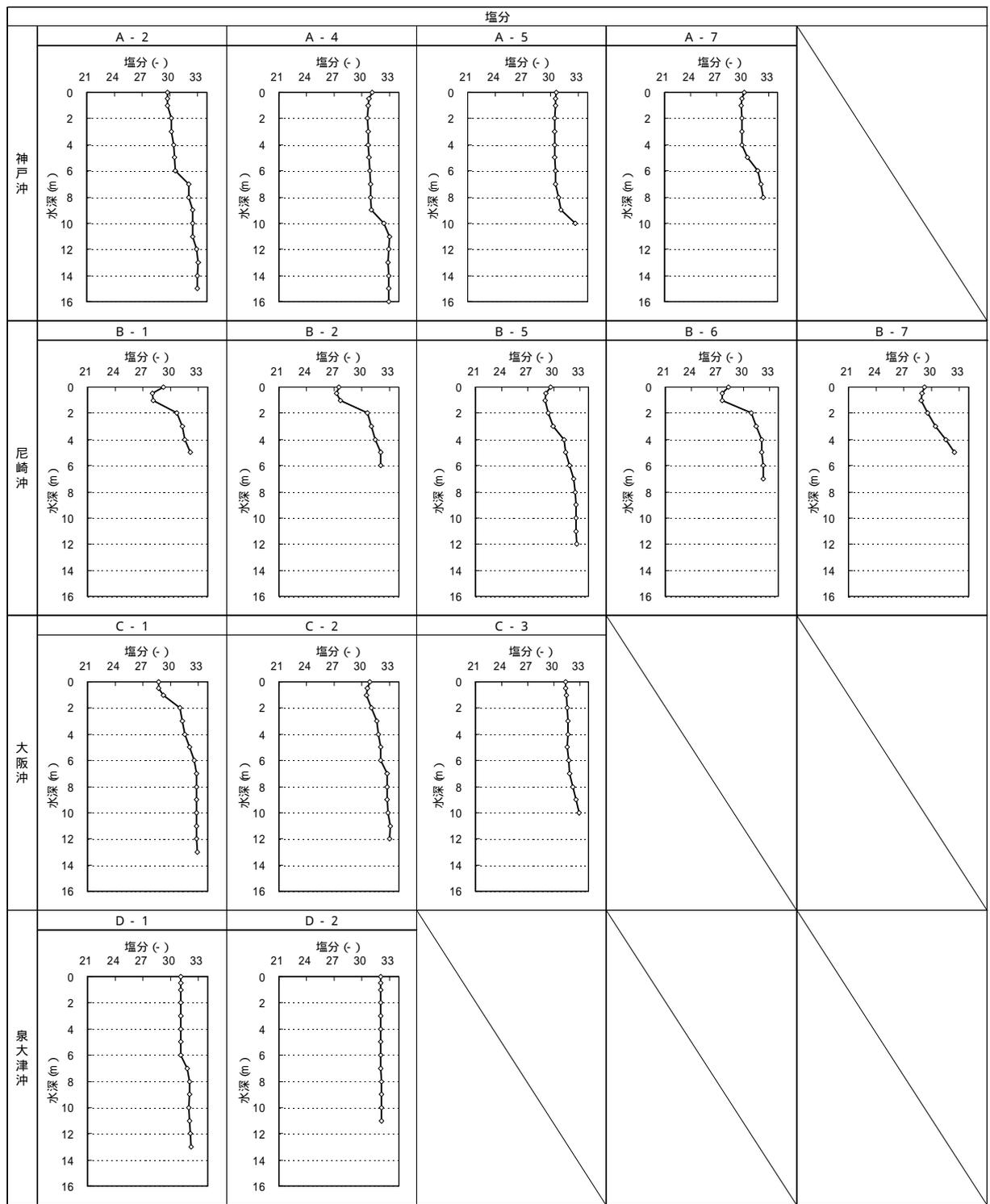


図 5 - 1 - 2 (2) 鉛直分布図 (塩分)

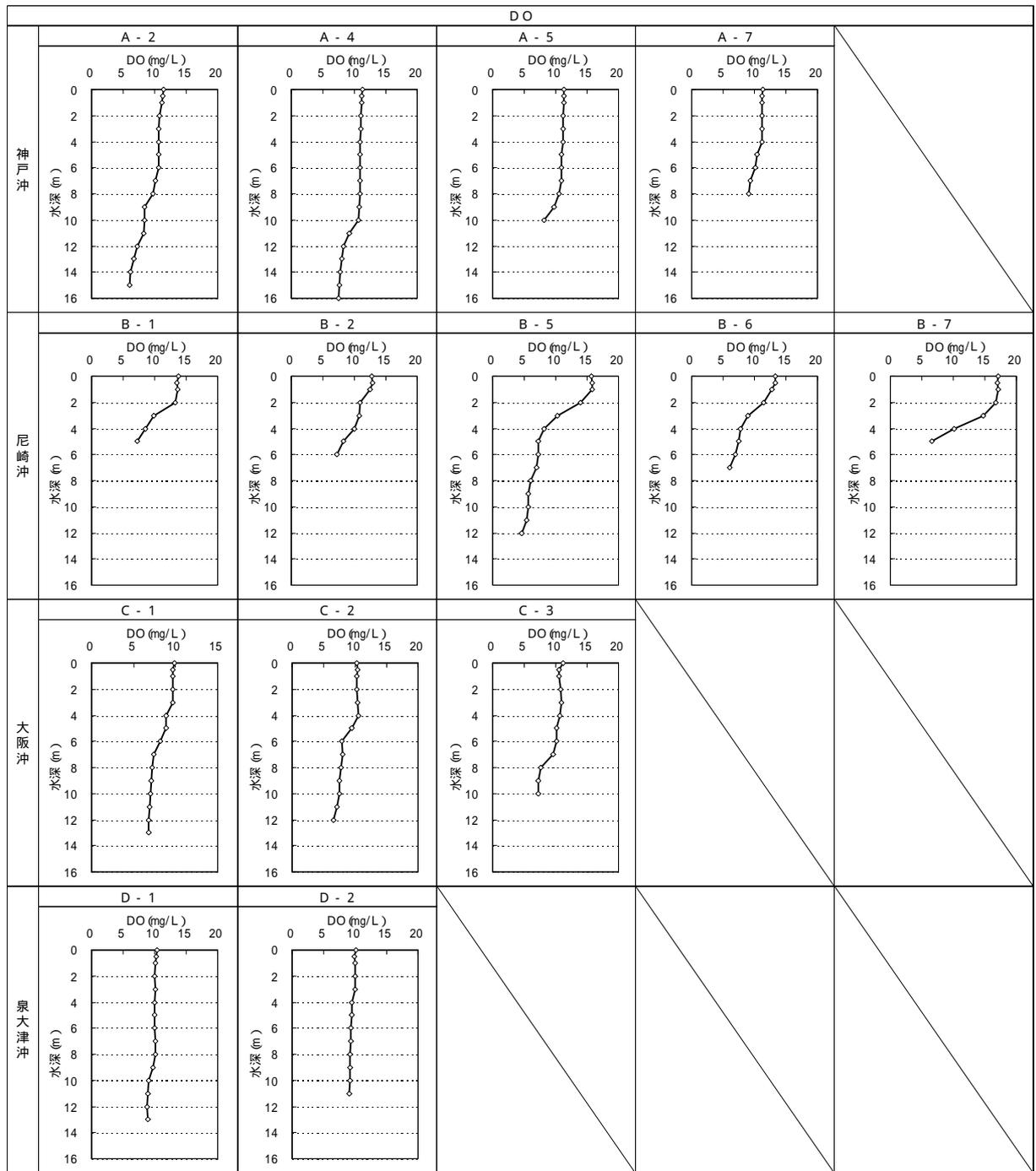


图5 - 1 - 2 (3) 鉛直分布図 (DO)

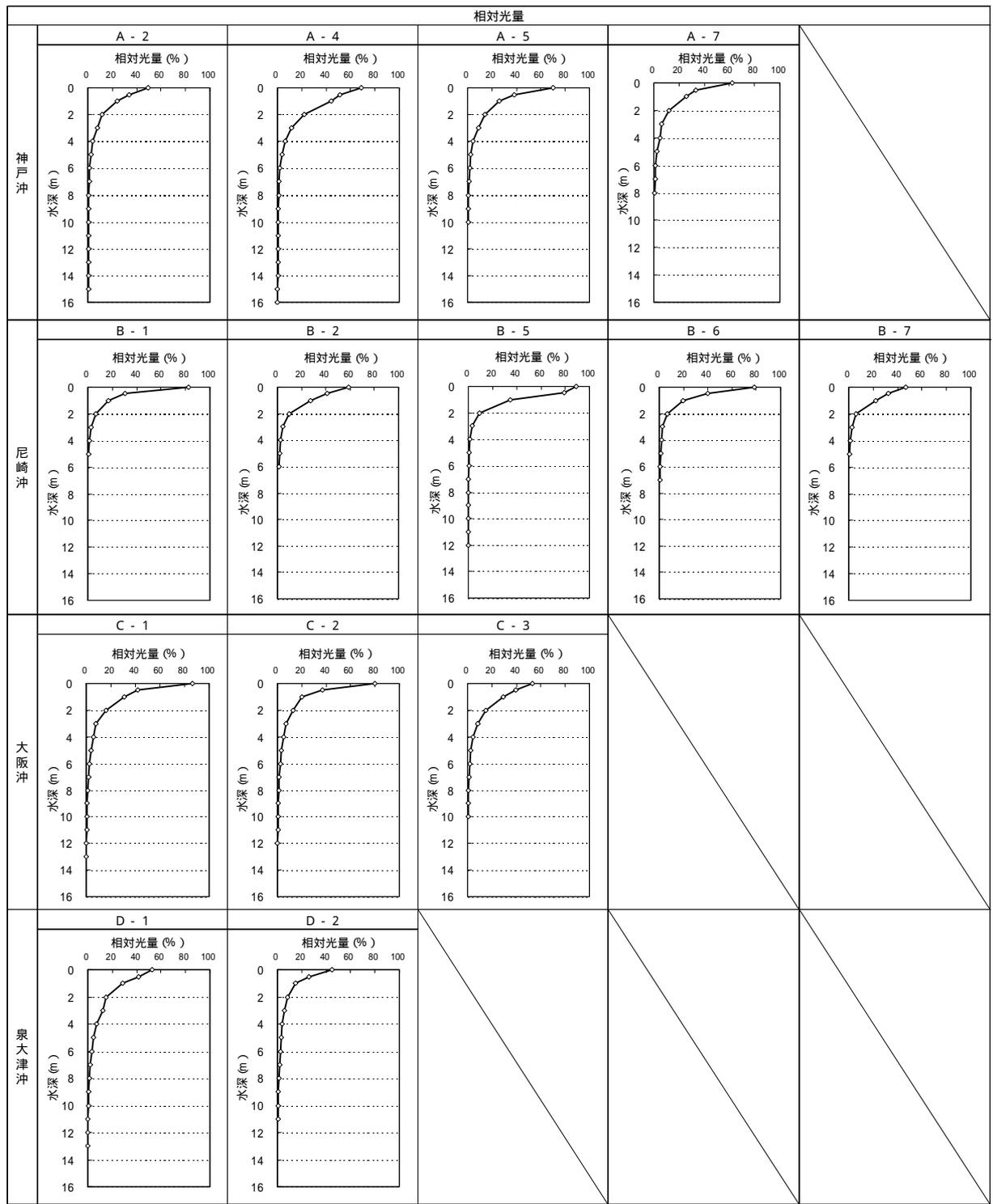


图 5 - 1 - 2 (4) 鉛直分布図 (相对光量)

3. 生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表5 - 2 - 1、動物の目視観察の結果を表5 - 2 - 2、魚類の目視観察の結果を表5 - 2 - 3に示した。

植物

A. 神戸沖処分場

調査地点A - 2では、植物は水深+1 ~ - 8 mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mと水深 - 4 mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深+1 ~ - 1 mで緑藻綱のアオサ属が40~80%、水深 - 2 mで紅藻綱のイギス科が30%、水深 - 3 mで紅藻綱のススカケベニが60%であった。この他に、藻場構成種として、水深 - 2 ~ 3 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度10%以下で確認された。

調査地点A - 4では、植物は水深±0 ~ - 8 mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 mで8種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 ~ - 1 mで緑藻綱のアオサ属が30~50%、水深 - 2 mで紅藻綱のイトグサ属が30%、水深 - 3 ~ 4 mで紅藻綱のイギス科が70~90%であった。

調査地点A - 5では、植物は水深±0 ~ - 9 mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mと水深 - 4 ~ 5 mで5種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと水深±0 ~ - 1 mで緑藻綱のアオサ属が30%、水深 - 5 mで紅藻綱のイギス科が40%であった。

調査地点A - 7では、植物は水深±0 ~ - 2 mと水深 - 4 ~ 8 mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 mで5種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 5 mで紅藻綱のダジア科が40%であった。

B. 尼崎沖処分場

調査地点B - 1では、植物は水深 - 1 mと水深 - 5 ~ 6 mに分布し、珪藻綱が被度5%未満で確認されたのみであった。

調査地点B - 2では、植物は水深±0 ~ - 8 mに分布し、6種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 ~ - 2 mで3種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点B - 6では、植物は水深±0 mと水深 - 2 mに分布し、3種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで2種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。

調査地点B - 7では、植物は水深±0 ~ - 4 mに分布し、4種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 mで4種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のアオノリ属が30%、水深 - 1 ~ 2 mで紅藻綱のショウジョウケノリが30~45%であった。

C . 大阪沖処分場

調査地点C - 1では、植物は水深±0 ~ -10mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで12種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 3 mで珪藻綱が40~65%、水深 - 3 mで紅藻綱のイソハギが65%、水深 - 3 ~ 4 mで紅藻綱のススカケベニが50~70%、水深 - 5 mで紅藻綱のイギス科が80%であった。この他に、藻場構成種として水深 - 2 ~ 3 mで褐藻綱のシダモクが、水深 - 3 ~ 4 mで褐藻綱のタマハハキモクがそれぞれ被度15%以下で確認された。

調査地点C - 2では、植物は水深±0 ~ -10mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 ~ 4 mで8種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のボタンアオサが40%、水深 - 1 mで緑藻綱のアオサ属が80%、水深 - 4 ~ 7 mで紅藻綱のススカケベニが40~85%、水深 - 5 mで藻場構成種である褐藻綱のシダモクが30%であった。また、水深 - 3 ~ 4 mにおいてもシダモクが被度15%以下で確認された。この他に、藻場構成種として、水深 - 4 mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点C - 3では、植物は水深+1 ~ -9 mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のボタンアオサが90%、水深 - 1 ~ 3 mで緑藻綱のアオサ属が90~95%、水深 - 5 ~ 7 mで紅藻綱のススカケベニが30~85%であった。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、植物は水深±0 ~ -5 mに分布し、8種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のアオサ属が30%、水深±0 mと水深 - 2 ~ 3 mで珪藻綱が30%であった。

調査地点D - 2では、植物は水深+1 ~ -11mに分布し、13種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで6種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 ~ -2 mで紅藻綱のイトグサ属が30~70%、水深 - 6 ~ 8 mで紅藻綱のイギス科が40~60%であった。

調査地点D - 3では、植物は水深±0 ~ -11mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは水深±0 mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類を示すと、水深±0 mで緑藻綱のアオサ属が30%、紅藻綱のイトグサ属が30%、水深 - 7 ~ 9 mで紅藻綱のイギス科が30~60%であった。この他に、藻場構成種として、水深 - 1 ~ 2 mで褐藻綱のワカメが被度5%未満で確認された。

調査地点D - 5では、植物は水深+1 ~ -4 mに分布し、9種類が確認された。種類数は壁面では9種類、遊水室内では、上室において2種類、下室において1種類で、種類数が多かったのは壁面の水深+1 ~ ±0 mで7種類であった。エコ岸壁において被度30%以上でみられた種類を示すと、水深+1 ~ ±0 mで緑藻綱のアオサ属が30%、紅藻綱のイトグサ属が30%、水深 - 1 ~ 2 mで藍藻綱が40%で確認された。遊水室内において、被度30%以上でみられた種類はなかった。この他、藻場構成種として、水深 - 3 ~ 4 mで褐藻綱のシダモクが被度5%未満で確認された。

表5 - 2 - 1 (1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成20年2月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
	緑藻綱	アオノリ属	20										
アオサ属		50	80	40	10	20	20	+					
シオグサ属			+										
褐藻綱	タマハハキモク				10	+							
紅藻綱	アマノリ属	10	+										
	イトグサ属		10	10	+	+	+	+					
	コスジフシツナギ		+	+									
	フダラク		+	20	+								
	イギス科			+	30	20	20	20	20	+	+		
	ムカデノリ属				+	+	+						
	ススカケベニ					60	20	10	+	+			
	サビ亜科						+						
	イワノカワ科						+	+					
珪藻綱	珪藻綱		+										
出現種類数 (14)		3	7	5	6	6	7	5	2	2	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表5 - 2 - 1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成20年2月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	小礫砂										
	緑藻綱	アオサ属		50	30	10	+						
シオグサ属			+		+								
褐藻綱	カヤモノリ属		+										
	セイヨウハバノリ		+										
紅藻綱	アマノリ属		10										
	イトグサ属			10	30	+							
	ツノマタ			+	+								
	コスジフシツナギ			+	+								
	フダラク			10	+	+							
	イギス科			+	10	90	70	+	+	+	+		
	カバノリ						+	+					
	ススカケベニ						+	+	+				
	ムカデノリ属							+					
藍藻綱	藍藻綱			+	+	+	+	+	+	+			
珪藻綱	珪藻綱		+										
出現種類数 (16)		-	6	7	8	5	4	6	3	2	1	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表5 - 2 - 1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成20年2月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
	緑藻綱	アオサ属		30	30	10							
アオノリ属			+										
シオグサ属				+	+								
褐藻綱	セイヨウハバノリ		+										
紅藻綱	アマノリ属		+										
	フダラク			+	+								
	イギス科					+	5	40	10	5	5	+	
	ススカケベニ					+	+	+	+				
	イトグサ属						5	10	+	+	+		
	イワノカワ科						+	+	+	+	+		
	サビ亜科						+	+					
珪藻綱	珪藻綱		+										
出現種類数 (12)		-	5	3	3	2	5	5	4	3	3	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表5-2-1(4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-7)

平成20年2月3日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
	緑藻綱	アオサ属	10	+	+		+				
		アオノリ属	+								
		シオグサ属		+							
紅藻綱	アマノリ属		+								
	ススカケベニ						10	+	+	+	+
	ダリア科						+	40	10	+	+
	イギス科						+	+			
藍藻綱	藍藻綱						+	+			
珪藻綱	珪藻綱		+								
出現種類数(9)		-	4	2	1	-	5	4	2	2	2

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表5-2-1(5) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-1)

平成20年2月8日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	基質	ケーソン							
	珪藻綱	珪藻綱		+				+	+
出現種類数(1)		-	-	1	-	-	-	1	1

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表5-2-1(6) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-2)

平成20年2月8日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	アオサ属	+								
		アオノリ属	+	+	+						
		シオグサ属		+							
紅藻綱	アマノリ属		+								
	イトグサ属				+	+	+	+	+	+	+
珪藻綱	珪藻綱			+	+	5					
出現種類数(6)		-	3	3	3	2	1	1	1	1	1

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表5-2-1(7) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-6)

平成20年2月8日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7
水深(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	紅藻綱	アマノリ属	10					
		イトグサ属			+			
珪藻綱	珪藻綱		+					
出現種類数(3)		-	2	-	1	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 5 - 2 - 1 (8) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成20年2月8日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
	緑藻綱	アオノリ属		30	+	+	
	シオグサ属			5			
紅藻綱	シヨウジョウケノリ			45	30	+	
珪藻綱	珪藻綱		+	+	+	+	+
出現種類数 (4)		-	2	4	3	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 5 - 2 - 1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成20年2月2日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫								
	緑藻綱	アオサ属		10	20	5	+	+	10		+	+			
	アオノリ属		+				5	10							
	シオグサ属					+	5	15							
褐藻綱	フクロノリ			+	+		+	+							
	シダモク				+		15	15							
	タマハハキモク						15		+						
紅藻綱	アマノリ属		20	+			+								
	イソハギ			+	+	65	10	15	+	+	+				
	イギス科			+	+	+	5	10	20	80	+	+	+	+	+
	イトグサ属			15	5	+	+	+	+						
	ススカケベニ						50	25	70	20	+	+			
	イワノカワ科						+		+						
	サビ亜科								+						
	ムカデノリ										+				
藍藻綱	藍藻綱		+		+										
珪藻綱	珪藻綱				65	15	10	40	+						
出現種類数 (16)		-	4	5	8	6	12	10	8	4	5	2	1	1	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 5 - 2 - 1 (10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成20年2月2日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫							
	緑藻綱	アオサ属		15	80	+	15	+		+	+		
	ボタンアオサ		40										
褐藻綱	セイヨウハバノリ		+										
	シダモク					+	15	30					
	タマハハキモク						+						
紅藻綱	アマノリ属		10										
	フダラク			+	+	5							
	サビ亜科				+								
	イギス科				+	10	+	+	+	10	10	10	15
	ススカケベニ				+	10	65	40	85	45	15	5	
	イトグサ属				+	+	+	+	+	+			
	イソハギ				+	10	10	10	15				
	ツノマタ属				+								
	イワノカワ科						+						
出現種類数 (14)		-	4	2	4	8	8	5	5	4	2	2	1

注 1：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。
注 2：ボタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表 5 - 2 - 1 (11) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成20年2月2日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	ポタンアオサ		90								
アオノリ属			+									
アオサ属			+	90	95	90	25	+	+	+		
シオグサ属								+				
褐藻綱	ウスカヤモ		+									
	セイヨウハバノリ		+									
紅藻綱	アマノリ属		+									
	フダラク				5	5	+					
	イワノカワ科					+	+					
	イソハギ					+	+	5	10	5		
	イギス科					+	+	+	+	10	5	15
	サビ亜科					+						
	ススカケベニ						+	10	85	30	30	10
	イトグサ属							5	10	5	+	
藍藻綱	藍藻綱	+	+									
出現種類数 (15)		1	7	2	6	6	5	6	5	4	2	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2: ポタンアオサはアオサ属の他種である可能性がある。

表 5 - 2 - 1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成20年2月1日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質	ケーソン	泥											
	緑藻綱	アオサ属		30										
シオグサ属			5	+										
褐藻綱	カヤモノリ属		+											
	セイヨウハバノリ		+											
紅藻綱	アマノリ属		+											
	イトグサ属			+	+	+								
藍藻綱	藍藻綱		+	10	10	+								
珪藻綱	珪藻綱		30	20	30	30	10	+						
出現種類数 (8)		-	7	4	3	3	1	1	-	-	-	-	-	

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表 5 - 2 - 1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成20年2月1日

観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥						
	緑藻綱	アオサ属		+												
シオグサ属			+	+												
ミル				+												
紅藻綱	アマノリ属		+													
	フダラク		+	+		+										
	イトグサ属		30	70	50	20	10									
	アマノリ属		+													
	ムカデノリ属				+	+	+									
	タオヤキソウ					+	+	+	+	+	+					
	イギス科					+	+	20	40	60	40	20	10	+		
	カバノリ					+	+	20	20	+	+					
珪藻綱	珪藻綱		20						+	+	+					
出現種類数 (13)		1	6	4	3	5	5	3	4	4	3	1	1	1	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表5 - 2 - 1 (14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成20年2月1日

観察種 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質														
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		30												
	アオノリ属		10												
	シオグサ属		+												
	ハネモ属			+	+										
褐藻綱	カヤモノリ属		+												
	ワカメ			+	+										
紅藻綱	イトグサ属		30	20	20	+	+								
	ススカケベニ									+	+	+			
	タオヤギソウ									+	+	+			
	イギス科									60	40	30	+		
	イウノカワ科									+	+				
	カバノリ									+	+				
藍藻綱	藍藻綱		+	20	20	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
珪藻綱	珪藻綱		20	10	10	10	20	10							
出現種類数 (14)			7	5	5	3	3	2	1	6	6	4	2	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表5 - 2 - 1 (15) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成20年2月1日

観察場所	エコ岸壁													
	水深 (m)	壁面							遊水室					
		+1 ~ ±0	±0 ~ -1	-1 ~ -2	-2 ~ -3	-3 ~ -4	-4 ~ -5	-5 ~ -5.5	上室			下室		
種類名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
緑藻綱	アオサ属	30												
	アオノリ属	10	+											
	ハネモ属		+											
褐藻綱	シダモク					+								
紅藻綱	イトグサ属	30	+											
	ムカデノリ	+		+										
	フダラク	+		+										
藍藻綱	藍藻綱	+	20	40	10	+			+	20			+	
珪藻綱	珪藻綱	10	+						+					
出現種類数 (9)		7	5	3	1	2	-	-	-	2	1	-	-	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

動物

A．神戸沖処分場

調査地点 A - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、12 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30 ~ 80% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 m で軟体動物門のムギガイが 18 個体、節足動物門のヤドカリ科が 12 個体、水深 - 5 m で棘皮動物門のキヒトデが 11 個体確認された。

調査地点 A - 4 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m と水深 - 6 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 4 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 40 ~ 70% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 72 個体、水深 - 5 ~ 6 m で節足動物門のヤドカリ科が 11 ~ 19 個体確認された。

調査地点 A - 5 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 9 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 80 ~ 95% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 26 個体確認された。

調査地点 A - 7 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 11 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 70 ~ 90% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 20 個体、水深 - 1 m で棘皮動物門のイトマキヒトデが 16 個体確認された。

B．尼崎沖処分場

調査地点 B - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 6 m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 ~ 5 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 ± 0 m で軟体動物門のマガキとコウロエンカワヒバリガイがそれぞれ 45% と 30%、水深 - 4 m で環形動物門のカンザシゴカイ科 30%、水深 - 5 m で環形動物門多毛綱(泥巣)が 35% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 8 個体確認された。

調査地点 B - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 8 m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類はなかった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のタマキビで、水深 + 1 m で 6 個体確認された。

調査地点 B - 6 では、動物は水深 + 1 ~ - 5 m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 12 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 4 ~ 5 m で環形動物門多毛綱(泥巣)が 30 ~ 55% であった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビとムギガイで、それぞれ水深 + 1 m と水深 - 3 m で 3 個体確認された。

調査地点 B - 7 では、動物は水深 ± 0 ~ - 4 m に分布し、7 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 2 m で 4 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 3 m で環形動物門多毛綱（泥巣）が 45 ~ 55% であった。個体数では計数対象となる種類は出現しなかった。

C . 大阪沖処分場

調査地点 C - 1 では、動物は水深 + 1 ~ - 7 m と水深 - 9 m に分布し、15 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 6 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類はなかった。一桝あたりの個体数が最も多かったのは軟体動物門のアラレタマキビで、水深 + 1 m で 3 個体確認された。

調査地点 C - 2 では、動物は水深 + 1 ~ - 10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 1 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、水深 - 2 ~ 3 m と水深 - 5 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 80 ~ 100%、水深 - 7 m で節足動物門のサンカクフジツボが 40% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 3 m で軟体動物門のムギガイが 27 個体確認された。

調査地点 C - 3 では、動物は水深 ± 0 ~ - 9 m に分布し、17 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 5 m で 8 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類はなかった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 2 m で軟体動物門のムギガイが 15 個体確認された。

D . 泉大津沖処分場

調査地点D - 1では、動物は水深 + 1 ~ - 10mに分布し、19 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 ~ 4 mで10 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 4 mで原索動物門のホヤ綱（群体性）が 30~40%、水深 - 4 mで原索動物門のユウレイボヤ属が 30%、水深 - 6 ~ 10mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 30~60%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 66 個体確認された。

調査地点D - 2では、動物は水深 + 1 ~ - 12mに分布し、22 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 3 mで13 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 2 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30~50%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 52 個体、水深 - 3 mで棘皮動物門のイトマキヒトデが 16 個体確認された。

調査地点D - 3では、動物は水深 + 1 m ~ - 12mに分布し、18 種類が確認された。種類数が多かったのは水深 - 4 mで9 種類であった。被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 2 mで触手動物門のコケムシ綱が 30%、水深 - 3 ~ 4 mで環形動物のカンザシゴカイ科が 30%、水深 - 4 ~ 6 mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 30%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 + 1 mで軟体動物門のアラレタマキビが 42 個体確認された。

調査地点D - 5では、動物は水深 + 1 ~ - 5.5mに分布し、13 種類が確認された。種類数は壁面では 12 種類、遊水室内では上室において 8 種類、下室において 4 種類で、種類数が多かったのは壁面の水深 + 1 ~ ± 0 mで 9 種類であった。エコ岸壁において、被度 30%以上でみられた種類を示すと、水深 + 1 ~ ± 0 mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 60%、水深 - 4 ~ 5 mで環形動物門多毛綱（泥巢）が 30%、水深 - 5 ~ 5.5mで原索動物門のホヤ綱（群体性）と同じく原索動物門のシロボヤがそれぞれ 30%と 50%、遊水室内の上室の上面と下室の上面で環形動物門のカンザシゴカイ科で 30%であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、水深 - 1 ~ 4 mで棘皮動物門のイトマキヒトデが 14~35 個体確認された。遊水室内で個体数が最も多かったのもイトマキヒトデで、下室の上面で 3 ~ 10 個体確認された。

表5 - 2 - 2 (1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成20年2月3日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
環形動物門	カンザシゴカイ科	+	30	80	30	+	+					
触手動物門	フサコケムシ科		+									
軟体動物門	コシダカガンガラ		(1)	(2)								
	ムギガイ		(3)	(18)	(4)							
	レイシガイ				(1)							
節足動物門	イワフジツボ	+										
	ヤドカリ科		(7)	(12)	(2)	(3)	(3)	(4)	(2)			
	サンカクフジツボ					+	+					
棘皮動物門	キヒトデ		(1)			(4)	(11)	(7)	(2)	(1)	(2)	(2)
	イトマキヒトデ					(1)		(4)	(1)	(1)	(1)	(1)
	マナマコ							(1)		(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)			+	+							
	出現種類数 (12)	1	2	6	4	5	5	4	5	3	2	2

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成20年2月3日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
腔腸動物門	チギレイソギンチャク		+	+	+	+						
環形動物門	カンザシゴカイ科		40	60	70	40	+	+	+			
触手動物門	コケムシ綱		+	+								
軟体動物門	アラレタマキビ	(72)										
	カモガイ		(1)									
	ヨメガカサ		(1)									
	イボニシ		(1)									
	ムギガイ			(3)	(2)							
	カゴメガイ								(1)			
節足動物門	イワフジツボ	+	+									
	ヤドカリ科		(1)	(1)	(2)	(3)	(11)	(19)	(4)	(1)	(3)	
	サンカクフジツボ						+	+				
棘皮動物門	キヒトデ					(1)		(1)	(1)	(1)		
	イトマキヒトデ						(7)	(5)	(2)			
	マナマコ							(1)				
	サンショウウエ											(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)			+	+							
	出現種類数 (17)	2	4	4	6	5	4	4	6	5	2	1

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成20年2月3日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質											
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク	5	+									
	チギレイソギンチャク		+	+								
	イソギンチャク目		+	+								
	ハナギンチャク科											
環形動物門	カンザシゴカイ科		90	95	80	+						+
触手動物門	コケムシ綱		+	+	+							
	フサコケムシ科		10	+	+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(26)										
	イボニシ		(1)	(2)								
	ケガキ		+									
	シマメノウフネガイ				+	+	+					
	コシダカガンガラ					(5)	(2)					
	カゴメガイ					(1)						
節足動物門	イワフジツボ	+	+									
	ヤドカリ科		(2)									
	サンカクフジツボ					+	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ		(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)			
	マナマコ			(3)	(1)	(1)		(2)	(3)			
	キヒトデ			(2)	(3)			(1)	(4)	(3)	(6)	
	サンショウウエ					(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)			+	+		+	+				
	出現種類数 (21)	2	5	8	9	8	8	5	5	3	2	1

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成20年2月3日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
腔腸動物門		10								
ヒドロ虫綱				+	+					
チゲレイソギンチャク				+	+					
ハナギンチャク科										+
環形動物門			5	90	70					
カンザシゴカイ科										
触手動物門			+	+	+					
フサコケムシ科										
コケムシ綱				+	+					
軟体動物門	(20)									
アラレタマキビ										
コシダカガンガラ			(1)	(2)						
ミドリイガイ			+	+						
ムギガイ			(8)							
シマメノウフネガイ						+	+			
節足動物門	+									
イワフジツボ					(3)					
ヤドカリ科										
サンカクフジツボ						+	+			
棘皮動物門			(16)	(8)	(4)	(2)	(2)	(1)		(1)
イトマキヒトデ			(1)	(2)	(8)	(3)	(2)	(3)	(1)	
キヒトデ					(1)					
サンショウウニ						(2)	(1)			
マナモコ										
原索動物門				10	+					
ホヤ綱 (群体系)				+						
エボヤ										
出現種類数 (21)	2	1	7	11	10	5	5	2	1	2

注1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2 : () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (5) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成20年2月8日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
種類名	基質							
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
海綿動物門						5	+	
腔腸動物門		10	+					
チゲレイソギンチャク			+	+	+	+	+	
ヒドロ虫綱					+			
環形動物門				15	15	30	10	+
カンザシゴカイ科								
多毛綱 (泥巢)				+	20	25	35	25
軟体動物門	(8)							
アラレタマキビ								
マガキ		45						
コウロエンカワヒバリガイ		30	+	20				
ムラサキイガイ		+		+				
ミドリイガイ		+	10	5		+		
節足動物門			Balanus属	+				
原索動物門			シロボヤ	+		+	+	+
カタコウレイボヤ					+			
ホヤ綱 (単体系)					+			
-							+	
卵塊								
出現種類数 (16)	1	5	6	6	6	6	6	3

注1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2 : () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (6) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成20年2月8日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
種類名	基質									
	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫						
腔腸動物門		+	+	+	10	5	+	+		
チゲレイソギンチャク										
タテジマイソギンチャク		+	+							
環形動物門			+	20	5	10	20	15	5	+
多毛綱 (泥巢)										
カンザシゴカイ科				+	5			+	+	+
軟体動物門	(4)									
アラレタマキビ										
タマキビ	(6)									
マガキ		15								
ムラサキイガイ		+		+						
コウロエンカワヒバリガイ		+								
ミドリイガイ			25	+						
ムギガイ				(2)						
イボニシ				(2)						
節足動物門		+								
イワフジツボ										
Balanus属			+	+	+					
原索動物門			+							
スチエラ科										
カタコウレイボヤ							+			
出現種類数 (16)	2	6	6	8	4	2	3	3	2	2

注1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2 : () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (7) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成20年2月8日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質						
	ケーソン						
海綿動物門						+	
腔腸動物門		5	+	+			
			+	+	+	+	+
環形動物門			+	10	10	+	+
				15	25	55	30
触手動物門				+			
軟体動物門	(3)						
		10					
		10	5				
			15	5	+	+	
			5	+			
				(1)	(2)		
					(3)		
						(1)	
節足動物門		+					
			+				
棘皮動物門							(1)
原索動物門				+			
				+	+		
							+
-			+	+			+
出現種類数 (21)	1	4	8	12	7	6	6

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (8) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成20年2月8日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
種類名	基質					
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ブロック	巨礫	巨礫
腔腸動物門		+				
				+	+	
				+		10
環形動物門			+	55	45	5
軟体動物門		10				
			+			
節足動物門		+	5	+		
			3	4	2	2
出現種類数 (7)	-	3	3	4	2	2

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成20年2月2日

観察枠 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質													
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門			+	+	+	+								
腔腸動物門		+	+											
			+											
環形動物門			+											
						5	+		+					
触手動物門			5	10										
軟体動物門	(3)													
				(1)										
								(2)						
節足動物門			(1)								(1)			
									+	+				
棘皮動物門								(1)						(1)
									(1)	(1)				(1)
原索動物門				5	+									
					+									
						2	2	2	3	2	1	-	2	-
出現種類数 (15)	1	1	6	4	3	2	2	2	3	2	1	-	2	-

注1：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
 注2：() 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

観察枠 No.		平成20年2月2日											
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門					+	+	5					
腔腸動物門	イソギンチャク目			+									
扁形動物門	ヒラムシ目										(1)		
環形動物門	カンザシゴカイ科			5	95	100	25	80	25	+	+	+	
	多毛綱 (泥棲)									+			
触手動物門	コケムシ綱			+	+								
軟体動物門	カラマツガイ	(3)											
	マガキ		(1)										
	ムギガイ		+										
	イボニシ			(1)	(4)	(27)			(5)				
	レイシガイ			(1)									
	レイシガイ				(8)			(2)					
	コシダカガンガラ				(5)	(1)			(2)				
	ナミマガシワ科							+					
	サザエ						(1)						
節足動物門	サンカクフジツボ			+		+	+	+	15	40	+		
	ヤドカリ科			(1)		(1)							
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(3)					(2)	(1)	(1)	(2)
	マナマコ							(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
	キヒトデ									(1)	(1)	(1)	(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+		+					
	出現種類数 (21)	1	2	8	7	7	5	6	6	5	5	4	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (11) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

観察枠 No.		平成20年2月2日										
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門			+	5							
腔腸動物門	Anthopleura属			+								
	タデジマイソギンチャク			+								
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	15	15	+	+	+	+	+	+
	多毛綱 (泥棲)						+	+	5	+	+	+
	ミスヒキゴカイ						+	+				
触手動物門	コケムシ綱				+							
軟体動物門	カラマツガイ		(4)							+		
	ムギガイ				(15)	(9)		(5)	(2)			
節足動物門	ヤドカリ類					(2)						
	サンカクフジツボ					+	+	5	20	15		
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)		(1)		(3)	(3)	(1)	(1)
	キヒトデ					(1)		(3)	(1)	(2)	(1)	(1)
	マナマコ						(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+								
	スデエラ科			+								
-	卵塊					+		+				
	出現種類数 (17)	-	1	5	6	7	7	8	7	5	5	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

観察枠 No.		平成20年2月1日												
水深 (m)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		+	+										
	ヒドロ虫綱			+	+									
	チギレイソギンチャク				+	10	+	+						
	シオガマサンゴ												+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	多毛綱 (泥棲)			+	+	+	+	+	10	30	40	40	60	60
触手動物門	フサコケムシ科			+	5	10	+							
軟体動物門	コケムシ綱								+	+	+	+	+	
	アラレタマキビ	(66)												
	ケガキ		+											
	イボニシ		(3)											
	ミドリイガイ			5	5	+								
	ウミフクロウ					(2)	(5)	(7)	(1)	(2)	(1)			
	シマメノウフネガイ							+		+				
節足動物門	イワフジツボ		+											
棘皮動物門	イトマキヒトデ										(1)		(1)	(2)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			30	30	40	40	20	10	10	+	+	+	
	シロボヤ			10	20	20	+							
	ユウレイボヤ属			+	10	10	30	10	+	+	+	+	+	
	出現種類数 (19)	1	4	8	9	10	10	7	7	7	7	6	5	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

		平成20年2月1日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	泥						
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	ヒドロ虫綱			+	+	+										
	チギレイソギンチャク				+	+										
	シオガマサンゴ											+	+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	30	50	10	+	+								
	多毛綱 (泥棲)					+	+	+	+	+	+	10	20	20	20	
触手動物門	コケムシ綱		+	+	+	+	10	10								
	アミコケムシ科								+	+	+	10	+	+	+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(52)														
	カモガイ	(4)														
	カラマツガイ	(7)														
	カモガイ	(6)														
	ムギカガイ					(7)		(6)								
	コシタカガンガラ					(2)		(2)								
	シマメノウフネガイ								+							
節足動物門	イワフジツボ		+													
	ヤドカリ科					(2)			(2)	(2)	(1)	(3)				
	サンカクフジツボ					+	10	+	+	+	+					
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(16)	(3)	(5)	(4)			(2)		(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)		+	+	+	+										
	シロボヤ					+	+									
	ユウレイボヤ属					+	+									
	出現種類数 (22)	5	4	4	7	13	5	7	6	4	4	5	3	4	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

		平成20年2月1日														
観察枠 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+											
	ヒドロ虫綱			5	5	5	+	+								
	チギレイソギンチャク			+	+	+	+									
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	30	30	10	+							
	多毛綱 (泥棲)			+	20	30	30	30	30	+	+	+	+	+	+	+
触手動物門	コケムシ綱		+	30	30	10	+									
	フサコケムシ科				+	+	+									
	アミコケムシ科												+	+	5	10
軟体動物門	アラレタマキビ	(42)														
	カモガイ	(1)														
	カラマツガイ		(4)													
	ウミフクロウ						(1)	(4)	(1)							
	レイシガイ									(1)						
節足動物門	イワフジツボ	+	+													
	サンカクフジツボ									+	+					
棘皮動物門	イトマキヒトデ							(3)	(2)	(1)	+	(1)	(6)	(4)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			10	10	10	+	+	+	+	+	+	+	+		
	ユウレイボヤ属					+	+	+	+							
	出現種類数 (18)	3	4	6	7	8	9	7	5	4	4	4	4	4	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表5 - 2 - 2 (15) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

		平成20年2月1日													
観察場所		エコ岸壁							遊水室						
水深 (m)		+1 ± 0	±0 -1	-1 -2	-2 -3	-3 -4	-4 -5	-5 -5.5	上室			下室			
種類名	基質または部位	網 産網 石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク	+												
	チギレイソギンチャク		+						+	+					
	ヒドロ虫綱														
環形動物門	カンザシゴカイ科	60	20	20	20	10	+	10	30	+	+	30	+		
	多毛綱 (泥棲)		+	10	10	20	30								
触手動物門	コケムシ綱	20	20	20	+	+	+	+	20		+	10			
軟体動物門	ウミフクロウ	(4)	(5)	(2)	(2)	(1)	(2)								
	ミドリイガイ	+	+	+				+	+						
棘皮動物門	イトマキヒトデ	(2)	(6)	(14)	(35)	(15)	(4)		rr			r			
	マナマコ				(1)										
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)	+	+					30	10		10				
	ユウレイボヤ属	+	+	+	+										
	シロボヤ	+						50	+		10	+			
	出現種類数 (13)	9	8	7	7	5	5	6	8	1	4	4	1	-	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。
注3: rr = 1 - 2個体、r = 3 - 10個体、c = 11 - 50個体、cc = 51個体以上を示す。

魚類

A．神戸沖処分場

神戸沖処分場では、全ての地点で魚類は確認されなかった。

B．尼崎沖処分場

尼崎沖処分場では、全ての地点で魚類は確認されなかった。

C．大阪沖処分場

大阪沖処分場では、全ての地点で魚類は確認されなかった。

D．泉大津沖処分場

調査地点D - 1、2、3では魚類は確認されなかった。

調査地点D - 5では2種類が確認され、エコ岸壁の遊水室内、周辺および貫通孔でそれぞれ1種類であった。遊泳室内ではメバルが1～2個体、エコ護岸周辺ではスズメダイが3～10個体、貫通孔ではメバルが3～10個体確認された。

表5 - 2 - 3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 2)

平成20年2月3日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	出現なし					

表5 - 2 - 3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 4)

平成20年2月3日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
	出現なし					

表5 - 2 - 3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 5)

平成20年2月3日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
	出現なし					

表5 - 2 - 3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A - 7)

平成20年2月3日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8
種類名	基質	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
	出現なし				

表5 - 2 - 3 (5) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 1)

平成20年2月8日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	出現なし			

表5 - 2 - 3 (6) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 2)

平成20年2月8日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫
	出現なし				

表 5 - 2 - 3 (7) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 6)

平成20年2月8日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	出現なし			

表 5 - 2 - 3 (8) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B - 7)

平成20年2月8日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4
種類名	基質	ケーソン	ブロック 巨礫
	出現なし		

表 5 - 2 - 3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 1)

平成20年2月2日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	出現なし					

表 5 - 2 - 3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 2)

平成20年2月2日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	出現なし					

表 5 - 2 - 3 (11) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C - 3)

平成20年2月2日

水深 (m)		±0 ~ - 2	- 2 ~ 4	- 4 ~ 6	- 6 ~ 8	- 8 ~ 9
種類名	基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
	出現なし					

表 5 - 2 - 3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 1)

平成20年2月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10	-10 ~ 11
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
	出現なし						

表 5 - 2 - 3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 2)

平成20年2月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10	-10 ~ 12	-12 ~ 13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫
	出現なし							

表 5 - 2 - 3 (14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 3)

平成20年2月1日

水深 (m)		±0 ~ -2	-2 ~ 4	-4 ~ 6	-6 ~ 8	-8 ~ 10	-10 ~ 12	-12 ~ 13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 泥
	出現なし							

表 5 - 2 - 3 (15) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D - 5)

平成20年2月1日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
	魚類	メバル (6~10)	rr	r
	スズメダイ (6~8)		r	
出現種類数 (2)		1	1	1

注1 : rr = 1 ~ 2 個体、r = 3 ~ 10 個体、c = 11 ~ 50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取及び分析

植物の粹取り分析結果を表5 - 2 - 4、動物の粹取り分析結果を表5 - 2 - 5に示した。

植物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では14種類が出現し、総湿重量 566.87 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 552.32 g / 0.25m² と最も多かった。

中層では12種類が出現し、総湿重量 145.35 g / 0.25m² であり、藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが 68.39 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では13種類が出現し、総湿重量 71.04 g / 0.25m² であり、紅藻綱のショウジョウケノリが 27.36 g / 0.25m² と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では10種類が出現し、総湿重量 224.44 g / 0.25m² であり、緑藻綱のボタンアオサが 221.94 g / 0.25m² で最も多かった。

中層では11種類が出現し、総湿重量 94.68 g / 0.25m² であり、紅藻綱のススカケベニが 34.51 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では10種類が出現し、総湿重量は 196.68 g / 0.25m² であり、紅藻綱のススカケベニが 88.53 g / 0.25m² と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では7種類が出現し、総湿重量は 89.78 g / 0.25m² であり、紅藻綱のショウジョウケノリが 85.12 g / 0.25 m² と最も多かった。

中層では13種類が出現し、総湿重量は 21.82 g / 0.25m² であり、紅藻綱のショウジョウケノリが 19.52 g / 0.25 m² と最も多かった。

下層では13種類が出現し、総湿重量は 38.13 g / 0.25m² であり、紅藻綱のカバノリが 27.16 g / 0.25m² と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では10種類が出現し、総湿重量は 10.68 g / 0.25m² であり、緑藻綱のアオノリ属が 4.32 g / 0.25m² と最も多かった。

中層では9種類が出現し、総湿重量は 0.96 g / 0.25m² であり、紅藻綱のキヌイトフタツガサネが 0.89 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では7種類が出現したが、それぞれ僅かに確認されたのみであり、総湿重量は 0.01 g 未満 / 0.25m² であった。

表 5 - 2 - 4 棗取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ±0.0m)	中 (M.W.L. - 2.0m)	下 (M.W.L. - 4.0m)	
神戸沖 A - 2 (2月3日)	出現種類数	14	12	13	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	566.87	145.35	71.04	
	優占種	第1位	ホトアオイ 552.32 (97)	タマハキモク 68.39 (47)	ショウジ ヨウケリ 27.36 (39)
		第2位	コスシ フシツキ 7.61 (1)	アサ属 34.21 (24)	キヌイトフツカ サネ 18.16 (26)
第3位		アサ属 5.37 (1)	イリス属 24.39 (17)	アサカヘニ 11.83 (17)	
大阪沖 C - 2 (2月2日)	出現種類数	10	11	10	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	224.44	94.68	196.68	
	優占種	第1位	ホトアオイ 221.94 (99)	アサカヘニ 34.51 (36)	アサカヘニ 88.53 (45)
		第2位	アサリ属 1.37 (1)	フダク 24.24 (26)	シダモク 80.44 (41)
第3位		アサ属 0.54 (+)	アサアサ 13.94 (15)	イハキ 25.23 (13)	
泉大津沖 D - 2 (2月1日)	出現種類数	7	13	13	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	89.78	21.82	38.13	
	優占種	第1位	ショウジ ヨウケリ 85.12 (95)	ショウジ ヨウケリ 19.52 (89)	加ノリ 27.16 (71)
		第2位	フダク 3.19 (4)	ムカデノリ 1.25 (6)	イトクサ属 6.89 (18)
第3位		アサ属 0.80 (1)	キョウヒモ 0.46 (2)	フツカ サネ属 1.79 (5)	
泉大津沖 D - 3 (2月1日)	出現種類数	10	9	7	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	10.68	0.96	+	
	優占種	第1位	アサリ属 4.32 (40)	キヌイトフツカ サネ 0.89 (93)	アサリ属 シオクサ属 ハネモ属 キヌイトクサ属 キヌイトフツカ サネ イトクサ属 珪藻綱 + (-)
		第2位	キヌイトフツカ サネ 3.51 (33)	シオクサ属 0.03 (3)	
第3位		ショウジ ヨウケリ 1.54 (14)	ミル 0.02 (2)		

注1) 表中の+は0.01g未満を示す。

注2) ()内の数値は総量に対する占有率を示し、+は1%未満を、-は定量不能を示す。

動物

1．神戸沖処分場（A - 2）

上層では 30 種類が出現し、総個体数 1,736 個体/0.25m²、総湿重量 8.36 g /0.25m²であった。個体数では節足動物門のユスリカ科幼虫が 1,267 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のカラマツガイが 2.36 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 86 種類が出現し、総個体数 6,955 個体/0.25m²、総湿重量 252.18 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイがそれぞれ 5,088 個体/0.25m²、117.12 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 41 種類が出現し、総個体数 2,255 個体/0.25m²、総湿重量 165.24 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、節足動物門のサンカクフジツボがそれぞれ 997 個体/0.25m²、86.02 g /0.25m²と最も多かった。

2．大阪沖処分場（C - 2）

上層では 26 種類が出現し、総個体数 19,891 個体/0.25m²、総湿重量 100.86 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムラサキガイが 19,586 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のマガキが 81.07 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 51 種類が出現し、総個体数 2,862 個体/0.25m²、総湿重量 493.67 g /0.25m²であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが 2,177 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では軟体動物門のレイシガイが 370.72 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 58 種類が出現し、総個体数 664 個体/0.25m²、総湿重量 67.51 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムギガイが 168 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のイトマキヒトデが 14.05 g /0.25m²と最も多かった。

3．泉大津沖処分場（D - 2）

上層では 25 種類が出現し、総個体数 214 個体/0.25m²、総湿重量 1.16 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のムラサキガイが 81 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では環形動物門のアシナガゴカイが 0.53 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 55 種類が出現し、総個体数 1,409 個体/0.25m²、総湿重量 27.69 g /0.25m²であった。個体数では腔腸動物門のイソギンチャク目が 297 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では節足動物門のサンカクフジツボが 12.62 g /0.25m²と最も多かった。

下層では 49 種類が出現し、総個体数 667 個体/0.25m²、総湿重量 49.58 g /0.25m²であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが 224 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では棘皮動物門のイトマキヒトデが 34.64 g /0.25m²と最も多かった。

4．泉大津沖処分場（D - 3）

上層では 29 種類が出現し、総個体数 883 個体/0.25m²、総湿重量 4.64 g /0.25m²であった。個体数と湿重量では、軟体動物門のムラサキガイがそれぞれ 648 個体/0.25m²、1.28 g /0.25m²と最も多かった。

中層では 57 種類が出現し、総個体数 2,032 個体/0.25m²、総湿重量 54.90/0.25m²であった。個体数では節足動物門のホソヨコエビが 543 個体/0.25m²と最も多く、湿重量では触手動物門の

フサコケムシが 19.74 g / 0.25m² と最も多かった。

下層では 58 種類が出現し、総個体数 2,118 個体 / 0.25m²、総湿重量 47.08 g / 0.25m² であった。個体数では腔腸動物門のイソギンチャク目が 472 個体 / 0.25m² と最も多く、湿重量では軟体動物門のレイシガイが 12.88 g / 0.25m² と最も多かった。

表 5 - 2 - 5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L. ± 0.0m)	中 (M.W.L. - 2.0m)	下 (M.W.L. - 4.0m)	
神戸沖 A - 2 (2月3日)	出現種類数(種類)	30	86	41	
	総個体数 (個体/0.25m ²)	1,736	6,955	2,255	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	8.36	252.18	165.24	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ユスリカ科幼虫 1,267 (73)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 5,088 (73)	サカカフジ' ツ株' 997 (44)
		第2位	シロクワミゼミ 96 (6)	Ophiodromus sp. 254 (4)	ヒキ' ガイ 597 (26)
		第3位	シロダ' ラシリス クマドリゴ' ガイ 71 (4)	ヒキ' ガイ 234 (3)	クマツ株' 264 (12)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	カラマツ' ガイ 2.36 (28)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 117.12 (46)	サカカフジ' ツ株' 86.02 (52)
第2位		カハダ' ヒザ' ラカ' イ属 1.54 (18)	ス' ス' 初キ' カ' ニ 24.54 (10)	イマキヒト' テ 45.57 (28)	
第3位		クマドリゴ' ガイ 1.43 (17)	ヒキ' ガイ 16.22 (6)	ヒキ' ガイ 15.52 (9)	
大阪沖 C - 2 (2月2日)	出現種類数(種類)	26	51	58	
	総個体数 (個体/0.25m ²)	19,891	2,862	664	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	100.86	493.67	67.51	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキ' ガイ 19,586 (98)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 2,177 (76)	ヒキ' ガイ 168 (25)
		第2位	ユスリカ科幼虫 71 (+)	ヒキ' ガイ 207 (7)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 108 (16)
		第3位	クマドリゴ' ガイ 57 (+)	ヒメ' ム' ガイ 55 (2)	Thelepus sp. 71 (11)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	マ' カ' キ 81.07 (80)	レイシ' ガイ 370.72 (75)	イマキヒト' テ 14.05 (21)
第2位		ムラサキ' ガイ 11.52 (11)	イマキヒト' テ 51.28 (10)	サカカフジ' ツ株' 12.25 (18)	
第3位		カラマツ' ガイ 4.96 (5)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 41.30 (8)	コシダ' カ' ガ' ラ 10.58 (16)	
泉大津沖 D - 2 (2月1日)	出現種類数(種類)	25	55	49	
	総個体数 (個体/0.25m ²)	214	1,409	667	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	1.16	27.69	49.58	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキ' ガイ 81 (38)	イギ' ン' チャク' 目 297 (21)	ウスカラシ' オ' ヲ' ガ' イ 224 (34)
		第2位	モクス' ヨ' ヨ' ビ' 属 28 (13)	Polydora sp. 241 (17)	セ' ウ' ク' リ' 属 79 (12)
		第3位	ウスカラシ' オ' ヲ' ガ' イ 27 (13)	Ophiodromus sp. 157 (11)	Polydora sp. 56 (8)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	ア' シ' カ' ン' ゴ' ガ' イ 0.53 (46)	サカカフジ' ツ株' 12.62 (46)	イマキヒト' テ 34.64 (70)
第2位		ウスカラシ' オ' ヲ' ガ' イ 0.19 (16)	ヒキ' ガイ 2.32 (8)	ウスカラシ' オ' ヲ' ガ' イ 4.24 (9)	
第3位		モクス' ヨ' ヨ' ビ' 属 0.14 (12)	イギ' ン' チャク' 目 2.16 (8)	ヒキ' ガイ 4.06 (8)	
泉大津沖 D - 3 (2月1日)	出現種類数(種類)	29	57	58	
	総個体数 (個体/0.25m ²)	883	2,032	2,118	
	総湿重量 (g/0.25m ²)	4.64	54.90	47.08	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキ' ガイ 648 (73)	ホ' ヨ' ヨ' ビ' 543 (27)	イギ' ン' チャク' 目 472 (22)
		第2位	マ' ヨ' コ' ゴ' ガ' イ 64 (7)	イ' ヨ' ヨ' ビ' 属 443 (22)	ホ' ヨ' ヨ' ビ' 262 (12)
		第3位	モクス' ヨ' ヨ' ビ' 属 28 (3)	IV' 加納ガザ ショ' ガイ 156 (8)	Ophiodromus sp. 253 (12)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	ムラサキ' ガイ 1.28 (28)	フサコケ' ム' シ 19.74 (36)	レイシ' ガイ 12.88 (27)
第2位		サカカフジ' ツ株' 1.06 (23)	モク' シ' チ' ヲ' ム' シ' 科 5.61 (10)	イギ' ン' チャク' 目 8.64 (18)	
第3位		モク' シ' チ' ヲ' ム' シ' 科 0.45 (10)	ス' ス' 初キ' カ' ニ 5.11 (9)	ヒキ' ガイ 4.61 (10)	

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、+は1%未満を示す。

第6章 考察

1. 水質と付着生物の分布

水質と付着生物の分布の対応を検討するため、水質と付着生物の両方を調査した地点を対象に、下記の水質条件を満たす水深帯と付着生物の分布水深を表6 - 1に整理した。

〔水質条件〕

海藻：相対光量が1%以上（杉本・坂本編「海洋環境工学」（1985）の藻類生育条件）

動物：DOが4.3mg/L以上（水産用水基準「水産用水基準（2005年版）」の内湾（夏季）の基準値）

(1) 相対光量と海藻の分布

神戸沖

海藻の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、A - 2、4、5では5 m以浅、A - 7では6 m以浅であった。全地点とも海藻の分布水深帯と概ね一致した。

尼崎沖

海藻の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、B - 1、6、7では3 m以浅、B - 2では2 m以浅であった。B - 7の1 mでは年間を通じて海藻の分布がみられたが、他の地点では年間を通した分布はなかった。

大阪沖

海藻の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、C - 1では6 m以浅、C - 2、3では7 m以浅であった。海藻の分布水深帯は、年間を通し、C - 1では4 m以浅と条件を満たしている水深帯より少し浅かったが、C - 2、3では条件を満たした水深帯と概ね一致した。

泉大津沖

海藻の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、両地点とも4 m以浅であった。海藻の分布水深帯は、年間を通してD - 1では0 mのみ分布がみられたが、D - 2では条件を満たしている水深帯と概ね一致し、水深6 ~ 7 mでも分布がみられた。

(2) DOと付着動物の分布

神戸沖

DOにおいて年間を通して水産用水基準を満たした水深帯は、A - 2では6 m以浅、A - 4では9 m以浅、A - 5では7 m以浅、A - 7では5 m以浅であり、全地点において秋季と冬季に海底まで条件を満たした。付着動物は、年間を通し、A - 2、4、5では海底付近まで、A - 7は6 mまで分布がみられ、条件を満たした水深帯と概ね一致した。

尼崎沖

DOにおいて年間を通して水産用水基準を満たした水深帯は、B - 1、7では1 m以浅、B - 2では3 m以浅、B - 6では2 m以浅であり、全地点において冬季のみ海底まで条件を満たした。付着動物は、年間を通し、全地点とも、条件を満たした水深帯より深い海底付近まで分布がみられた。

大阪沖

DOにおいて年間を通して水産用水基準を満たした水深帯は、C - 1では7 m以浅、C - 2では5 m以浅であり、全地点において冬季に、C - 2は秋季に、C - 3は夏季および秋季においても海底まで条件を満たした。付着動物は、年間を通し、全地点において、海底付近まで分布がみられた。条件を満たした水深帯と付着動物の分布水深帯はC - 1では概ね一致した。

泉大津沖

DOにおいて年間を通して水産用水基準を満たした水深帯は、D - 1で3 m以浅、D - 2で5 m以浅であり、各地点とも冬季のみ海底まで条件を満たした。条件を満たす水深帯が最も浅い時期は夏季であった。付着動物は、年間を通し、各地点とも、条件を満たした水深帯より深い海底付近まで分布がみられた。

表6-1 付着生物の分布条件を満たす水深帯と付着生物の分布水深(m)

調査場所	調査地点	調査時期	海藻		付着動物	
			生育条件 ¹⁾	分布水深	生息条件 ²⁾	分布水深
神戸沖	A-2	春季	0~6	0~8	0~7	0~10 (海底)
		夏季	0~5	0~8	0~6	0~9
		秋季	0~11	0~5	0~15 (海底)	0~10 (海底)
		冬季	0~7	0~8	0~15 (海底)	0~10 (海底)
		周年	0~5	0~5	0~6	0~9
	A-4	春季	0~6	0~8	0~9	0~10 (海底)
		夏季	0~5	0~8	0~11	0~10 (海底)
		秋季	0~11	0~6	0~16 (海底)	0~10 (海底)
		冬季	0~8	0~8	0~16 (海底)	0~10 (海底)
		周年	0~5	0~6	0~9	0~10 (海底)
	A-5	春季	0~6	0~9	0~7, 9	0~9
		夏季	0~5	0~1, 4~8	0~8	0~9
		秋季	0~7	0~2, 4~5	0~10 (海底)	0~10 (海底)
		冬季	0~7	0~9	0~10 (海底)	0~10 (海底)
		周年	0~5	0~1, 4~5	0~7	0~9
	A-7	春季	0~6	0~8 (海底)	0~7	0~8 (海底)
		夏季	0~6	0~1, 4~6	0~5	0~6
		秋季	0~9 (海底)	0~1, 4~5	0~9 (海底)	0~8 (海底)
		冬季	0~7	0~2, 4~8 (海底)	0~8 (海底)	0~8 (海底)
		周年	0~6	0~1, 4~5	0~5	0~6
尼崎沖	B-1	春季	0~3	なし	0~4	0~6 (海底)
		夏季	0~4	なし	0~3	0~6 (海底)
		秋季	0~5 (海底)	なし	0~1	0~6 (海底)
		冬季	0~4	1, 5~6 (海底)	0~5 (海底)	0~6 (海底)
		周年	0~3	なし	0~1	0~6 (海底)
	B-2	春季	0~2	なし	0~5	0~8 (海底)
		夏季	0~4 (海底)	なし	0~3	0~8 (海底)
		秋季	0~4 (海底)	0, 2	0~3	0~8 (海底)
		冬季	0~6 (海底)	0~8 (海底)	0~6 (海底)	0~8 (海底)
		周年	0~2	なし	0~3	0~8 (海底)
	B-6	春季	0~5	なし	0~4	0~5 (海底)
		夏季	0~3	なし	0~2	0~5 (海底)
		秋季	0~7 (海底)	なし	0~2	0~5 (海底)
		冬季	0~5	0, 2	0~7 (海底)	0~5 (海底)
		周年	0~3	なし	0~2	0~5 (海底)
	B-7	春季	0~3	1~2	0~3	0~4 (海底)
		夏季	0~5 (海底)	1, 3	0~3	0~4 (海底)
		秋季	0~5 (海底)	1~3	0~1	0~4 (海底)
		冬季	0~4	0~4 (海底)	0~5 (海底)	0~4 (海底)
		周年	0~3	1	0~1	0~4 (海底)
大阪沖	C-1	春季	0~7	0~10 (海底)	0~8	0~10 (海底)
		夏季	0~6	0~9	0~7	0~10 (海底)
		秋季	0~8	0~4	0~9	0~10 (海底)
		冬季	0~8	0~10 (海底)	0~13 (海底)	0~7, 9
		周年	0~6	0~4	0~7	0~7, 9
	C-2	春季	0~8	0~10 (海底)	0~5	0~10 (海底)
		夏季	0~11 (海底)	0~10 (海底)	0~8	0~10 (海底)
		秋季	0~7	0~7	0~14 (海底)	0~10 (海底)
		冬季	0~8	0~10 (海底)	0~12 (海底)	0~10 (海底)
		周年	0~7	0~7	0~5	0~10 (海底)
	C-3	春季	0~8	0~9 (海底)	0~5	0~9 (海底)
		夏季	0~8 (海底)	0~9 (海底)	0~8 (海底)	1~9 (海底)
		秋季	0~8 (海底)	0~8	0~6, 8 (海底)	0~9 (海底)
		冬季	0~7	0~9 (海底)	0~10 (海底)	0~9 (海底)
		周年	0~7	0~8	0~5	1~9 (海底)
泉大津沖	D-1	春季	0~8	0~1	0~5	0~11 (海底)
		夏季	0~4	0~1	0~3	0~10
		秋季	0~11	0	0~10	0~10
		冬季	0~8	0~5	0~13 (海底)	0~10
		周年	0~4	0	0~3	0~10
	D-2	春季	0~8	0~10	0~6	0~12
		夏季	0~4	0~10	0~5	0~12
		秋季	0~9	0~4, 6~7	0~6	0~12
		冬季	0~8	0~11	0~11 (海底)	0~12
		周年	0~4	0~4, 6~7	0~5	0~12

水質測定の水深は海面基準、目視観察の水深は平均水面基準

条件1) 海面到達光量が1%以上 (杉本 坂本編『海洋環境工学』(1985)の藻類生育条件より)

2) DOの値が4.3mg/L以上 (水産用水基準(「水産用水基準(2005年版)」の内湾(夏季)の基準値より)

2. 生物調査結果に基づく総合評価

当生物調査のうち、定量分析の結果に基づき、各処分場護岸の生物分布について総合評価を行った。

(1) 評価対象

処分場護岸の生物分布を評価するため、海藻および付着動物の2生物群、並びに両者を合わせた付着生物全体を評価対象とした。

(2) 評価項目

海藻は種類数および湿重量、付着動物は種類数、個体数および湿重量、付着生物全体は種類数および湿重量を評価項目とした。

(3) 評価方法

護岸付近の海域環境が異なることから、総合評価は各処分場毎で行うこととした。

評価方法は、評価対象毎に各評価項目のデータを3つの水深帯（上層：平均水面、中層：平均水面下2 m、下層：平均水面下4 m）および4つの調査時期（春季、夏季、秋季、冬季）別に集計（小数第1位を四捨五入）した。

また、年間を通じた3水深帯の平均値（表中の最下欄の「平均」）を比較する対照値とし、この値の120%以上を示すデータを生物分布が豊富であると判断し、色付け（海藻は緑色、動物は水色、付着生物全体は桃色）を施した。

(4) 評価結果

各処分場護岸毎に評価結果を示した。

神戸沖

神戸沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表6 - 2 - 1に示した。

海藻では、種類数は冬季に、湿重量は春季と冬季に多い傾向がみられた。上層の冬季が種類数、湿重量とも多かった。付着動物では、個体数、湿重量とも春季に多い傾向がみられた。種類数は中層で全期において多く、個体数、湿重量は上層、中層では春季に多かった。付着生物全体では、種類数は年間を通して中層に多く、湿重量は春季の上層と中層に多い傾向にあった。

表6 - 2 - 1 神戸沖処分場護岸 (A - 2) の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	4	54	34	26,054	757	38	811
	夏季	8	38	29	1,213	64	37	102
	秋季	8	7	29	481	15	37	22
	冬季	14	567	30	1,736	8	44	575
	平均	9	167	31	7,371	211	39	378
中層	春季	8	315	72	15,612	409	80	724
	夏季	9	8	80	9,039	260	89	268
	秋季	5	4	92	2,200	73	97	76
	冬季	12	145	86	6,955	252	98	398
	平均	9	118	83	8,452	248	91	366
下層	春季	10	149	55	5,314	129	65	277
	夏季	8	11	56	1,086	92	64	103
	秋季	8	+	53	2,270	177	61	177
	冬季	13	71	41	2,255	165	54	236
	平均	10	58	51	2,731	141	61	198
3層平均	春季	7	173	54	15,660	431	61	604
	夏季	8	19	55	3,779	138	63	158
	秋季	7	5	58	1,650	88	65	92
	冬季	13	261	52	3,649	142	65	403
	平均	9	115	55	6,185	200	64	314

注) + は1g/0.25m²未満を示す

色付の箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す

大阪沖

大阪沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表6 - 2 - 2に示した。

海藻では、種類数は冬季に、湿重量は春季に多い傾向がみられた。下層の春季に種類数、湿重量とも多かった。付着動物では、個体数は春季と冬季に、湿重量は春季と夏季に多い傾向がみられた。種類数は下層の秋季に多く、個体数は上層の冬季に、湿重量は上層の夏季に多かった。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表6 - 2 - 2 大阪沖処分場護岸(C - 2)の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	4	157	33	15,427	1,754	37	1,911
	夏季	4	13	29	7,731	3,120	33	3,134
	秋季	4	1	24	406	33	28	34
	冬季	10	224	26	19,891	101	36	325
	平均	6	99	28	10,864	1,252	34	1,351
中層	春季	7	203	53	3,509	82	60	285
	夏季	9	174	62	1,656	22	71	196
	秋季	6	+	46	838	11	52	11
	冬季	11	95	51	2,862	494	62	588
	平均	8	118	53	2,216	152	61	270
下層	春季	12	525	68	5,044	107	80	631
	夏季	10	169	50	846	22	60	191
	秋季	11	9	78	910	45	89	55
	冬季	10	197	58	664	68	68	264
	平均	11	225	64	1,866	60	74	285
3層平均	春季	8	295	51	7,993	647	59	942
	夏季	8	119	47	3,411	1,055	55	1,173
	秋季	7	5	49	718	30	56	33
	冬季	10	172	45	7,806	221	55	393
	平均	8	148	48	4,982	488	56	635

注) + は1g/0.25m²未満を示す

色付の箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す

泉大津沖

泉大津沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表6 - 2 - 3、表6 - 2 - 4に示した。

1) 傾斜護岸 (D - 2)

D - 2において、海藻では、種類数は冬季に多い傾向がみられ、湿重量は上層の冬季と中層および下層の春季に多かった。付着動物では、種類数は中層の冬季に多く、個体数は上層と中層の春季および夏季に、湿重量は上層の春季および夏季に多かった。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表6 - 2 - 3 泉大津沖処分場護岸 (D - 2) の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	5	4	36	25,158	4,470	41	4,473
	夏季	4	1	30	22,193	7,391	34	7,392
	秋季	6	1	22	238	3	28	3
	冬季	7	90	25	214	1	32	91
	平均	6	24	28	11,951	2,966	34	2,990
中層	春季	10	95	44	8,150	495	54	591
	夏季	9	28	52	10,235	78	61	105
	秋季	6	+	39	804	28	45	28
	冬季	13	22	55	1,409	28	68	50
	平均	10	36	48	5,150	157	57	193
下層	春季	13	321	44	438	66	57	388
	夏季	9	131	45	564	75	54	206
	秋季	7	1	40	1,957	34	47	35
	冬季	13	38	49	667	50	62	88
	平均	11	123	45	907	56	55	179
3層平均	春季	9	140	41	11,249	1,677	51	1,817
	夏季	7	53	42	10,997	2,514	50	2,568
	秋季	6	1	34	1,000	22	40	22
	冬季	11	50	43	763	26	54	76
	平均	9	61	40	6,002	1,060	49	1,121

注) + は1g/0.25m²未満を示す

色付の箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す

2) 直立護岸 (D - 3)

D - 3において、海藻では、種類数は冬季に多い傾向がみられ、湿重量は上層の冬季と中層の春季に多かった。付着動物では、種類数は下層の春季に多く、個体数および湿重量は上層と中層の春季および夏季に多かった。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表 6 - 2 - 4 泉大津沖処分場護岸 (D - 3) の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25m ²	種類	個体/0.25m ²	g/0.25m ²	種類	g/0.25m ²
上層	春季	2	+	27	22,109	3,807	29	3,807
	夏季	2	+	29	14,271	5,382	31	5,382
	秋季	4	+	30	227	13	34	13
	冬季	10		29	883	5	39	15
	平均	5		29	9,373	2,302	33	2,304
中層	春季	3		57	12,916	1,861	60	1,874
	夏季	2	+	53	11,275	6,363	55	6,363
	秋季	2	+	44	2,207	62	46	62
	冬季	9		57	2,032	55	66	56
	平均	4		53	7,108	2,085	57	2,089
下層	春季	3	+	70	2,480	254	73	254
	夏季	0	0	57	2,078	230	57	230
	秋季	1	+	55	2,902	170	56	170
	冬季	7	+	58	2,118	47	65	47
	平均	3	+	60	2,395	175	63	175
3層平均	春季	3		51	12,502	1,974	54	1,978
	夏季	1	+	46	9,208	3,992	48	3,992
	秋季	2	+	43	1,779	82	45	82
	冬季	9		48	1,678	36	57	39
	平均	4		47	6,292	1,521	51	1,523

注) + は1g/0.25m²未満を示す

色付の箇所は生物分布が多い(3層平均の平均値の120%以上)ことを示す

3) 護岸構造による比較

D - 2 (傾斜護岸) と D - 3 (直立護岸) を比較すると、季節的な傾向はほとんど同じであったが、海藻では D - 2 が種類数および湿重量とも多く、付着動物では D - 3 が種類数、個体数および湿重量のいずれも多い傾向にあった。付着生物全体では、種類数はほぼ同じであったが、湿重量は D - 3 が多かった。

3. まとめ

(1) 水質と付着生物

相対光量と海藻分布の対応を検討した結果、護岸構造に関係なく、神戸沖、大阪沖および泉大津沖は水中光量と海藻分布が概ね一致する傾向がみられた。一方、尼崎沖は水深 2 m 以浅では十分な光量があるにも関わらず、海藻分布が非常に少なかった。これは、光量以外に要因があるものと考えられた。

水産用水基準を参考に、DO と付着動物分布の対応を検討した結果、神戸沖と大阪沖の C - 1 では年間を通して DO と付着動物の分布が概ね一致する傾向がみられた。各処分場とも、冬季は海底まで条件を満たし、夏季に条件を満たす水深が浅くなるが、付着動物の分布は年間を通して海底付近までみられた。このことから、海底付近に分布する付着動物は、貧酸素に対する耐性が高い可能性が考えられた。

(2) 総合評価

神戸沖（緩傾斜護岸）の付着生物は、海藻は春季と冬季に多く、付着動物は中層が多く、全体の種類数は、年間を通じ、60 種類以上がみられるのが特徴と考えられた。

大阪沖（傾斜護岸）の付着生物は、海藻は春季と冬季に多く、付着動物は上層が多く、全体の種類数は、年間を通じ、55～59 種類で神戸沖に較べてやや少ないと考えられた。

泉大津沖（傾斜護岸及び直立護岸）の付着生物は、海藻は春季と冬季に多く、付着動物は春季および夏季の上中層で多く、全体の種類数は、年間を通じ、50 種類前後みられるのが特徴と考えられた。また、護岸構造別にみると、傾斜護岸では海藻が多く、直立護岸では海藻が少ない傾向がみられた。

尼崎沖（直立護岸）の付着生物は、定量分析調査は実施していないが、前年度と同様に、海藻は非常に少なく、年間を通じ、付着動物が多いのが特徴と考えられた。

(3) 全体評価

各処分場護岸の付着生物定量分析結果総括一覧を表6-3-1に示した。4地点3層の四季平均を比較する対照値とし、種類数、湿重量、個体数の各項目で対照値を上回る箇所に緑（海藻）、青（付着動物）、赤（付着生物全体）の色付けを施して表示した。

海藻の種類数は、神戸沖が四季を通して3層とも対照値を上回ることが多く、次に大阪沖、泉大津沖（傾斜護岸）の順に多かった。各地点とも冬季に多い傾向がみられた。海藻の湿重量は、大阪沖が対照値を上回ることが多く、次に神戸沖が多かった。各地点とも秋季に少ない傾向がみられた。

付着動物の種類数は、神戸沖が対照値を上回ることが多く、次に大阪沖が多かった。各地点とも中・下層に多い傾向がみられた。付着動物の湿重量は、神戸沖では対照値を上回ることがなく、泉大津沖（直立護岸）が対照値を上回ることが多かった。いずれの地点も、四季を通して下層では対照値を上回ることなく、秋季～冬季かけては上・中層でも対照値を上回ることなかった。

なお、付着動物の個体数をみると、神戸沖においても泉大津沖（直立護岸）と同程度に対照値を上回っていることから、神戸沖と泉大津沖（直立護岸）に生息する付着動物相の違いを示唆するものと考えられる。

（第6章 考察・総合評価）の内容については、学識経験者（大阪市立大学 中西 敬 非常勤講師）の意見を参考に作成したものである。

表 6 - 3 - 1 各処分場護岸における付着生物定量分析結果総括表

区分		神戸沖処分場					大阪沖処分場					泉大津沖処分場					4地点平均										
		A - 2 (緩傾斜護岸)					C - 2 (傾斜護岸)					D - 2 (傾斜護岸)										D - 3 (直立護岸)					
評価項目 (単位)	評価対象	水深帯	春季	夏季	秋季	冬季	四季 平均	春季	夏季	秋季	冬季	四季 平均	春季	夏季	秋季	冬季	四季 平均	春季	夏季	秋季	冬季	四季 平均	春季	夏季	秋季	冬季	四季 平均
種類数 (種類)	海藻	上層	4	8	8	14	9	4	4	4	10	6	5	4	6	7	6	2	2	4	10	5	4	5	6	10	6
		中層	8	9	5	12	9	7	9	6	11	8	10	9	6	13	10	3	2	2	9	4	7	7	5	11	8
		下層	10	8	8	13	10	12	10	11	10	11	13	9	7	13	11	3	0	1	7	3	10	7	7	11	8
		3層平均	7	8	7	13	9	8	8	7	10	8	9	7	6	11	9	3	1	2	9	4	7	6	6	11	7
	付着動物	上層	34	29	29	30	31	33	29	24	26	28	36	30	22	25	28	27	29	30	29	29	33	29	26	28	29
		中層	72	80	92	86	83	53	62	46	51	53	44	52	39	55	48	57	53	44	57	53	57	62	55	62	59
		下層	55	56	53	41	51	68	50	78	58	64	44	45	40	49	45	70	57	55	58	60	59	52	57	52	55
		3層平均	54	55	58	52	55	51	47	49	45	48	41	42	34	43	40	51	46	43	48	47	49	48	46	47	48
	付着生物 全体	上層	38	37	37	44	39	37	33	28	36	34	41	34	28	32	34	29	31	34	39	33	36	34	32	38	35
		中層	80	89	97	98	91	60	71	52	62	61	54	61	45	68	57	60	55	46	66	57	64	69	60	74	67
		下層	65	64	61	54	61	80	60	89	68	74	57	54	47	62	55	73	57	56	65	63	69	59	63	62	63
		3層平均	61	63	65	65	64	59	55	56	55	56	51	50	40	54	49	54	48	45	57	51	56	54	52	58	55
湿重量 (g/0.25㎡)	海藻	上層	54	38	7	567	167	157	13	1	224	99	4	1	1	90	24	+	+	+	11	3	72	18	3	223	73
		中層	315	8	4	145	118	203	174	+	95	118	95	28	+	22	36	13	+	+	1	4	157	70	4	66	69
		下層	149	11	+	71	58	525	169	9	197	225	321	131	1	38	123	+	0	+	+	+	331	78	5	102	135
		3層平均	173	19	5	261	115	295	119	5	172	148	140	53	1	50	61	13	+	+	6	5	155	64	4	122	82
	付着動物	上層	757	64	15	8	211	1,754	3,120	33	101	1,252	4,470	7,391	3	1	2,966	3,807	5,382	13	5	2,302	2,697	3,989	16	29	1,683
		中層	409	260	73	252	248	82	22	11	494	152	495	78	28	28	157	1,861	6,363	62	55	2,085	712	1,681	43	207	661
		下層	129	92	177	165	141	107	22	45	68	60	66	75	34	50	56	254	230	170	47	175	139	104	107	82	108
		3層平均	431	138	88	142	200	647	1,055	30	221	488	1,677	2,514	22	26	1,060	1,974	3,992	82	36	1,521	1,182	1,925	55	106	817
	付着生物 全体	上層	811	102	22	575	378	1,911	3,134	34	325	1,351	4,473	7,392	3	91	2,990	3,807	5,382	13	15	2,304	2,751	4,002	18	252	1,756
		中層	724	268	76	398	366	285	196	11	588	270	591	105	28	50	193	1,874	6,363	62	56	2,089	868	1,733	44	273	730
		下層	277	103	177	236	198	631	191	55	264	285	388	206	35	88	179	254	230	170	47	175	387	182	109	159	209
		3層平均	604	158	92	403	314	942	1,173	33	393	635	1,817	2,568	22	76	1,121	1,978	3,992	82	39	1,523	1,335	1,973	57	228	898
個体数 (個体/0.25㎡)	付着動物	上層	26,054	1,213	481	1,736	7,371	15,427	7,731	406	19,891	10,864	25,158	22,193	238	214	11,951	22,109	14,271	227	883	9,373	22,187	11,352	338	5,681	9,890
		中層	15,612	9,039	2,200	6,955	8,452	3,509	1,656	838	2,862	2,216	8,150	10,235	804	1,409	5,150	12,916	11,275	2,207	2,032	7,108	10,047	8,051	1,512	3,315	5,731
		下層	5,314	1,086	2,270	2,255	2,731	5,044	846	910	664	1,866	438	564	1,957	667	907	2,480	2,078	2,902	2,118	2,395	3,319	1,144	2,010	1,426	1,975
		3層平均	15,660	3,779	1,650	3,649	6,185	7,993	3,411	718	7,806	4,982	11,249	10,997	1,000	763	6,002	12,502	9,208	1,779	1,678	6,292	11,851	6,849	1,287	3,474	5,865

注) + は1g/0.25㎡未満を示す

緑・青・赤色の網掛け箇所は4地点3層の四季平均(二重線枠内の値)を超えていることを示す

資料編

粹取り分析結果

1. 粹取り分析結果 (植物)

(1) 神戸沖処分場 ; A - 2

春季調査 (平成 19 年 5 月 27 日)

単位 : g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	A - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホトアオサ		48.38		
2		アヲアサ		5.85		4.30
3		アサ属			100.38	
4		アオリ属		+	+	
5		シオガサ属		0.01	0.01	0.01
6	褐藻	タマハキモク			214.80	
7	紅藻	ススカケベニ				135.89
8		ツノマタ属				2.25
9		フダク				6.69
10		ムカデノリ				15.09
11		オキツリ				0.92
12		コスジフシツナギ			0.11	
13		キヌイトグサ属				+
14		キヌイトフツカガサネ			+	0.03
15		ケイグス				
16		イグス属			+	
17		イトグサ属			0.01	0.91
出現種類数				4	8	10
総湿重量				54.24	315.31	148.51

注) + は0.01g未満を示す。

夏季調査 (平成 19 年 8 月 4 日)

単位 : g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	A - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホトアオサ		19.84		
2		アヲアサ			7.50	1.60
3		アオリ属		1.66	0.03	
4		シオガサ属		14.97	0.02	0.01
5	褐藻	タマハキモク			0.18	
6	紅藻	オシユイネヲ属		+	+	
7		ススカケベニ			0.05	0.52
8		ツノマタ属		1.25		
9		ムカデノリ				7.31
10		フダク		0.48		0.92
11		コスジフシツナギ		0.02		
12		キヌイトグサ属			+	
13		キヌイトフツカガサネ			+	0.75
14		イグス属				0.01
15		イトグサ属			+	0.02
出現種類数				8	9	8
総湿重量				38.22	7.80	11.15

注) 表中の + は0.01g未満を示す。

秋季調査 (平成 19 年 11 月 11 日)

単位 : g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	A - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ`タアオ		6.56		
2		アオ属		0.06	1.12	0.13
3		アオリ属		0.15		
4		シオ`サ属		0.07	0.02	0.05
5	褐藻	タマハキモク			2.28	
6	紅藻	オ`ジ`ユイネ属				+
7		ヒメツグ`サ		0.28		
8		ムカテ`リ				+
9		キヌイトツツガ`サネ			0.09	0.03
10		イ`ス属			0.03	
11		イトグ`サ属				0.18
12	藍藻	クロコックス目				+
13		ユレモ属				+
14		Lyngbya sp.		0.02		
15	珪藻	Licmophora sp.		+		
16		珪藻綱		+		
出現種類数				8	5	8
総湿重量				7.14	3.54	0.39

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

冬季調査 (平成 20 年 2 月 3 日)

単位 : g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	A - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ`タアオ		552.32		
2		アオ属		5.37	34.21	4.08
3		アオリ属		0.04		
4		シオ`サ属		0.11	+	+
5	褐藻	クロガ`シラ属		0.11		
6		アミジ`グ`サ				0.17
7		タマハキモク			68.39	
8	紅藻	アマリ属		0.31		
9		オ`ジ`ユイネ属			+	
10		スガハ`ニ				11.83
11		ツマタ属		0.61		
12		ムカテ`リ				9.20
13		フタ`ラク		0.13	0.66	
14		ユスジ`フシツキ`		7.61	2.67	
15		キヌイトツツガ`サネ		+	3.69	18.16
16		フツガ`サネ属		+		0.05
17		イ`ス属			24.39	0.03
18		ヨツガ`サネ属				0.16
19		イ`ス科				+
20		シヨウジ`ヨウケリ		0.11	11.18	27.36
21	イトグ`サ属			0.16		
22	藍藻	ユレモ属			+	
23		Lyngbya sp.		0.15		
24	珪藻	Grammatophora sp.				+
25		Licmophora sp.			+	
26		珪藻綱		+		+
出現種類数				14	12	13
総湿重量				566.87	145.35	71.04

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(2)大阪沖処分場；A - 2

春季調査（平成 19 年 5 月 28 日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		A - 2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アアオサ			33.60	5.71
2		ホ`タアサ		155.20		
3		アサ属		0.96		0.04
4		アオリ属		0.45		
5		シオ`サ属		0.29	0.02	0.07
6	褐藻	シダ`モク				66.81
7		タマハキモク				175.62
8	紅藻	スガカ`ニ			13.27	20.82
9		フダ`ラク			151.48	185.01
10		ハ`ニシコ`			4.71	70.37
11		キヌトク`サ属				0.03
12		キヌトフツガ`サ				+
13		イ`ス属			0.01	+
14		イトク`サ属			0.06	0.06
出現種類数			4	7	12	
総湿重量			156.90	203.15	524.54	

注) + は0.01g未満を示す。

夏季踏査（平成 19 年 8 月 11 日）

単位：g/0.25m²

	綱	調査地点		C - 2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アアオサ			47.64	5.64
2		ホ`タアサ		12.51		
3		アサ属		0.22		
4		アオリ属		0.07		
5		シオ`サ属			0.06	0.01
6	褐藻	シダ`モク				9.35
7		タマハキモク				1.37
8	紅藻	オ`シ`ユイネ`サ属			+	
9		スガカ`ニ			45.87	152.78
10		ムカデ`ノリ			0.75	0.05
11		フダ`ラク			79.09	
12		キヌトク`サ属				+
13		キヌトフツガ`サ			+	0.02
14		イ`ス属			0.04	0.01
15		イトク`サ属			0.05	
16	藍藻	Lyngbya sp.		0.57		+
出現種類数			4	9	10	
総湿重量			13.37	173.50	169.23	

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成 19 年 11 月 3 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	C - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ`タアオ村		0.08		
2		アオ村属			0.17	0.07
3		アオリ属		0.01		
4		シク`サ属			+	0.04
5	褐藻	シタ`モク				7.89
6		タマハキモク			0.12	1.35
7	紅藻	サンゴ`モ目				-
8		ツノマタ属			+	
9		ムカテ`ノリ			+	
11		フタ`ラク				0.04
10		イワノカ科				-
12		キヌイトフツツガ`サネ			+	0.03
13		イキ`ス属				0.01
14		イトク`サ属				+
15	藍藻	Phormidium sp.		0.57		
16	珪藻	Lyngbya sp.		0.06		+
出現種類数				4	6	11
総湿重量				0.72	0.29	9.43

注) 表中の「+」は0.01g未満を、「-」は計測不能を示す。

冬季調査（平成 20 年 2 月 2 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	C - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アア村			13.94	
2		ホ`タアオ村		221.94		
3		アオ村属		0.54		
4		アオリ属		0.06	+	0.40
5		シク`サ属		0.09	+	
6	褐藻	セイヨウハハ`ノリ		0.42		
7		シタ`モク				80.44
8	紅藻	アマノリ属		1.37		
9		ヒ`リヒハ`			0.01	
10		スアカベ`ニ			34.51	88.53
11		ツノマタ属			6.52	
12		ムカテ`ノリ			1.18	
13		フタ`ラク			24.24	
14		キヌイトフツツガ`サネ		+	1.33	0.98
15		ケイ`ス				0.03
16		イキ`ス属		0.01	0.03	+
17		イソハキ`				25.23
18		ショウシ`ヨウケノリ			12.92	
19		イトク`サ属		+		+
20		ヒメコガ`ネモ				0.45
21		藍藻	Lyngbya sp.		0.01	
22	珪藻	珪藻綱				0.62
出現種類数				10	11	10
総湿重量				224.44	94.68	196.68

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場 ; D - 2

春季調査 (平成 19 年 5 月 30 日)

単位 : g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ`タアサ		1.11		
2		シオク`サ属		0.01		
3		ミル			1.80	
4	紅藻	マクサ				0.02
5		ススカヘ`ニ				1.63
6		ツルツル			2.15	10.69
7		オコ`リ				0.01
8		ツノマタ属				1.95
9		フダ`ラク		2.19	69.64	
10		カハ`リ				45.73
11		タオキ`ソウ				259.68
12		ムカデ`リ			21.10	0.41
13		キョウヒモ			0.55	
14		キヌイトフツガ`サネ			0.01	0.33
15		イ`ス科		+		0.57
16		イトク`サ属		0.28	0.05	0.38
17		珪藻	<i>Tabellaria</i> sp.			+
18	<i>Licmophora</i> sp.				+	
19	珪藻綱				+	+
出現種類数				5	10	13
総湿重量				3.59	95.30	321.40

注) + は0.01g未満を示す。

夏季調査 (平成 19 年 8 月 1 日)

単位 : g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アサ属		0.16	0.04	
2		アオリ属		0.05		
3		シオク`サ属			0.87	
4	紅藻	マクサ			0.06	0.15
5		ツノマタ属				123.71
6		フダ`ラク			26.63	
7		ハ`ニヌコ`				0.48
8		カハ`リ				6.48
9		キヌイトフツガ`サネ			0.01	+
10		フツガ`サネ				+
11		イ`ス科			0.06	0.12
12		イトク`サ属		+	0.07	0.16
13	珪藻	<i>Diatoma</i> sp.			+	+
14		珪藻綱		0.88	+	
出現種類数				4	9	9
総湿重量				1.09	27.74	131.10

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成 19 年 11 月 1 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオ属		0.47	+	
2		アオリ属		0.03	+	
3		シオクサ属		0.15	+	+
4	紅藻	オ-ジ ュイテラ属				+
5		サコモ目			-	
6		カノリ				0.78
7		キヌイトツツカサネ				+
8		イノス科				0.03
9		イトクサ属		0.03	+	+
10	藍藻	Lyngbya sp.				
11	珪藻	Melosira sp.				+
12		Tabellaria sp.		+		
13		珪藻綱		+	+	
出現種類数				6	6	7
総湿重量				0.68	+	0.81

注) 表中の「+」は0.01g未満を、「-」は計測不能を示す。

冬季調査（平成 20 年 2 月 1 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 2		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.02		+
2		アオ属		0.80	+	+
3		シオクサ属			+	
4		ハネモ属			+	
5	褐藻	<i>Hincksia</i> sp.		0.39	+	
6	紅藻	ツノマタ属			0.34	
7		フダラク		3.19	0.24	
8		カノリ				27.16
9		タオキソウ				0.32
10		ムカデノリ		0.16	1.25	1.72
11		キョウヒモ		0.10	0.46	
12		キヌイトツツカサネ			0.01	
13		フツツカサネ属				1.79
14		イノス科			+	0.08
15		ヨツカサネ属				0.17
16		シヨウジ ヨウケリ		85.12	19.52	
17		イトクサ属				6.89
18		珪藻	Tabellaria sp.			+
19	<i>Licmophora</i> sp.				+	+
20	<i>Navicula</i> sp.					+
21	珪藻綱					+
出現種類数				7	13	13
総湿重量				89.78	21.82	38.13

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場 ; D - 3

春季調査 (平成 19 年 5 月 30 日)

単位 : g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D - 3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ ^ト アサ		0.31		
2		アサ属				0.03
3		ミル			0.59	
4	褐藻	ワカ			12.76	
5		スサカハ ^ニ			+	
6		イトグ ^サ 属				+
7		イト ^ス 科		+		
8		イトグ ^サ 属				+
出現種類数				2	3	3
総湿重量				0.31	13.35	0.03

注) + は0.01g未満を示す。

夏季調査 (平成 19 年 8 月 1 日)

単位 : g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	ホ ^ト アサ		0.18		
2	紅藻	イトグ ^サ 属			0.04	
3	藍藻	Lyngbya sp.		0.02		
4	珪藻	Licmophora sp.			+	
出現種類数				2	2	0
総湿重量				0.20	0.04	0.00

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成 19 年 11 月 1 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオ属		0.04	0.02	
2		アオリ属		0.01		
3		シオクサ属				
4	紅藻	オシユイテ属				
5		サソモ目				-
6		カノリ				
7		キヌイトツカサネ				+
8		イナズ科				
9		イトクサ属				
10	藍藻	Lyngbya sp.		0.13		
11	珪藻	Melosira sp.				
12		Tabellaria sp.				
13		珪藻綱		+		
出現種類数				4	2	1
総湿重量				0.18	0.02	+

注) 表中の「+」は0.01g未満を、「-」は計測不能を示す。

冬季調査（平成 20 年 2 月 1 日）

単位：g/0.25m²

	綱	種名	調査地点	D - 3		
			地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		4.32	0.01	+
2		アオ属		0.98		
3		シオクサ属		0.06	0.03	+
4		ミル			0.02	
5		ハネモ属				+
6	紅藻	ムカデノリ		0.20		
7		キヌイトクサ属		0.04		+
8		キヌイトツカサネ		3.51	0.89	+
9		シヨウシヨウケリ		1.54		
10		イトクサ属				+
11	藍藻	ユレモ属		0.02	0.01	
12	珪藻	Melosira sp.		0.01	+	
13		Tabellaria sp.		+	+	
14		Licmophora sp.			+	
15		珪藻綱			+	+
出現種類数				10	9	7
総湿重量				10.68	0.96	0.00

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

2. 粹取り分析結果（動物）

(1) 神戸沖処分場；A - 2

春季調査（平成 19 年 5 月 27 日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						A - 2						
						上層		中層		下層		
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.05			
2	腔腸動物	花虫	イギンチャク	-	イギンチャク目	1	0.05	2	0.06	4	0.03	
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	12	0.46	104	4.04	24	0.49	
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科			1	0.28	1	+	
5			異紐虫	リネウス	リネウス科	186	1.94	3	0.03			
6		有針	針紐虫	アソボ-ルス	マダノモムシ					2	0.05	
7			テトラステマ	メノモムシ				12	0.04	3	+	
8			環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.			14	0.68	
9						マダノウロコムシ			66	1.42	68	0.34
10						Harmothoe sp.			1	0.01	5	0.01
11					ミロウロコムシ	1	0.03	15	0.83	1	+	
12					クワンゾウカイ	Chrysopetalum sp.				1	+	
13					サシハコカイ	アケノサシハ	1	0.01		3	0.04	
14						サミドリサシハ			36	2.22	4	0.02
15						Eulalia sp.	1	+	5	0.02		
16						マダノサシハ			1	+		
17						Nipponophyllum sp.				2	+	
18					オトヒメコカイ	Ophiodromus sp.			54	0.65	4	0.03
19					シリス	シロマダノシリス	94	1.32	6	0.02	9	0.02
20						Typosyllis sp.			20	0.27	13	0.14
21						Autolytus sp.			2	0.02		
22					コカイ	ツルヒケコカイ			1	0.14		
23						イソツルヒケコカイ	3	0.01				
24						クマドリコカイ	31	1.67	1	0.02		
25						ヒメコカイ			31	0.36	4	0.03
26						マダノコカイ			54	0.79		
27						Nereis sp.			1	0.01		
28					チロ	Glycera sp.			24	1.06	7	0.19
29					イソメ	Eunice sp.					1	+
30					ヒゲイソメ	Arabella sp.			1	0.20		
31				定在	スピオ	Polydora sp.			59	0.66	83	0.25
32						Prionospio sp.			8	0.04		
33						Spionidae			1	0.02		
34					ミスヒキコカイ	Dodecaceria sp.			396	1.39	8	0.03
35						チグサミスヒキ			10	0.32		
36						ミスヒキコカイ			19	1.44	6	0.14
37					オフェリアコカイ	カスリオフェリア			4	0.15		
38					タマシキコカイ	Abarenicla sp.			1	0.08		
39					フサコカイ	Thelepus sp.			27	1.46		
40						Nicolea sp.					1	0.07
41					ケヤリ	Sabella sp.			1	0.15		
42					カンザシコカイ	イソカサネカンザシコカイ			6,144	302.59	196	3.38
43	触手動物	簞虫	簞虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			1	0.02			
44		苔虫	唇口	トゲイタクムシ	Callopora sp.			-	0.04			
45					フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.03		
46					ヒラコケムシ	チコケムシ	-	0.01	-	0.23	-	0.02
47					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科	-	+				
48	軟体動物	多板殻	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ属			1	+			
49					ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	6	0.27				
50		腹足	中腹足	リソツホ	タマツホ					1	+	
51				カリハガサ	シメツクフネガイ					4	0.05	
52		新腹足		アキガイ	レイシガイ	9	58.36	6	0.07			
53					イホニシ	11	36.15					
54					フトコロガイ	ムキガイ	2	0.03	16	2.00	171	3.72
55					ミニナモトキ					1	0.01	
56		異腹足		イトカガイ	ヒメネジガイ							
57					ナメクシ	クリイロナメクシ					1	0.03
58			腸紐	トウカクガイ	ヨロイチキ属					1	+	
59			ウミウシ	ド-リス	ド-リス科			1	0.05			
60			基眼	カマツガイ	カマツガイ	2	0.78					

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01 g未満を示す。

神戸沖処分場； A - 2

春季調査（平成 19 年 5 月 27 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点									
						A - 2		A - 2		A - 2					
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量				
61	軟体動物	二枚貝	ガイ	フガイ	ゴルトフガイ					1	0.02				
62					ムサキガイ	24,751	649.60	604	3.46	1	0.02				
63					ヒルリガイ	1	0.01			3	0.25				
64					ヒタマエガイ	3	0.02								
65					タマエガイ			4	0.12	1	0.02				
66					ウガイ	ユキノ属			28	5.84	1	0.49			
67					イボガキ	マガキ	41	4.25							
68					マルスタレガイ	キザル	キザル属				1	7.12			
69					イボリガイ	ウスカサオウガイ			97	3.38					
70					イボリガイ科						1	0.01			
71					オノガイ	キヌトガイ	キヌトガイ			33	1.10	372	6.17		
72					節足動物	甲殻	完胸	イワシツホ	イワシツホ	3	0.04				
73								フジツホ	サンカフジツホ	1	0.05	4	0.11	180	19.53
74	クニ	セウツノ属	3	+				69	0.02	134	0.32				
75	等脚	コツムシ	シラケウミシ	12				0.09							
76	端脚	タテコエ	タテコエ属	2				+	7	0.02					
77	メリヨコエ	メリヨコエ属	209	0.23				268	2.08	1	+				
78	モクスヨコエ	ヒモクス	87	0.15				8	0.01						
79	コンソコエ	コンソコエ属	1	+				144	0.14	2,725	1.17				
80	ヒゲナガヨコエ	ヒゲナガヨコエ属	128	0.42				65	0.45						
81	カマキヨコエ	カマキヨコエ属						4	0.02						
82	トノクダシ	ホヨコエ	170	0.12				378	0.97	335	0.64				
83	ウエノトノクダシ							288	0.24	384	0.87				
84	トノクダシ属							66	0.04	20	0.23				
85	ワレカラ	トゲワレカラ	3	0.02				1,090	16.58	149	0.85				
86	オサワレカラ									225	1.10				
87	マルイワレカラ		177	0.98				5,264	28.94	41	0.25				
88	十脚	テホウエビ	テホウエビ属						1	0.10					
89		モエビ	イソモエビ						2	0.01	4	0.04			
90		アシガモエビモトキ							5	0.02					
91		コノカニダシ	コノカニダシ						2	0.04					
92		クモガニ	ヨツハモガニ					25	0.16						
93		イソウガニ	イソウガニ					37	0.38						
94		オウキガニ	ヒメクダガニ			8	0.75	8	0.16						
95		イワガニ	ヒライガニ	2	0.09										
96	-	カニ類モガニ期幼生					3	0.01							
97	昆虫	ハ	ユスリカ科	ユスリカ科幼虫	100	0.03									
98	棘皮動物	海星	ヒトテ	ヒトテ			6	0.92	32	40.19					
99				ヒトテ			1	1.23	1	39.57					
100	海鼠	樹手	キノ	キノ属			3	0.28							
101	原索動物	尾索	腸性	シテムシ	シテムシ		-	0.09							
102				キオ	カクウレイヤ			12	17.18						
103				壁性	スエラ	フタシホヤ			1	0.49					
出現種類数						34		72		55					
合計						26,054	757.19	15,612	408.59	5,314	128.66				

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01 g 未満を示す。

神戸沖処分場；A - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 4 日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						A - 2						
						上層		中層		下層		
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱					-	0.02	
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダ	ウミサグ'キカ'ヤ	ウミサグ'キカ'ヤ科	-	0.09	-	0.03			
3		花虫	イギ'ンチャク	-	イギ'ンチャク目			53	1.01	7	0.05	
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			277	4.84	1	0.01	
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科			1	+			
6		有針	針細虫	リネウス	リネウス科	3	0.01	28	0.36	4	0.01	
7				アソイホ'ル	マダ'ラヒモムシ			1	+			
8				テトラステマ	ミノヒモムシ	1	+	8	0.02	2	+	
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidasthenia</i> sp.			2	0.09			
10					サハ'ゴ'カイ			17	3.52			
11					<i>Lepidonotus</i> sp.			30	2.19			
12					マダ'ラウロコムシ			183	2.20	10	0.04	
13					ミロクコムシ			20	3.16			
14					サハ'ゴ'カイ					2	0.02	
15					アケ'ノサハ'							
16					サミ'ノサハ'	2	+	92	2.59			
17					マダ'ラサハ'					2	0.03	
18					オト'ヒメ'カイ	<i>Ophiodromus</i> sp.			68	0.64	32	0.17
19					シリ	シリ	1	+	12	0.06	8	0.03
20					シリス	<i>Typosyllis</i> sp.	1	+	15	0.08	35	0.05
21					ゴ'カイ	<i>Autolytus</i> sp.			16	0.29	2	0.01
22					イヅルビケ'ゴ'カイ			2	0.01	1	0.01	
23					クマ'ノ'カイ			2	0.17			
24					アソ'ガ'ゴ'カイ			8	0.05			
25					ヒメ'コ'カイ				178	1.68	18	0.09
26					マサ'ゴ'カイ				128	2.92		
27					チロ	<i>Glycera</i> sp.			33	3.34		
28					イヌ	<i>Eunice</i> sp.			1	+		
29					セ'ロイヌ	<i>Arabella</i> sp.			4	0.70	2	0.06
30				定在	スピ'オ	<i>Polydora</i> sp.	2	+	52	0.39	22	0.10
31						<i>Aonides</i> sp.			8	0.02		
32						<i>Prionospio</i> sp.					1	+
33					ミ'ノ'ヒキ'コ'カイ	<i>Dodecaceria</i> sp.					107	0.09
34						チ'ノ'サミ'ヒキ					2	0.01
35						ミ'ノ'ヒキ'コ'カイ			116	7.10	26	0.52
36					イト'コ'カイ	<i>Capitella</i> sp.			1	+		
37					フサ'コ'カイ	<i>Thelepus</i> sp.			11	1.58	3	0.26
38						<i>Lanice</i> sp.			332	30.30	1	0.04
39					ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.			23	2.36		
40	触手動物	苔虫	円口	クダ'コケムシ	クダ'コケムシ科			-	0.01			
41			唇口	フサ'コケムシ	フサ'コケムシ科			-	0.16			
42				ヒラ'コケムシ	チ'ノ'ケムシ	-	0.01	-	0.76	-	0.02	
43					ヒラ'コケムシ科			-	0.48	-	0.01	
44					ウス'コケムシ	ウス'コケムシ科			-	0.07		
45					モン'ゴ'チ'コケムシ	モン'ゴ'チ'コケムシ科			-	0.13	-	0.02
46					コ'ノ'コケムシ	コ'ノ'コケムシ科			-		-	0.01
47	軟体動物	多板	新ヒザ'ラ'ガイ	ヒゲ'ヒザ'ラ'ガイ	ヒゲ'ヒザ'ラ'ガイ			6	0.07			
48					ハ'ハ'カ'セ			2	0.03			
49		腹足	古腹足	ニシキ'ウス'ガイ	コシ'カ'カン'ガラ			2	0.88	2	13.16	
50			盤足	カリ'ハ'カ'サ'ガイ	シマ'ノ'ウ'ネ'ガイ					3	0.69	
51			翼舌	イト'カ'ガイ	レイ'ネ'ガイ			1	0.05			
52			新腹足	アツキ'ガイ	レイ'シ'ガイ	1	2.38	21	56.35	1	0.08	
53				フト'コ'ガイ	ムギ'ガイ			1,696	44.24	300	2.95	
54			異旋	トウ'カ'ガイ	イト'カ'キ'リ'属					1	+	
55			頭楯	ブ'ト'ウ'ガイ	ブ'ト'ウ'ガイ					1	0.01	
56			基眼	カマ'ツ'ガイ	カマ'ツ'ガイ	1	58.43					
57		二枚貝	フネ'ガイ	フネ'ガイ	コ'ノ'ヒ'ノ'フ'ネ'ガイ					1	0.59	
58			イ'ガイ	イ'ガイ	ムラ'サ'キ'ガイ	195	1.02	12	0.13			
59					コ'ノ'ヒ'ノ'カ'ビ'ハ'リ'ガイ	71	0.12					
60					タヌ'イ'ガイ			2	0.02			

注) 個体数の「-」は計数不能、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 4 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

	調査地点				A - 2						
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	軟体動物	二枚貝	ミノガイ	ミノガイ	ユキノ属			16	6.86		
62			ガキ	イホガキ	マガキ	6	0.17				
63			マルダレガイ	マルダレガイ	アサリ			1	0.02		
64					オキナガ			3	0.66	1	0.01
65				ワカガイ	ウスカソウガイ	1	0.12	39	1.72		
66			オノガイ	キヌトガイ	キヌトガイ			240	6.04	156	2.90
67	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	ヨロツボ	2	0.02				
68					フジツボ	2	0.21				
69					サンカフジツボ			24	1.84	9	1.05
70		軟甲	タヌ	タヌ	ヒメウツ属	1	+	192	0.11	4	+
71		等脚	ウミズミ	ウミズミ	ウミズミ					2	+
72			コツ	コツ	シリケウミ	2	0.01				
73		端脚	タテソコ	タテソコ	タテソコ属	3	+				
74			メリアソコ	メリアソコ	メリアソコ属			682	3.54	2	0.01
75			モクス	モクス	モクス	3	+	16	0.02	3	+
76			コホソコ	コホソコ	コホソコ属			8	0.02	37	0.02
77			ヒゲナガ	ヒゲナガ	ヒゲナガ属	201	0.39	170	0.86		
78			トクダ	トクダ	トクダ			8	0.05	9	0.01
79					トクダ			129	0.17		
80					アリアト	1	+				
81					ウエト			1,472	1.70	46	0.03
82					トクダ	2	+	1,080	0.40		
83			ワレカ	ワレカ	ワレカ			19	0.02	22	0.03
84					ワレカ					81	0.04
85					マルエワレカ	8	0.02	20	0.02		
86		十脚	テッポウ	テッポウ	テッポウ属			24	4.22		
87			モエ	モエ	モエ			162	1.27		
88			ロウソク	ロウソク	ロウソク			2	0.01		
89			ホンヤド	ホンヤド	ホンヤド			15	0.31	1	0.09
90					ホンヤド			1	0.01		
91			カニダ	カニダ	カニダ			38	1.44	5	0.15
92					カニダ			7	1.02		
93			クモガ	クモガ	クモガ			20	1.92	9	0.06
94			イチョウガ	イチョウガ	イチョウガ			5	1.98	33	0.79
95			オキガ	オキガ	オキガ			2	0.60		
96					ヒメク			28	3.54	3	0.16
97			ワカ	ワカ	ワカ			4	0.36		
98			-	-	カニ類			2	0.01	1	+
99		昆虫	ハ	ハ	ハ	684	0.12				
100	棘皮動物	ヒト	キト	キト	キト			4	0.24	18	6.98
101			ヒメト	ヒメト	ヒメト					3	59.36
102		海鼠	樹手	樹手	樹手			6	0.25		
103	原索動物	尾索	腸性	腸性	腸性						+
104					腸性				0.17		
105					腸性			1	0.08		
106	脊椎動物	硬骨魚	スギ	スギ	スギ			1	0.04		
出現種類数						29		80		56	
合計						1,213	63.52	9,039	259.74	1,086	92.16

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A - 2

秋季調査（平成 19 年 11 月 11 日） - 1

単位：個体数/個体/0.25m²，湿重量/g/0.25m²

No.	調査地点				A - 2							
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層		
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱			-	0.02			
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.07			
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クケ	ウミサカ	ウミサカ目			-	+			
4		花虫	イソキ	ツブシ	ツブシ目			1	0.29			
5					イソキ目	6	0.04	7	0.34			
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	4	0.01	31	0.46	52	0.96	
7	紐形動物	無針	原始紐虫	ケアラリックス	ケアラリックス科			4	0.04			
8			古紐虫	ツブラヌ	ツブラヌ科			1	+			
9			異紐虫	リネウス	リネウス科	7	0.03	5	0.08			
10		有針	針紐虫	テトラスマ	メノヒモムシ			1	0.01			
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	ウロコムシ			3	0.68			
12					マダウロコムシ			42	0.59	5	0.05	
13					ミロウロコムシ			9	0.41			
14					サシハコカイ	アケサシハ	2	0.01		1	+	
15						サミトサシハ		5	0.10			
16						Eulalia sp.		1	0.02			
17						マダウロコムシ		1	0.01	1	+	
18					オトヒメコカイ	Ophiodromus sp.		132	0.70	15	0.07	
19						Hesione sp.		1	0.01			
20					シリ	ムササキシリ	2	+				
21						シロマダシリ	1	+	27	0.29		
22						Typosyllis sp.	3	0.01	24	0.14	2	+
23						Autolytus sp.		6	0.05			
24					ゴカイ	ツルビケゴカイ		2	0.04	1	0.01	
25						イソツルビケゴカイ	3	0.01	4	0.10		
26						クストリコカイ	38	0.24	5	0.08		
27						アソナゴカイ	4	0.01	4	0.15	1	0.03
28						ヒメコカイ		21	0.14	33	0.07	
29						マサコゴカイ		26	0.16			
30					チロリ	Glycera sp.		2	0.04			
31					イソメ	Eunice sp.		6	0.20	1	0.01	
32					セウロイソメ	Arabella sp.		1	0.16			
33				定在	スピオ	Polydora sp.	1	+	251	1.80	84	0.08
34						Aonides sp.		1	+			
35						Prionospio sp.		1	+			
36					ミスヒキコカイ	Dodecaceria sp.		392	0.28	24	0.02	
37						チクサミスヒキ		6	0.32			
38						ミスヒキコカイ		94	8.44	12	0.11	
39					オフェリアコカイ	カスリオフェリア	1	+		1	+	
40					フサコカイ	Polycirrus sp.		4	0.24			
41						Thelepus sp.		35	2.82			
42						Lanice sp.		34	0.80			
43					ケヤリ	Sabella sp.	1	+	83	1.62	4	0.12
44						Branchiomma sp.		30	1.28			
45					カンザシコカイ	イノカンザシコカイ	6	0.02	476	7.88	4	0.12
46						Hydroides sp.		4	0.04			
47						Spirobranchus sp.		2	0.01	1	+	
48	触手動物	繸虫	繸虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			2	0.01			
49		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ		-	0.01	-	0.41	-	0.03
50					ヒラコケムシ	チコケムシ			-	0.06		
51						ヒラコケムシ科			-	0.04		
52					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.03		
53					コクケムシ	コクケムシ科			-	0.04		
54	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	4	0.03					
55		腹足	盤足	リソッホ	タマツホ					8	0.01	
56				カハカサガイ	シヌメノウツネガイ			3	0.38	2	0.08	
57			異腹足	ミツチキリホ	キリホ					1	+	
58					ミツチキリホ科			1	0.02	1	+	
59			新腹足	アツキガイ	レイシガイ	1	4.73	6	8.19	11	34.56	
60					イボニシ	2	4.23					
61				フトコガイ	ムギガイ			133	9.81	86	1.66	
62			異旋	トウカタガイ	ケチキレトキ属					3	0.04	
63			基眼	カラムツガイ	カラムツガイ	17	1.88					

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場； A - 2

秋季調査（平成 19 年 11 月 11 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		A - 2					
						層	項目	上層		中層		下層	
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
64	軟体動物	二枚貝	フネガイ	フネガイ	コハルトフネガイ			1	0.03	3	0.03		
65			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	1	0.01						
66					ヒバリアイ			1	0.04	2	0.03		
67					コウロエンカワヒバリアイ	92	0.45						
68					タヌガイ			1	0.01	12	0.18		
69					ホトキス					6	0.05		
70					イヌメ			1	0.06				
71			かき	イボガキ	マガキ	10	2.31						
72			マルスタレガイ	キザルガイ	キザル属					1	0.01		
73				マルスタレガイ	オキナマツカ			2	0.15	2	0.03		
74				イボガイ	ウスカサヨツガイ	13	0.07	31	1.32	40	0.53		
75			オノガイ	キヌメガイ	キヌメガイ			2	0.02	6	0.13		
76	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	ヨロツボ			2	0.05				
77					タテマフジツボ	1	0.01				1,656	97.76	
78					サウカフジツボ			26	1.16	1	0.07		
79		軟甲	タヌ	タヌ	ゼウツ属	11	0.01	5	0.01	6	0.01		
80			等脚	ウミズミシ	ウミズミシ			19	0.03				
81				コツムシ	シリケンミセミ	7	0.03						
82			端脚	タテヨコヒ	タテヨコヒ属			3	+				
83				メリタヨコヒ	イヨコヒ属			1	+				
84				コノソコヒ	コノソコヒ属						46	0.04	
85				ヒゲナガヨコヒ	ヒゲナガヨコヒ属	138	0.39						
86				ドクダムシ	ホヨコヒ			1	+				
87					トウガリドクダムシ			3	+				
88					ウエノドクダムシ			9	0.01	6	0.01		
89					ドクダムシ属			23	0.01	2	0.01		
90					ドヨコヒ属					27	0.03		
91				ワレカ	トケワレカ					2	+		
92					オテワレカ					4	+		
93					ケビナガワレカ	1	+	1	+	8	+		
94					マルエワレカ					1	+		
95			十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属			18	1.18				
96				エビ	イソエビ			4	0.04				
97				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ			1	+	5	0.04		
98				ヤドカリ	ケフカヒメヨコハサミ			2	3.49				
99				ホヤトカリ	ヤマトホヤトカリ					2	0.33		
100				カニダマシ	コフカニダマシ			9	0.66				
101					フトウデネジレカニダマシ			15	0.34				
102				クモガニ	ヨツハモガニ			29	2.07	2	0.01		
103				イチョウガニ	イチョウガニ			1	0.15				
104				ワタリガニ	フタバノツツガニ			1	0.01	1	0.01		
105				オウギガニ	スヘスヘオウギガニ			7	4.13				
106					ヒメケブカガニ			22	2.01	66	0.16		
107				-	短尾下目カニ			2	0.01	1	+		
108		昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	104	0.02						
109	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	クモヒトデ	クモヒトデ					1	0.14		
110		ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ					5	1.68		
111			ヒトデ	イトマヒトデ	イトマヒトデ					2	37.70		
112		ナマコ	樹手	スケロクテ	イソコ属			5	0.30				
113	原索動物	尾索	腸性	ジテムシ	ウスホヤ属			-	0.18				
114					ネエキホヤ			-	0.05				
115				キオ	ユウレイホヤ			1	0.30				
116					カタユウレイホヤ			1	0.28				
117				アスキシア	ザラホヤ			18	3.37				
118					スジキレホヤ			1	1.28				
119			壁性	スチエラ	フタスジホヤ			1	0.05				
出現種類数						29		92		53			
合計						481	14.56	2,200	72.70	2,270	177.02		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場； A - 2

冬季調査（平成 20 年 2 月 3 日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点					A - 2					
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱	-	+	-	0.11		
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.96		
3	腔腸動物	花虫	-	-	イキンチャク目	8	0.14	22	0.97		
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	8	0.05	1	0.01	37	1.24
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科			17	0.65		
6			古紐虫	ツブラヌス	ツブラヌス科			1	0.12		
7			異紐虫	リネウス	リネウス科	23	0.21	16	0.95	3	0.02
8		有針	針紐虫	アンフィボールス	アンフィボールス属	2	+				
9				テトラステマ	メノヒモムシ	2	+	1	0.01		
10	星口動物	サバハクホシムシ	タテホシムシ	タテホシムシ	タテホシムシ属					1	+
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	ザンハチウロコムシ			1	0.74		
12					Lepidonotus sp.			16	0.84		
13					マダウロコムシ			17	0.67	21	0.23
14					ミロクウロコムシ			27	5.04		
15				サバゴカイ	Anaitides spp.					1	+
16					アケノサシバ			2	0.05	13	0.05
17					サミドリサシバ			80	2.32		
18				オトビメゴカイ	Ophiodromus sp.			254	1.66	11	0.08
19					Hesione sp.			5	1.38		
20				シリス	カキモトシリス			3	0.02		
21					ムラサキシマシリス			1	0.01		
22					シロマダラシリス	71	0.64	1	+		
23					Typosyllis sp.	16	0.04	35	0.27	24	0.27
24					Autolytus sp.			25	0.12	2	+
25				ゴカイ	ツルビゲゴカイ			5	0.16	2	0.02
26					イソツルビゲゴカイ	7	0.03	1	+		
27					クマドリゴカイ	71	1.43	5	0.35		
28					ヒメゴカイ			3	0.03	5	0.02
29					マサゴゴカイ	1	0.01	16	0.09		
30				イヌ	Eunice sp.			10	0.68		
31			定在	スピオ	Polydora sp.			93	0.40	6	0.02
32					Prionospio sp.					2	+
33				ミスヒキゴカイ	チクサミズヒキ			3	0.01		
34					ミスヒキゴカイ			54	7.76	13	0.29
35				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			8	0.02		
36				イトゴカイ	Capitella sp.			1	+		
37				フサゴカイ	Thelepus sp.			23	2.65		
38					Nicolea sp.			114	3.98		
39					Lanice sp.			4	0.16		
40				カンザシゴカイ	イソカンザシゴカイ	6	0.01	5,088	117.12	2	0.01
41	触手動物	苔虫	円口	クダコケムシ	クダコケムシ科			-	0.05		
42			唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			-	7.93		
43				ヒラコケムシ	チゴケムシ			-	3.57		
44				ウスコケムシ	ウスコケムシ科			-	0.06		
45				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.06		
46	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ			1	+		
47				ケルタヒザラガイ	ケルタヒザラガイ属	33	1.54	3	0.23		
48			古腹足	ニシキウスガイ	コシダカソガラ			3	10.40		
49				リュウテン	サザエ			1	0.01		
50			盤足	リソツホ	タマツホ			5	0.02	264	0.53
51				カリハガサガイ	シメノフネガイ					3	0.53
52			翼舌	ミツチキリホ	ミツチキリホ科			2	0.04		
53			新腹足	アッキガイ	レイシガイ			14	14.40	5	0.07
54				フトコガイ	ムキガイ			234	16.22	597	15.52
55					ノミナ					2	0.01
56					ノミナモトキ					16	0.08
57			異旋	クルマガイ	クリイロクルマガイ					1	0.01
58				トウカガイ	ヨロイチキレ属			4	0.01		
59					イトカケチキレ属			3	0.01		
60			頭楯	ブトウガイ	ブトウガイ			1	0.05		
61			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	6	2.36				
62					キルハケガイ	2	0.21				

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場； A - 2

冬季調査（平成 20 年 2 月 3 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

	門	綱	目	科	種名	調査地点		A - 2								
						層	項目	上層		中層		下層				
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
63	軟体動物	二枚貝	フネガイ	フネガイ	コハルトフネガイ					1	0.12					
64					ムラサキガイ	4	0.01									
65					ヒバ'リガイ			1	0.03							
66					コウロインカワヒバ'リガイ	44	0.28									
67						タマガイ	1	0.02	1	+						
68			ミノガイ	ミノガイ	ユキミノ属					1	0.01					
69			加	イホ'ガキ	マガキ	2	0.34									
70			マルスタ'レガイ	マルスタ'レガイ	オキナツカセ'					1	+					
71					ハネマツカセ'					1	0.06					
72					イホ'リガイ	ウスカサ'オツガイ	7	0.02	11	0.53	4	0.05				
73			オノガイ	キヌトガイ	キヌトガイ											
74			節足動物	ウミグモ	皆脚	イウミグモ	ク'ト'イウミグモ			1	+					
75						顎脚	無柄	ヤ'ク'ツ'ホ'	1	0.01	7	0.43	997	86.02		
76							軟甲	タ'イス	タ'イス	8	+	28	0.03	75	0.03	
77	等脚	ウミズ'ムシ				ウミズ'ムシ					123	0.05				
78		コツ'ムシ				シ'ケンウミセミ	96	0.48								
79	端脚	タ'ソコ'ヒ'				タ'ソコ'ヒ'属					41	0.02				
80		メ'リ'タ'ソコ'ヒ'				メ'リ'タ'ソコ'ヒ'属					98	0.67				
81		モ'ク'ス'ヨ'コ'ヒ'				モ'ク'ス'ヨ'コ'ヒ'属	13	0.07				1	+			
82		コ'ホ'ソ'コ'ヒ'				コ'ホ'ソ'コ'ヒ'属					13	0.01	10	+		
83		ク'オ'ソ'コ'ヒ'				ソ'コ'ヒ'属							13	0.02		
84		ヒ'ゲ'ナ'ガ'ヨ'コ'ヒ'				ヒ'ゲ'ナ'ガ'ヨ'コ'ヒ'属	7	0.01	2	0.01						
85		カ'マ'キ'リ'ヨ'コ'ヒ'				カ'マ'キ'リ'ヨ'コ'ヒ'属					1	+				
86		ト'ロク'ダ'ムシ				ホ'ソ'コ'ヒ'		1	+	1	+					
87						ト'ン'ガ'リ'ト'ロク'ダ'ムシ				9	0.02					
88						ウ'エ'ノ'ト'ロク'ダ'ムシ							1	+		
89	ト'ロク'ダ'ムシ属											1	+			
90		ト'ロソ'コ'ヒ'属								91	0.06					
91	ワ'レ'カ'ラ	ト'ゲ'ワ'レ'カ'ラ									14	0.09				
92		オ'サ'テ'ワ'レ'カ'ラ				1	+	15	0.03	72	0.02					
93		マル'エ'ラ'ワ'レ'カ'ラ				27	0.15	101	0.25							
94	十脚	テ'ッ'ホ'ウ'エ'ビ'				テ'ッ'ホ'ウ'エ'ビ'属					30	3.47				
95		モ'エ'ビ'				イ'ヨ'モ'エ'ビ'					1	0.08				
96		ヤ'ト'カ'リ				ク'ガ'ヒ'メ'ヨ'コ'ハ'サ'ミ							1	0.29		
97		ホ'ン'ヤ'ト'カ'リ				ク'ア'シ'ホ'ン'ヤ'ト'カ'リ						1	0.52			
98						ホ'ン'ヤ'ト'カ'リ属						1	0.02			
99		カ'ニ'ダ'マ'シ				コ'フ'カ'ニ'ダ'マ'シ	1	0.06	68	11.08						
100		ク'モ'ガ'ニ				ヨ'ツ'ハ'モ'ガ'ニ					2	0.73	2	0.88		
101		ワ'タ'リ'ガ'ニ				フ'タ'ハ'ハ'ニ'ツ'カ'ニ					1	0.03				
102		オ'キ'ガ'ニ				ス'ハ'ス'ハ'オ'キ'ガ'ニ					43	24.54				
103						ヒ'メ'タ'ブ'カ'ニ					17	1.16	30	0.13		
104	昆虫	ハ'エ				ユ'ス'リ'カ'科	ユ'ス'リ'カ'科幼虫	1,267	0.24							
105	棘皮動物	ク'モ'ヒ'ト'				閉蛇尾	ク'サ'イ'ロ'ク'モ'ヒ'ト'	ク'サ'イ'ロ'ク'モ'ヒ'ト'属			1	0.06				
106						ク'モ'ヒ'ト'	ク'モ'ヒ'ト'	ク'モ'ヒ'ト'属					11	12.92		
107						ヒ'メ'ヒ'ト'	イ'ト'マ'ク'モ'ヒ'ト'	イ'ト'マ'ク'モ'ヒ'ト'属					2	45.57		
108						ナ'マ'コ	樹手	ス'ク'レ'ロ'ク'ク'テ'イ'ラ	イ'シ'コ'属				1	0.69		
109	原索動物	尾索				腸性	ジ'テ'ム'シ	ウ'ス'ホ'ヤ'属			-	0.60				
110								ネ'ソ'イ'キ'ホ'ヤ'				-	0.57			
111							キ'オ'	ユ'ウ'レ'イ'ホ'ヤ'					1	2.01		
112								カ'ク'ウ'レ'イ'ホ'ヤ'					6	0.76		
113								-	-	-	卵塊				-	0.26
出現種類数						30		86		41						
合計						1,736	8.36	6,955	252.18	2,255	165.24					

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(2)大阪沖処分場；C - 2

春季調査（平成19年5月28日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門 綱 目 科 科名				調査地点		C - 2											
					層	項目	上層		中層		下層							
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱					-	0.05							
2	腔腸動物	花虫	イキ`ンチャク	-	イキ`ンチャク目	2	0.17			8	2.99							
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	14	0.52	37	0.91	19	0.43							
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	42	1.84			2	0.04							
5						有針	針細虫	テトラステマ	メノヒモムシ			3	0.02	11	0.09			
6					テトラステマ属	2	0.03											
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidasthenia sp.						1	0.04						
8									フサウスウロコムシ					3	0.25			
9									マダ`ラウロコムシ			14	0.12	33	0.16			
10									Harmothoe sp.			10	0.03	6	0.08			
11									ミロクウロコムシ			3	0.07					
12									サシバ`ゴ`カイ	Anaitides sp.					1	0.01		
13									アケノサシバ`		2	0.14			1	0.01		
14									サミド`リサシバ`		3	0.11						
15									Eulalia sp.				3	0.05	4	0.06		
16									オトヒメゴ`カイ	Ophiodromus sp.					17	0.26		
17									シリ	ムラサキシリ					1	0.01		
18									シリ	シロマダ`シリ	62	1.41	1	+	1	+		
19									シリ	Typosyllis sp.	15	0.05	39	0.17	3	0.03		
20									シリ	Autolytus sp.					3	0.02		
21									シリ	シリ科	2	+						
22									ゴ`カイ	イツツルヒゲ`ゴ`カイ				1	0.01	1	0.06	
23									ゴ`カイ	クマド`リゴ`カイ	18	3.45			3	0.63		
24									ゴ`カイ	アシナガ`ゴ`カイ					1	0.17		
25									ゴ`カイ	ヒメゴ`カイ					9	0.06		
26									ゴ`カイ	マサゴ`ゴ`カイ	1	0.14	82	2.24	61	4.21		
27									チロリ	Glycera sp.					5	0.15		
28									イメ	Eunice sp.					6	0.52		
29									セウ`ロイメ	Arabella sp.	5	0.96						
30								定在	スピ`オ	Polydora sp.			2	0.01	20	0.10		
31									ミス`ヒキゴ`カイ	Dodecaceria sp.					1	+		
32									ミス`ヒキゴ`カイ						9	0.97		
33									オリエリアゴ`カイ	カスリオリエリア					3	0.05		
34									フサゴ`カイ	Thelepus sp.					62	3.13		
35									フサゴ`カイ	Nicolea sp.					12	4.29		
36									ケヤリ	Sabella sp.					1	0.03		
37									カンザ`シゴ`カイ	イゾ`カネカンザ`シゴ`カイ			59	2.31	1,420	47.98		
38									カンザ`シゴ`カイ	Spirobranchus sp.					15	0.45		
39									ウス`マキゴ`カイ	Dexiospira sp.				1	+			
40						触手動物	苔虫		円口	クダ`コケムシ	クダ`コケムシ科					-	0.07	
41								唇口		フサコケムシ	フサコケムシ科						-	0.56
42										ウスコケムシ	ウスコケムシ科						-	0.08
43										ヒラコケムシ	チゴ`ケムシ						-	2.12
44										コブ`コケムシ	コブ`コケムシ科						-	1.41
45						軟体動物	多板殻	新ヒザ`ラガイ	ケルタ`ヒザ`ラガイ	ケルタ`ヒザ`ラガイ属	1	0.08	1	0.14				
46	腹足	中腹足	タマキ`	コヒ`トラウス`ガイ	12				0.03									
47			タマキ`		5		0.05											
48			新腹足	カリバ`ガ`サ	シマメノウツネガイ				1	0.01								
49	アケキガイ	レイシガイ					2	15.85										
50	フトコロガイ	ムキ`ガイ					87	6.99	107	8.04								
51	フトコロガイ	ノミニナモト`キ					2	0.02										
52	異腹足	基眼	ホソアラレキリホ	ホソアラレキリホ科							1	0.02						
53			カマツガイ	カマツガイ			2	3.07										
54	二枚貝	フネガイ	フネガイ	ケクハナガイ			1	0.06										
55				フネガイ	フネガイ		コハ`ルトフネガイ						7	6.20				
56				フネガイ	フネガイ		ムラサキガイ		14,537	1,341.88	1,711	22.92	1	0.02				
57				フネガイ	フネガイ		ヒバ`リガイ				1	0.02	3	0.36				
58				フネガイ	フネガイ		コウロエンカクヒバ`リガイ		2	0.01								
59				フネガイ	フネガイ	チビ`タマエガイ		19	0.14									
60				フネガイ	フネガイ	タマエガイ		1	+	3	0.04	1	0.01					

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

春季調査（平成 19 年 5 月 28 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点					
						上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	軟体動物	二枚貝	ウケイガイ	ミノガイ	ユキミノ属					2	0.77
62				ナミナガシ	ナミナガシ					3	4.91
63					シマナミナガシ					1	3.29
64				ウボガキ	マガキ	167	397.59				
65					ウボガキ	1	0.67	1	1.34		
66				マルスタレガイ	キナマツカセ					1	0.09
67					ウスカラシヨウガイ					3	0.21
68					ウボガイ科						
69				オノガイ	キヌトイガイ	10	0.02	151	4.24	4	0.07
70	節足動物	甲殻	完胸	フジツホ	ヨーロッパフジツホ			1	0.01		
71					サンカクフジツホ			58	4.39	1	0.38
72				タライ	セウツリ属			3	+	12	0.03
73				等脚	ウミズムシ	1	+	85	0.13	7	0.01
74					コツムシ	27	0.10				
75				端脚	テソコビ			2	+	1	+
76					メリタヨコビ	43	0.09	4	0.02	1	+
77					イソコビ属			3	0.03		
78					モクスヨコビ	65	0.04			9	0.01
79					ユボソコビ			672	0.40	79	0.18
80					ヒゲナガヨコビ	1	0.01	16	0.30	1	0.03
81					カマキヨコビ			3	+		
82					ドクダムシ	3	+	23	0.07	711	1.18
83					ウエノドクダムシ			44	0.05	220	0.25
84					ドクダムシ属			64	0.12	25	0.03
85					ウレカ	2	+	43	0.37	1,576	6.53
86					マルエラウレカ	2	0.02	239	0.37	472	2.52
87				十脚	テッホウエビ					1	0.07
88					イソエビ			7	0.01		
89					Heptacarpus sp.			5	0.01		
90					ホンヤドカリ			1	0.25		
91					ヨツハモガニ			3	0.03	3	0.11
92					ウキガニ					4	0.04
93					ヒメクワガニ			1	0.03	37	2.32
94					-					2	+
95		昆虫	ハ	ユスリカ科	ユスリカ科幼虫	357	1.07				
96	棘皮動物	海星	ヒメトテ	ヒトテ	ヒトテ			15	12.47	3	0.13
97		海胆	ホウニ	オハフウニ	ハフウニ			1	0.06		
98	原索動物	尾索	腸性	ジテム	ウスボヤ属					-	0.13
99					ネンイキボヤ				0.11	-	0.53
100				壁性	スチエラ			1	0.67	2	0.81
101	-	-	-	-	卵塊				0.06	-	0.02
出現種類数						33		53		68	
合計						15,427	1,753.75	3,509	81.71	5,044	106.63

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01 g 未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 11 日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点				C - 2							
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層		
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱	-	0.03	-	0.03			
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クワケ	ウミサカヅキガヤ	ウミサカヅキガヤ科			-	0.02	-	0.02	
3				ウミシバ	ウミシバ科			-	0.03			
4		花虫	イギンチャク	-	イギンチャク目	4	0.11	34	0.94	4	0.03	
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	27	0.22	19	0.11	4	0.04	
6	細形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	22	0.26	1	+			
7		有針	針紐虫	テラステム	メノヒモムシ			2	+			
8					テラステム属	1	+					
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	アウラスウロコムシ	4	0.09					
10					マダウロコムシ	1	+	11	0.05	12	0.05	
11					ミロクウロコムシ	1	+	1	0.01			
12					サシバゴカイ			1	0.01			
13					サミドリサシバ	1	0.01	2	0.04			
14					マダラサシバ					1	+	
15					オヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.		6	0.03	9	0.10	
16					シリス	ムラサキシリリス	2	0.01	1	+		
17						シロマダラシリリス	69	0.63	3	0.03	2	0.01
18						<i>Typosyllis</i> sp.	53	0.09	88	0.31	4	0.01
19					ゴカイ	ツルビケゴカイ					3	0.02
20						イソツルビケゴカイ			3	0.01		
21						クマドリゴカイ	6	0.57			2	0.14
22						アシナゴカイ	121	2.55	1	+		
23						ヒメゴカイ	4	0.02	18	0.05	7	0.01
24						マサゴカイ	3	0.04	9	0.17	2	0.01
25						イソメ					1	0.03
26						セグロイソメ	<i>Arabella</i> sp.	5	0.46			
27					定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.		8	0.08	15	0.06
28						ミスヒキゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.				2	0.01
29						チクサミズヒキ					3	0.01
30						ミスヒキゴカイ	7	0.03	15	0.12	3	0.06
31						フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.				2	0.29
32						ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.				1	0.03
33						カンザシゴカイ	イソカンザシゴカイ		40	1.14	30	1.24
34						ウスマキゴカイ	<i>Dexiospira</i> sp.				28	0.01
35	触手動物	苔虫	円口	クダユケムシ	クダユケムシ科			-	0.02			
36			唇口	フサユケムシ	フサユケムシ			-	0.08			
37				ヒラユケムシ	チユケムシ			-	6.12			
38				トゲイタクムシ	<i>Callopora</i> sp.			-	0.05			
39				コブユケムシ	コブユケムシ科			-	0.18	-	+	
40	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ					1	0.03	
41		腹足	古腹足	ユキノカサガイ	ユキノカサガイ	1	0.06					
42				ニシキウスガイ	エビスガイ					1	0.28	
43					コシダカガシラ					2	12.32	
44			盤足	カリバガサガイ	シマメノウサガイ					4	1.82	
45			新腹足	アツキガイ	レイシガイ			1	2.26			
46				フトコロガイ	ムキガイ			53	2.50	231	2.52	
47					ノニナメトキ			2	0.02	1	+	
48			異旋	トウカタガイ	チキレトキ属					1	0.01	
49					ヨロイチキ属					1	0.01	
50			二枚貝	フネガイ	フネガイ					3	0.59	
51				イガイ	イガイ	7,301	2,880.28	3	0.09			
52					ムラサキイガイ	9	0.05					
53					ヒバリガイ	16	0.53					
54					コウエンカワヒバリガイ			1	0.14			
55					タマエガイ							
56			か	イホガキ	マガキ	51	234.03					
57			マルスタレガイ	マルスタレガイ	オキナマツカセ					1	0.08	
58				イソリガイ	ウスカシヨツガイ	9	0.02					
58				オオガイ	キヌトイガイ			120	2.33	17	0.19	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 11 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

					調査地点		C - 2					
					層		上層		中層		下層	
門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
59	節足動物	顎脚	無柄	フジツバ	サンカクジツバ			1	0.09			
60		軟甲	クサ	クサ	セウツツ属			4	+	24	0.03	
61			等脚	ウミナナフシ	ウミナナフシ属					11	0.03	
62				ウミミズムシ	ウミミズムシ			170	0.11	20	0.01	
63			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属			12	0.01	4	0.01	
64				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属	1	0.01	30	0.07	1	+	
65					イソヨコエビ属			14	0.12			
66				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	3	+					
67				コンボソコエビ	コンボソコエビ属			162	0.10	141	0.05	
68				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	3	0.04	17	0.19	11	0.02	
69				トノクダムシ	赤ヨコエビ			81	0.08	49	0.04	
70					トンガリトノクダムシ			1	+			
71					ウエノトノクダムシ			11	0.02	27	0.03	
72					トノクダムシ属			1	+			
73			丸カ	トゲ丸カ				187	0.28	85	0.16	
74				オサテ丸カ				12	0.01	37	0.05	
75				クビナガ丸カ				162	0.20			
76				マルエテ丸カ				286	0.39			
77			十脚	モエビ	イソエビ			1	0.02			
78				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ					12	0.08	
79				カニタマシ	コフカニタマシ			1	+			
80				クモガニ	イッカクモガニ			1	0.01			
81					ヨツハモガニ			30	0.65	9	0.19	
82				イチョウガニ	イホイチョウガニ					2	0.11	
83					コイチョウガニ			6	0.34			
84				ワタリガニ	フタバニツケガニ			9	0.08	4	0.02	
85				イワガニ	ヒライソガニ	5	0.08					
86				-	カニ類カニ期幼生	1	+	2	+	4	0.01	
87	棘皮動物	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ			3	0.41	7	0.67	
88			ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			1	0.96			
89	原索動物	尾索	腸性	ジテムシ	ネンエキホヤ			-	0.06			
90				キオナ	カタコウレイホヤ			2	0.25			
91			壁性	ホトリルス	ホトリルス科			-	0.12			
92				スチエラ	シロホヤモトキ			6	0.58			
出現種類数						29		62		50		
合計						7,731	3,120.22	1,656	22.12	846	21.54	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

秋季調査（平成 19 年 11 月 3 日） - 1

単位：個体数/個体/0.25㎡，湿重量/g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		C - 2							
						層	項目	上層		中層		下層			
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱							-	0.22		
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱					-	0.04	-	0.05		
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダ	ウミサカヅキ目	ウミサカヅキ科					-	+	-	+		
4		花虫	イソキ	イソキ目	イソキ科	1	0.04								
5					イソキ目	3	0.01	12	0.09	13	0.12				
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	7	0.06	12	0.02						
7	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	11	0.03			3	0.01				
8		有針	針紐虫	アンフィホルス	マダラホルス			1	+						
9					テトラステマ	メノヒモムシ	36	0.08	1	+					
10	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.					1	0.01				
11					マダラウロコムシ			1	+	9	0.08				
12					ミロクウロコムシ					1	0.02				
13					サシバゴカイ	アケノサシバ	2	0.02			1	0.04			
14						サミドリサシバ			2	0.05	1	0.01			
15						Eulalia sp.					1	+			
16						マダラサシバ	1	0.01	3	0.02	1	0.01			
17						オビメゴカイ			21	0.07	56	0.23			
18						シリス			1	+					
19						ムラサキシリス			4	0.01					
20						シロマダラシリス	10	0.04			1	0.02			
21						Typosyllis sp.	4	+	24	0.06	2	+			
22						ゴカイ			12	0.05	4	0.07			
23						イソツルビゴカイ			6	0.01	1	0.01			
24						クマドリゴカイ	43	0.77	13	0.13	7	0.16			
25						アシナゴカイ	1	0.01	6	0.04					
26						ヒメゴカイ			19	0.03	20	0.07			
27						マサゴカイ			6	0.01	3	0.02			
28						イヌ					3	0.25			
29						定在			12	0.01	38	0.14			
30						スビオ					1	+			
31						Prionospio sp.					1	+			
32						ミスヒキゴカイ					1	0.01			
33						ミスヒキゴカイ			2	0.01	21	0.98			
34						オフェリアゴカイ			5	+	5	0.01			
35						カスリオフェリア									
36						フサゴカイ			9	0.10	30	1.55			
37						Thelepus sp.									
38						Nicolea sp.					1	0.07			
39						ケヤリ			2	0.01	4	0.11			
40						Sabella sp.									
41						Branchiomma sp.					1	0.02			
42						カンザシゴカイ			385	4.56	76	2.72			
43						イダカンザシゴカイ					8	0.16			
44						カンザシゴカイ科									
45						ウスマキゴカイ					5	+			
46						Dexiospira sp.									
47	触手動物	苔虫	唇口	フサコムシ	フサコムシ			-	0.36	-	+				
48					ヒラコムシ	チゴコムシ			-	0.06					
49						コノコムシ			-	0.03					
50						コノコムシ科									
51	軟体動物	腹足	古腹足	スサシガイ	シロスリカガイ					1	0.01				
52					盤足	カリハカサガイ			1	3.64	25	4.45			
53					翼舌	ミツチキリル					3	0.04			
54						ミツチキリル科									
55						新腹足	アツキガイ				1	0.05			
56							カコメガイ								
57							レイシガイ	18	0.44						
58							フトコロガイ				145	3.52			
59							ムギガイ								
60						基眼	カラマツガイ	9	1.42						
61							カラマツガイ								
62						二枚貝	フネガイ			2	0.02	1	0.02		
63							イガイ					1	+		
64							イガイ					1	0.21		
65							イガイ					4	0.19		
66							イガイ								
67							イガイ								
68							イガイ								
69							イガイ								
70							イガイ								
71							イガイ								
72							イガイ								
73							イガイ								
74							イガイ								
75							イガイ								
76							イガイ								
77							イガイ								
78							イガイ								
79							イガイ								
80							イガイ								
81							イガイ								
82							イガイ								
83							イガイ								
84							イガイ								
85							イガイ								
86							イガイ								
87							イガイ								
88							イガイ								
89							イガイ								
90							イガイ								
91							イガイ								
92							イガイ								
93							イガイ								
94							イガイ								
95							イガイ								
96							イガイ								
97							イガイ								
98							イガイ								
99							イガイ								
100							イガイ								

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

秋季調査（平成 19 年 11 月 3 日） - 2

単位：個体数/個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		C - 2								
						層	項目	上層		中層		下層				
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
66	節足動物	顎足	無柄	フシ'ツホ'	クテシ'マフシ'ツホ'	14	1.38									
67										3	0.01	84	7.18			
68					軟甲	クタイ	クタイ	ゼ'ウツリ属	5	+			29	+		
69						等脚	ウミナナシ	ウミナナシ属			11	0.03	3	0.01		
70							ウミミズ'ムシ	ウミミズ'ムシ属			34	0.01	3	+		
71						コツブ'ムシ	シリケンウミミ		64	0.27						
72					端脚	クテソコヒ'	クテソコヒ'属					12	+			
73							クテソコヒ'	クテソコヒ'属					1	+		
74							クテソコヒ'	クテソコヒ'属					71	0.14	10	0.02
75							クテソコヒ'	クテソコヒ'属		49	0.21		1	+	4	+
76							クテソコヒ'	クテソコヒ'属					85	0.04	27	0.01
77							クテソコヒ'	クテソコヒ'属		45	0.21					
78							ト'ロクダ'ムシ	ホソコヒ'							20	0.02
79								ト'ロクダ'ムシ							1	+
80								ウエ'ト'ロクダ'ムシ							4	+
81								ト'ロクダ'ムシ属							3	+
82							ワレカ	ト'ワレカ					1	+	12	0.01
83								オサテワレカ								49
84								ク'ナ'ワレカ					6	0.01		
85						十脚	テッホ'ウエ'	テッホ'ウエ'属							4	0.08
86							ロウソクエ'	ハヤシロウソクエ'							43	0.37
87							ホヤト'カリ	ヤマトホヤト'カリ							1	0.06
88								ホヤト'カリ属							2	0.03
89							カニダ'マシ	コフ'カニダ'マシ							1	+
90							クモガ'ニ	イッカククモガ'ニ					1	0.02		
91								ヨツハモガ'ニ							8	0.19
92							イチョウガ'ニ	コイチョウガ'ニ							4	0.09
93							ワタリガ'ニ	フタハ'ニツカガ'ニ							4	0.03
94							オキ'ガ'ニ	ス'ス'オキ'ガ'ニ							1	0.01
95								ヒメクワ'カガ'ニ							32	0.39
96						イワガ'ニ	ヒライガ'ニ		8	0.02						
97						-	短尾下目カ'コ'期幼生		1	+						
98					昆虫	ハ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	58	0.10						
99					棘皮動物	ウ	ホウ	サンショウウ						1	16.78	
100	原索動物	尾索	腸性	ジ'テ'ム	ウス'ヤ属				-	0.30						
101			壁性	スチ	シロ'ヤト'キ						1	0.49				
102					フタシ'ホ'ヤ					2	0.13					
出現種類数						24		46		78						
合計						406	32.93	838	10.72	910	45.16					

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

冬季調査（平成20年2月2日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門 綱 目 科 種名				調査地点		C - 2				
					項目	層		層		層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱					-	4.33
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クワケ	ウミサカギカヤ	ウミサカギカヤ科	-	+			-	+
3		花虫	イナキンチャク	-	イナキンチャク目	1	0.01	6	0.05	1	0.02
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			12	0.05	1	0.01
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科	1	0.04				
6			異紐虫	リネウス	リネウス科	16	0.19				
7		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ						
8				テトラステマ	メノヒモムシ	2	+			5	0.02
9	環形動物	多毛		ウロコムシ	マダラウロコムシ			3	0.14	9	0.18
10					マダラウロコムシ亜科					3	0.11
11					ミロクウロコムシ			1	0.08		
12				サシバゴカイ	アケノサシバ			1	0.04		
13					サミドリサシバ			6	0.21		
14					<i>Eulalia</i> sp.			1	0.01	2	+
15					マダラサシバ					3	0.09
16				オトビメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.			35	0.19	31	0.15
17				シリス	カキモトシリス			1	+	3	0.01
18					シロマダラシリス	13	0.07			1	0.01
19					<i>Typosyllis</i> sp.	8	0.02	22	0.12		
20					<i>Autolytus</i> sp.			3	+		
21				ゴカイ	ツルビケゴカイ			4	0.14	1	+
22					イソツルビケゴカイ					10	0.05
23					クマトリゴカイ	57	1.86	5	0.07	6	0.30
24					ヒメゴカイ			55	0.17	8	0.03
25					マダラゴカイ			33	0.09	8	0.05
26				イヌ	<i>Eunice</i> sp.					1	0.13
27				キホシイヌ	<i>Lumbrineris</i> sp.	1	+				
28			定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.			27	0.03	18	0.05
29				ミスヒキゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.					2	+
30					チクサミスヒキ					4	0.04
31					ミスヒキゴカイ			22	0.39	33	1.32
32				オリエリアゴカイ	カスリオリエリア			6	0.02	5	0.01
33				フサゴカイ	<i>Polycirrus</i> sp.			1	0.02		
34					<i>Thelepus</i> sp.			5	0.10	71	2.79
35					<i>Nicolea</i> sp.			2	0.14		
36				カザシゴカイ	イソカサカザシゴカイ			2,177	41.30	108	4.04
37	触手動物	苔虫	唇口	フサコムシ	フサコムシ			-	+		
38				ヒラコムシ	チゴケムシ			-	0.45		
39	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ヤスヒザラガイ					1	0.04
40					ケハダヒザラガイ属	1	0.03	2	0.08		
41			腹足	カガイ	ユキカガイ			1	0.01		
42				古腹足	コシキウスガイ			1	2.14	3	10.58
43				盤足	リソツホ					4	0.01
44					カリハガサガイ			7	6.31	10	4.02
45			新腹足	アッキガイ	レイシガイ			31	370.72		
46				フトコガイ	ムキガイ	6	0.28	207	15.87	168	9.76
47					ノミノモトキ					1	
48				異旋	トウカクガイ					1	+
49				ミノウミツ	-					1	0.03
50				基眼	カラマツガイ	6	4.96				
51					キクノハチガイ	1	0.16				
52			二枚貝	フネガイ	フネガイ			2	2.08	3	0.28
53				イガイ	イガイ	19,586	11.52			1	0.03
54					ムラサキイガイ					2	0.14
55					ヒバリガイ			1	0.01	9	0.38
56					タマガイ					1	1.29
57				か	イホガキ	9	81.07				
58				マルダレガイ	マルダレガイ					2	0.06
59					イソヒガイ	2	0.01	15	0.38	2	0.04
60				オノガイ	キヌトイガイ					2	0.09

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C - 2

冬季調査（平成20年2月2日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		C - 2				
						項目	層		層		層	
							上層	中層	下層	上層	中層	下層
個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量							
61	節足動物	顎脚	無柄	フシ ッホ	ツツカフシ ッホ					37	12.25	
62				タイ	ゼ ヲウ属	17	+			17	0.01	
63		軟甲	等脚	ウミナナシ	ウミナナシ属			11	0.03	2	+	
64				ウミス ムシ	ウミス ムシ			41	0.01	1	+	
65				ゴツフ ムシ	シケンウミセミ	21	0.07					
66			端脚	タテヨコヒ	タテヨコヒ 属	1	+	1	+			
67				アコ ナガ ヨコヒ	アコ ナガ ヨコヒ 属	5	0.01					
68				メリタヨコヒ	メリタヨコヒ 属			1	+			
69					イヨコヒ 属			37	0.12			
70				モクス ヨコヒ	モクス ヨコヒ 属	20	0.13	5	+			
71				エホ ヨコヒ	エホ ヨコヒ 属			52	0.02	2	+	
72				クダ ヲコヒ	ヨコヒ 属					6	+	
73				ヒゲ ナガ ヨコヒ	ヒゲ ナガ ヨコヒ 属	43	0.14					
74				ド ロクダ ムシ	ホヨコヒ					2	+	
75					トンガ リト ロクダ ムシ					1	+	
76					ド ロクダ ムシ 属			1	+	6	+	
77				ワレカ	トケ ワレカ					20	0.05	
78					オサレカ					1	+	
79					クビ ナガ ワレカ	1	+			12	0.01	
80					マルエラワレカ			4	0.01			
81			十脚	テッホ ウエヒ	テッホ ウエヒ 属			1	0.01	4	0.16	
82				エヒ	イソエヒ			2	0.19			
83				ロウソクエヒ	ハヤシロウソクエヒ					1	0.01	
84				クモガニ	ヨツハモガニ			1	0.06	1	0.15	
85				オウキ ガニ	スベ スベ オウキ ガニ			1	0.02			
86					ヒメクワ ガニ			3	0.11	4	0.31	
87				イワガニ	ヒライイワガニ	2	0.08					
88		昆虫	ハエ	ユスリカ科	ユスリカ科幼虫	71	0.19					
89	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	クモヒトデ	クモヒトデ 属			1	+			
90		ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			4	51.28	2	14.05	
91	原索動物	尾索	腸性	アシキジヤ	アシキジヤ			1	0.05			
92	-	-	-	-	卵塊	-	0.02	-	0.35	-	0.02	
出現種類数						26		51		58		
合計						19,891	100.86	2,862	493.67	664	67.51	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場 ; D - 2

春季調査 (平成 19 年 5 月 30 日) - 1

単位 : 個体数 ; 個体 / 0.25m² , 湿重量 ; g / 0.25m²

No.	調査地点				D - 2							
	門	綱	目	科	項目	上層		中層		下層		
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	腔腸動物	ヒトロ虫	軟クダゲ	ウミサカヅキガヤ	ウミサカヅキガヤ科							
2		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	6	0.09					
3				-	イソギンチャク目	46	0.68	162	4.40	1	0.02	
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	5	0.25	9	0.19	2	0.06	
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科							
6			異紐虫	リネウス	リネウス科	31	0.27	1	+			
7		有針	針紐虫	エムブレクテナ	ホソミドリヒモムシ	15	0.17					
8				アンフィボールス	アンフィボールス属	1	+					
9				テトラステマ	メノヒモムシ	2	+	9	0.09	1	+	
10	星口動物	サハハクホシムシ	サハハクホシムシ	サハハクホシムシ	サハハクホシムシ							
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.					1	+	
12					マダウロコムシ	6	0.02	31	0.12	53	0.14	
13					<i>Harmothoe</i> sp.							
14					ミロクウロコムシ	1	0.05					
15					タンザクコカイ	<i>Chrysopetalum</i> sp.						
16					サハハクカイ	アササハ	2	0.01	1	+		
17						サミドリサハハ	2	0.01				
18					オトヒメコカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.	2	0.01	7	0.02	3	0.01
19					シリ	カキトシリ						
20						ムサキシマシリ						
21						<i>Trypanosyllis</i> sp.						
22						シロマダウシリ	58	1.72				
23						ミドリシリ			1	0.01		
24						<i>Typosyllis</i> sp.	37	0.13	22	0.17	2	0.01
25						<i>Autolytus</i> sp.	2	0.03	15	0.13	2	0.01
26					コカイ	クマドリコカイ	12	1.47				
27						アサナガコカイ			3	0.04		
28						ヒメコカイ	1	+	18	0.19		
29						マダココカイ	41	2.22	128	3.02	8	0.07
30						アツコカイ	2	0.32				
31					フロリ	<i>Glycera</i> sp.			2	0.02	1	0.01
32					イヌ	<i>Eunice</i> sp.						
33					セウロイヌ	<i>Arabella</i> sp.	3	0.16				
34				定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.	4	0.02	43	0.14		
35					ミズヒキコカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.			189	0.35		
36						チクサミズヒキ						
37						ミズヒキコカイ			4	0.10		
38					フサコカイ	<i>Nicolea</i> sp.						
39						<i>Lanice</i> sp.						
40					ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.			6	0.10		
41					カンザシコカイ	イソカンザシコカイ			34	0.61	1	0.01
42	触手動物	簞虫	簞虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.			1	+			
43		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ							
44					トゲイコケムシ	<i>Callopora</i> sp.				-	+	
45					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科						
46					コブコケムシ	コブコケムシ科				-	+	
47					アミコケムシ	アミコケムシ科				-	+	
48	軟体動物	多板殻	新ヒサラガイ	ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属							
49		腹足	原始腹足	ユキノサ	ユキノサ							
50				ニシキウス	コシダカカノガラ					2	11.52	
51			中腹足	カリバガサ	シマメノウサガイ							
52			新腹足	アキガイ	レイシガイ					1	1.47	
53					イボニシ							
54					フトコガイ	ムギガイ	1	+	24	0.25	1	0.17
55						ミニナモトキ				1	+	
56			異腹足	イトカガイ	ヒメネシガイ					1	+	
57				ナメクシ	クワイナメクシ							
58			フシエガイ	フシエガイ	ウミフクロウ					1	0.83	
59			ウミウシ	トリス	トリス科							
60			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ							

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は 0.01 g 未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 2

春季調査（平成 19 年 5 月 30 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点									
						D - 2									
						上層		中層		下層					
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量									
61	軟体動物	腹足	二枚貝	基眼	カマツガイ	ツノハナガイ									
62					イガイ	ムササビガイ	24,305	4,459.52	6,425	414.32	12	0.48			
63						ミドリガイ									
64						ヒバガイ	1	0.02							
65						コウエンカワヒバガイ									
66						ヒビタガイ									
67						タニガイ	2	0.02	11	0.59	1	0.01			
68						ホトギス	11	0.19	9	0.42					
69						ヤマホトギス									
70						ウグイスガイ	ウミキク	ユキノ属							
71							イホガキ	マガキ							
72						マルスタレガイ	イホリガイ	ウスカシオツガイ	21	1.38	169	8.62	5	0.08	
73						オノガイ	キヌトガイ	キヌトガイ			165	4.68			
74	節足動物	ウミグモ	甲殻	皆脚	イウミグモ	イウミグモ科				1	0.01				
75					完脚	イワシツホ	イワシツホ								
76						フジツホ	フジツボ	3	0.19	15	1.53				
77						タナシ	タナシ	ゼウツノ属	308	0.04	54	0.05	17	0.03	
78						等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ	3	+	31	0.03	4	0.01	
79							コツムシ	シラケウミゼミ					1	+	
80							端脚	タテヨコビ	タテヨコビ属			10	0.01		
81								ムラタヨコビ	ムラタヨコビ属	21	0.07	4	0.01	1	+
82									イヨコビ属	2	+	23	0.05	5	0.02
83								モズヨコビ	モズヨコビ属	191	0.55			3	+
84								ユホソコビ	ユホソコビ属					2	+
85								ヒゲナガヨコビ	ヒゲナガヨコビ属			29	0.12	2	0.01
86								カキヨコビ	カキヨコビ属	8	+				
87								トクダムシ	ホヨコビ			23	0.03	33	0.03
88									アリアケトクダムシ			113	0.09	205	0.16
89								ルカ	トゲルカ	1	+	1	0.01		
90									マルイワルカ	1	0.01	308	0.59	4	0.01
91								十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属					
92									エビ	イソエビ					
93									ハヤシロウソクエビ					30	0.06
94									ホヤトカリ	アサシホヤトカリ					
95										ホヤトカリ属					
96									カニダマシ	コブカニダマシ					
97										フトウデネジレカニダマシ					
98									ヤウカニ	ヤウカニ		14	0.14		
99									ケガニ	イッカクケガニ					
100										ヨツハモガニ		9	0.06	10	0.33
101					イチヨウガニ	イホイチヨウガニ									
102					オキガニ	ススオキガニ									
103						ヒメクダガニ		1	0.02	4	0.23				
104					-	カニ類メガロ期幼生		2	+	1	+				
105	棘皮動物	海星			ヒトデ	ヒトデ			20	23.10	9	4.50			
106										3	30.49	4	42.92		
107													1	2.67	
108	原索動物	尾索		樹手	キノ	イソ属									
109						腸性	ジテムシ	ネイホヤ							
110							キオ	カクウレホヤ							
111							壁性	スエラ	シロホヤ						
112									フタシホヤ		1	0.29	1	0.26	
113									エホヤ						
					-	卵塊					0.03				
出現種類数						36		44		44					
合計						25,158	4,469.62	8,150	495.20	438	66.18				

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01 g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 1 日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

門	綱	目	科	種名	調査地点						
					項目	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカシ カガヤ	ウミサカシ カガヤ科			-	0.01	-	0.02
2		花虫	イソギンチャク	タテシ マイソギンチャク	タテシ マイソギンチャク	18	0.26				
3				-	イソギンチャク目	725	7.38	747	30.89	24	0.13
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	141	10.08	12	0.34	3	0.06
5	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	39	0.30	1	+		
6		有針	針紐虫	テトラステマ	メノヒモムシ	1	+	9	0.01		
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダウロコムシ	1	0.04	5	0.01	16	0.05
8				サシハゴカイ	アケサシハ					1	+
9					サミドリサシハ			5	0.01		
10				オビヒメゴカイ	Ophiodromus sp.	10	0.06	31	0.11	30	0.18
11				シリ	カキモシリ			2	0.01		
12					ムラサキシマシリ	18	0.04			1	+
13					シロマダシリ	65	0.61				
14					Typosyllis sp.	87	0.34	63	0.12	59	0.09
15					Autolytus sp.			1	0.01	1	+
16				ゴカイ	ツルビゴカイ	3	0.01	1	0.01		
17					クマドリゴカイ	17	2.31				
18					アソナゴカイ	108	2.78	8	0.03		
19					ヒメゴカイ			1	+		
20					マサゴカイ	106	3.72	0	1.18	1	0.02
21				セグロイソ	Arabella sp.	4	0.09				
22			定在	スビオ	Polydora sp.			4	0.02	2	+
23					Prionospio sp.					1	+
24				ミスヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			2	+	1	+
25					ミスヒキゴカイ	9	0.03			1	0.01
26				オフェリアゴカイ	カヌリアリア	2	+				
27				フサゴカイ	Thelepus sp.				1	0.03	
28				ケヤリ	Sabella sp.			9	0.23		
29				カンザシゴカイ	IV' カネカンザシゴカイ			8,560	5.03		
30	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ	-	+	-	0.25	-	0.01
31				ヒラコケムシ	チコケムシ			-	0.03		
32					ヒラコケムシ科					-	0.03
33					コブコケムシ科					-	0.03
34	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケルダヒザラガイ	ケルダヒザラガイ属	2	0.18				
35		腹足	古腹足	ニシキウスガイ	ヒメスガイ			1	0.02		
36					コシダカカンガラ					5	31.62
37			盤足	タマギ	Lacuna sp.	1	0.01				
38				カリハガサガイ	シマメノウツネガイ			3	0.02	18	0.46
39			翼舌	イトカケガイ	ヒメネシガイ			1	0.02		
40			新腹足	フトコガイ	ムギガイ			404	4.69	186	2.55
41					ノニナモトキ					4	0.03
42			異旋	クルマガイ	クリイロクルマガイ					11	0.38
43				トウガクガイ	クチキレモトキ属					1	0.01
44					クサズリクチキレ					2	0.01
45			側鰓	ウミクワウ	ウミクワウ					1	0.21
46			裸鰓	トリス	トリス科					4	0.18
47			二枚貝	イガイ	イガイ	20,743	7,361.28	16	0.55		
48					ムラサキイガイ						
49					稚タマイガイ	1	0.02				
50					タマイガイ			3	0.09		
51					ホトキス	10	0.25				
52				マルスタレガイ	イホリガイ	8	0.36	7	0.16		
53	節足動物	ウミクモ	皆脚	イソウミクモ	イソウミクモ科	24	0.42	28	1.12	9	0.09
54		貝形虫	ミオトコハ	-	ミオトコハ目			2	0.02	1	+
55		顎脚	無柄	フジツホ	ヨーロッパフジツホ	2	0.11	1	0.05		
56					サンカクフジツホ	1	0.01	127	27.01	41	6.62
57		軟甲	タヌ	タヌ	セウクワ属			40	0.02	37	0.02
58			等脚	ウミミスムシ	ウミミスムシ			14	0.01	5	+
59				コツムシ	シリガンウミセミ					1	0.01
60					コツムシ科			1	0.04		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 2

夏季調査（平成 19 年 8 月 1 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g /0.25m²

					調査地点					
					D - 2					
					上層		中層		下層	
門	綱	目	科	種名	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	節足動物	軟甲	端脚	タテソコヒ			7	+		
62				メリタコヒ	4	0.02				
63				イヨコヒ	2	0.01	5	0.01		
64				モクスヨコヒ	41	0.12				
65				コホソコヒ			21	0.01		
66				トノクダムシ			3	+	20	0.01
67				アリアトノクダムシ					1	+
68				トノクダムシ属			1	+		
69				ワレカ			1	+		
70				マルエワレカ			32	0.02		
71			十脚	モヒ					2	0.02
72				ロウソクヒ					12	0.09
73				ホヤトカリ					2	0.08
74				ケモカニ					7	0.21
75				ヨウハモカニ			32	0.79		
76				イチョウガニ			6	0.27	3	0.19
77				オキガニ			5	0.14	2	0.07
78				-			1	+	1	+
79	棘皮動物	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ			1	0.48	43	7.95
80			ヒメヒトデ	イトマヒトデ					2	20.34
81		ナマコ	楯手	シカクナマコ					1	2.74
82	原索動物	尾索	腸性	シテムニ			-	2.73		
83				キオ			7	0.92		
84			壁性	スチラ			2	0.11		
85				フタジホヤ			1	0.01		
種類数					30		52		45	
合計					22,193	7,390.84	10,235	77.64	564	74.53

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場 ; D - 2

秋季調査 (平成 19 年 11 月 1 日)

単位 : 個体数 / 個体/0.25m² , 湿重量 ; g/0.25m²

					調査地点		D - 2				
門	綱	目	科	種名	層		中層		下層		
					項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	花虫	イキ'ンチャク	タテジ'マイイキ'ンチャク	タテジ'マイイキ'ンチャク		1	0.01			
2				-	イキ'ンチャク目	2	0.01	68	0.59	158	0.75
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	3	0.01	6	0.14	6	0.27
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科					1	0.02
5				異紐虫	リネウス	1	+			1	+
6		有針	針紐虫	アンフィ'ールス	マダ'ラモムシ					8	0.23
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	1	+	2	0.06		
8					マダ'ラウロコムシ	1	+	5	0.08	4	0.14
9					Harmothoe sp.					2	0.07
10					サシハ'ゴ'カイ	3	0.01				
11					オビメ'ゴ'カイ	2	0.01	202	0.91	235	0.72
12					シリス			3	0.01		
13					ムラサキシマシリス			1	+		
14					シロマダ'ラシリス	7	0.02				
15					Typosyllis sp.		+	11	0.04		
16					Autolytus sp.			44	0.26	58	0.41
17					ゴ'カイ	2	0.01				
18					イツツルヒ'ゴ'カイ	19	0.19	2	0.03		
19					クマド'リ'ゴ'カイ	18	0.05	14	0.32	1	0.09
20					アシナ'ゴ'カイ			17	0.10	12	0.08
21					ヒメ'ゴ'カイ						
22					マウ'ゴ'カイ	19	0.15	4	0.05		
23			定在	ズビ'オ	Polydora sp.	56	0.03	116	0.14	543	0.68
24				ミズ'ヒキ'ゴ'カイ	ミズ'ヒキ'ゴ'カイ			9	0.18	9	0.08
25				イト'ゴ'カイ	Capitella sp.	2	+	1	+	3	+
26				フサ'ゴ'カイ	Thelepus sp.			1	0.06		
27				ケヤリ	Sabella sp.	9	0.01	5	0.04	58	0.91
28	触手動物	苔虫	唇口	イタコ'コ'カムシ	イタコ'コ'カムシ科			5	0.01	15	0.13
29	軟体動物	腹足	盤足	リソツホ'	チャツホ'			1	+		
30			翼舌	イトカ'カイ	ヒメネジ'カイ					2	0.02
31			新腹足	アキ'カイ	レイ'カイ	4	0.04	3	0.09	1	0.02
32				フトコロ'カイ	ムギ'カイ			6	0.23	31	0.98
33			異旋	クルマ'カイ	クリイロウメ'ルマ					1	+
34				トウ'カ'カイ	ケチレト'キ属					3	0.01
35			頭楯	ブ'ト'ウ'カイ	ブ'ト'ウ'カイ			8	0.09	1	0.01
36		二枚貝	イ'カイ	イ'カイ	ムラサキ'イ'カイ			4	0.10		
37					ミド'リ'イ'カイ			9	0.17	13	0.28
38					ヒバ'リ'イ'カイ	1	0.01				
39					タマ'イ'カイ					3	0.03
40			マルダ'レ'イ	マルダ'レ'イ	オキナマツ'カセ'					2	0.01
41				イワ'ホ'カイ	ウスカ'シ'オツ'カイ	83	0.63	128	3.18	696	12.28
42	節足動物	顎脚	無柄	フシ'ツホ'	サンカ'フシ'ツホ'			14	5.02	33	15.05
43					クロ'フシ'ツホ'	1	1.42				
44		軟甲	タ'イ	タ'イ	セ'ウ'ツ'属					1	+
45			等脚	コツ'ムシ	シリケン'ミセミ			6	0.03		
46			端脚	メリ'ヨ'コ'エ'ビ'	イ'ヨ'コ'エ'ビ'属			53	0.15	2	+
47				ド'ロク'ムシ	ホ'ヨ'コ'エ'ビ'			5	0.01	3	0.01
48					ト'ロク'リ'ド'ロク'ムシ			12	0.01		
49					ド'ロク'ムシ'属			6	0.01	1	+
50				ワ'レ'カ'ラ	ト'ゲ'ワ'レ'カ'ラ			3	0.01		
51			十脚	ロウ'ソク'エ'ビ'	ハ'ヤ'シ'ロウ'ソク'エ'ビ'	1	0.02	2	0.02	32	0.42
52				クモ'ガ'ニ	イ'ツ'カ'クモ'ガ'ニ					2	0.14
53				ワ'タ'リ'ガ'ニ	イ'ツ'ガ'ニ'属					2	0.09
54					フ'タ'ハ'ニ'ツ'カ'ガ'ニ					1	0.02
55				オ'キ'ガ'ニ	ヒ'メ'ク'ア'ガ'ニ			5	0.01	5	0.01
56				イ'ワ'ガ'ニ	ヒ'ラ'イ'ワ'ガ'ニ			18	0.13	5	0.02
57				-	短尾下目'カ'ニ'期幼生	1	+	2	+		
58	棘皮動物	クモ'ビ'テ'	閉蛇尾	ト'ゲ'クモ'ビ'テ'	ナ'ガ'ト'ゲ'クモ'ビ'テ'					1	+
59	原索動物	尾索	壁性	ス'チ'エ'ラ	シ'ホ'バ'			2	15.82		
60					フ'タ'シ'ホ'バ'					2	0.05
					出現種類数	22		39		40	
					合計	238	2.62	804	28.11	1,957	34.04

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 2

冬季調査（平成20年2月1日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点				D - 2							
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層		
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.37			
2	腔腸動物	花虫	イキ ^ン チャク	-	イキ ^ン チャク目			297	2.16	9	0.06	
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			11	0.79			
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	2	0.01					
5		有針	針紐虫	テラステマ	メノヒモムシ			3	0.07			
6	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.			2	0.01			
7					マタ ^ラ ウロコムシ			11	0.03	27	0.29	
8					サシバ ^ゴ カイ	<i>Anaitides</i> spp.			1	+		
9					サミ ^ト リサシバ			3	0.02			
10					オヒメ ^ゴ カイ	<i>Ophiidromus</i> sp.			157	0.36	49	0.13
11					シリス	カキモシリス			6	0.02		
12						ムラサキマシリス					1	+
13						シロマダ ^ラ シリス			1	+		
14						<i>Typosyllis</i> sp.	18	0.02	16	0.19	1	+
15						<i>Autolytus</i> sp.			6	0.02	1	+
16					ゴ ^{カイ}	ツルビ ^ケ ゴ ^{カイ}					1	0.02
17						イソツルビ ^ケ ゴ ^{カイ}			2	0.01	1	0.01
18						クマ ^ト リ ^ゴ カイ	3	0.04	9	0.55	1	0.04
19						アシガ ^ゴ カイ	14	0.53	1	0.02		
20						ヒメ ^ゴ カイ			2	0.09	3	+
21						マサ ^ゴ ゴ ^{カイ}	8	0.01	42	0.41		
22					イメ	<i>Eunice</i> sp.					1	0.03
23					セ ^ク ロイメ	<i>Arabella</i> sp.	1	0.02				
24			定在		スピ ^オ	<i>Polydora</i> sp.	4	+	241	0.20	56	0.09
25					ミス ^ヒ キ ^ゴ カイ	<i>Dodecaceria</i> sp.					1	+
26						チク ^サ ミス ^ヒ キ			1	+		
27						ミス ^ヒ キ ^ゴ カイ			7	0.08	7	0.05
28					イト ^ゴ カイ	<i>Capitella</i> sp.	1	+			5	0.01
29					フサ ^ゴ カイ	<i>Thelepus</i> sp.			5	0.19	1	0.01
30					ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.			1	0.02	2	0.01
31					カンザ ^シ ゴ ^{カイ}	イ ^リ ガサ ^ナ カンザ ^シ ゴ ^{カイ}			39	0.30	4	0.03
32	触手動物	苔虫	唇口		ヒラコケムシ	チ ^ゴ ケムシ					-	0.16
33					モンク ^チ コケムシ	モンク ^チ コケムシ科			-	0.32		
34					イタク ^コ ケムシ	イタク ^コ ケムシ科			-	0.03		
35					コ ^ゴ ケムシ	コ ^ゴ ケムシ科					-	0.03
36	軟体動物	腹足	古腹足		ニシキウス ^ガ イ	コシダ ^カ ガ ^ソ カラ					1	3.46
37			盤足		リツホ ^ホ	タマツホ ^ホ	2	0.01	3	0.01	9	0.02
38					カリバ ^ガ サガ ^イ	シマメノウツネガ ^イ			1	0.16	5	0.30
39			新腹足		アッキガ ^イ	カ ^ゴ メガ ^イ					3	0.14
40						レイシガ ^イ			8	0.37		
41					フトコ ^ガ イ	ムギ ^ガ イ			47	2.32	50	4.06
42						ノミナ			3	0.01		
43						ノミナモト ^キ					1	+
44			異旋		クルマ ^ガ イ	クリロナワメ ^ル					1	+
45					トウガ ^タ ガ ^ガ イ	ヨロイチキ ^レ 属					4	0.02
46						イトカキ ^リ 属					1	+
47			頭楯		ブ ^ト ウガ ^イ	ブ ^ト ウガ ^イ			1	0.01		
48			二枚貝		ガ ^イ	ガ ^イ	81	0.06			2	0.02
49						ムラサキガ ^イ			1	+	2	0.09
50						ミ ^ド リガ ^イ			1	+		
51						ヒバ ^リ ガ ^イ			1	+		
52						フ ^ヒ タマ ^エ ガ ^イ			2	+	1	+
53						タマ ^エ ガ ^イ	3	0.01			11	0.13
54					マルスタ ^レ ガ ^イ	マルスタ ^レ ガ ^イ			1	+	2	0.03
55					イホ ^リ ガ ^イ	ウスカ ^ラ シオツガ ^イ	27	0.19	5	0.32	224	4.24
56					オノ ^ガ イ	キヌトイガ ^イ					1	0.01
57	節足動物	顎脚	完胸		フジ ^ツ ホ	サンカフジ ^ツ ホ	1	0.07	14	12.62		
58			軟甲		タ ^イ ス	ゼ ^ウ ツ ^属	1	+	21	0.01	79	0.05
59					等脚	コツ ^ム シ	1	0.01				
						シリケン ^ミ セ ^ミ	2	0.02	16	0.38	9	0.12
						ツノオウ ^ミ セ ^ミ						

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未滿を示す。

泉大津沖処分場；D - 2

冬季調査（平成20年2月1日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点				D - 2								
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層			
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
60	節足動物	軟甲	端脚	タテソコビ	タテソコビ属	1	+	123	0.03				
61				メリソコビ	イソソコビ属			140	0.33	4	0.04		
62				モクスヨコビ	モクスヨコビ属	28	0.14						
63				ヒゲナガヨコビ	ヒゲナガヨコビ属	9	0.01	5	0.06				
64				カキリヨコビ	カキリヨコビ属			2	+				
65				トノクダムシ	ホソヨコビ			59	0.04	38	0.04		
66					アリアクトノクダムシ			5	0.02	3	+		
67					トノクダムシ属			18	0.02	5	0.01		
68					ワレカ	トゲワレカ	1	+	3	0.01	2	0.01	
69						オサレワレカ			1	+			
70						ヒゲナガワレカ	1	0.01	21	0.03	5	0.01	
71						マルエワレカ			2	+			
72					十脚	ホソヤトカリ	ホソヤトカリ属			1	0.69		
73						カイカムリ	カイカムリ科			1	0.11		
74				クモガニ		イソカクモガニ					3	0.13	
75				ワタリガニ		フタハニツカニ					1	0.01	
76				オキガニ		スヘスヘオキガニ			1	0.16			
77						ヒメクダカニ			32	0.31			
78						イワガニ	ヒメヘソケイガニ					26	0.22
79			棘皮動物	ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ					3	34.64	
80			原索動物	尾索	腸性	ジテムシ	ネンエホヤ			-	1.39		
81						キオ	カタユレイホヤ			11	1.55		
82					壁性	スチエラ	シロホヤ			1	0.46		
83			-	-	-	-	卵塊			-	0.01	-	0.81
出現種類数						25		55		49			
合計						214	1.16	1,409	27.69	667	49.58		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場；D - 3

春季調査（平成19年5月30日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点				D - 3						
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒトリ虫	軟クク	ウミサグキガヤ	ウミサグキガヤ科					-	+
2		花虫	イキ	イキ	イキ目						
3						51	2.09	498	39.42	32	0.81
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	3	1.01	84	8.24	12	0.51
5	紐形動物	無針	原始紐虫	クファロツリックス	クファロツリックス科					2	0.09
6						17	0.64	2	0.07	3	0.02
7		有針	異紐虫	リネウス	リネウス科						
8			針紐虫	エムレケトネ	ホソトヒモムシ	68	4.24				
9											
10	星口動物	サマルダホシムシ	サマルダホシムシ	サマルダホシムシ	サマルダホシムシ						
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.			4	0.56	1	0.01
12					マダラウロコムシ	1	0.04	18	0.24	63	0.41
13					Harmothoe sp.					2	0.01
14					ミロクウロコムシ			15	0.48	1	0.06
15					クワガクカイ			1	0.02		
16					アケサシバ	3	0.05	4	0.10	3	0.03
17					サミドリサシバ			36	2.96	4	0.19
18					オビメコカイ			226	3.02	158	0.82
19					シリ			1	0.01		
20					ムラサキマシリ			4	0.02		
21					Trypanosyllis sp.	1	0.01				
22					シロマダラシリ	297	5.53				
23					ミドリシリ					1	+
24					Typosyllis sp.	38	0.48			3	0.01
25					Autolytus sp.			17	0.35	5	0.02
26					ゴカイ	112	8.90				
27					クマドリコカイ						
28					アシガコカイ						
29					ヒメコカイ					4	0.04
30					マサゴカイ	26	0.84	436	25.92	90	3.79
31					フツウカイ						
32					チロ					1	+
33					イメ			30	5.42	10	0.87
34					セグロイメ			9	1.76		
35				定在	シリ			19	0.14	62	0.35
36					ミスヒキコカイ			6	0.08		
37					チクサミスヒキ			54	5.47	13	0.95
38					ミスヒキコカイ			2	0.10	1	0.02
39					フサコカイ			16	0.86	6	0.31
40					Nicolea sp.			28	1.94	37	5.89
41					Lanice sp.			7,936	335.36	497	25.72
42	触手動物	筍虫	筍虫	ホロニス	Phoronis sp.	4	0.02			5	0.04
43		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ					-	21.58
44				トゲイタクケムシ	Callopora sp.						
45				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.05	-	0.05
46				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.02	-	0.07
47				アミコケムシ	アミコケムシ科					-	1.37
48	軟体動物	多板殻	新ヒザラガイ	ケルダヒザラガイ	ケルダヒザラガイ属	9	2.99				
49		腹足	原始腹足	エキノサ	エキノサガイ	7	0.11				
50				ニシキウス	コシダカガソウ						
51			中腹足	カリハガサ	シマメノウサガイ			5	0.34	27	4.61
52			新腹足	アケガイ	レイシガイ			13	54.00	13	1.49
53					イボニシ	2	0.23				
54					フトロガイ			10	1.53	177	18.42
55					ノミナモトキ					1	+
56			異腹足	イトカガイ	ヒメサガイ					2	0.09
57				クワメグ	クワメグ					17	1.18
58				フシエガイ	ウミコケ			1	3.42	1	0.81
59				ウミクサ	ドリス					1	0.44
60			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	2	2.05				

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01g未滿を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

春季調査（平成 19 年 5 月 30 日） - 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		D - 3						
						項目	層	上層		中層		下層		
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
61	軟体動物	腹足 二枚貝	基眼 カ	カマツガイ科	カマツガイ			3	0.39					
62					ムササギガイ		20,864	3,656.36	2,944	1,266.56	121	6.99		
63					ミドリガイ				1	0.21				
64					ヒバノガイ				5	1.99	4	0.72		
65					コウロエンカヒバノガイ			5	0.28					
66					飛ノタマガイ			1	+					
67					タマガイ					11	0.33	2	0.13	
68					ホトトギス			1	0.04	2	0.02			
69					ヤマホトトギス					1	0.02			
70					ウグイスガイ	ウミキノ	ウミキノ属			2	0.33	2	0.48	
71						イボガキ	マガキ		12	116.73	3	5.43		
72						マルスダレガイ	ウスカサシヤガイ		20	0.32	232	34.72	2	0.30
73						材ノガイ	キヌトガイ				80	1.92	201	6.45
74	節足動物	ウミクモ 甲殻	皆脚	イウミクモ	イウミクモ科									
75				完脚	イワシツボ	イワシツボ	543	2.17						
76					ツボ	サンカクツボ			63	2.88	2	0.18		
77				タナ	タナ	セウソク属					6	+		
78				等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ								
79					コツムシ	シラケウミセ		1	+		1	0.01		
80				端脚	テソコ	テソコ属					1	+		
81					メダコ	メダコ属								
82						イソコ	イソコ属			8	0.06	21	0.07	
83					メダコ	メダコ属		17	0.05					
84					コソコ	コソコ属								
85					ヒゲナガ	ヒゲナガ属								
86					カマキリ	カマキリ属								
87					トノクダ	ホソコ				2	+	300	0.41	
88						アリアケトノクダ				10	0.02	373	0.40	
89						ワレカ	トゲワレカ							
90						マルエワレカ					3	0.01		
91				十脚	テッポウ	テッポウ属					1	0.01		
92					モエ	イソモエ								
93					ロウソク	ハヤシロウソク						1	+	
94	ホヤト	アサシホヤト							29	0.37				
95		ホヤト	ホヤト属						1	0.01				
96	カニダ	コノカニダ					4	0.12	11	0.17				
97		フトウテ	フツレカニダ				3	0.05						
98	ヤウラ	ヤウラ							2	+				
99	クモ	イッカククモ					2	0.32	27	2.60				
100		ヨツバ					3	0.02	49	0.83				
101	イソ	イソ							5	0.05				
102	オキ	スベスベ					10	21.92						
103		ヒメ					14	1.31	39	1.38				
104		-	カニ類		カニ類									
105	棘皮動物	海星	キト	キト	キト			4	1.02	9	1.23			
106					イトマキト					1	1.20			
107		海鼠	樹手	キノ	イソ									
108	原索動物	尾索	腸性	ジテ	ネエキ			-	2.24					
109				キオ	カユレイ			8	7.60	3	11.24			
110			壁性	スチ	シロ	シロ			2	0.35	3	87.45		
111					フタ	フタ					1	0.29		
112					イホ	イホ			3	18.99	1	39.63		
113	-	-	-	-	卵塊			-	1.27					
出現種類数						27		57		70				
合計						22,109	3,806.90	12,916	1,860.59	2,480	254.02			

注) 個体数の - は計数不能を、湿重量の + は0.01g 未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

夏季調査（平成19年8月1日） - 1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						D - 3						
						層	上層		中層		下層	
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱					-	0.04	
2	腔腸動物	ヒドロ虫	花クダ	クダウミヒド	クダウミヒド科					-	0.27	
3			軟クダ	ウミサグキガキ	ウミサグキガキ科			-	0.39	-	0.13	
4		花虫	イキンチャク	クダマイキンチャク	クダマイキンチャク	27	0.64					
5					イキンチャク目	97	1.52	980	37.04	25	0.49	
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	163	2.00	30	11.20	6	0.16	
7	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	7	0.12			1	+	
8		有針	針紐虫	アソビノール	アソビノール目	5	0.35			1	+	
9					アソビノール属	6	0.08					
10					テラスマ	243	2.56	2	+	1	0.01	
11	星口動物	サメダホシムシ	サメダホシムシ	サメダホシムシ	サメダホシムシ					1	0.14	
12	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.			2	0.44			
13					マダウロコムシ			118	0.80	52	0.34	
14					ミロクコムシ			26	2.60	1	0.36	
15					サシバゴカイ	サシバ		4	0.06			
16					オビメゴカイ	Ophiudromus sp.		530	5.50	93	0.55	
17					シリ	カキトシリ				1	+	
18						ムラサキシリ		3	0.02	1	+	
19						シロダシリ	188	1.62				
20						Typosyllis sp.		3	0.02	3	0.01	
21						Autolytus sp.		16	0.86	7	0.07	
22					ゴカイ	クマドリゴカイ	70	8.48				
23						アソガゴカイ	11	0.18	2	+		
24						ヒメゴカイ			48	0.56		
25						マゴゴカイ	4	0.05	254	10.72	36	1.37
26					イメ	Eunice sp.			12	1.78	9	0.65
27			定在	ズビ	Polydora sp.			50	0.20	25	0.12	
28				ミスヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			434	0.56			
29					チクサミヒキ			8	0.06	8	0.07	
30					ミスヒキゴカイ			106	8.68	1	0.06	
31					アサゴカイ	Lanice sp.		28	8.10	14	2.47	
32					ケヤリ	Sabella sp.		10	0.66	17	1.03	
33					カンザシゴカイ	イノカンザシゴカイ		3,714	157.54	278	12.69	
34	触手動物	苔虫	唇口	アサココムシ	アサココムシ					-	100.47	
35				トクイタクコムシ	Callopora sp.			-	0.02			
36				モンクチコムシ	モンクチコムシ科			-	0.06			
37	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	カハダヒザラガイ	カハダヒザラガイ属	7	2.05					
38		腹足	古腹足	ユキカサガイ	ユキカサガイ	2	0.07					
39			盤足	タマシ	Lacuna sp.	2	0.06					
40					ゴビトウラウスガイ			12	0.07			
41					カハダガサガイ	シマメノウツガイ			3	0.89	23	0.39
42					アツキガイ	レイシガイ	1	0.15	64	81.36		
43			新腹足		イホニシ			1	0.28	6	3.24	
44					フトコロガイ	ムギガイ			59	1.88	472	15.86
45			異旋	クルマガイ	クリイロナワメノム					3	0.17	
46			側鰓	ウミクワ	ウミクワ					44	17.76	
47			裸鰓	ドリス	ドリス科			15	0.13	3	0.08	
48			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	2	0.84					
49		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	13,291	5,298.77	2,850	5,825.47	24	4.72	
50					ミドリイガイ			1	0.37			
51					ヒバリガイ	2	0.11	7	2.83			
52					コウロクイガイ	7	0.04					
53					タマイガイ	2	0.05	8	0.51	5	0.07	
54				ミノガイ	ミノガイ			2	0.17			
55			蚌	イホガキ	マガキ	14	60.98					
56			マルスタレガイ	マルスタレガイ	オキナツカセ			1	0.28			
57				イワホリガイ	ウスカシオツガイ	4	0.07	132	13.74	3	0.03	
58					イワホリガイ科	1	0.13					
59				オノガイ	キヌトイガイ			662	31.14	197	6.82	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

夏季調査（平成19年8月1日）- 2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

門	綱	目	科	種名	調査地点						
					D - 3						
					層	上層		中層		下層	
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量					
60	節足動物	顎脚	無柄	フジツホ	ヨーロッパフジツホ			24	1.18		
61					ウツクフジツホ			70	9.19	3	0.42
62		軟甲	タビ	タビ	セウクリ属					2	+
63			等脚	ウミズムシ	ウミズムシ			12	0.02		
64			端脚	ウツクコエビ	ウツクコエビ属			670	2.58	59	0.17
65				エクスコエビ	エクスコエビ属	19	0.03				
66				トウタムシ	ホウコエビ					126	0.09
67					アリアクトウタムシ			199	0.13		
68					トウタムシ属					3	+
69			十脚	モエビ	イモエビ					3	0.16
70					<i>Eualus</i> sp.					1	0.01
71				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ					1	0.02
72				ホシヤドカリ	アサマホシヤドカリ					80	1.61
73				カニダマシ	コブカニダマシ			2	0.11	1	0.03
74				クモガニ	イッカククモガニ			3	0.77	14	0.76
75					ヨツバモガニ			22	0.60	377	13.52
76				イソウガニ	イソウガニ					5	0.39
77				オウギガニ	スススオウギガニ			6	31.88		
78					ヒメケブカガニ			26	1.42	24	3.14
79				イワガニ	ヒライワガニ	30	0.64			8	0.16
80				-	カニ類メガロメ期幼生	4	0.02				
81		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科	49	0.21				
82	棘皮動物	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ					5	2.29
83				ヒメヒトデ	イトマヒトデ					4	6.01
84		海鼠	楯手	シカクナマコ	マナコ					1	3.54
85			樹手	スクレロタケテラ	イシコ属			2	0.08	2	0.59
86	原索動物	尾索	腸性	ジテムシ	ネシキボヤ			-	0.94		
87				キオチ	カタユレイボヤ			27	20.64	1	0.03
88			壁性	スチエラ	シロボヤ			6	75.53		
89					フタスシボヤ			16	7.86	1	0.51
90					イボヤ					2	27.76
91	-	-	-	-	卵塊					-	0.95
種類数					29		53		57		
合計					14,271	5,382.17	11,275	6,362.81	2,078	229.56	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

秋季調査（平成 19 年 11 月 1 日） - 1

単位：個体数/個体0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					D - 3						
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層		
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.02			
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クサ	ウミシバ	ウミシバ科			-	1.46	-	+	
3		花虫	イソキ	ツバキ	ツバキ目	87	2.11					
4					イソキ目	8	0.05	123	3.50	336	15.20	
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			94	0.86	14	0.49	
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	1	+					
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.	3	0.02	3	0.12	2	0.04	
8					マダウロコムシ			1	+	7	0.16	
9					ミロクウロコムシ			2	0.08	13	1.18	
10					サシバゴカイ	アケサシバ				1	0.05	
11						サミドリサシバ	1	+	10	0.21	1	0.02
12					オヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.	1	+	434	0.73	441	2.26
13					シリス	カキトシリス			2	+	1	+
14						ムラサキマシリス			3	0.01	4	0.01
15						シロマダシリス	30	0.07			1	+
16						<i>Typosyllis</i> sp.	3	+	1	+		
17						<i>Autolytus</i> sp.	1	+	90	0.61	237	3.05
18					ゴカイ	クマドリゴカイ		0.31				
19						アシカゴカイ	19	0.32	6	0.05	4	0.07
20						ヒメゴカイ			49	0.39	18	0.25
21						マダゴカイ			54	0.57	1	0.01
22					イソメ	<i>Eunice</i> sp.					20	1.74
23				定在	スヒオ	<i>Polydora</i> sp.	1	+	8	0.03	623	0.70
24						<i>Prionospio</i> sp.			2	0.01		
25					ミスヒキゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.			122	0.09		
26						チクサミズヒキ					1	0.04
27						ミスヒキゴカイ			15	0.18	31	2.07
28					ワサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.					3	0.16
29						<i>Nicolea</i> sp.					2	0.07
30					ケヤリ	<i>Sabella</i> sp.	2	0.03	95	0.98	176	3.68
31					カンザシゴカイ	エツカンザシゴカイ	3	0.02	102	2.22	283	13.36
32						<i>Spirobranchus</i> sp.			8	0.12	20	0.24
33	触手動物	苔虫	唇口	アサコケムシ	アサコケムシ					-	0.28	
34					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科					-	0.05
35					イタコケムシ	イタコケムシ科	-	0.02	-	0.01	-	0.03
36		腕足	頂殻	盤殻	<i>Discinisca</i> sp.					1	0.02	
37	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	3	0.95					
38		腹足	カサガイ	ユキカサガイ	ユキカサガイ	1	0.29					
39					コメレヒコガモガイ	2	1.04					
40		盤足	カリバカサガイ	シメメノウサガイ	シメメノウサガイ			9	3.45	2	0.72	
41		新腹足	アキカガイ	レイシガイ	レイシガイ	7	0.35	76	18.45	12	15.46	
42					イホニシ	6	7.14	3	5.04			
43					ムキガイ			22	1.22	204	11.48	
44					ノミナモトキ			2	0.01	12	0.02	
45		二枚貝	イガイ	イガイ	ミドリイガイ			4	0.02	6	4.33	
46					タマイガイ			6	0.04	10	0.13	
47					キクザルガイ	キクザル属				1	0.14	
48					マルスタレガイ	オキナマツガエ	1	+				
49					イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	1	+	81	3.50	192	5.92
50	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	フジツボ	3	+					
51					サンカクフジツボ	25	0.49			28	1.28	
52		軟甲	対イ	タイイ	タイイ属	1	+					
53			等脚	コツブムシ	シリケンウミセミ	2	+	2	0.03	1	0.01	
54					コツブムシ科			2	0.06	1	0.02	
55			端脚	タテソコヒ	タテソコヒ属					2	+	
56					ウリソコヒ	ウリソコヒ属	1	+	682	1.53	83	0.27
57					モクスヨコヒ	モクスヨコヒ属	2	+				
58					トノクダムシ	ホリソコヒ			25	0.04	25	0.02

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

秋季調査（平成 19 年 11 月 1 日） - 2

単位：個体数/個体0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点					D - 3							
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層			
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
59	節足動物	軟甲	十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属					3	0.03		
60				モエビ	<i>Eualus</i> sp.					1	0.01		
61				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ						29	0.61	
62				カニダマシ	コブカニダマシ			2	0.01		5	0.03	
63				クモガニ	イッカククモガニ			9	0.17		13	0.68	
64				イソヨウガニ	イソイソヨウガニ						1	0.71	
65				ワタリガニ	ワタリハニツツガニ						2	0.22	
66				オウギガニ	スハスハオウギガニ					17	15.28	5	1.92
67										13	0.17	15	0.04
68													
69													
70		昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科	1	+						
71	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	クモヒトデ	クモヒトデ科			1	0.02	1	0.02		
72	原索動物	尾索	腸性	キナ	カクウレイホヤ					2	5.02		
73			壁性	スフィラ	シロホヤ					5	75.84		
74						フタシホヤ							
出現種類数						30		44		55			
合計						227	12.84	2,207	61.78	2,902	170.16		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

冬季調査（平成20年2月1日） - 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

門	綱	目	科	種名	調査地点		D - 3						
					層	項目	上層		中層		下層		
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	1.98				
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダ	ウミサザ	ウミサザ科					-		0.02	
3		花虫	イギ	イギ	イギ目	2	0.01	84	1.95	472		8.64	
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	10	0.05	8	0.07	1		+	
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科					2		0.13	
6			異紐虫	リネウス	リネウス科	2	0.01						
7		有針	針紐虫	アンフィボル	マダラヒモムシ					1		+	
8				テラステマ	メノヒモムシ	4	0.01	1	0.01				
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.	7	0.06			1		0.02	
10					マダラウロコムシ			9	0.14	9		0.09	
11					マダラウロコムシ亜科			1	0.03				
12					ミロクウロコムシ			1	0.07	2		0.30	
13				サシバ	サシバ	22	0.38	4	0.16	9		0.34	
14				オビメ	<i>Ophiodromus</i> sp.			133	0.31	253		0.81	
15				シリ	カキトシリ			18	0.05				
16					シリ								
17					<i>Typosyllis</i> sp.	5	0.04	2	+				
18					<i>Autolytus</i> sp.	12	0.06				9	0.03	
19						2	0.01	21	0.06	49		0.19	
20				ゴ	ツルビ	1	0.03						
21					ツルビ	5	0.01						
22					クマ	8	0.09	1	0.02				
23					アシ	12	0.35	8	0.04	4		0.14	
24					ヒメ			3	0.01	22		0.07	
25					マサ	64	0.23	98	1.12	15		0.09	
26					イメ			4	0.09	9		0.65	
27					セ			1	0.09				
28			定在	スピ	<i>Polydora</i> sp.	17	0.02	14	0.03	159		0.41	
29				ミズ	<i>Dodecaceria</i> sp.			3	0.01				
30					チ			1	+				
31					ミズ			1	0.01	21		0.56	
32				イト	<i>Capitella</i> sp.			1	0.01				
33				フサ	<i>Polycirrus</i> sp.	1	+						
34					<i>Thelepus</i> sp.			2	0.15	2		0.20	
35					<i>Lanice</i> sp.					3		0.08	
36				ケ	<i>Sabella</i> sp.	3	0.01	13	0.13	85		1.11	
37				カン	イ	6	0.02	156	1.74	192		3.68	
38	触手動物	筈虫	筈虫	ホ	<i>Phoronis</i> sp.					5		0.01	
39		苔虫	唇口	フ				-	19.74	-		0.27	
40				モン		-	0.45	-	5.61	-		0.04	
41				コ						-		0.02	
42		腕足	頂殻	盤	<i>Discinisca</i> sp.			1	0.02				
43	軟体動物	腹足	盤足	リ						1		+	
44				ミ						1		0.02	
45				カ				3	2.28	1		0.29	
46			翼舌	イ						3		0.03	
47				ミ						1		+	
48			新腹足	ア						1		+	
49								25	2.84	15		12.88	
50										3		2.97	
51								27	1.36	117		4.61	
52								9	0.02				
53								15	0.08	15		0.03	
54			異旋	ト						2		+	
55				ミ						3		0.27	
56		二枚貝	フ	フ				1	0.01				
57			イ	イ		648	1.28	4	0.02				
58								3	0.05	1		+	
59			マル	イ				77	1.03	5		0.05	
60			オ	キ						1		0.10	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D - 3

冬季調査（平成20年2月1日） - 2

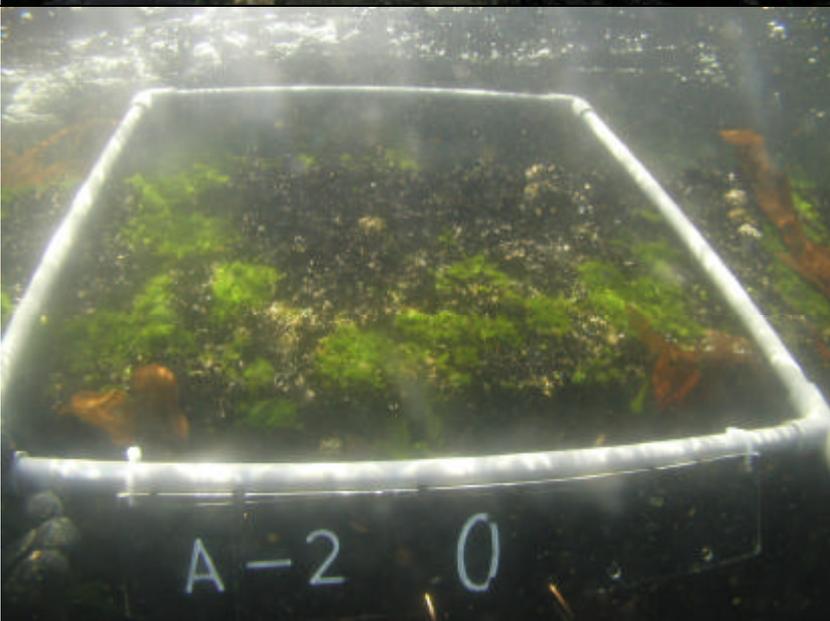
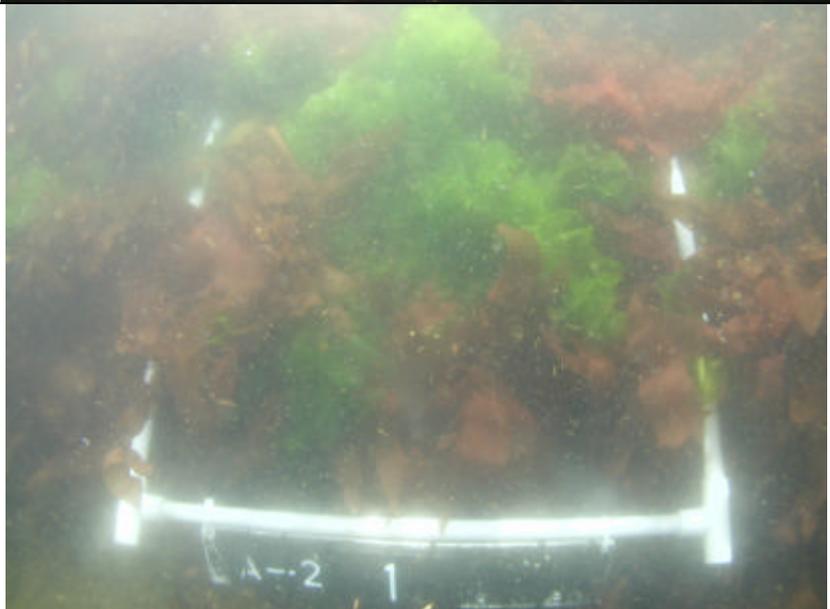
単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	調査地点				D - 3						
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	節足動物	ウミグモ	皆脚	イソウミグモ	クダトクイソウミグモ	1	+				
62		顎足	完胸	フジツホ	サンカクフジツホ	5	1.06	10	0.17	2	0.46
63		軟甲	等脚	コツブムシ	ツノオシセミ			5	0.11	5	0.09
64			端脚	タテヨコヒ	タテヨコヒ属			17	0.01	26	+
65				メリタヨコヒ	イソヨコヒ属	1	+	443	1.50	172	0.42
66				モクスヨコヒ	モクスヨコヒ属	28	0.29				
67				ヒゲナガヨコヒ	ヒゲナガヨコヒ属	6	0.05				
68				カマキリヨコヒ	カマキリヨコヒ属			2	0.01		
69				トノクダムシ	ホソヨコヒ	5	0.02	543	0.89	262	0.36
70					トノガリトノクダムシ			3	+		
71					トノクダムシ属	1	+			4	0.01
72				ワレカ	トゲワレカ			59	0.14		
73					オサテワレカ			1	+		
74					クビナガワレカ			147	0.34	5	0.01
75			十脚	テッポウウエビ	テッポウウエビ属					13	0.41
76				カニダマシ	コブカニダマシ			1		16	0.14
77				カイカムリ	カイカムリ科					1	0.06
78				ケモガニ	イッカクケモガニ			3	0.45	12	1.04
79				オキガニ	スベスベオキガニ			7	5.11	6	0.38
80					ヒメケブカガニ			34	0.36	90	2.38
81				イワガニ	ヒメハシイワガニ	4	0.04				
82	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	フヒクモヒトデ	フヒクモヒトデ科			1	+		
83		ウニ	ホソウニ	サンショウウニ	サンショウウニ			1	0.02		
84	原索動物	尾索	腸性	ジテムシ	ネエキボヤ			-	2.76		
85				キオ	カタコレイボヤ			1	0.02	7	1.37
86				アスキシア	スジキレボヤ	1	0.06				
87			壁性	スチエラ	シロボヤ			1	1.63		
88					フタスジボヤ					1	0.68
89	-	-	-	-	卵塊			-	0.04	-	0.12
出現種類数						29		57		58	
合計						883	4.64	2,032	54.90	2,118	47.08

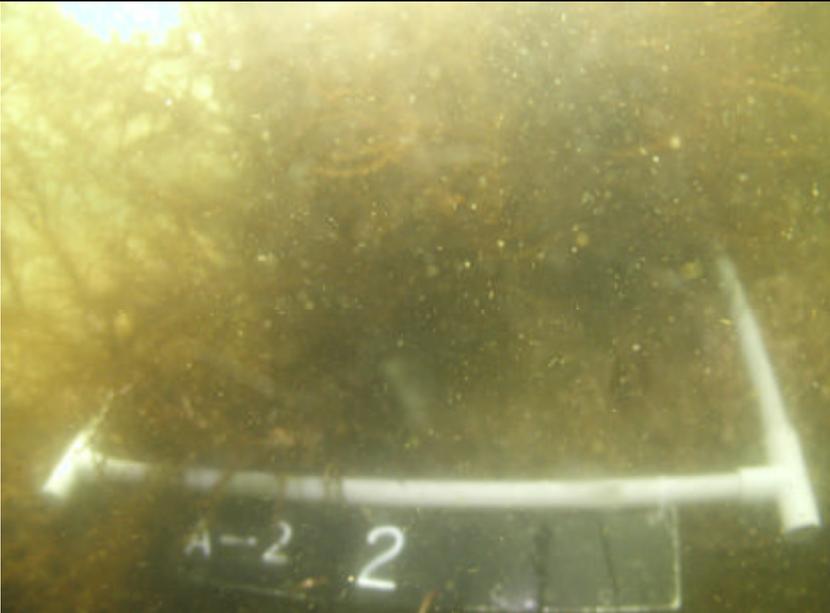
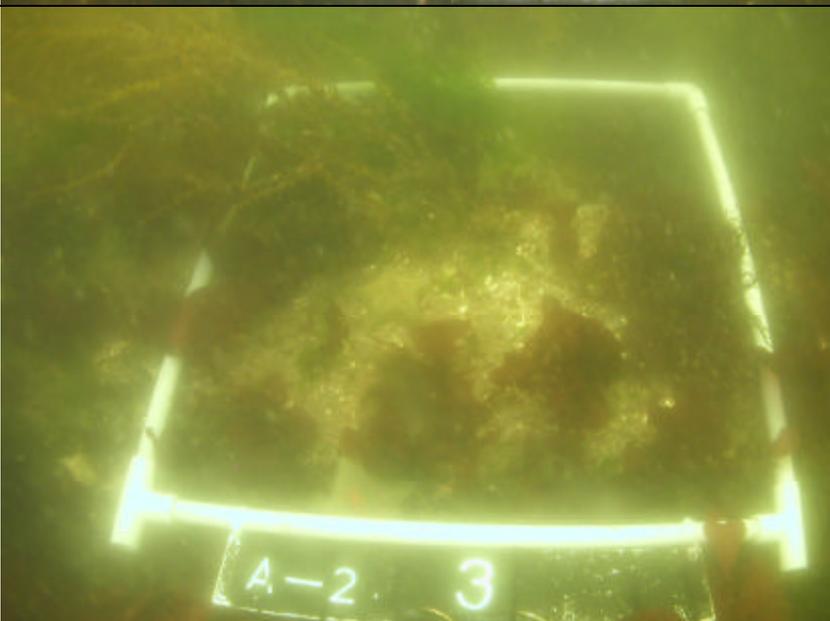
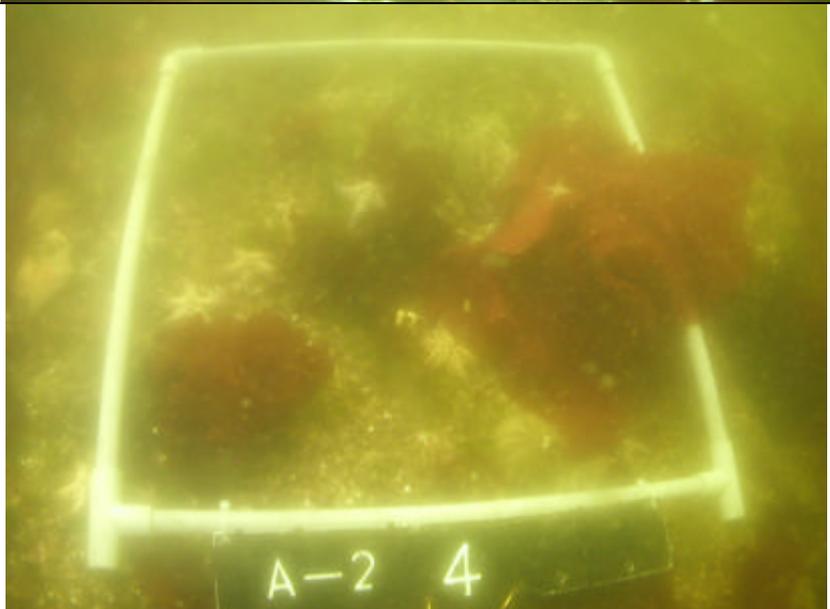
注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

写真集

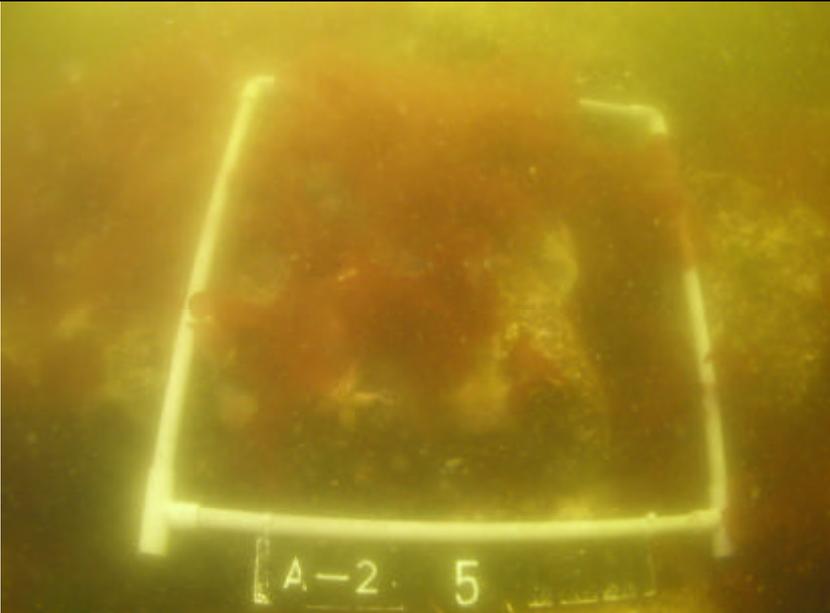
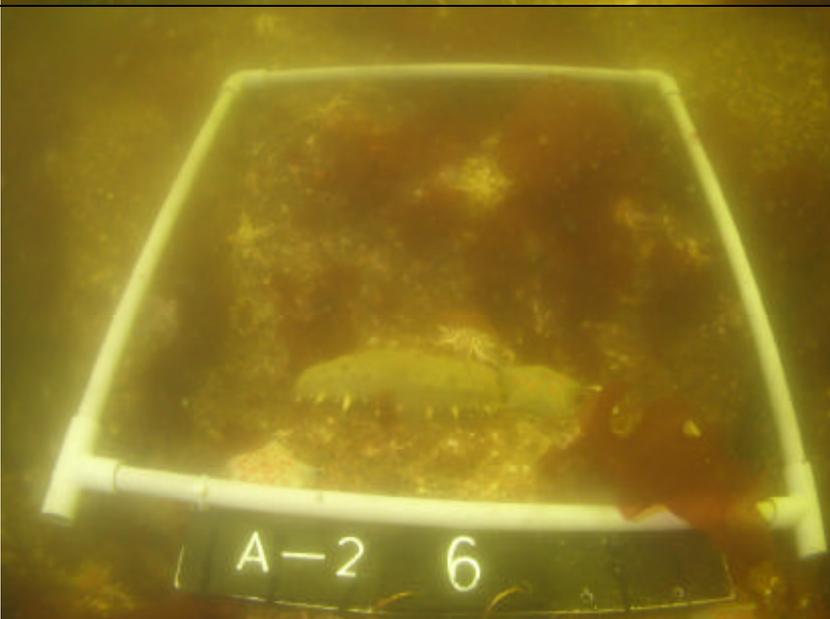
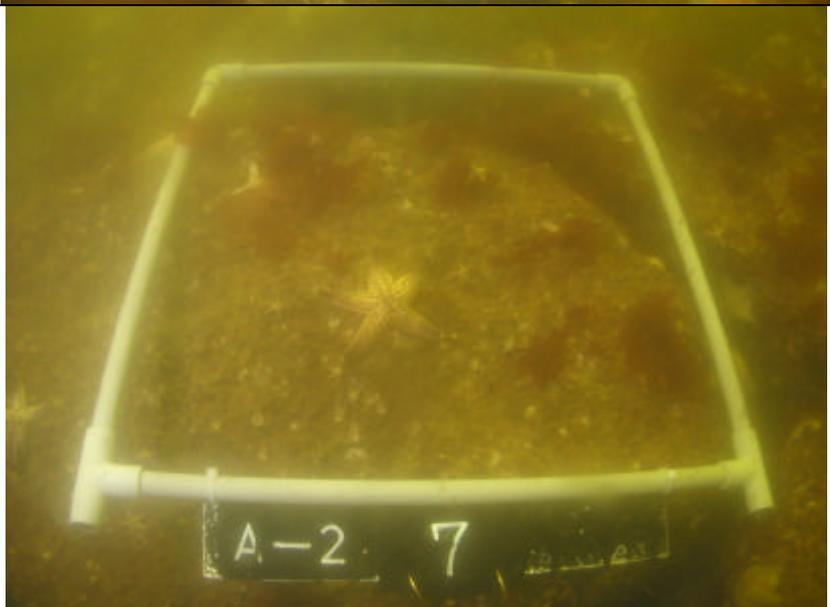
A . 神戸沖処分場
(平成 19 年 5 月 27 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

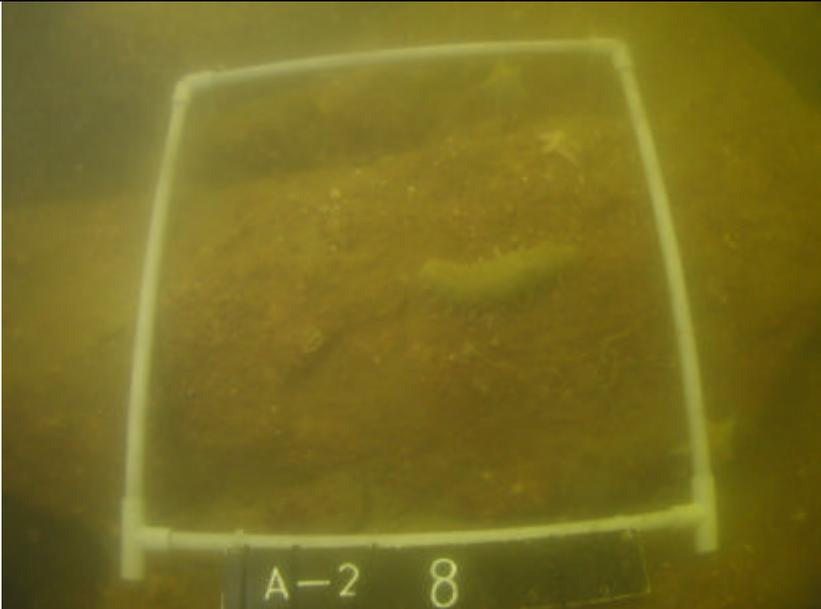
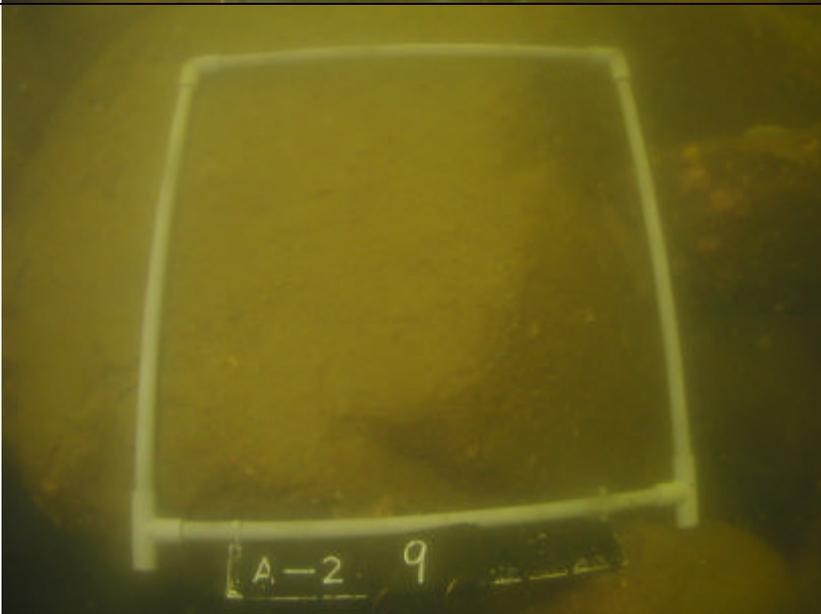
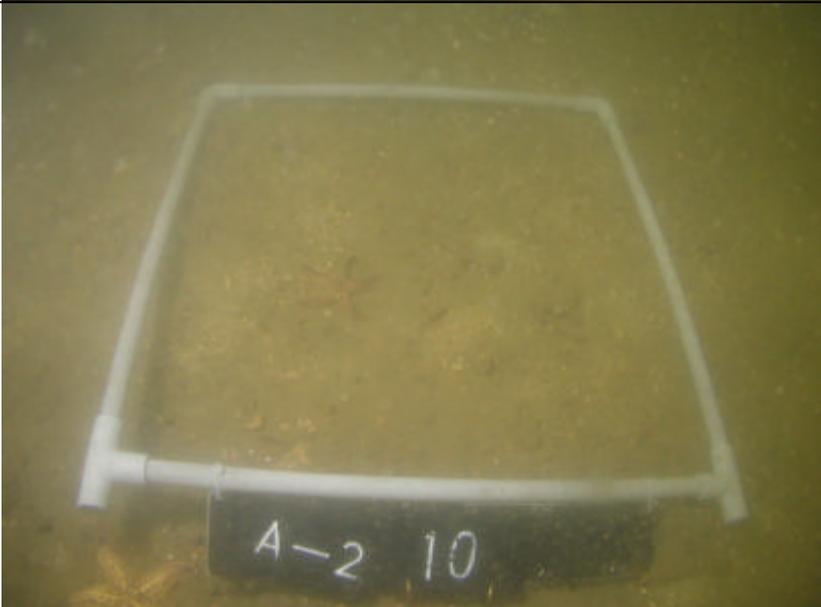
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

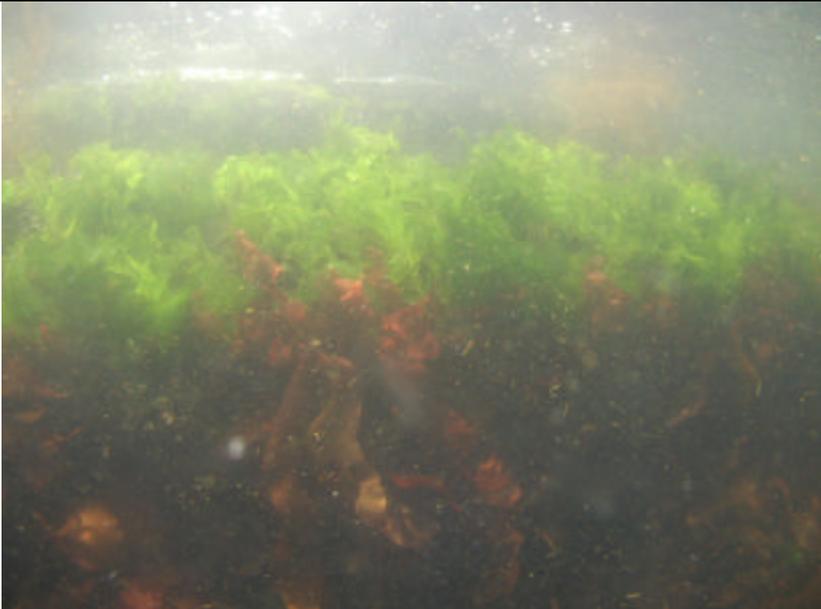
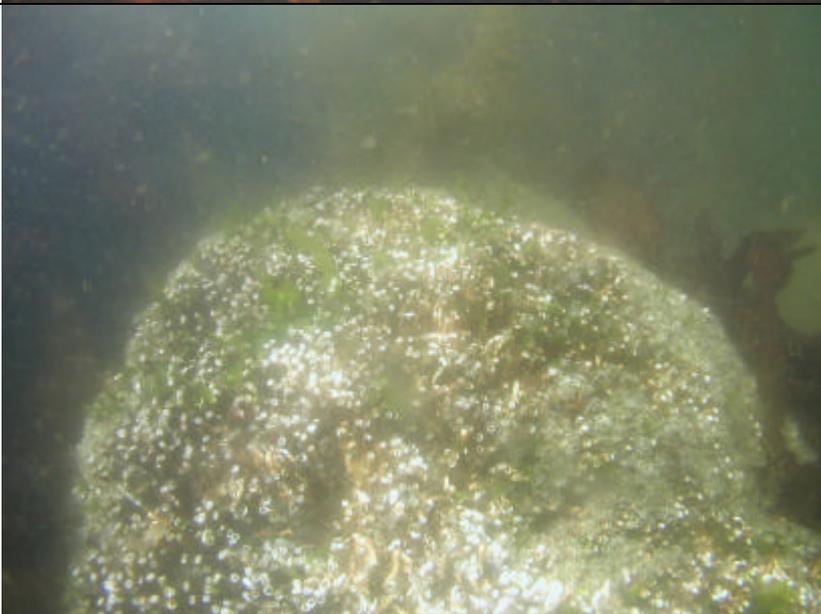
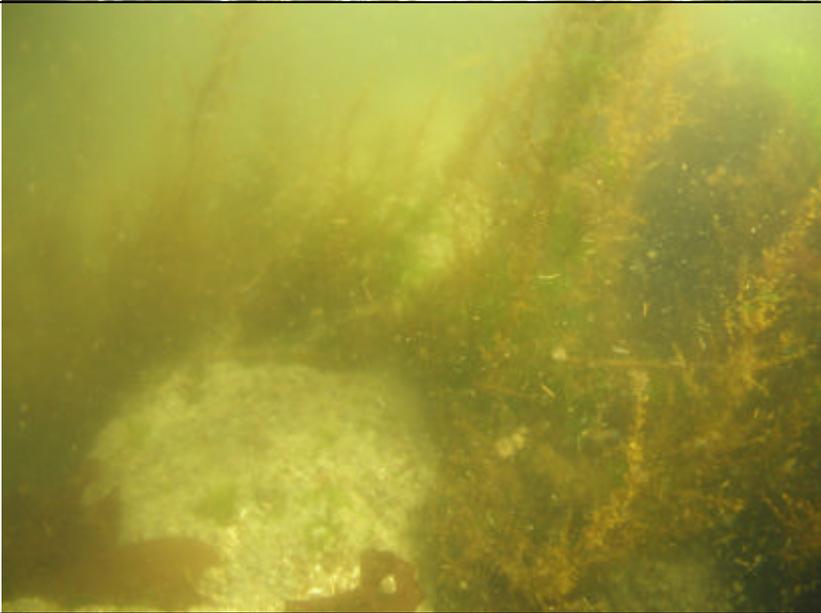
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

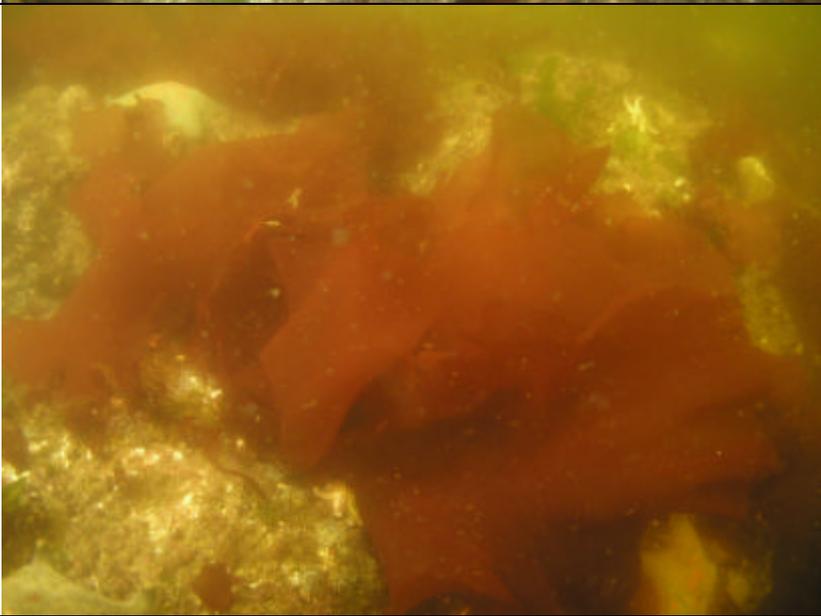
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

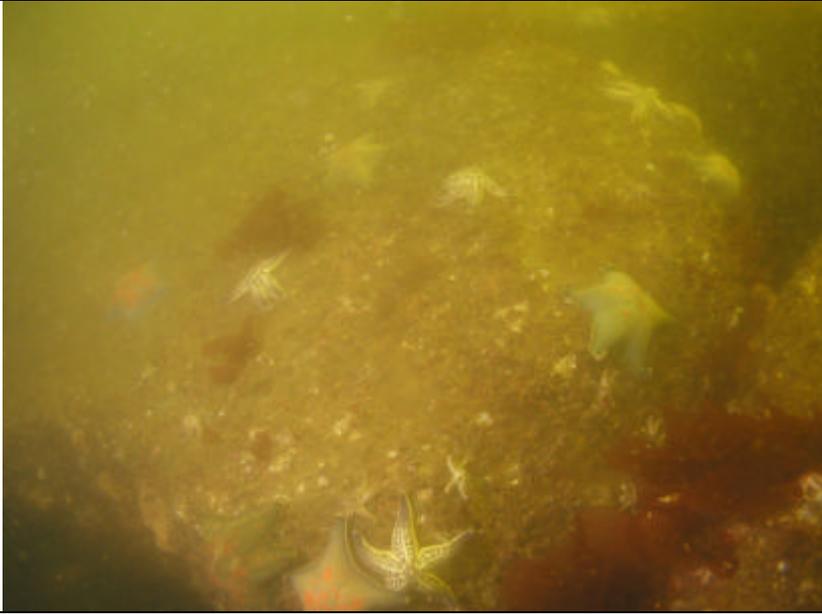
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>アオサ属 フダラク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>

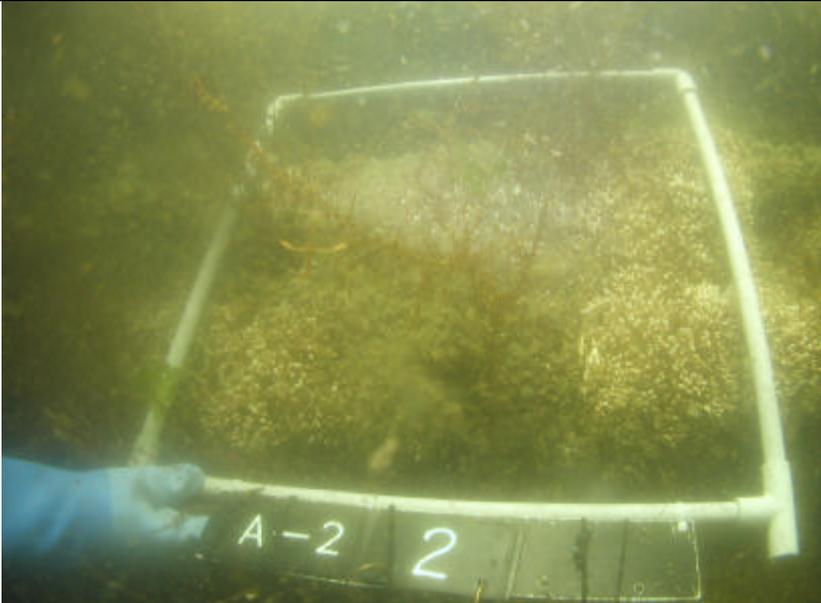
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>サザエ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ススカケベニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ベニスナゴ</p>

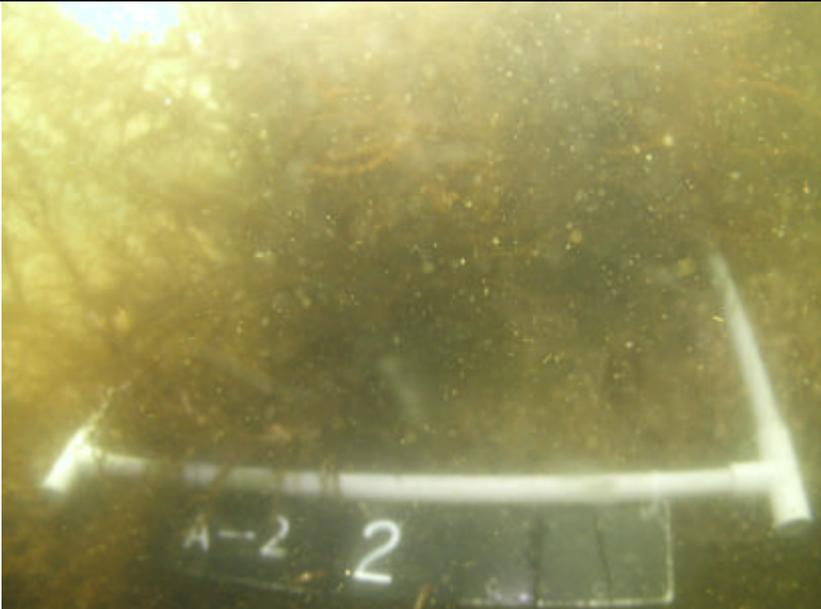
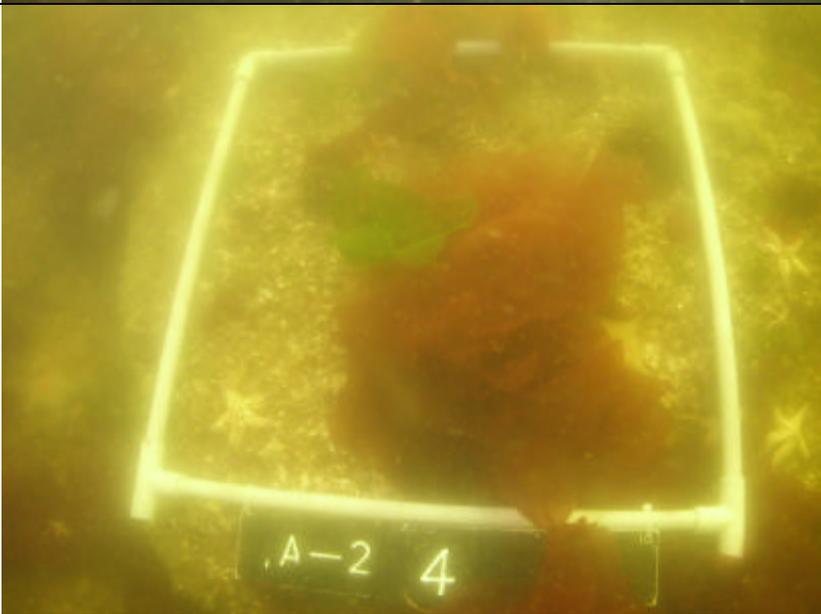
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ムカデノリ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>キヒトデ イトマキヒトデ</p>

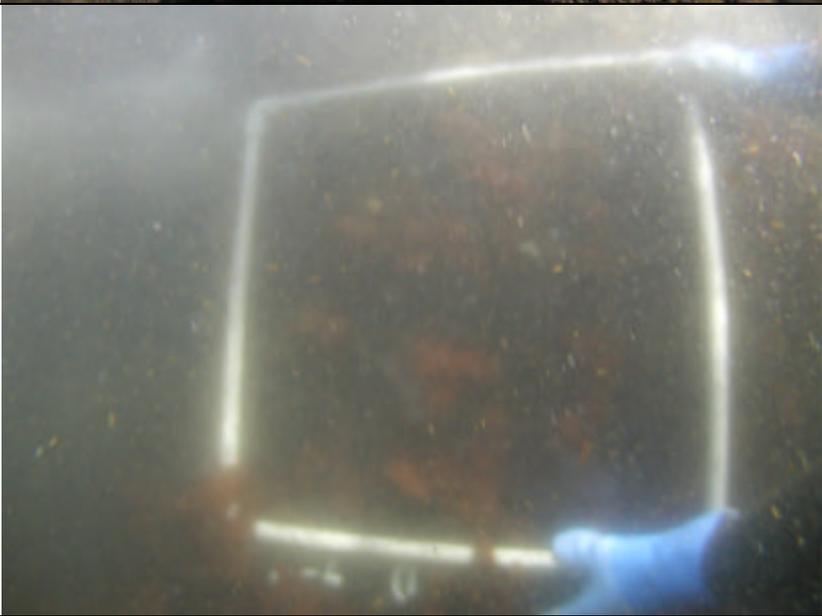
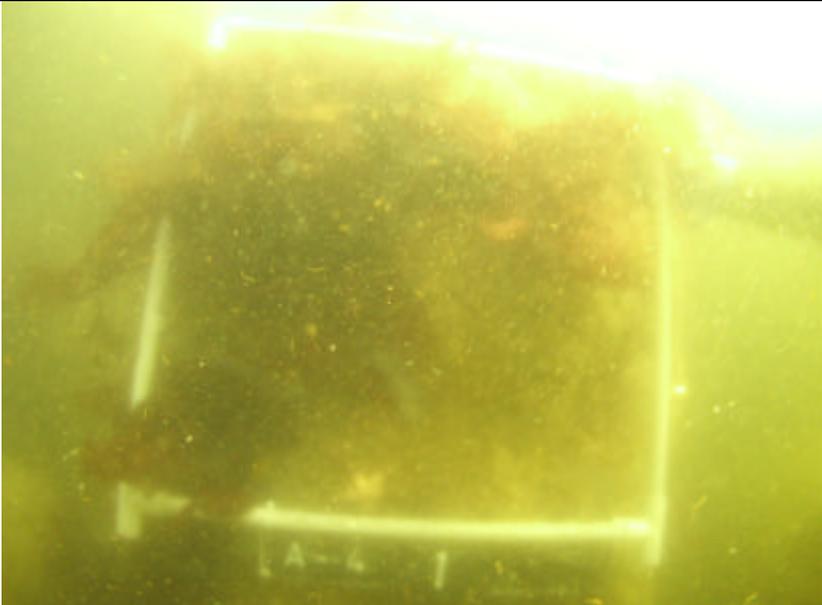
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

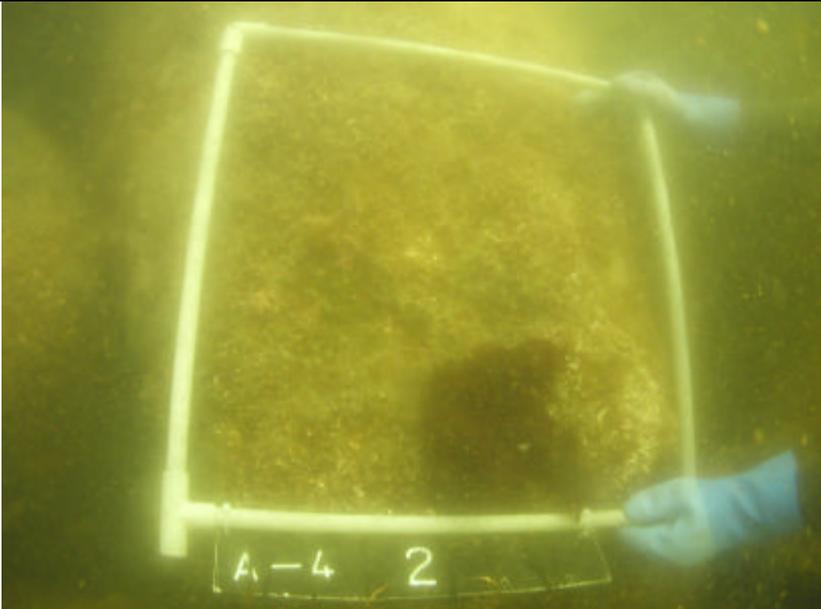
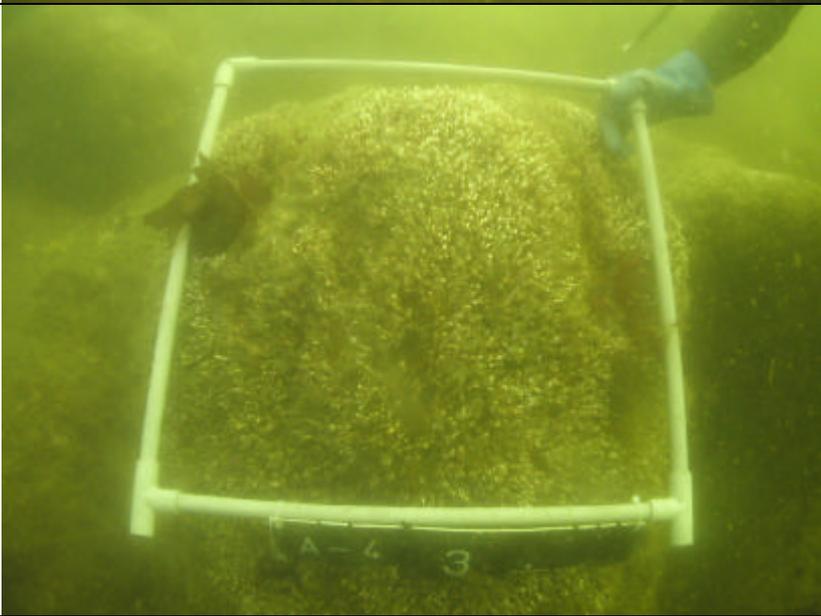
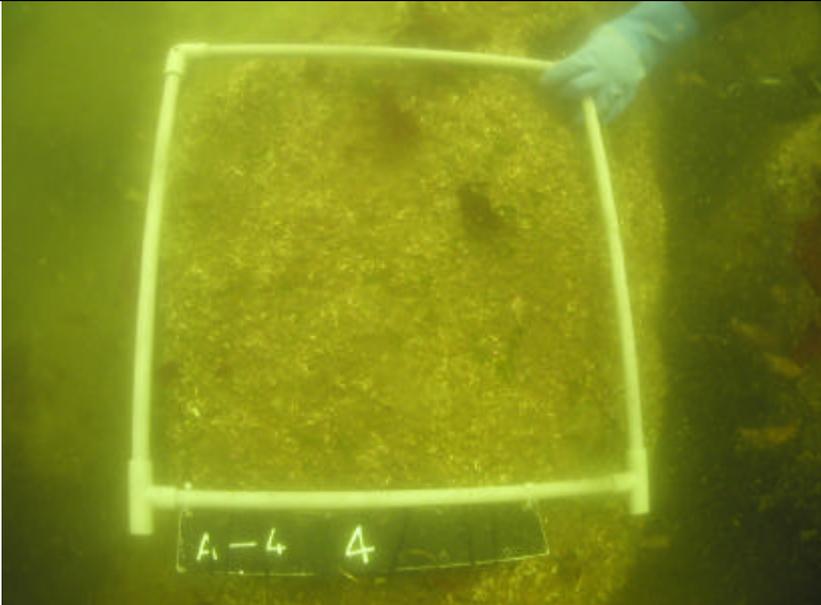
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>粹取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>粹取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

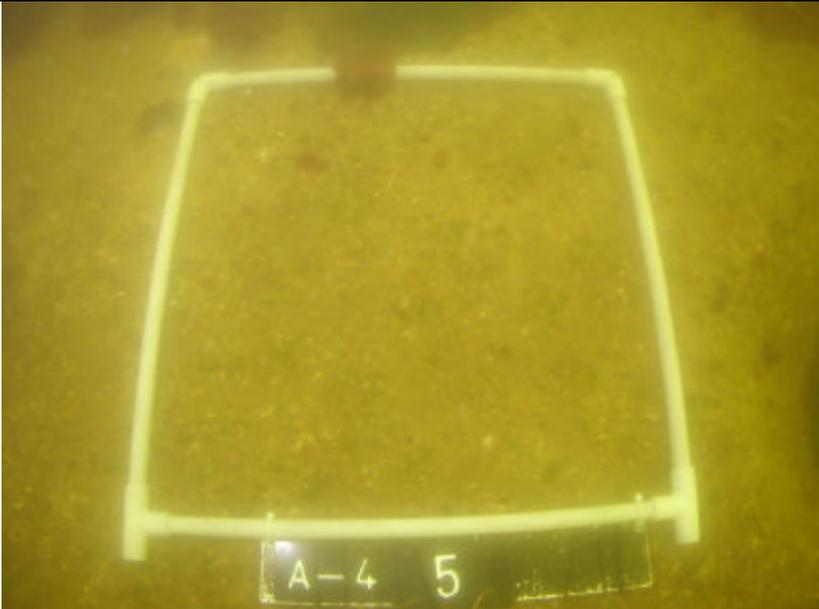
	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2 下層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19年 5月 27日

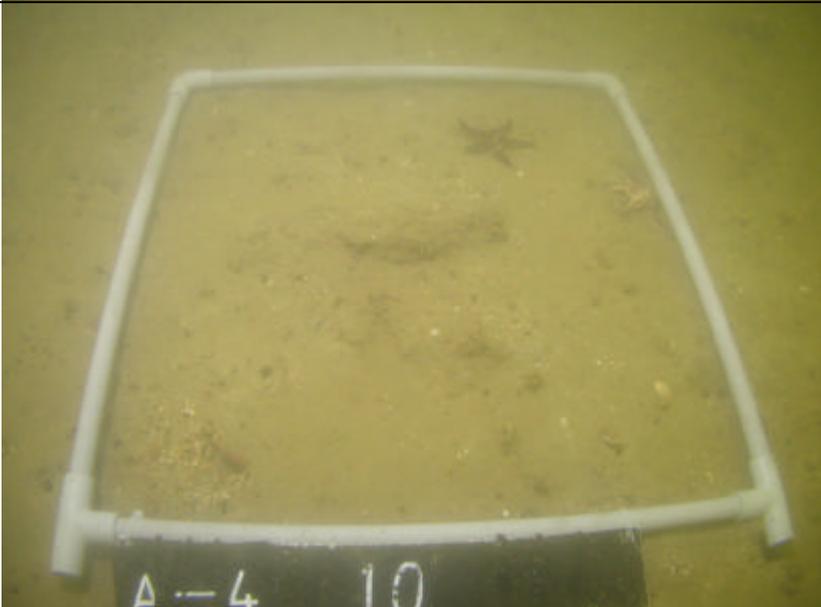
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

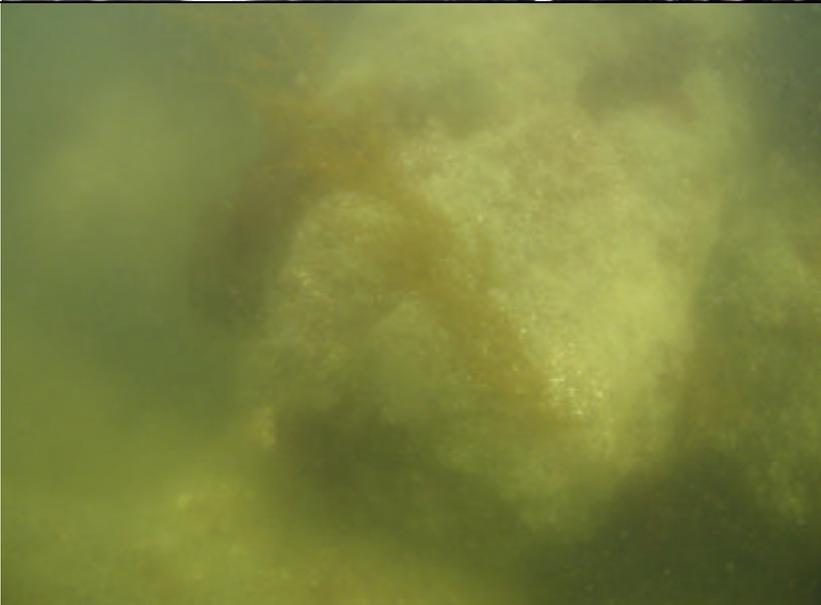
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

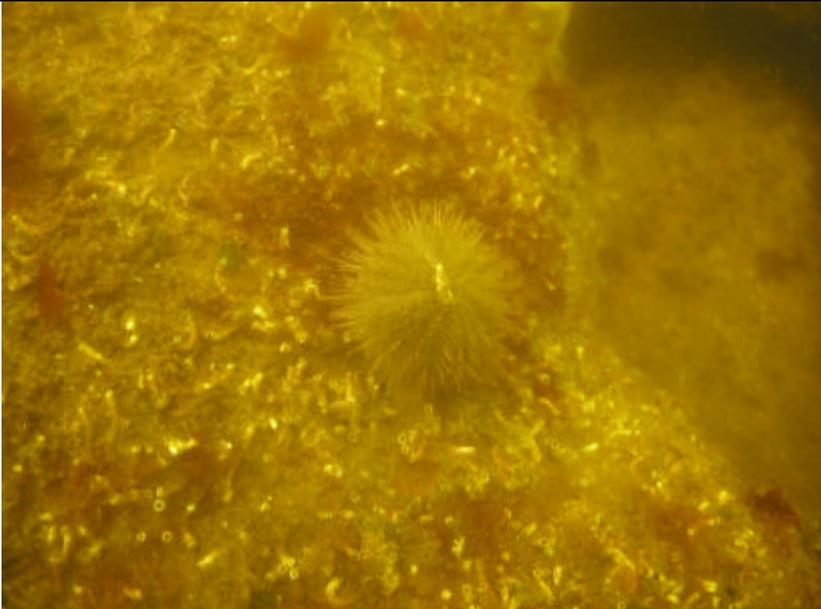
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ± 0.0m 付近</p> <p>フダラク</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ± 0.0m 付近</p> <p>レイシガイ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>

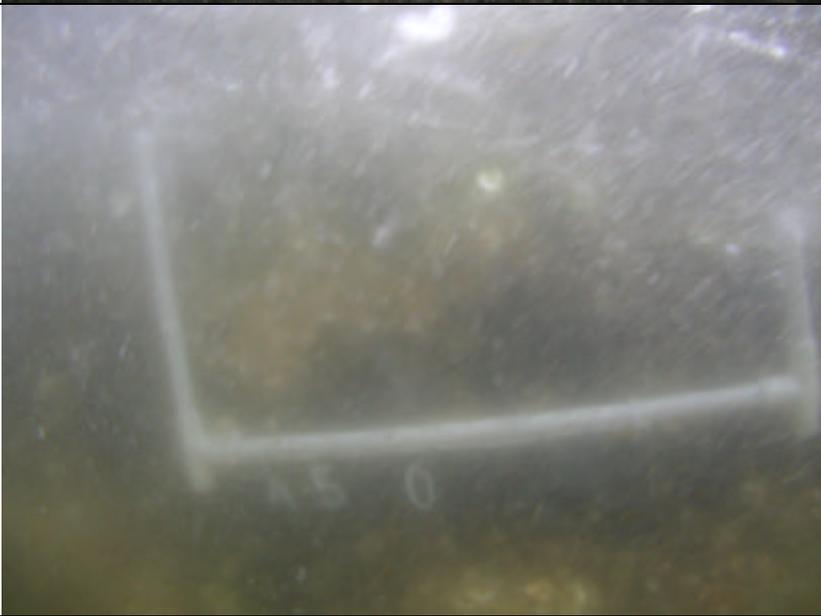
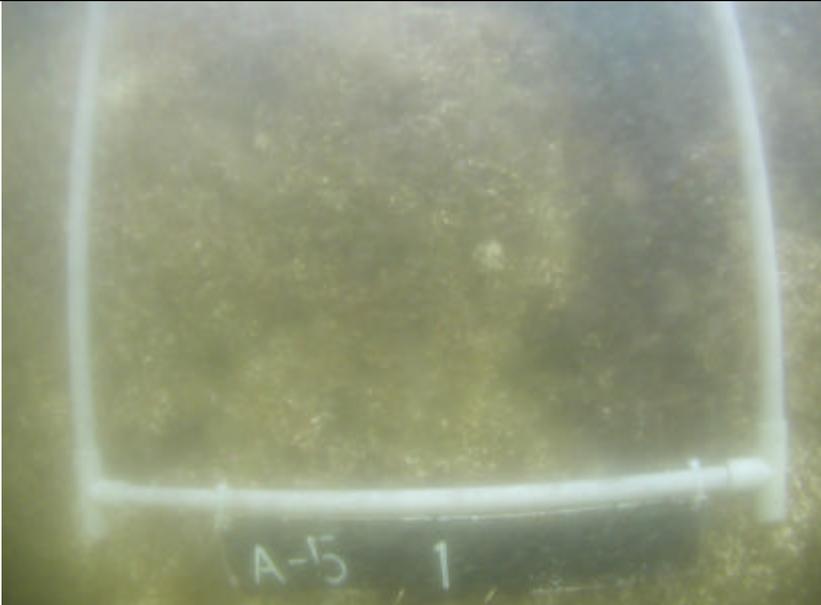
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>カバノリ</p>

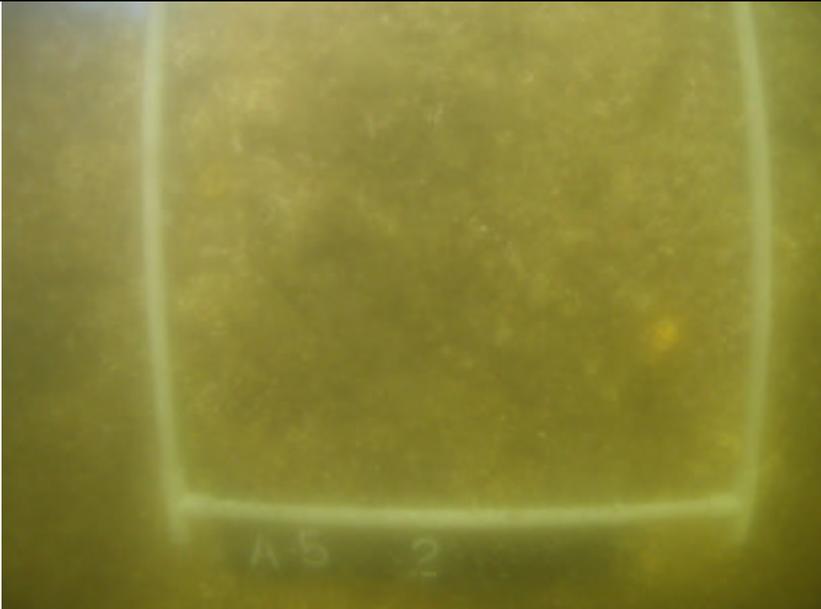
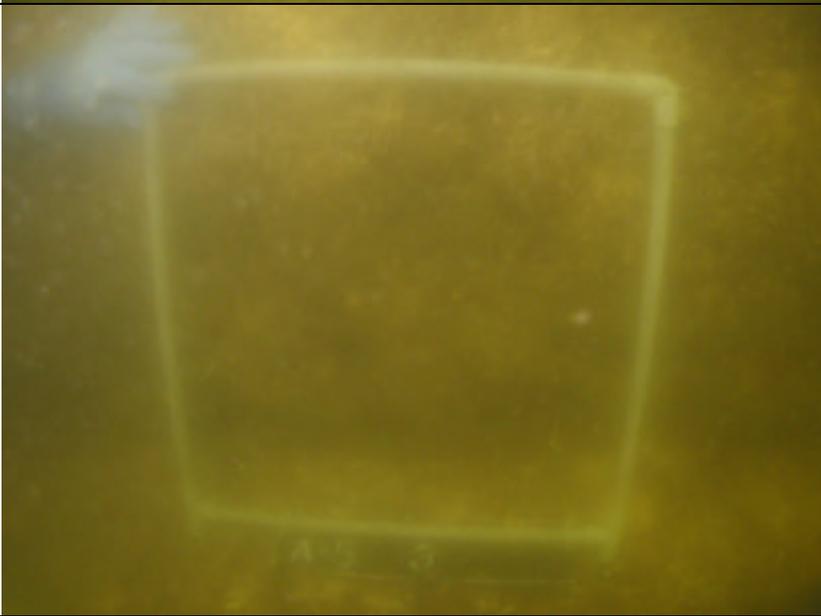
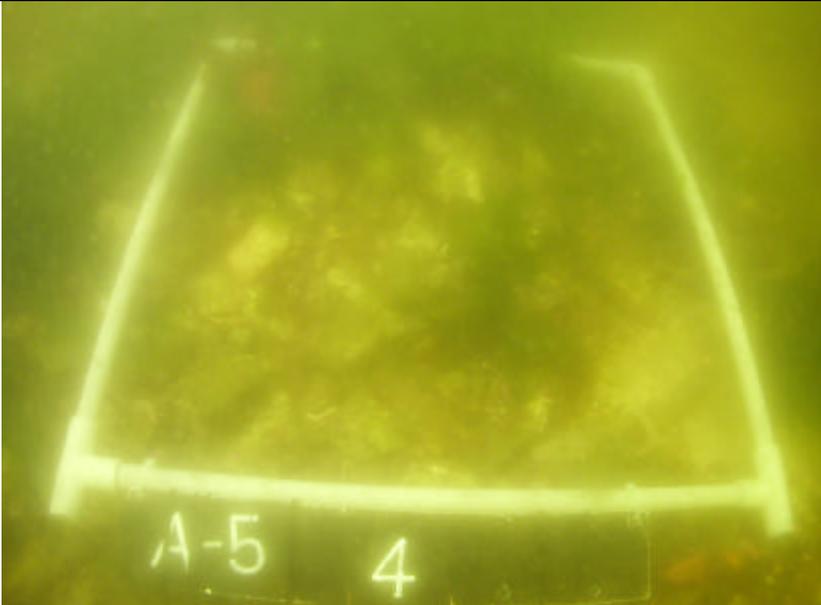
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ススカケベニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>

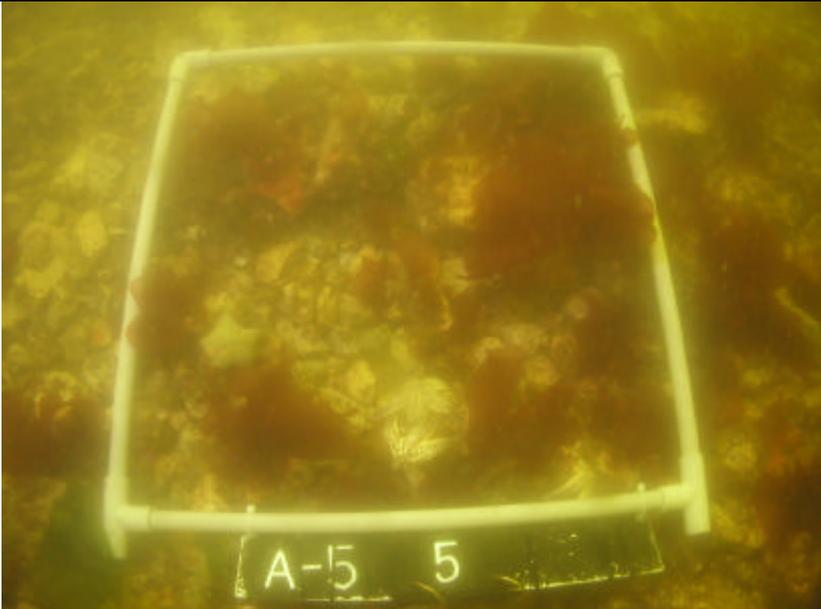
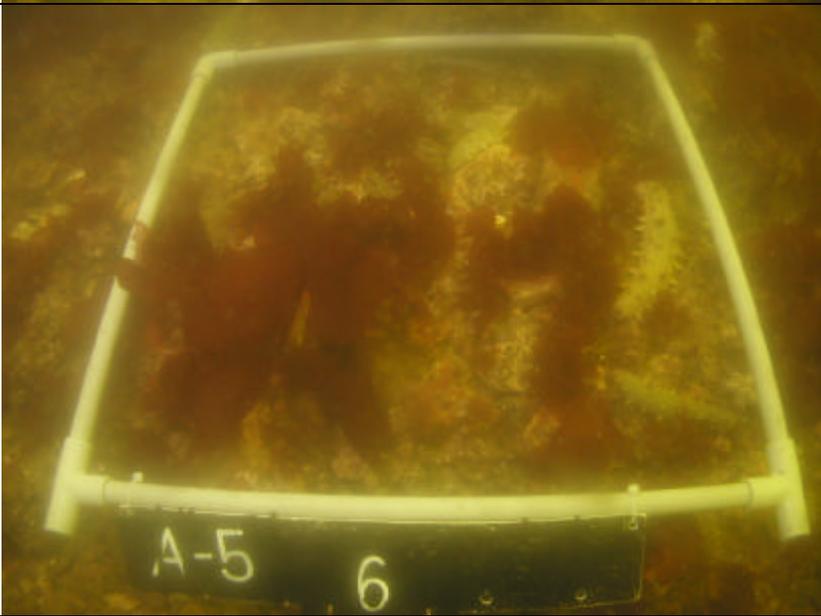
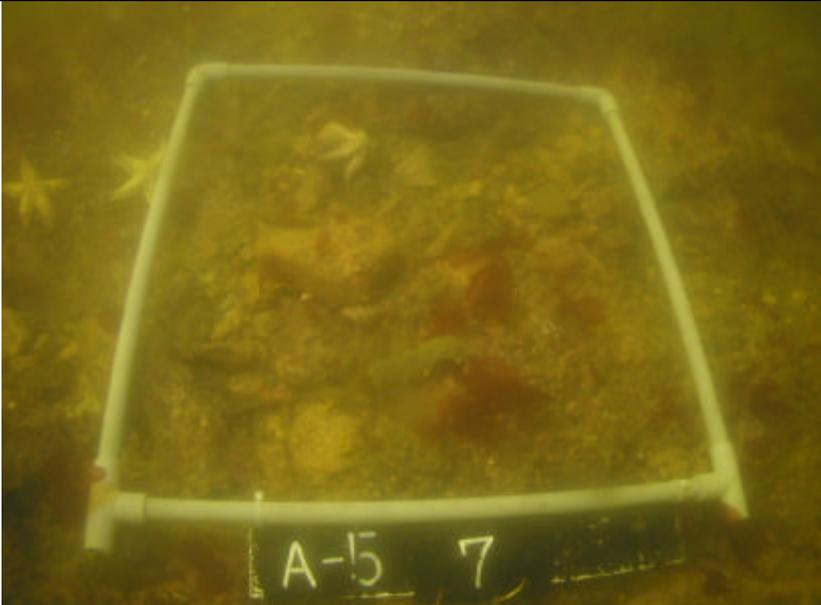
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

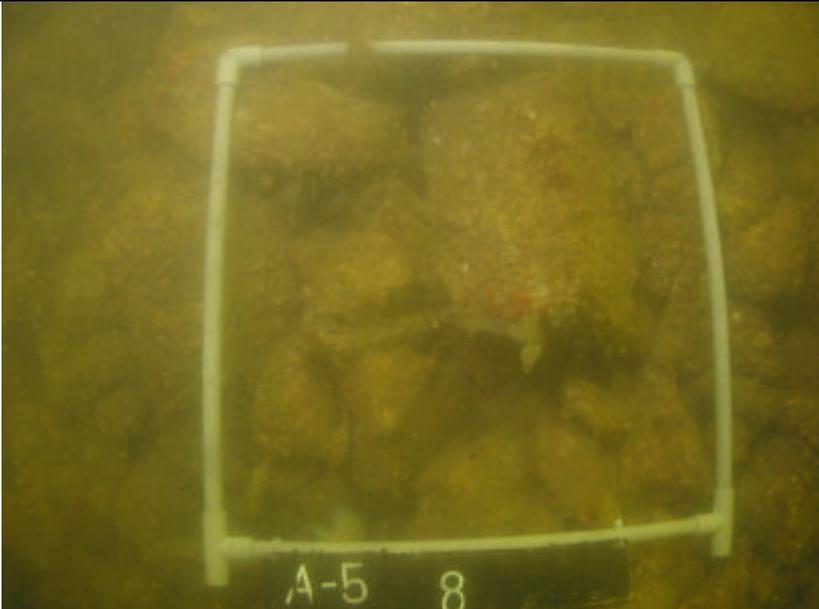
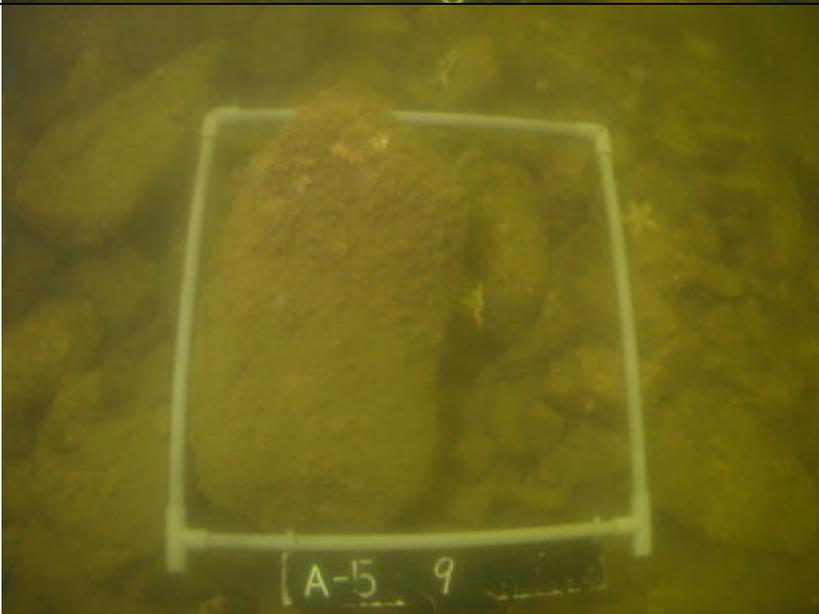
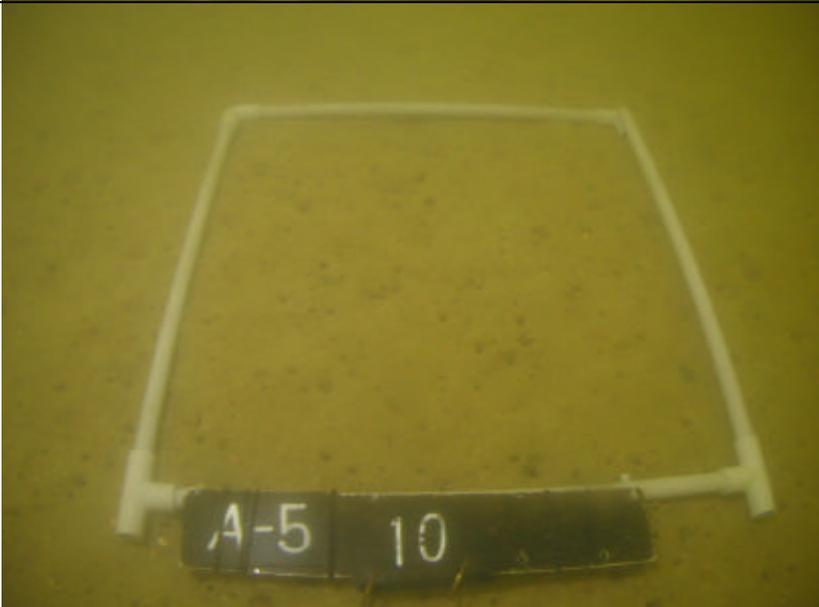
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

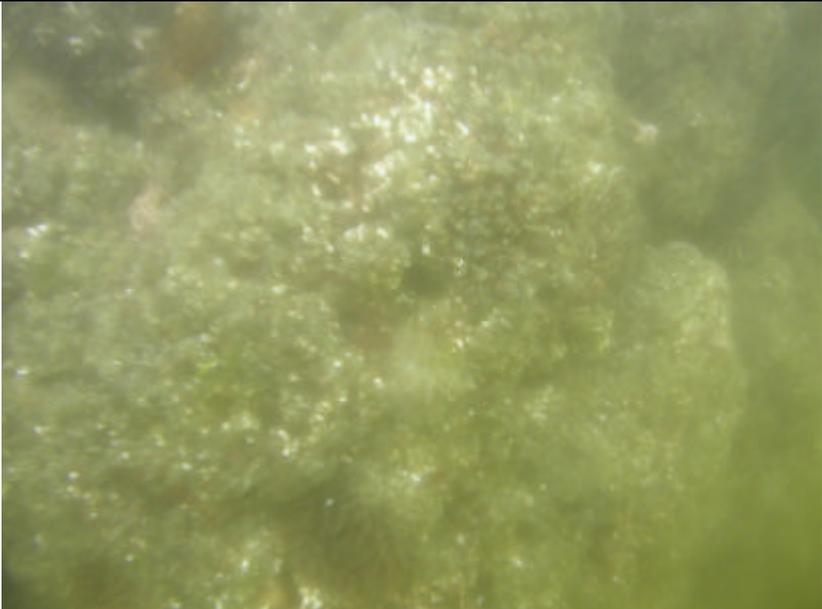
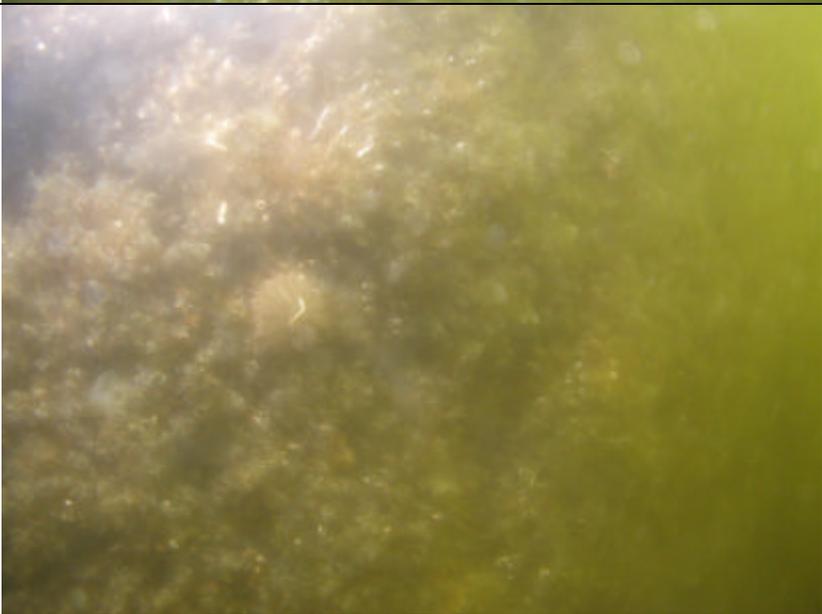
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

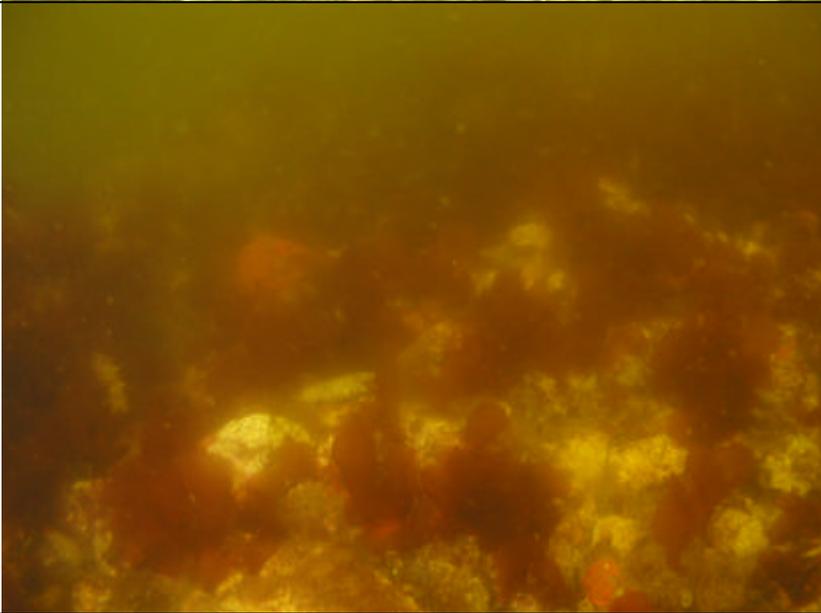
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

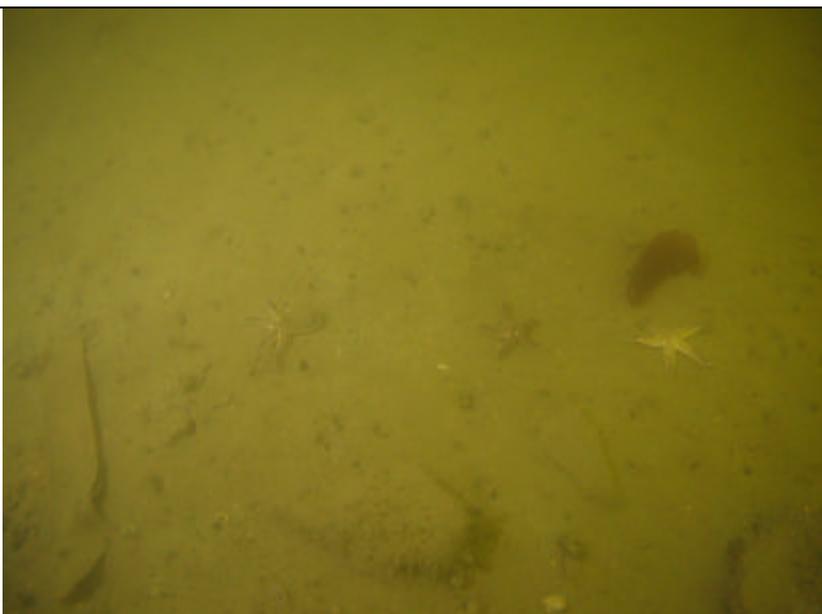
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>

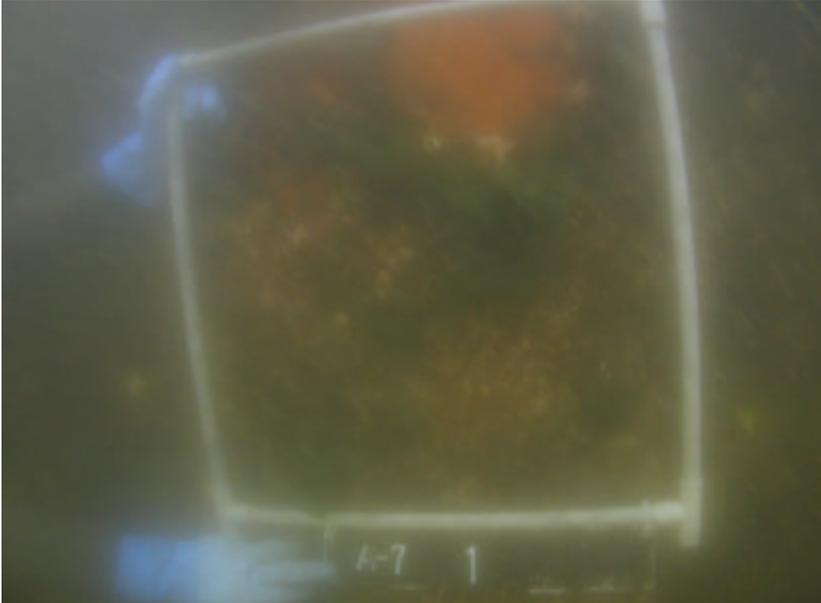
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>マボヤ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ススカケベニ</p>

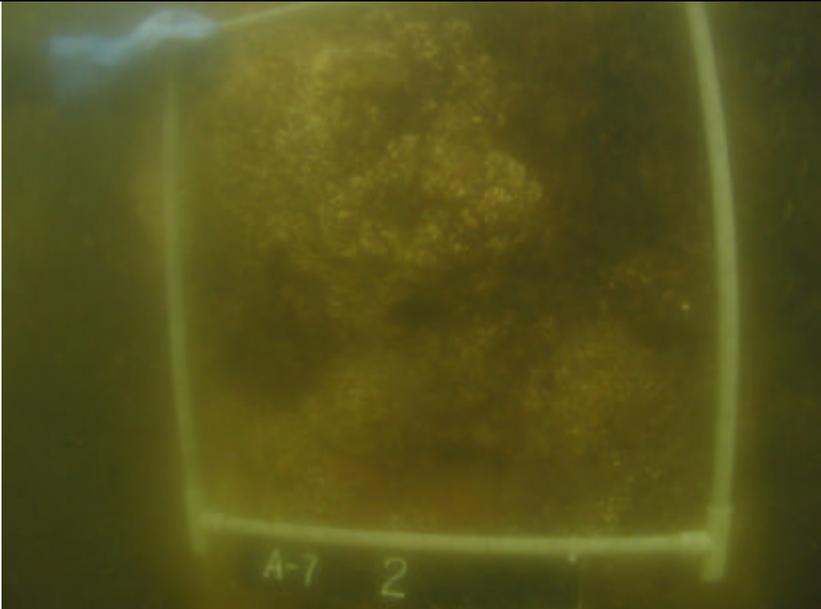
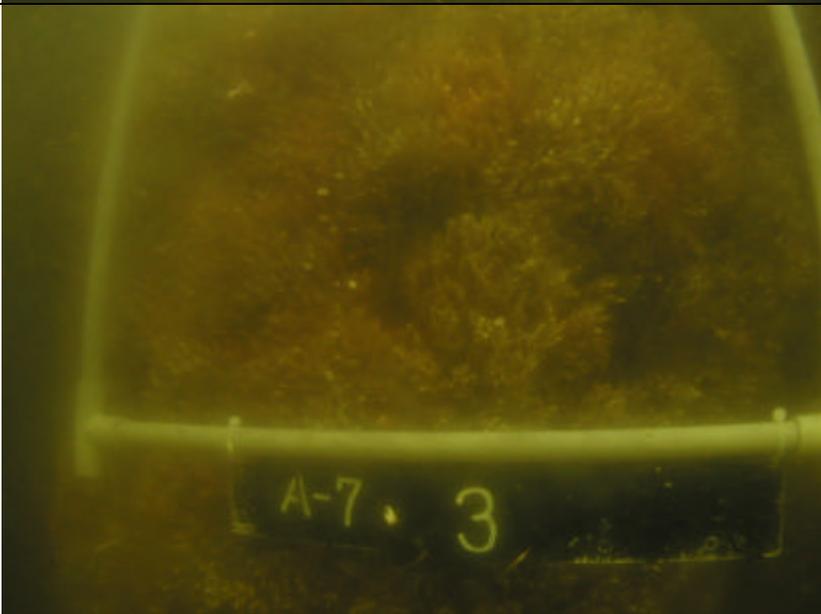
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>キヒトデ</p>
--	--	---

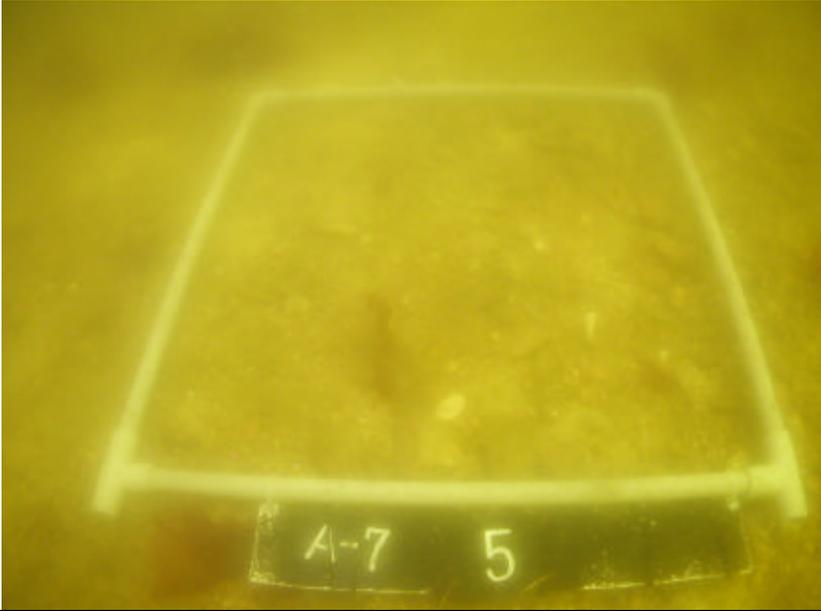
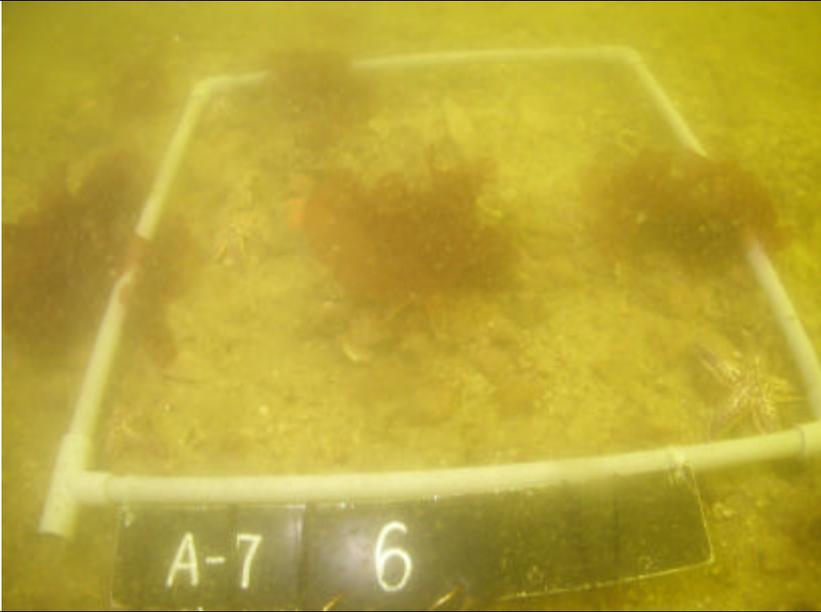
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

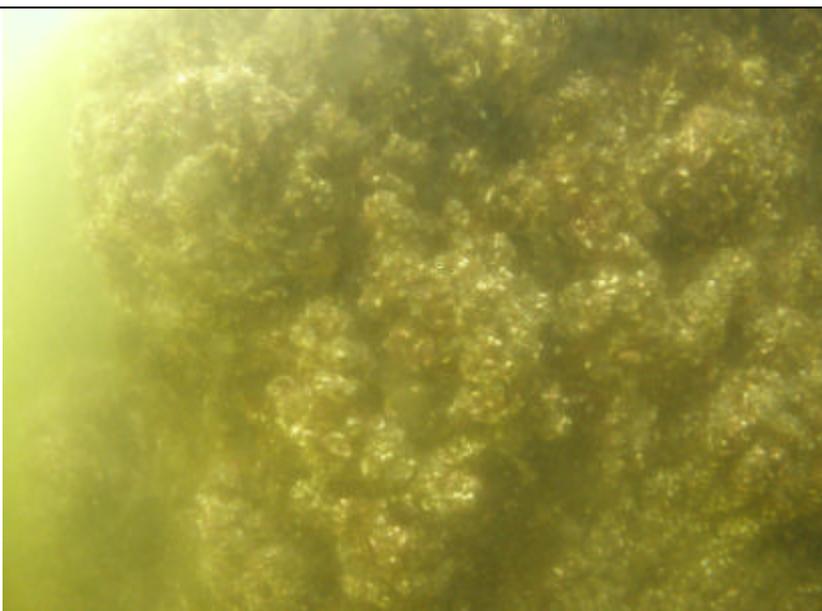
調査日：平成 19 年 5 月 27 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

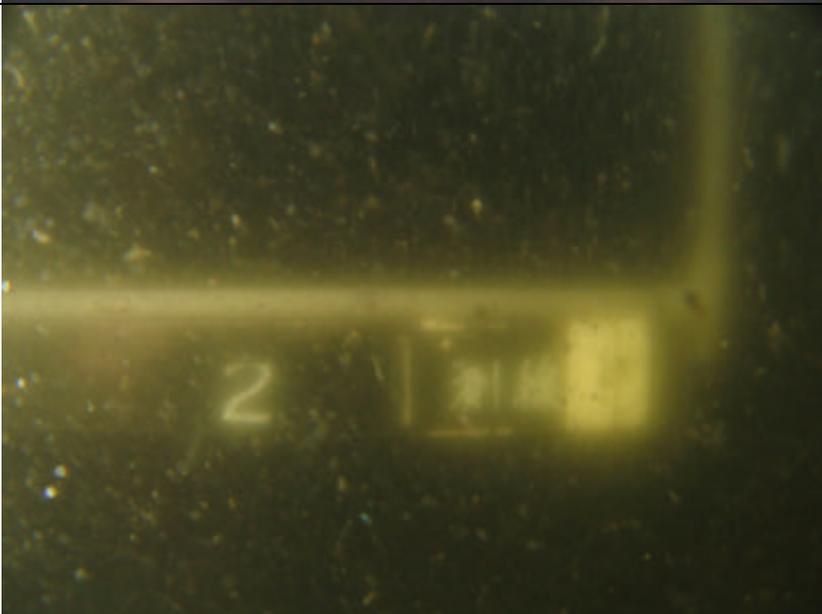
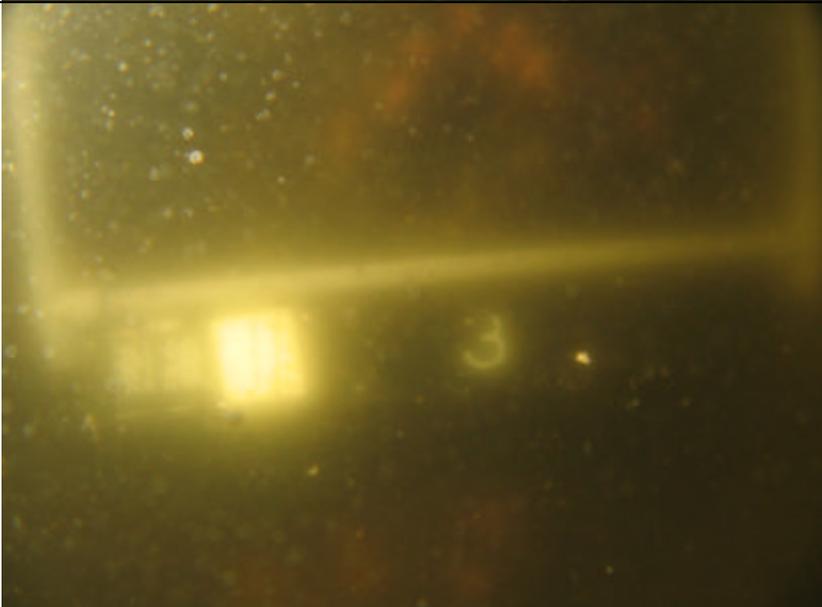
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ キヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

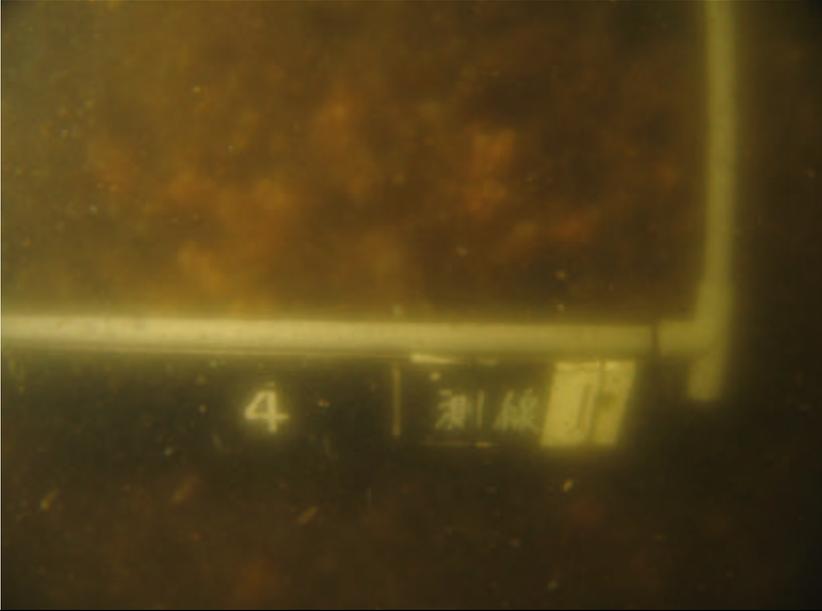
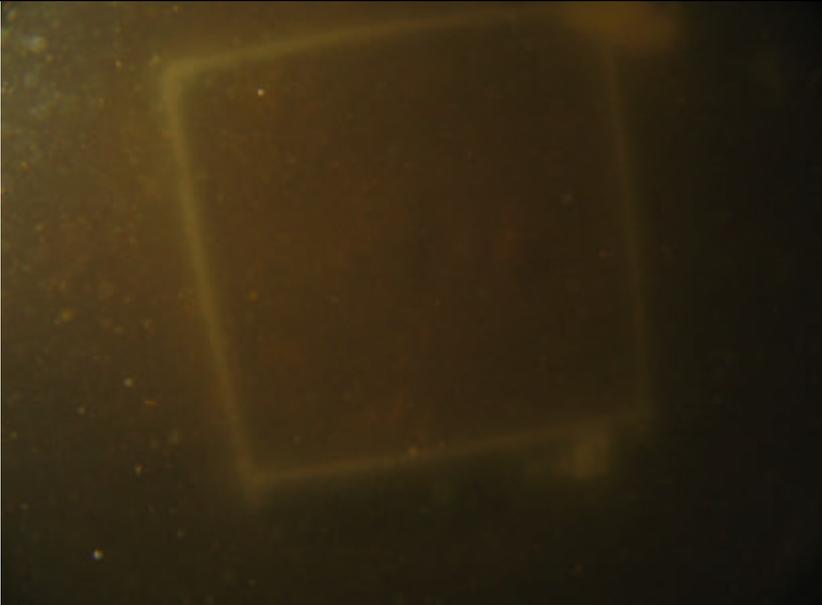
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
--	--	--

調査日：平成 19 年 5 月 27 日

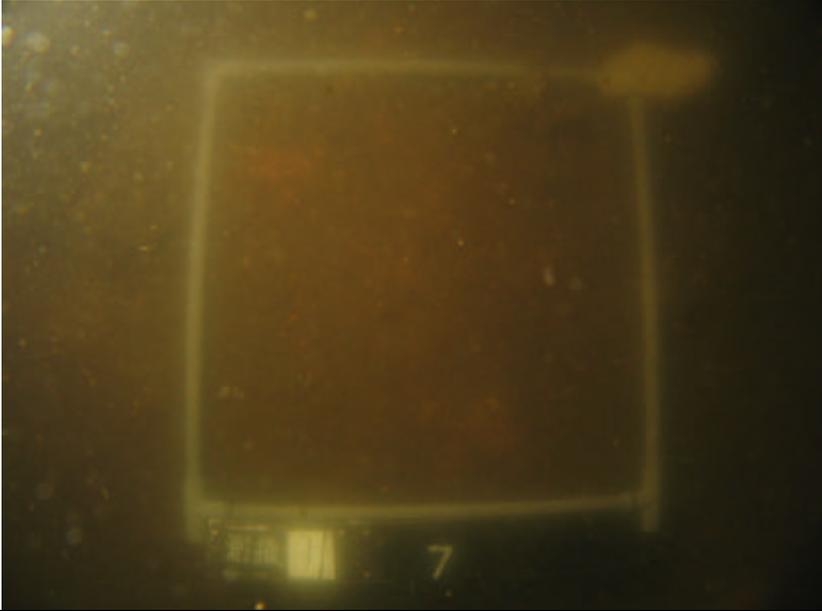
B . 尼崎沖処分場
(平成 19 年 5 月 24 日調査)

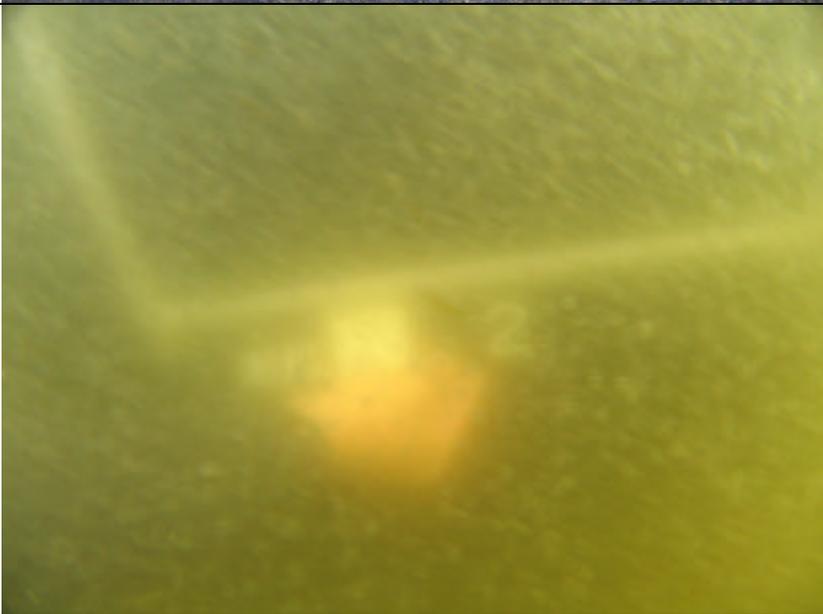
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 24 日

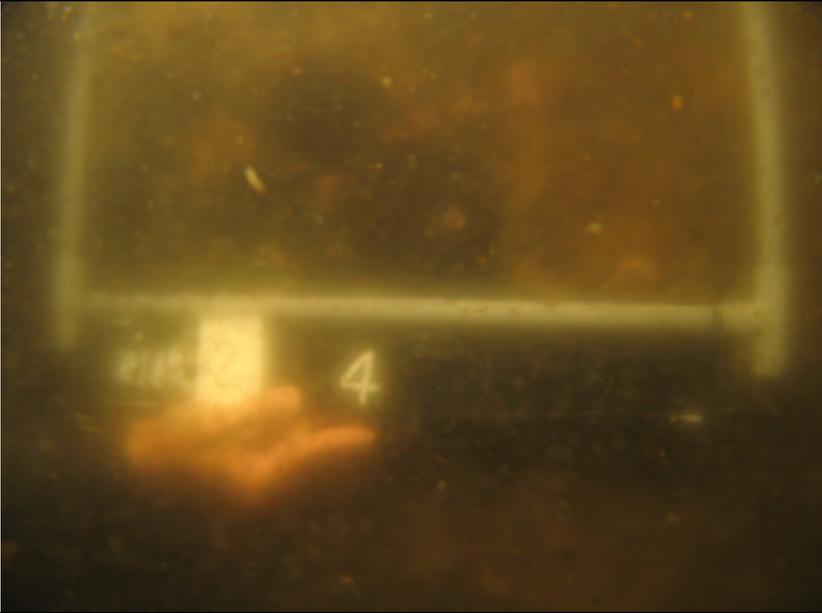
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 24 日

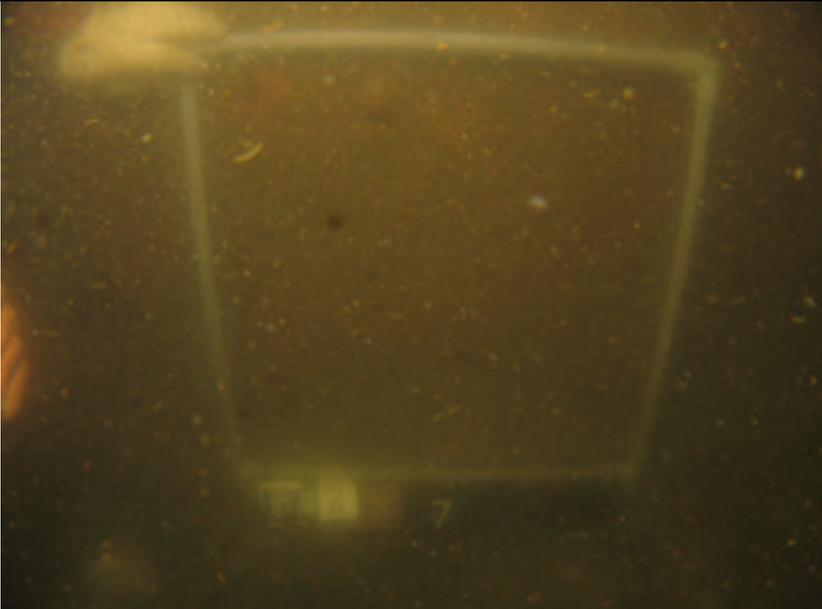
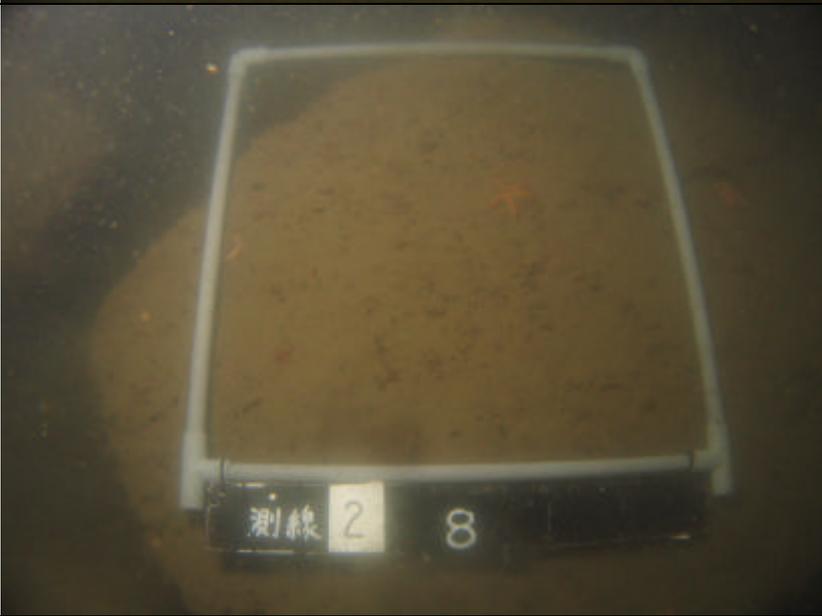
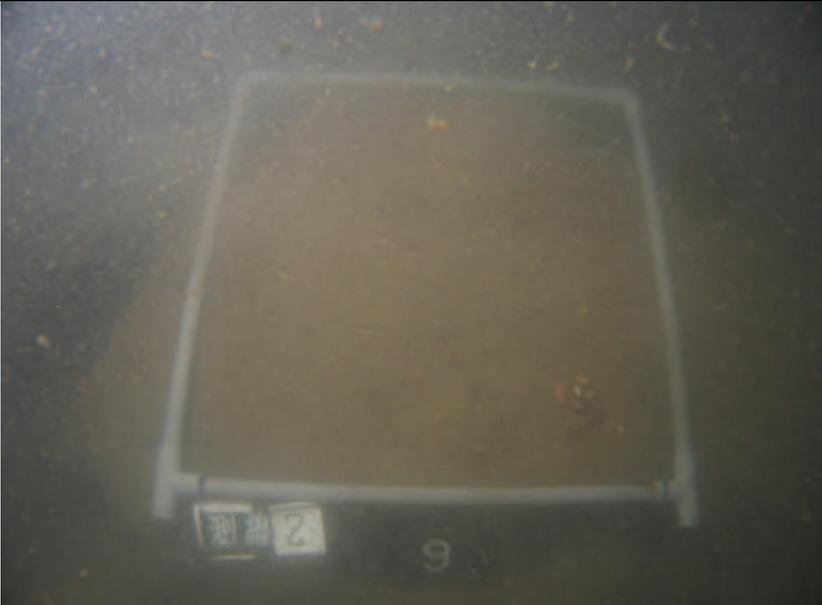
			<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

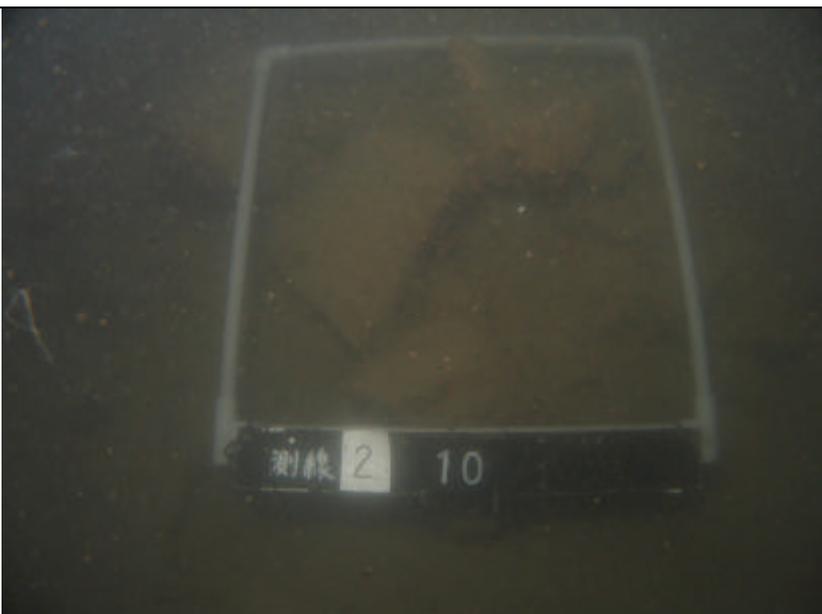
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

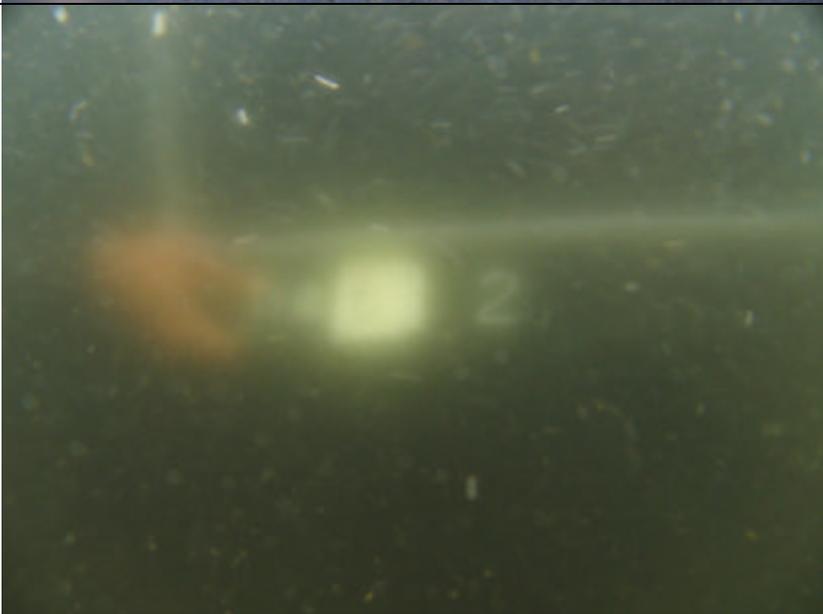
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

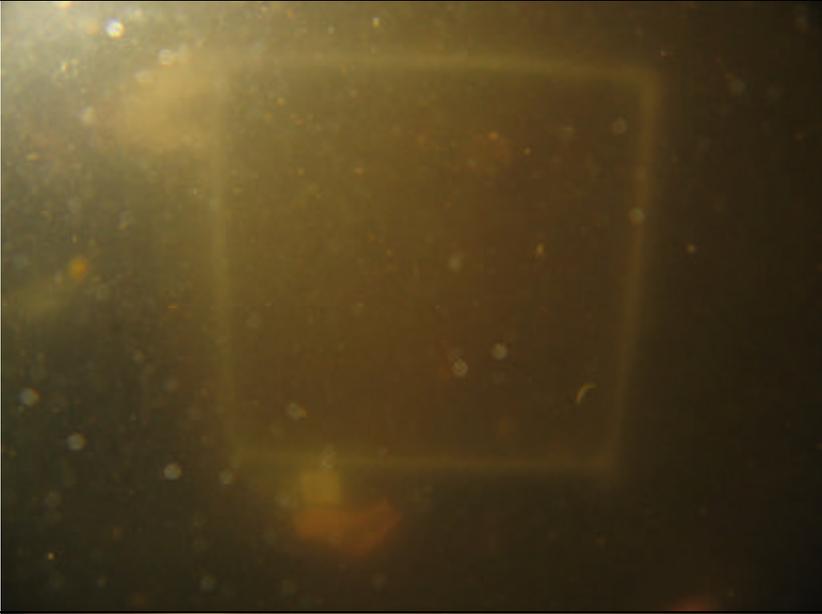
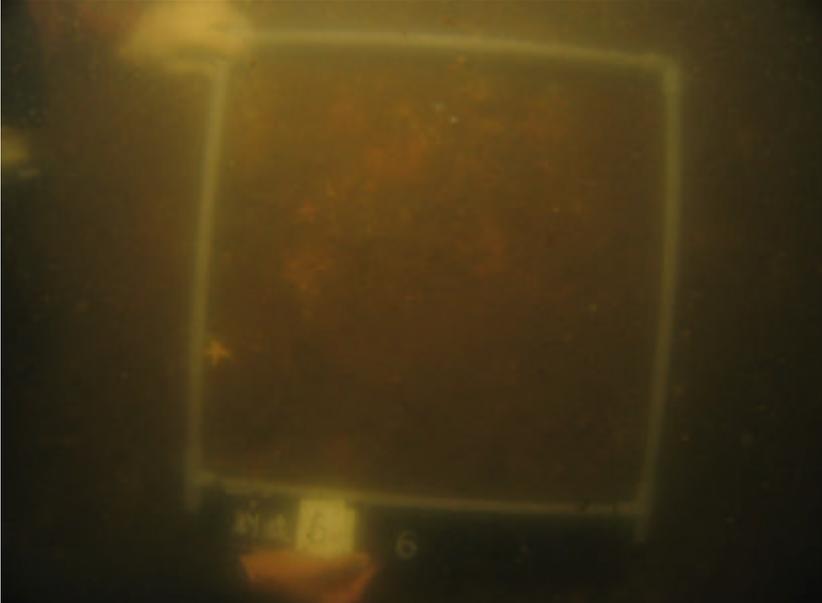
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
--	--	--	---

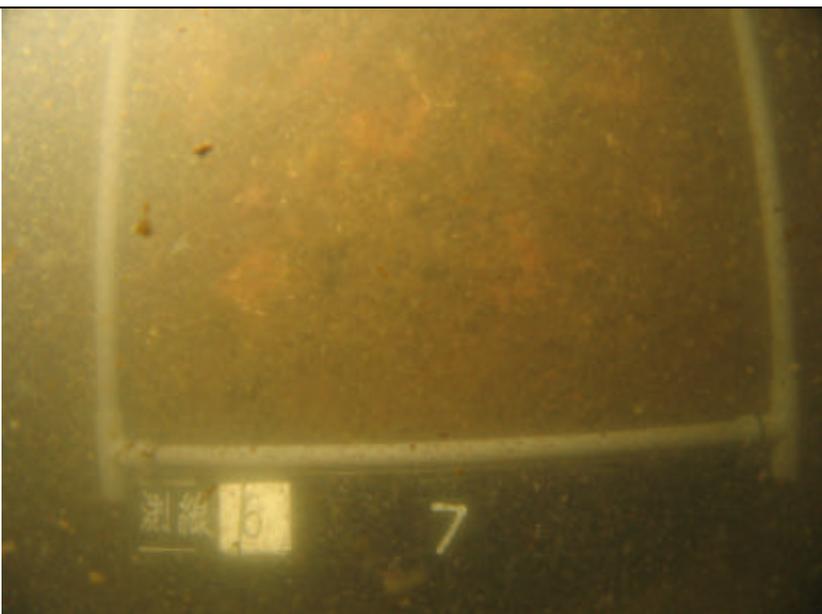
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

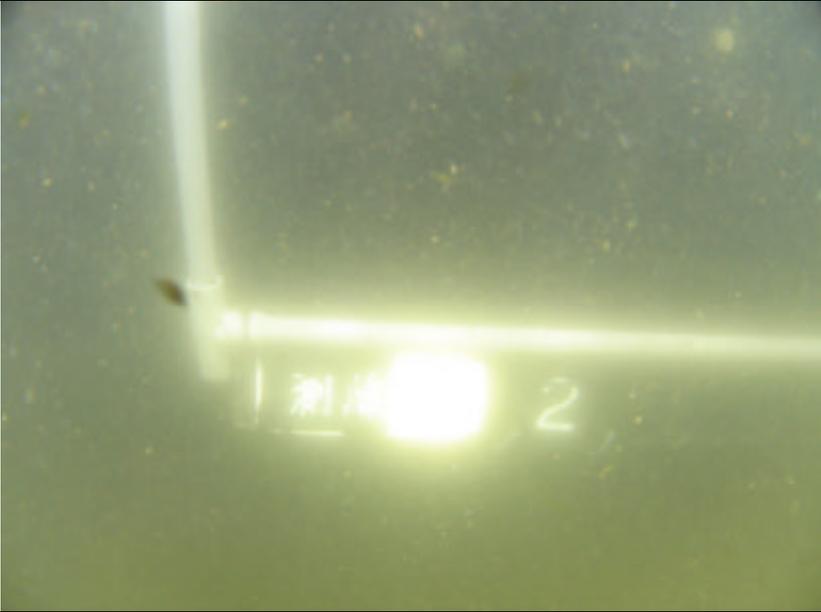
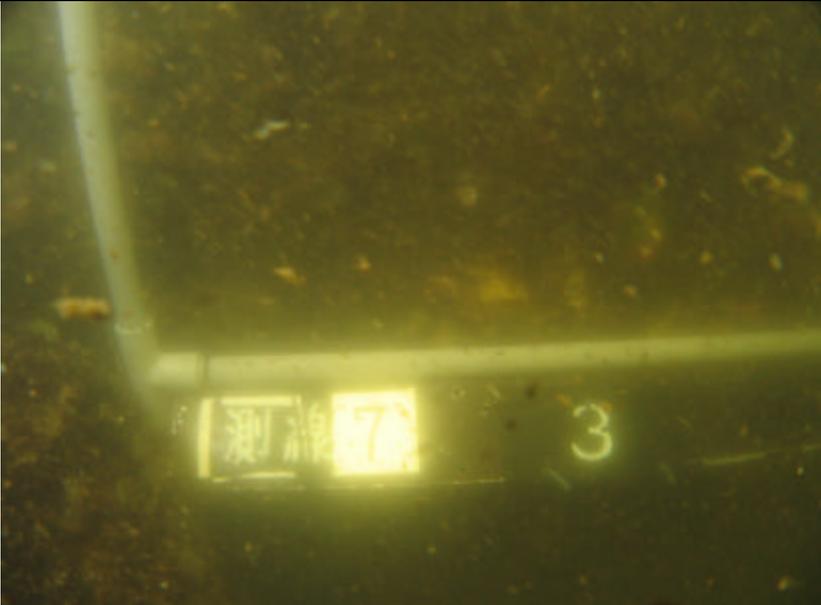
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

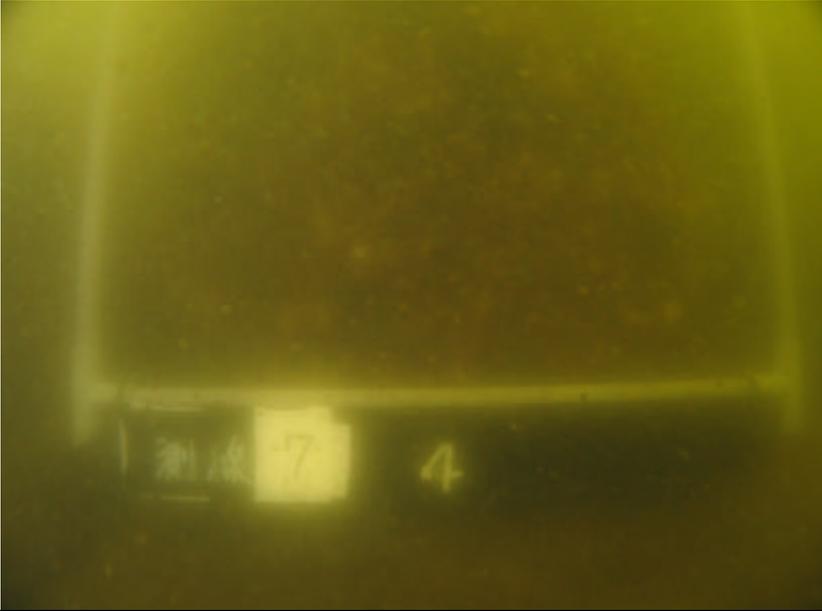
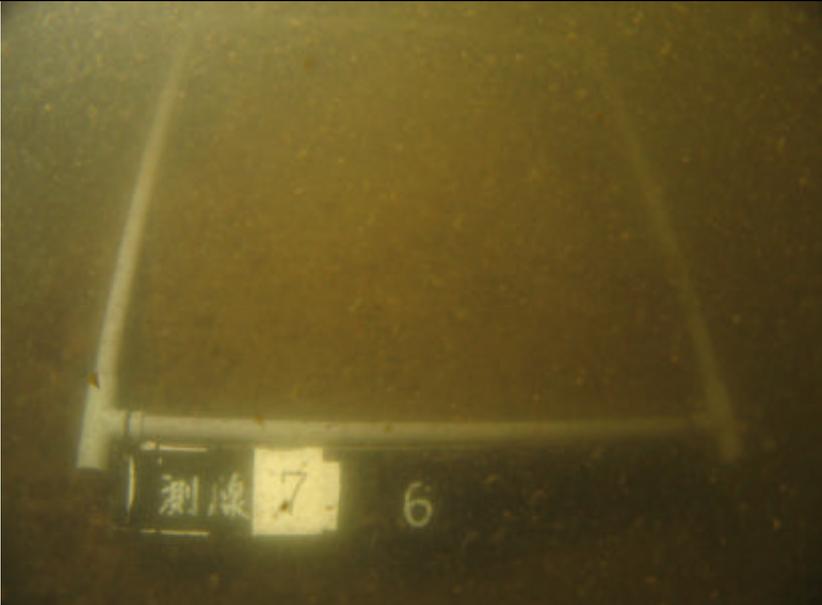
調査日：平成 19 年 5 月 24 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
--	--	---

調査日：平成 19 年 5 月 24 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 24 日

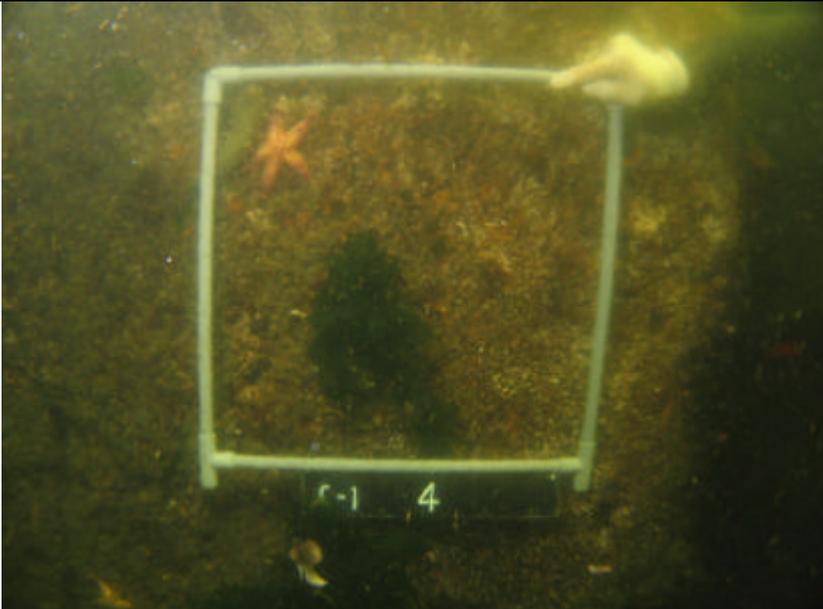
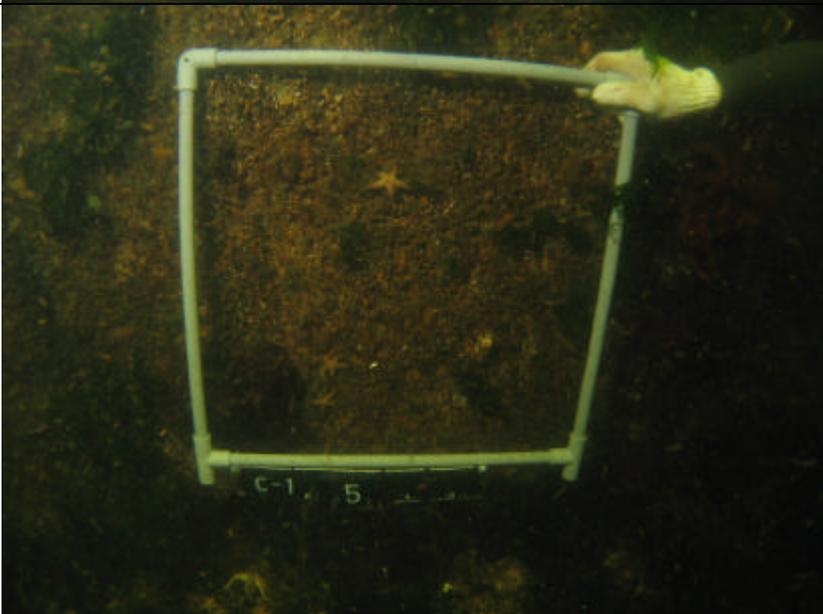
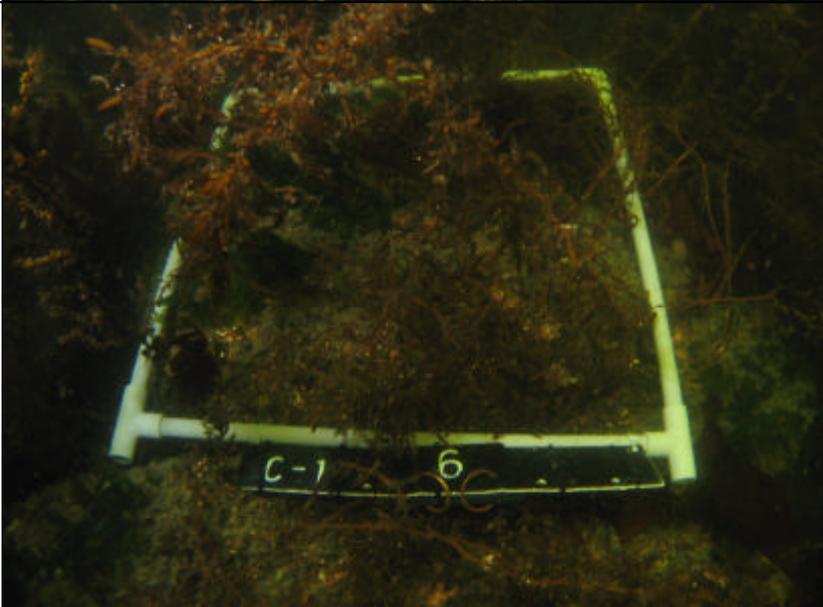
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 24 日

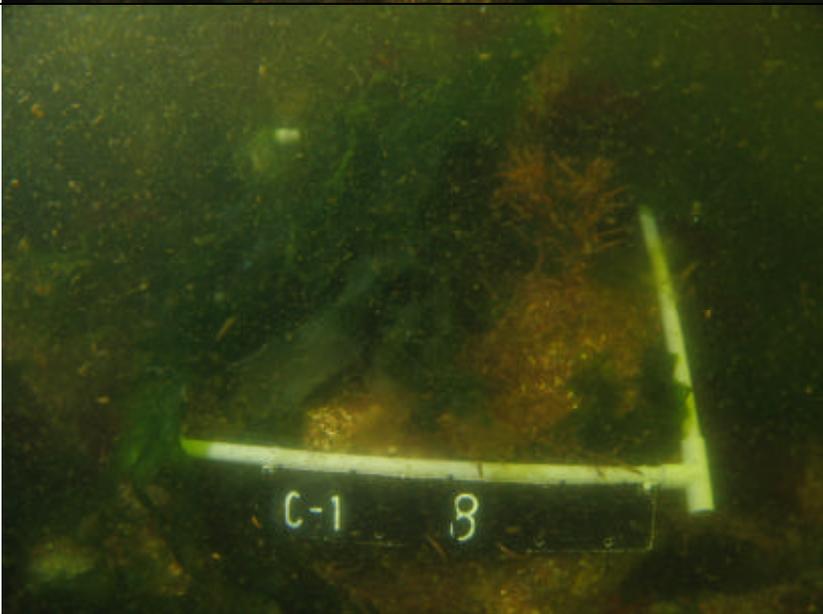
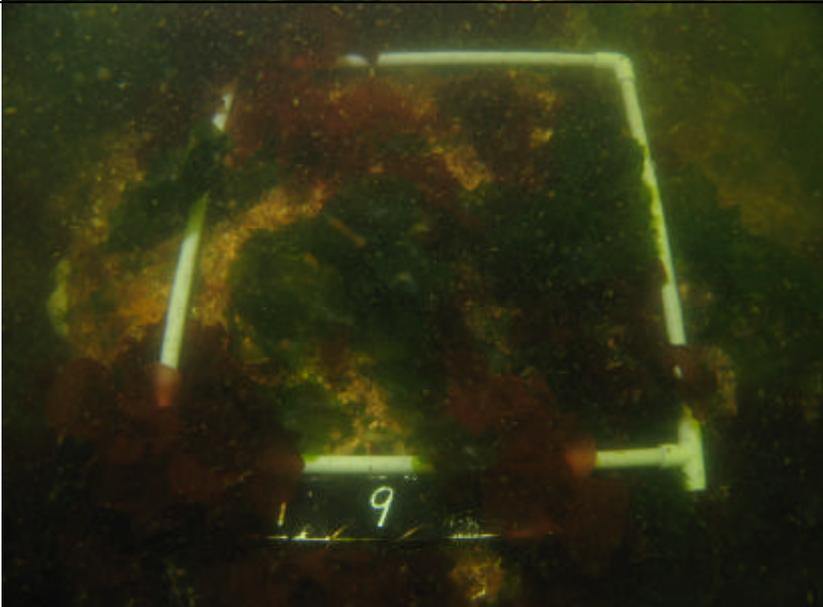
C . 大阪沖処分場
(平成 19 年 5 月 28 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

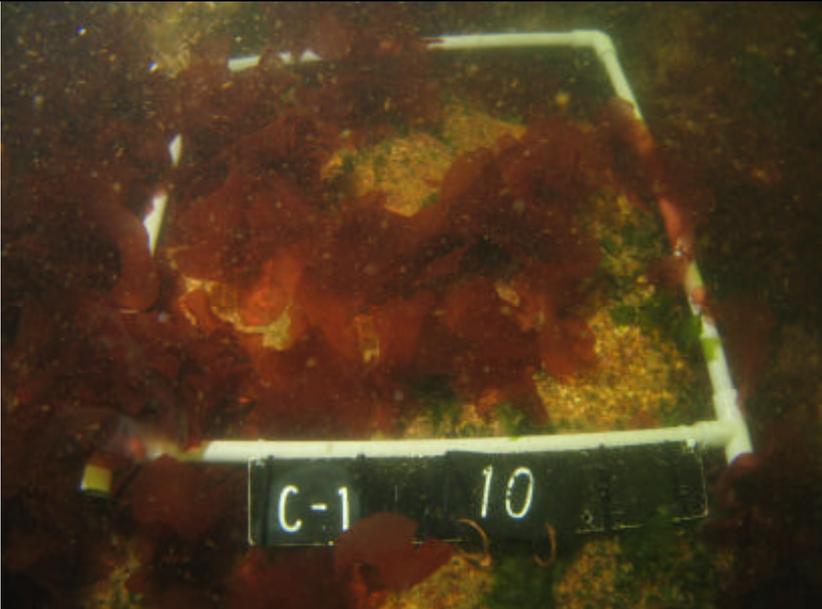
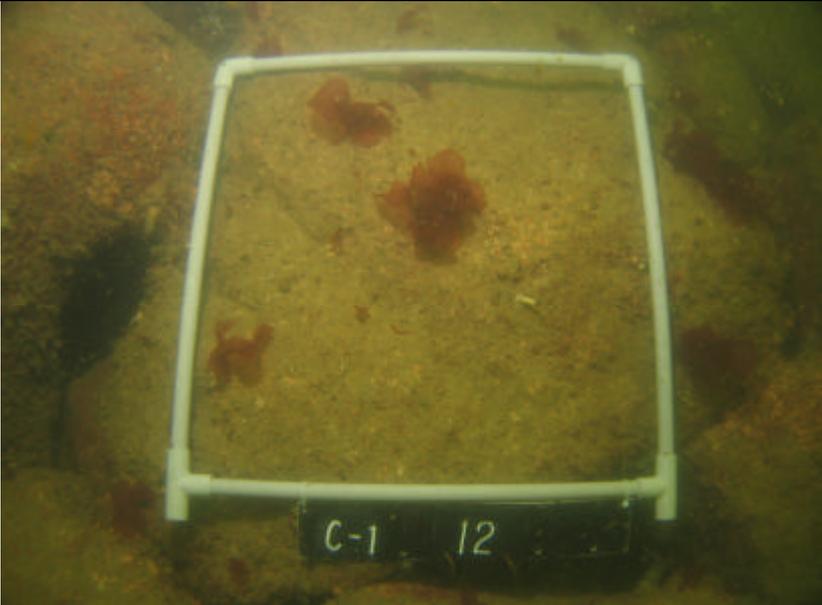
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>

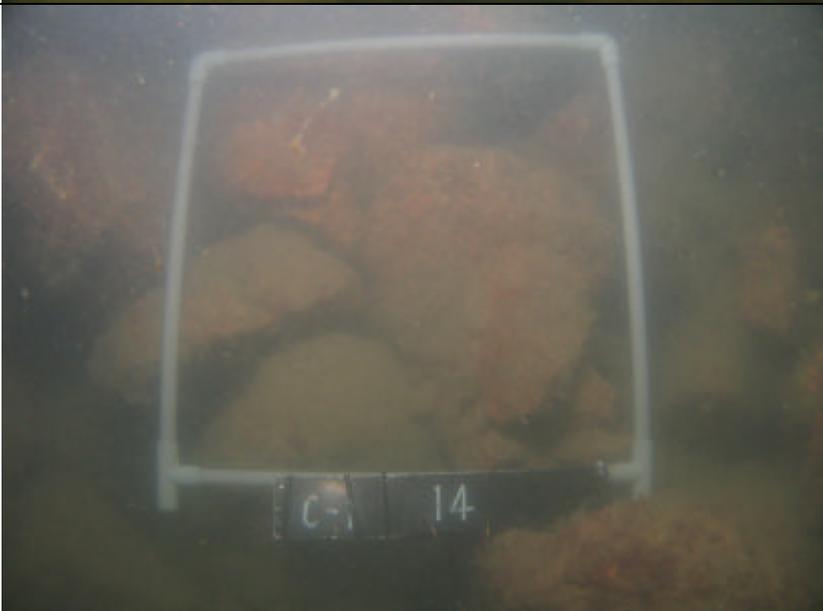
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

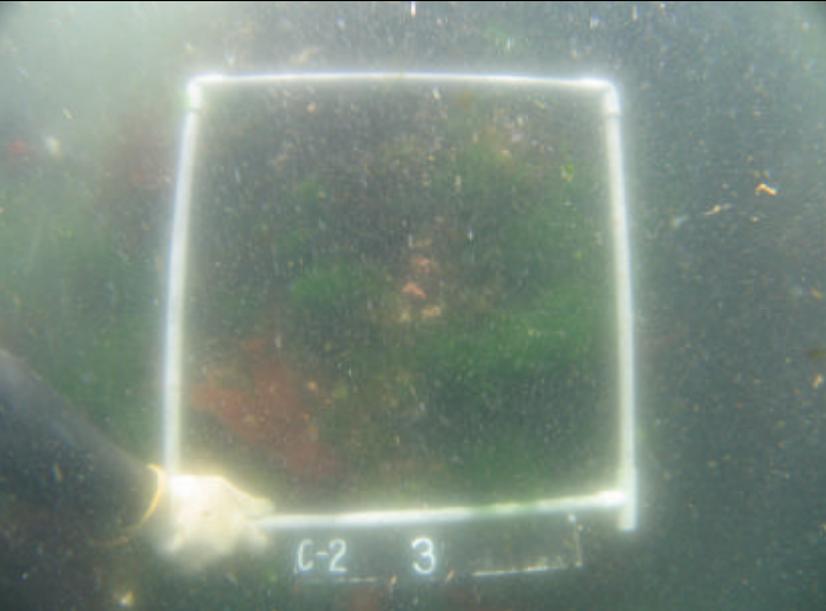
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

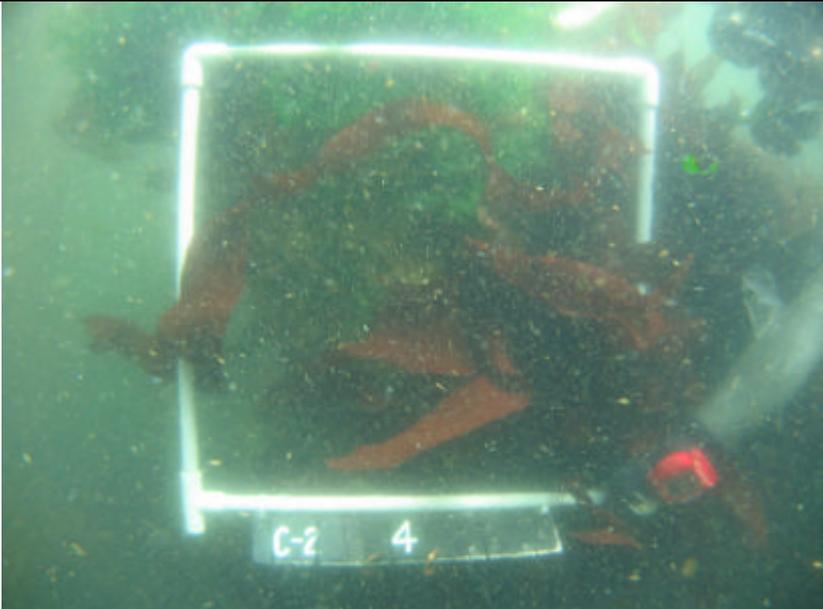
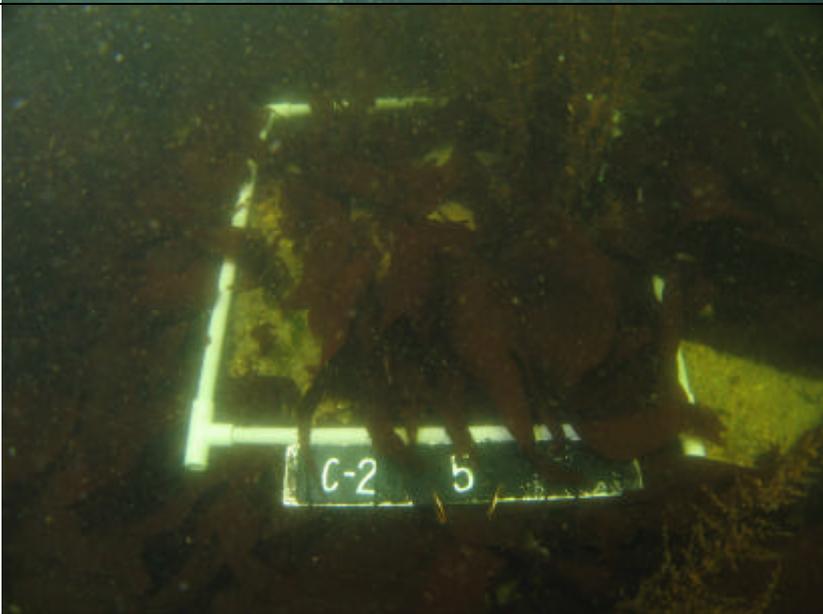
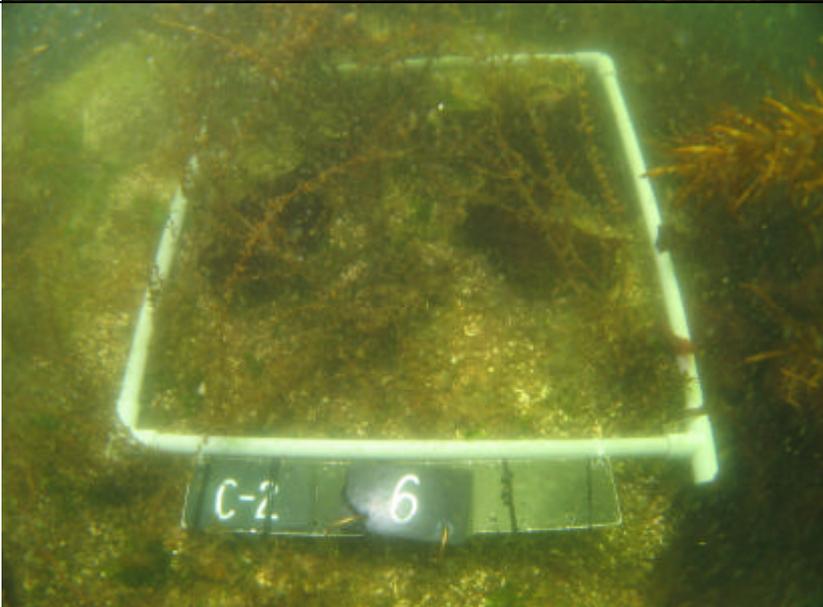
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

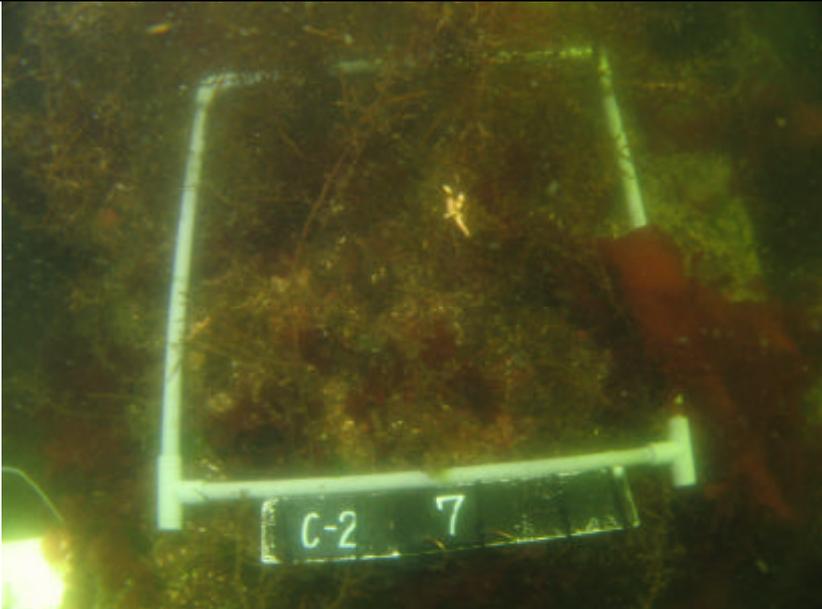
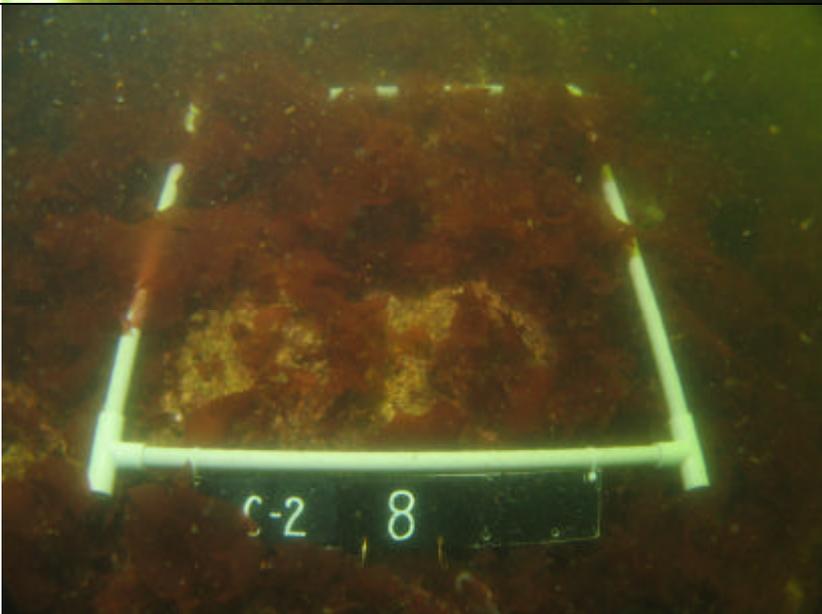
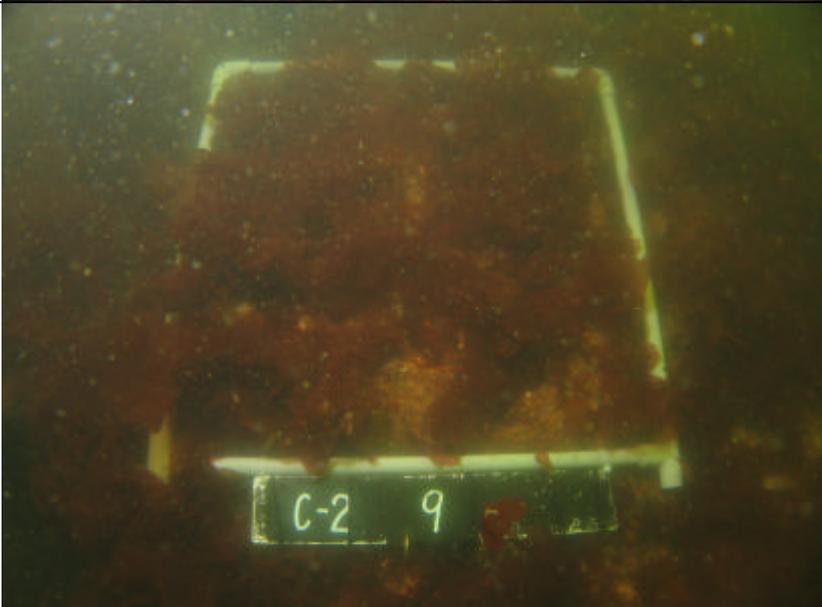
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

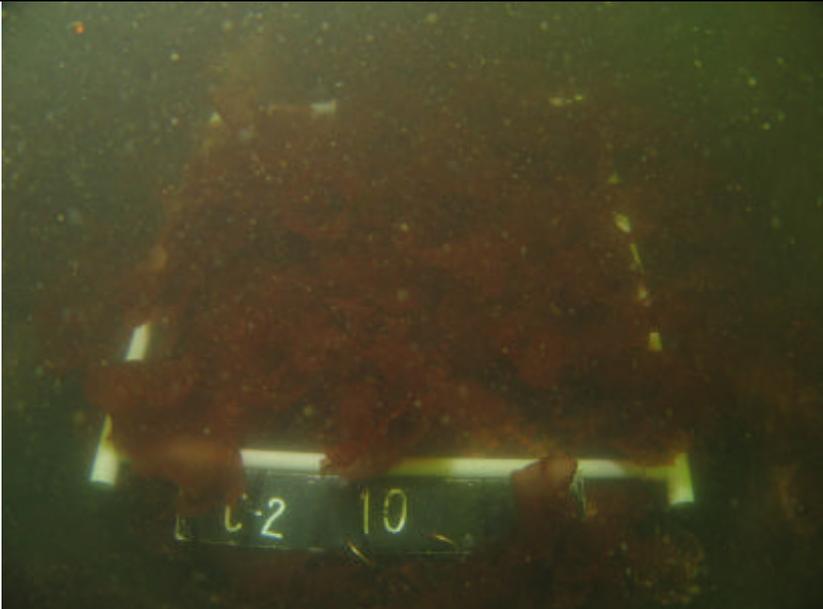
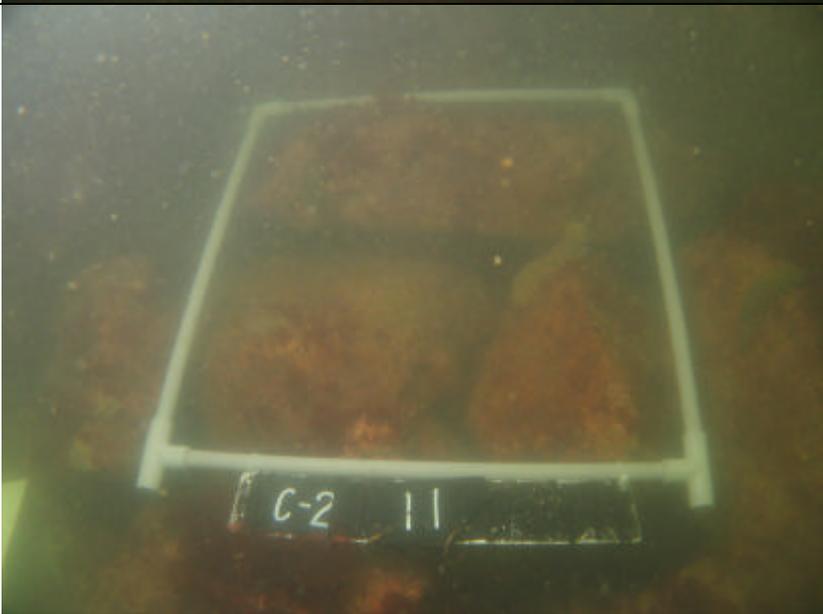
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

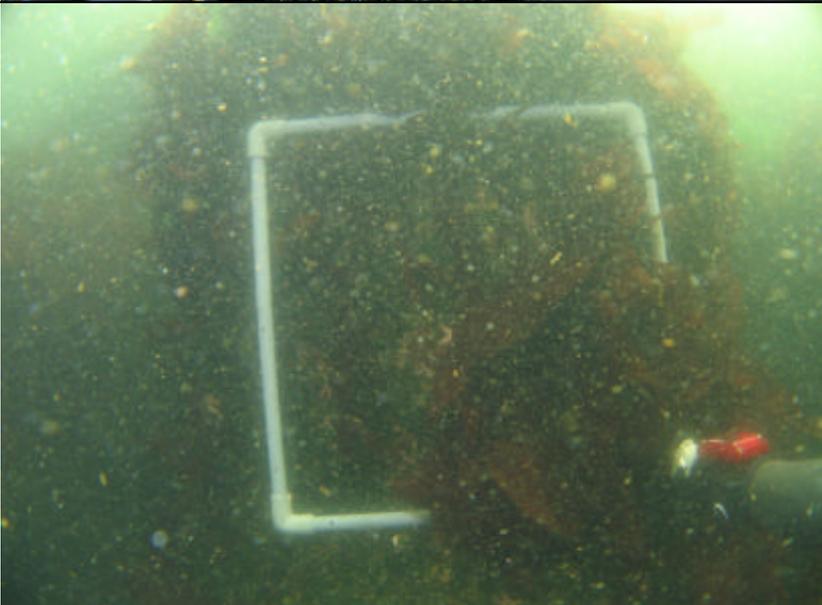
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

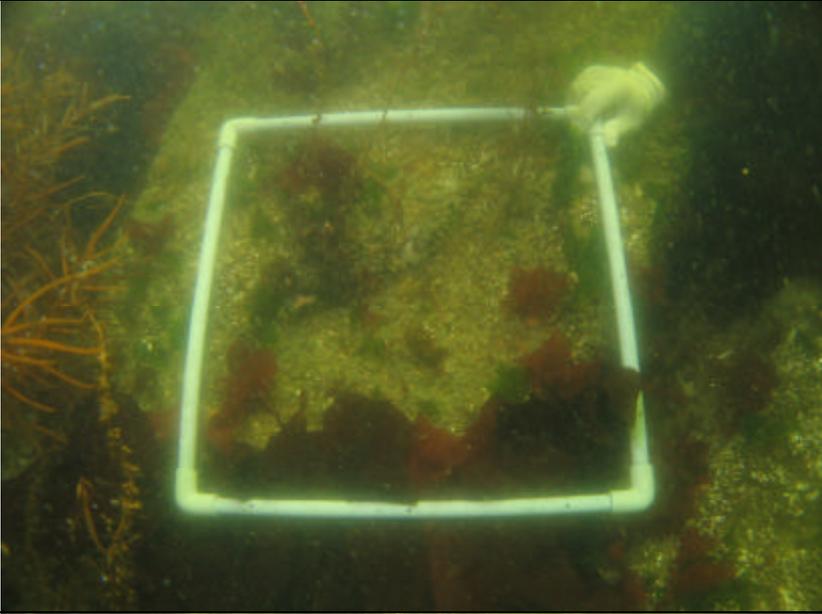
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

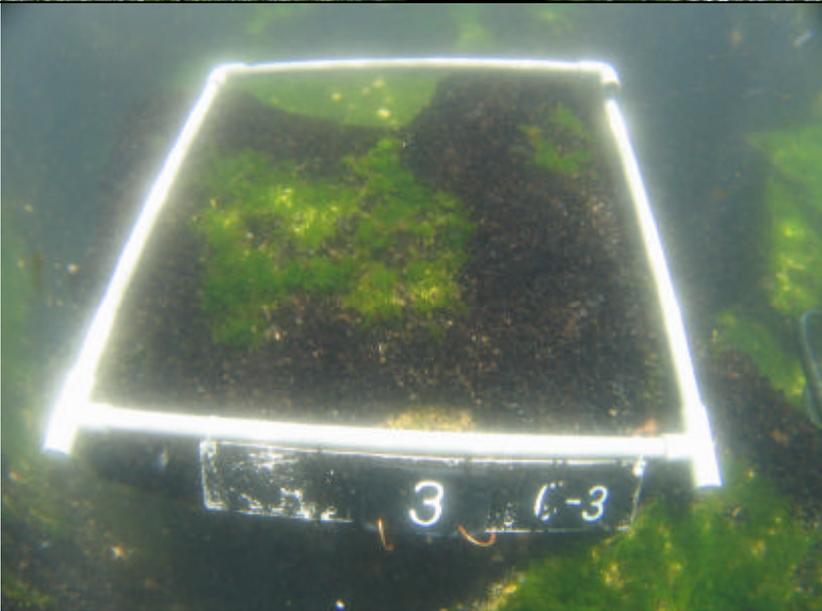
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>上層 枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

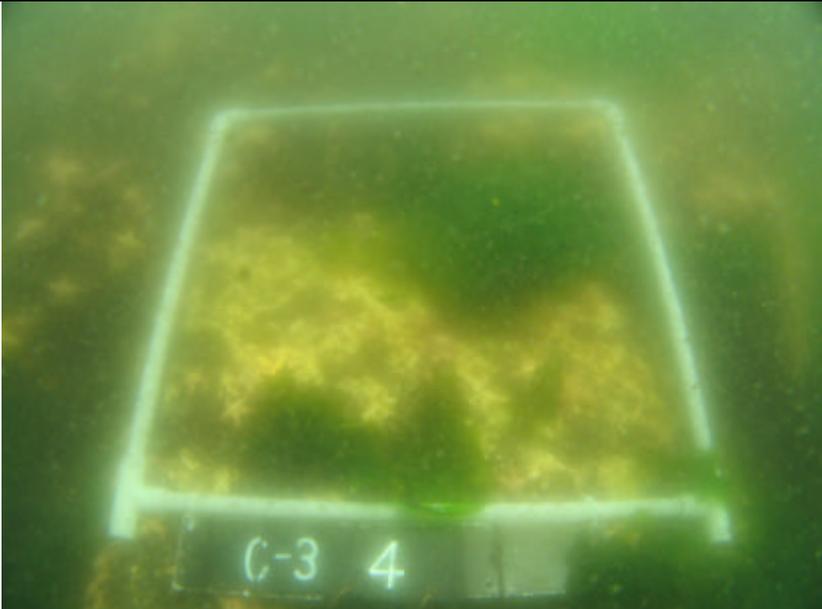
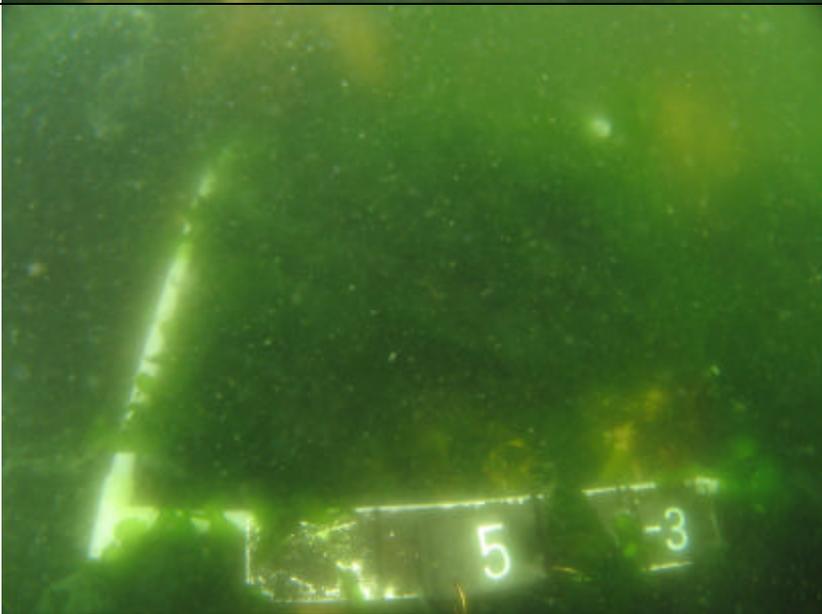
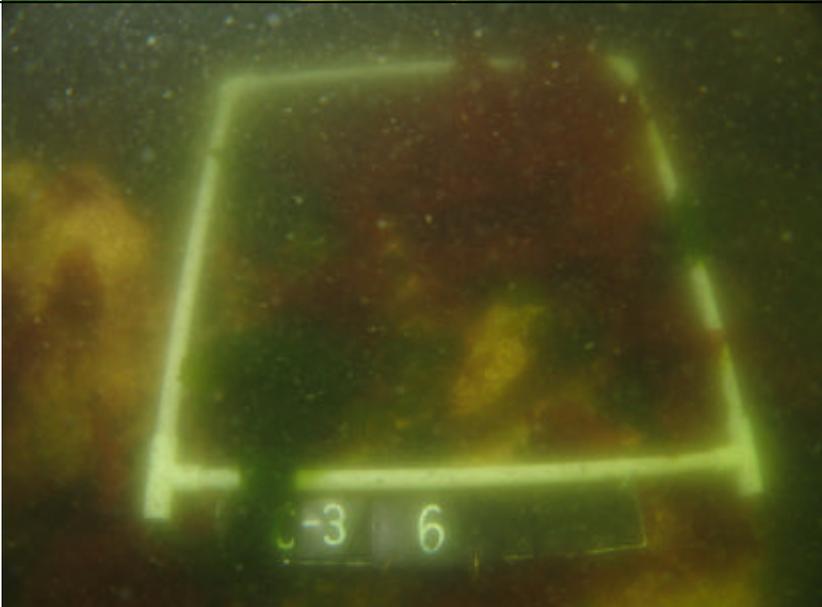
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点C - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点C - 2 下層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点C - 2 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

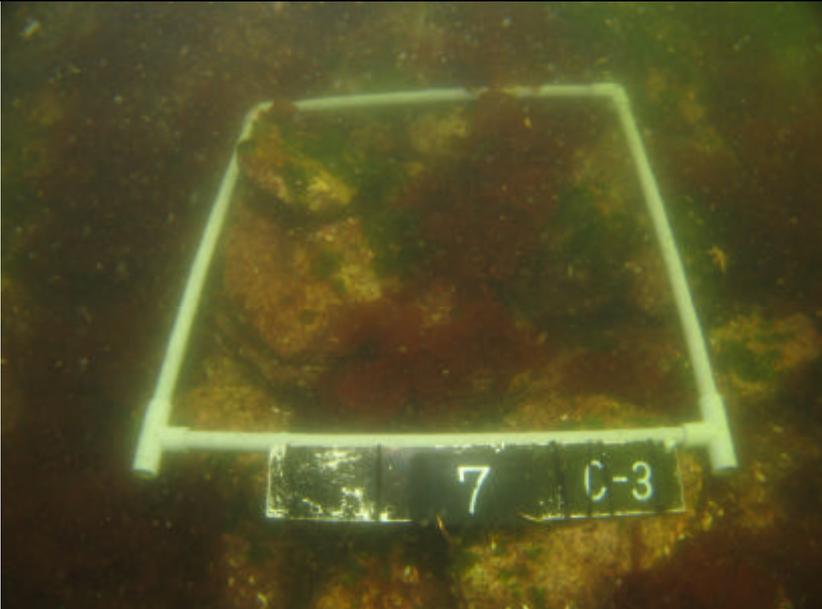
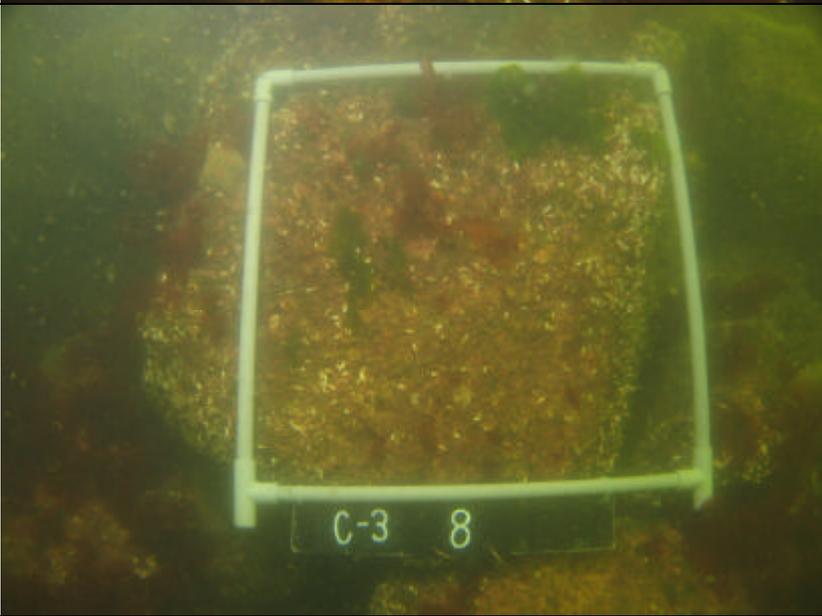
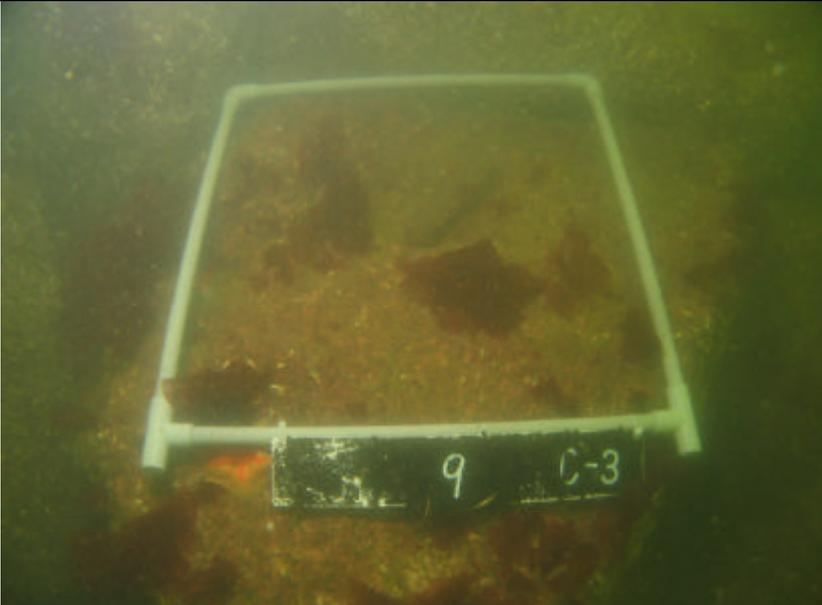
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

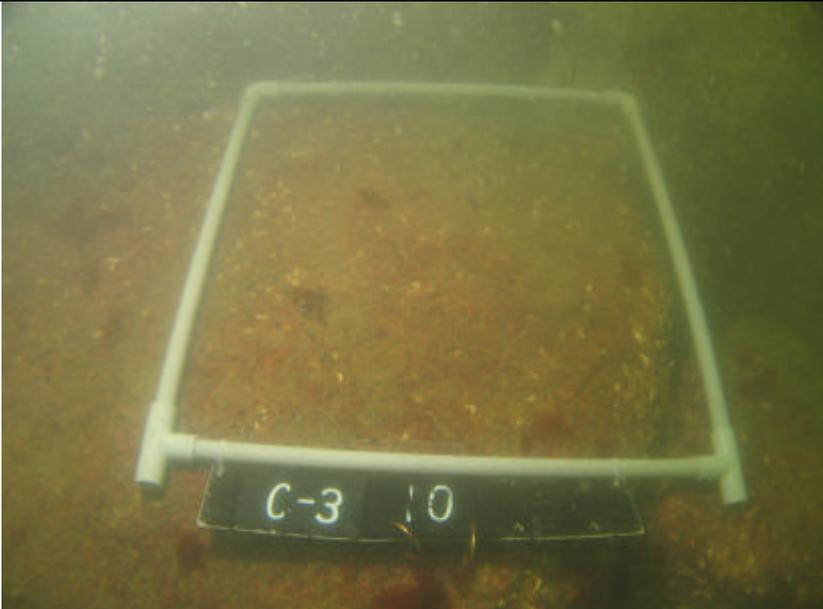
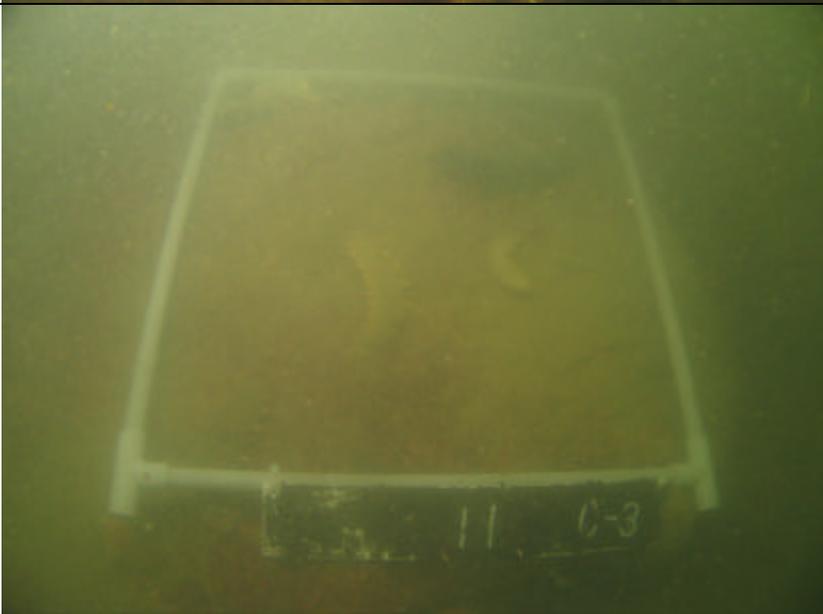
調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

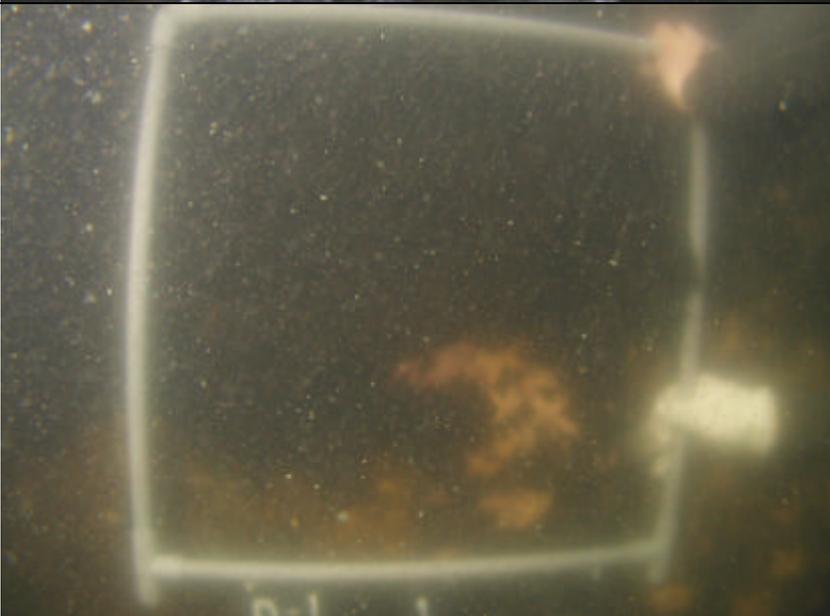
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>メバル</p>

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

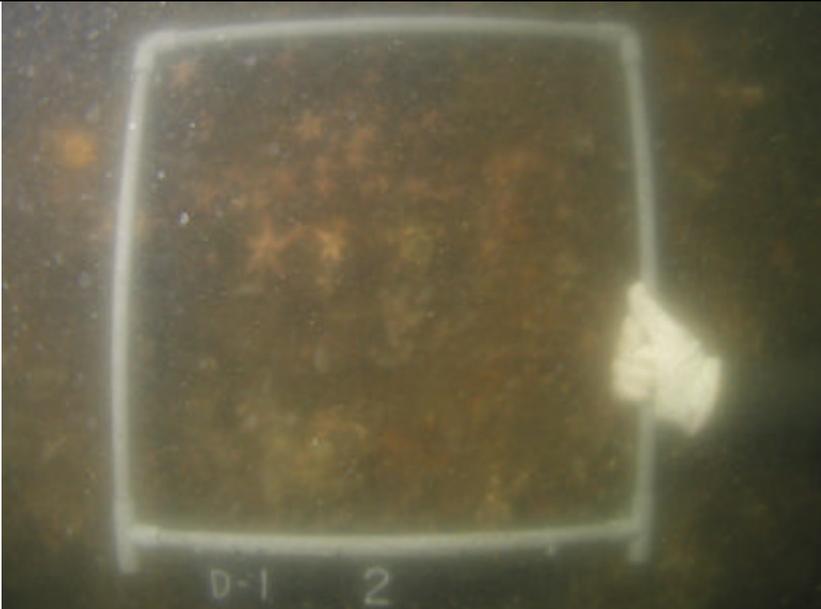
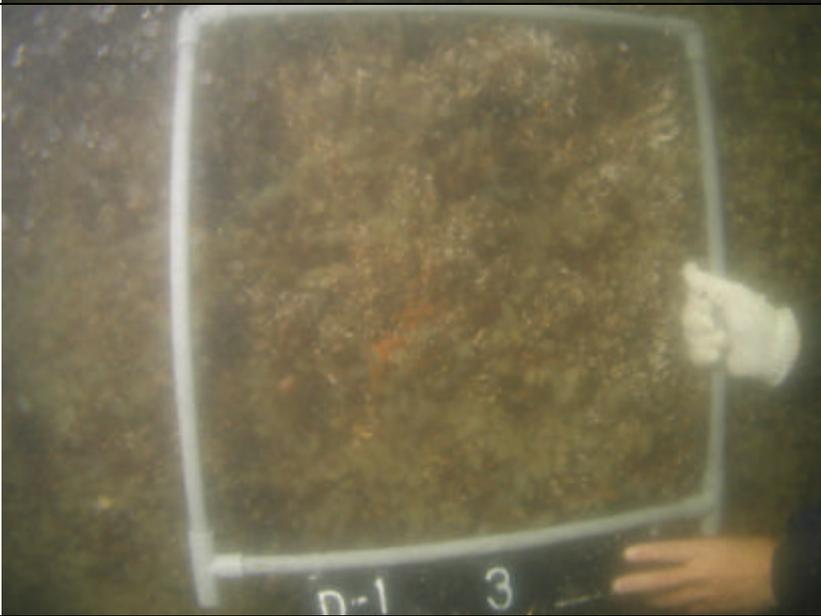
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
--	--	--

調査日：平成 19 年 5 月 28 日

D . 泉大津沖処分場
(平成 19 年 5 月 30 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

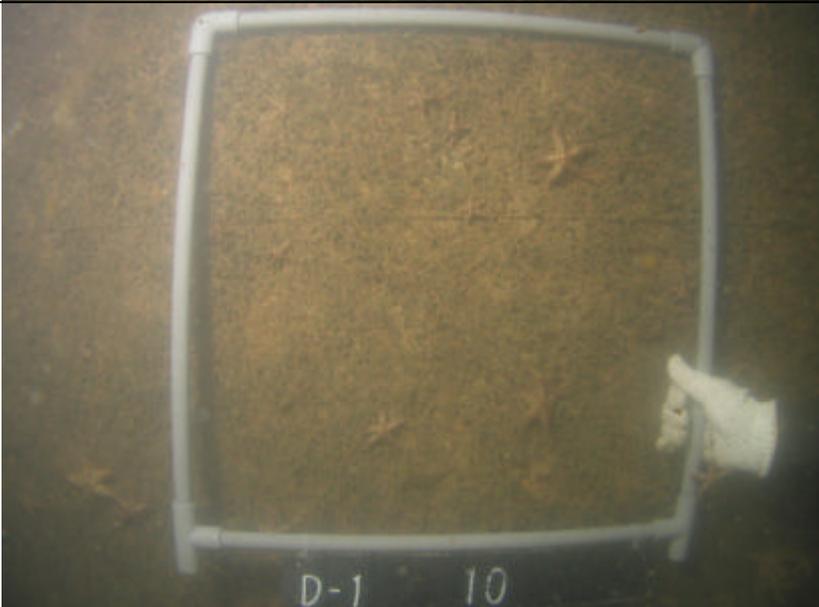
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

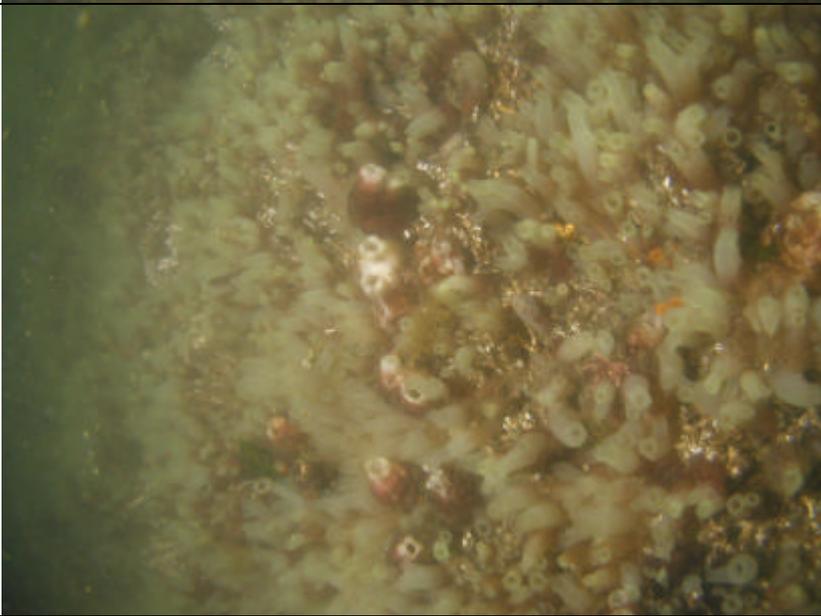
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ミル</p>

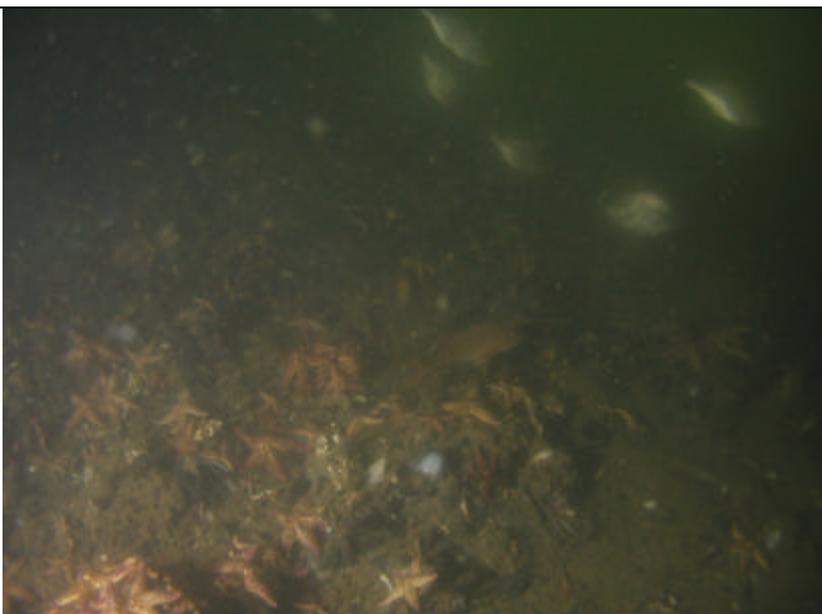
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科 ユウレイボヤ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>シロボヤ ユウレイボヤ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>

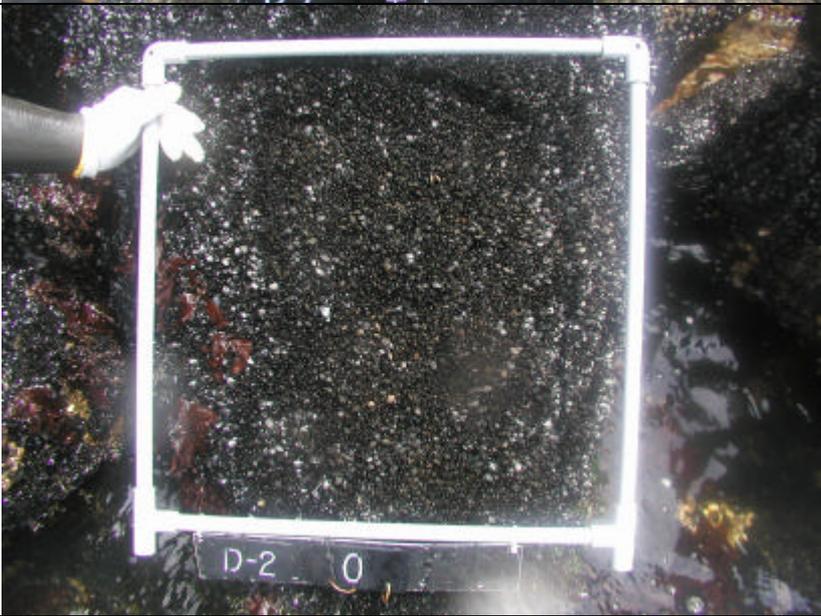
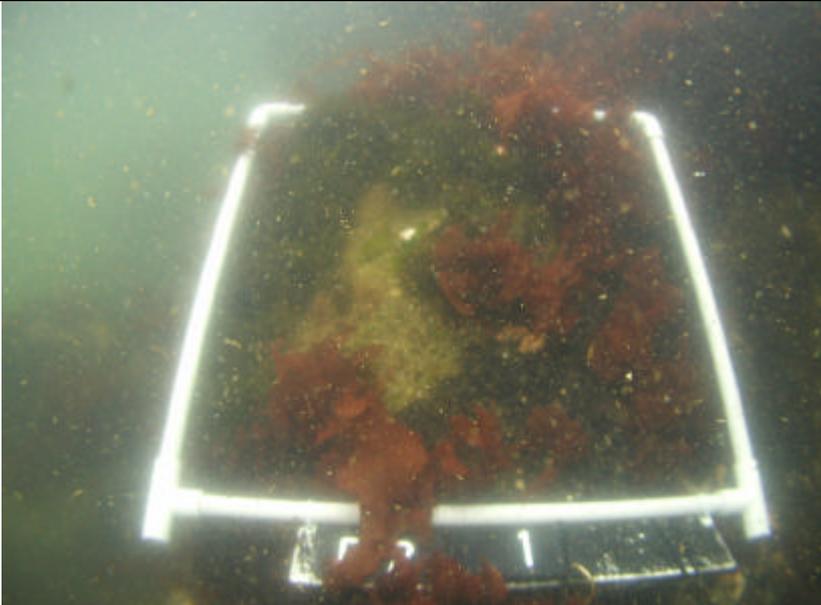
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>シロボヤ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>キヒトデ</p>

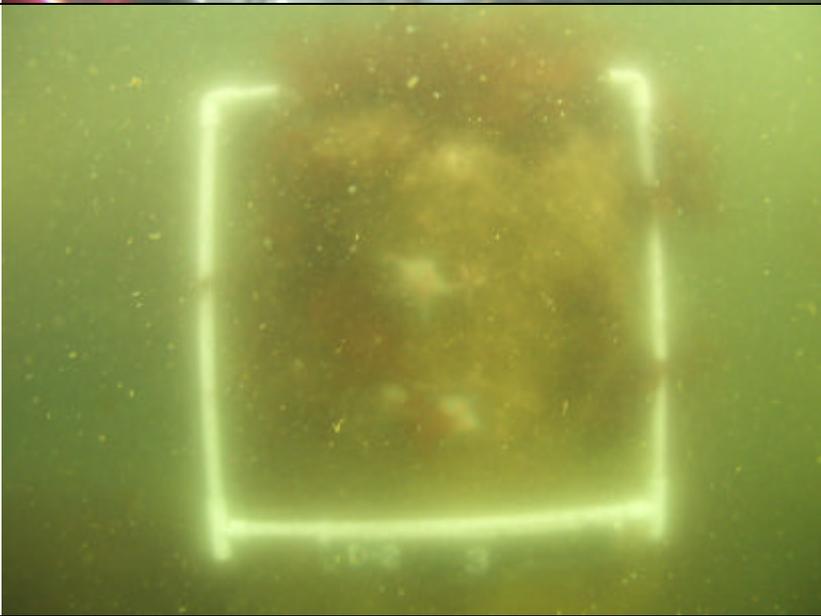
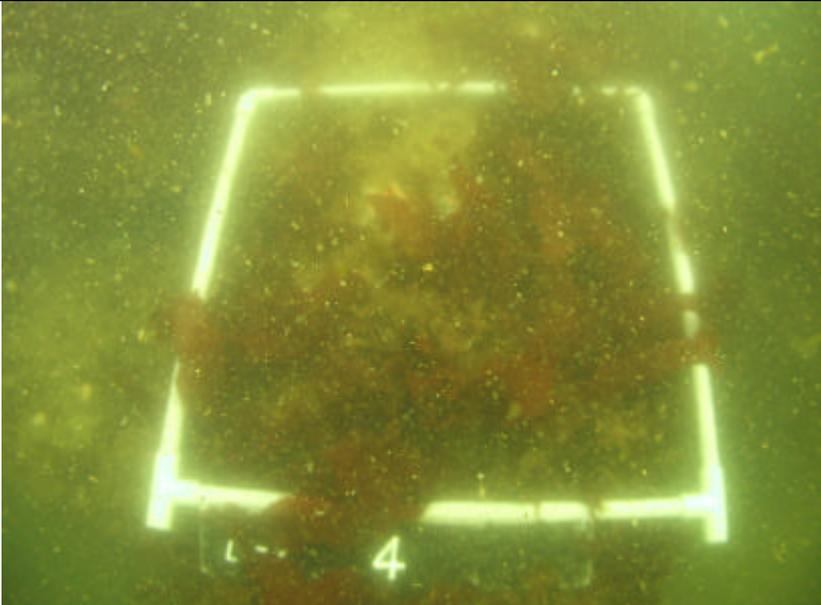
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 11.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ アイナメ</p>
--	--	--

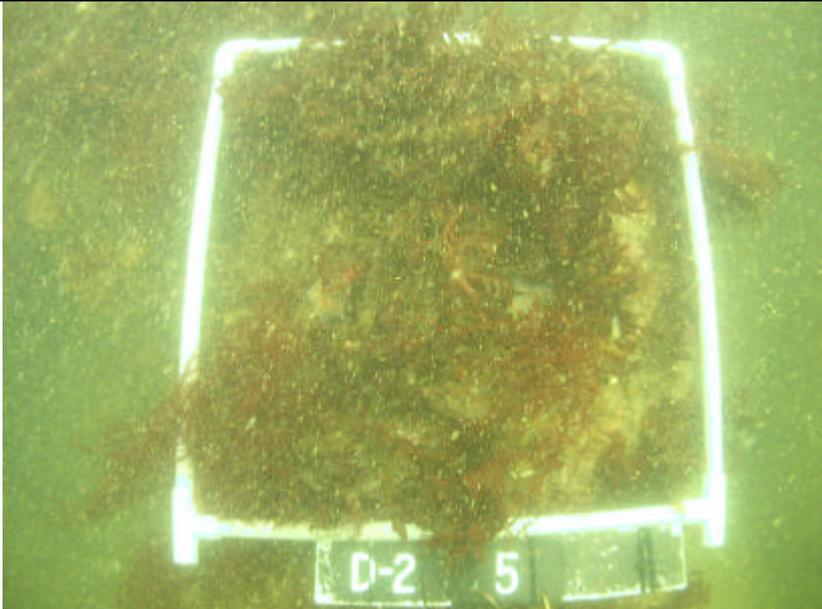
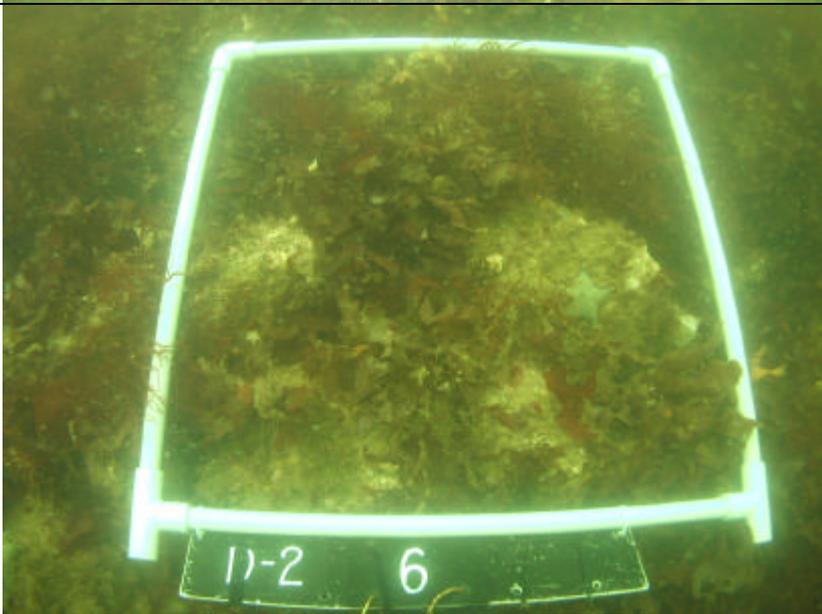
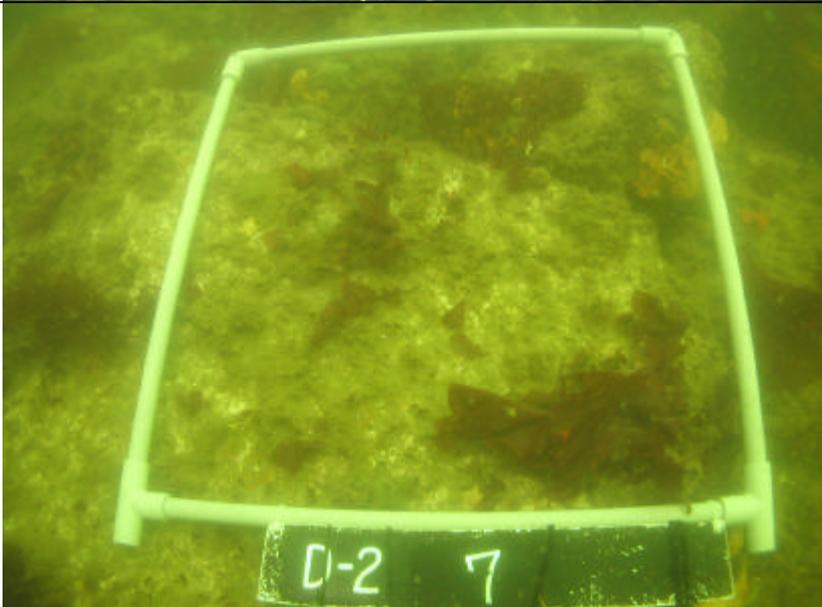
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

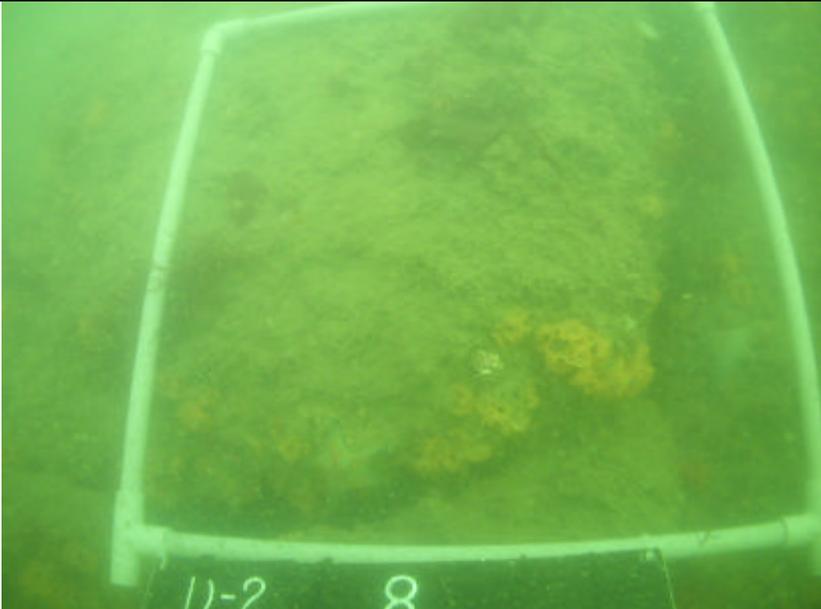
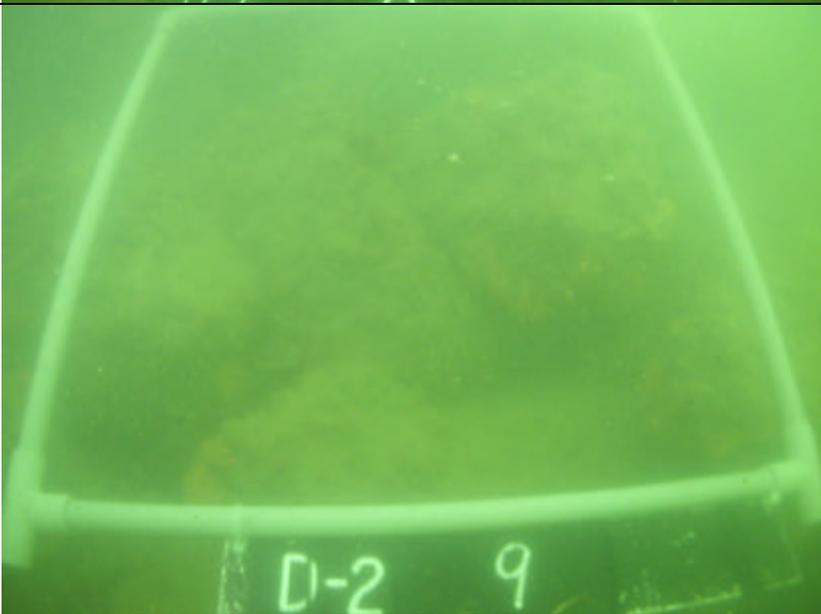
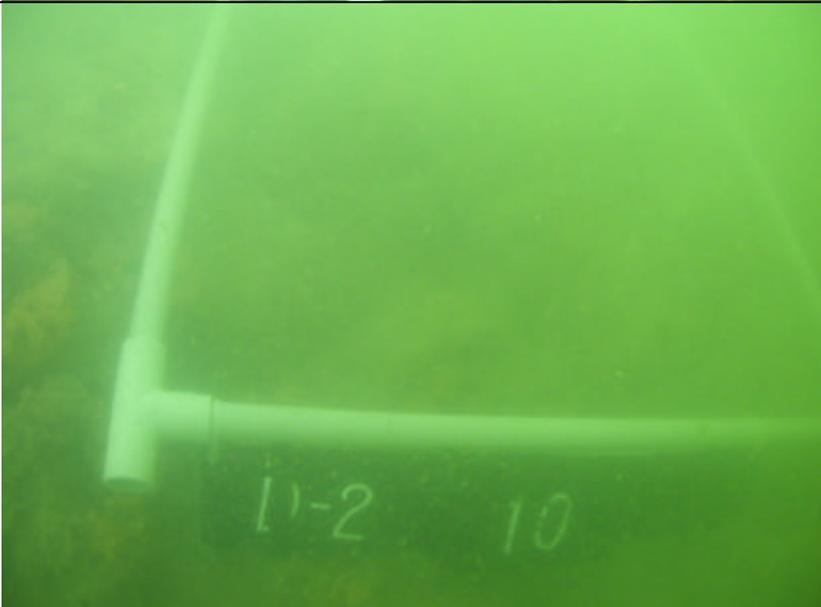
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

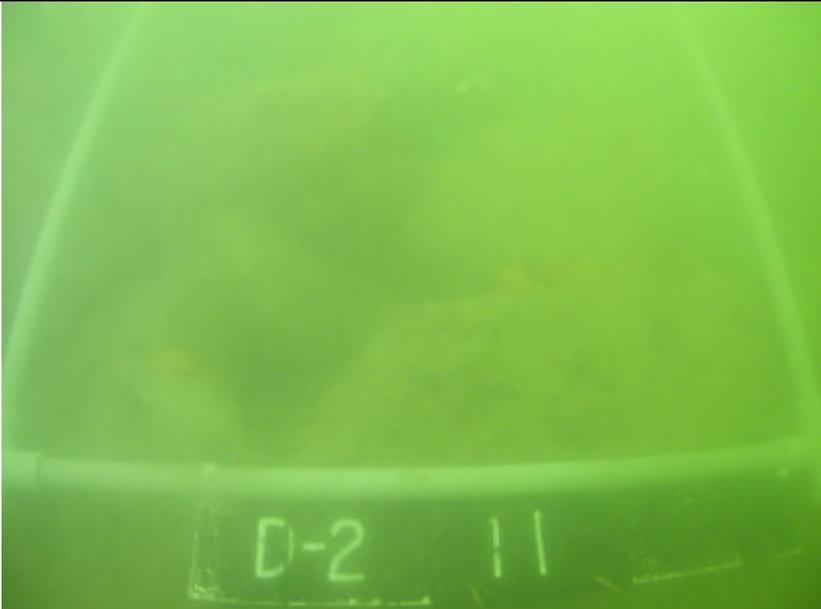
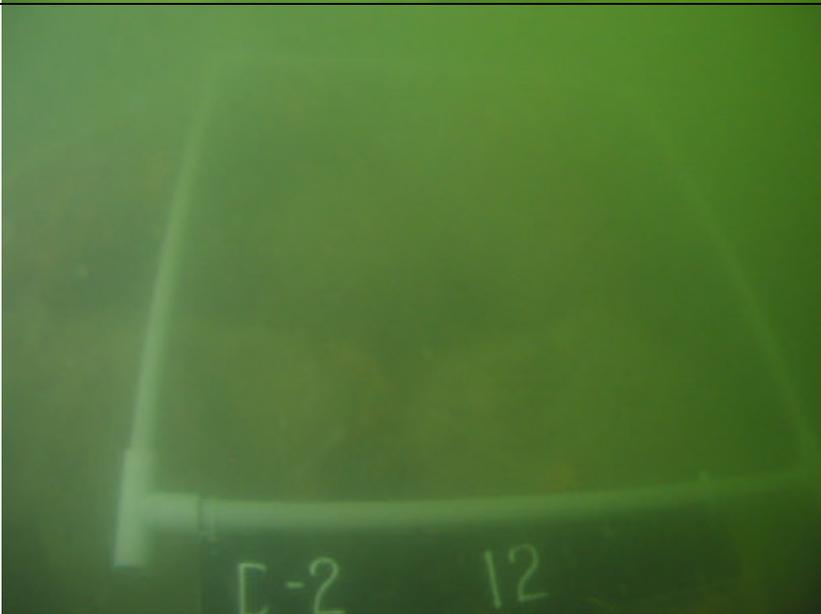
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

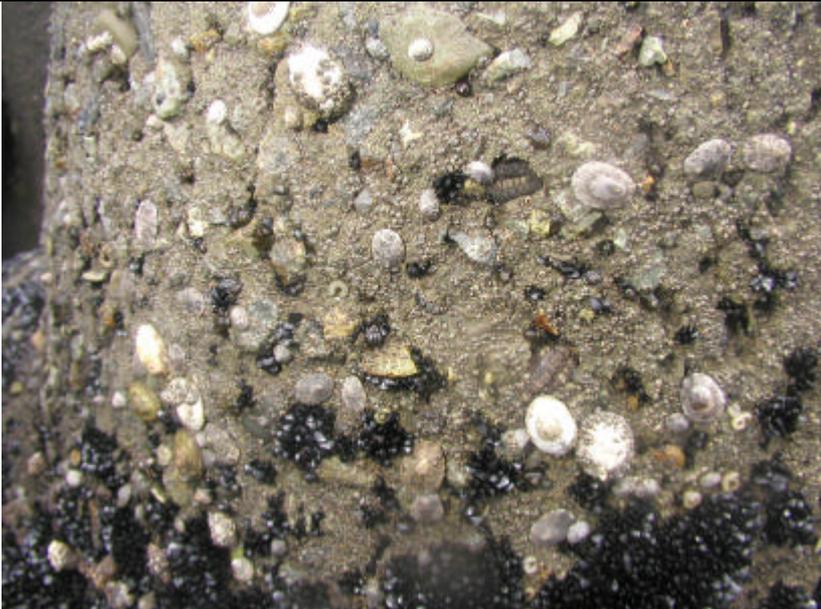
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

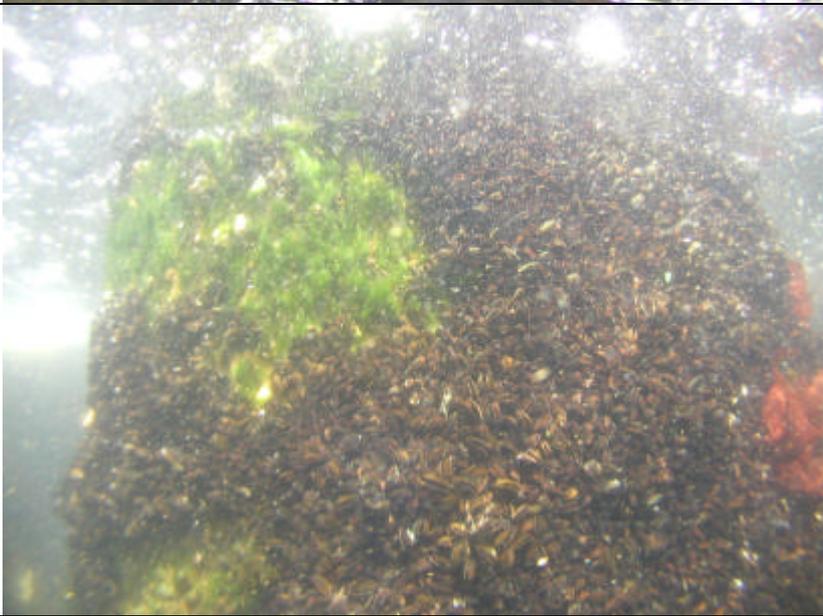
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

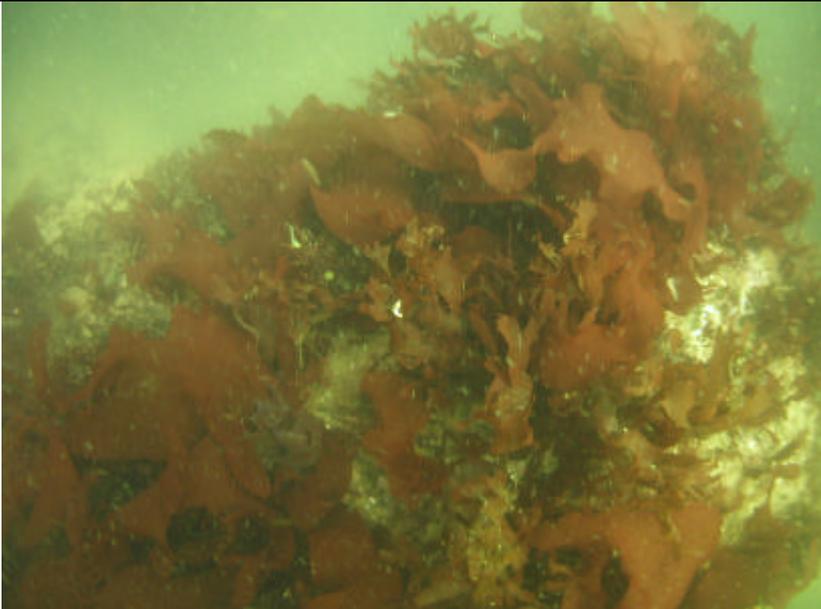
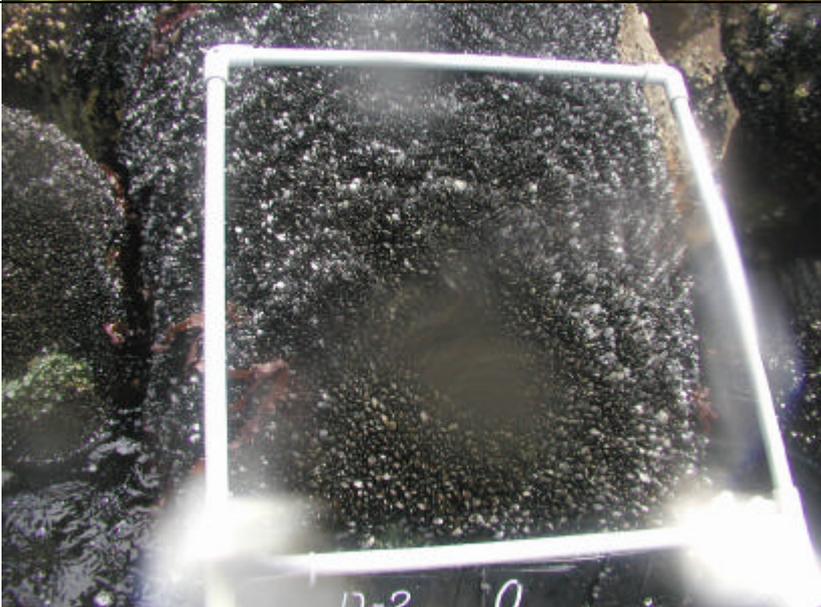
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. +0.5m 付近</p> <p>ベッコウガサ ヨメガカサ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>カラマツガイ イボニシ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>フダラク</p>

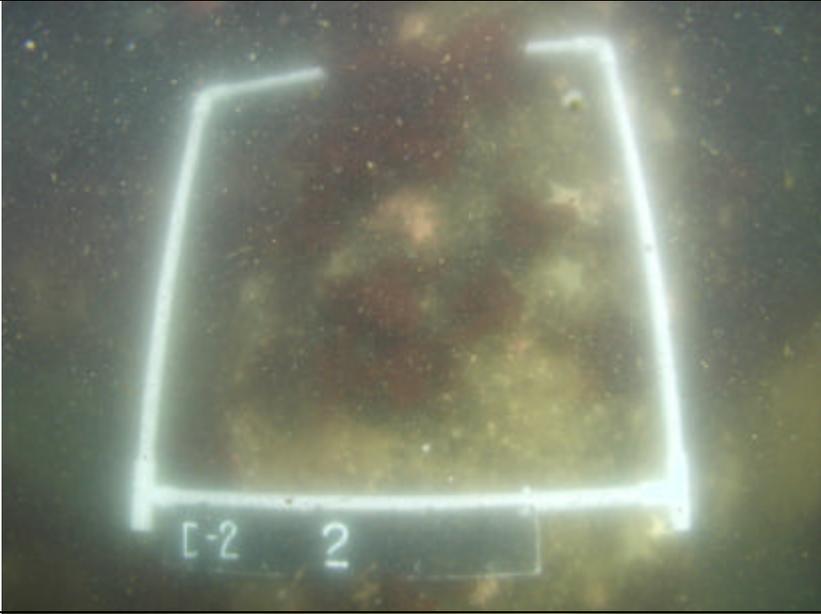
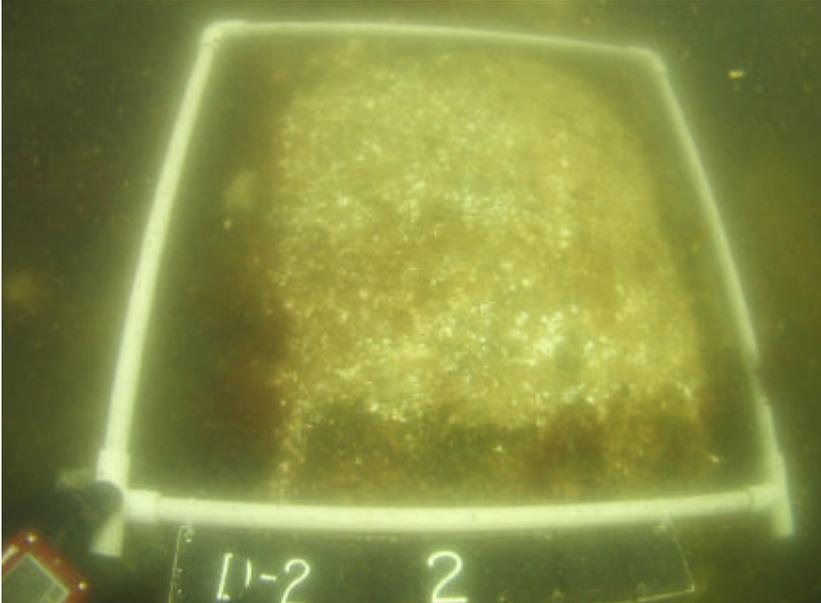
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ アオサ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>フダラク ミル</p>

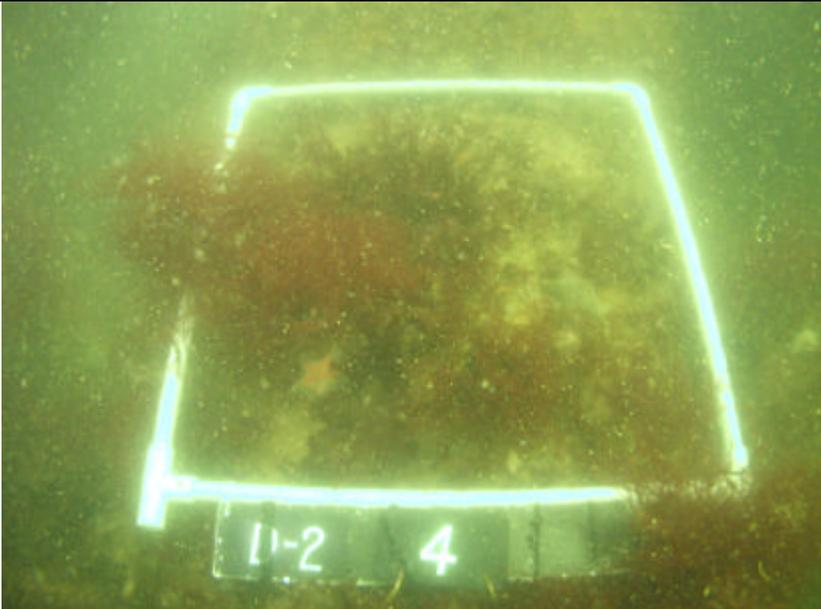
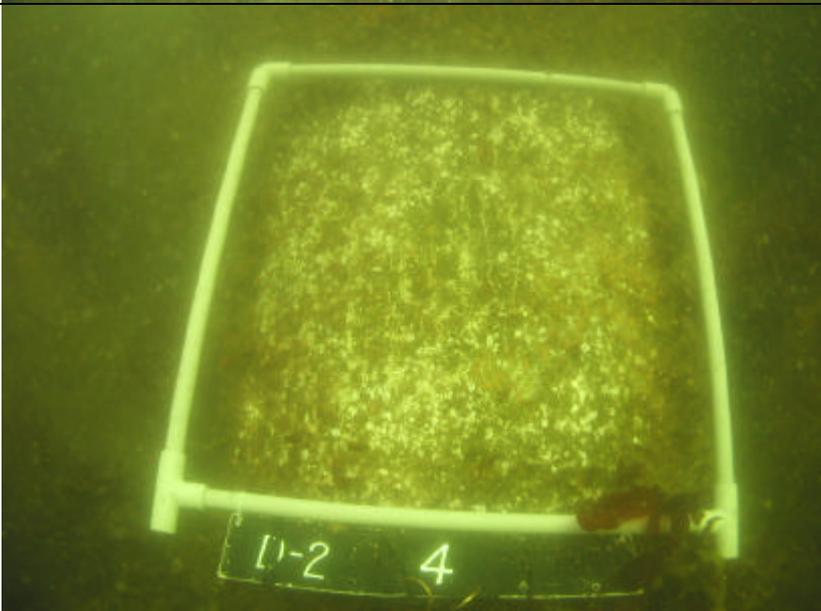
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>フダラク カバノリ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>タオヤギソウ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>粹取り前 M.W.L. ±0.0m</p>

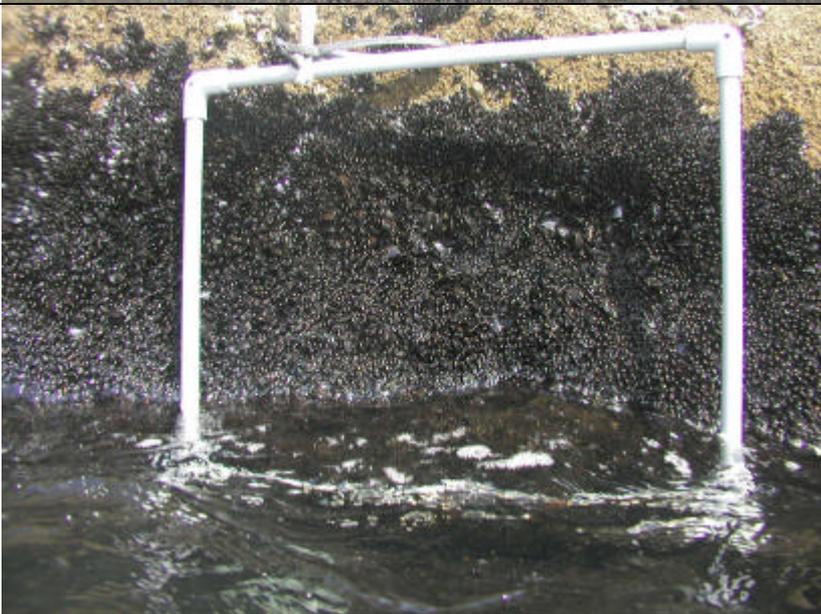
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>

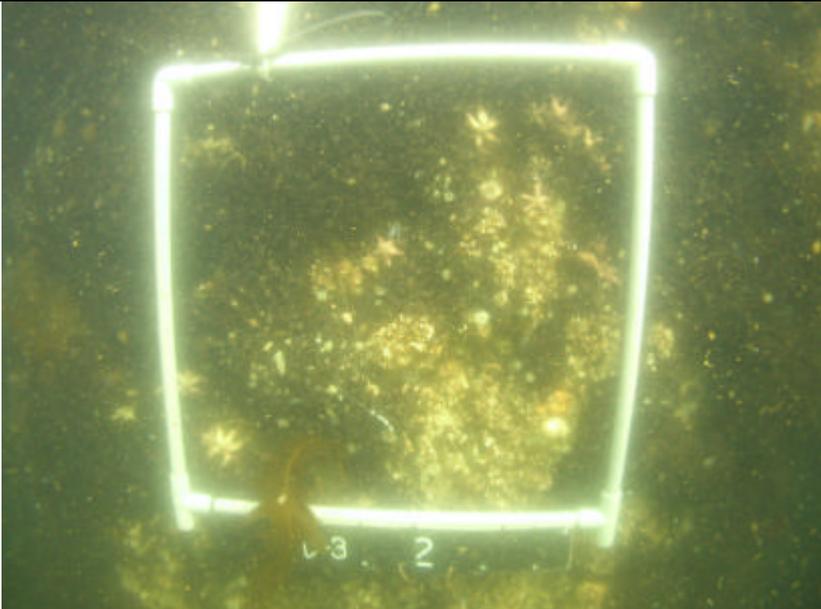
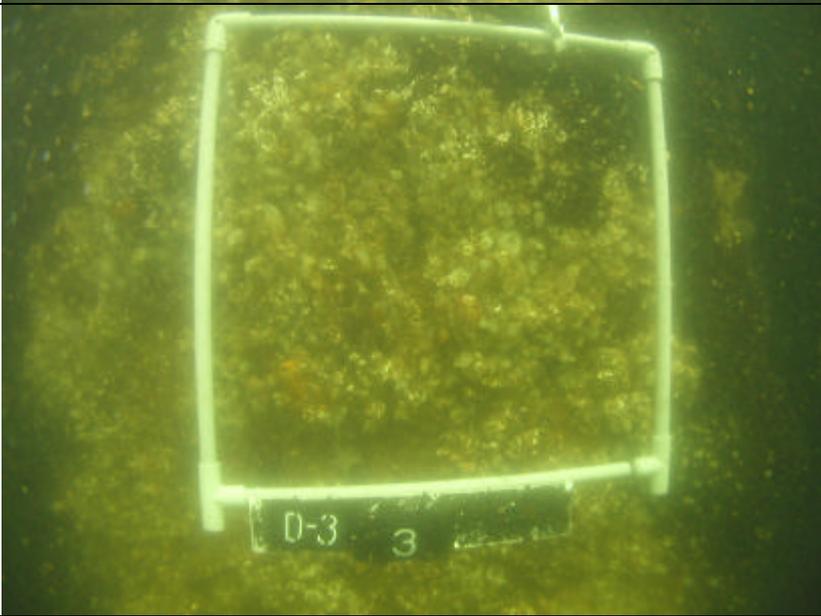
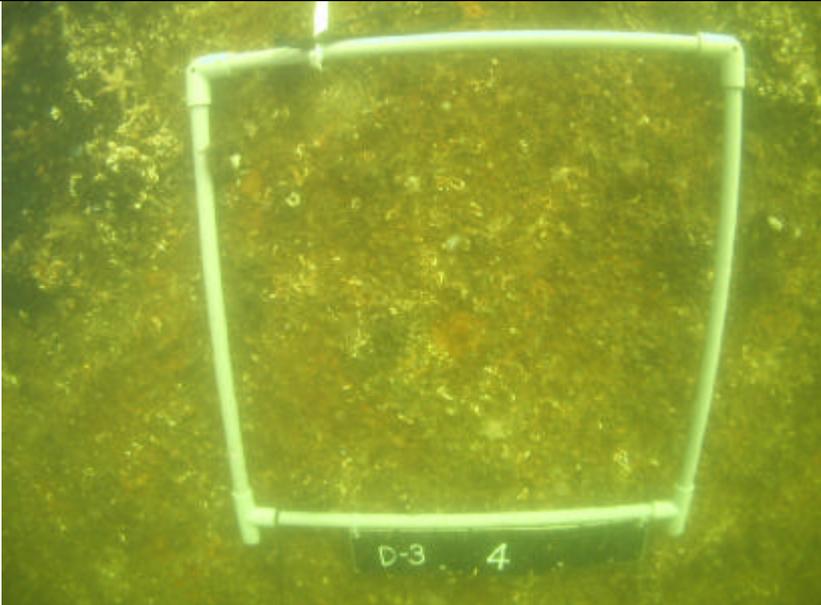
調査日：平成 19年 5月 30日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

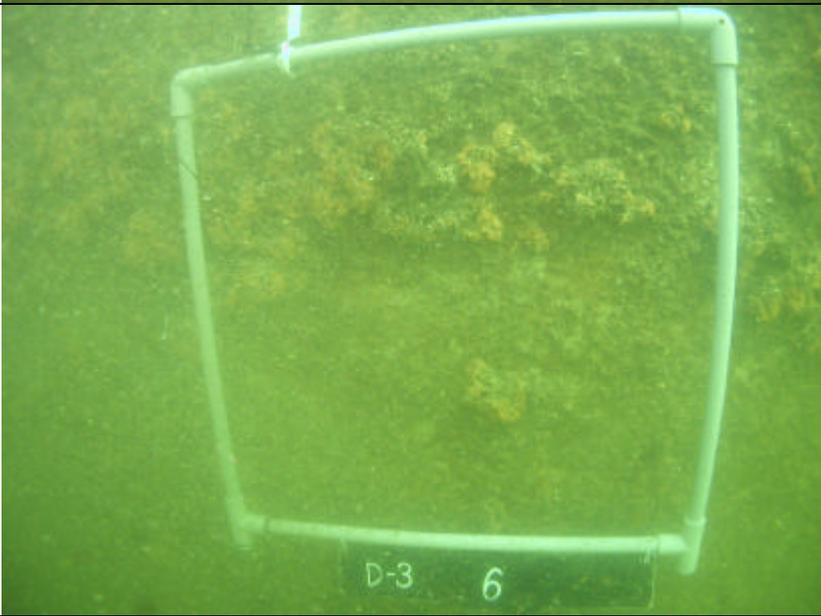
調査日：平成 19年 5月 30日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

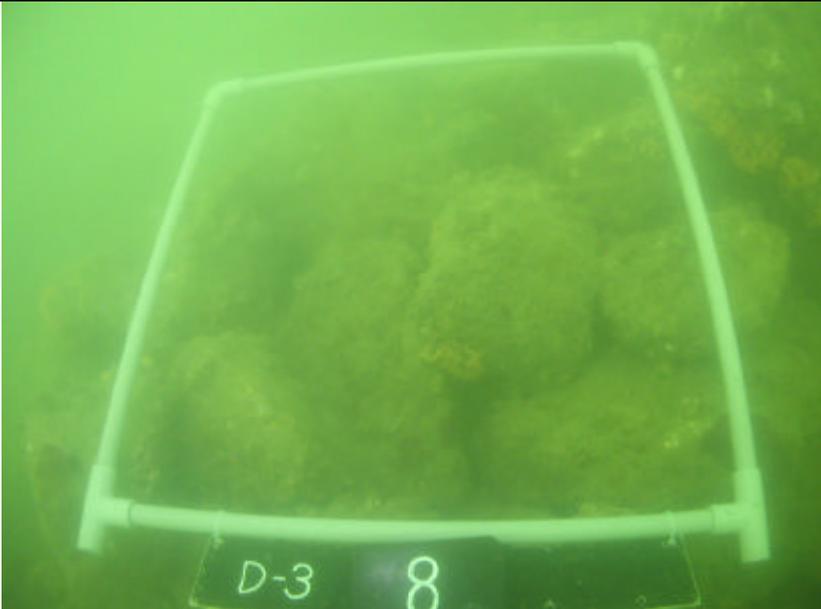
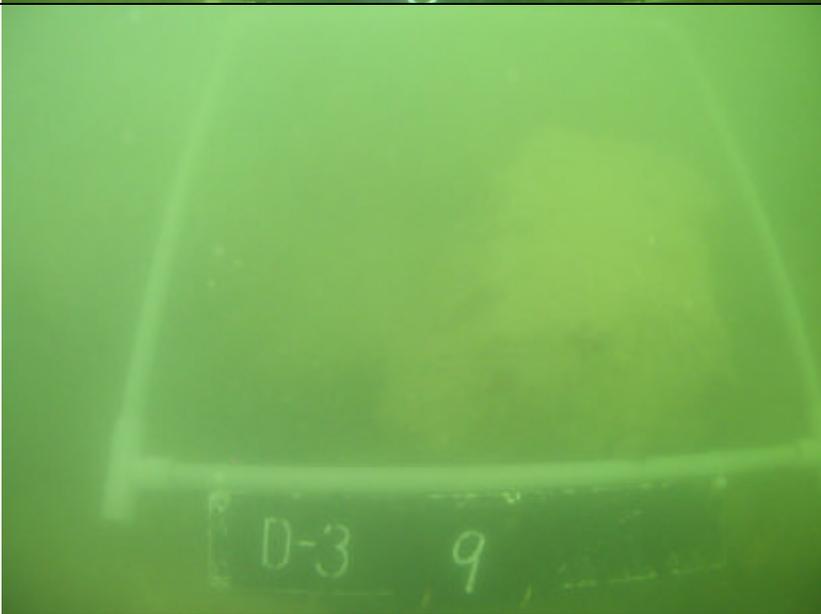
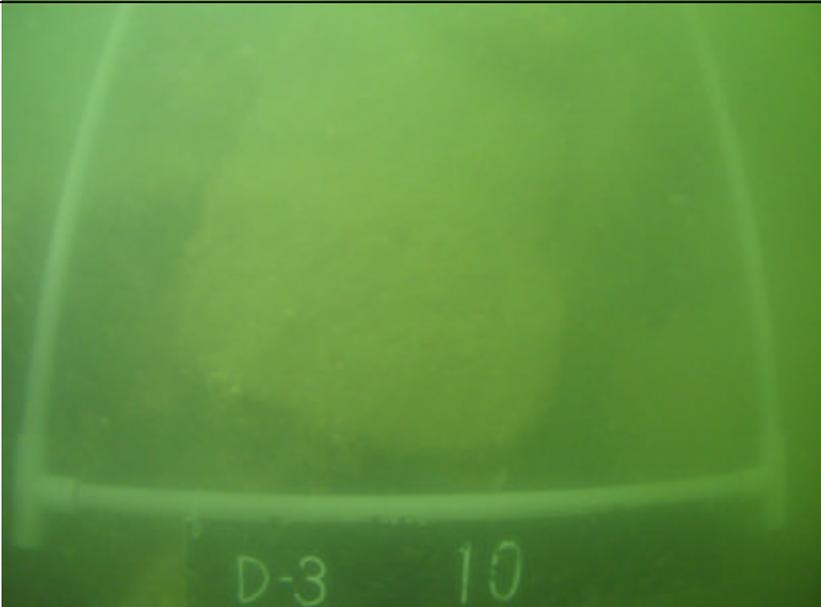
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

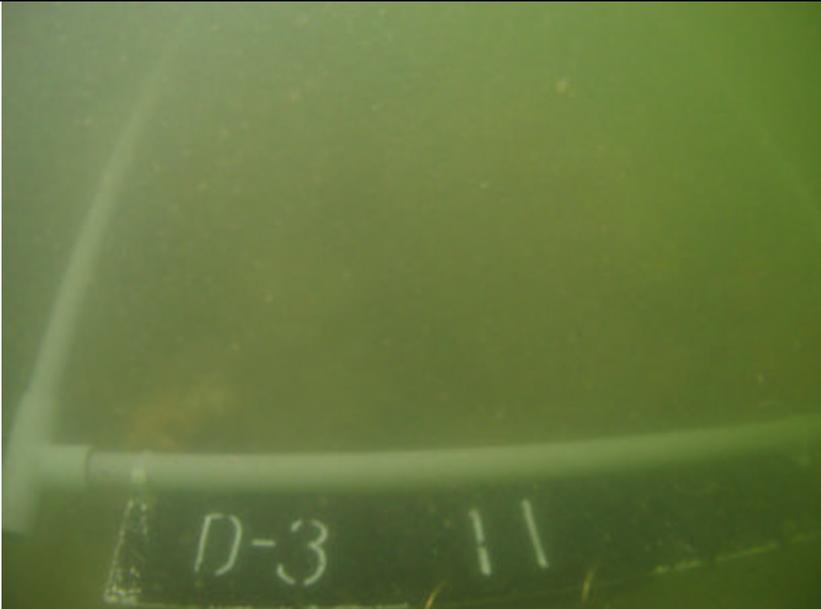
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

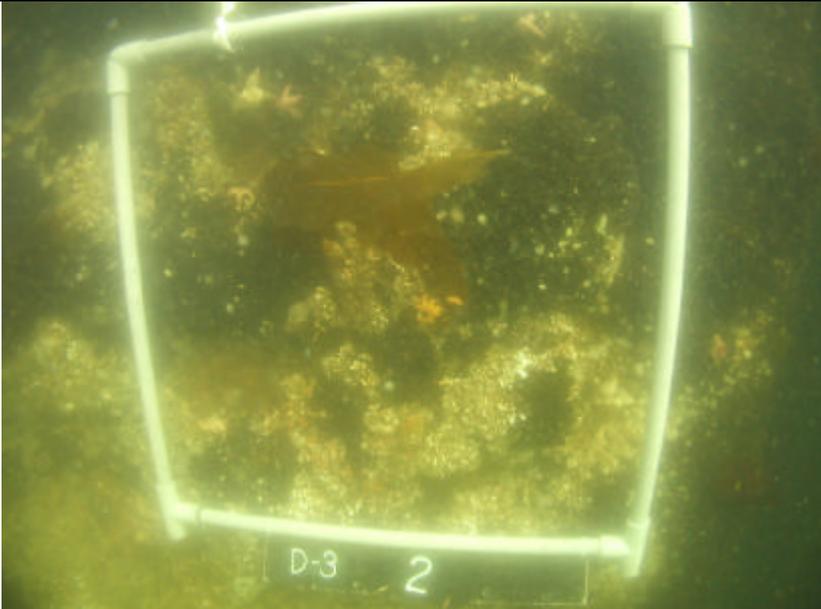
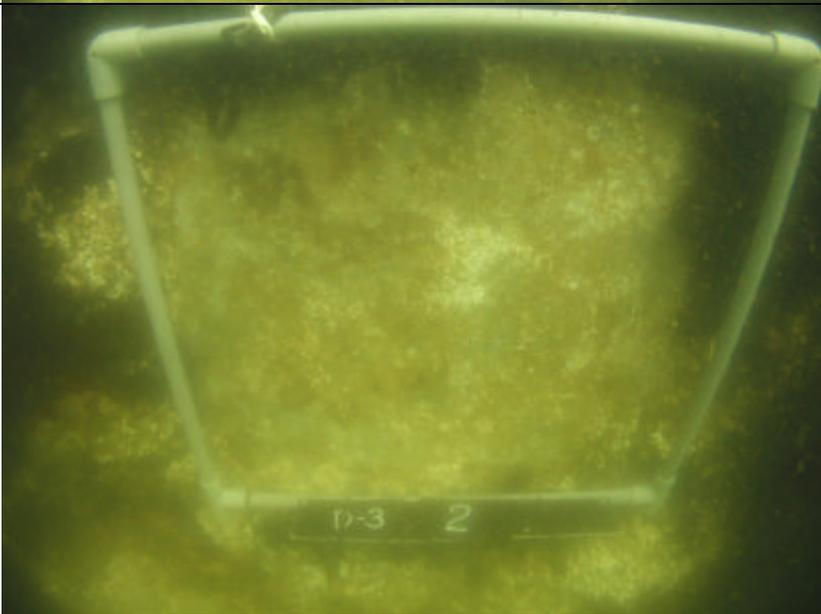
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

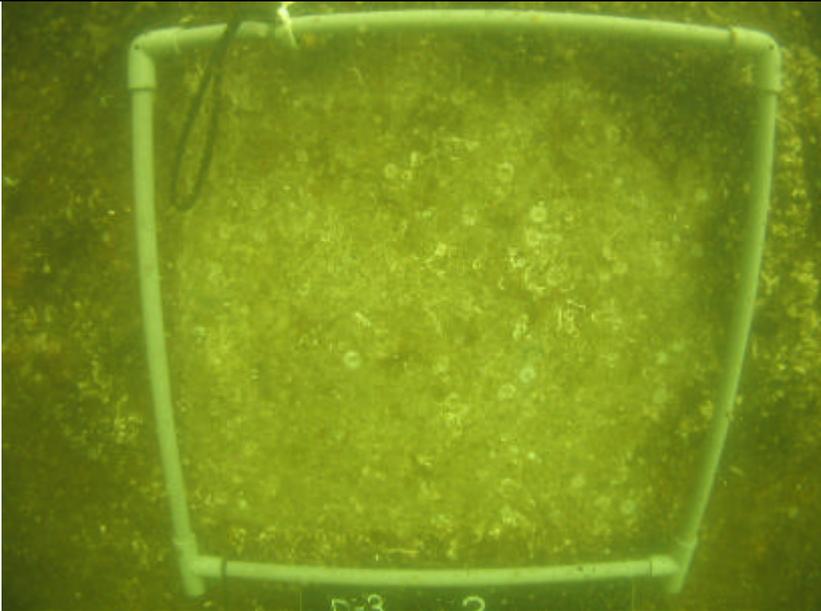
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

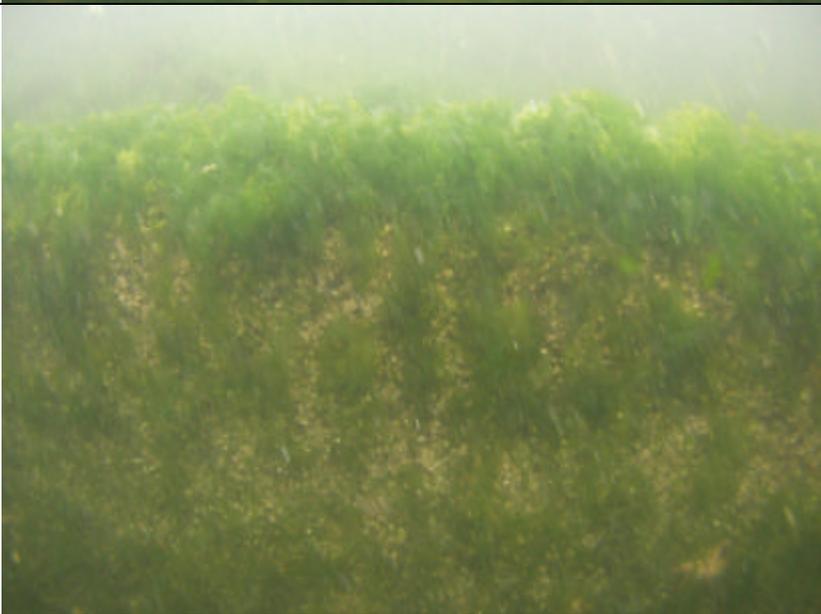
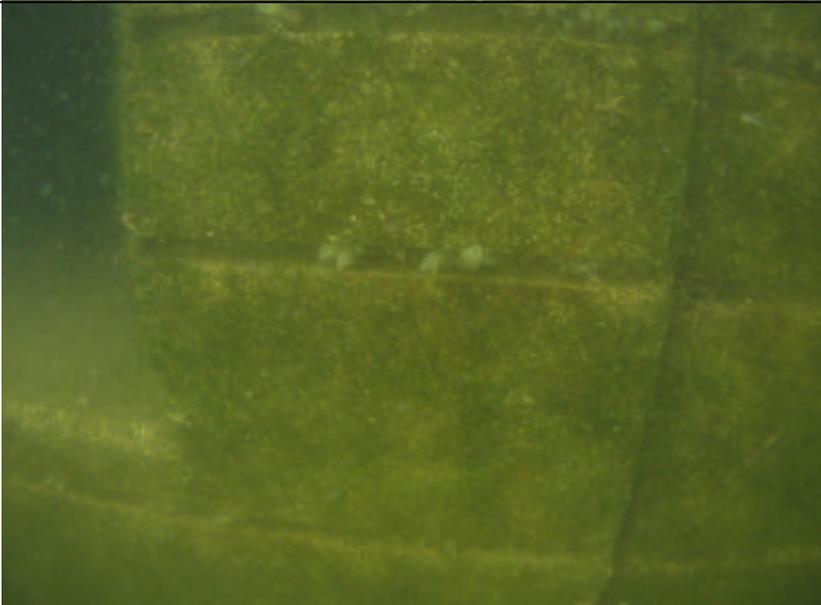
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>ワカメ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

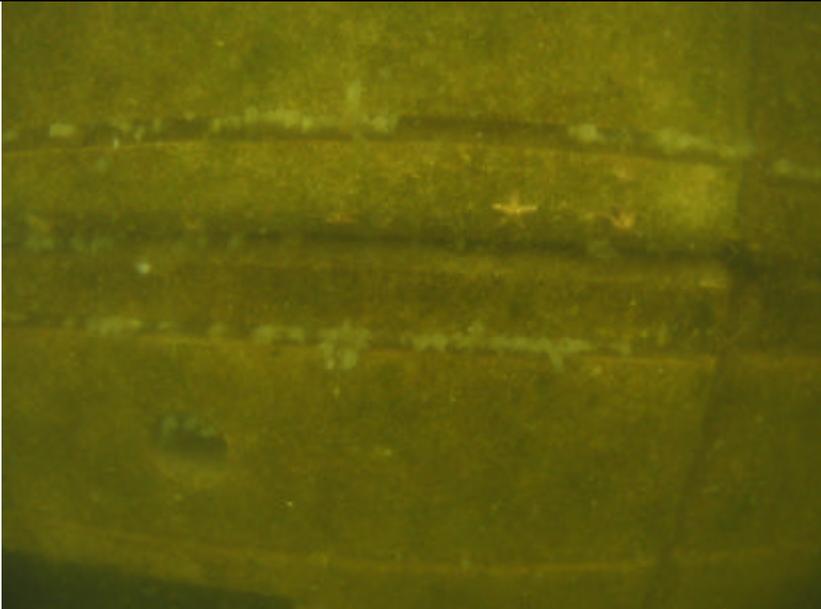
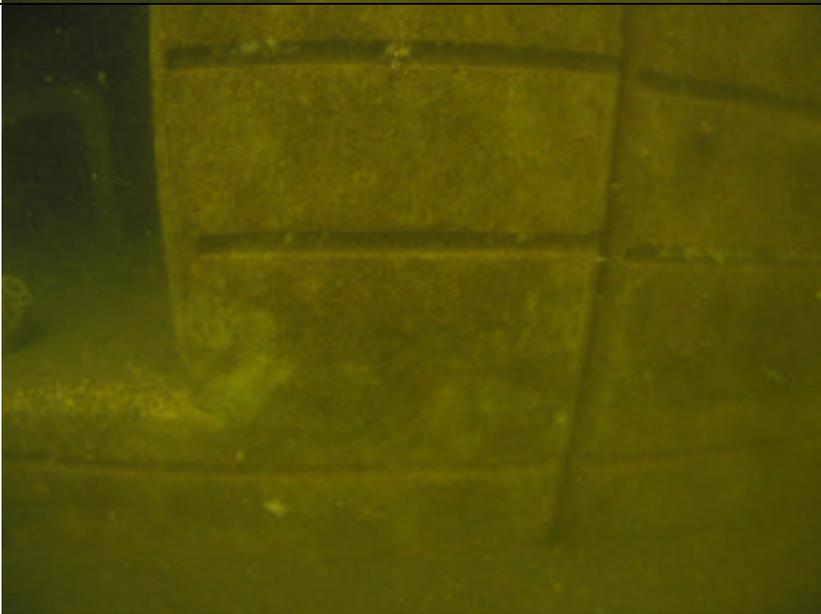
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>採取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>採取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>採取り前 M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

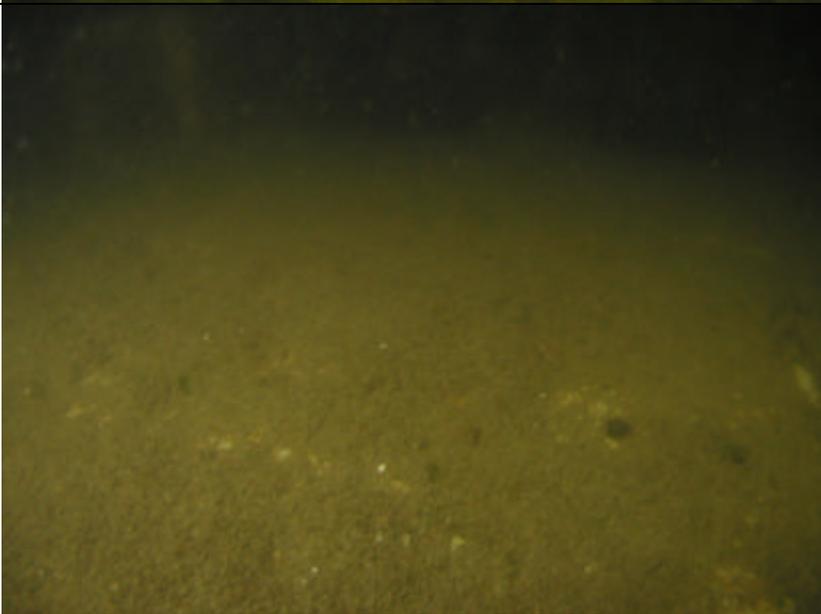
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>
--	--

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. + 1.0 ~ ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. ± 0.0 ~ - 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 1.0 ~ - 2.0m</p>

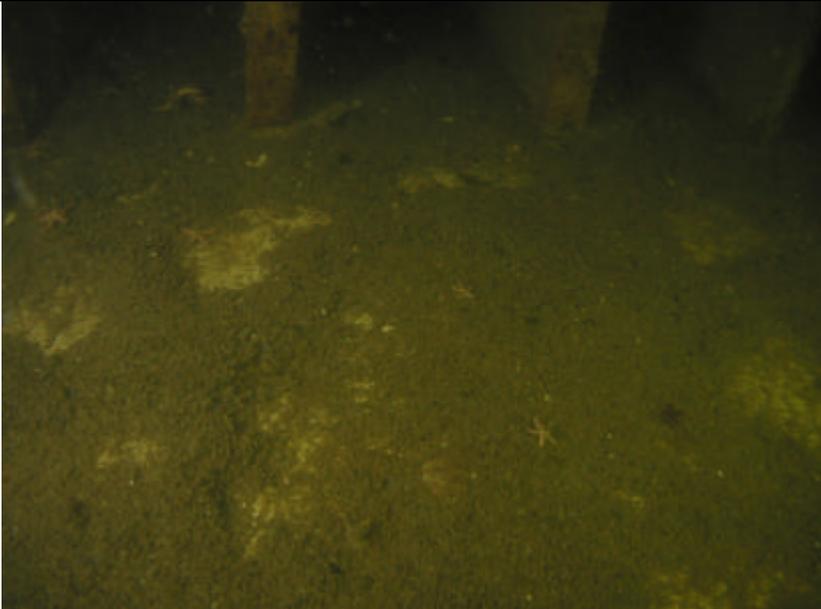
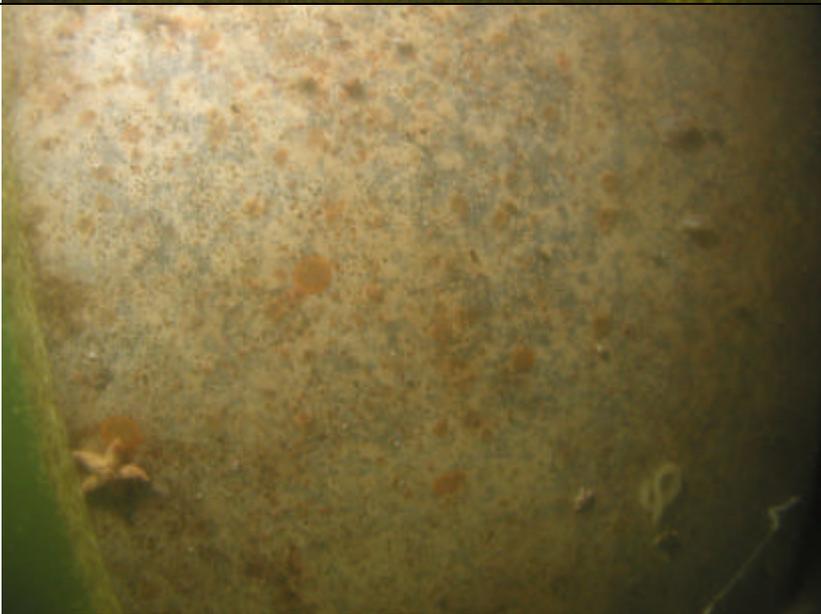
調査日：平成 19 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 2.0 ~ - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 3.0 ~ - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 4.0 ~ - 5.0m</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 5.0 ~ - 5.5m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室・下面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室・側面</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

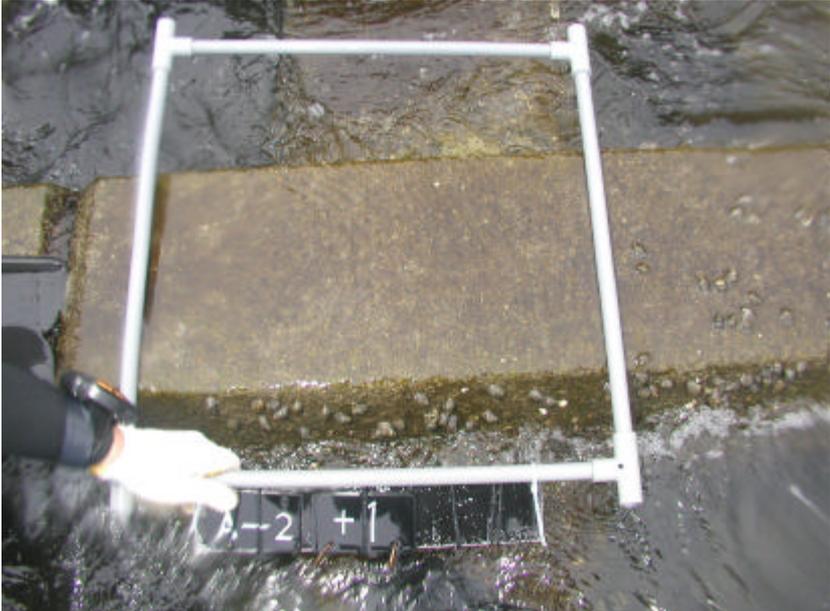
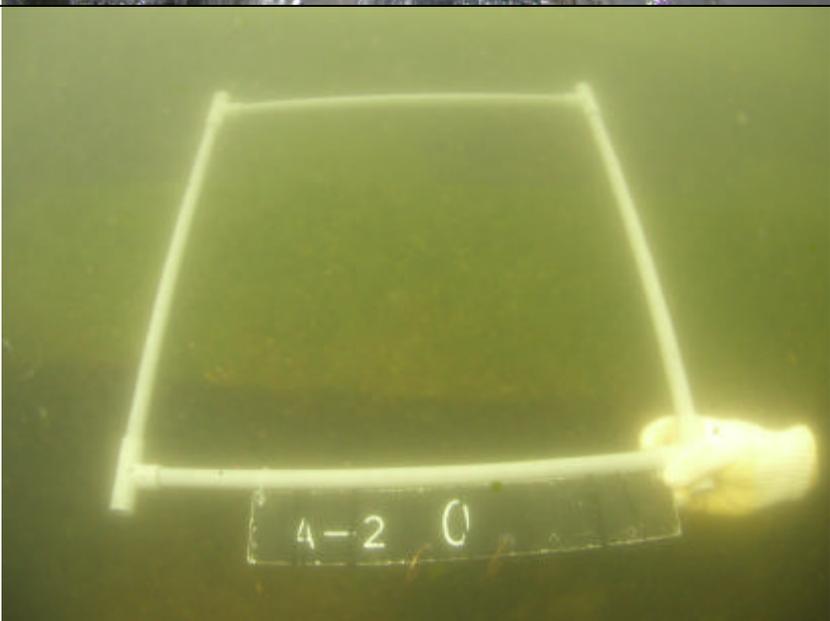
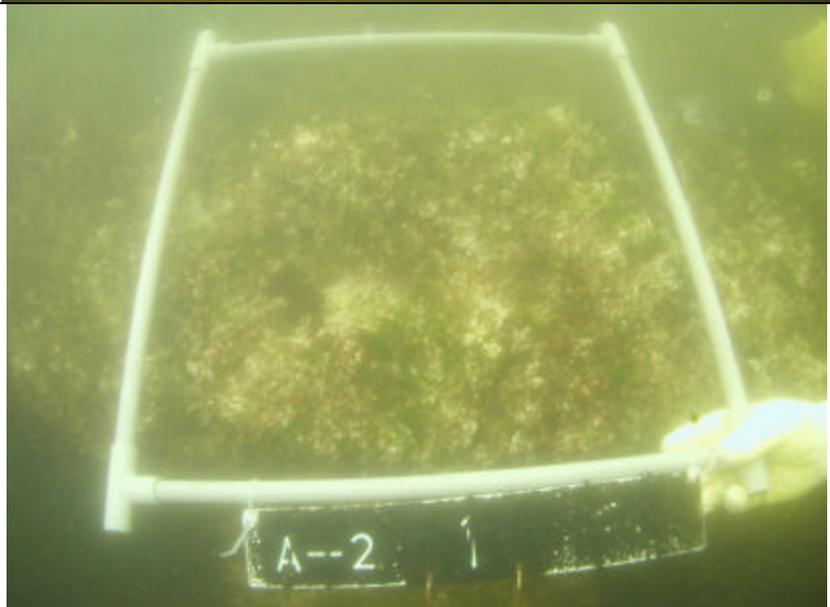
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・下面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・側面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・内部</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

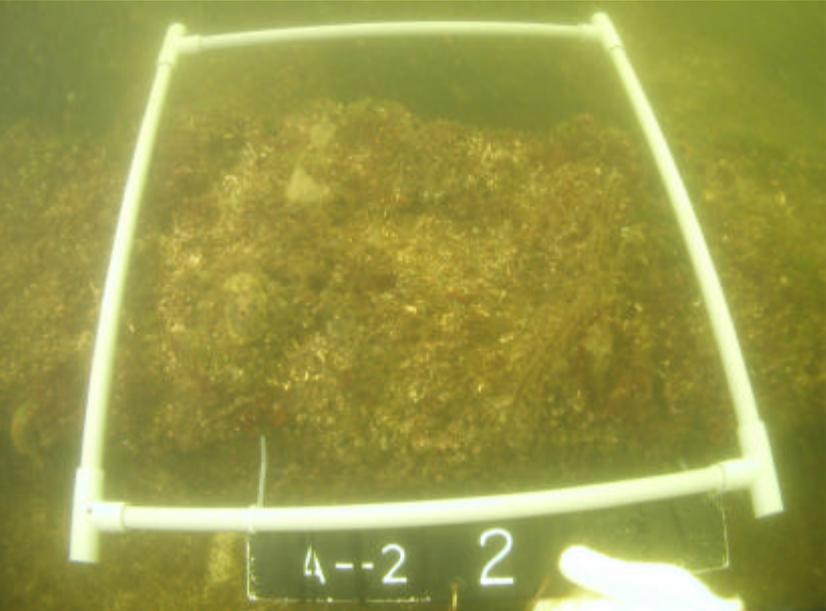
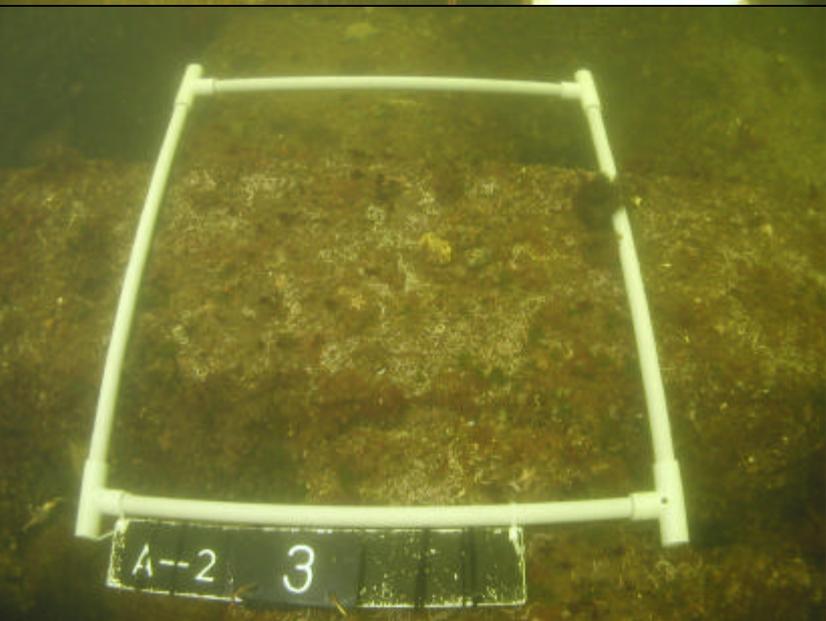
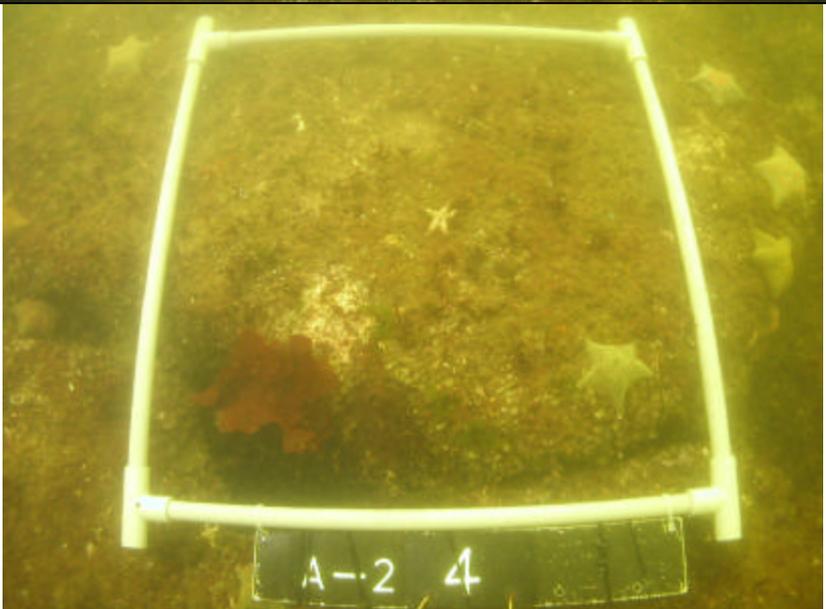
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 貫通孔</p> <p>メバル</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 貫通孔</p> <p>ワタリガニ科</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・内部</p> <p>マナマコ</p>

調査日：平成 19 年 5 月 30 日

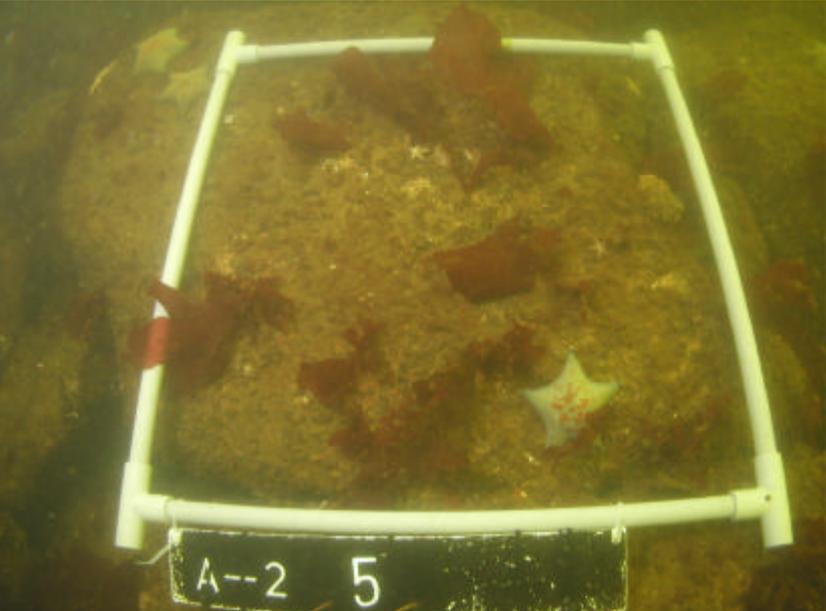
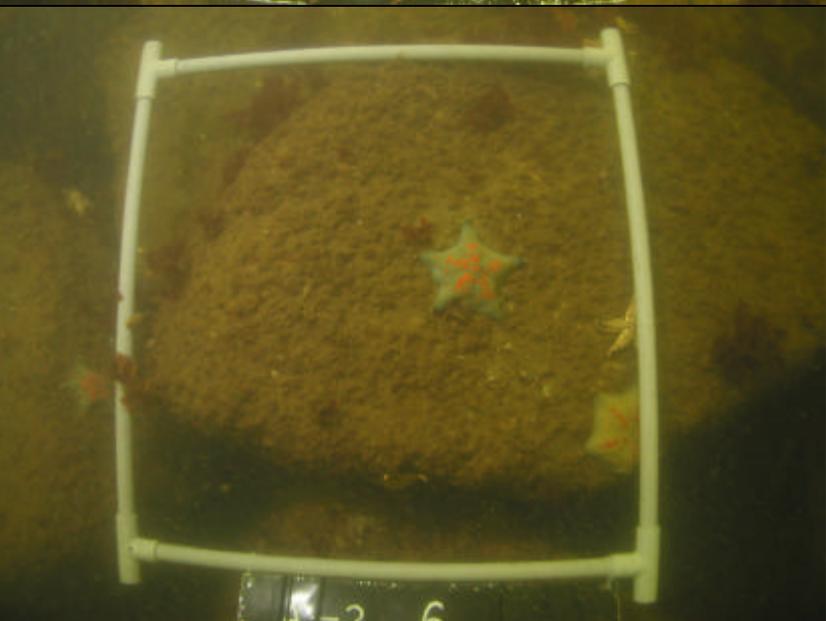
A . 神戸沖処分場
(平成 19 年 8 月 4 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

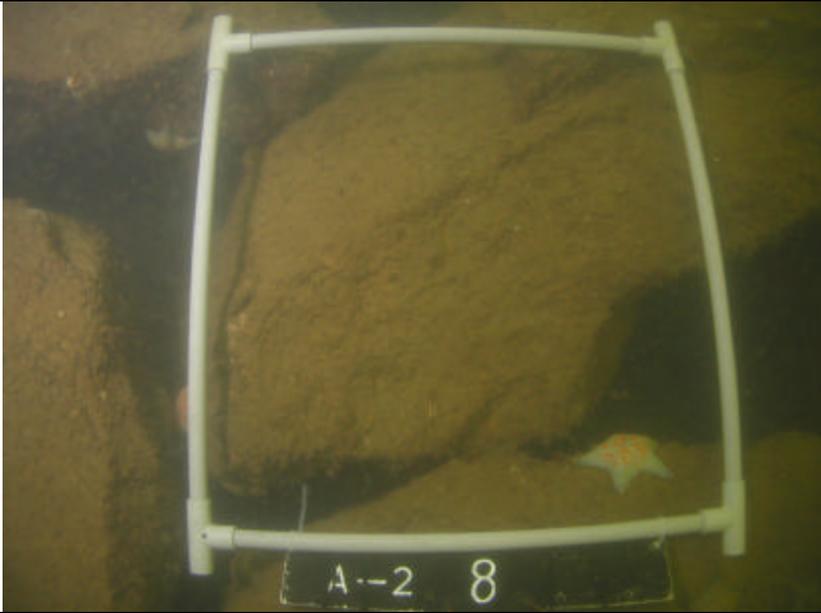
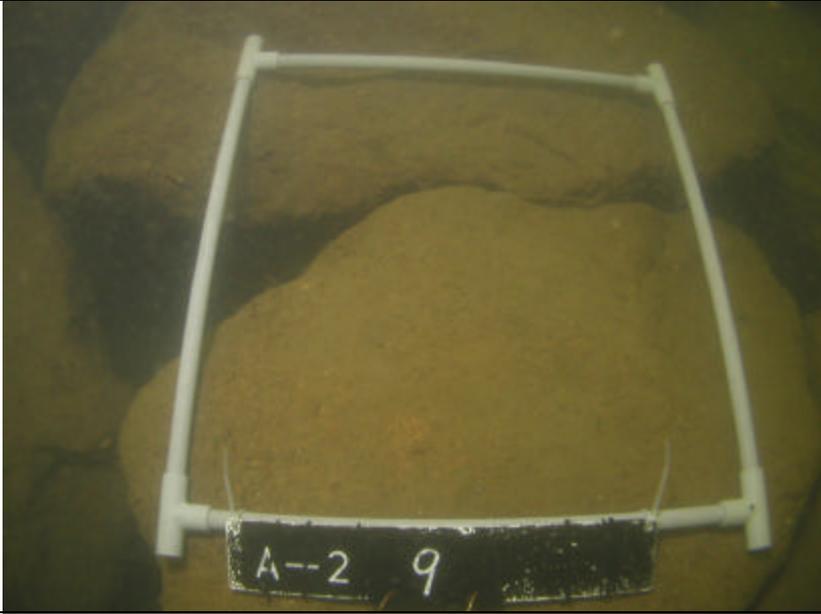
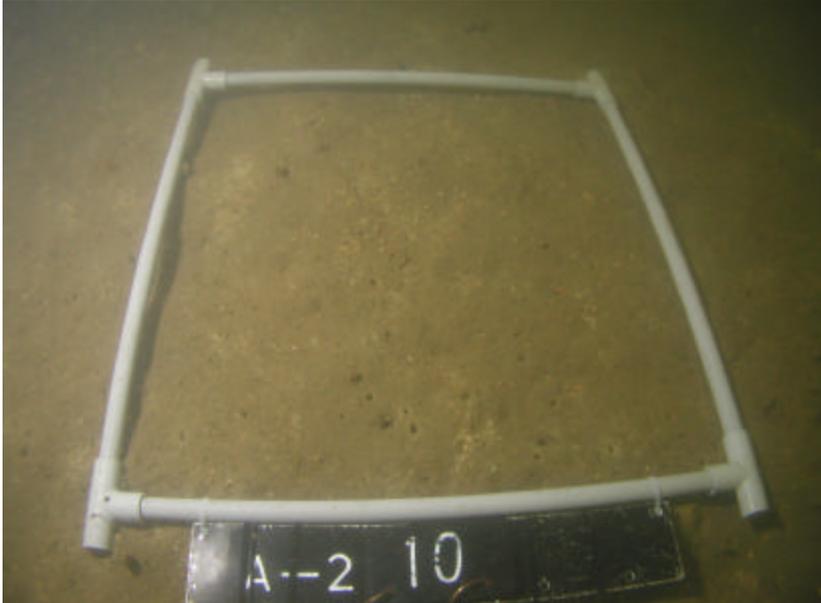
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

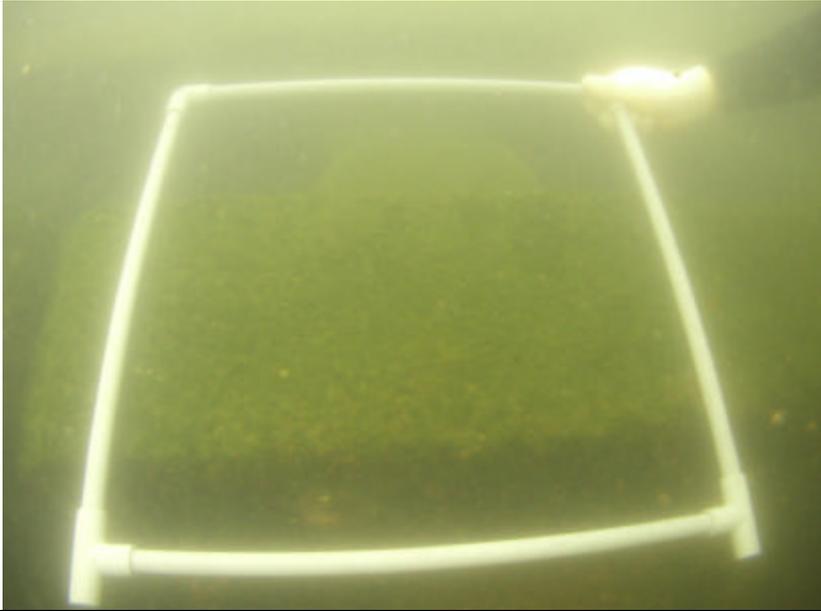
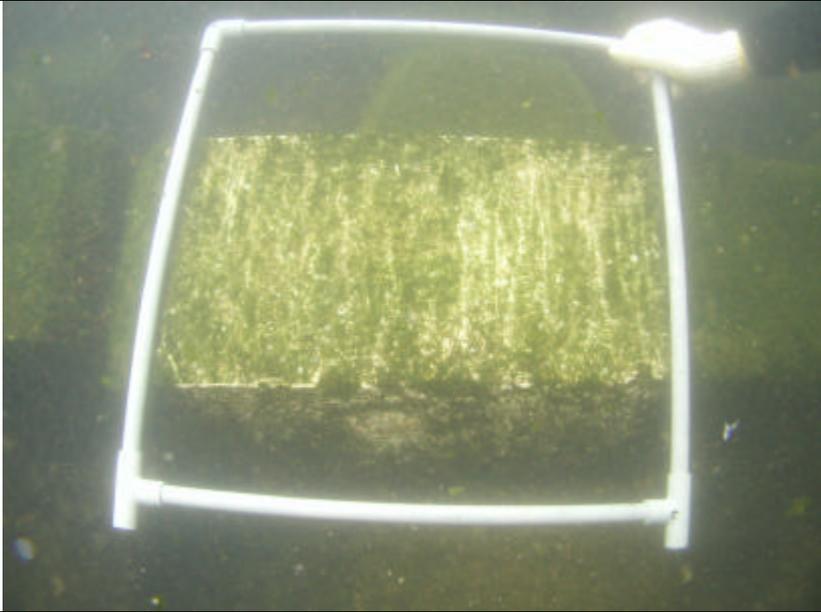
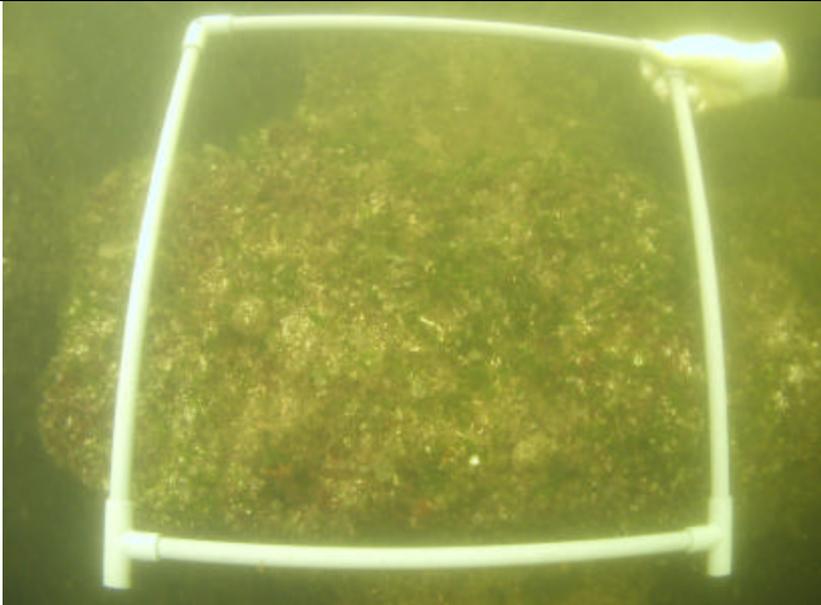
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ アナハゼ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>マダコ</p>

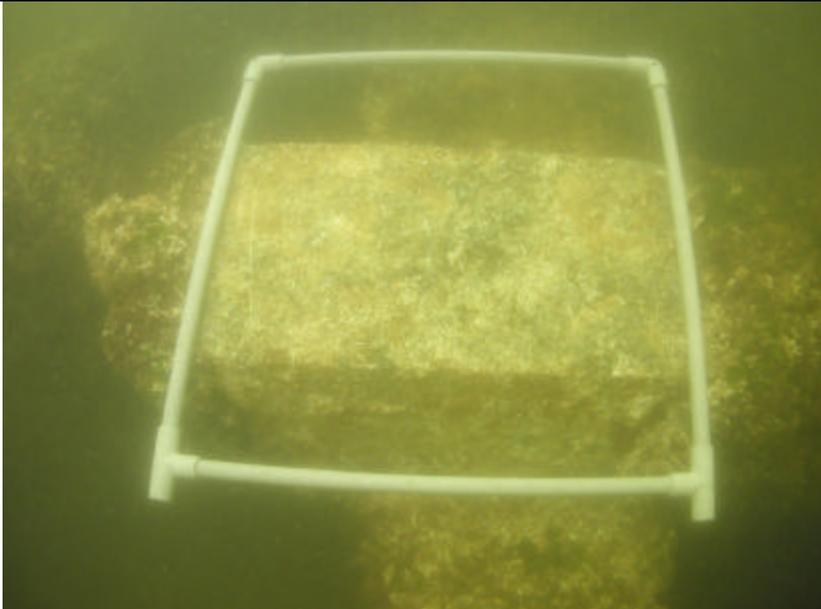
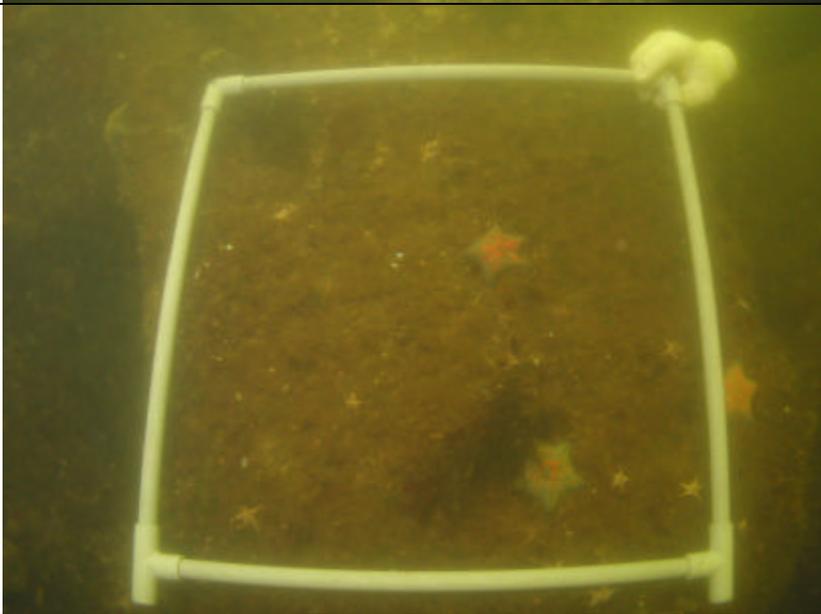
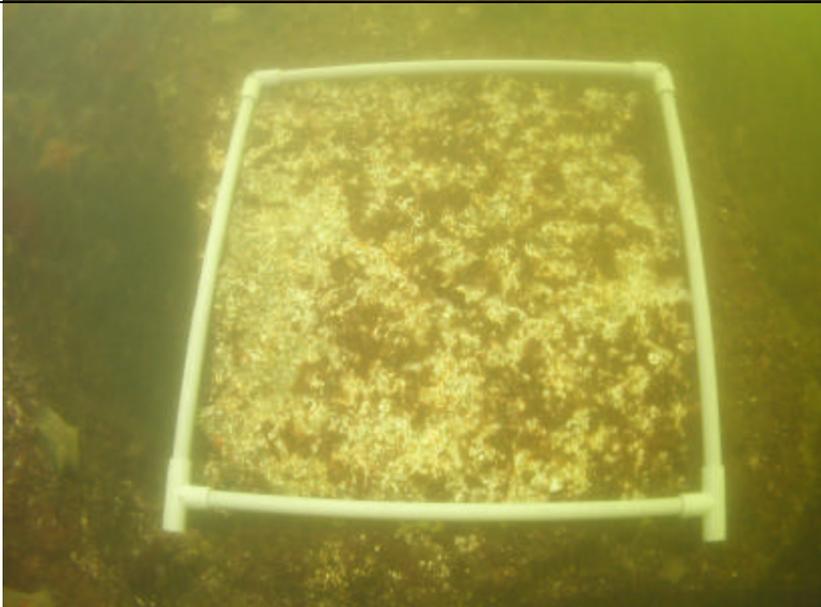
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>メバル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>ハゼ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>

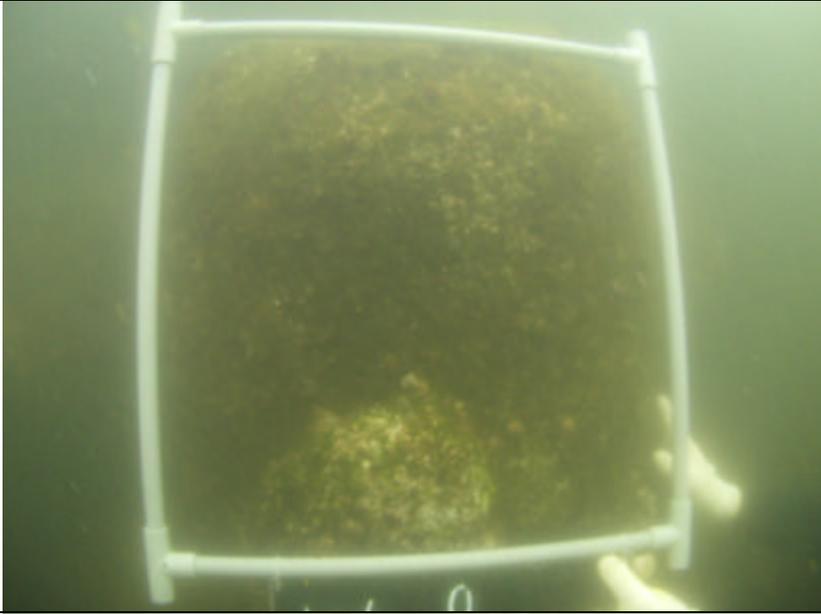
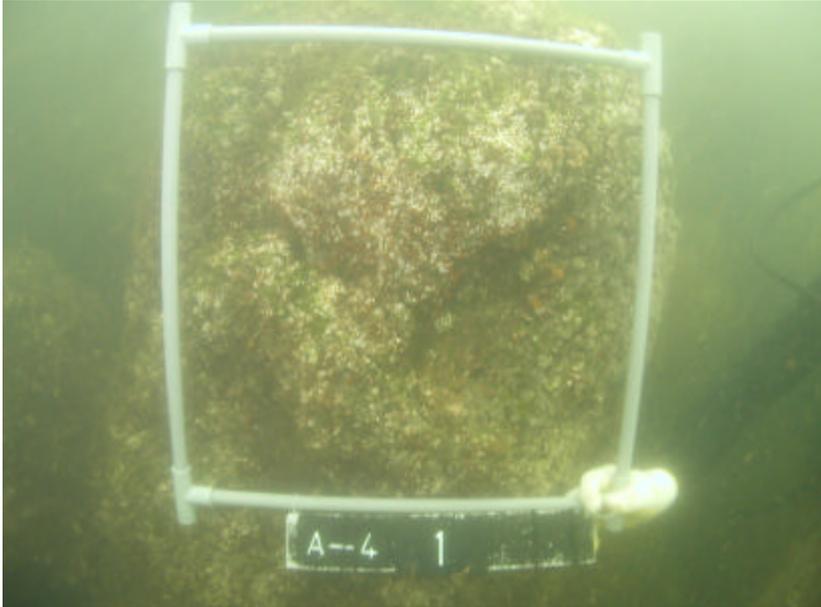
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>採取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>採取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>採取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

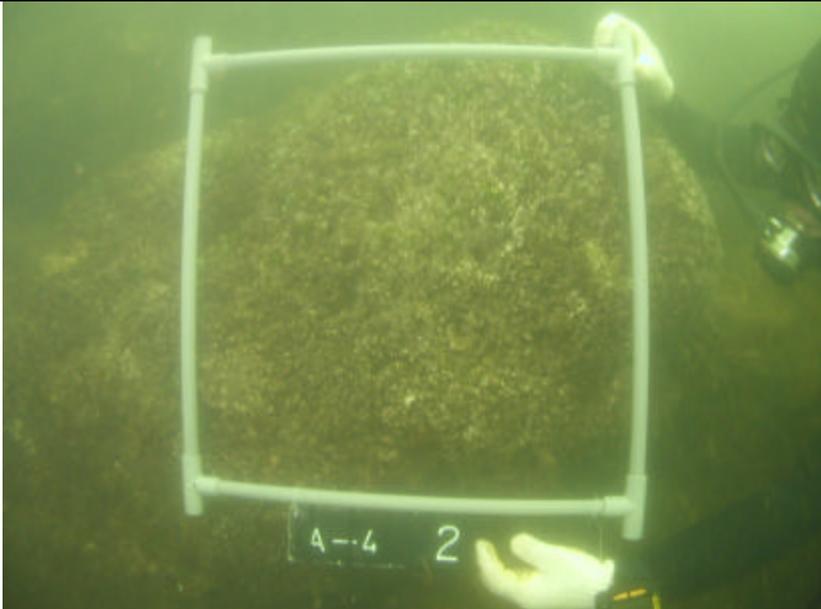
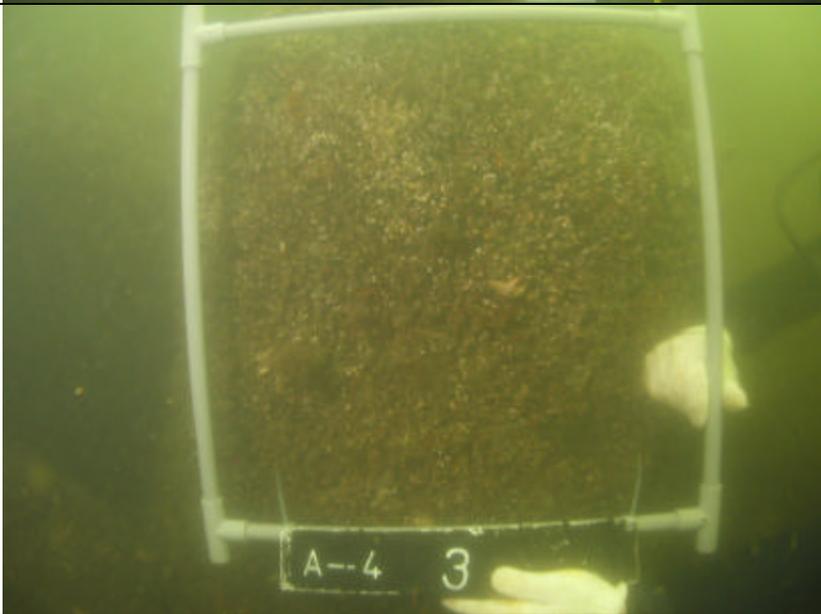
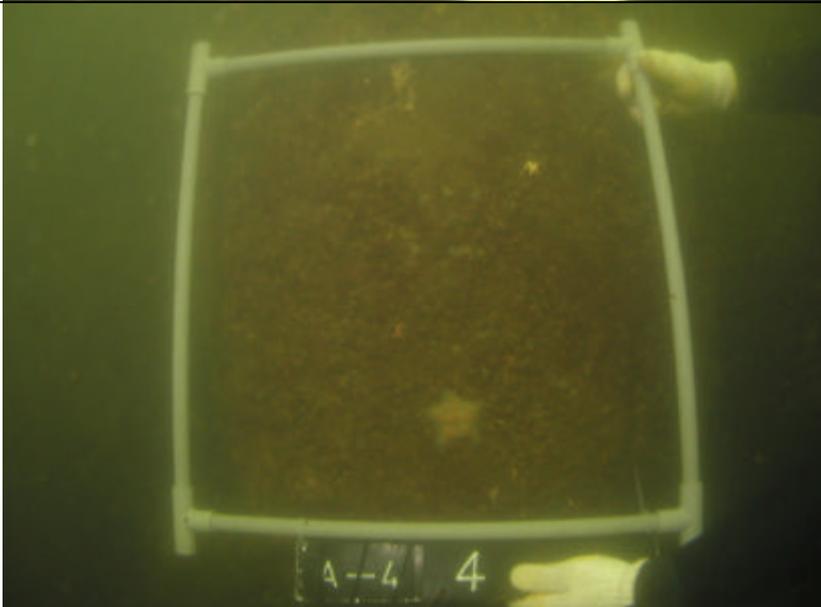
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

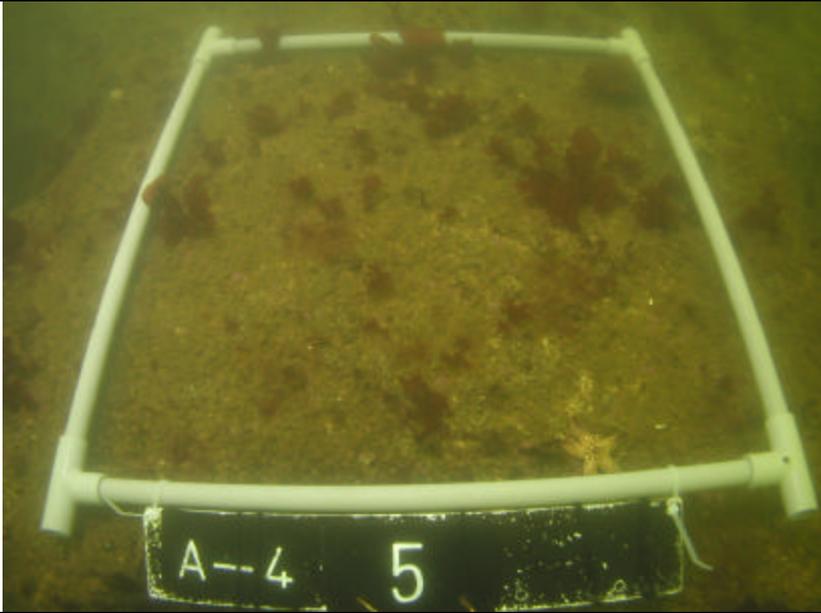
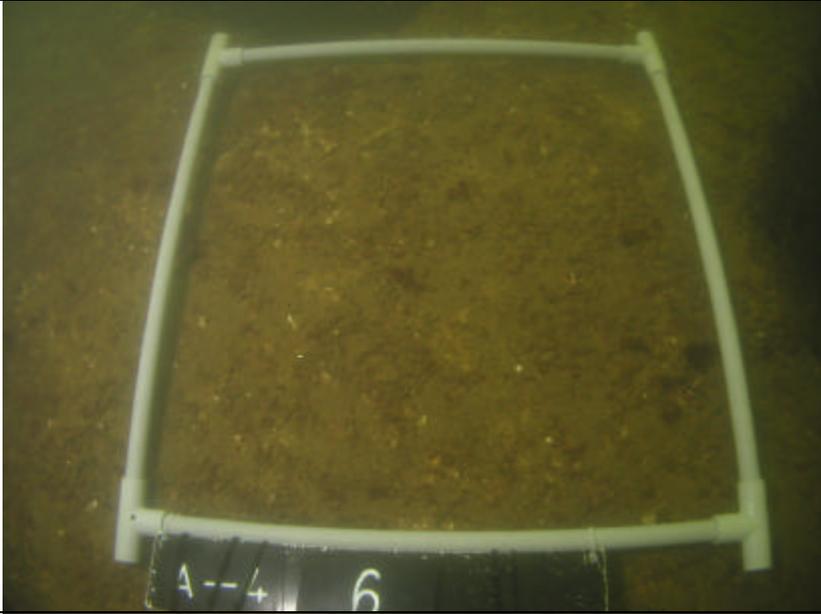
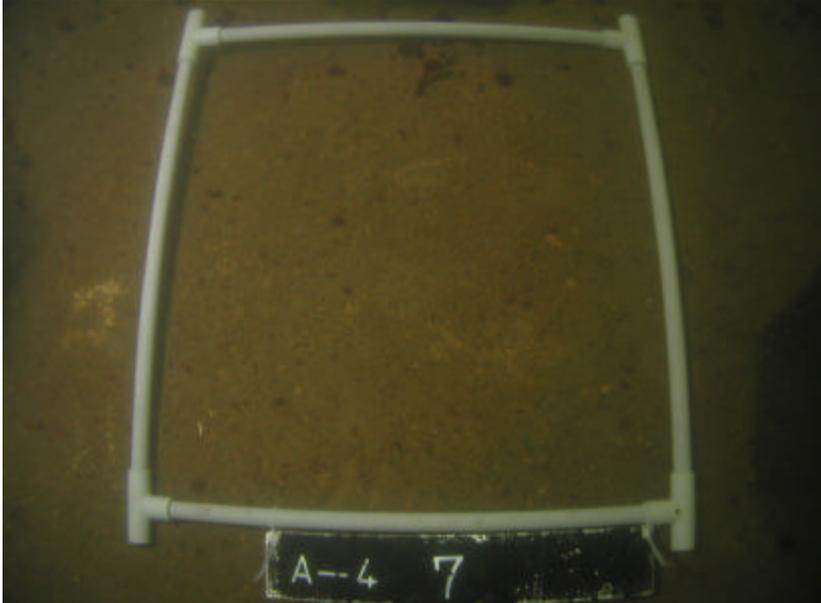
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

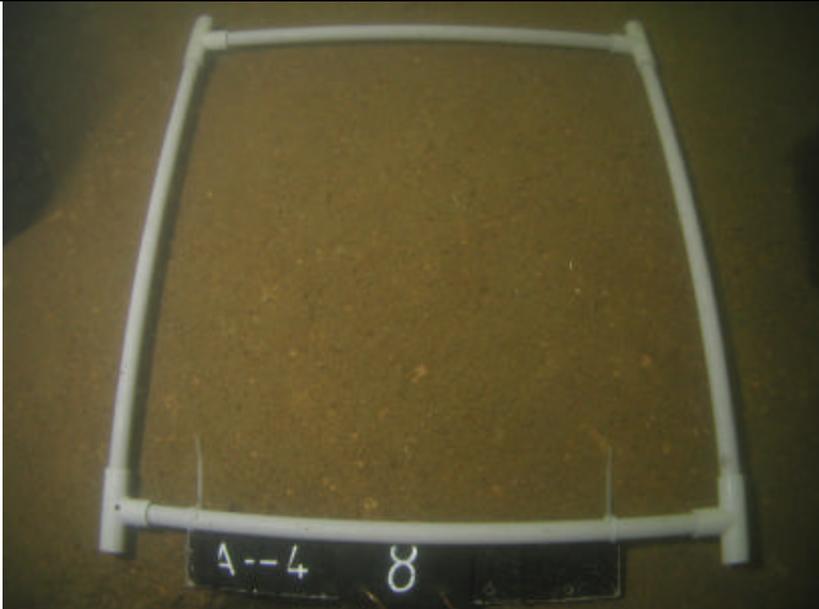
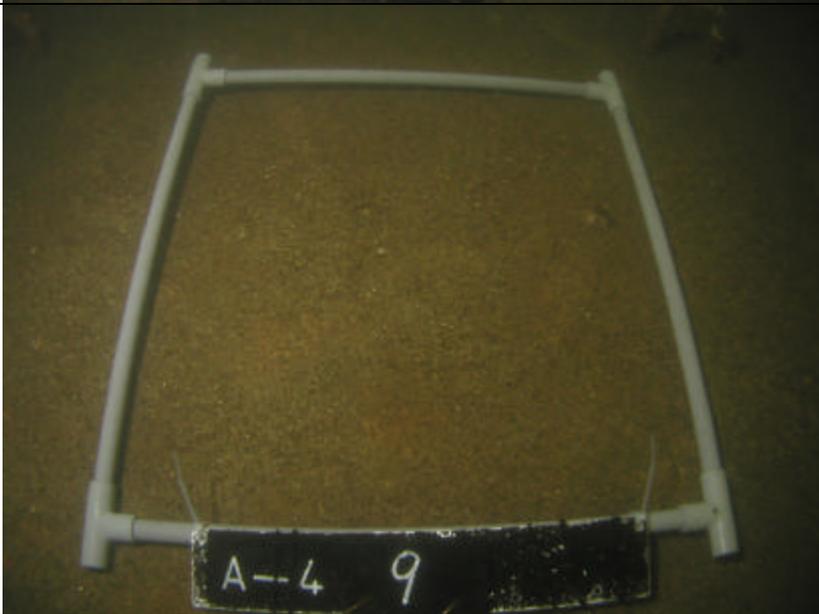
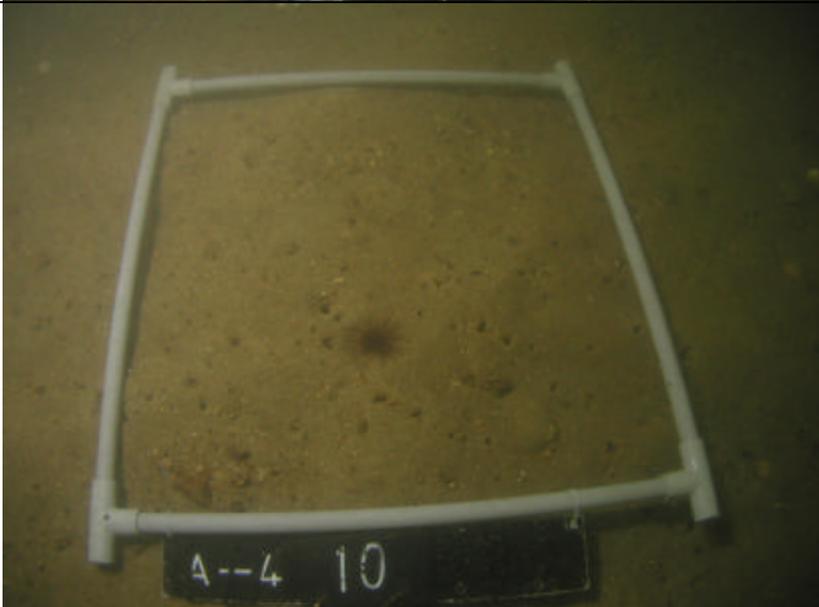
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

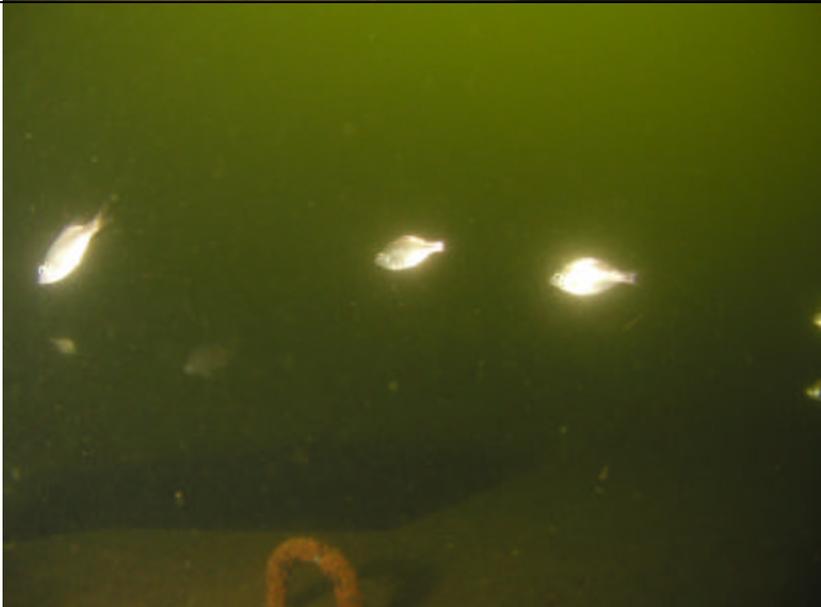
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

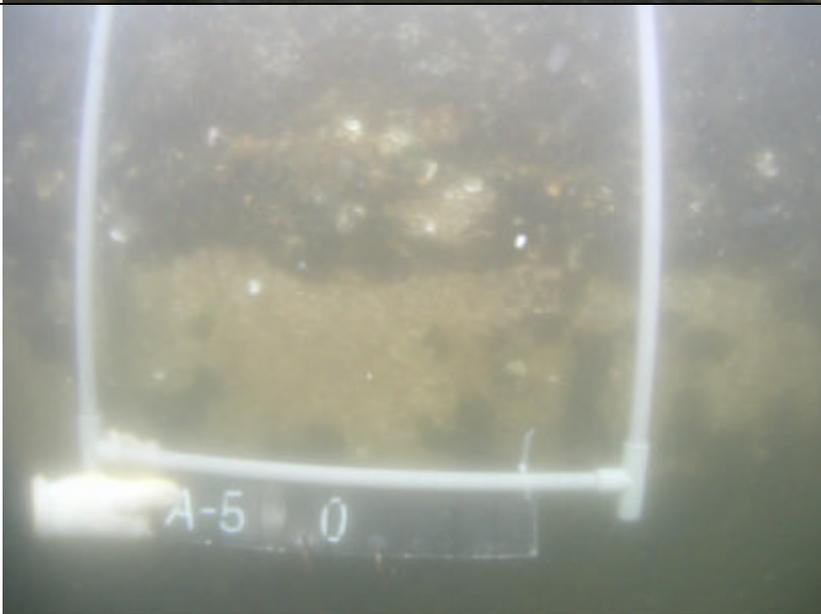
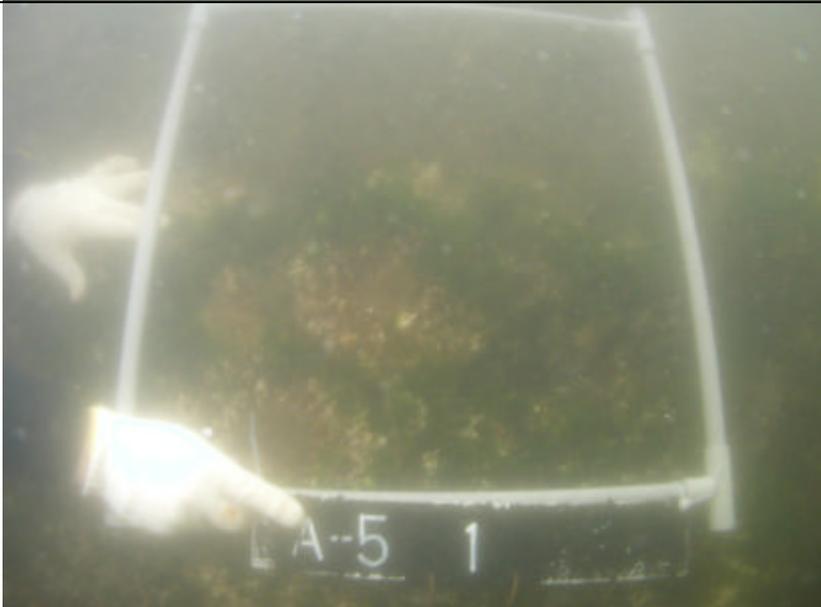
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>アイナメ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>スズメダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>

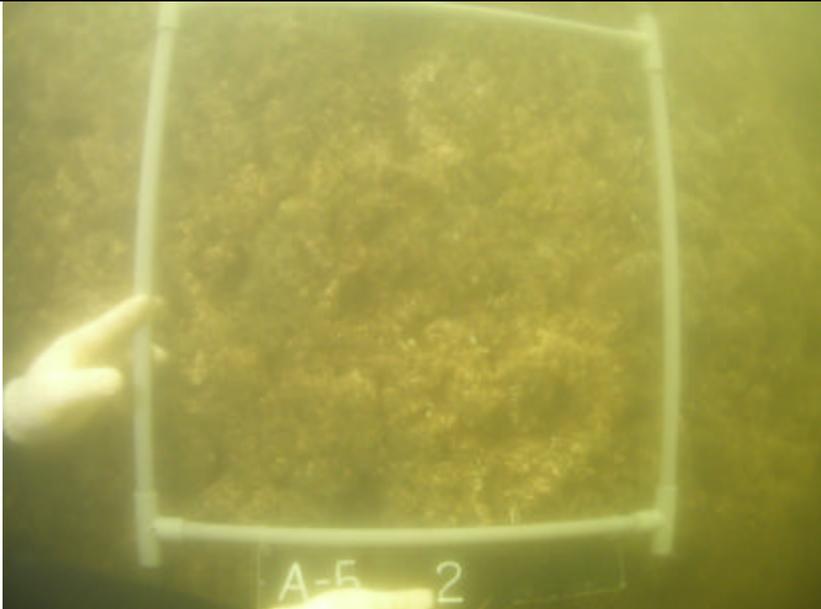
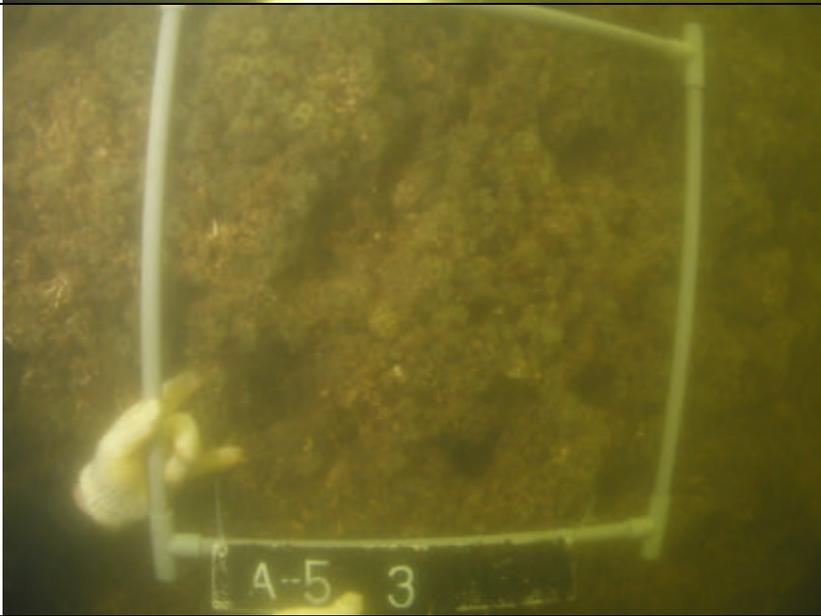
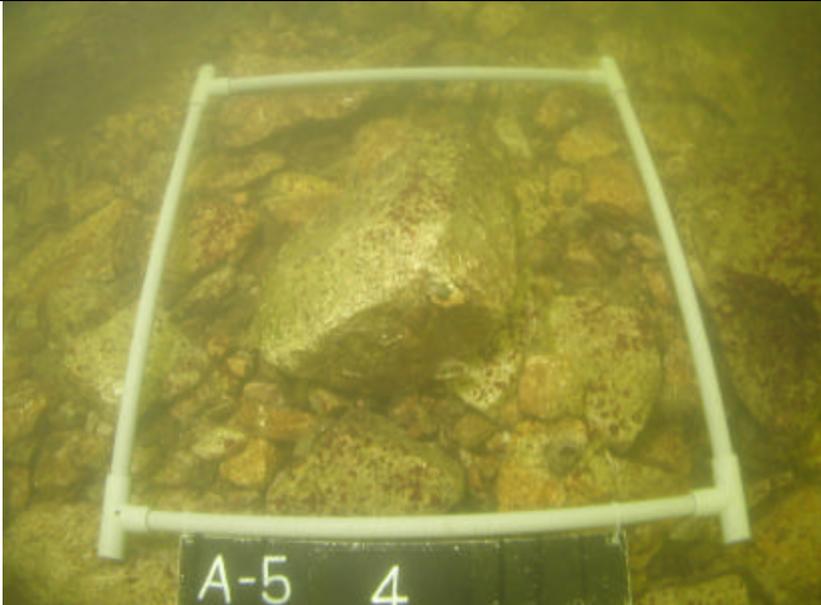
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>ササノハベラ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>モミジガイ</p>

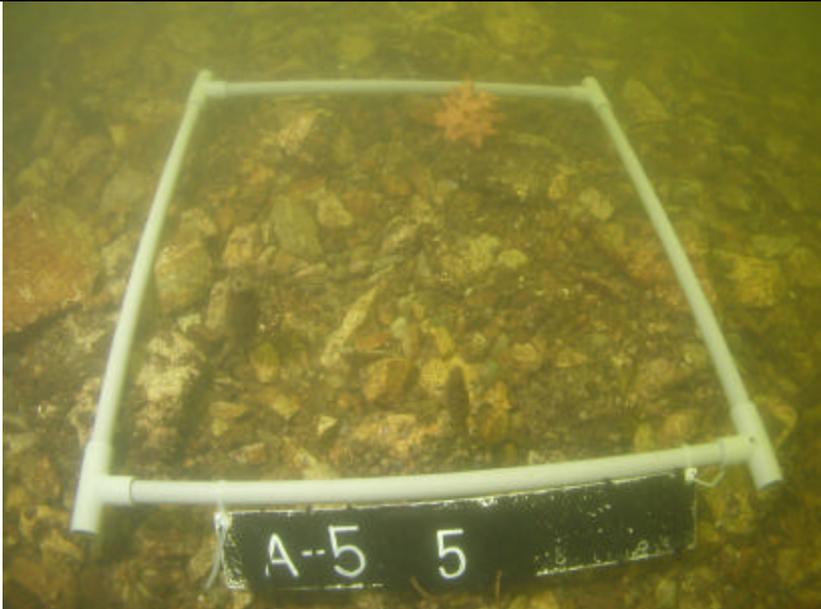
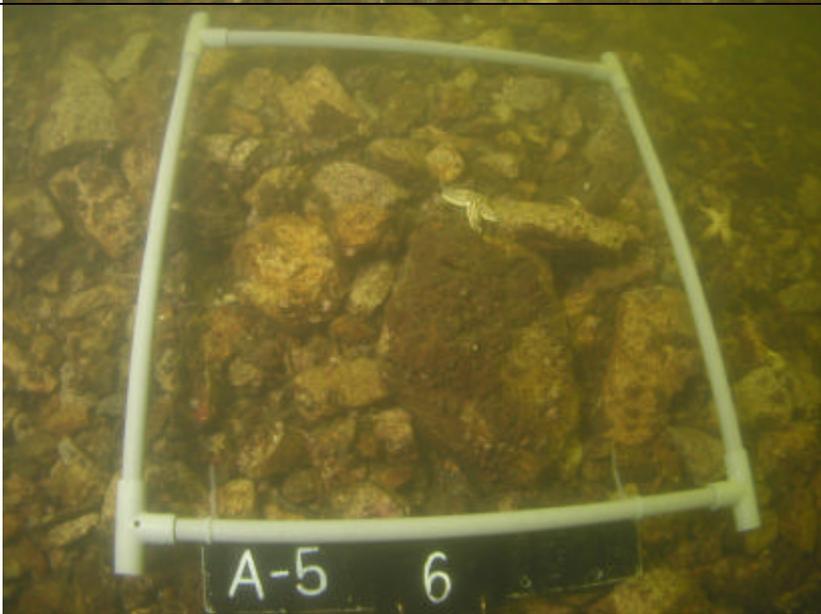
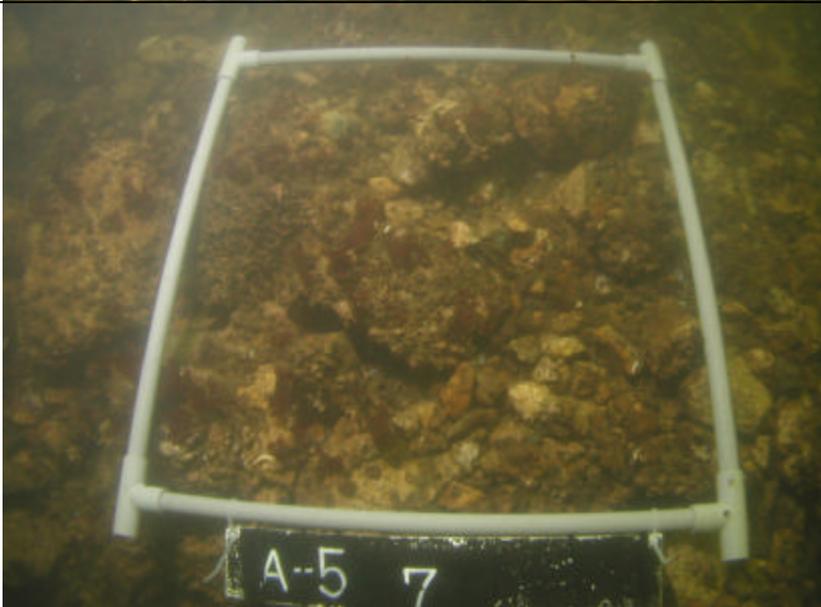
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

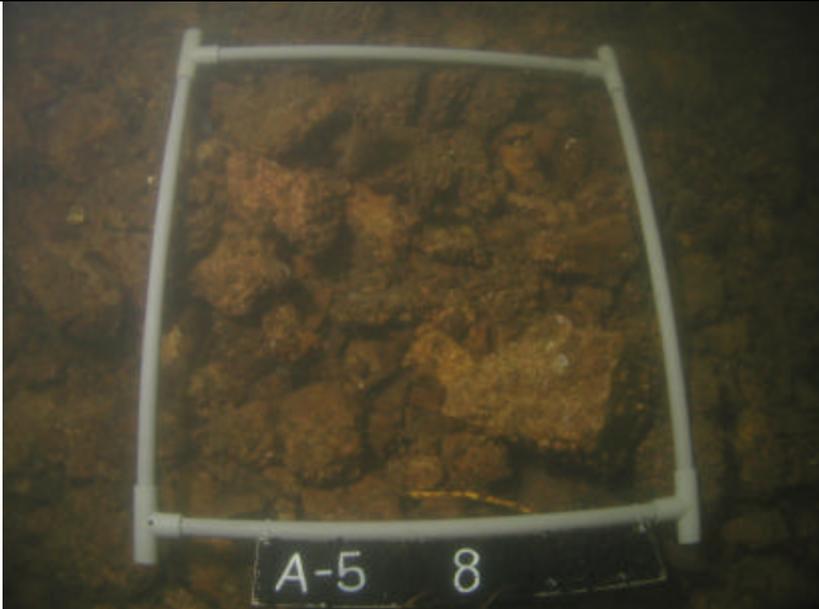
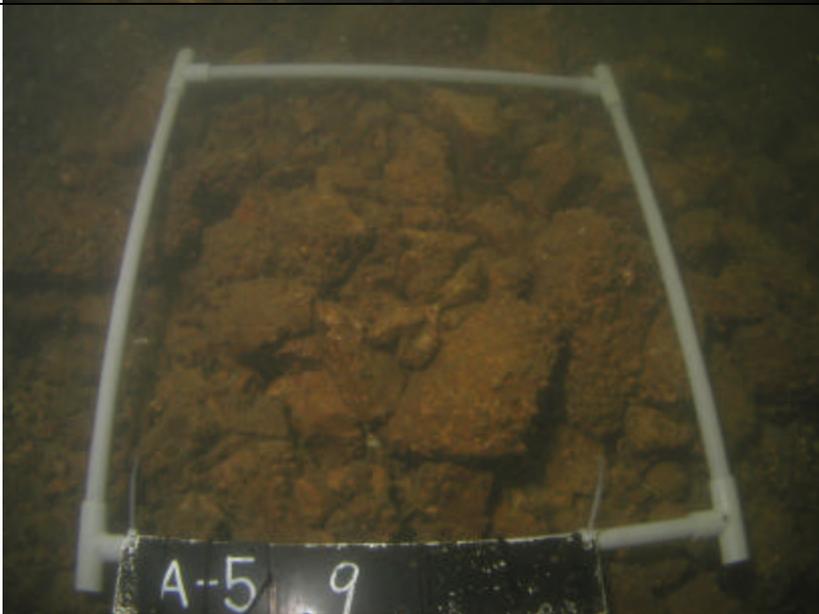
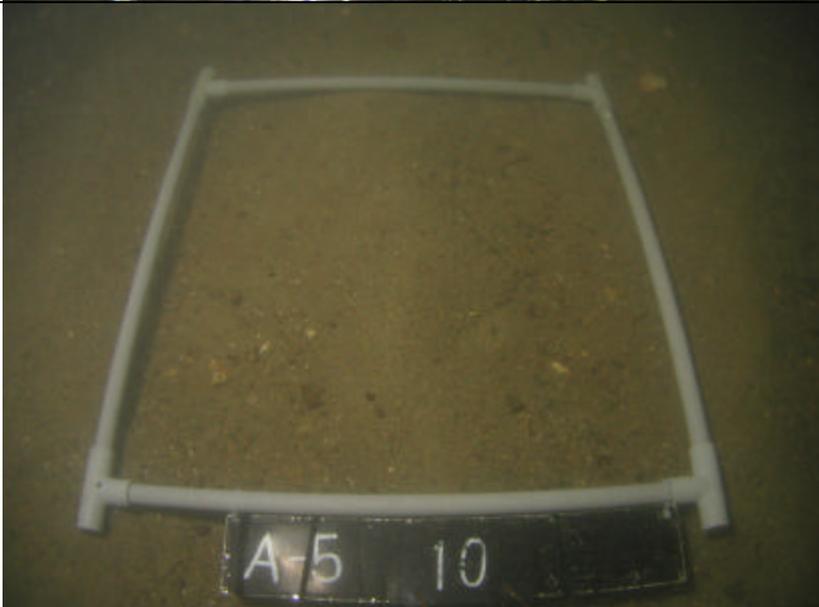
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

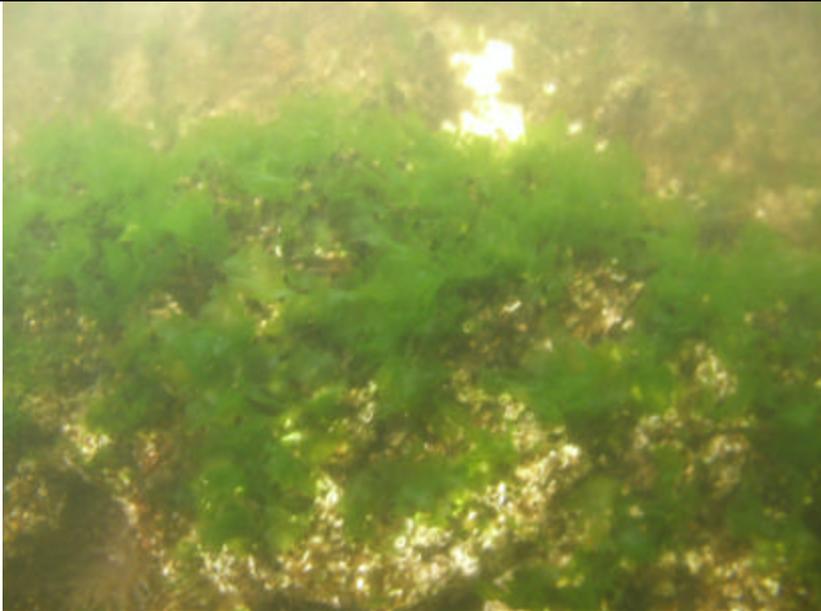
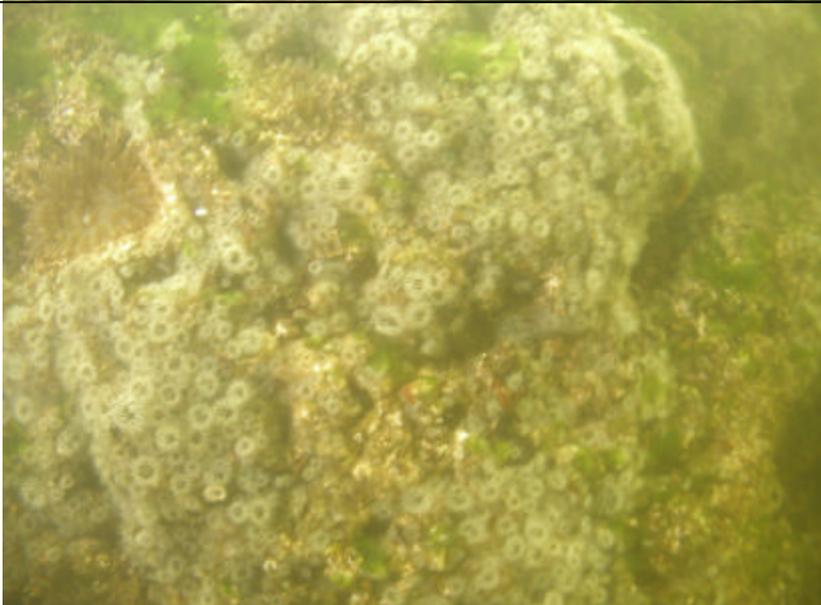
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>アオサ属</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>イボニシ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科 チグレイソギンチャク</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ワタリガニ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>カレイ科</p>

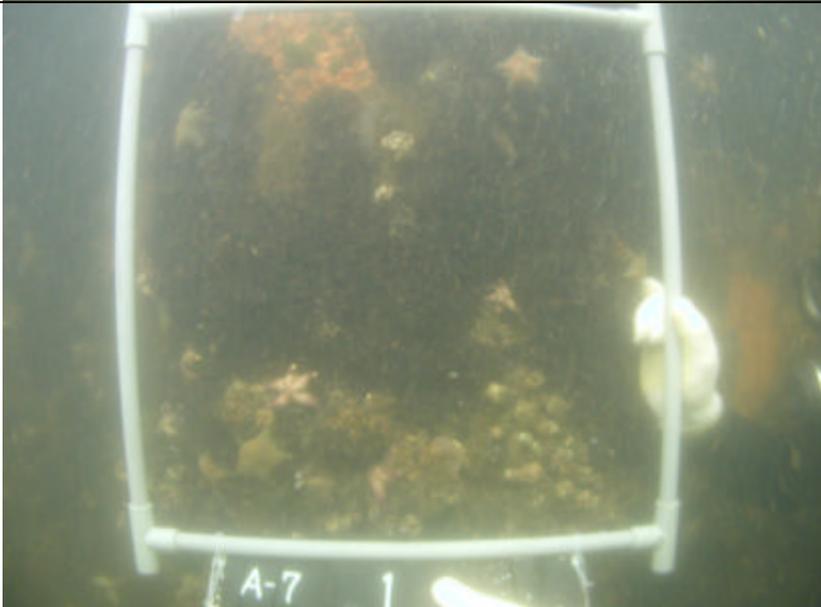
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>キュウセン ササノハベラ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>マダコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>サザエ</p>

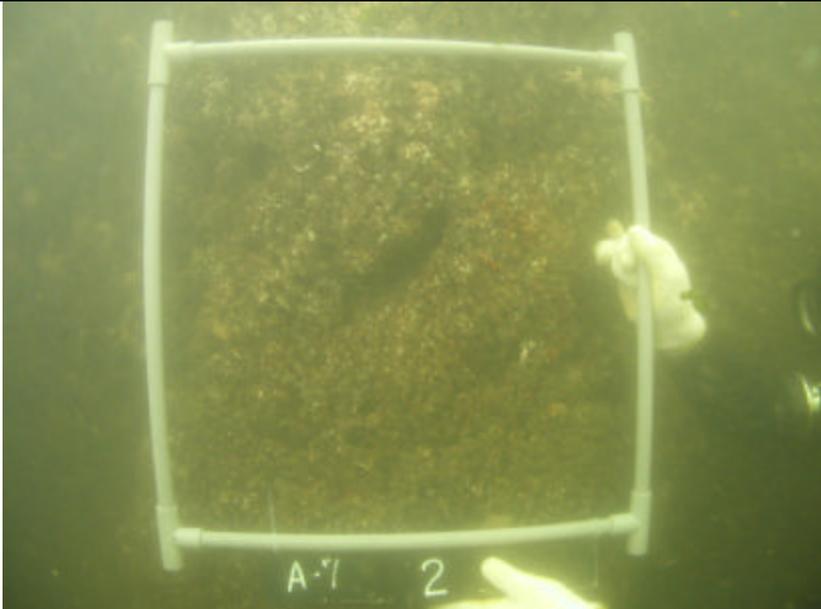
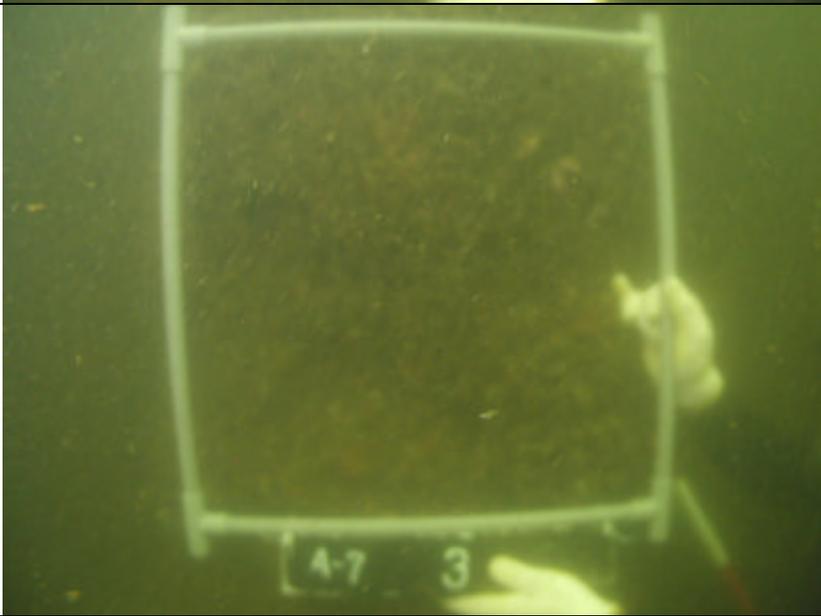
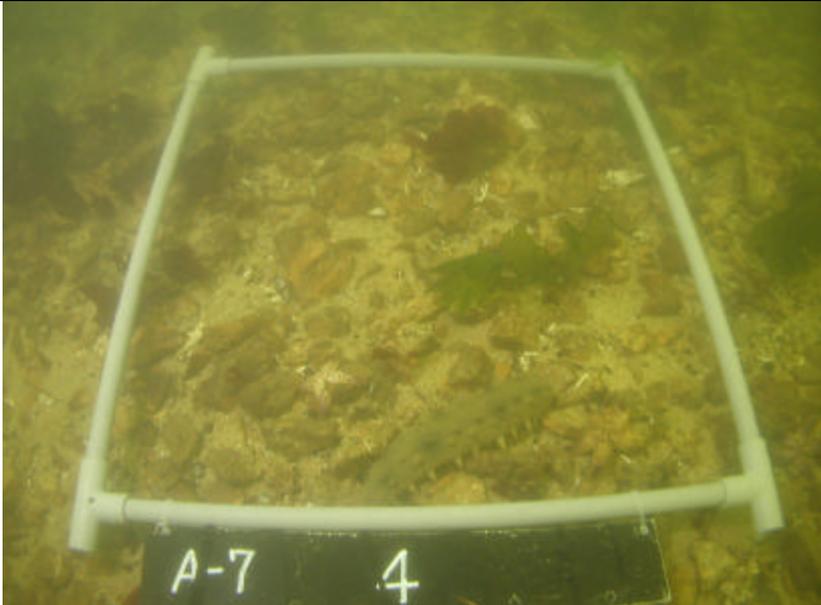
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>アナハゼ</p>
--	--	--

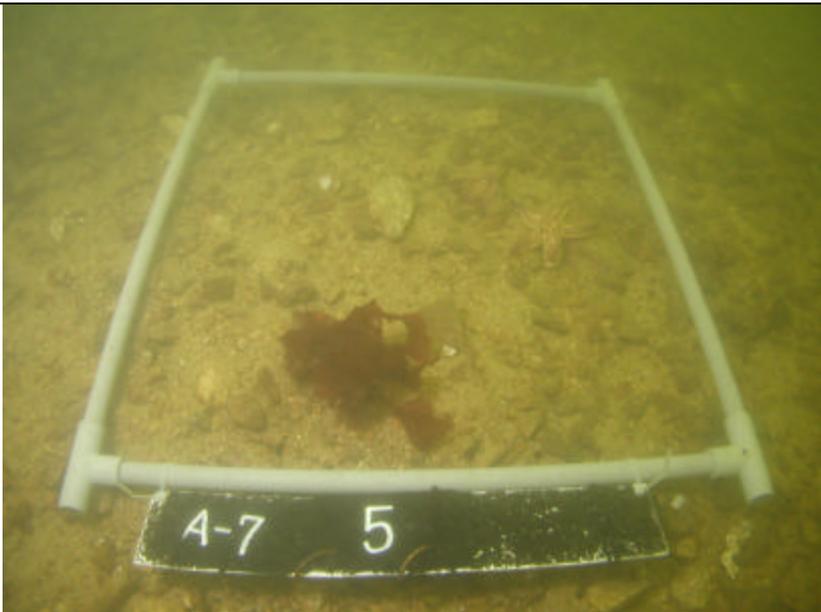
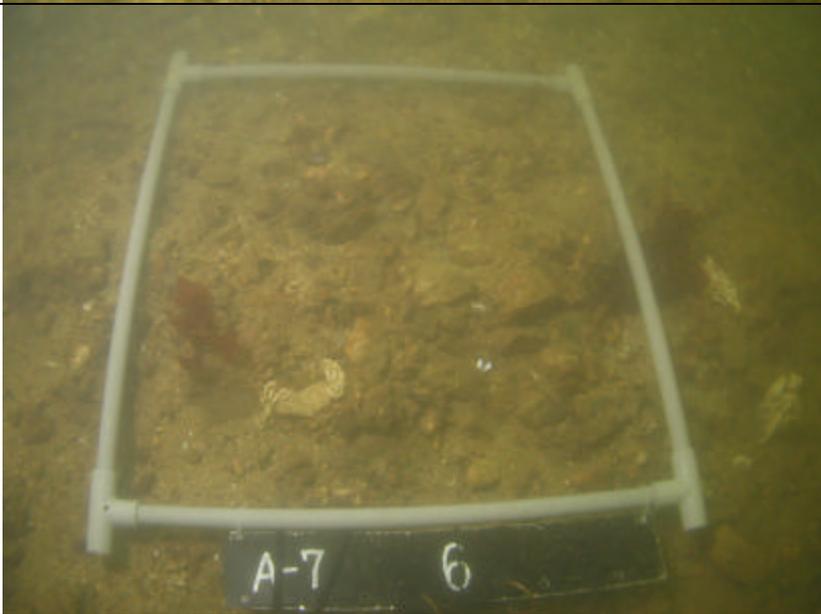
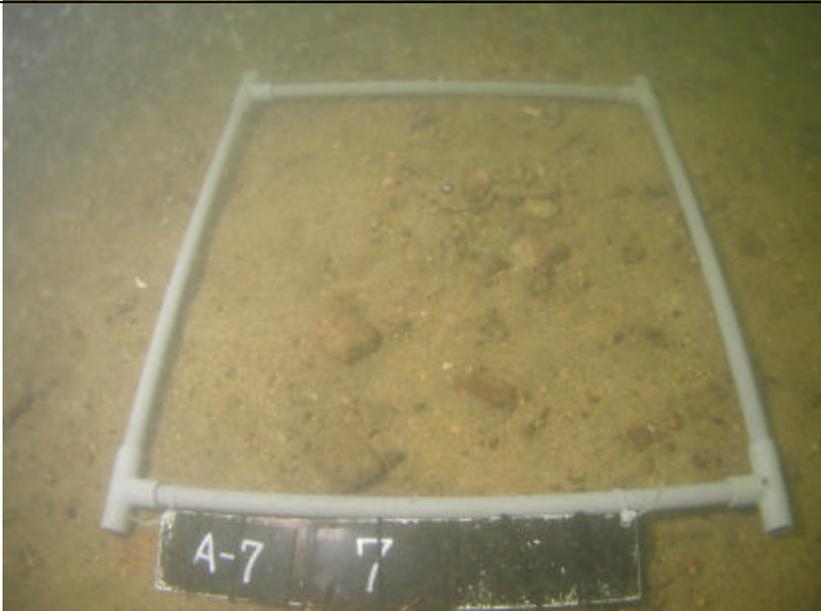
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

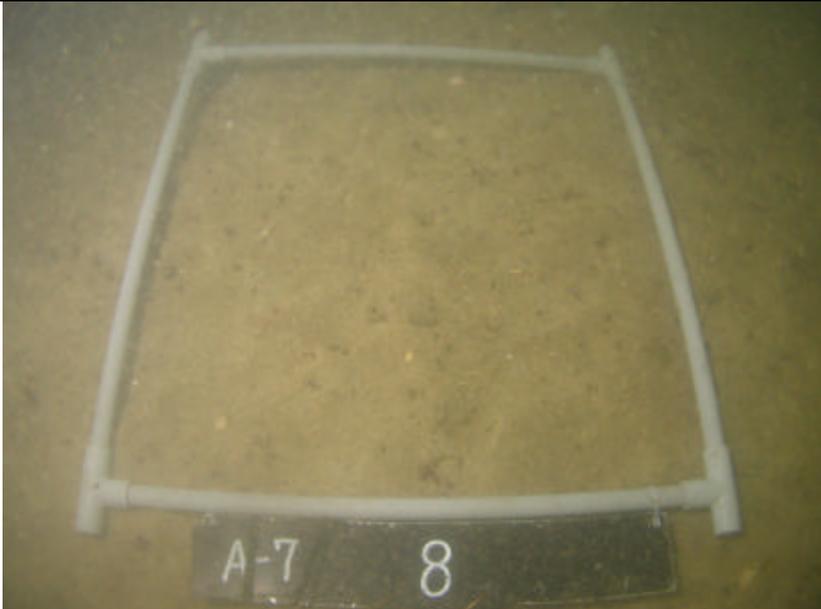
調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>アオサ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>キヒトデ イトマキヒトデ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

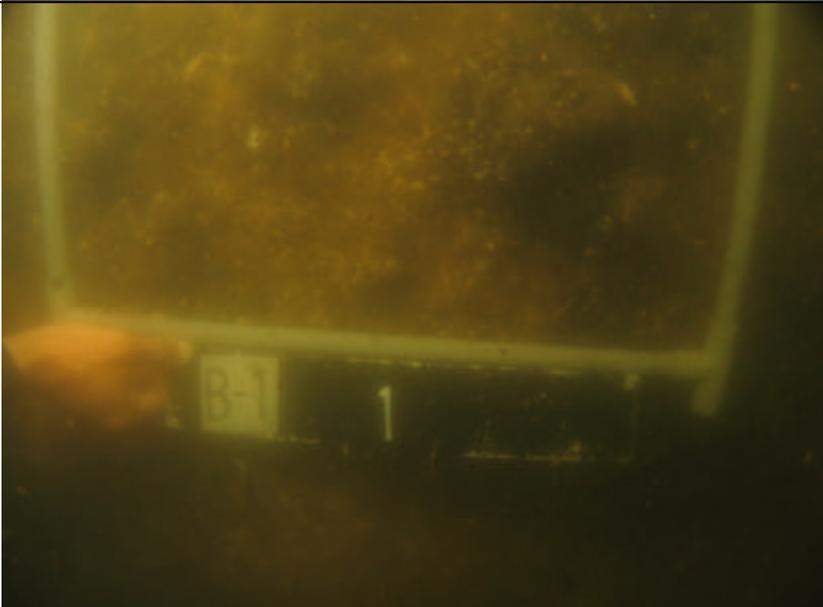
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>レイシガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

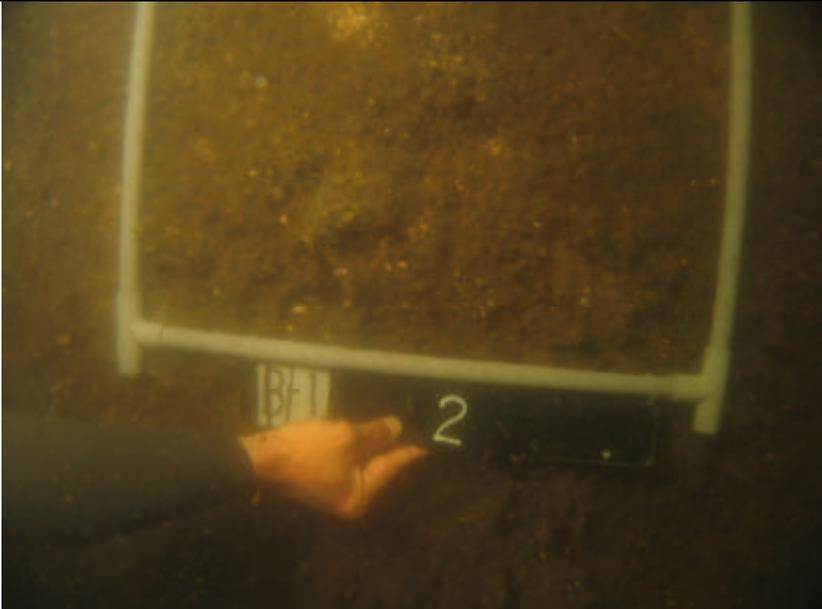
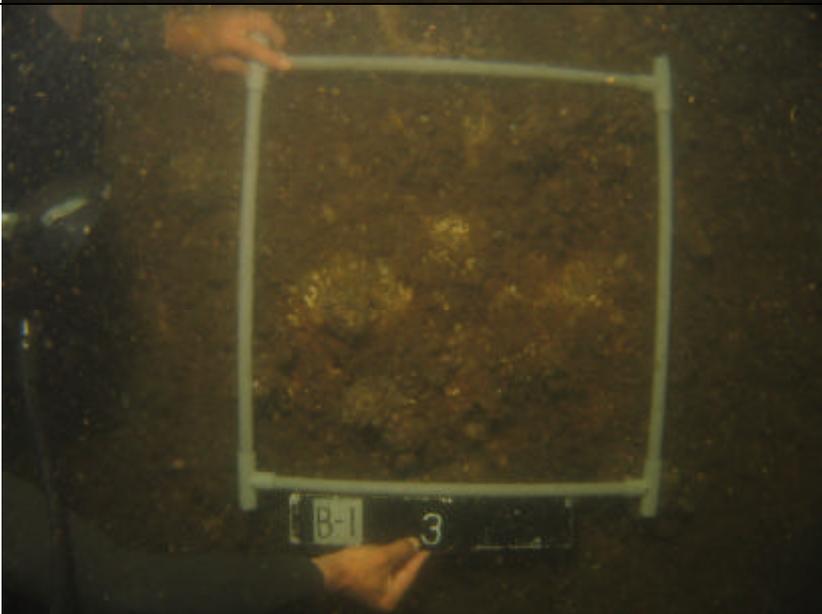
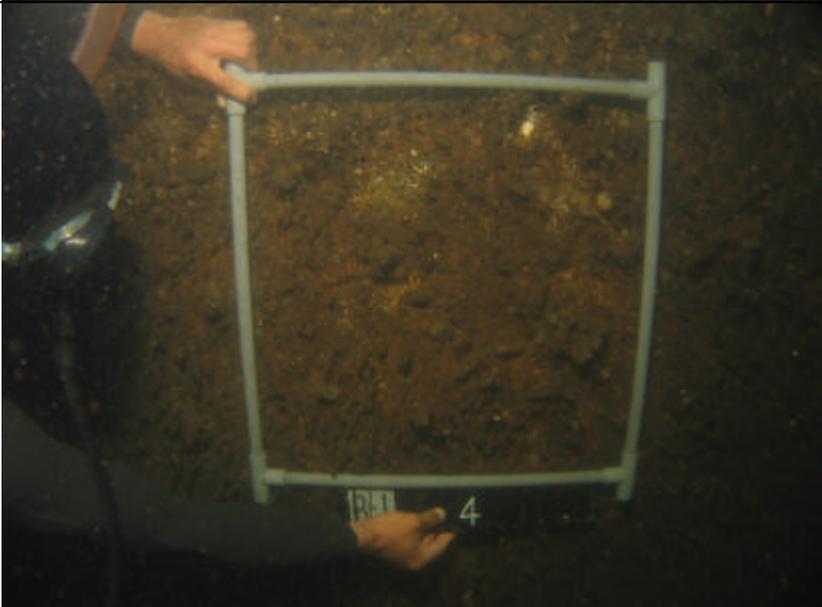
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マダコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>アナハゼ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 4 日

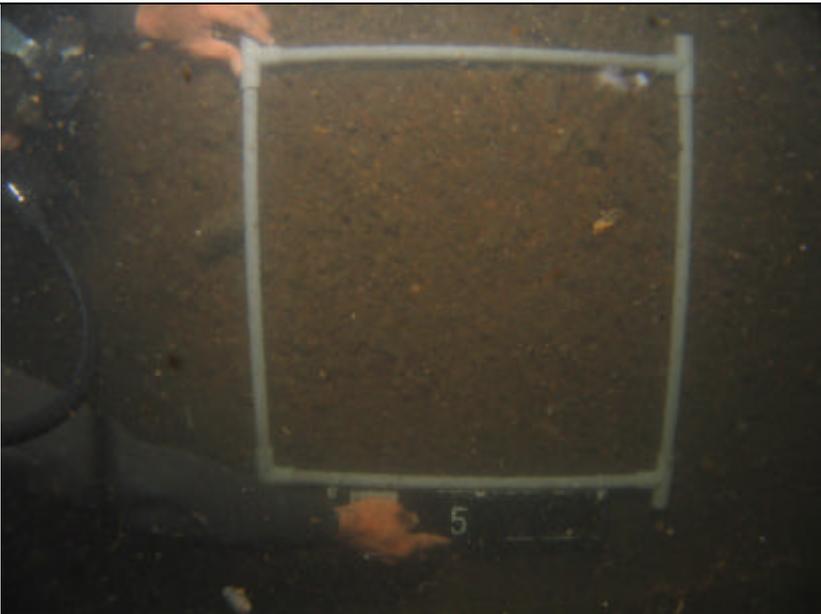
B . 尼崎沖処分場
(平成 19 年 8 月 6 日調査)

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

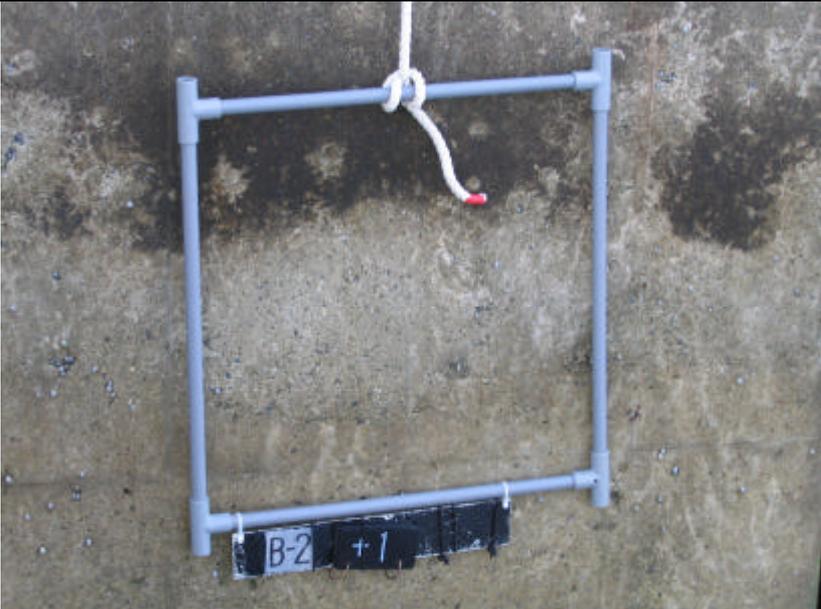
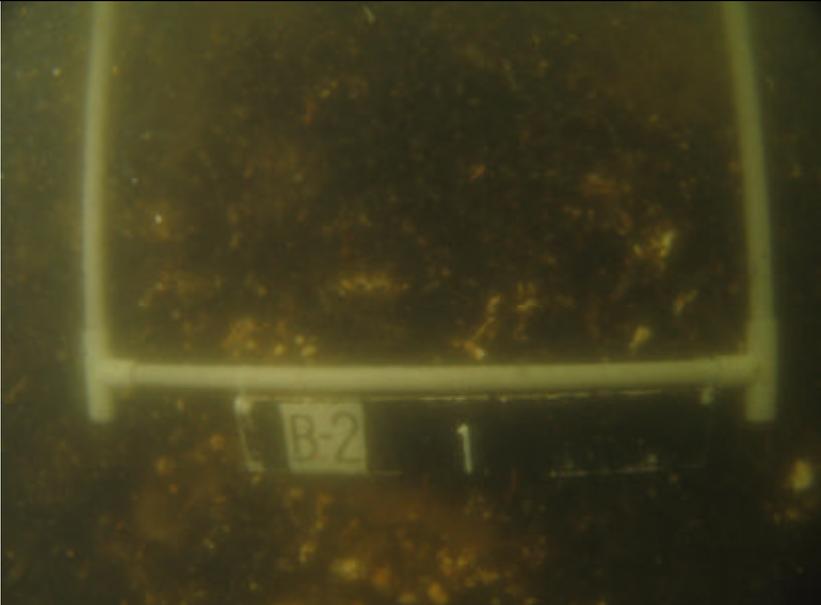
調査日：平成 19 年 8 月 6 日

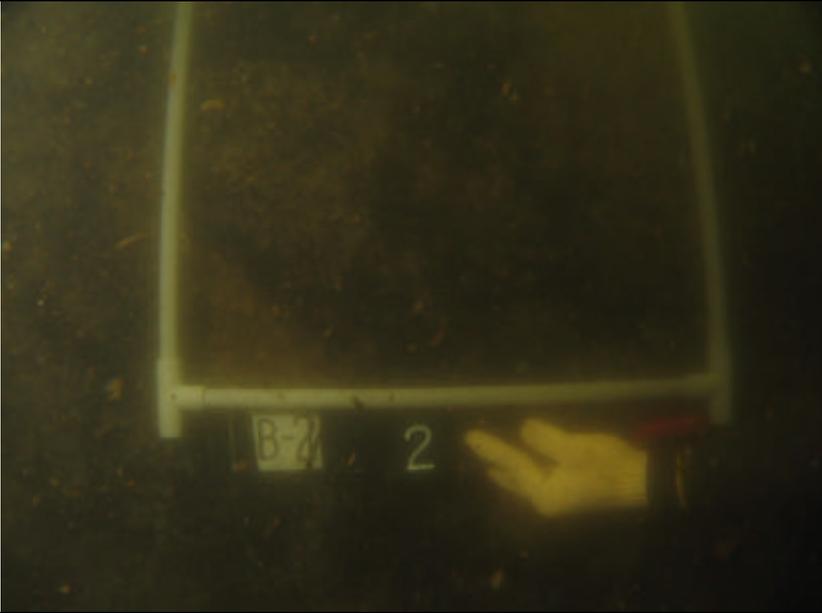
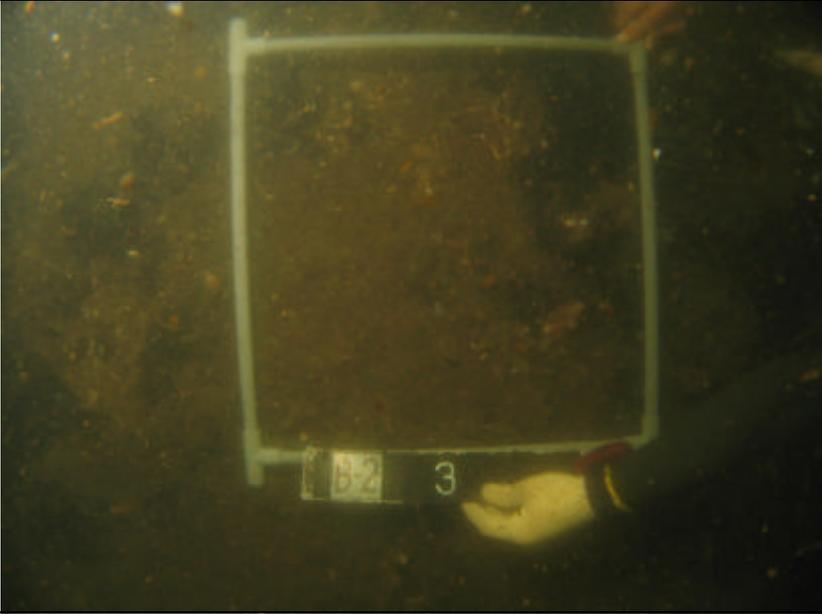
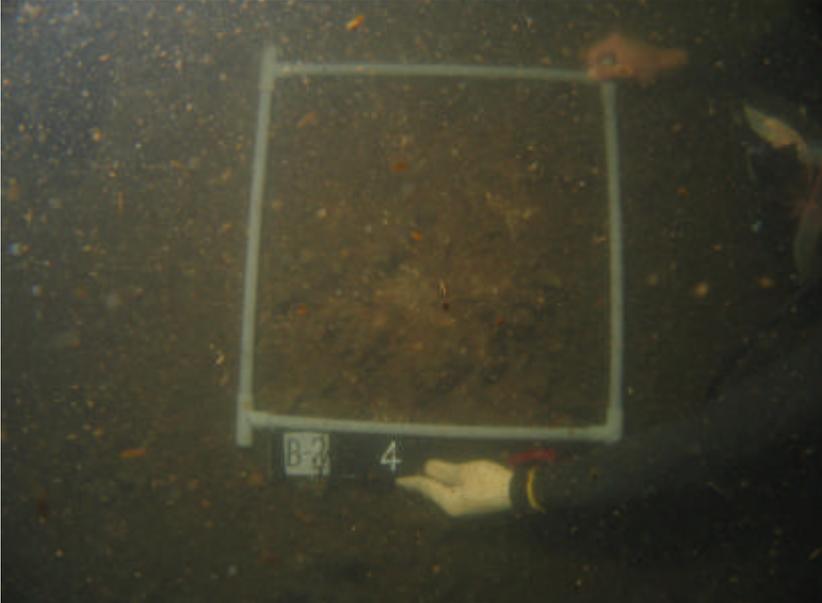
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 6 日

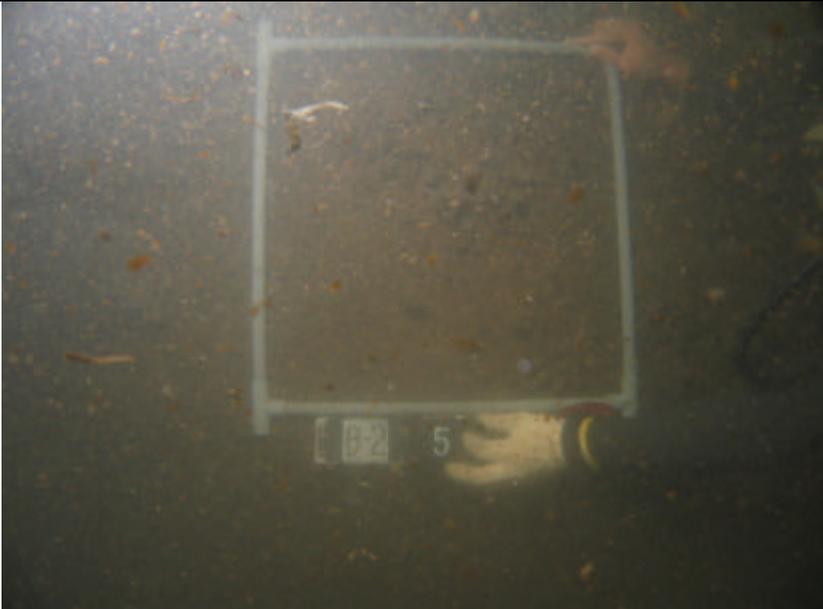
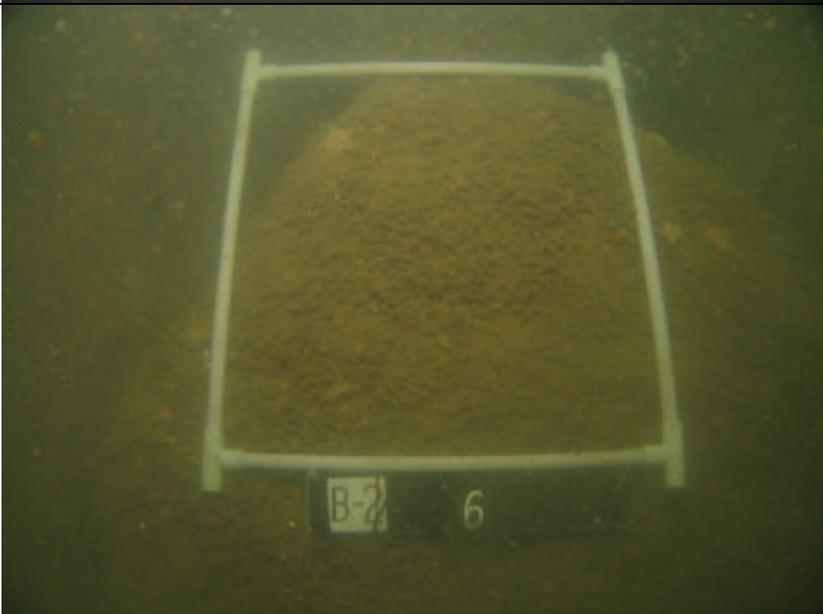
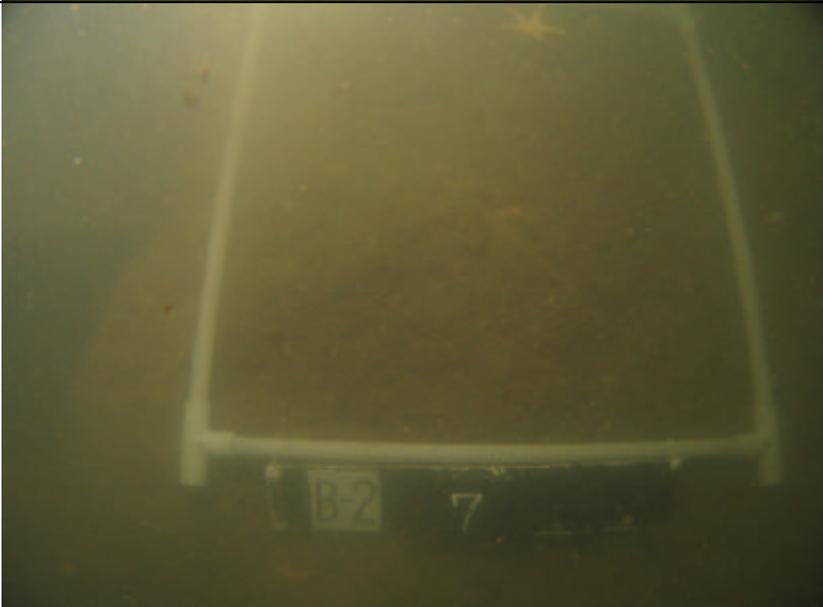
	<p>生物調査</p> <p>調査点B - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
--	--

調査日：平成 19 年 8 月 6 日

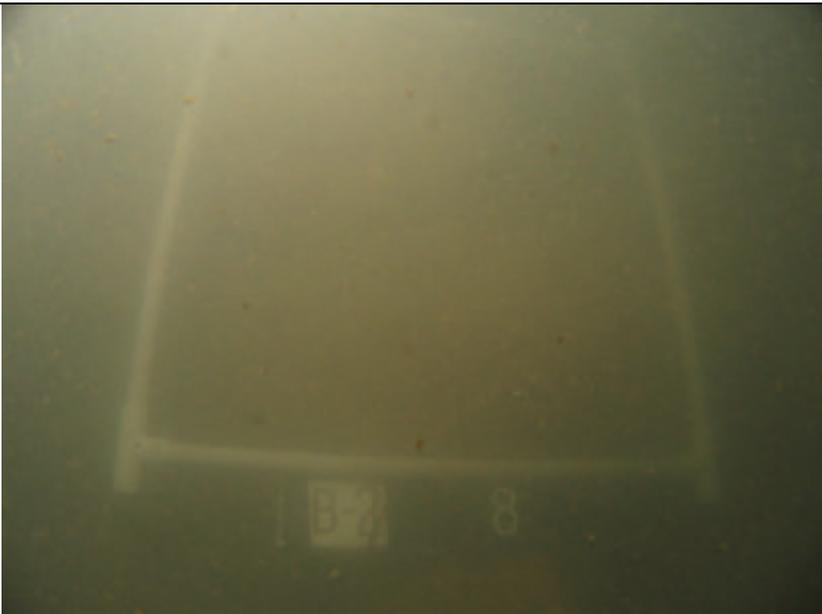
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

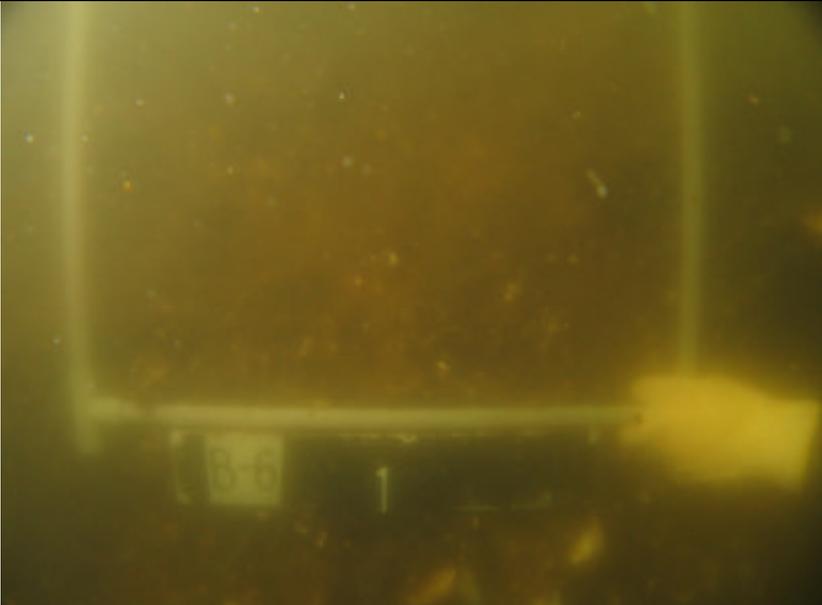
調査日：平成 19 年 8 月 6 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

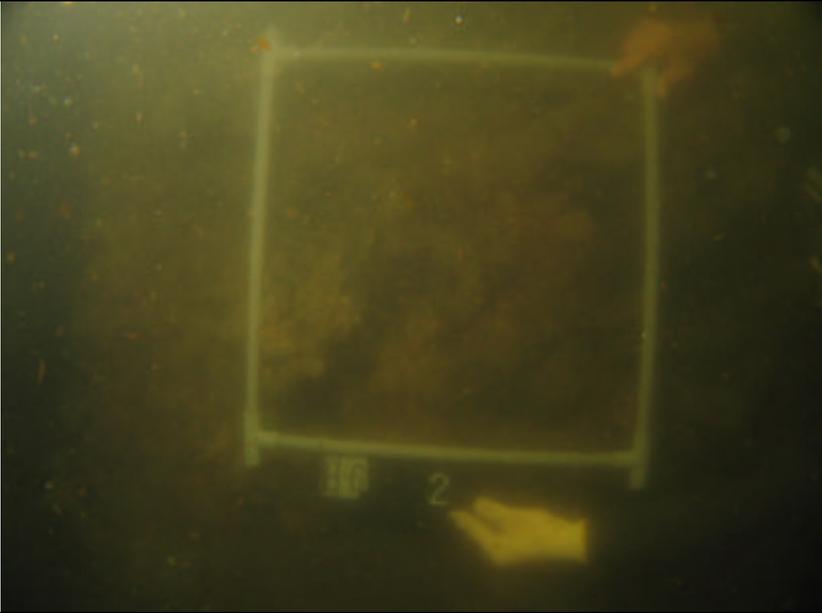
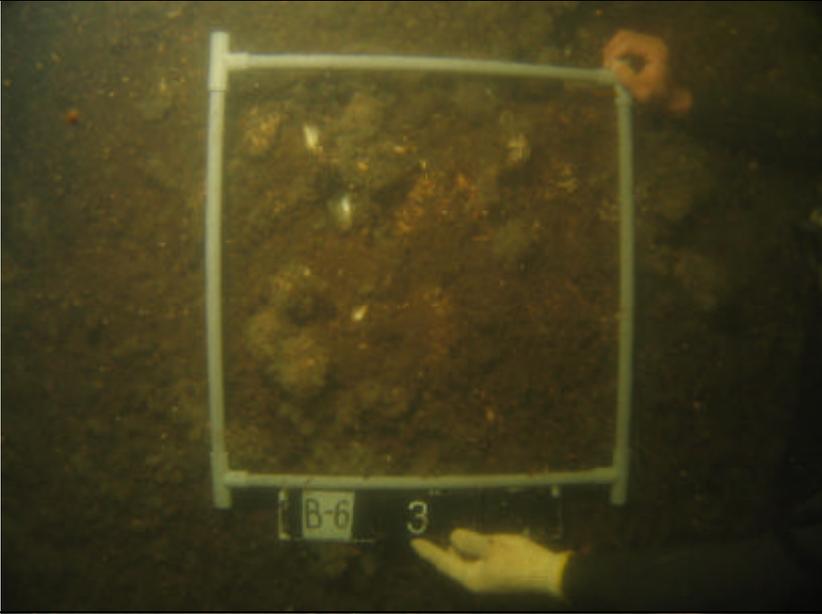
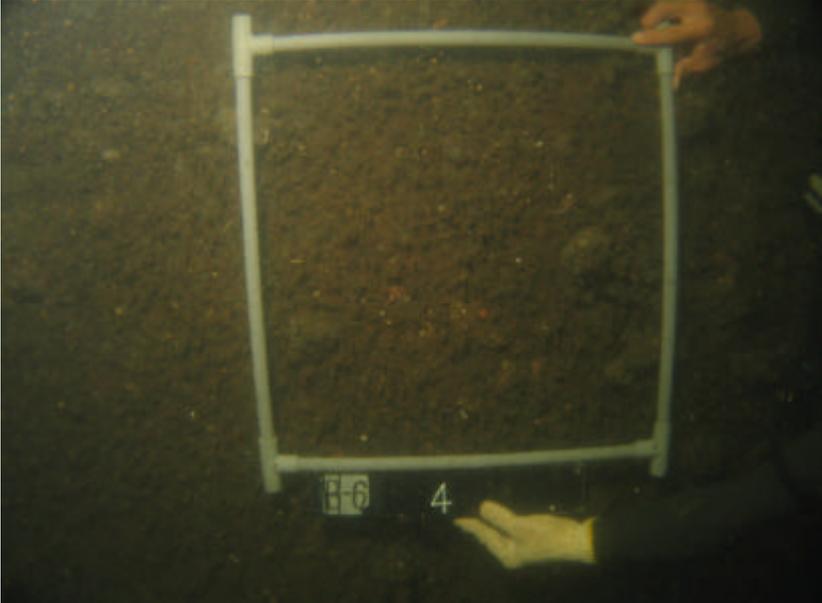
調査日：平成 19 年 8 月 6 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点B - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
--	--	--	--

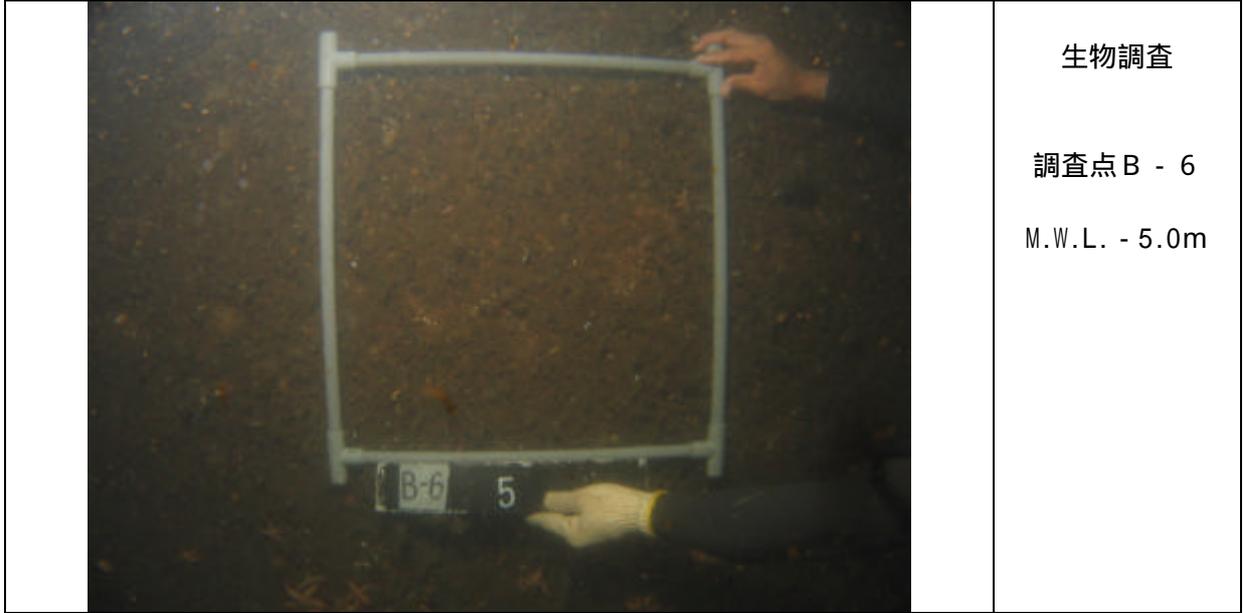
調査日：平成 19 年 8 月 6 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 6 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 6 日

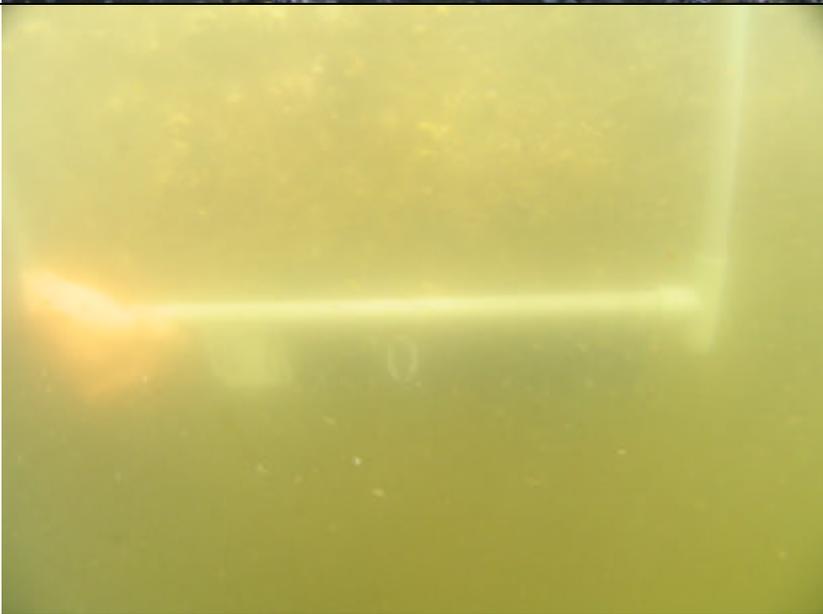
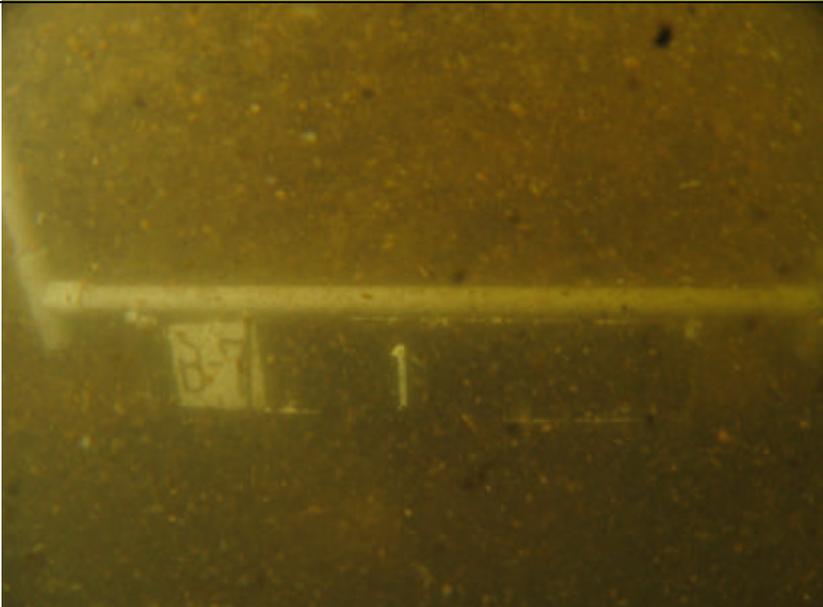


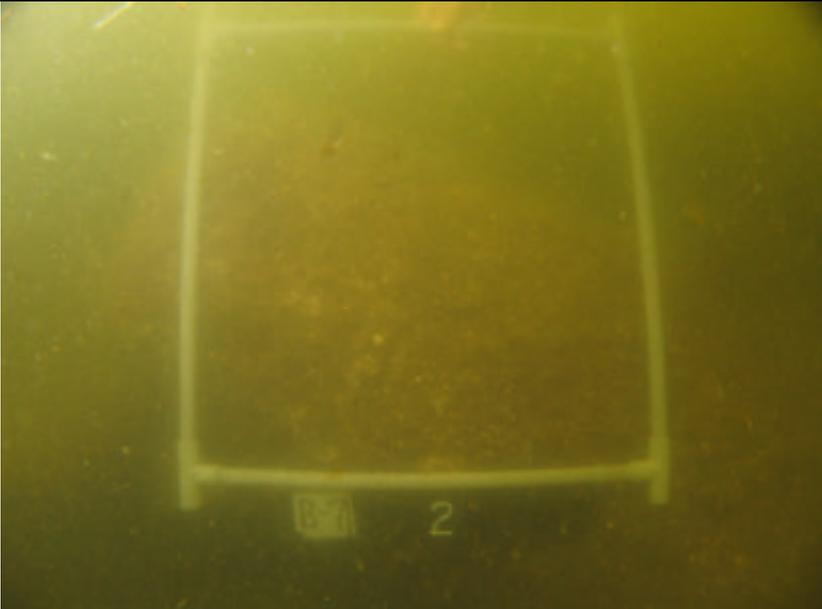
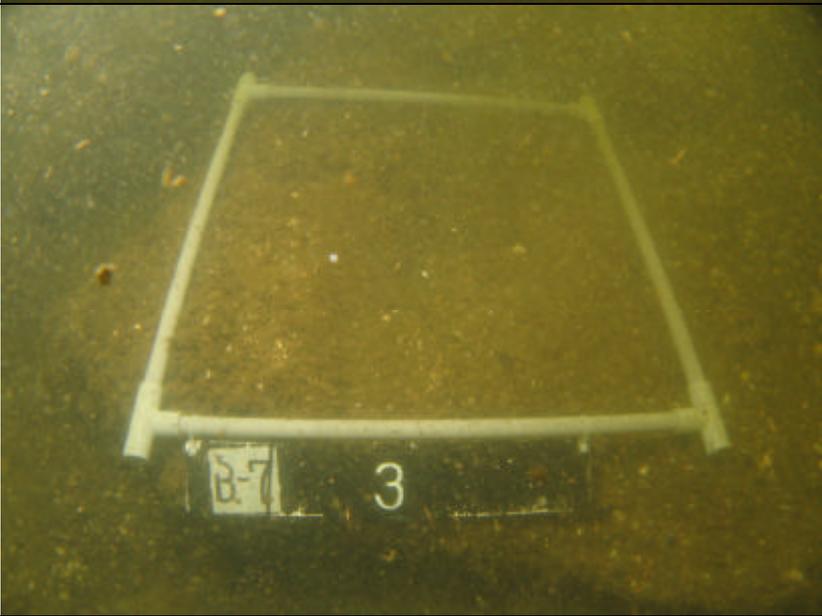
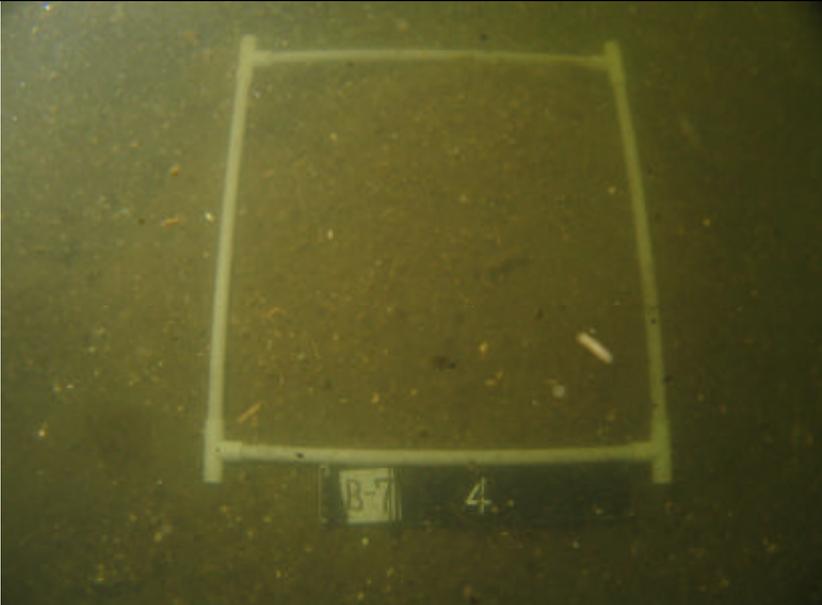
生物調査

調査点 B - 6

M.W.L. - 5.0m

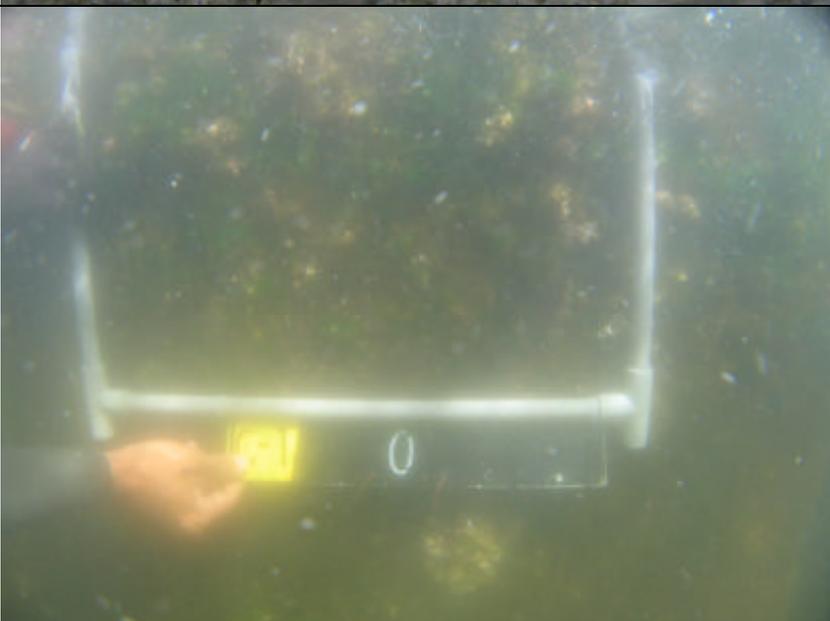
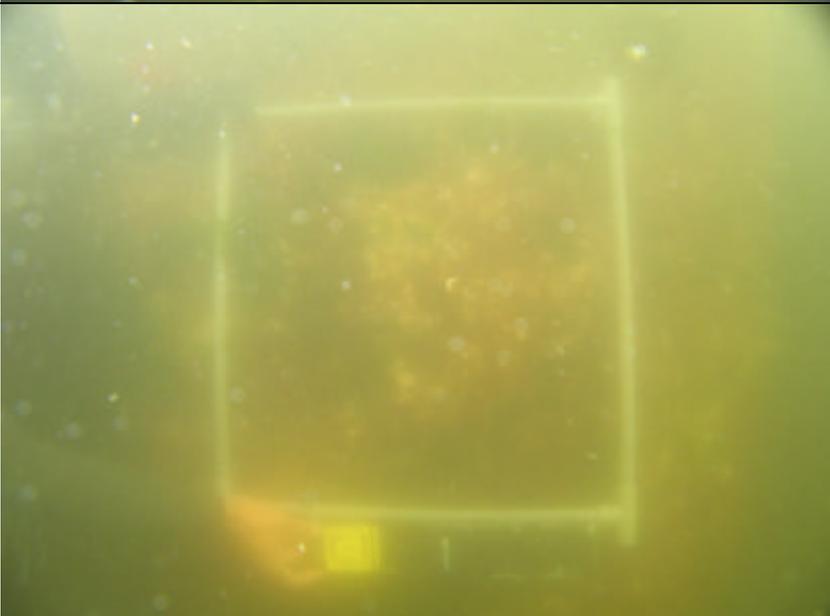
調査日：平成 19 年 8 月 6 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

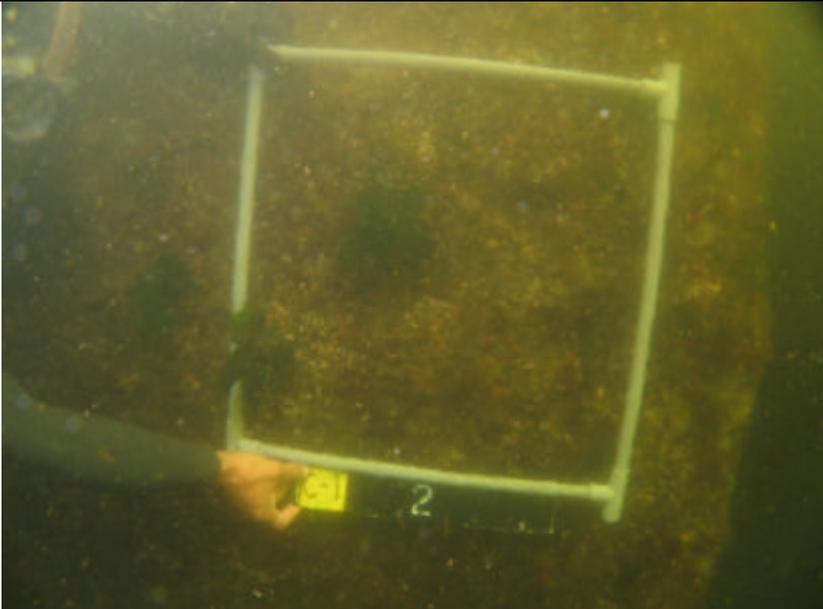
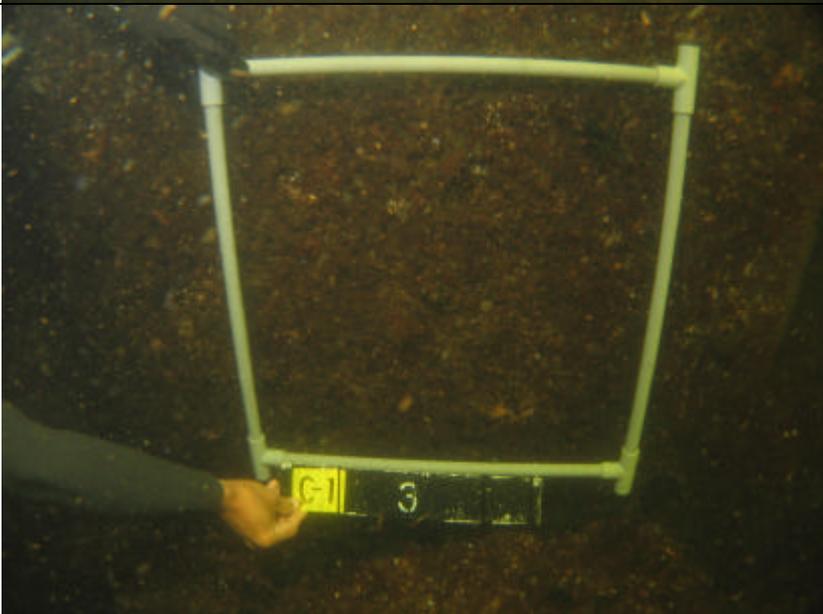
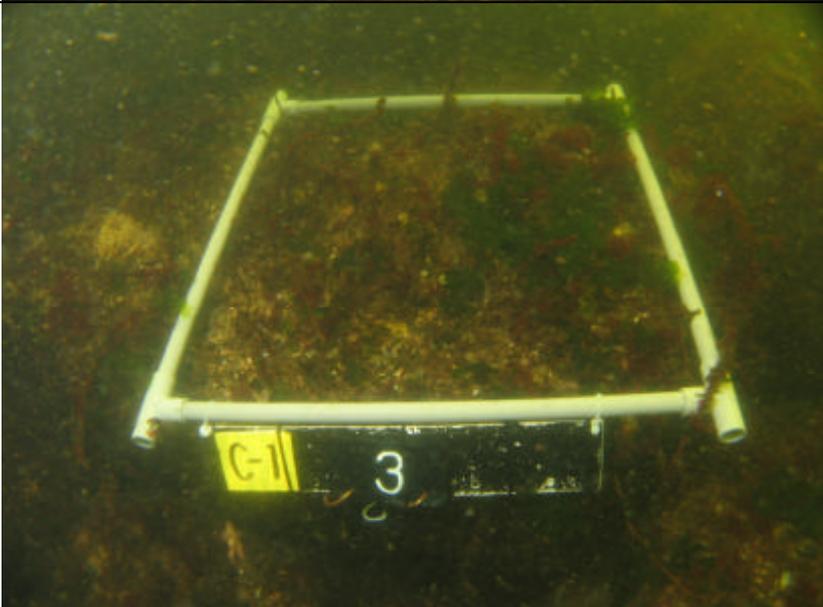
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 6 日

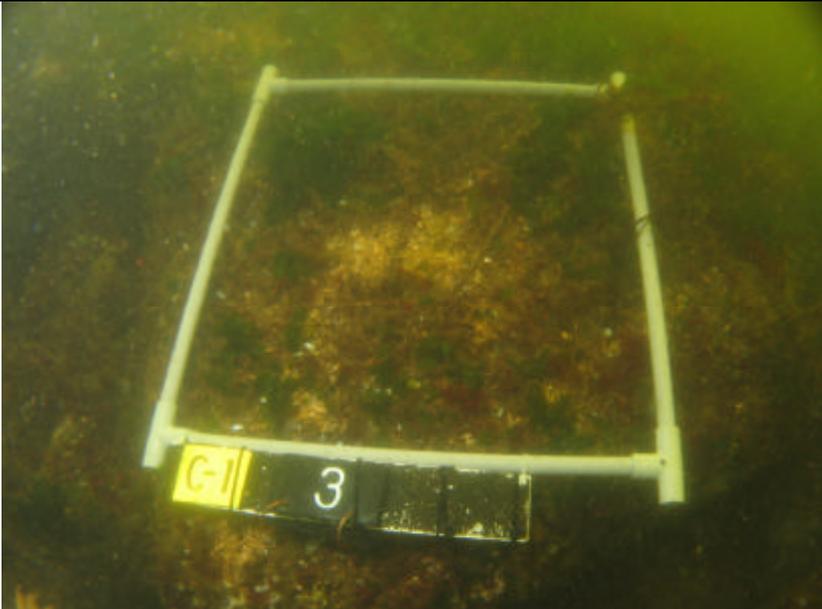
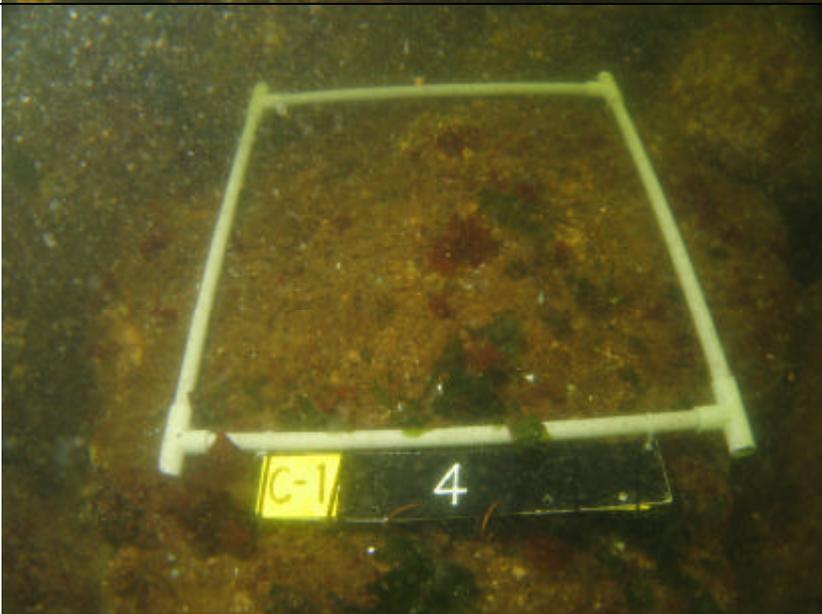
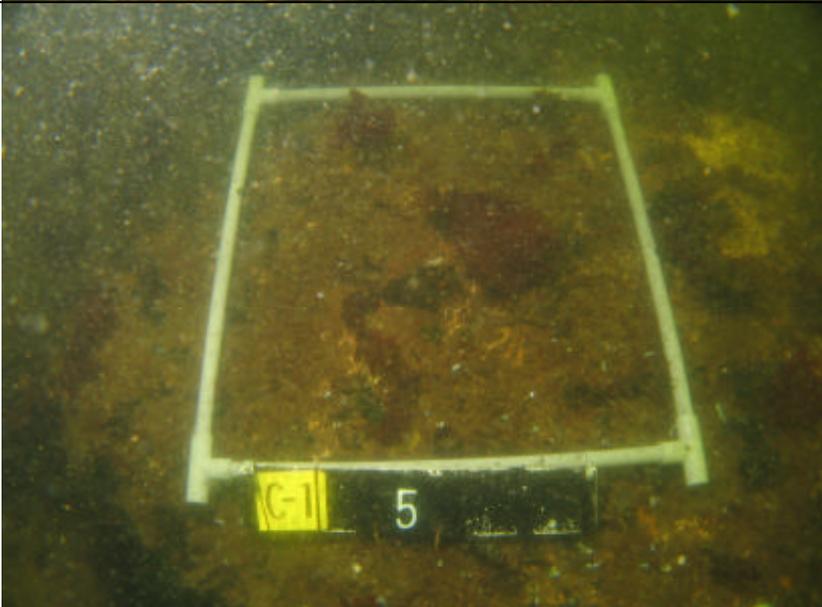
C . 大阪沖処分場
(平成 19 年 8 月 11 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

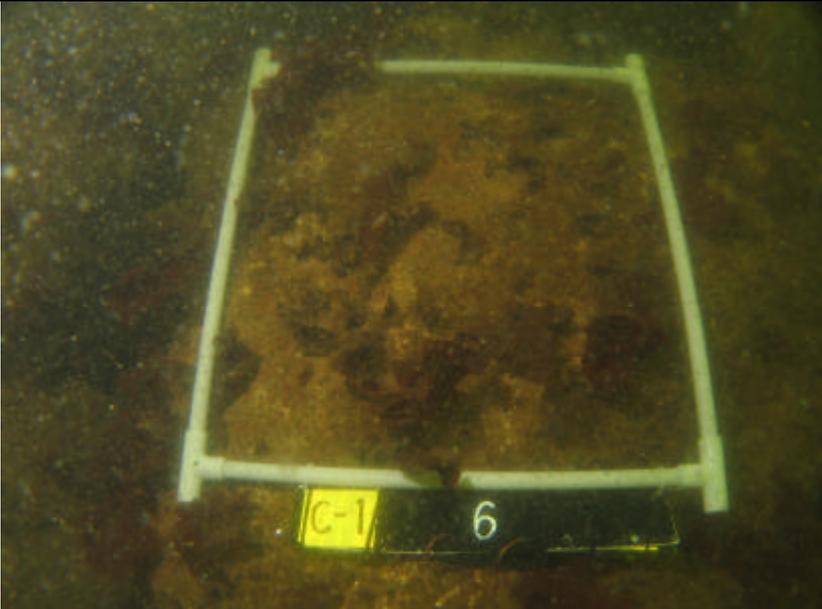
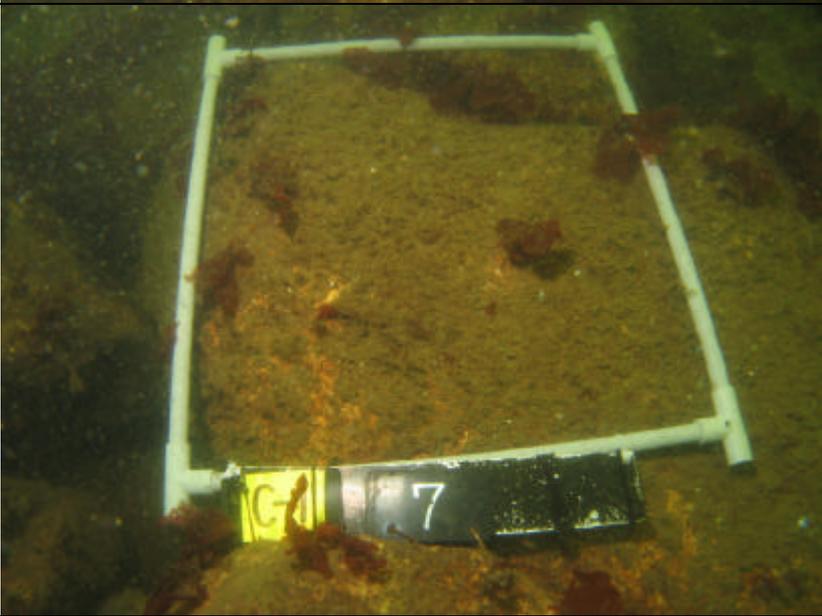
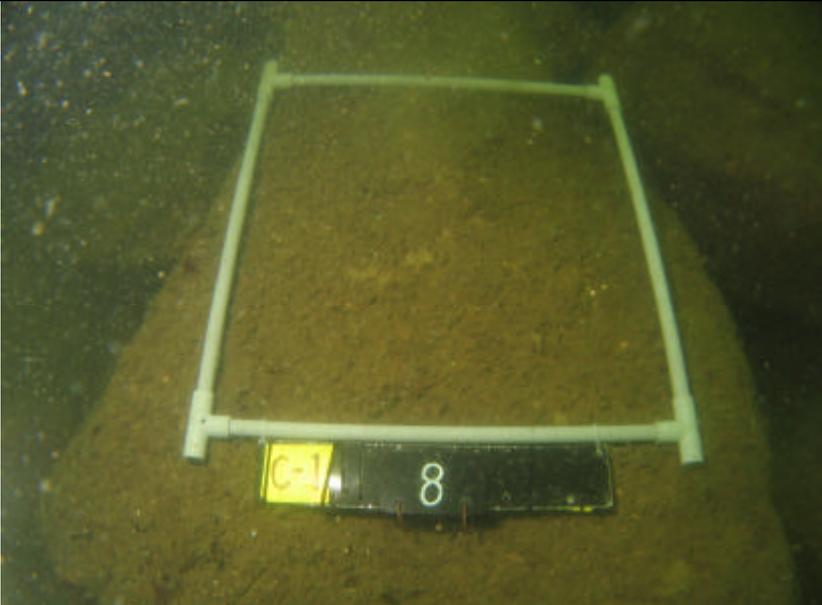
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>

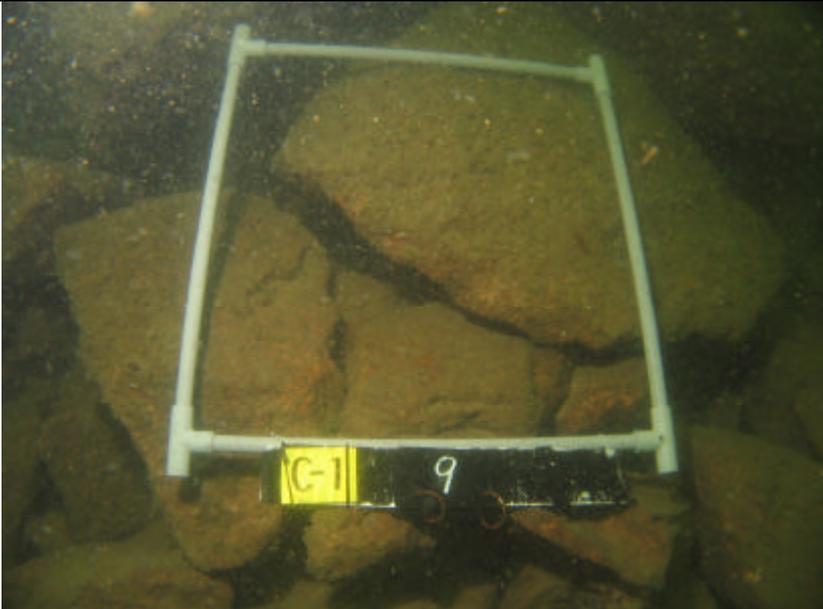
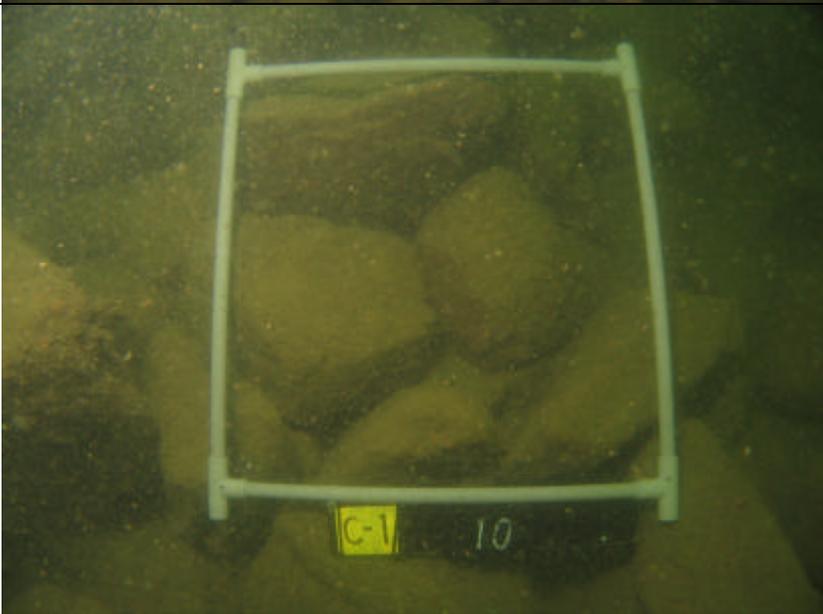
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>

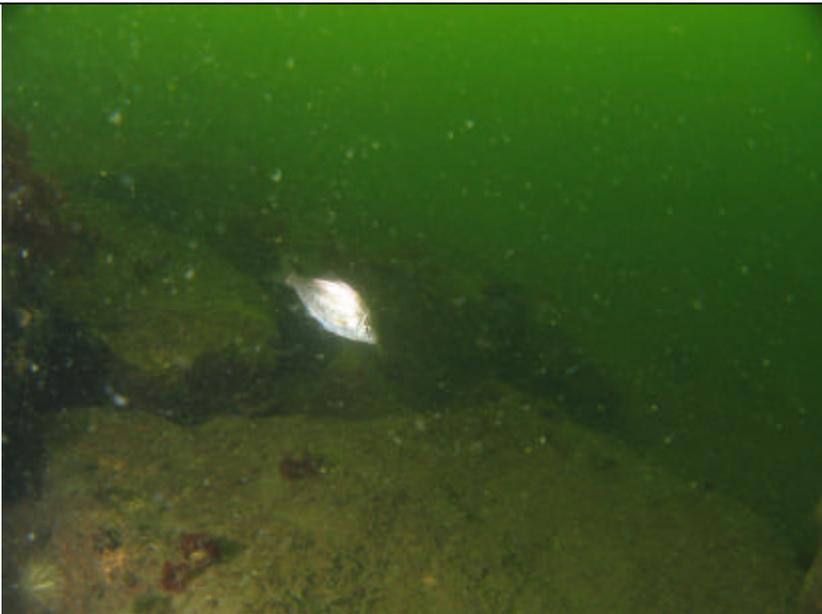
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>

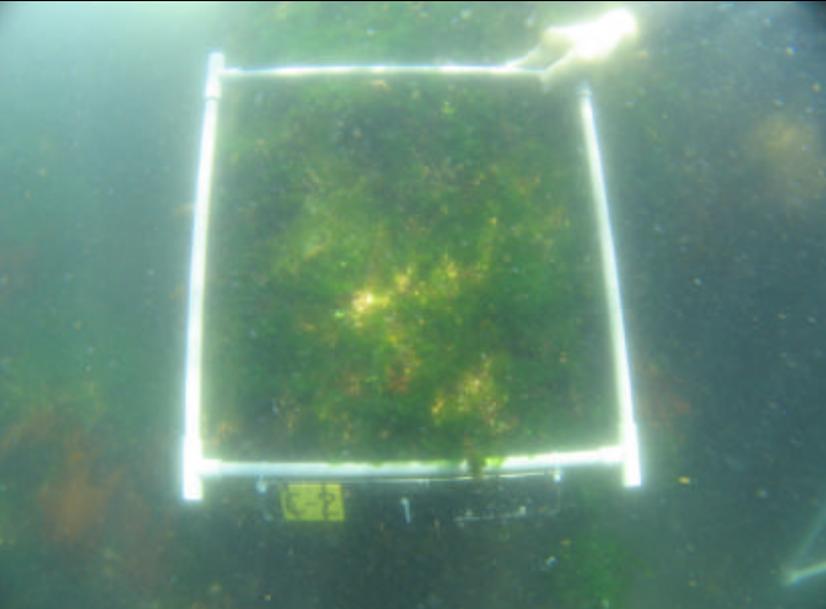
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>メバル</p>

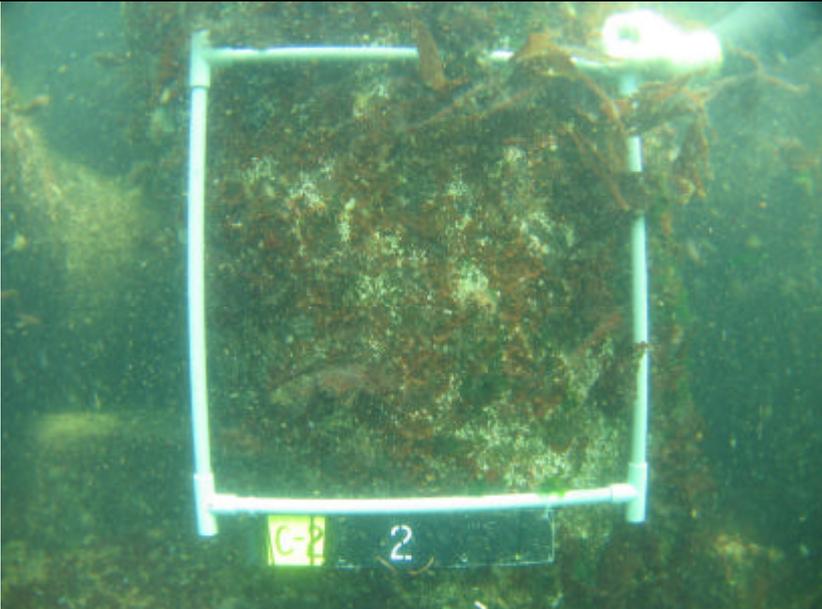
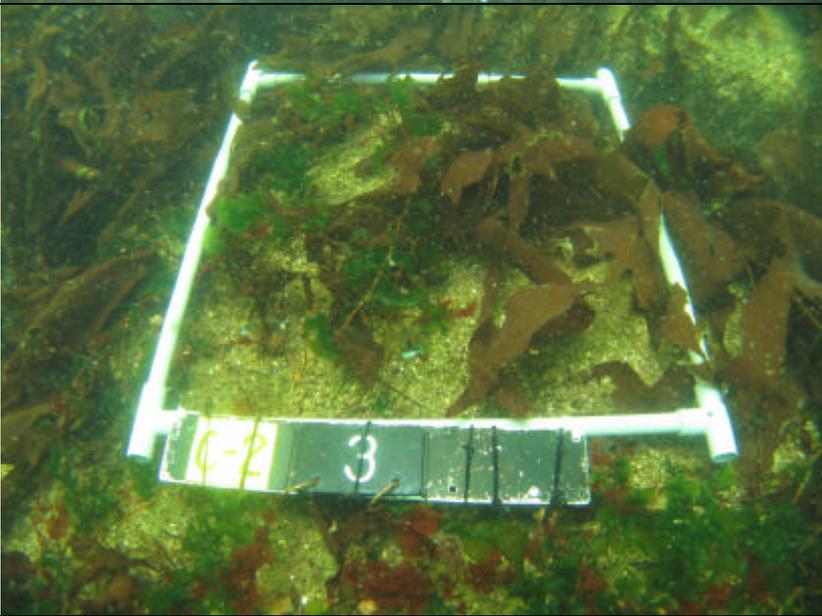
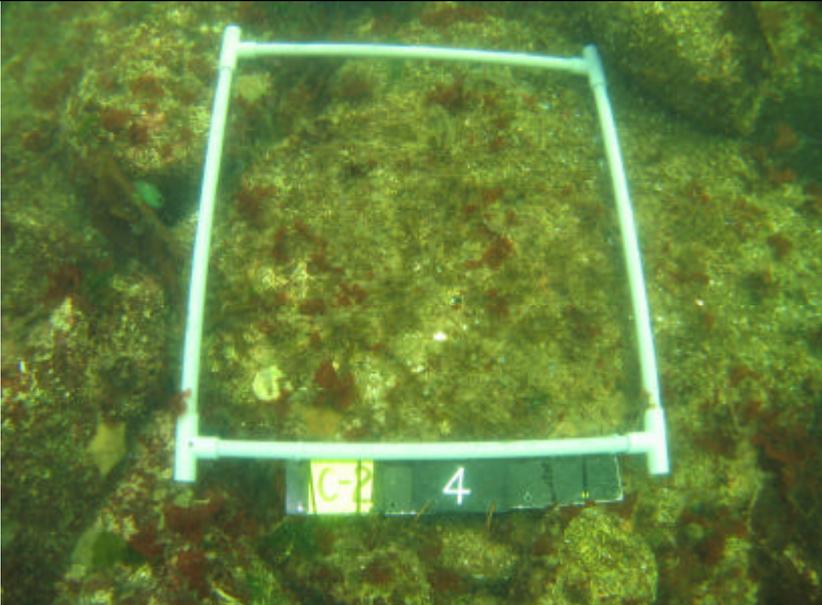
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点C - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
--	--	--

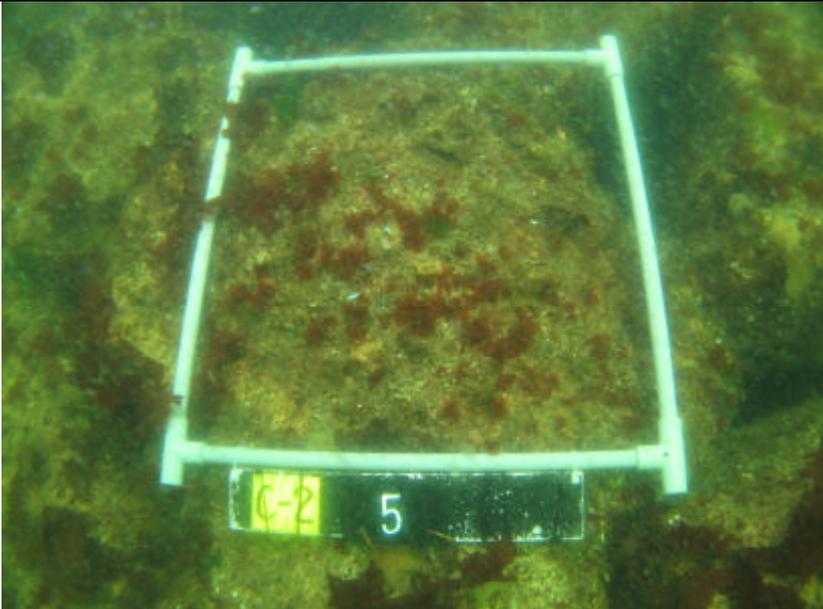
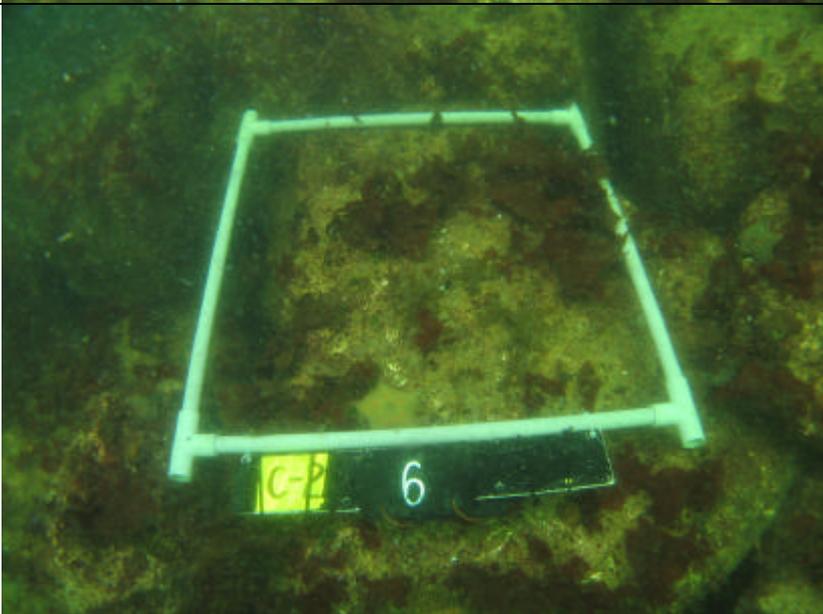
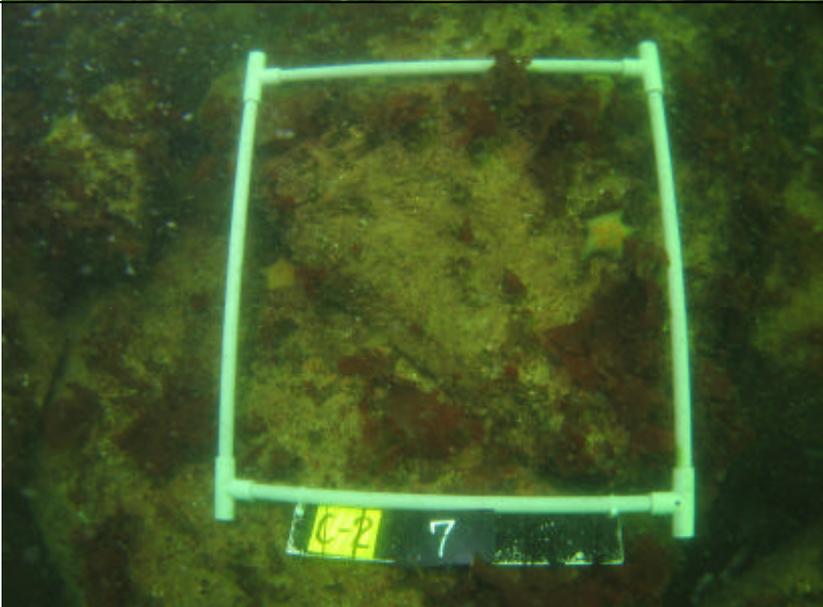
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

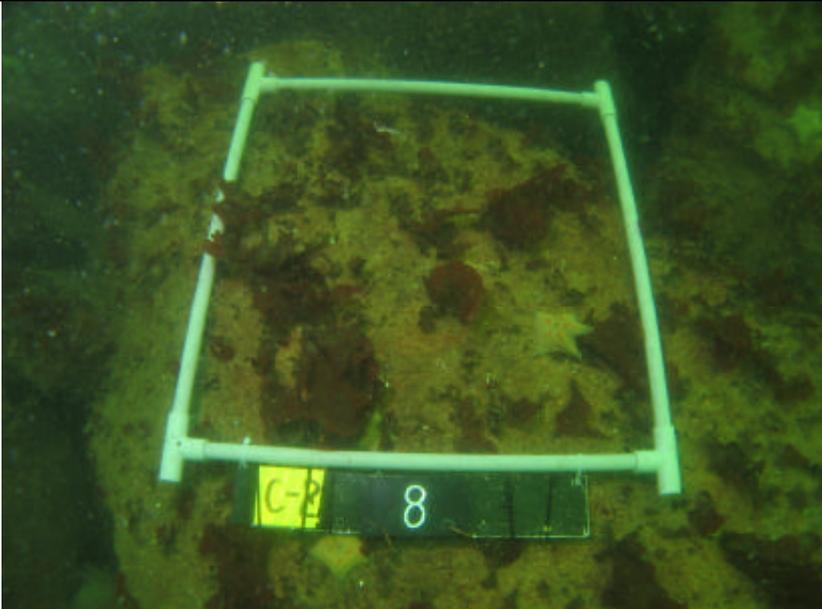
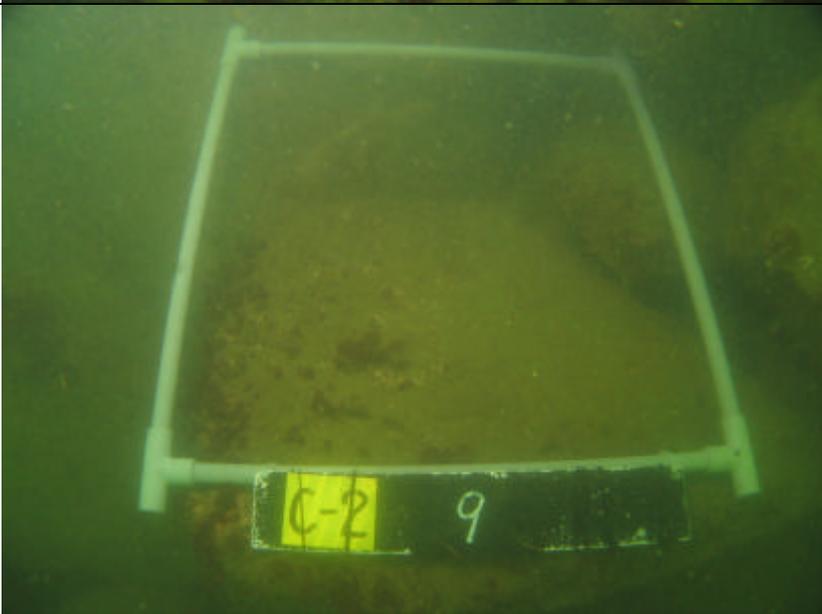
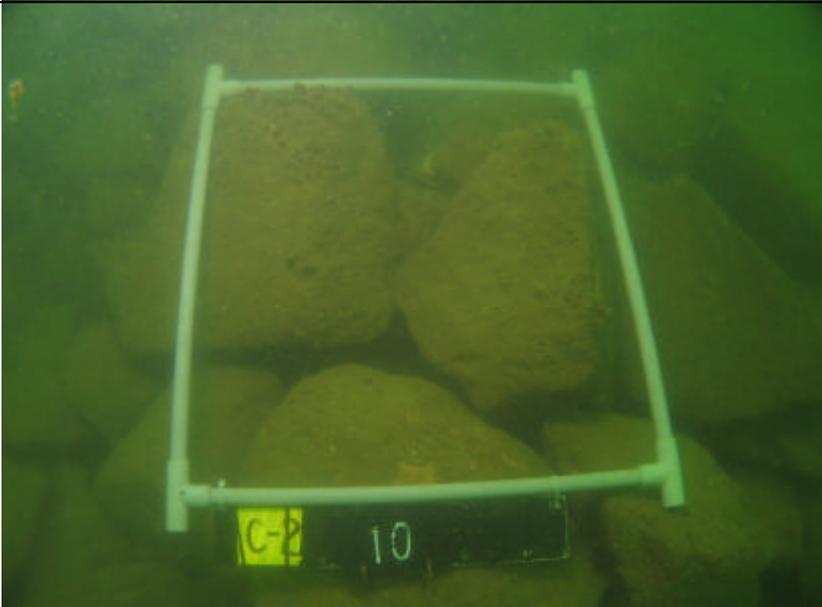
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

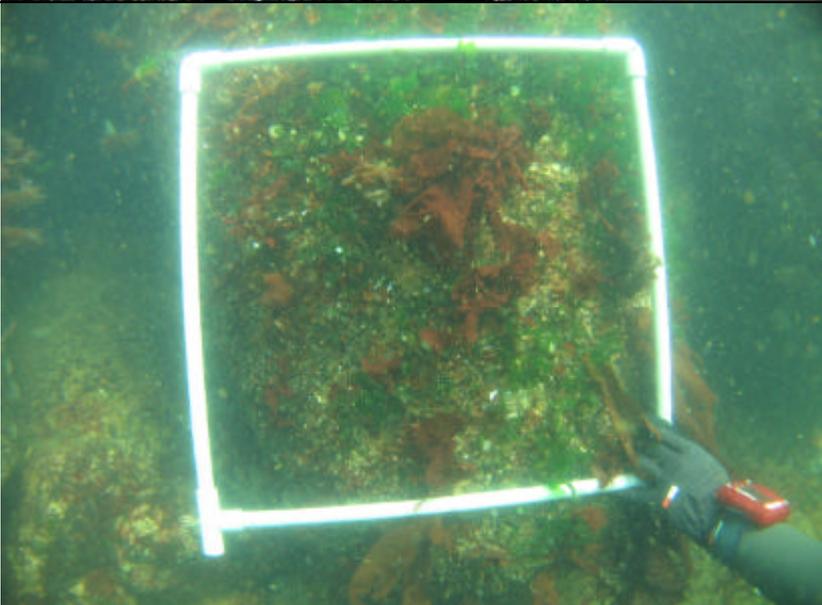
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

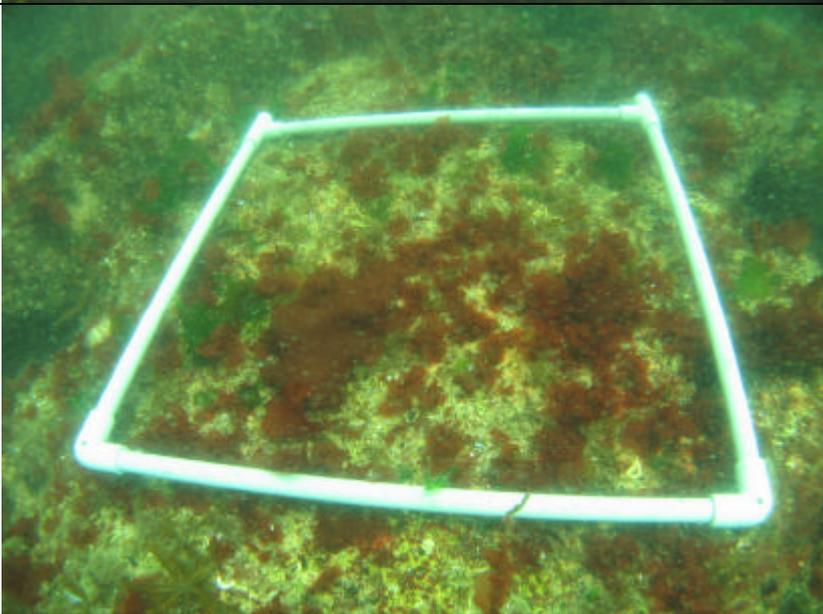
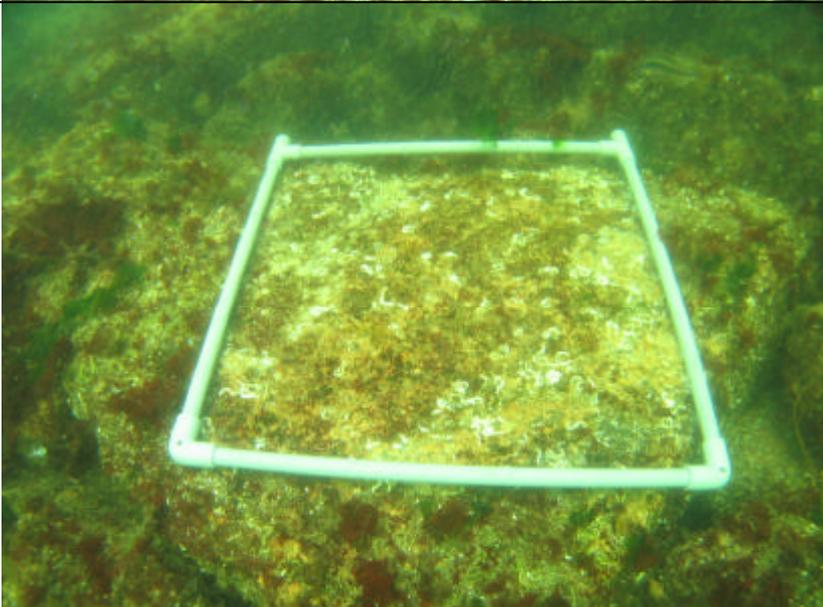
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

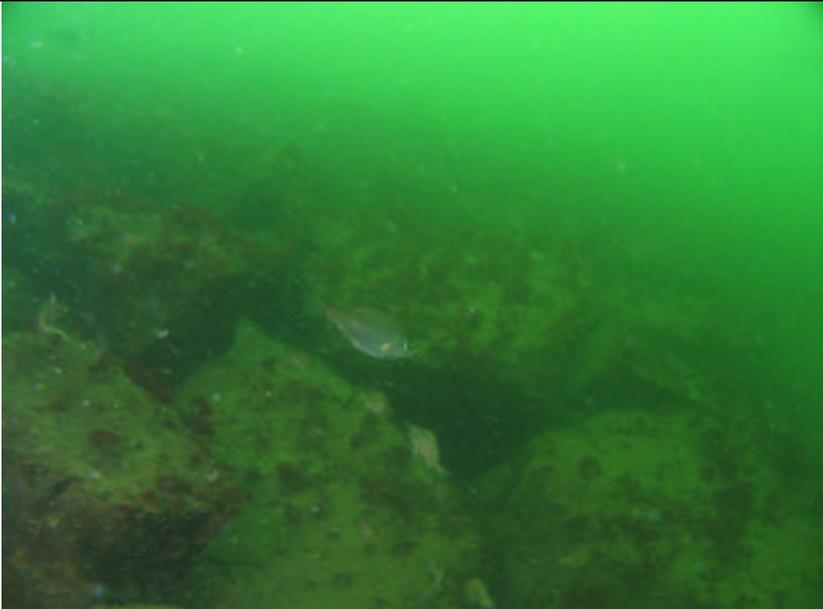
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

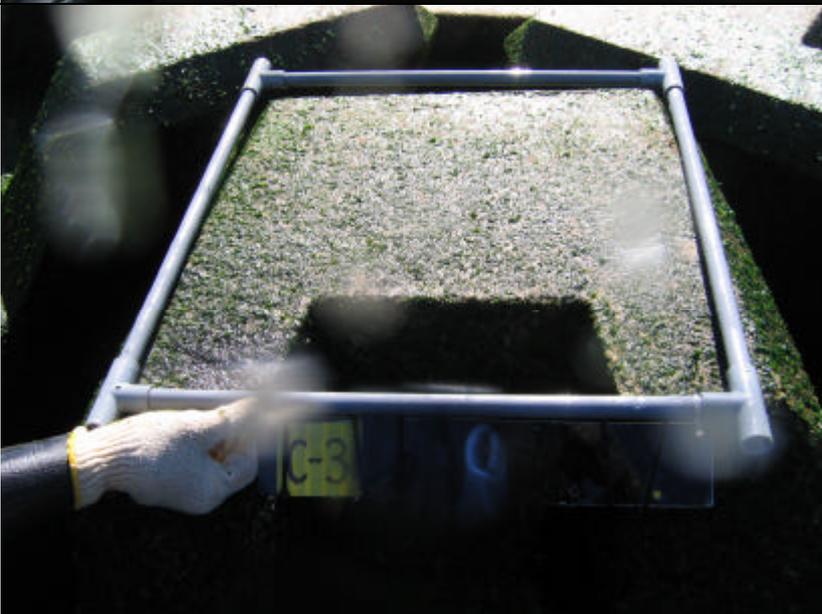
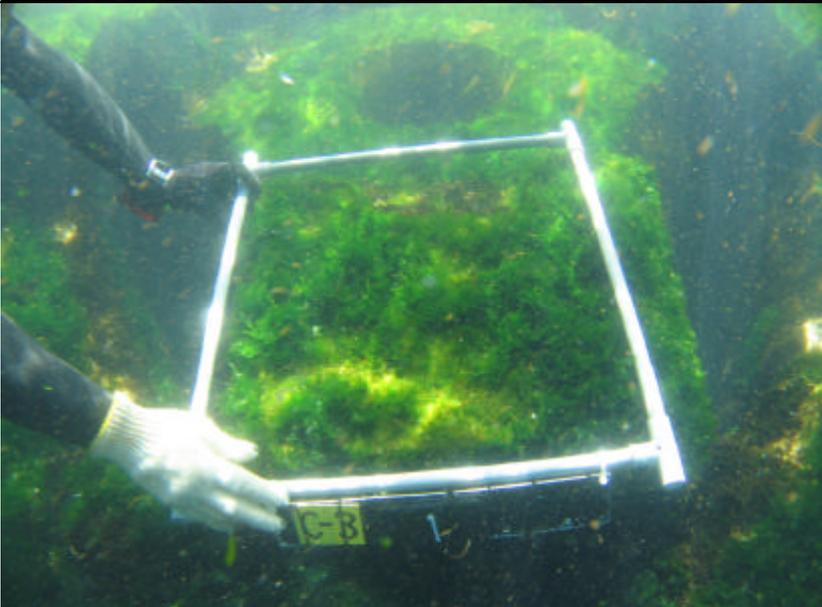
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>上層 枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 11 日

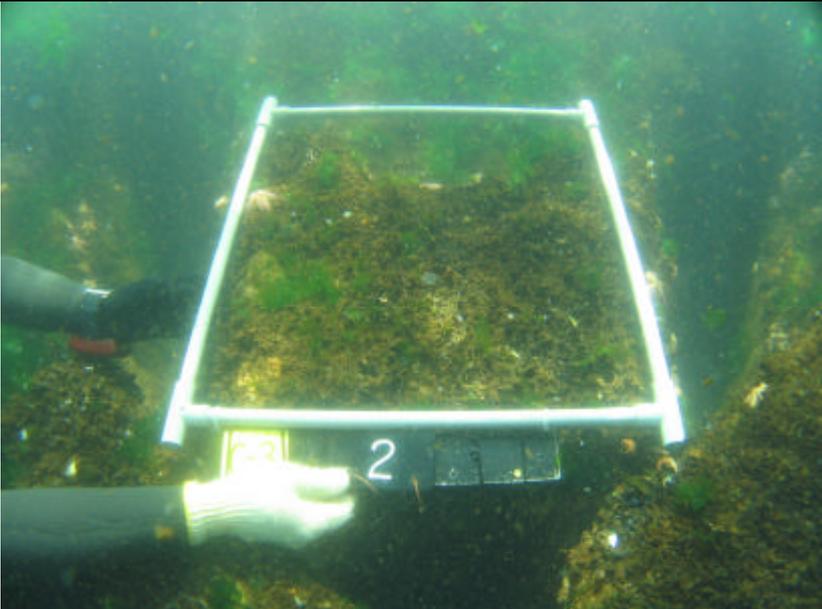
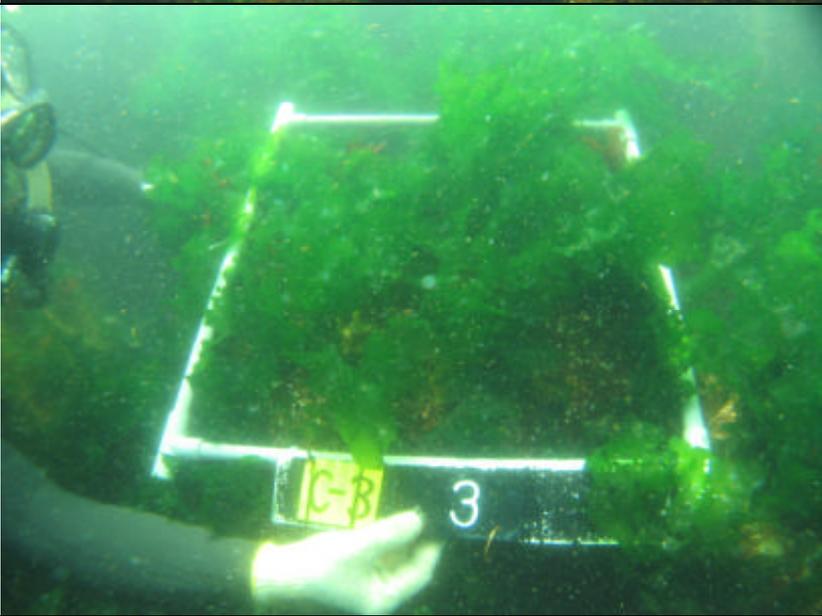
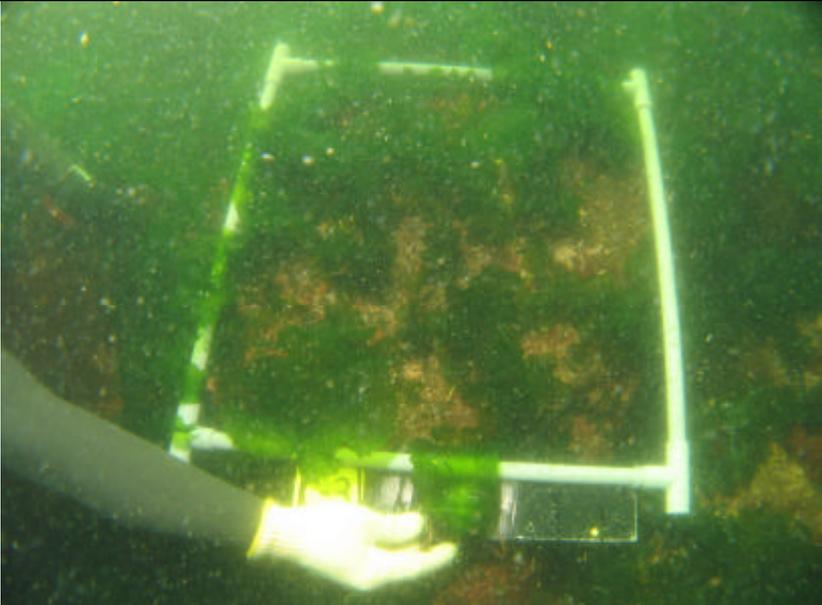
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 11 日

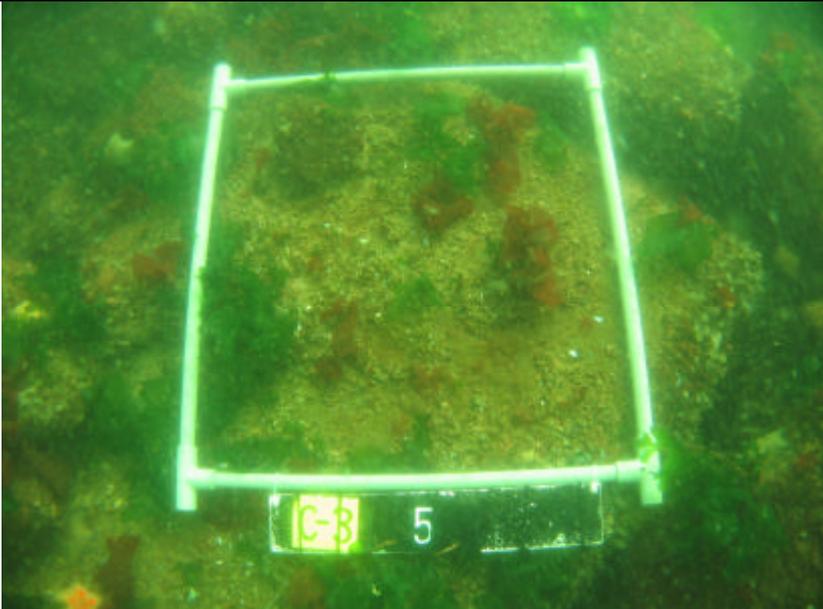
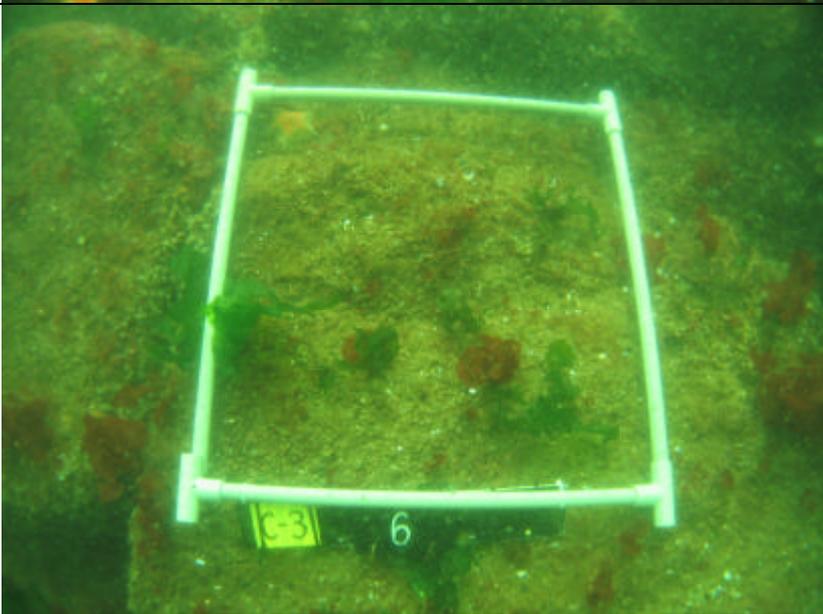
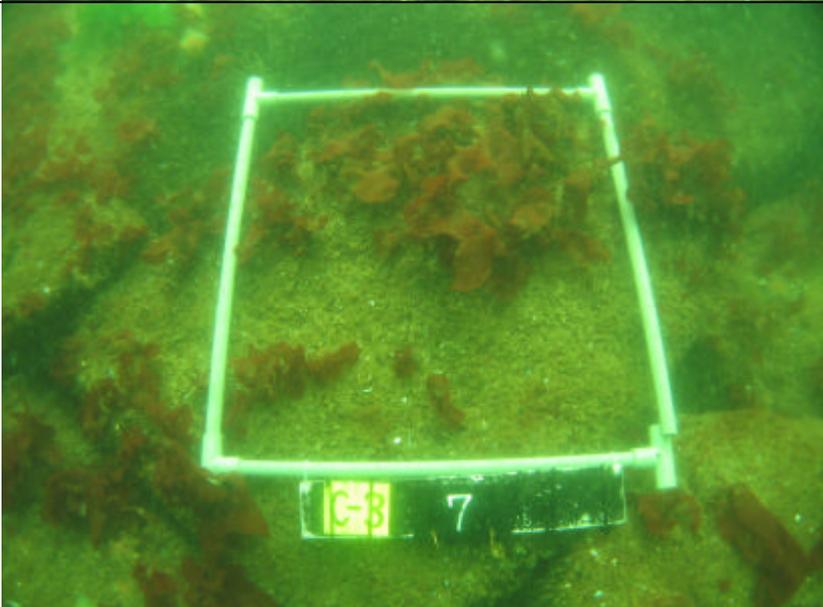
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>メバル</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

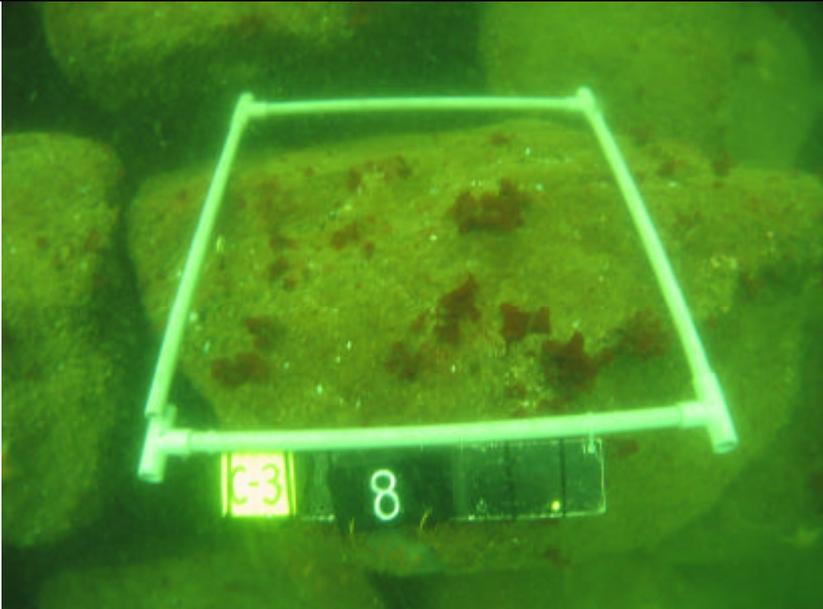
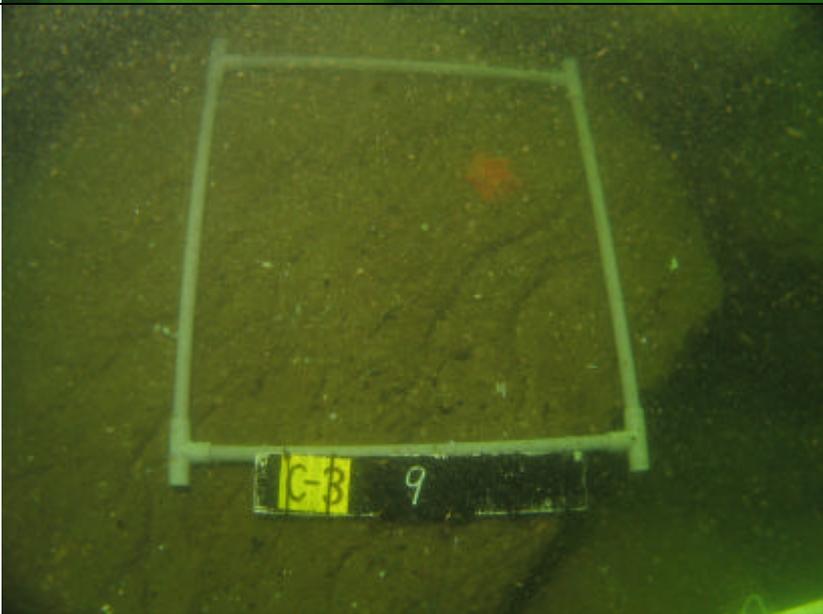
調査日：平成 19 年 8 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 11 日

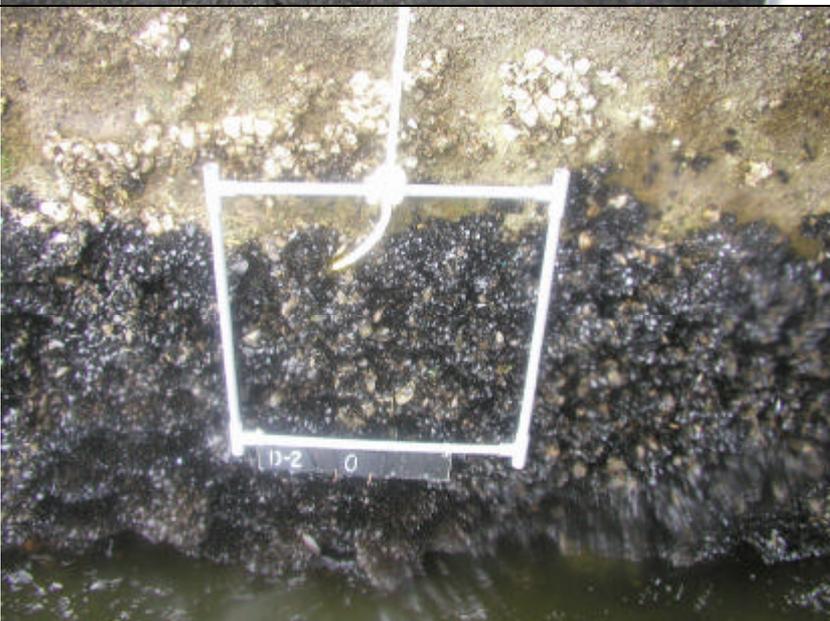
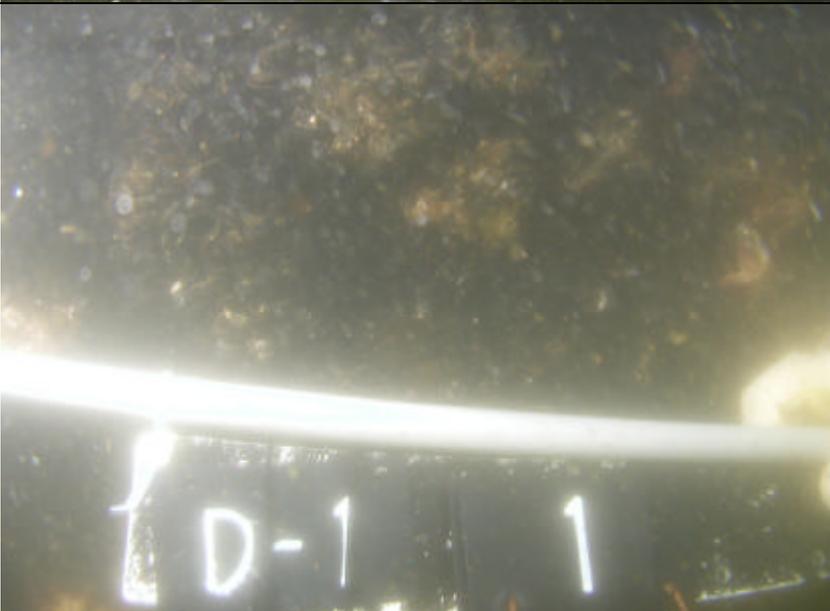
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 11 日

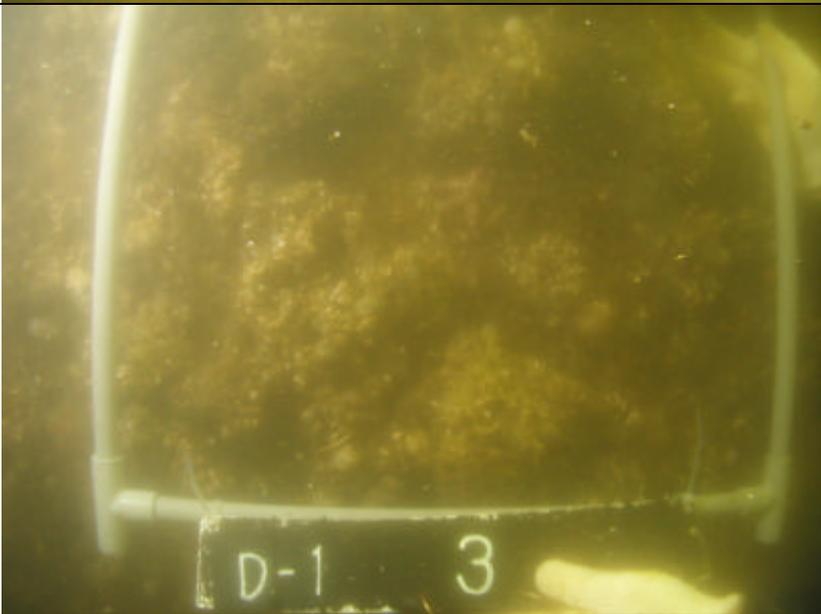
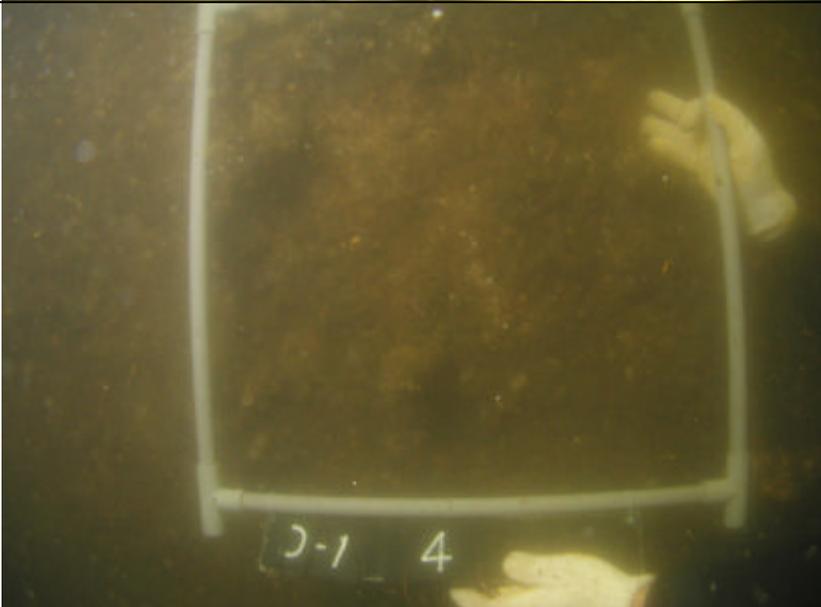
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>キュウセン</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

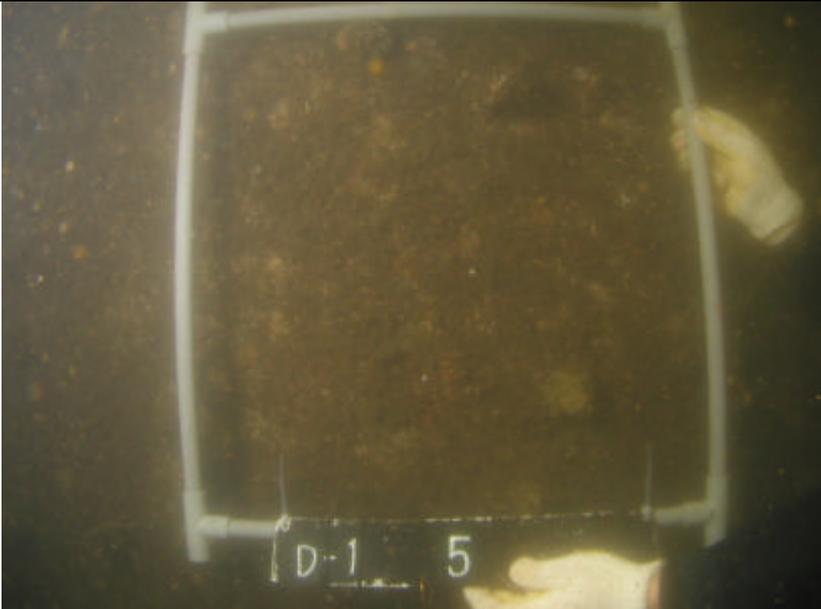
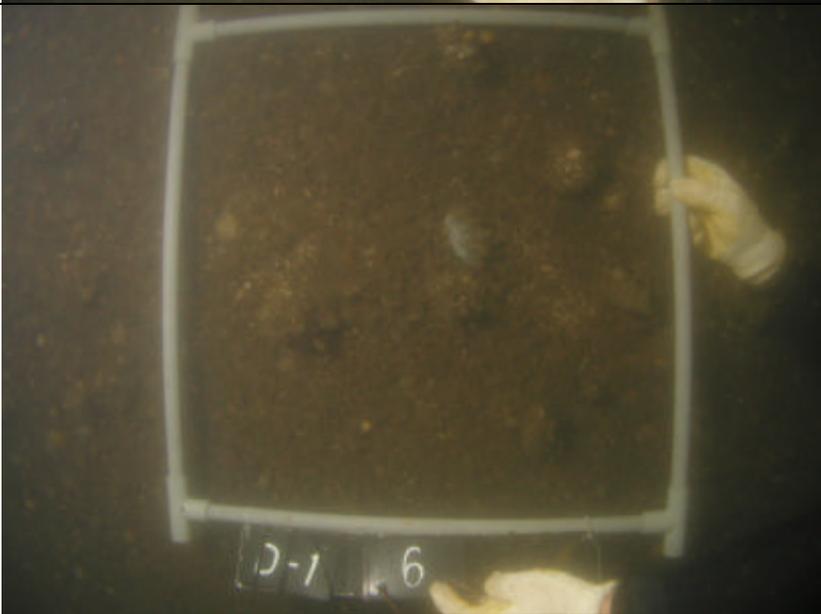
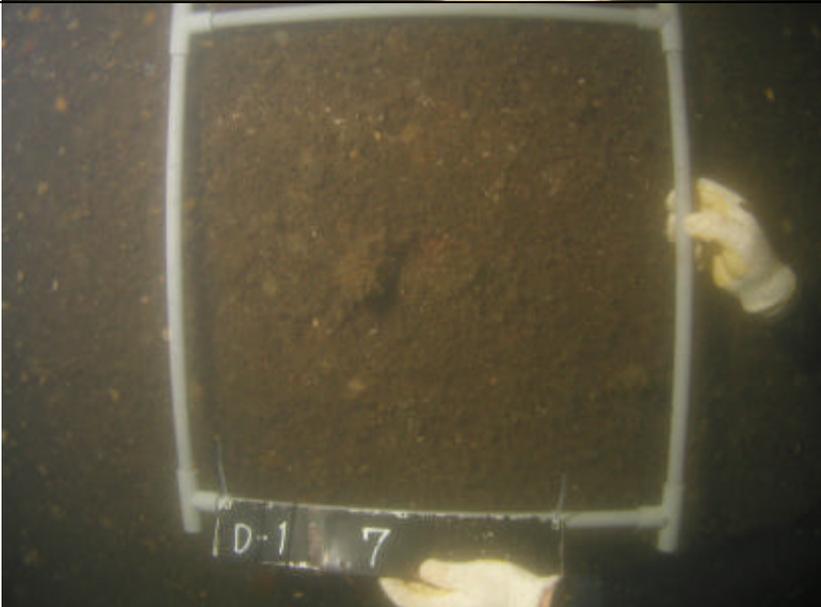
D . 泉大津沖処分場
(平成 19 年 8 月 1 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

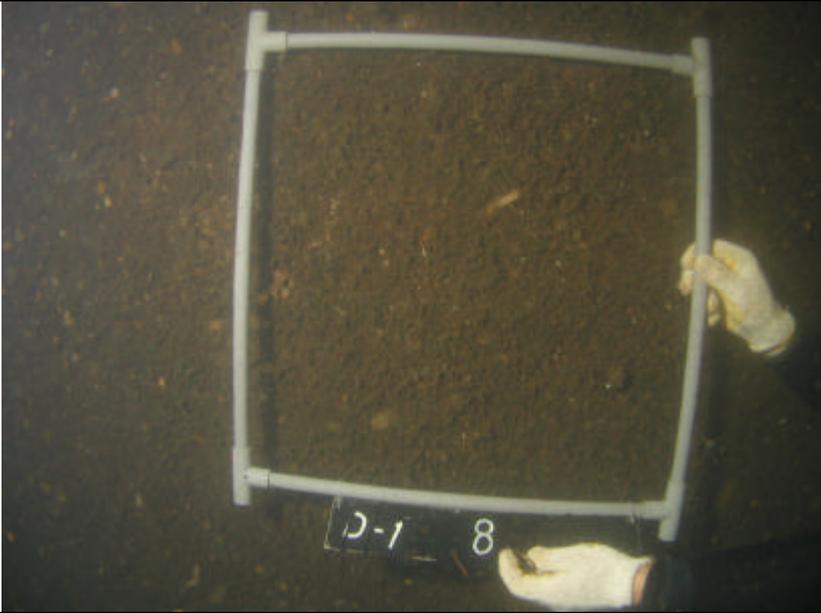
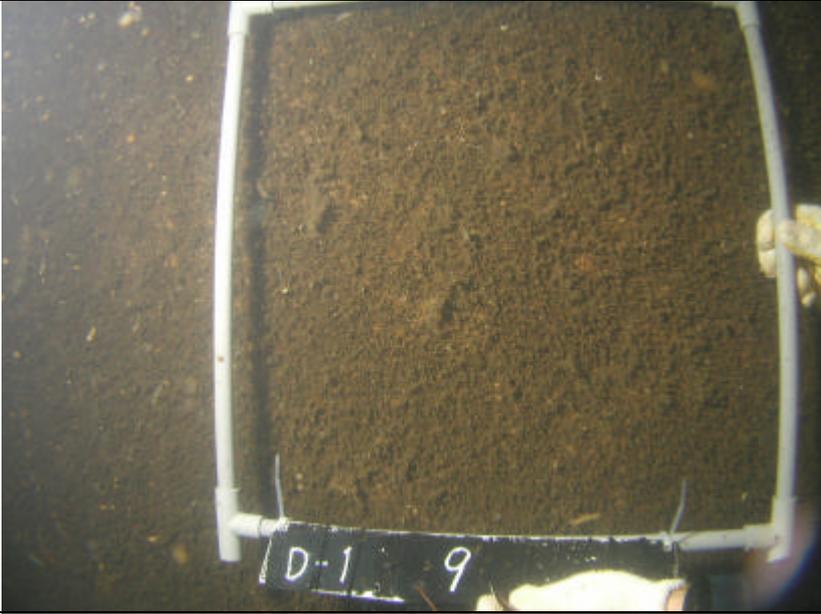
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

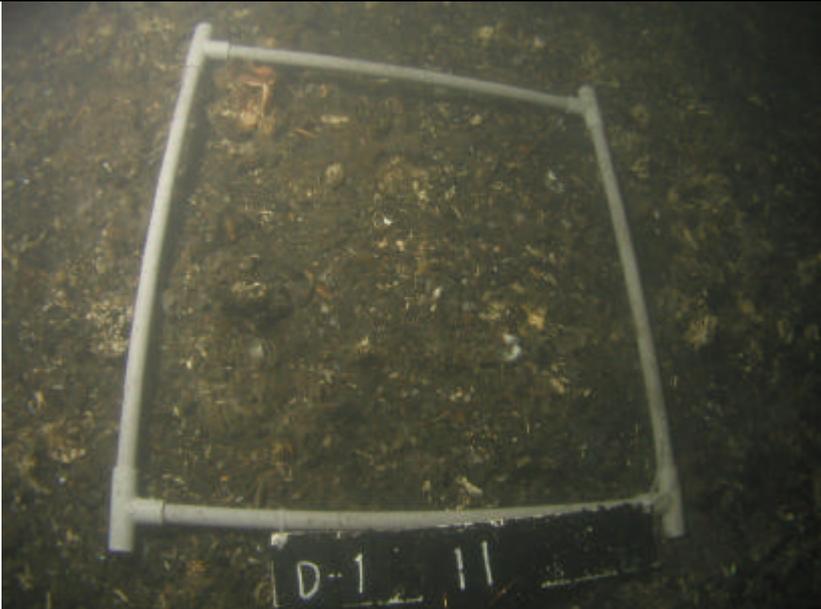
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

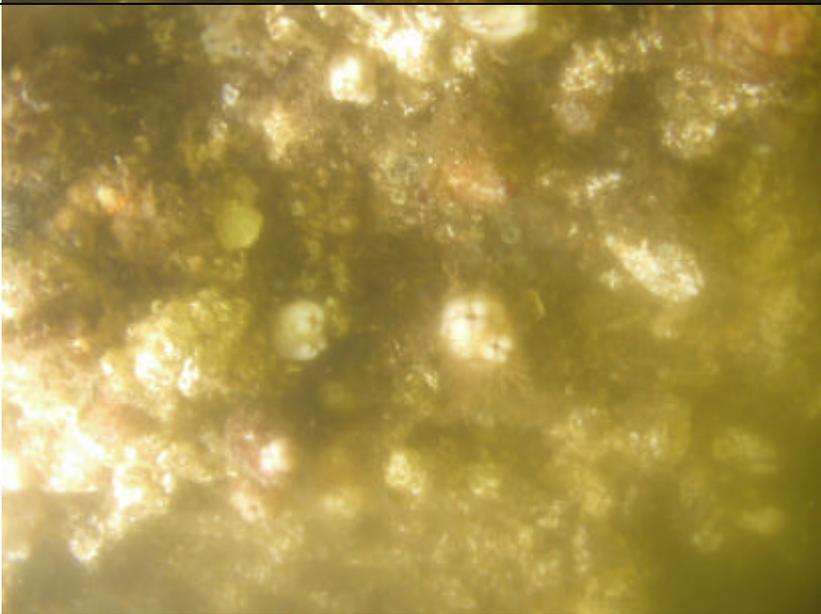
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

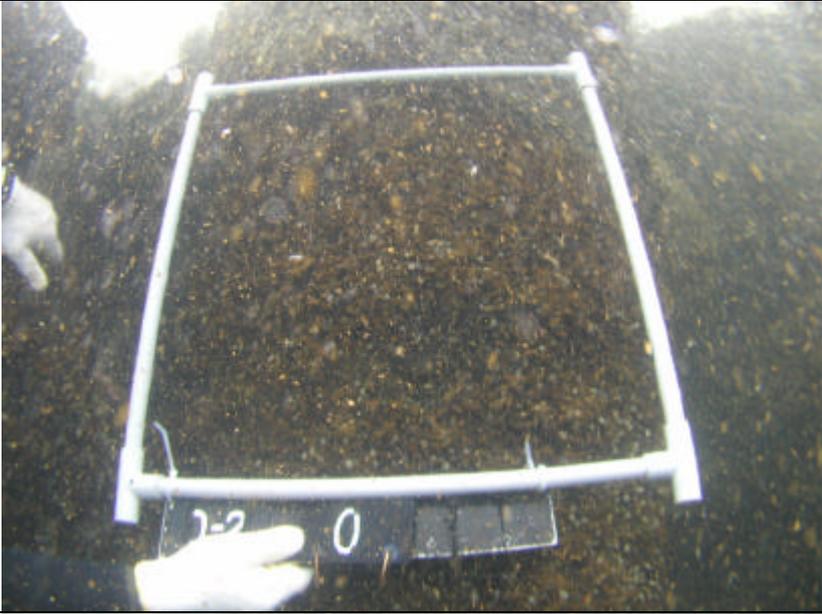
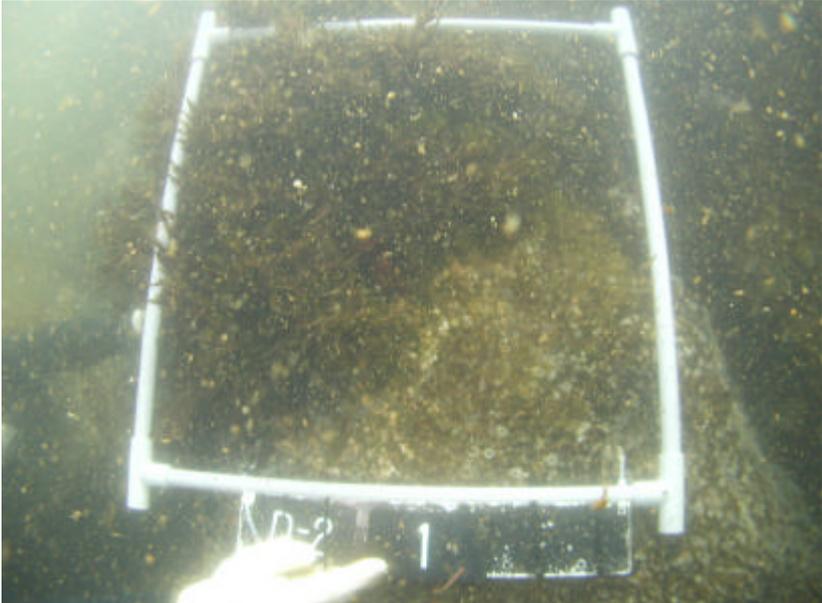
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. ±1.0m 付近</p> <p>キヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

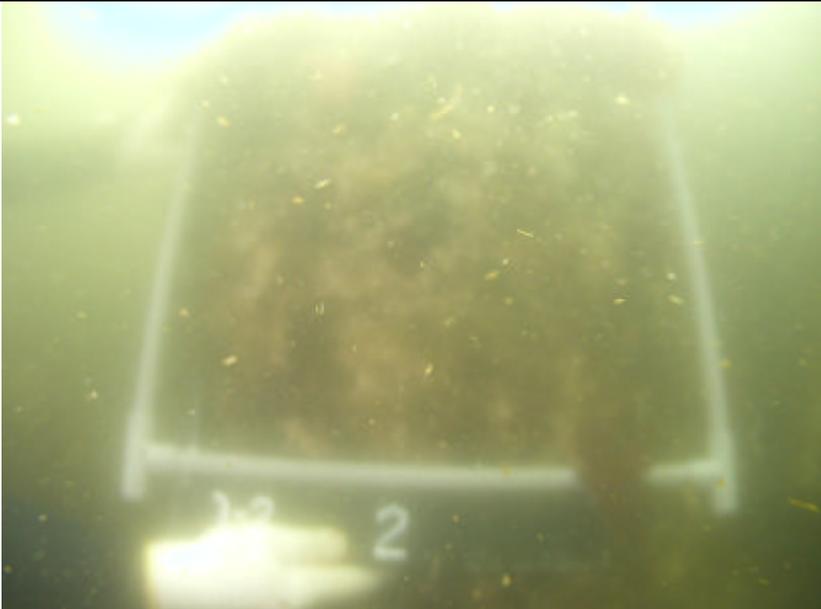
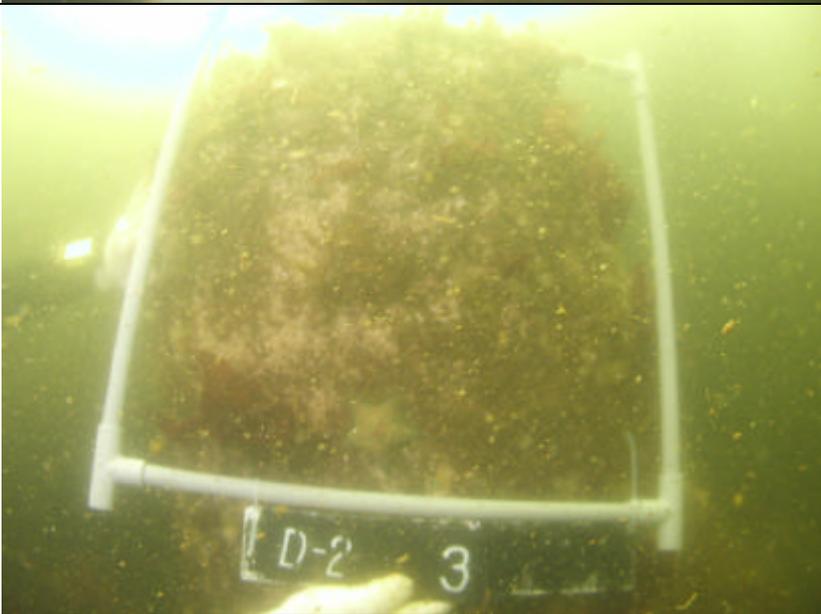
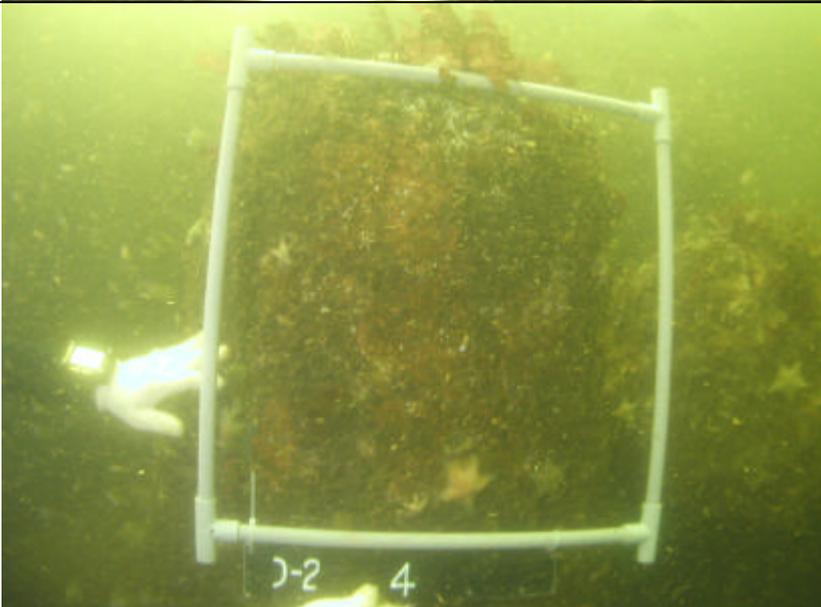
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>シロボヤ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

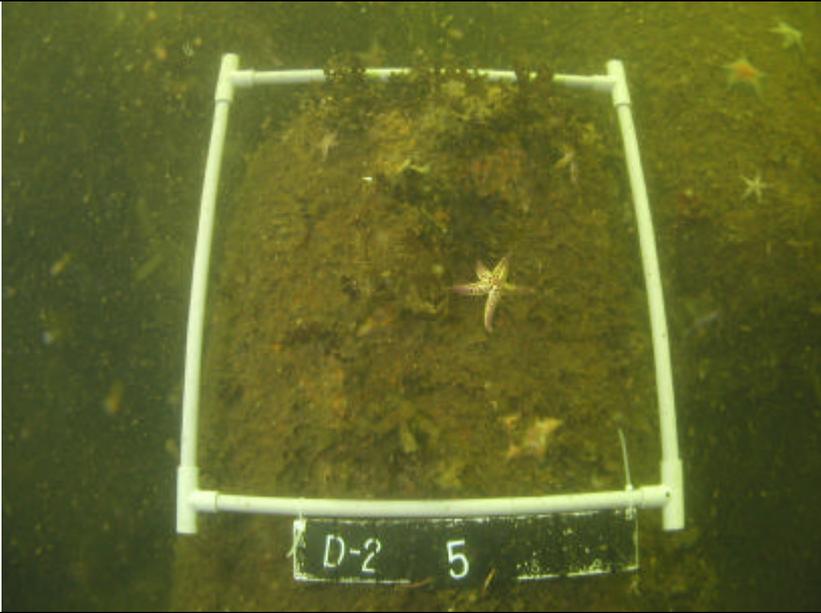
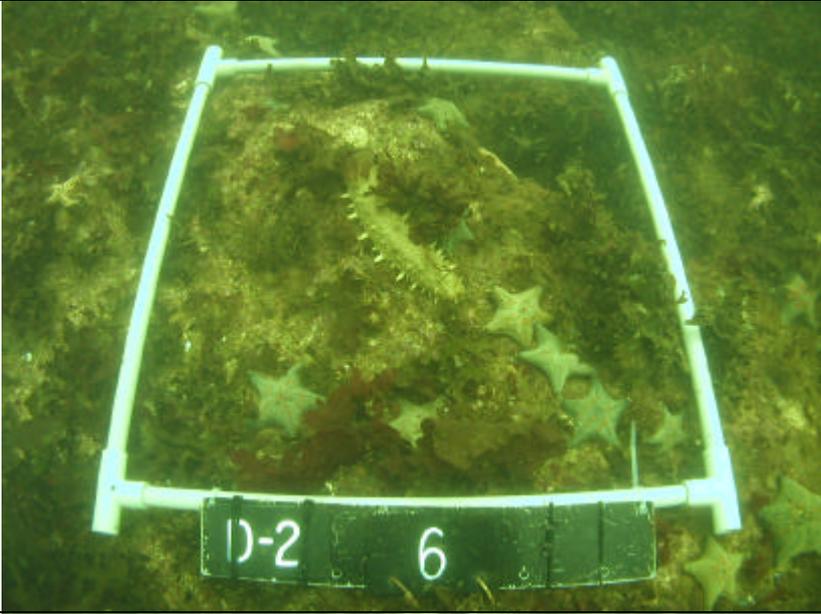
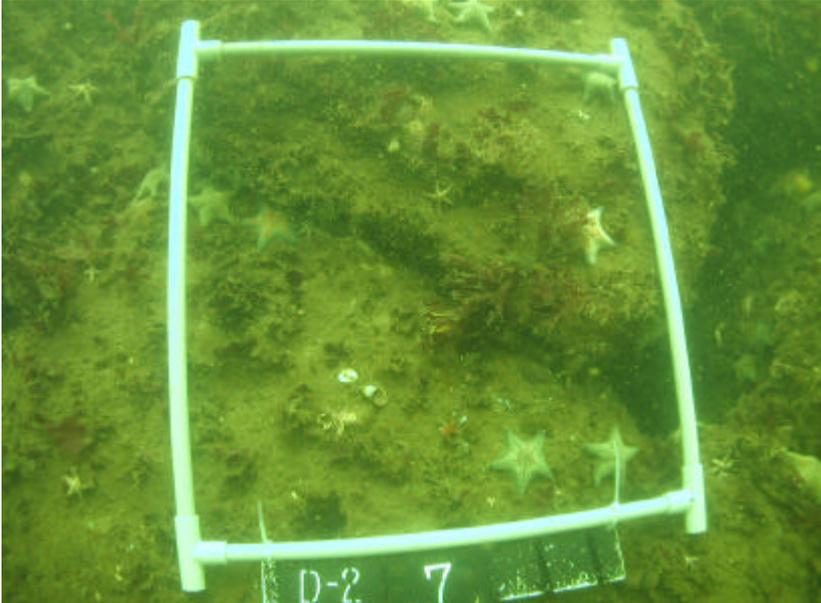
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
--	--	--

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

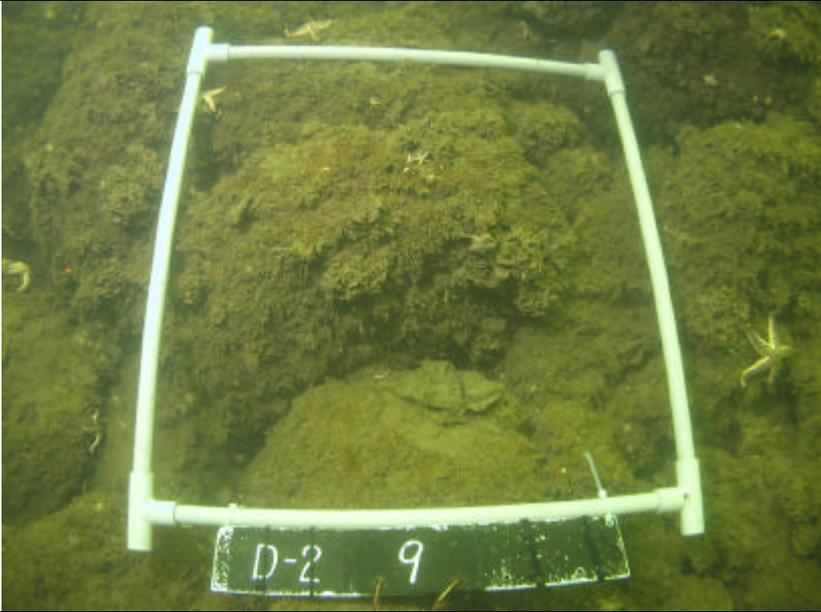
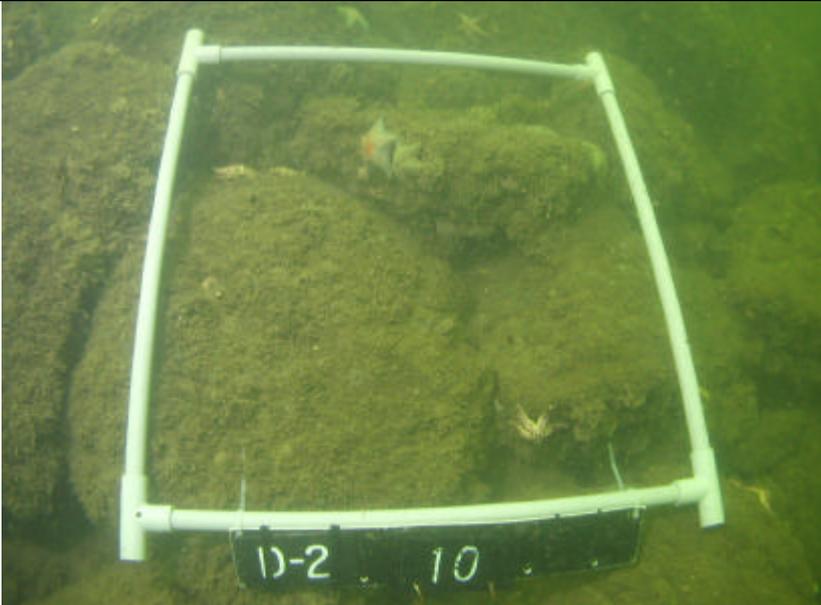
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

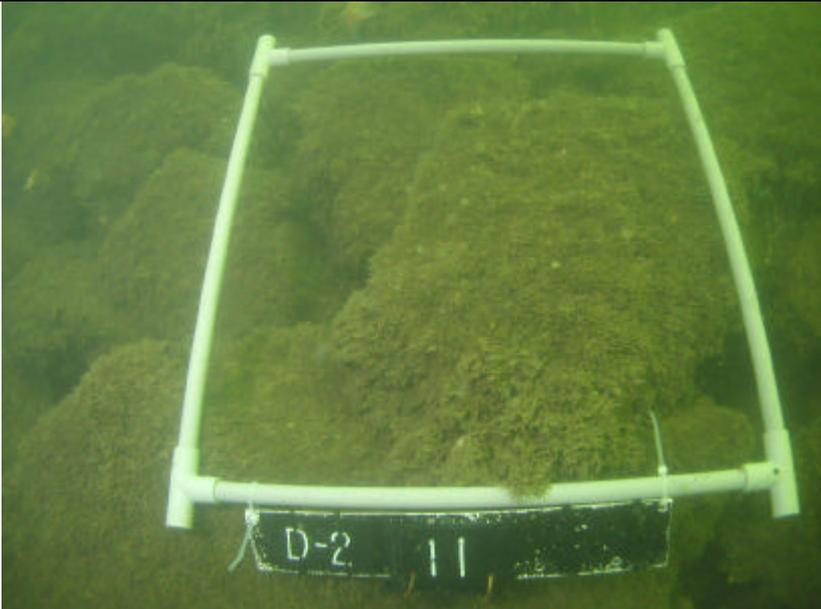
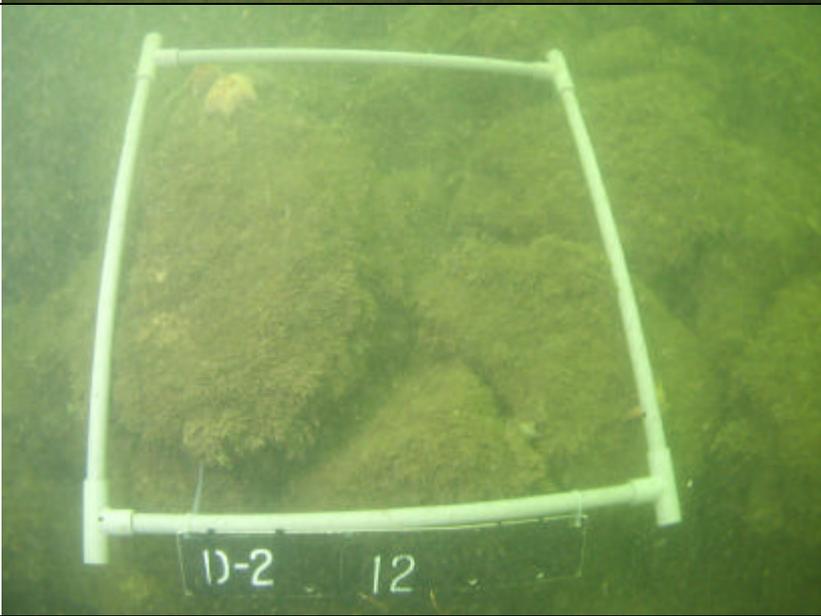
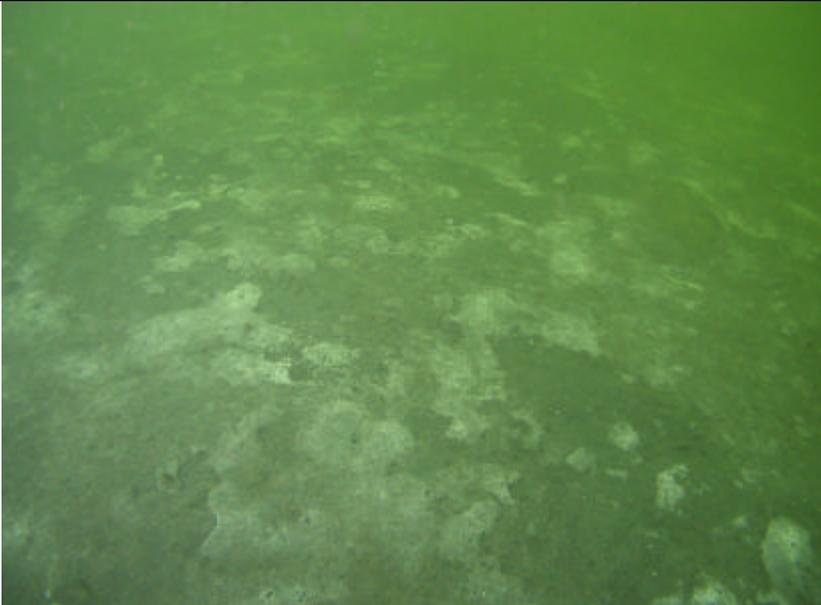
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

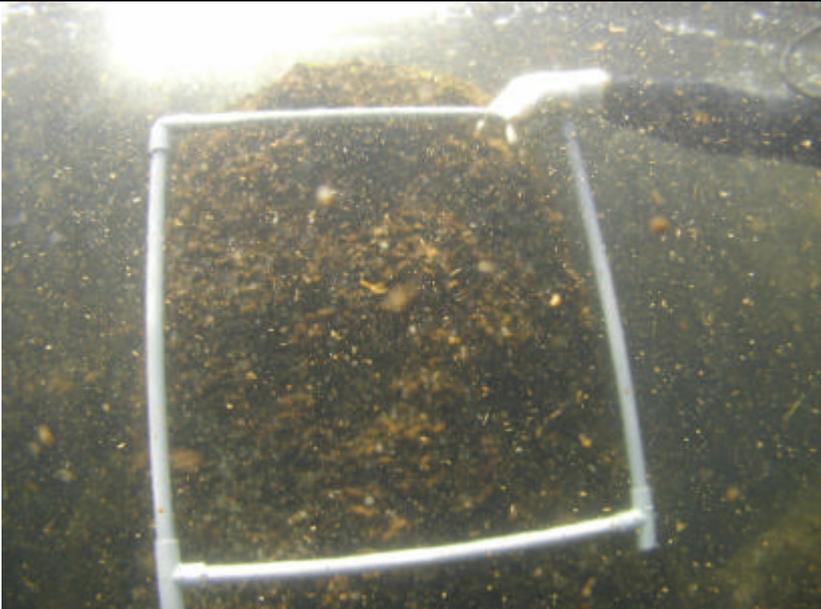
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ミル</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>サザエ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

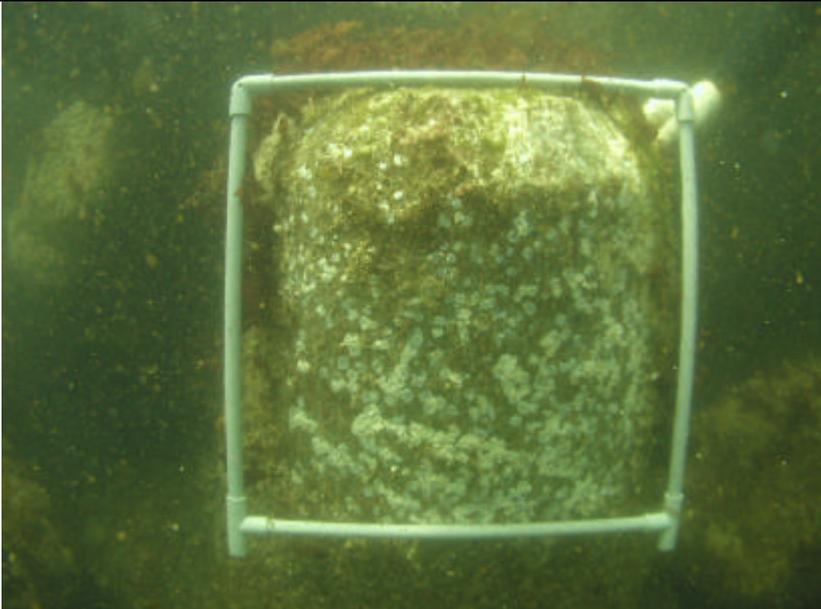
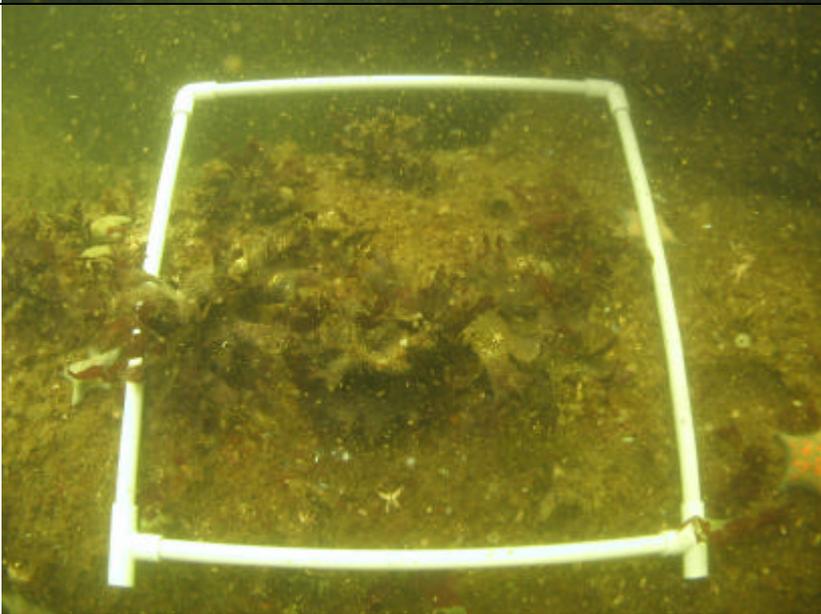
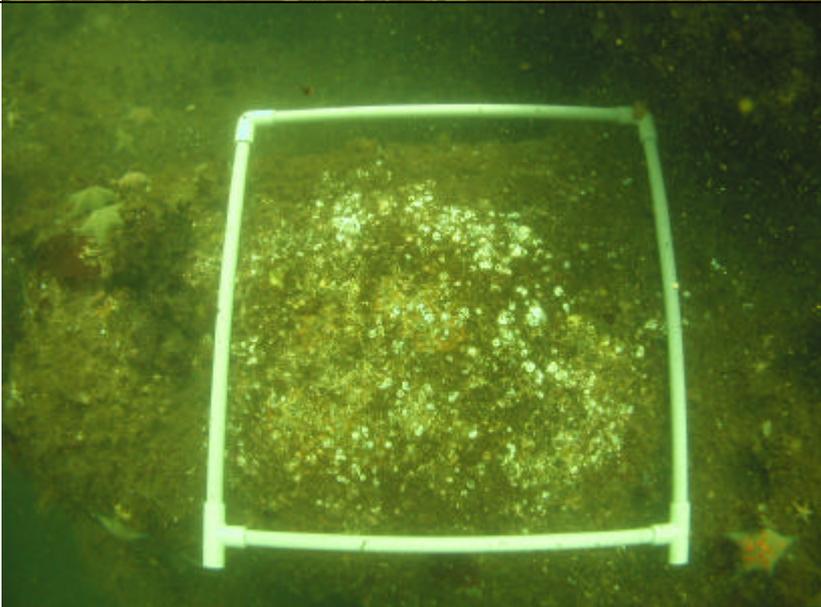
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>クロダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>カバノリ</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>コシダカガンガラ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>マダコ</p>

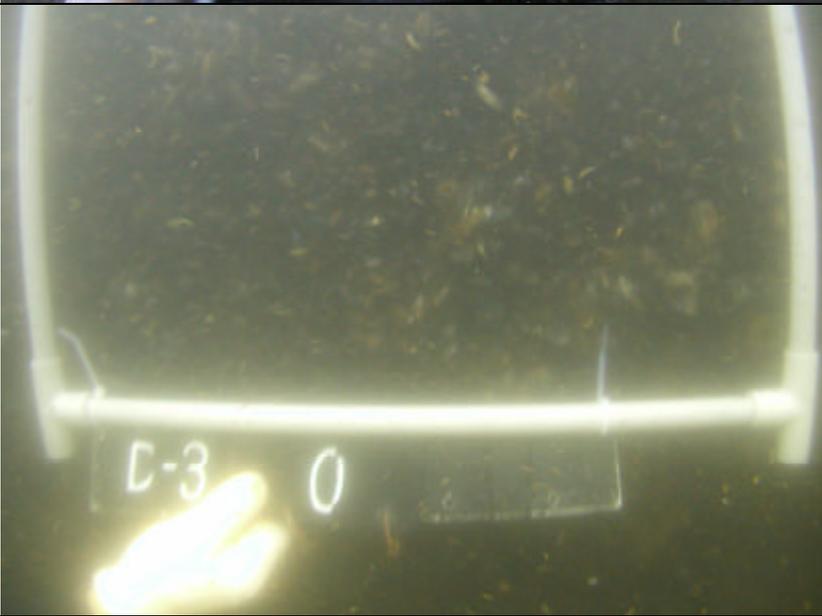
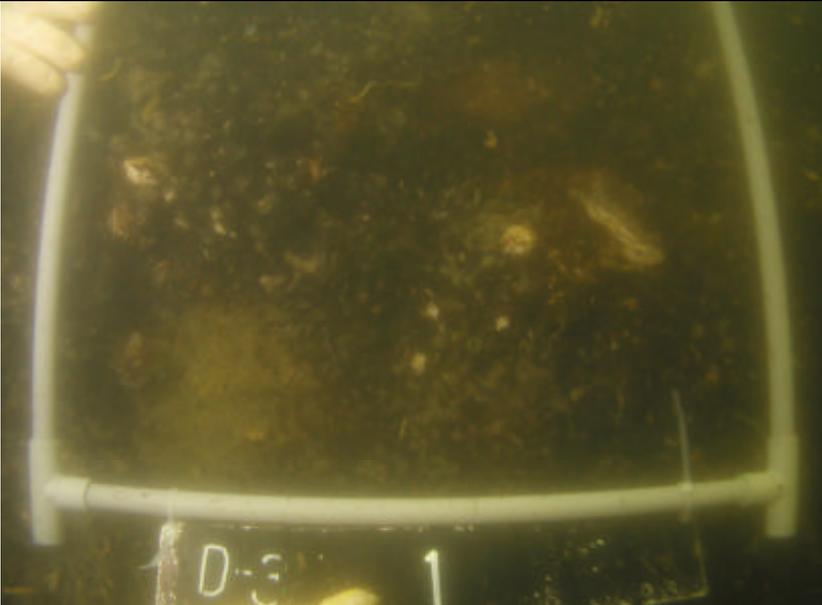
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

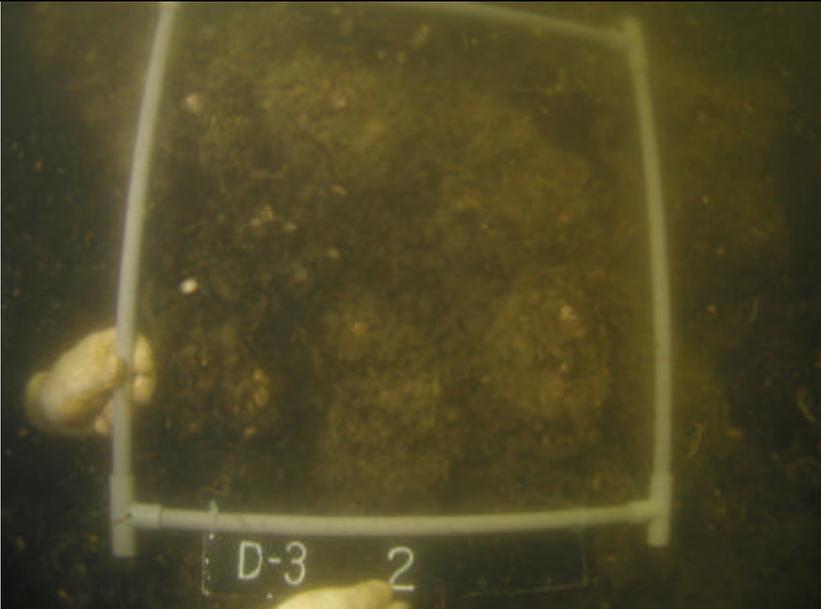
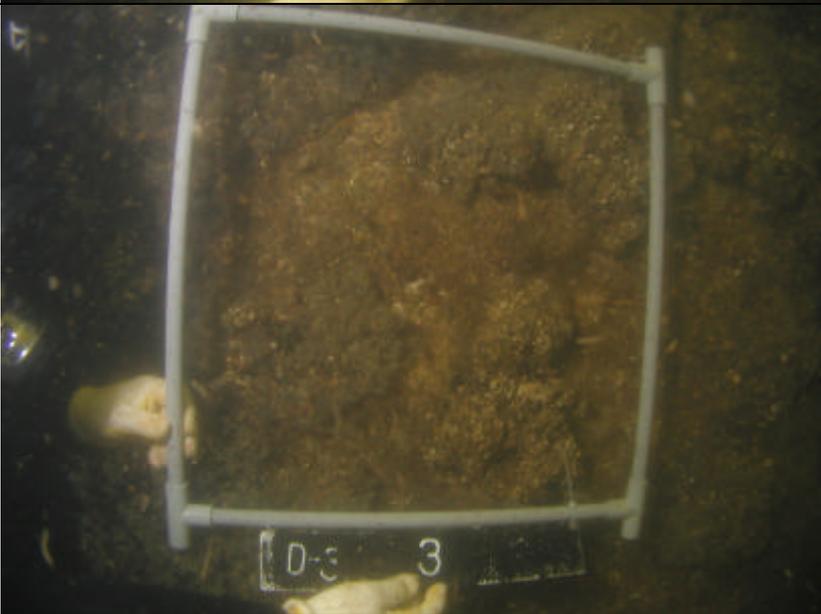
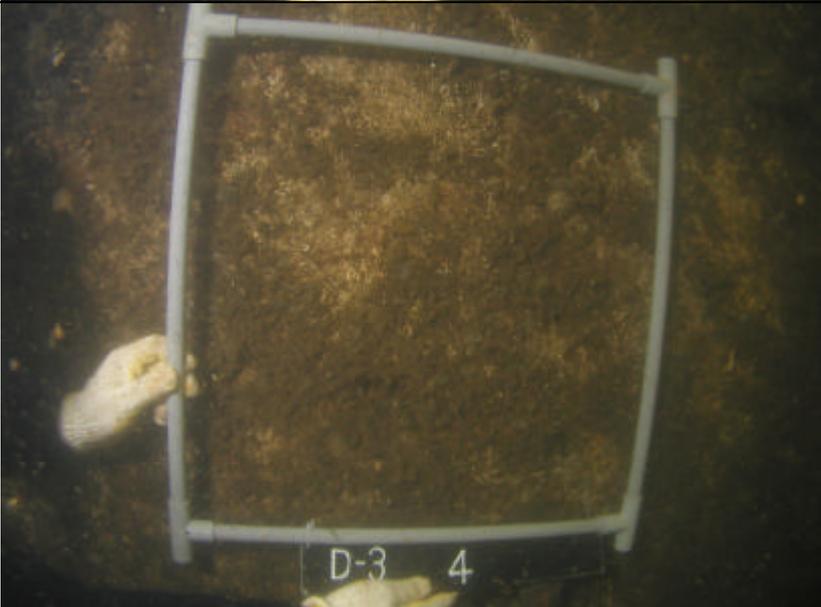
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

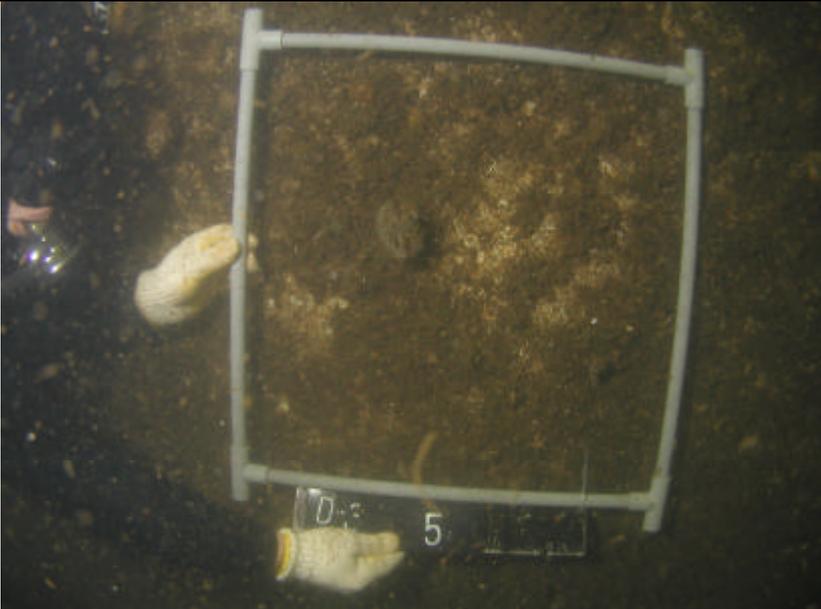
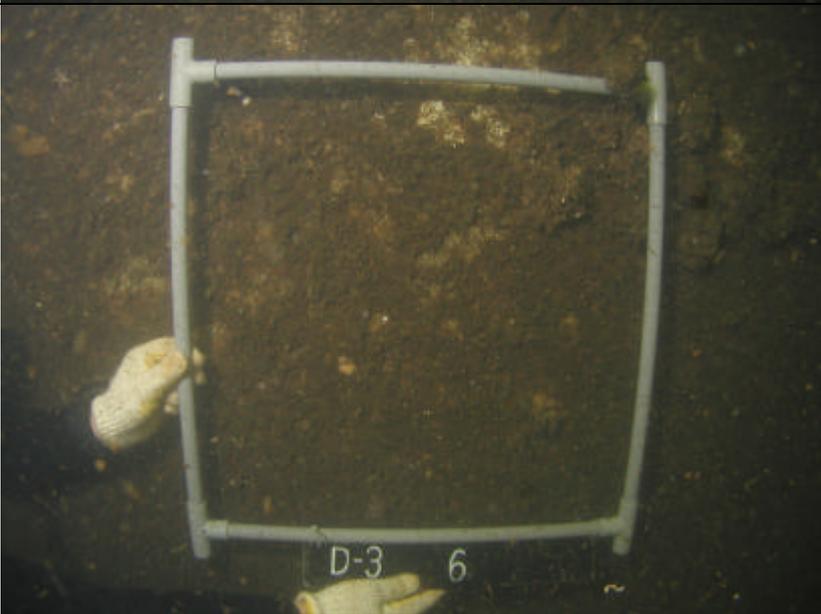
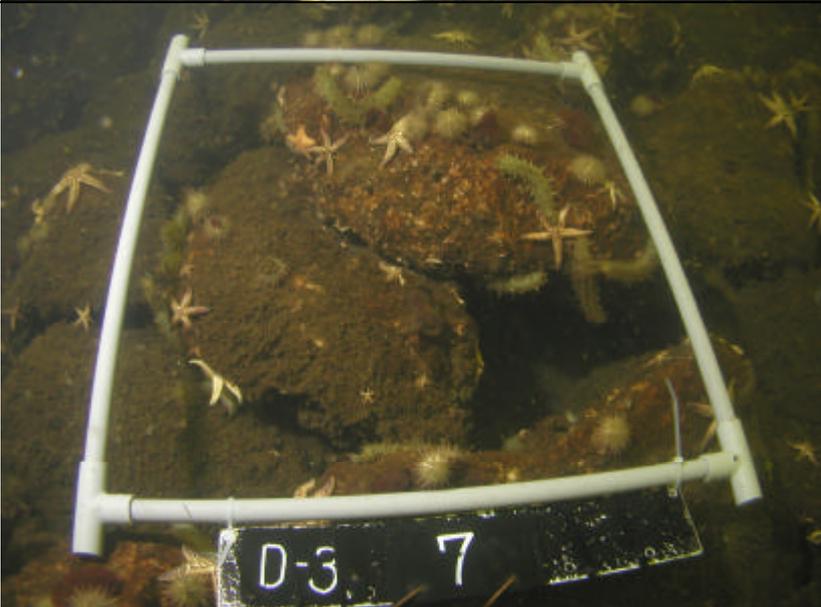
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

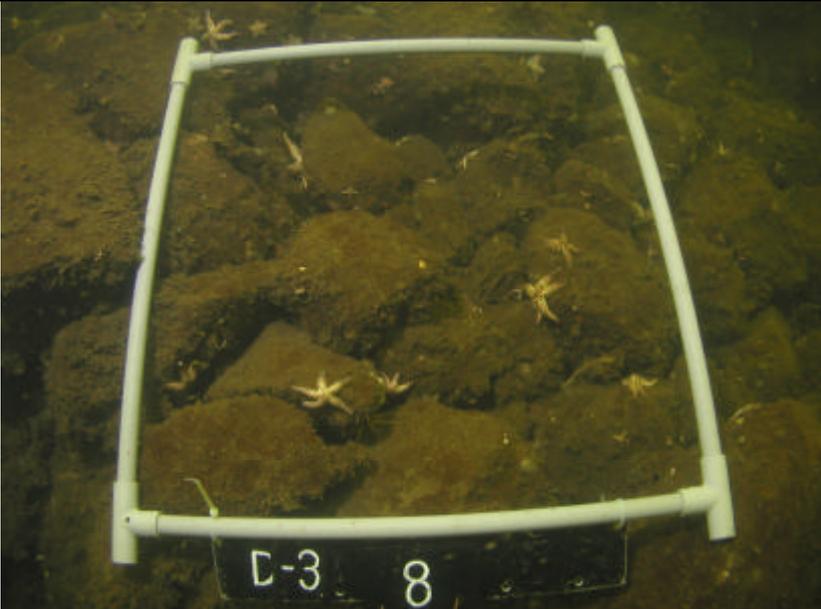
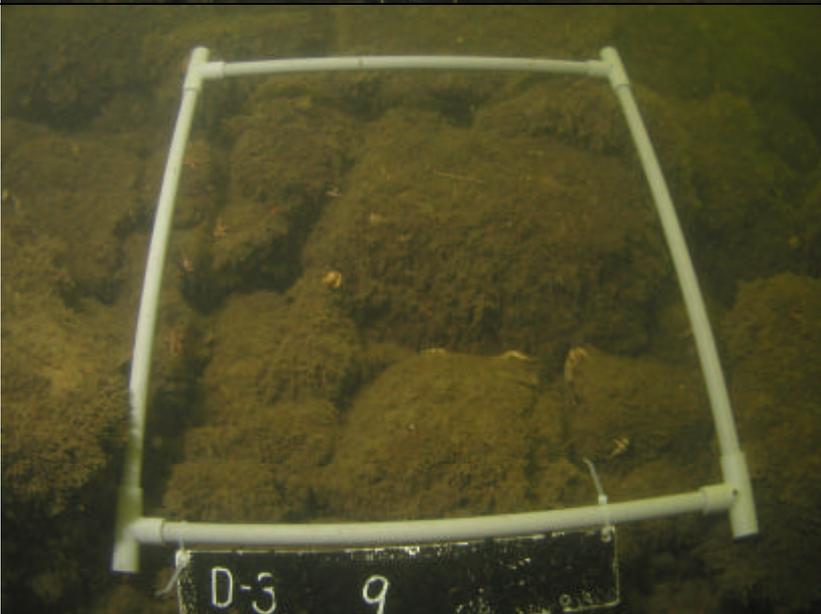
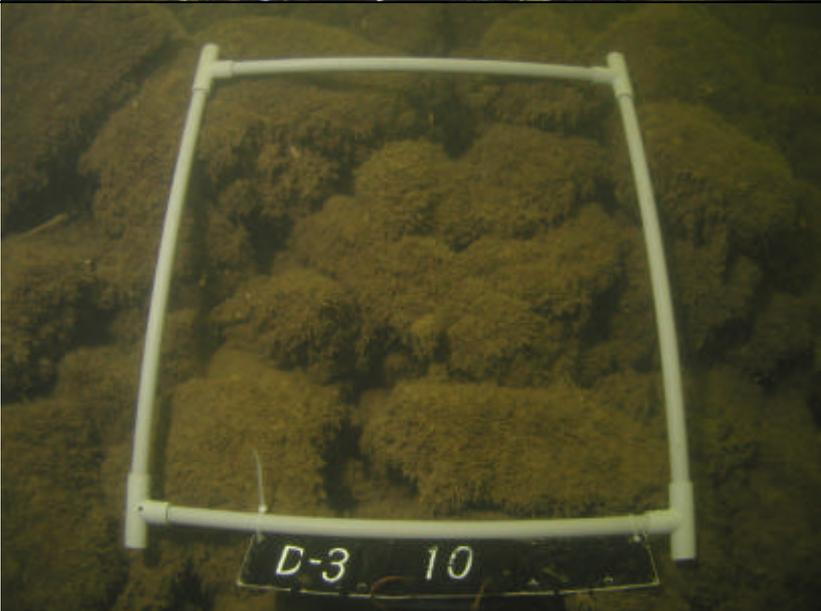
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

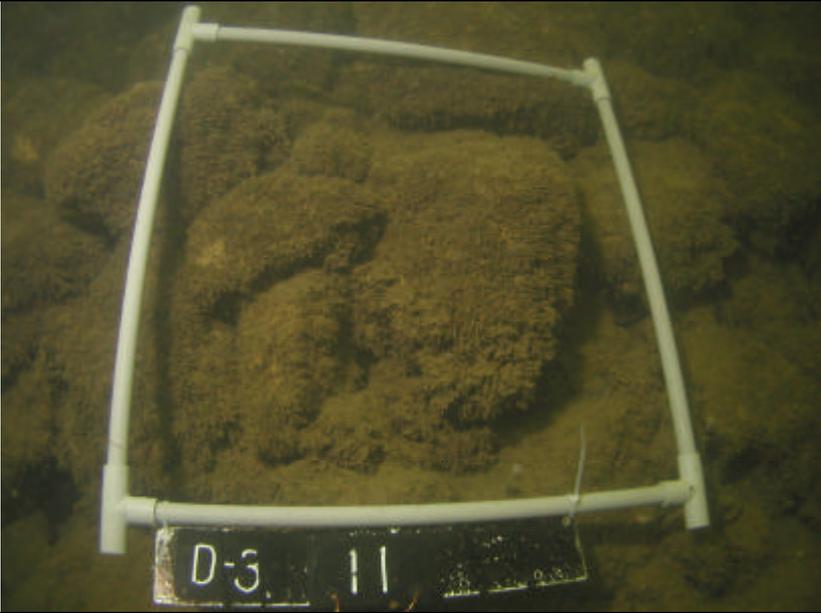
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

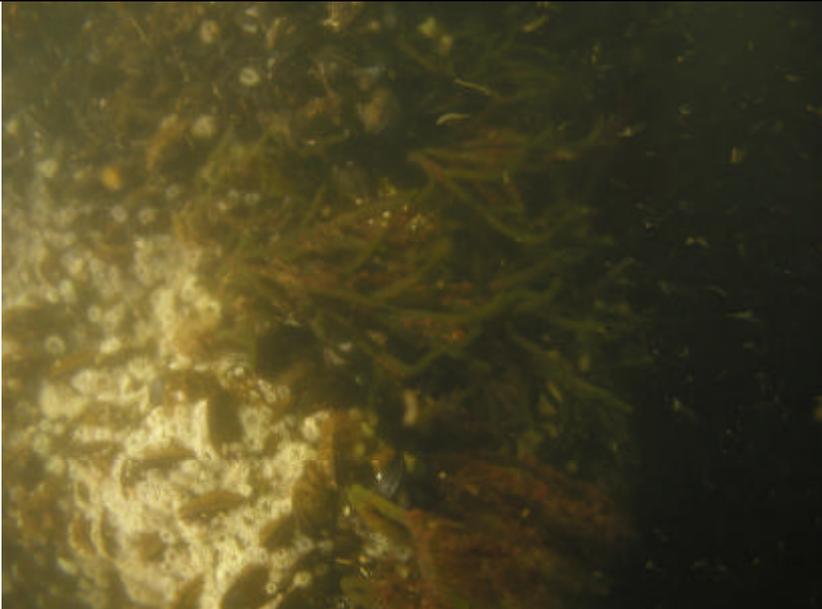
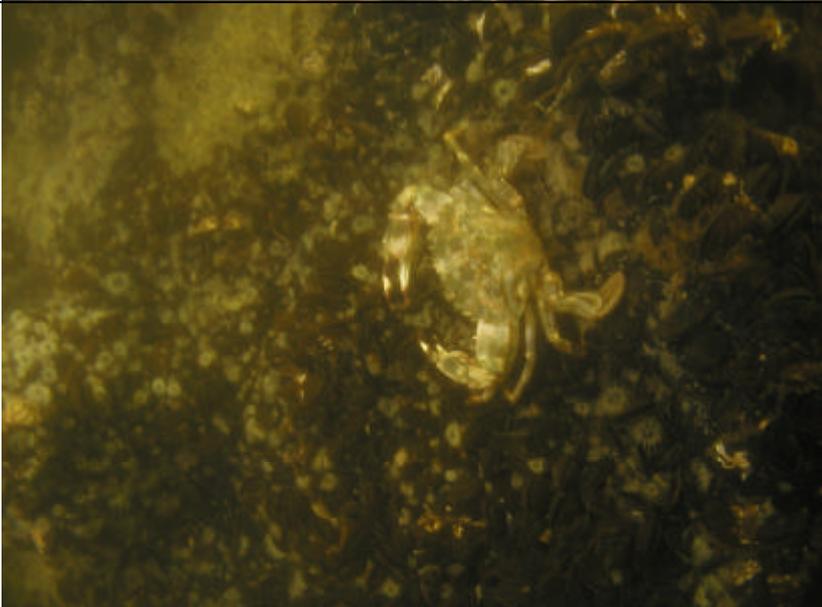
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

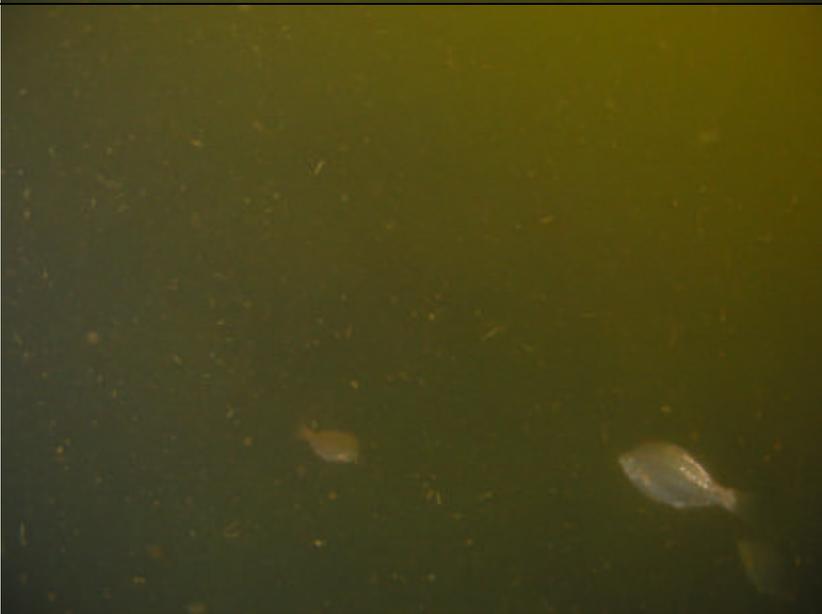
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ワタリガニ科</p>

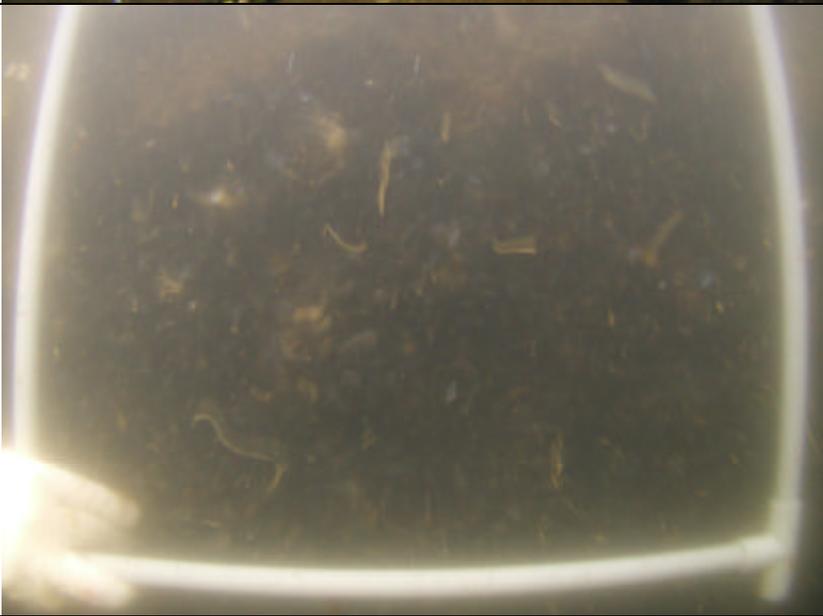
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マダコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>メバル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>カサゴ</p>

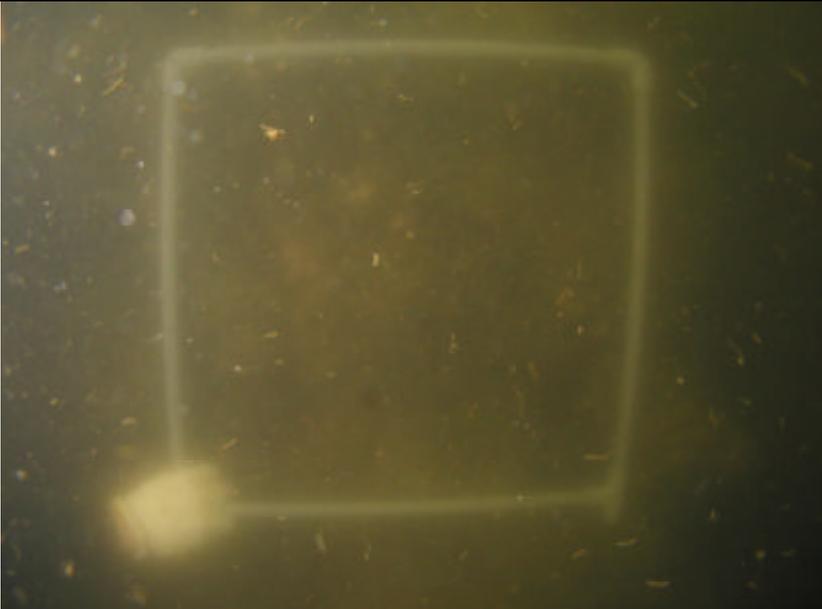
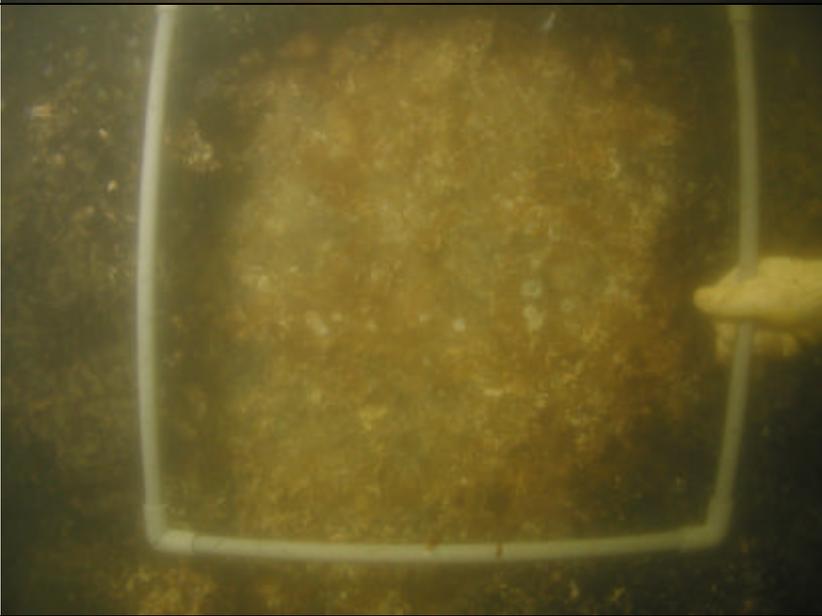
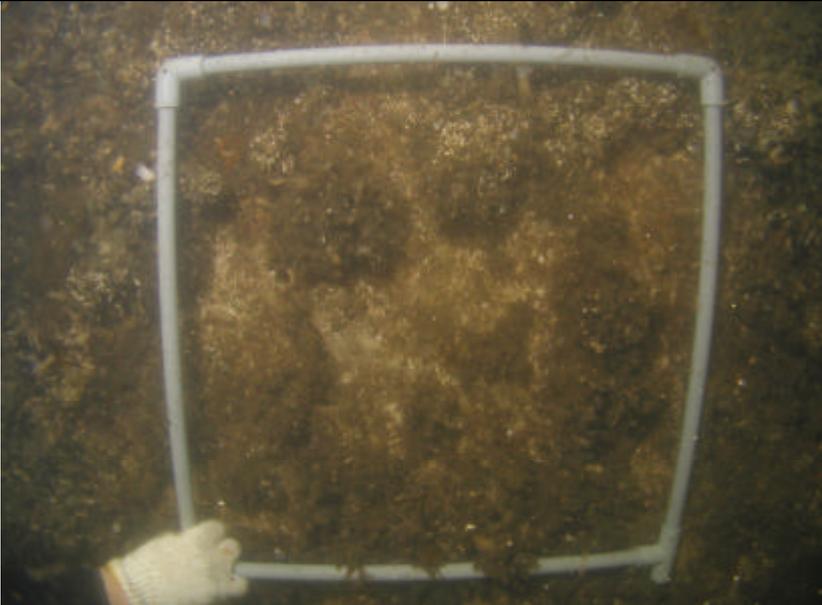
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>イシダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>マナマコ サンショウウニ キヒトデ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>ススカケベニ キヒトデ イトマキヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>粹取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>粹取り後 M.W.L. ±0.0m</p>

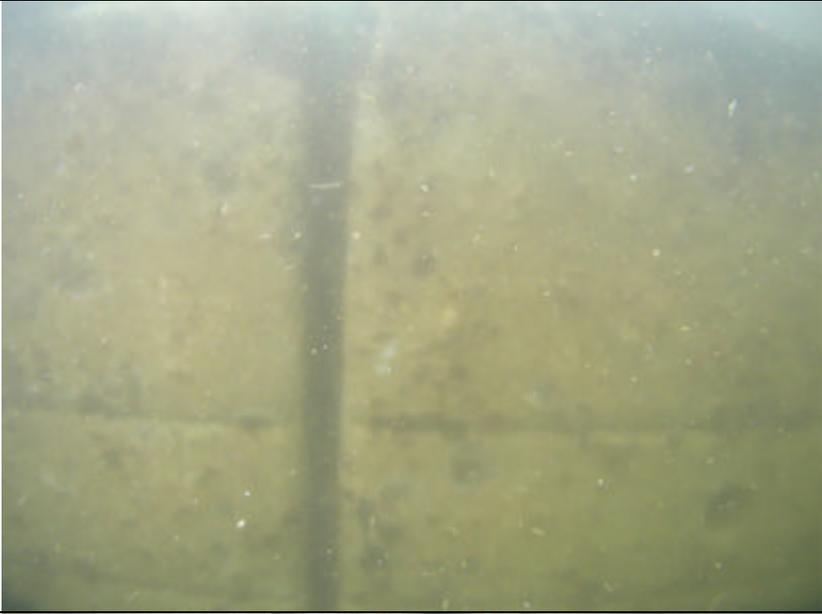
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>
--	--

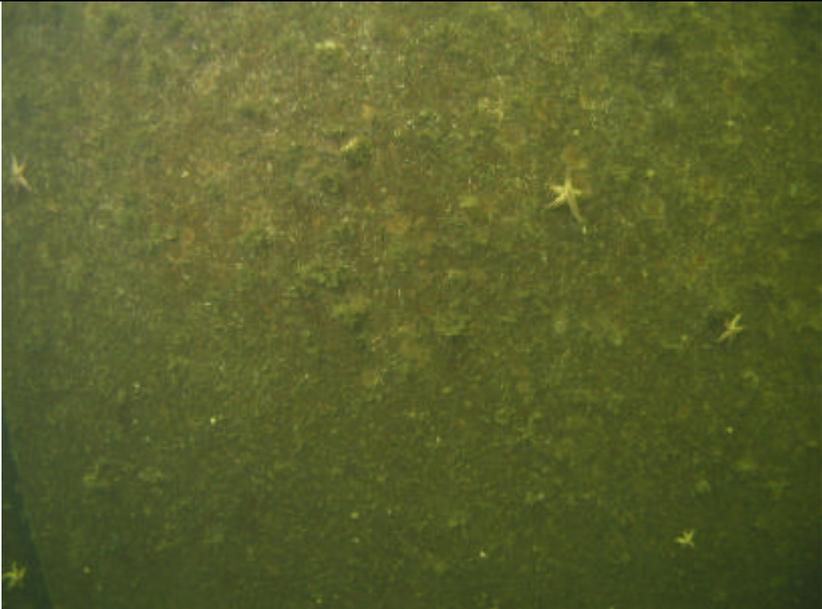
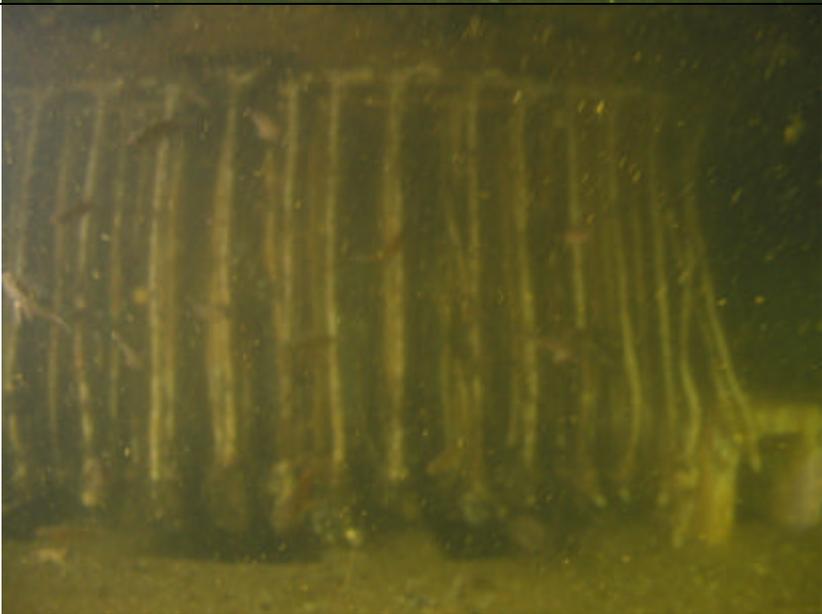
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. + 1.0 ~ ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. ± 0.0 ~ - 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 1.0 ~ - 2.0m</p>

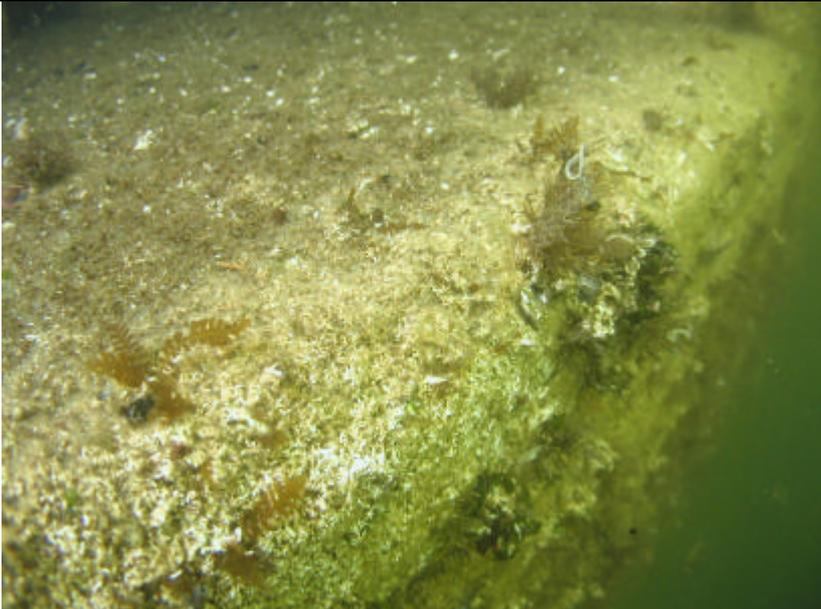
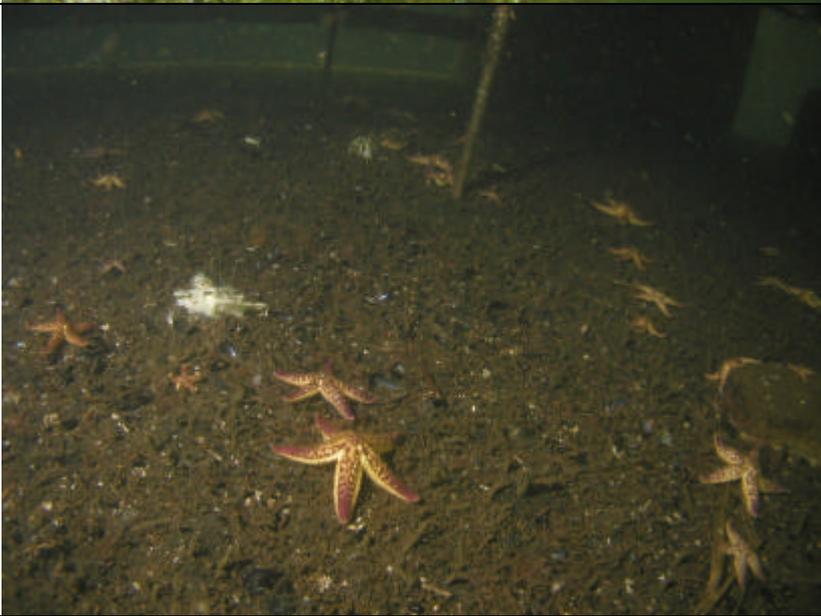
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 2.0 ~ - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 3.0 ~ - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 4.0 ~ - 5.0m</p>

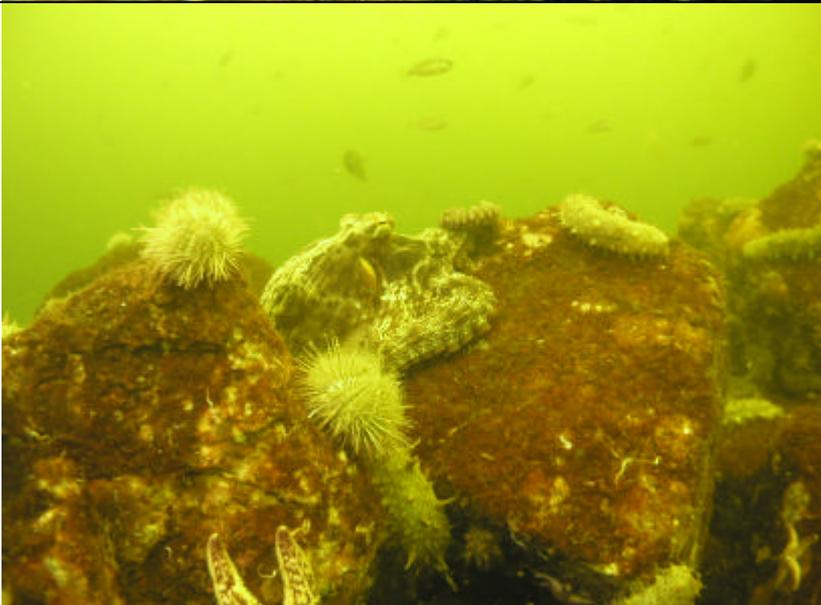
調査日：平成 19 年 8 月 1 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 5.0 ~ - 5.5m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

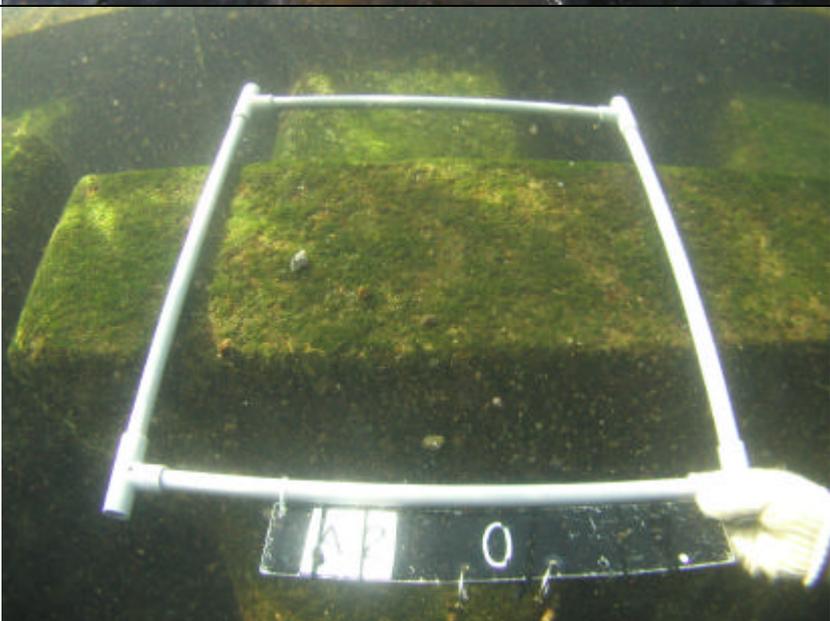
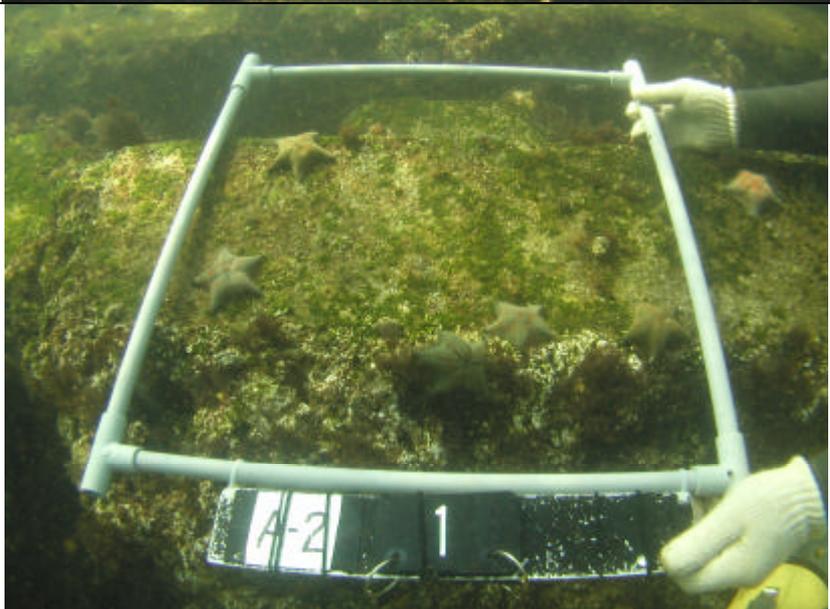
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室（下面）</p> <p>シダモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室（下面）</p> <p>キヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 貫通孔</p> <p>メバル</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

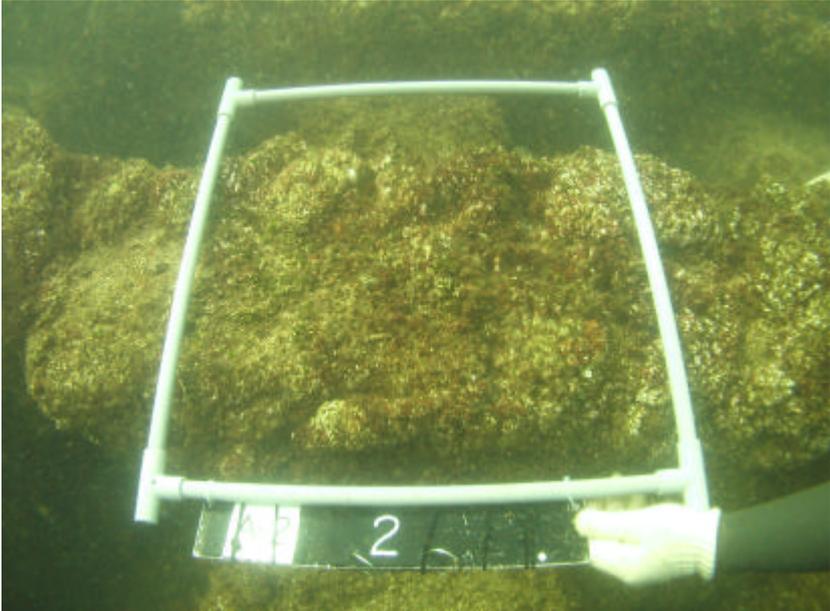
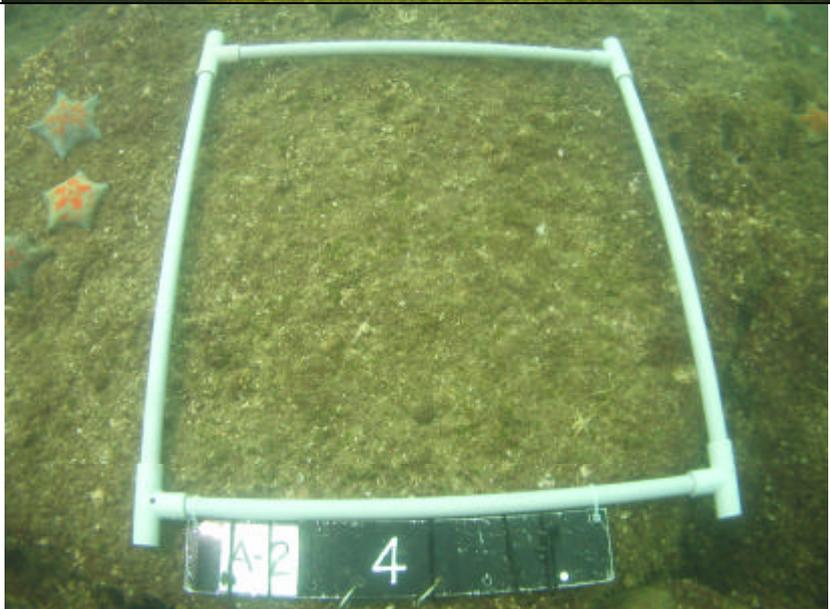
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 貫通孔</p> <p>クジメ マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 貫通孔</p> <p>カレイ科</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>エコ岸壁前部</p> <p>マダコ サンショウウニ マナマコ</p>

調査日：平成 19 年 8 月 1 日

A . 神戸沖処分場
(平成 19 年 11 月 11 日調査)

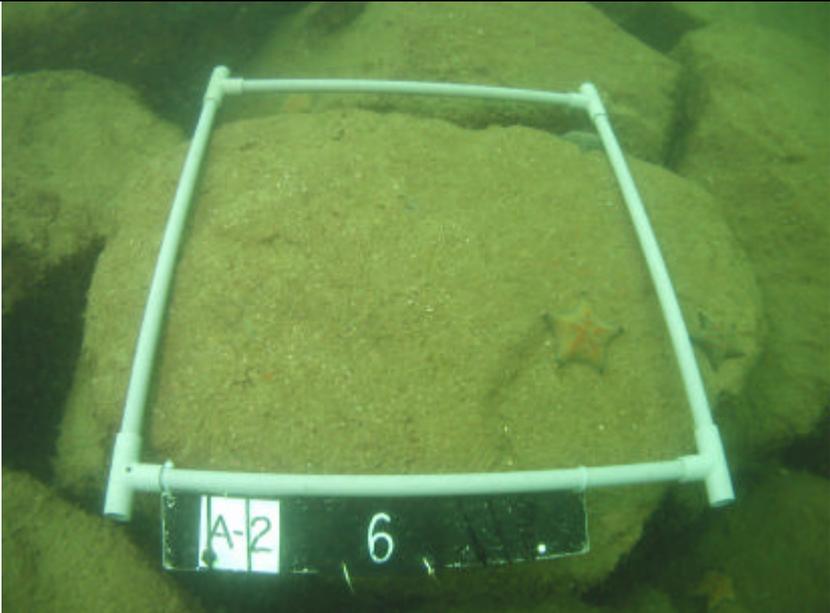
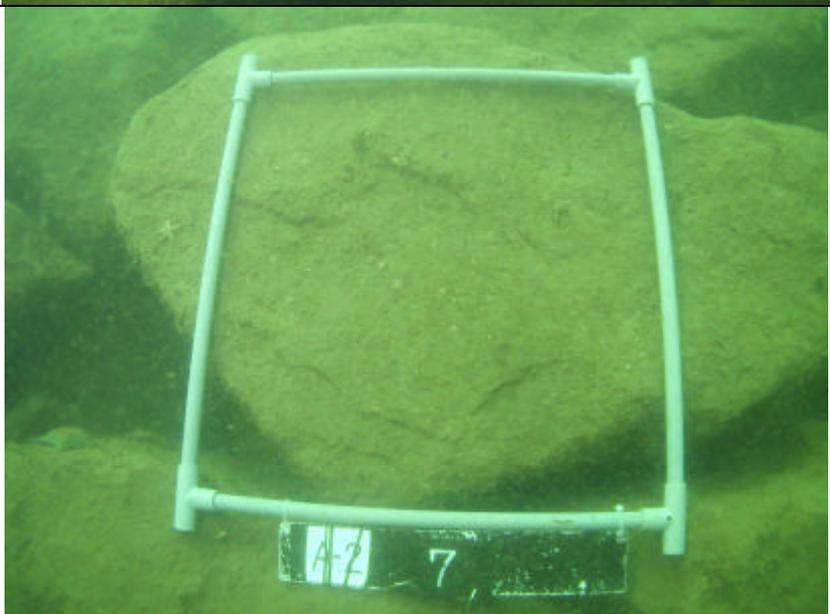
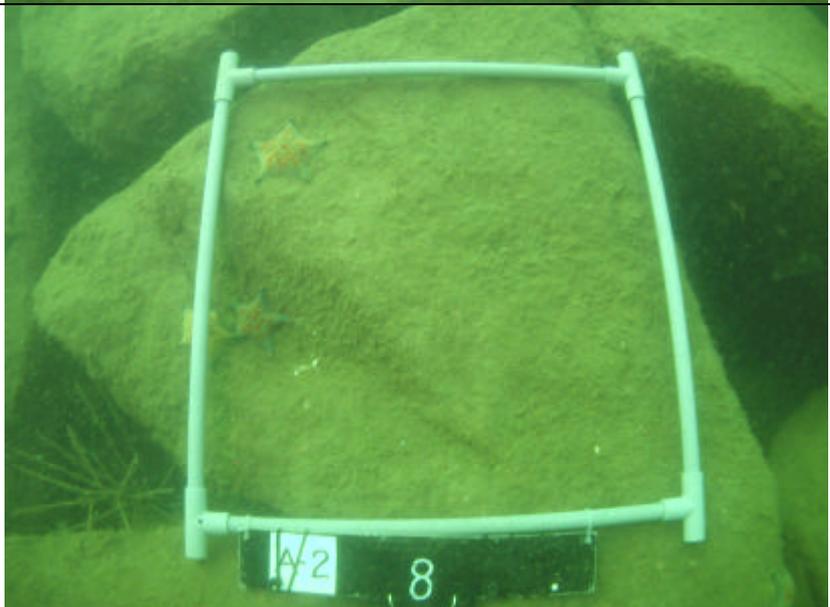
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

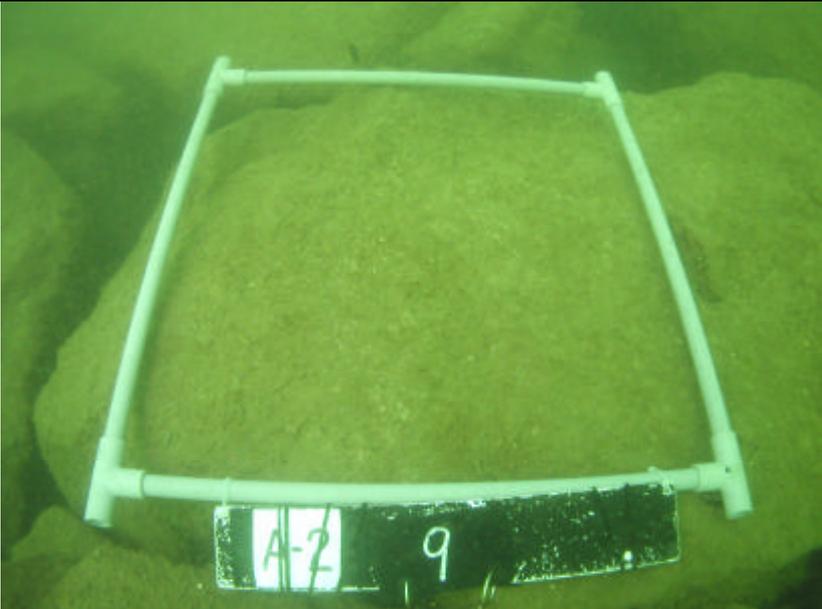
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

(調査点A - 2 -5.0m 写真撮り忘れ)

	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点A - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>ヤドカリ科</p>

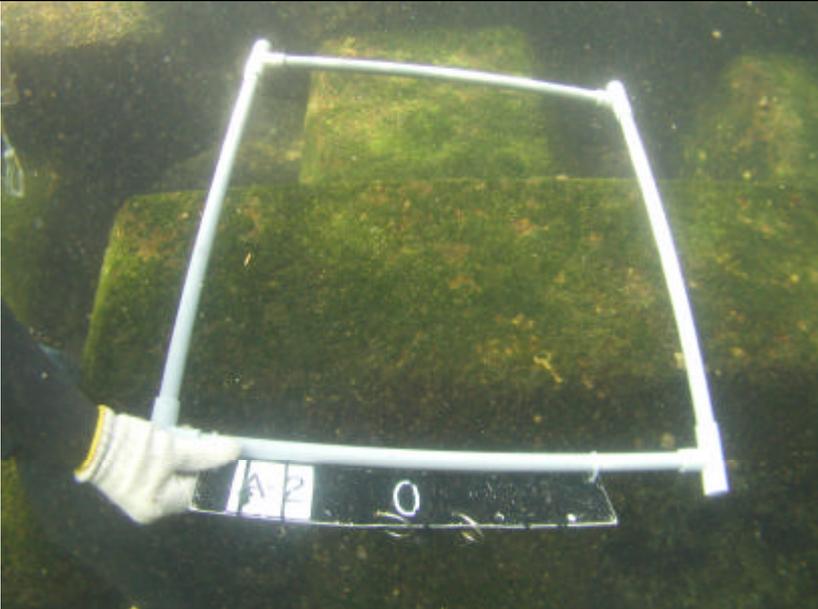
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>イソギンポ科</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>メジナ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>

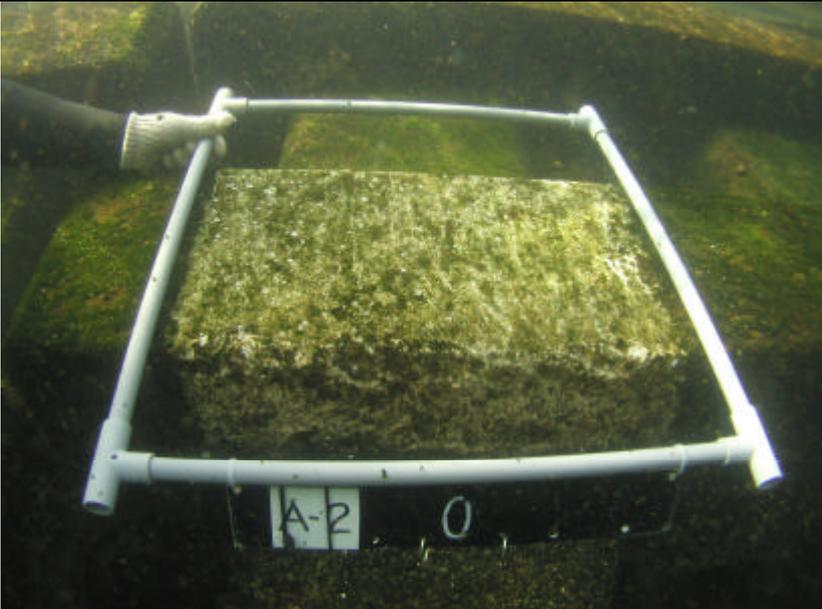
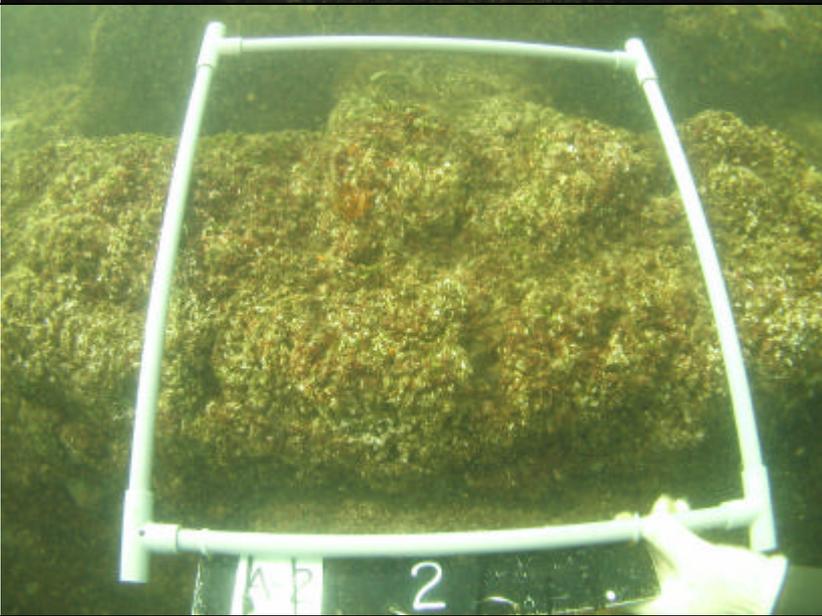
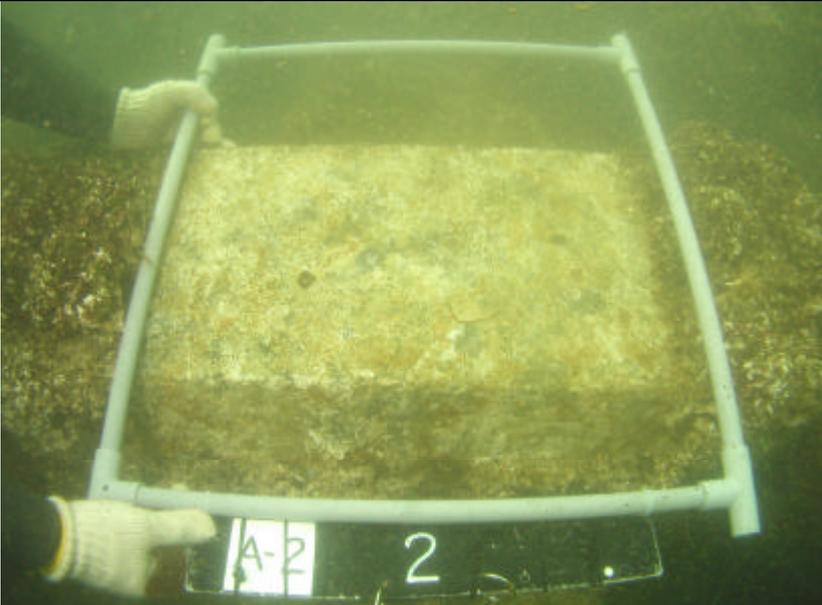
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>キュウセン クロダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ササノハベラ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ボラ</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>マアジ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>

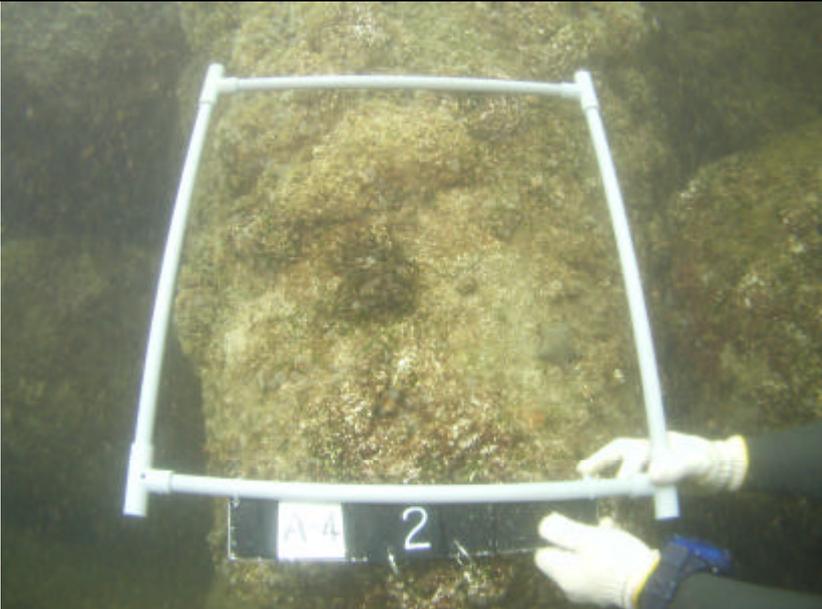
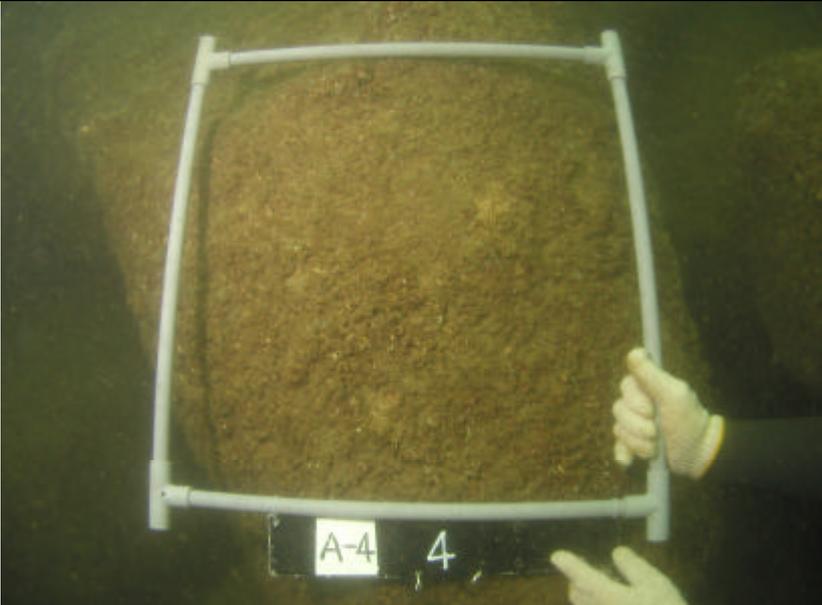
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

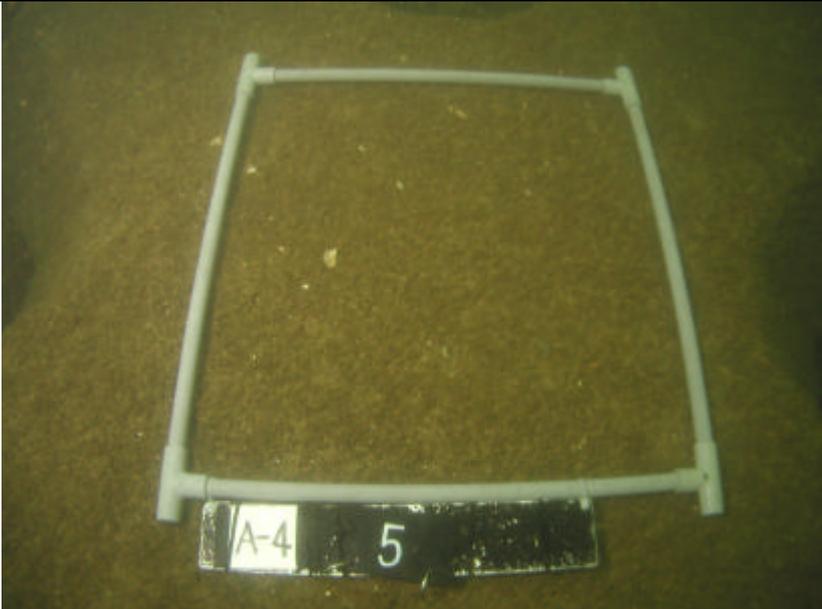
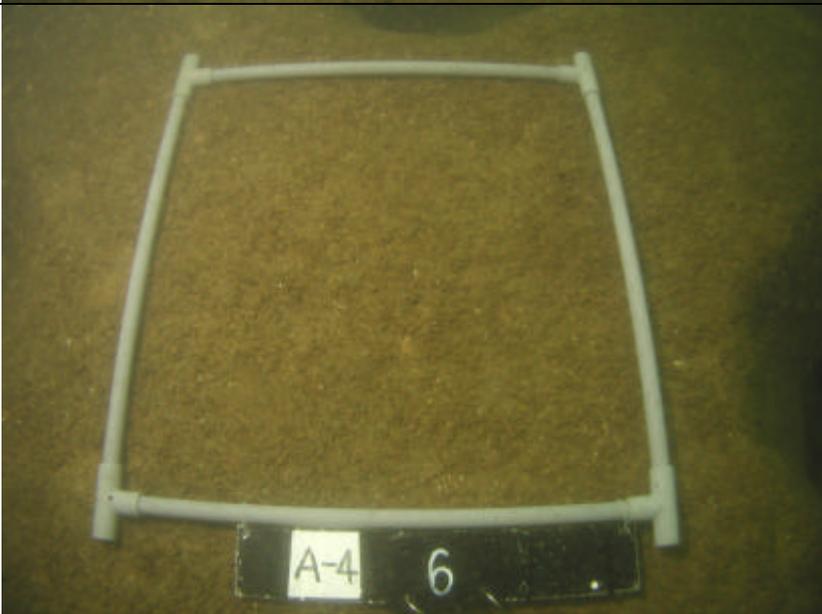
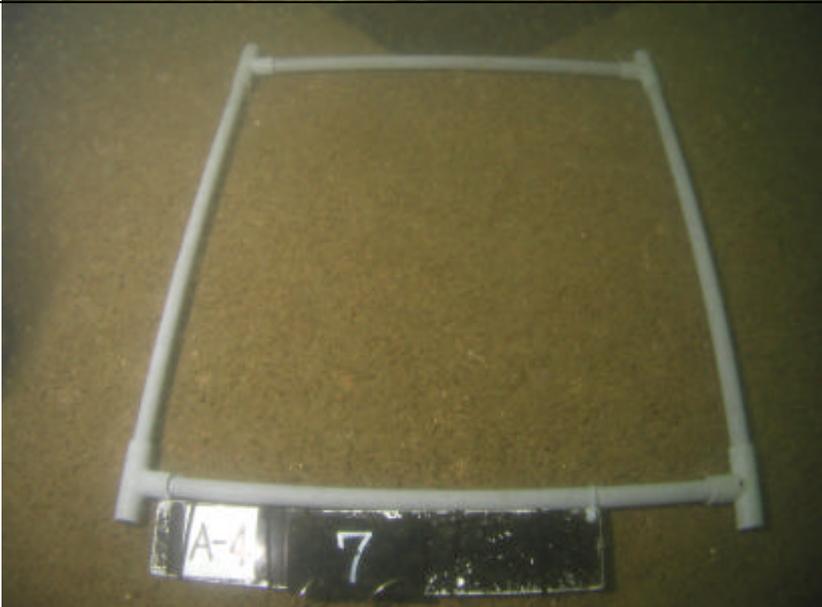
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

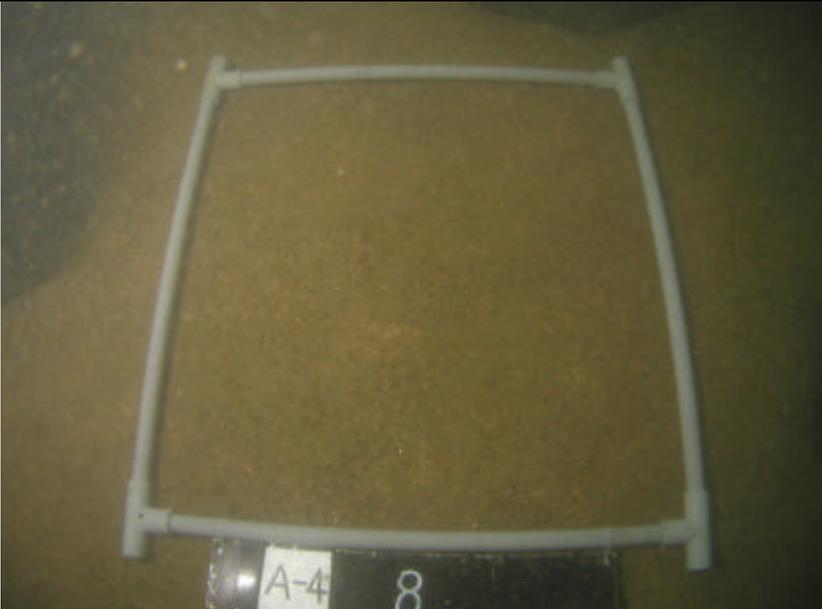
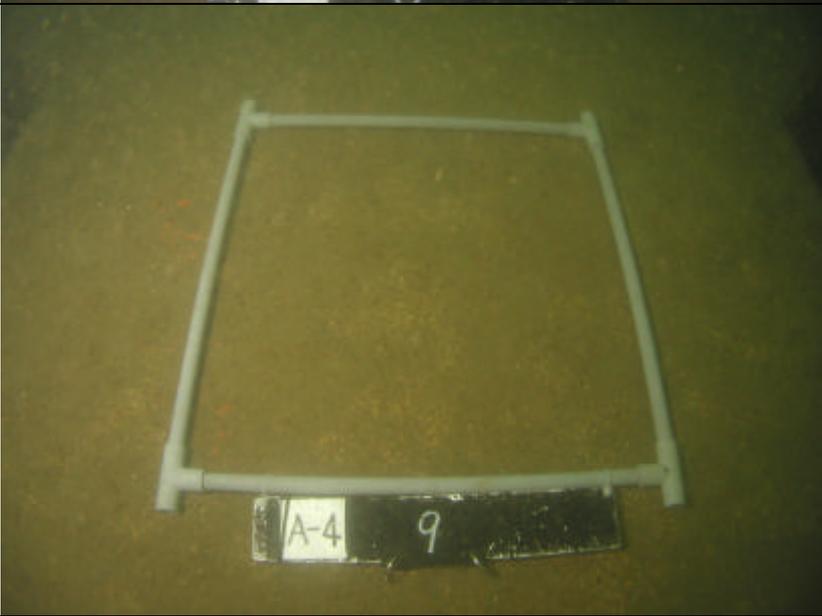
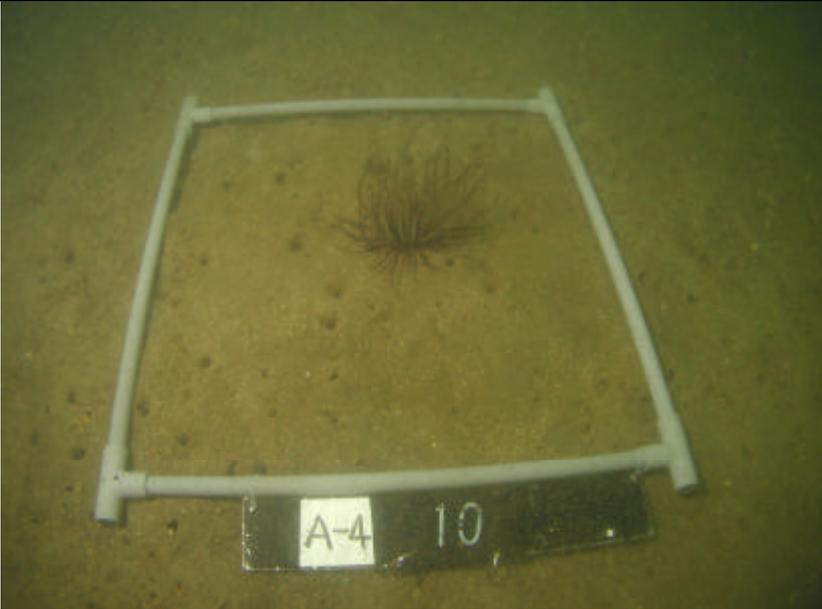
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. + 0.5m 付近</p> <p>イボニシ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 0.0m 付近</p> <p>アオサ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ミル</p>

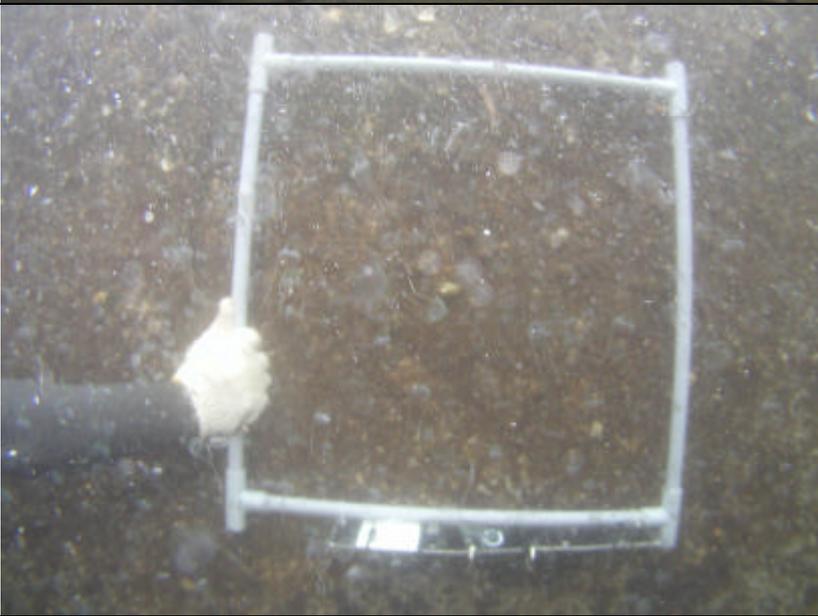
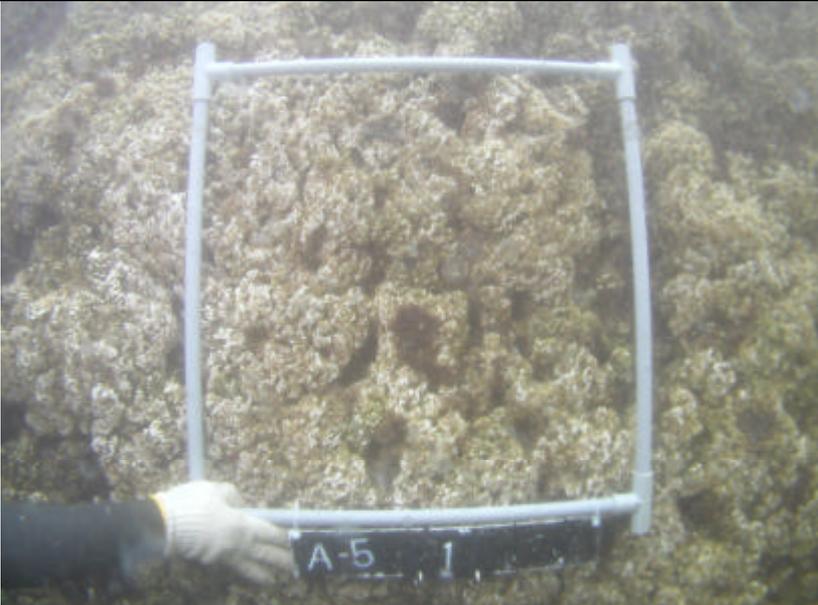
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>クロダイ ボラ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>メバル</p>

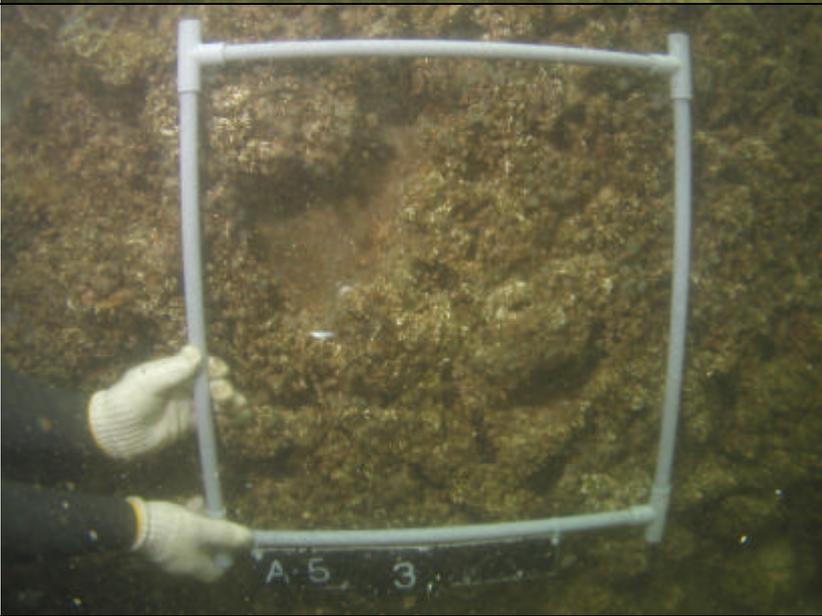
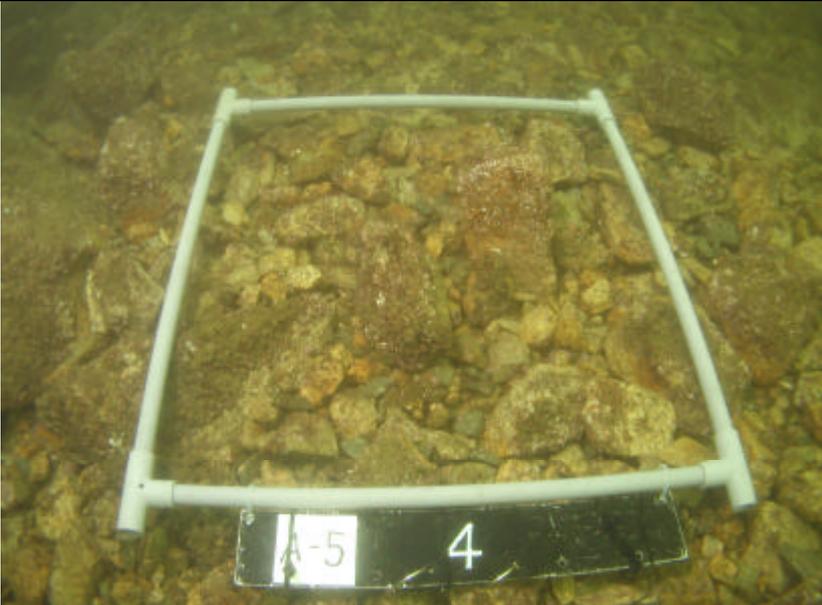
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>

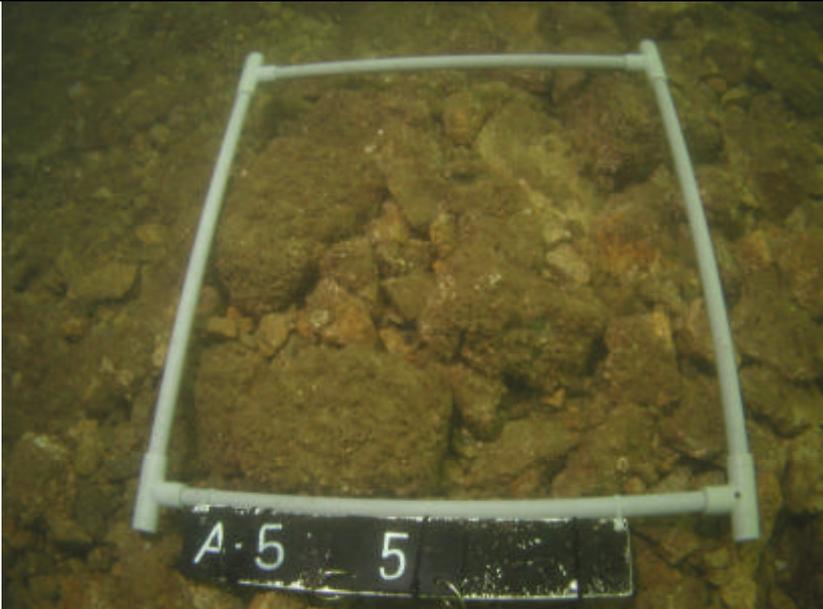
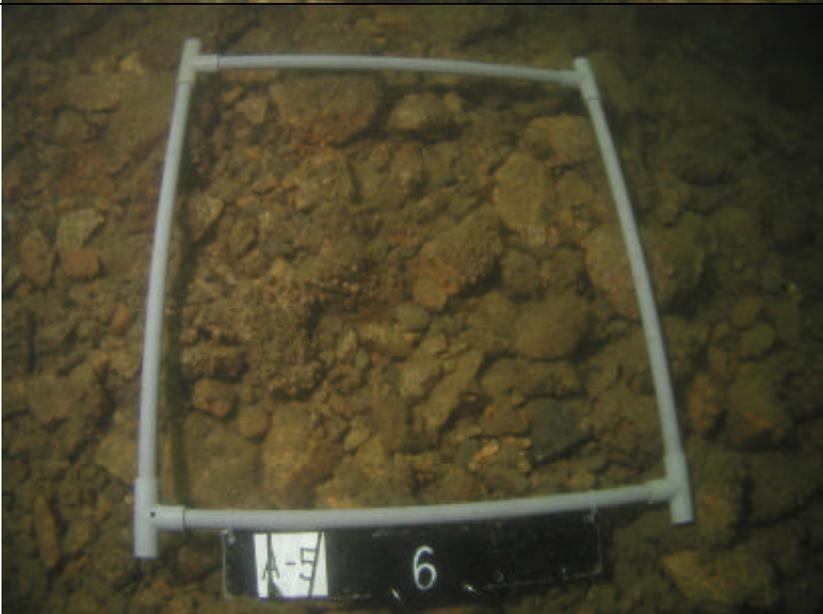
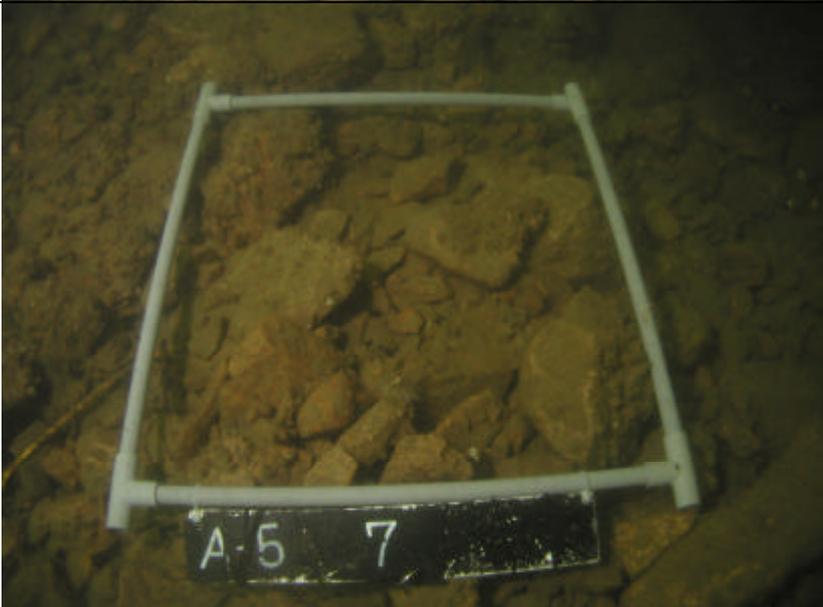
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

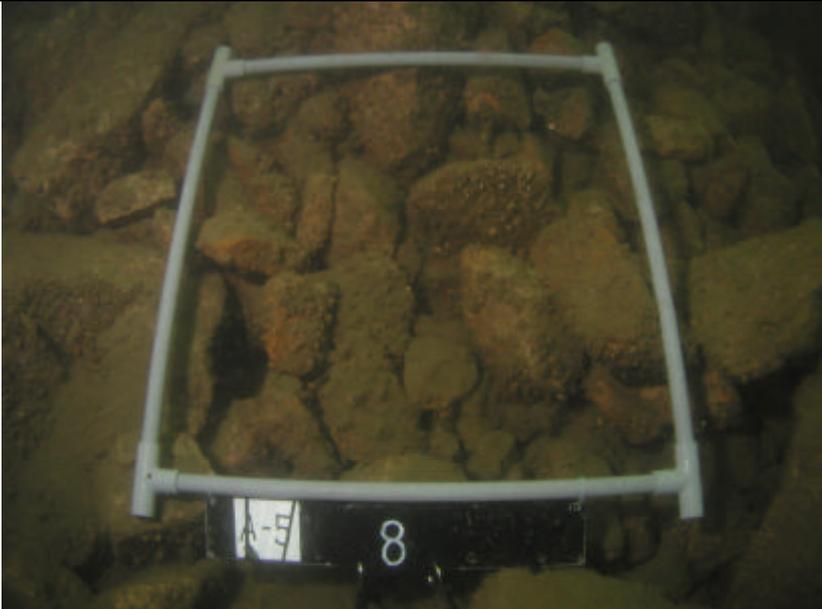
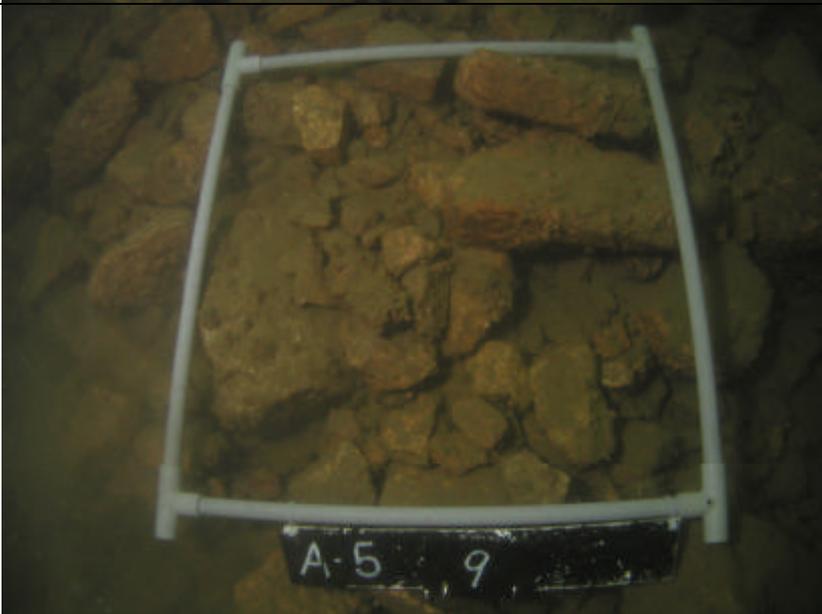
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>イソギンチャク目</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>フサコケムシ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ワタリガニ科</p>

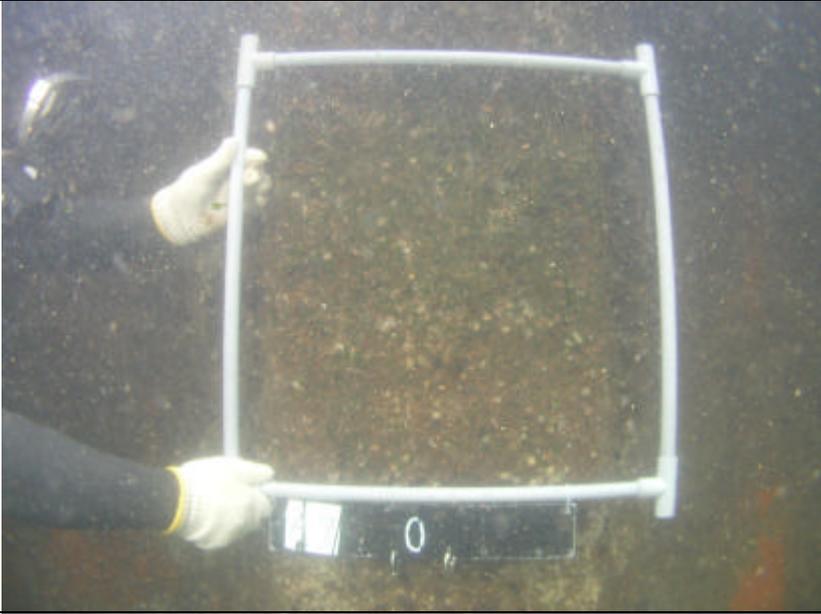
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>カワハギ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>キュウセン</p>

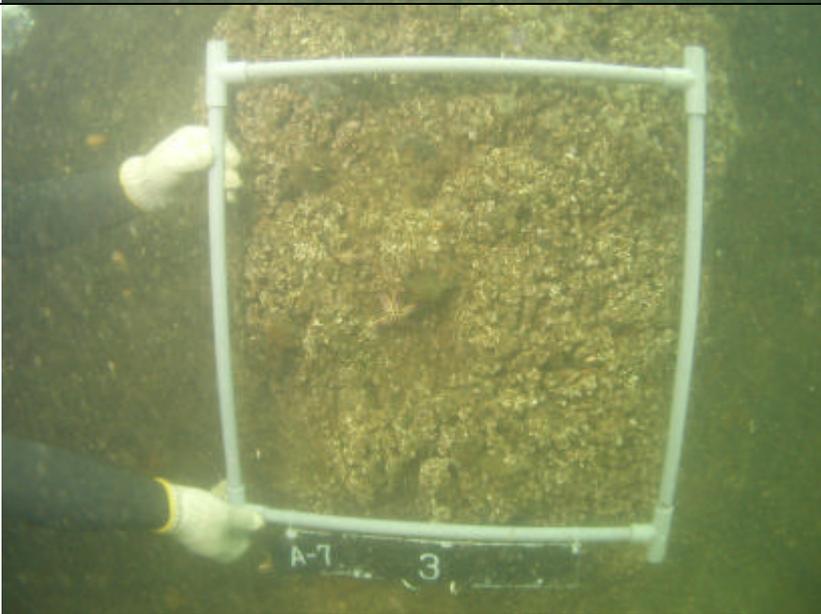
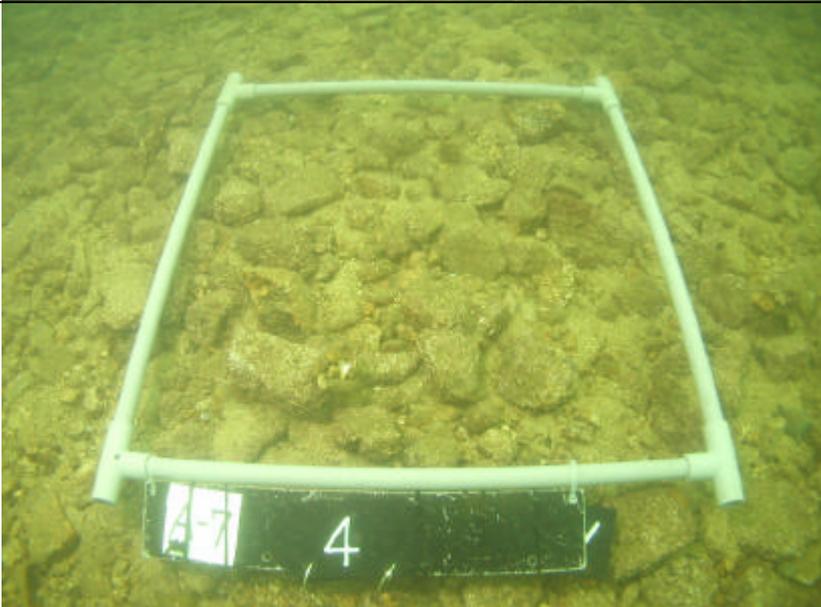
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>タマハハキモク サンショウウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ムラサキウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ボラ</p>

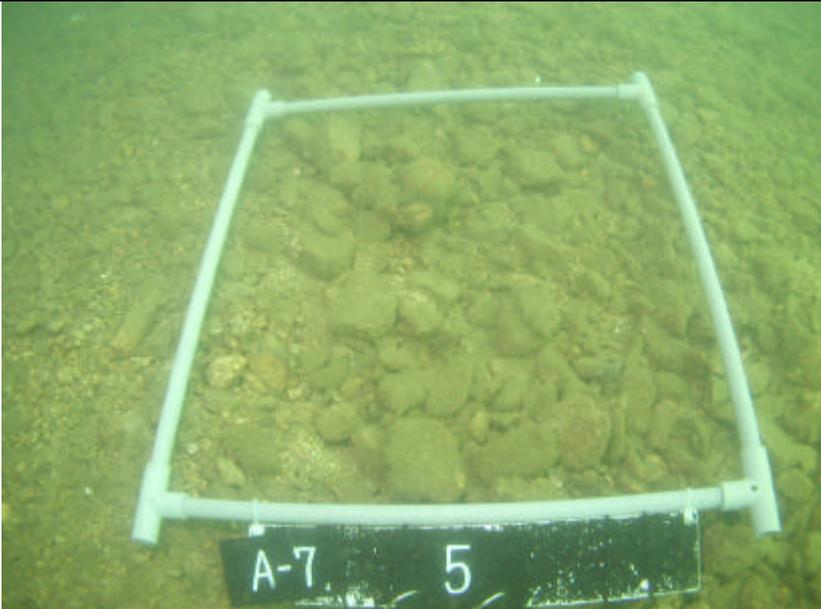
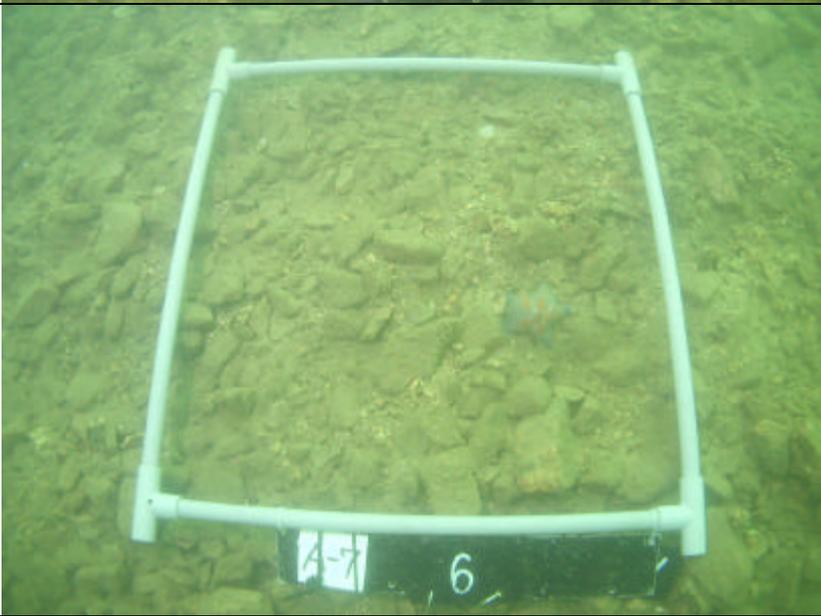
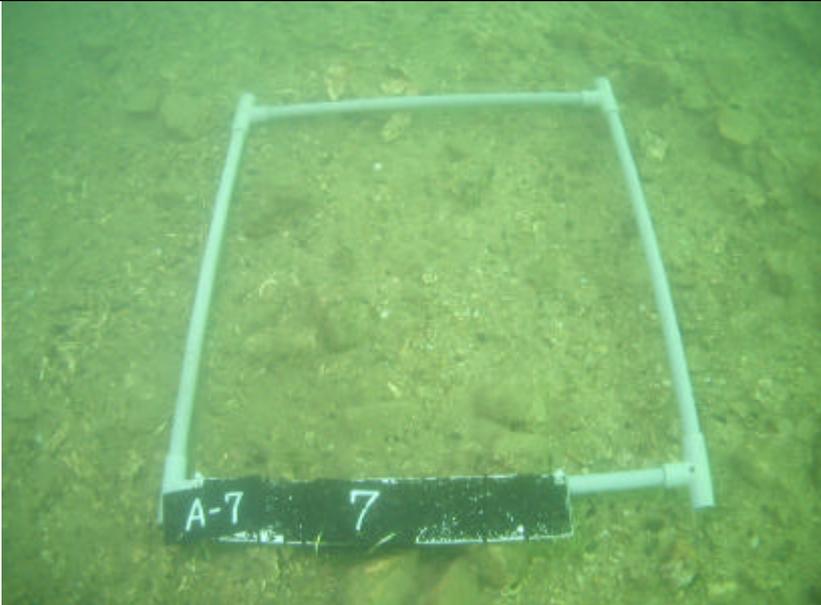
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

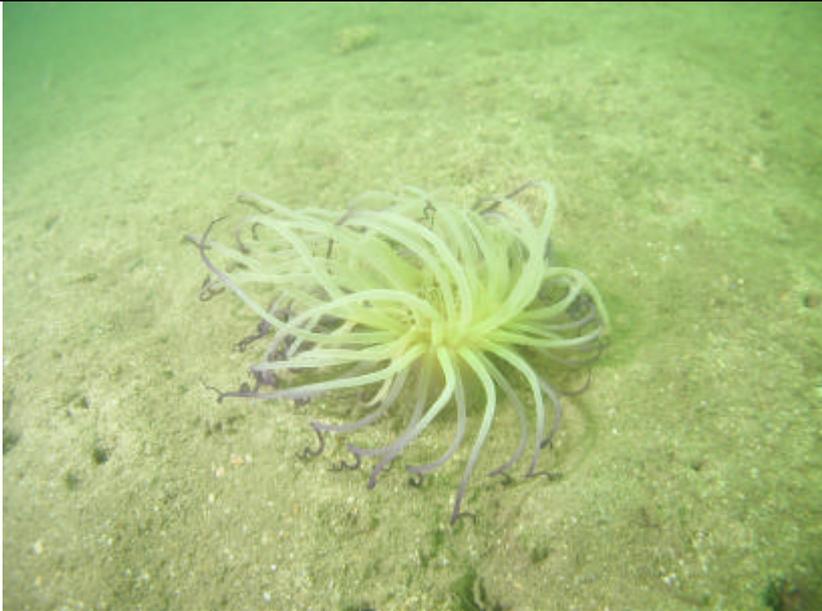
調査日：平成 19 年 11 月 11 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

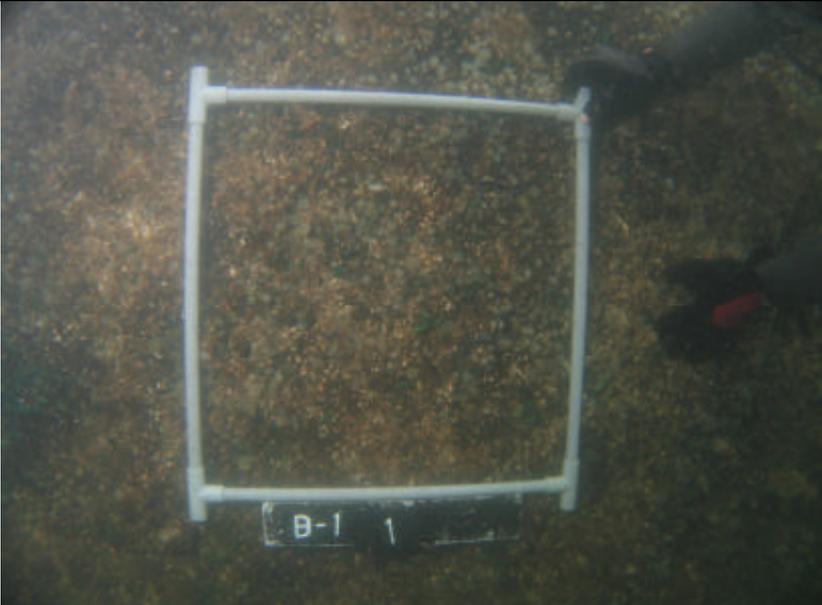
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マナマコ イトマキヒトデ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>マダコ</p>

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

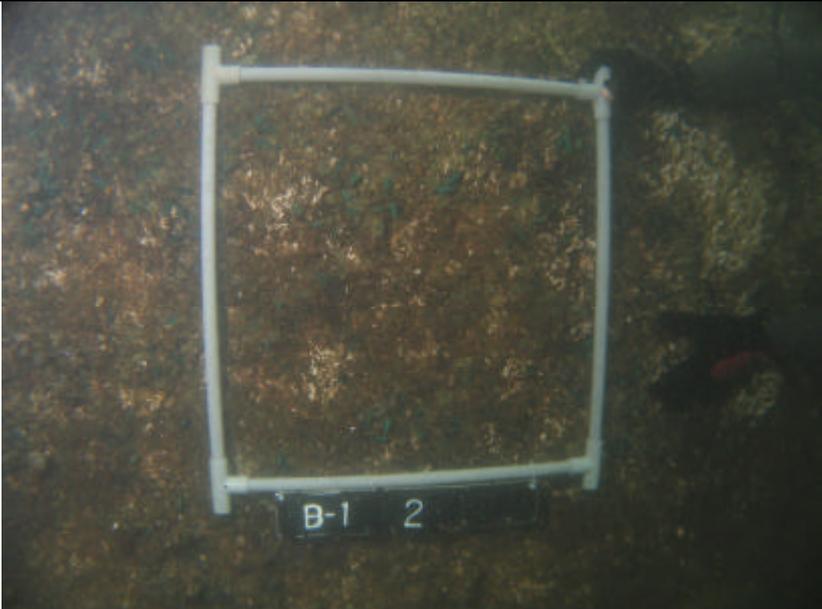
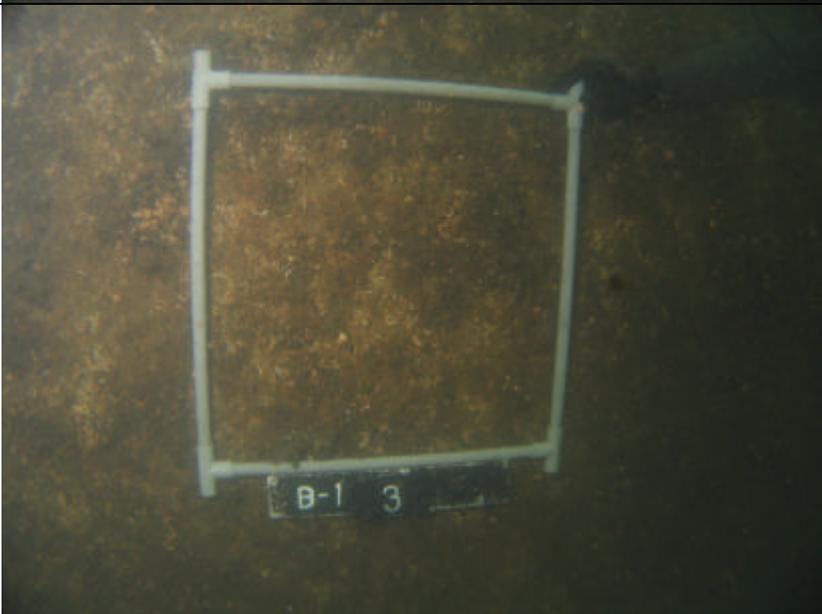
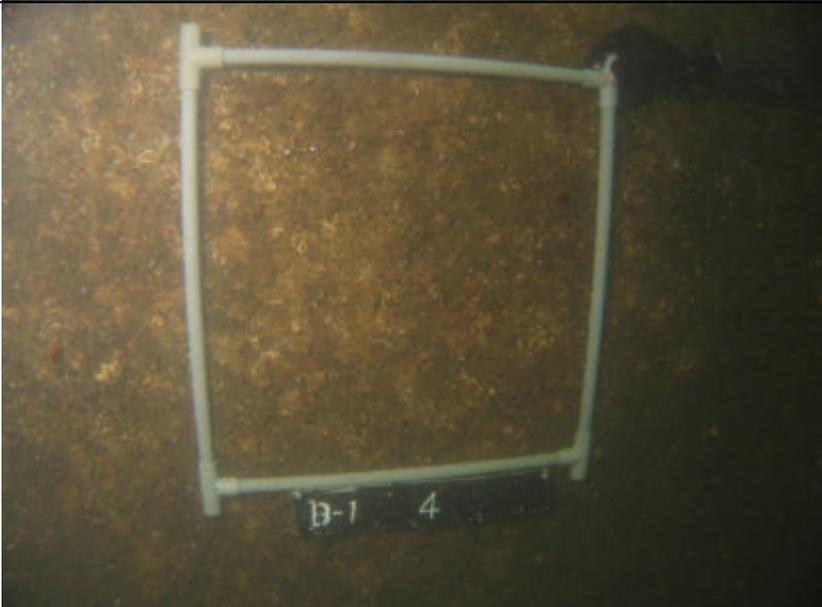
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>
--	--	--

調査日：平成 19 年 11 月 11 日

B . 尼崎沖処分場
(平成 19 年 11 月 2 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

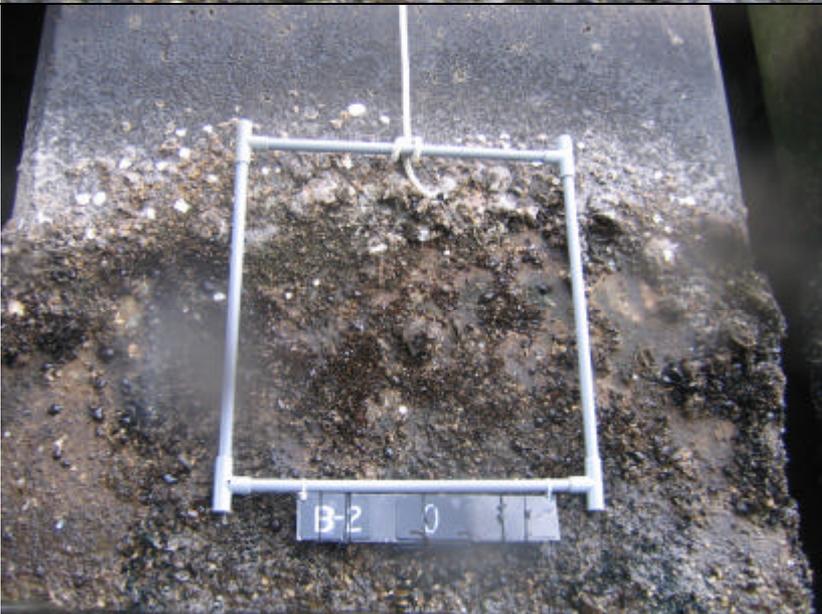
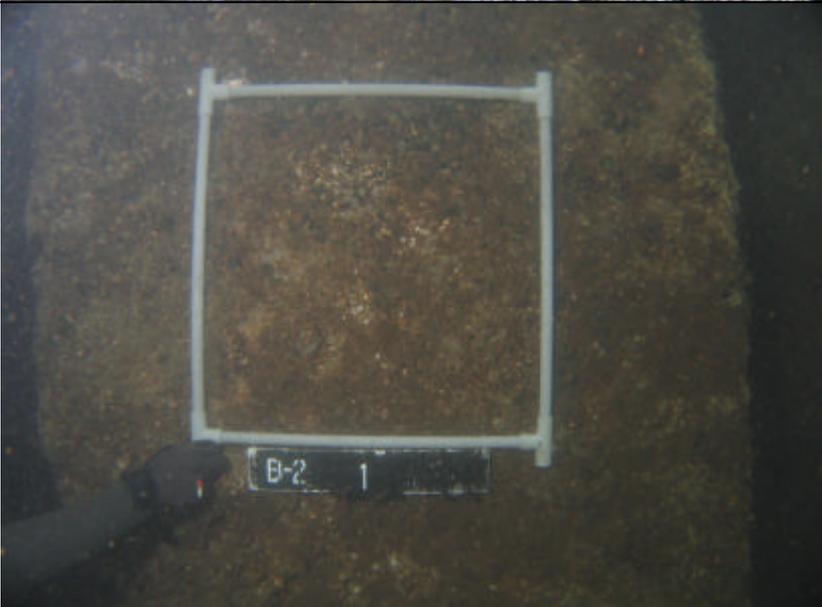


生物調査

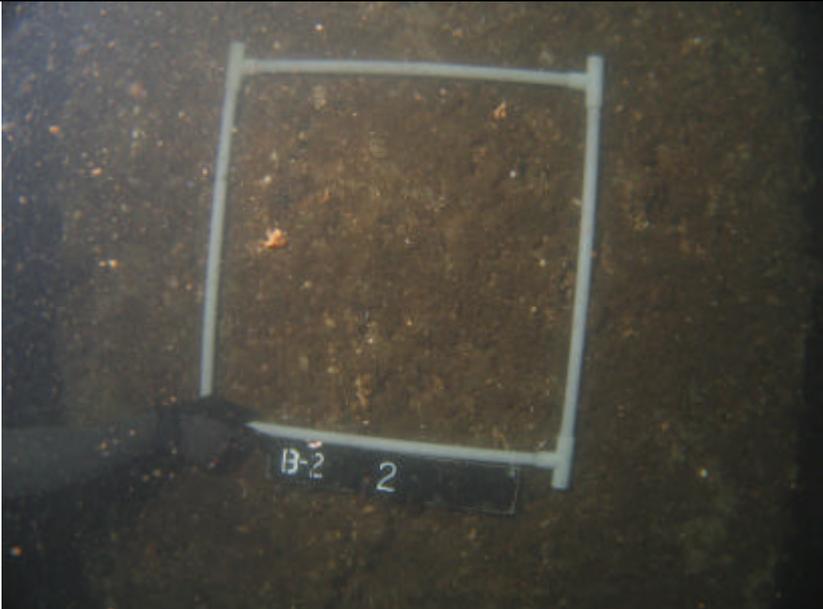
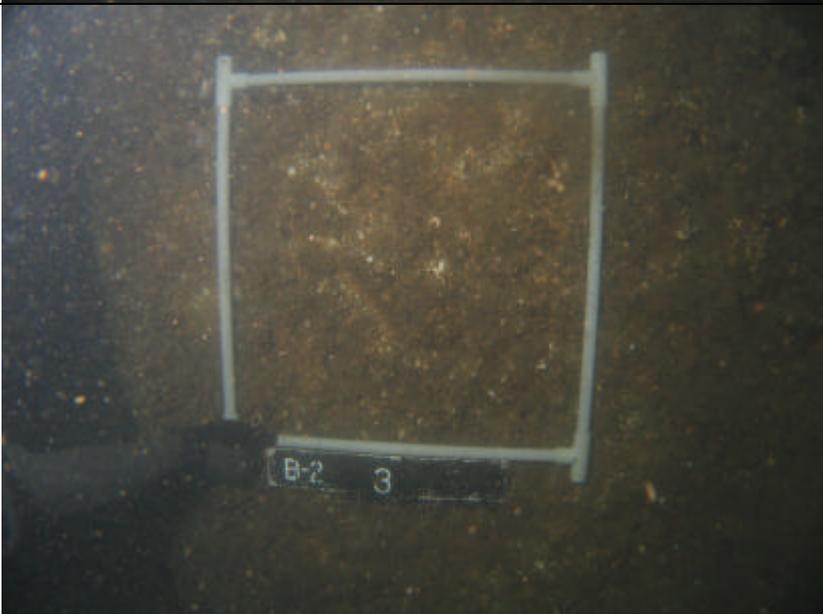
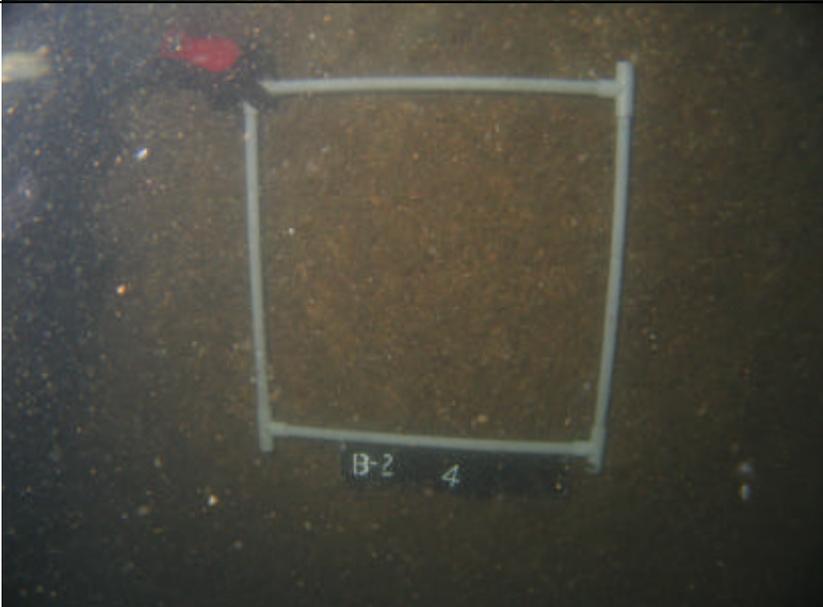
調査点 B - 1

M.W.L. - 5.0m

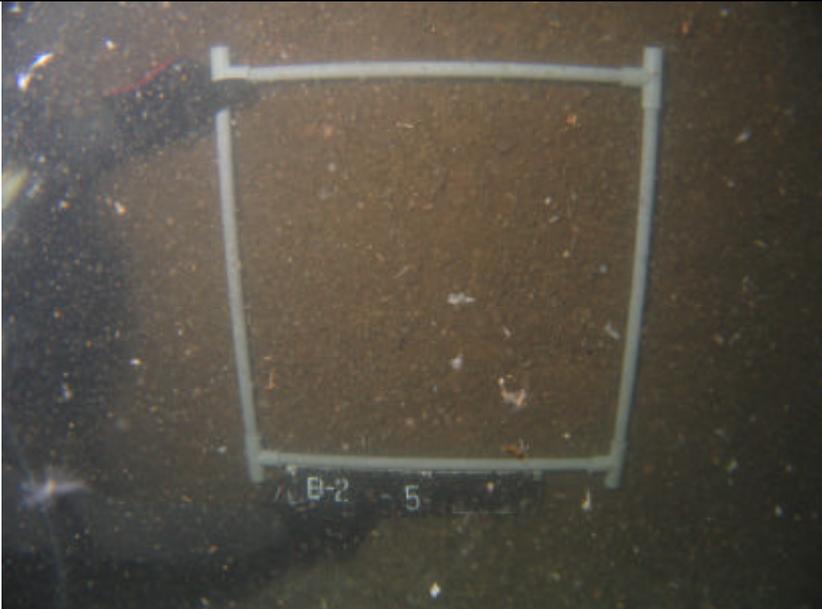
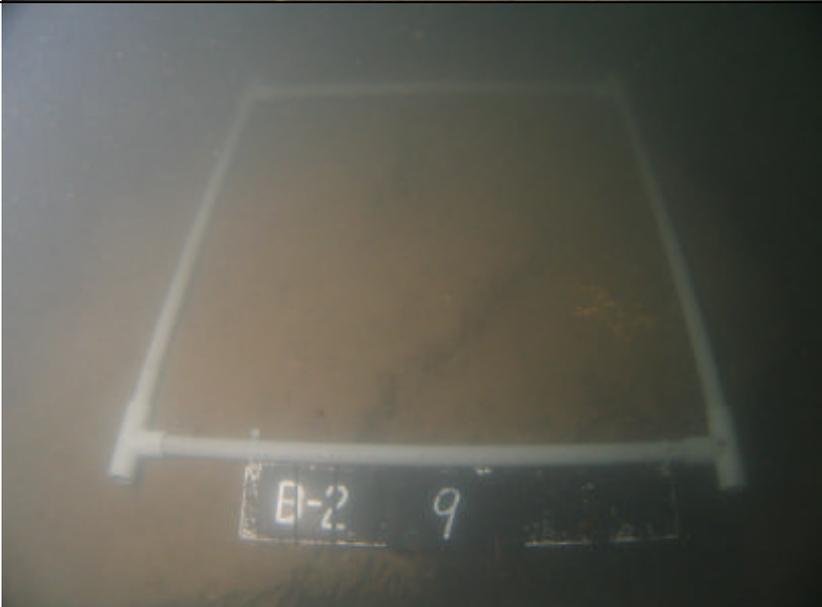
調査日：平成 19 年 11 月 2 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

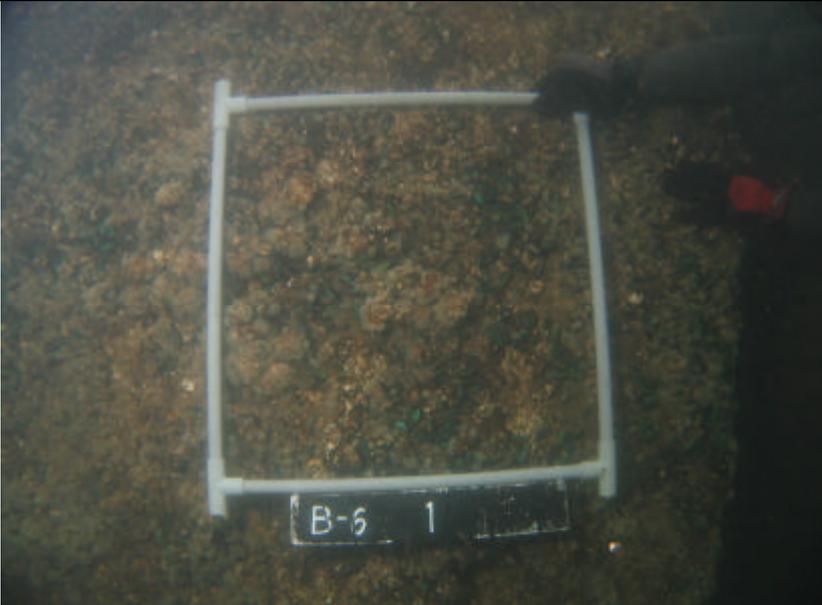
調査日：平成 19 年 11 月 2 日

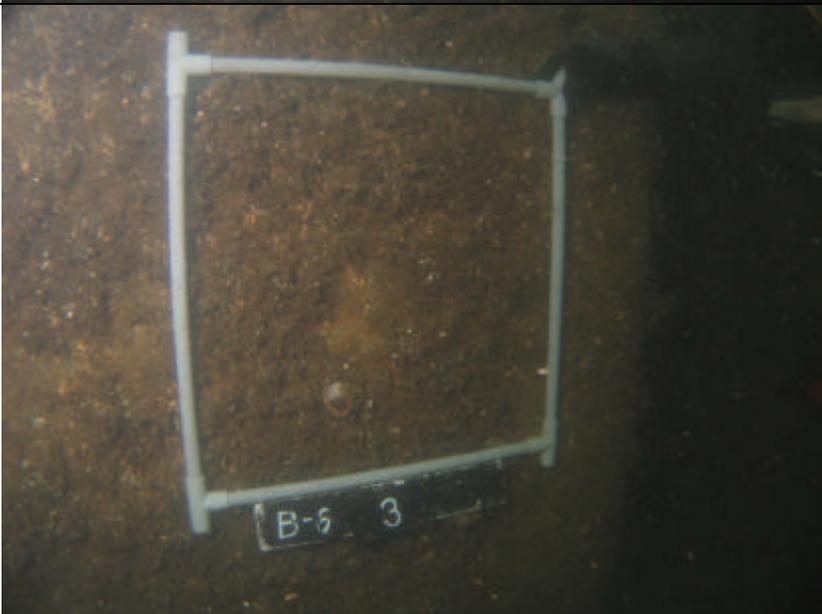
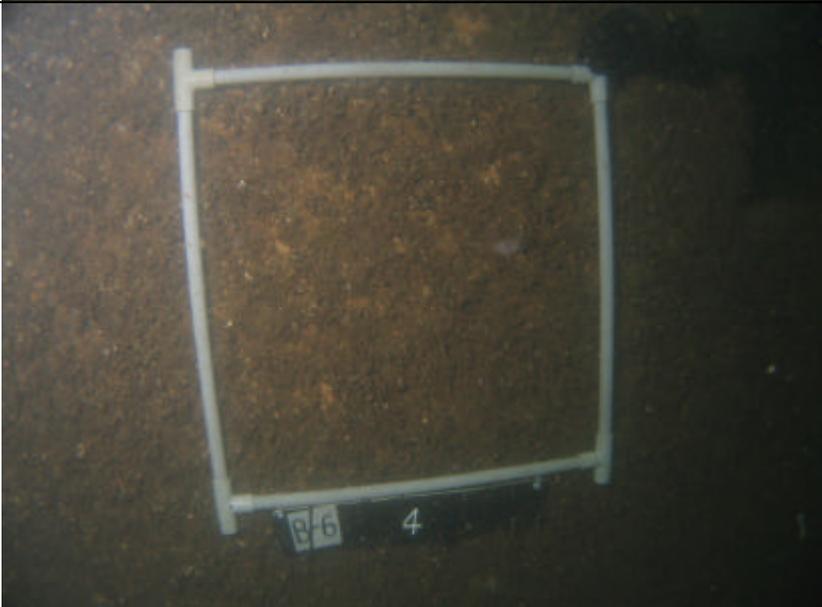
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

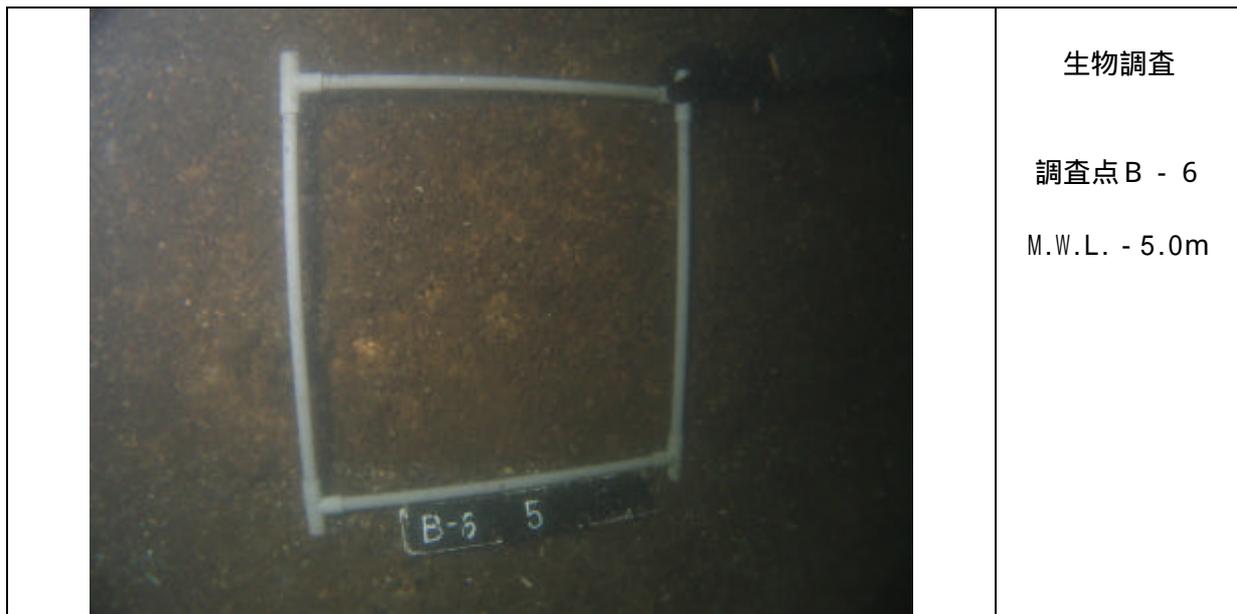
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
--	--	---

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

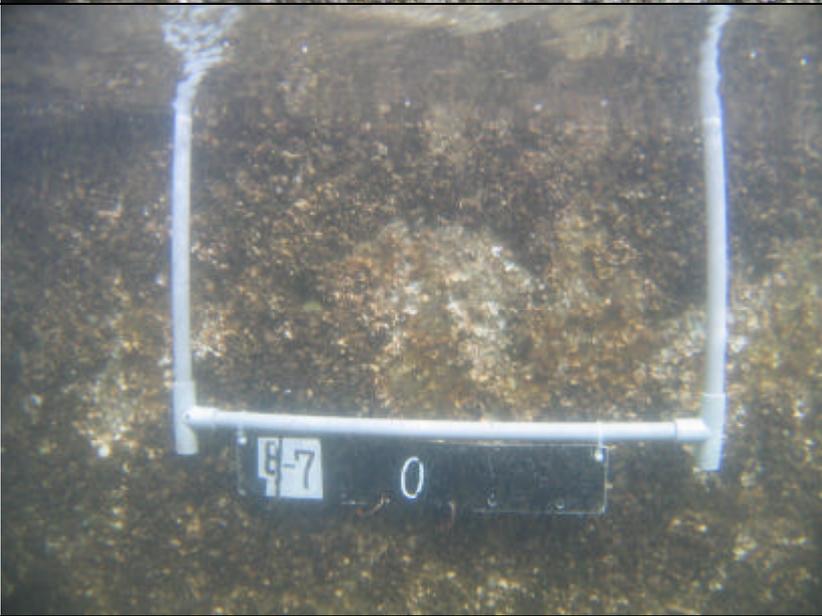


生物調査

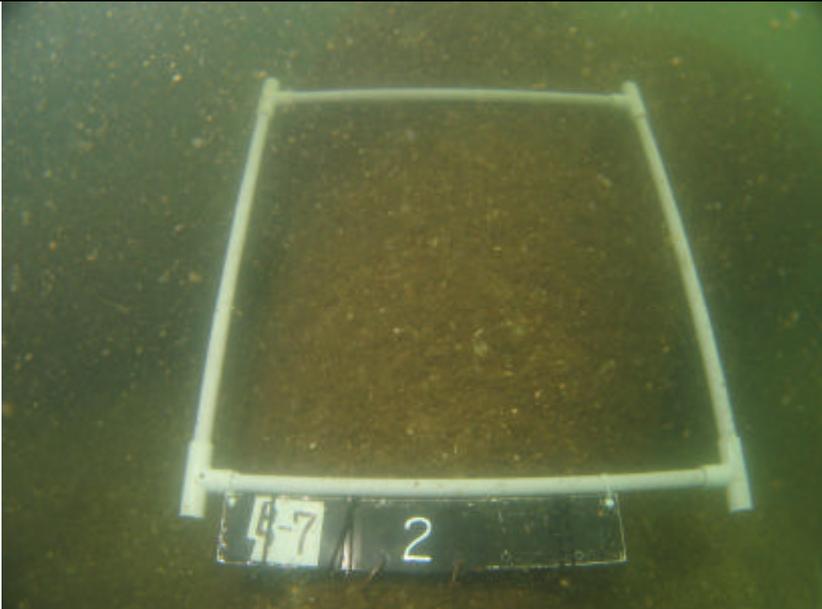
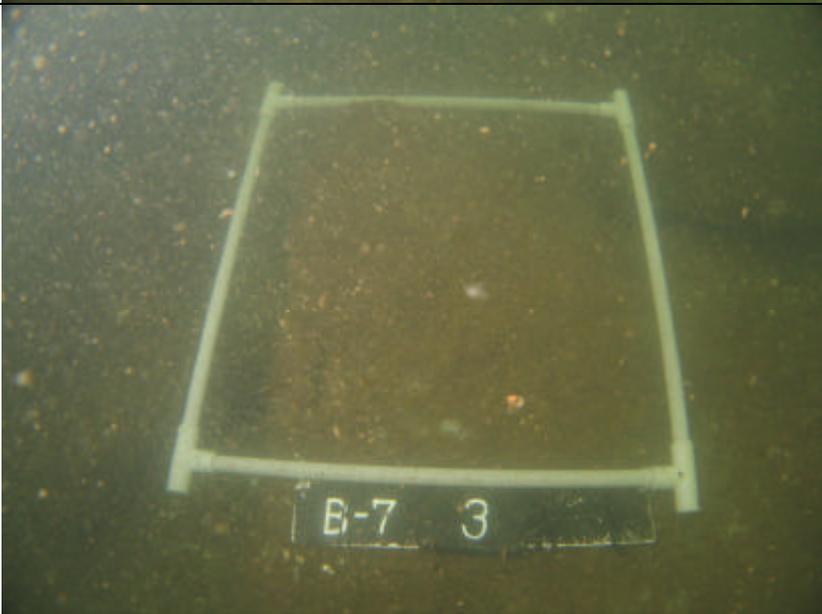
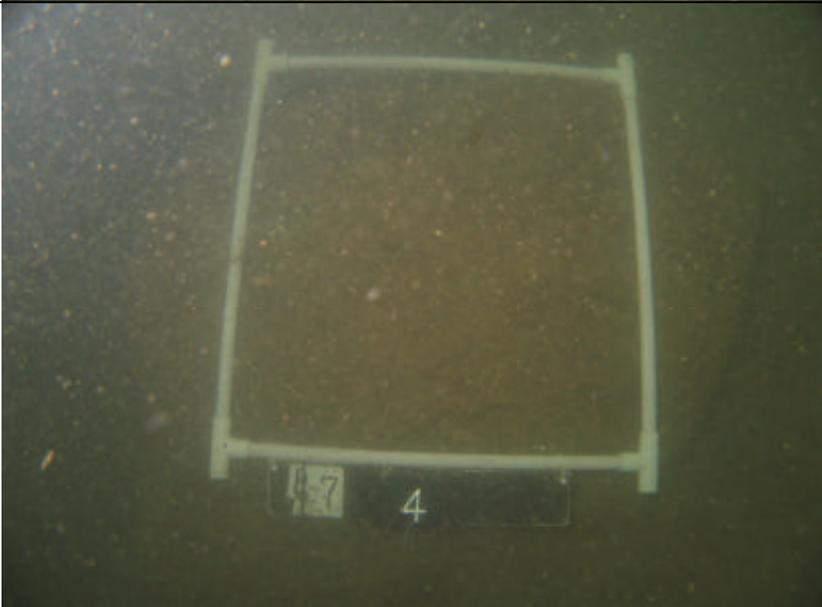
調査点 B - 6

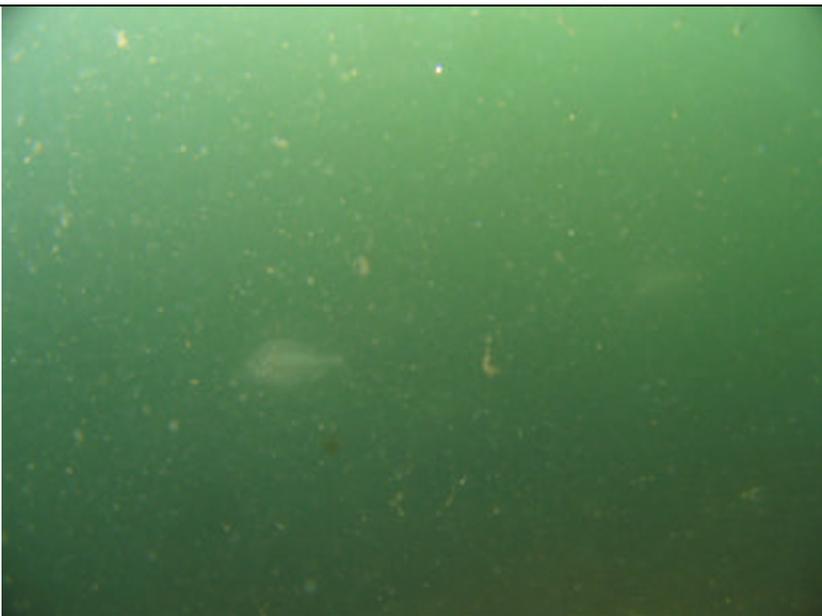
M.W.L. - 5.0m

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

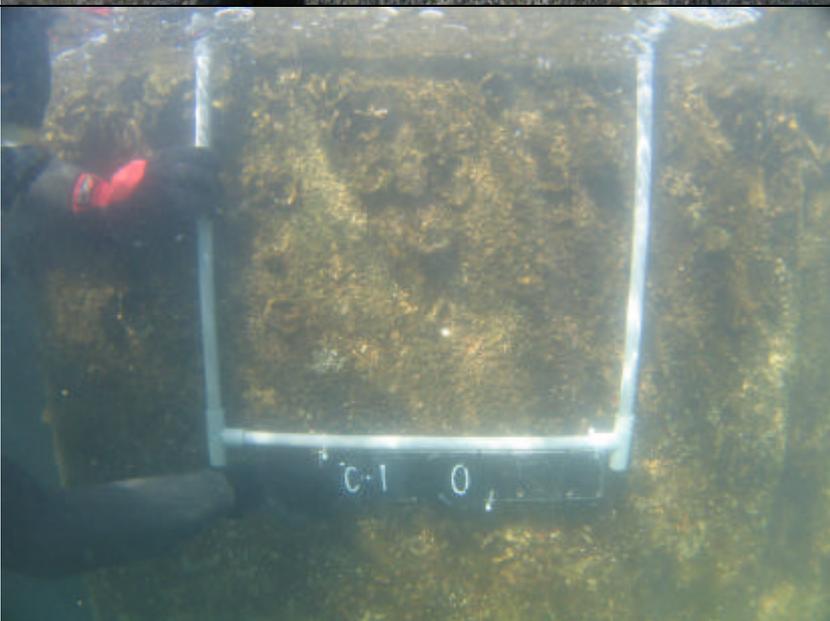
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 2 日

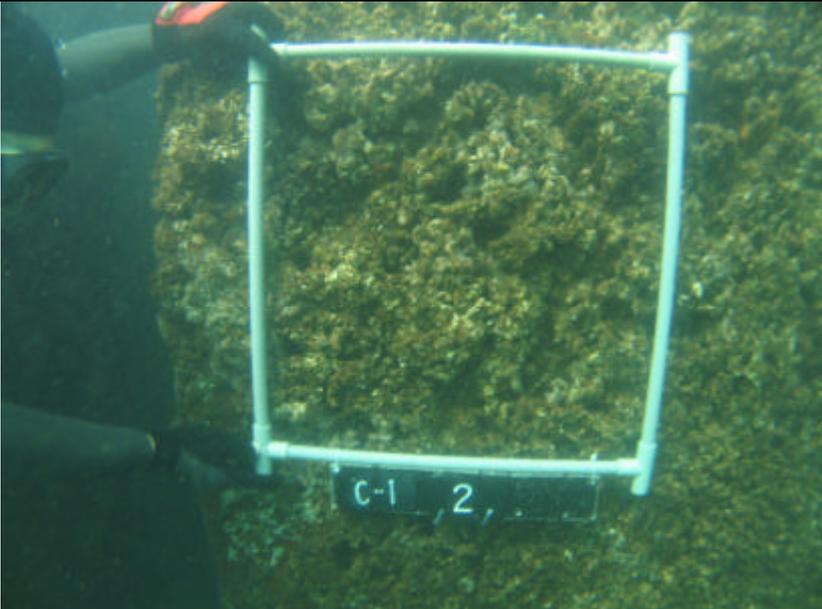
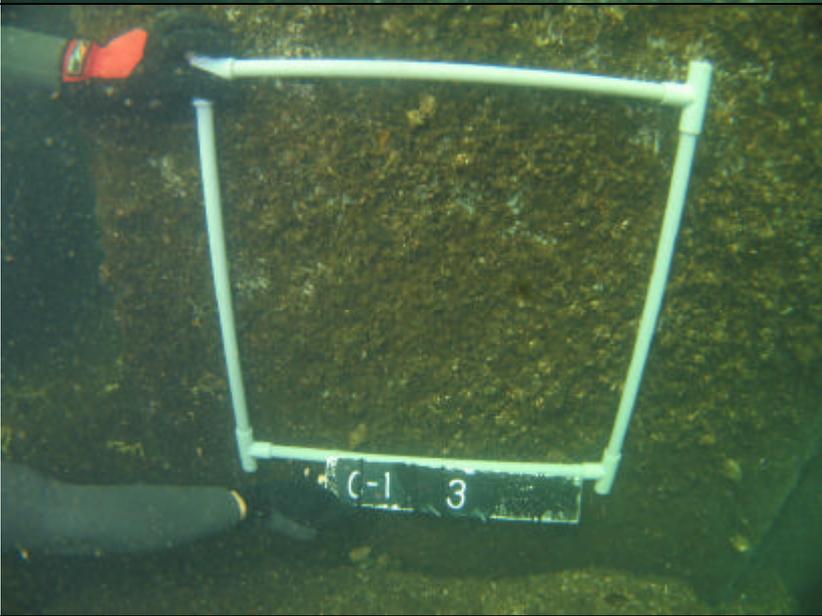
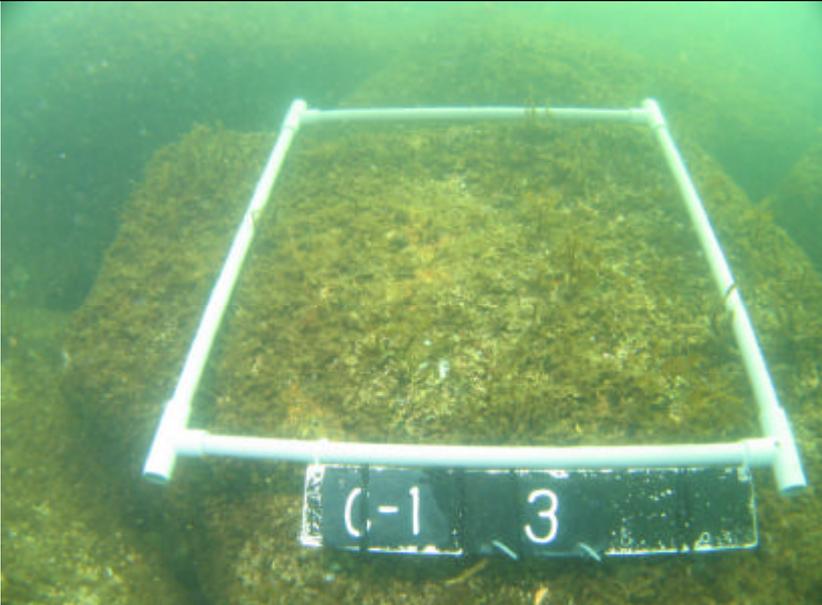
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点B - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>クロダイ</p>
--	--	---

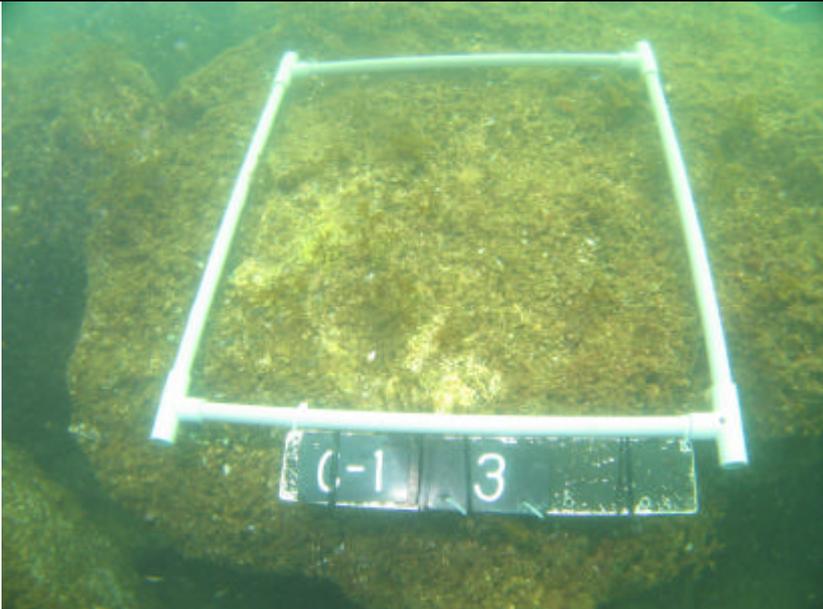
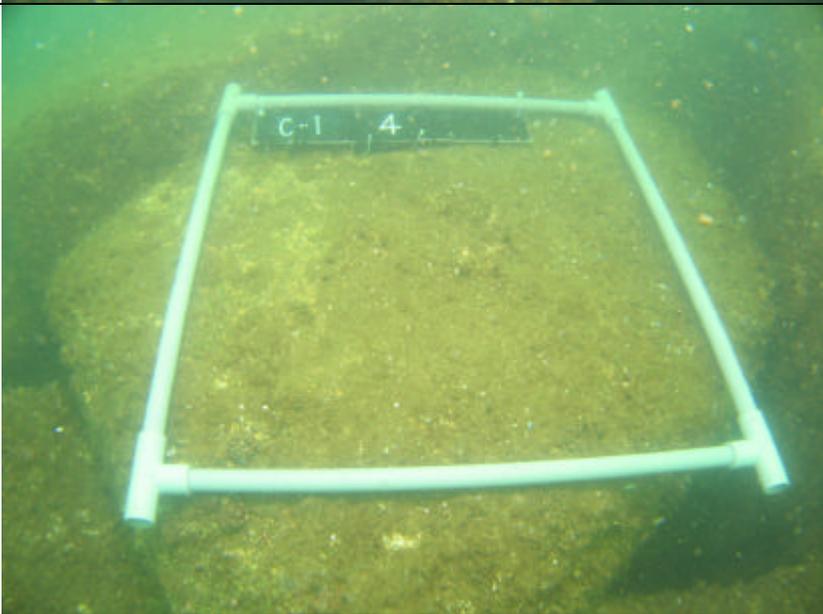
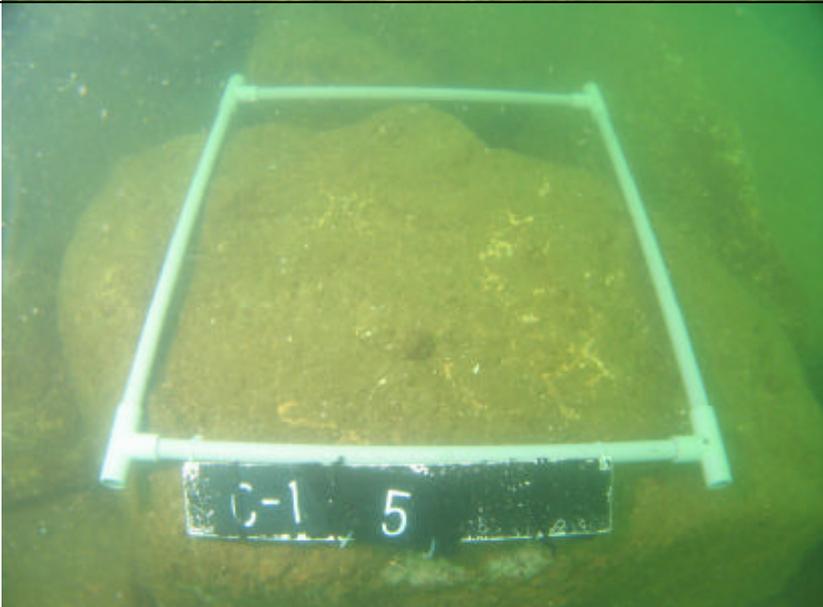
C . 大阪沖処分場
(平成 19 年 11 月 3 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

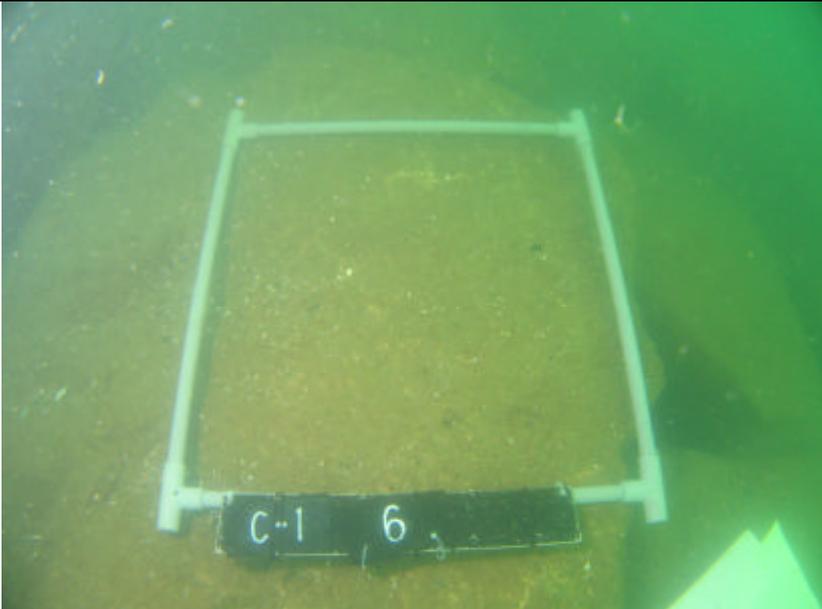
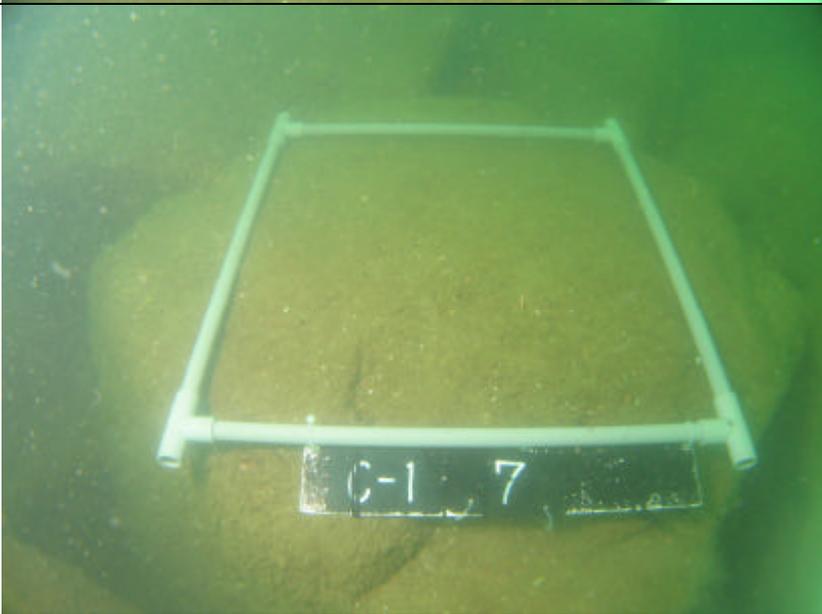
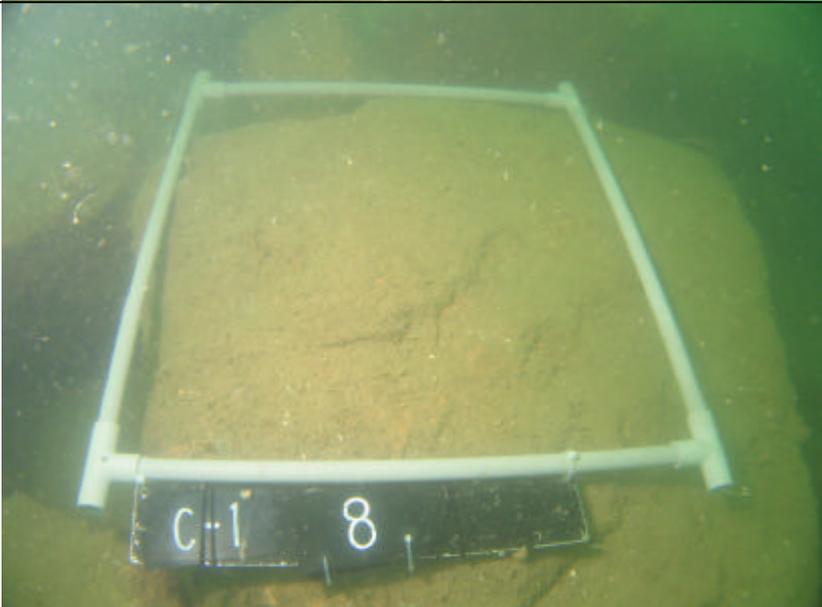
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>

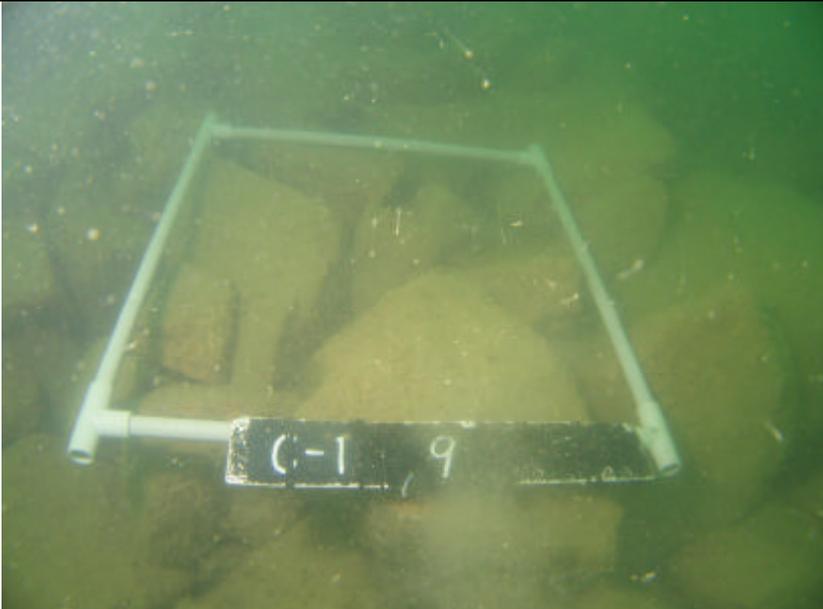
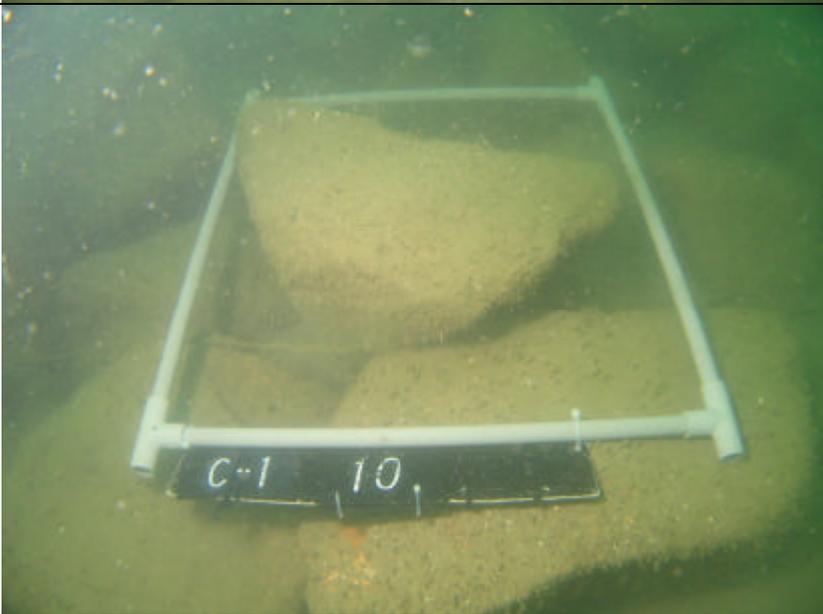
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>メバル</p>

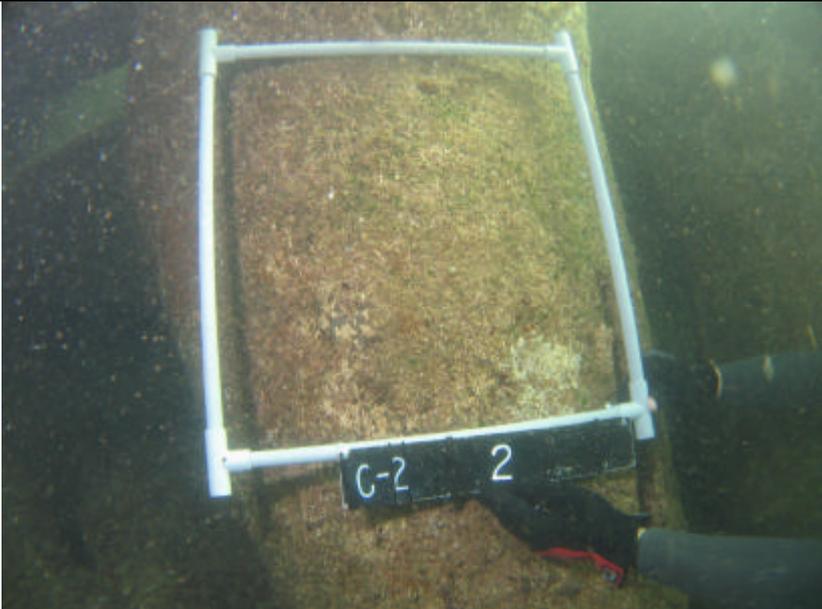
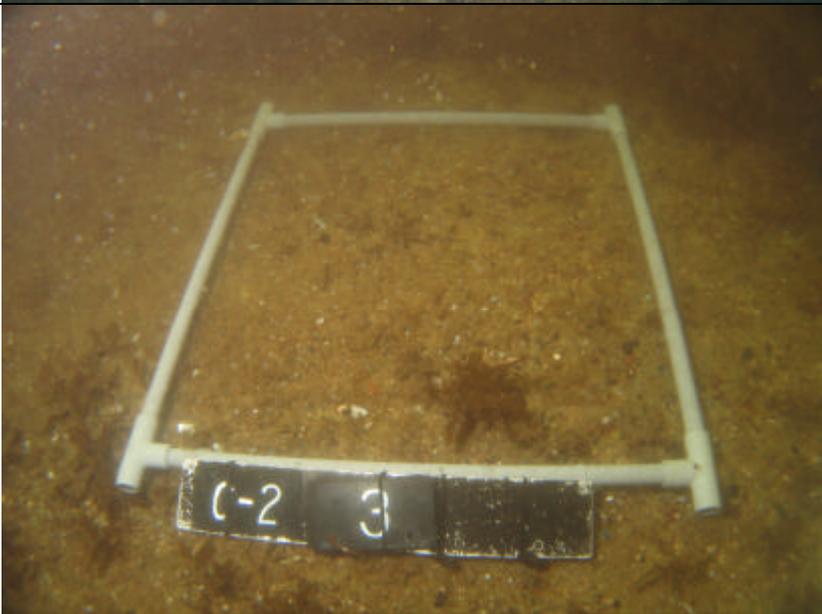
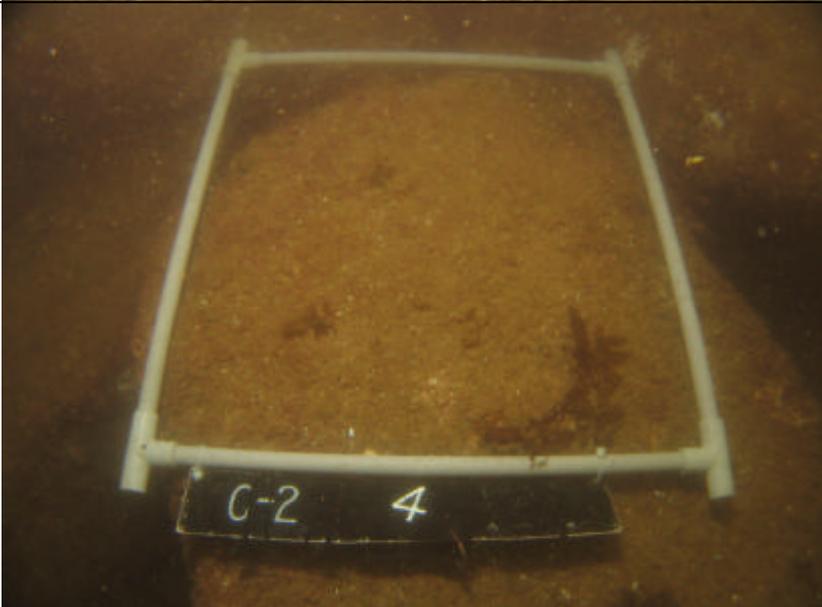
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

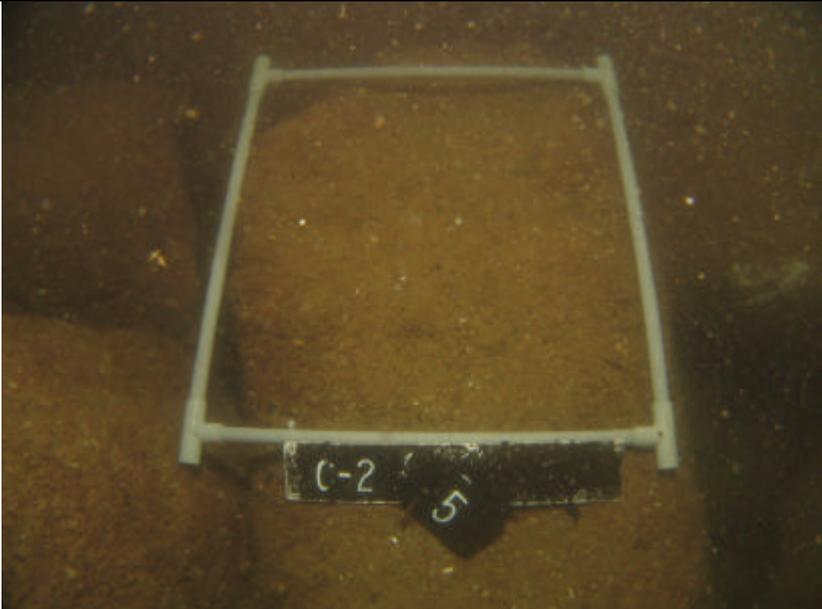
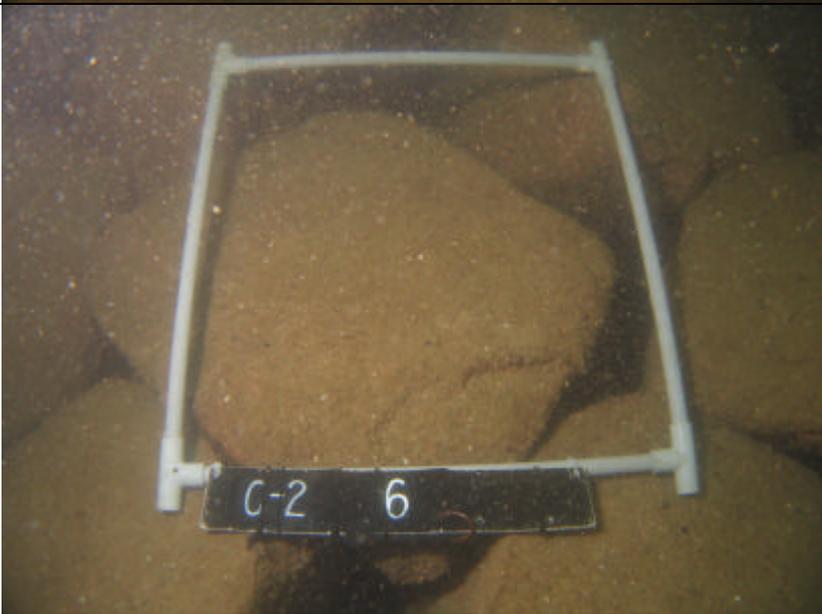
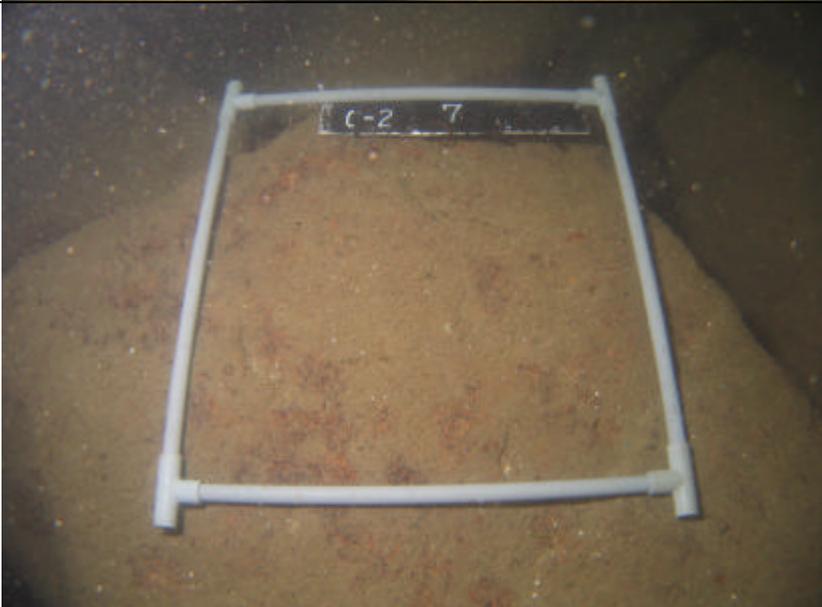
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
--	--	---

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

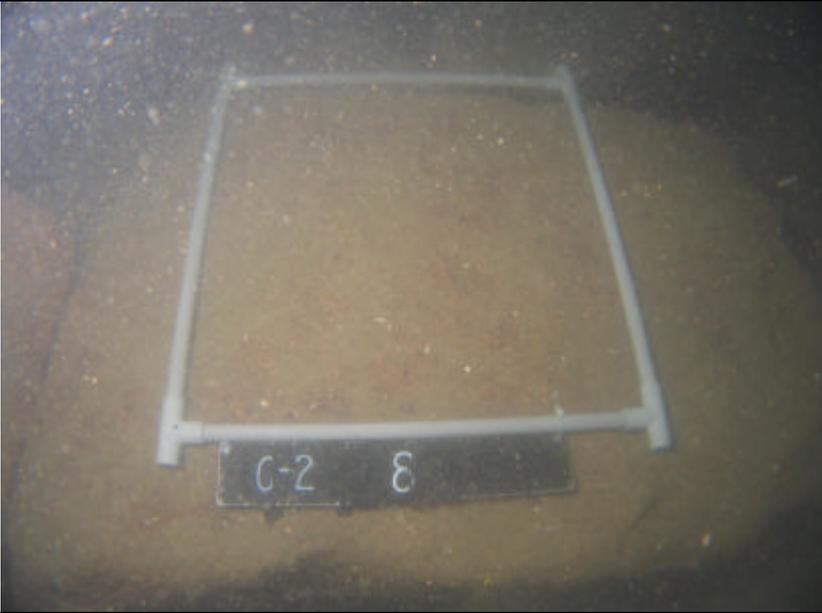
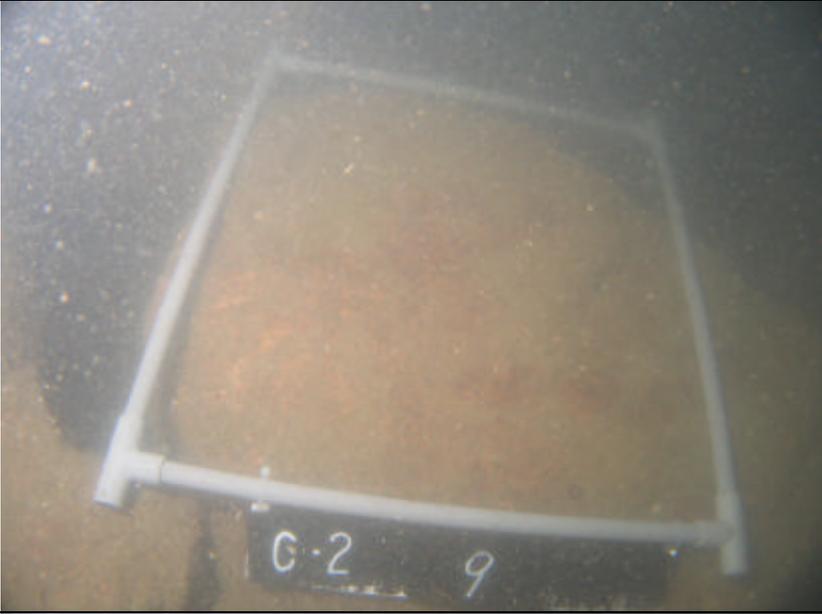
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

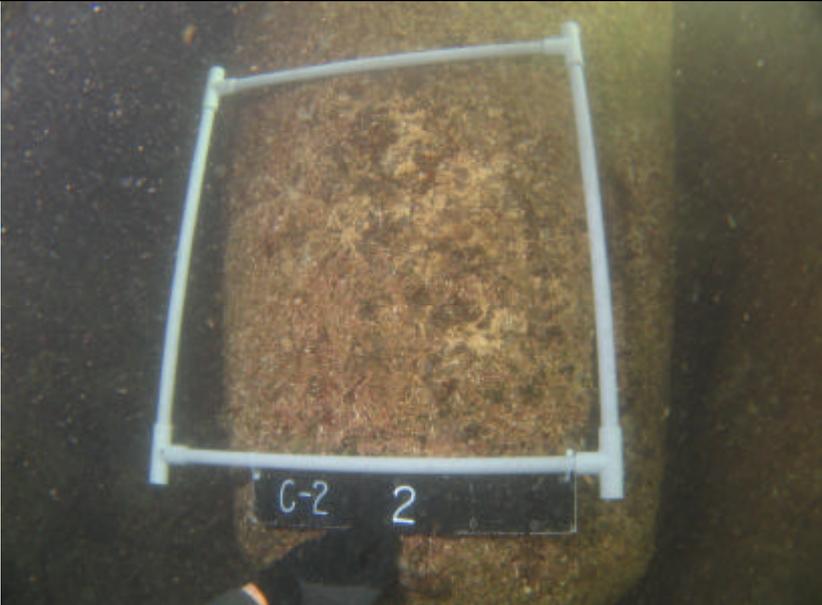
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

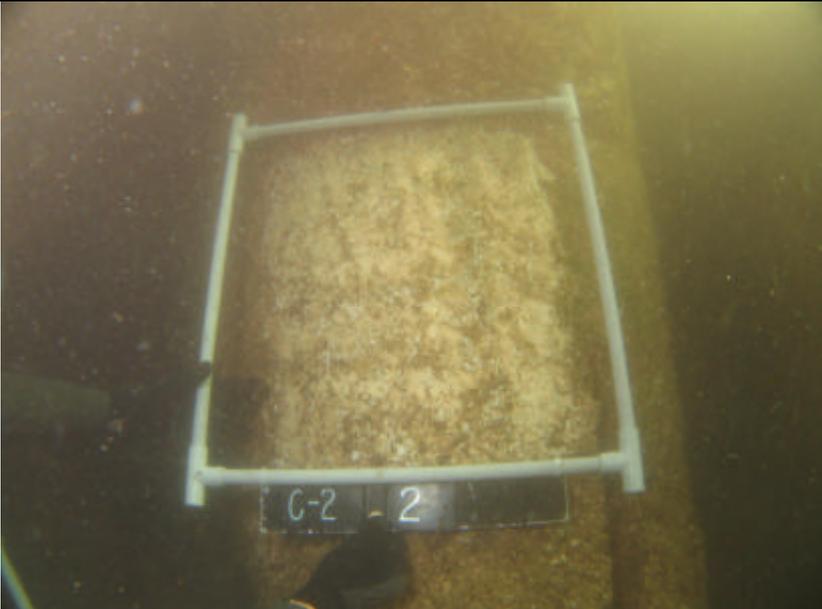
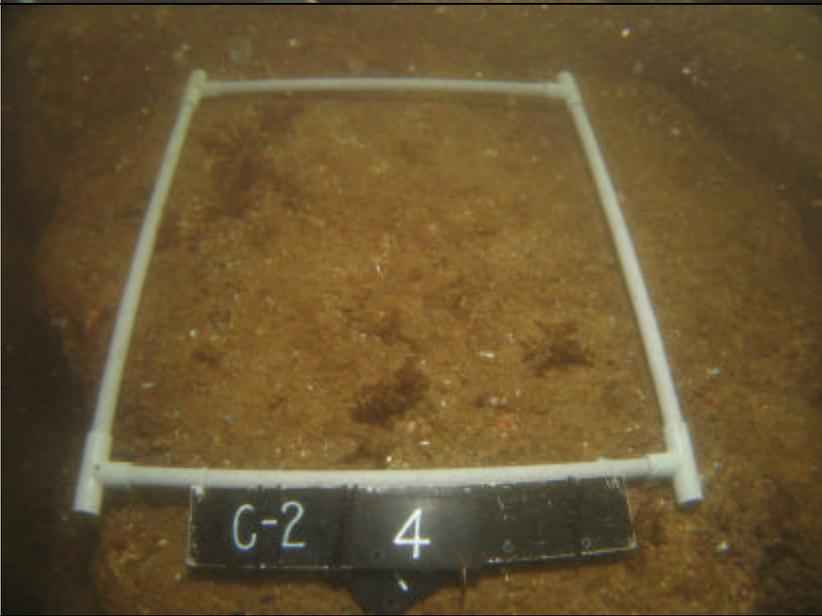
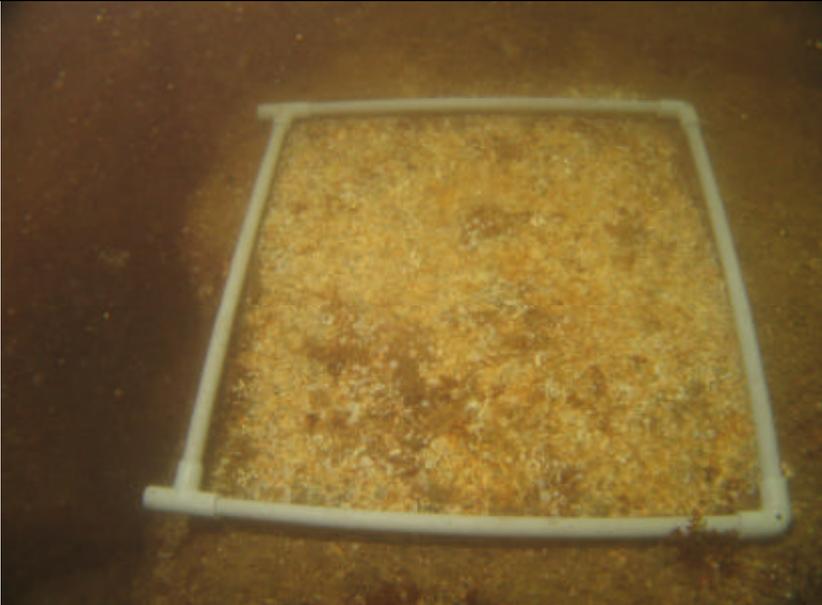
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

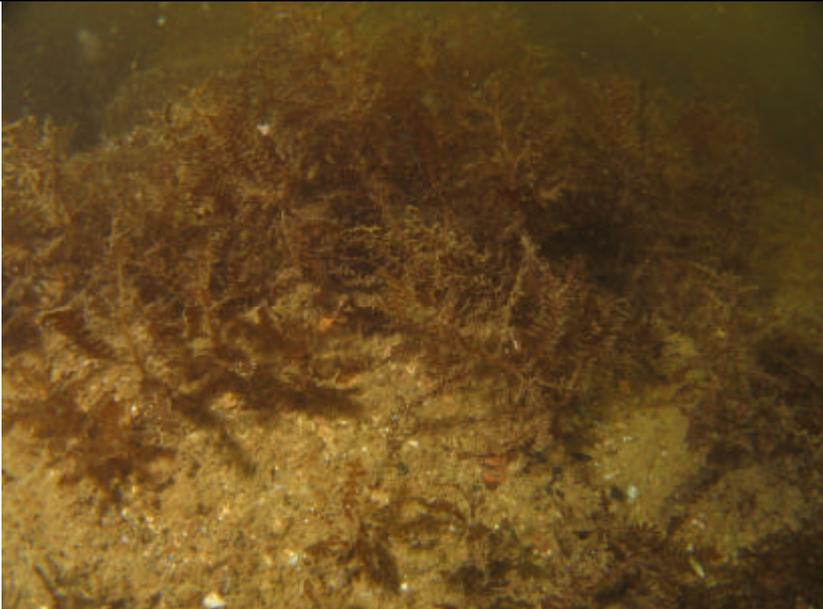
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

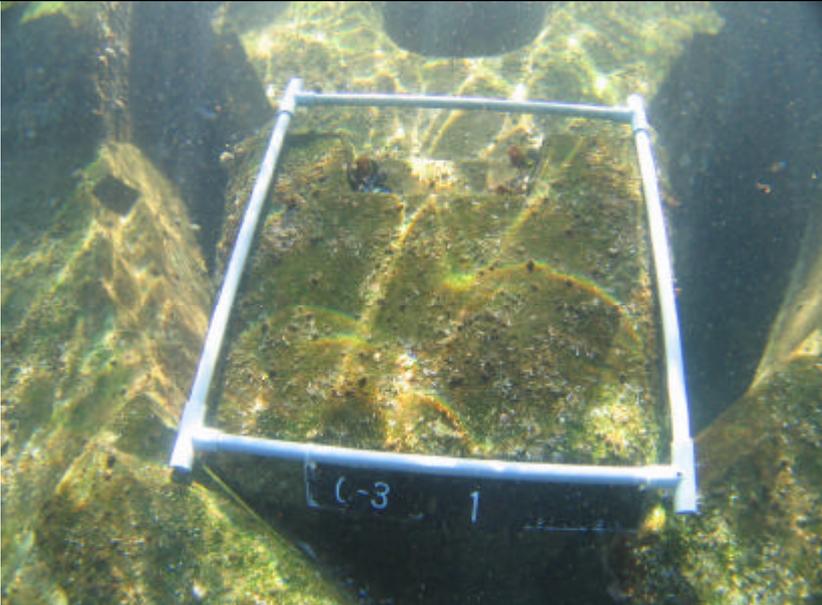
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>上層 枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

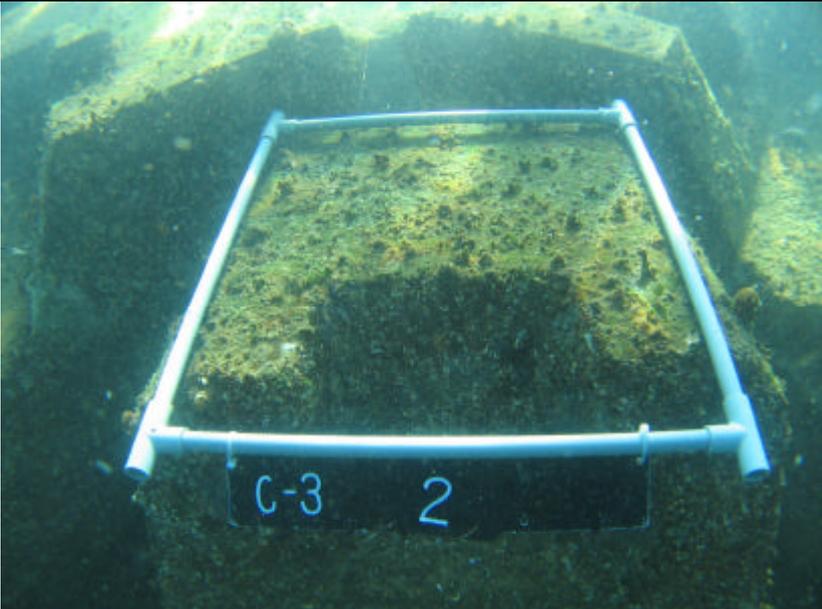
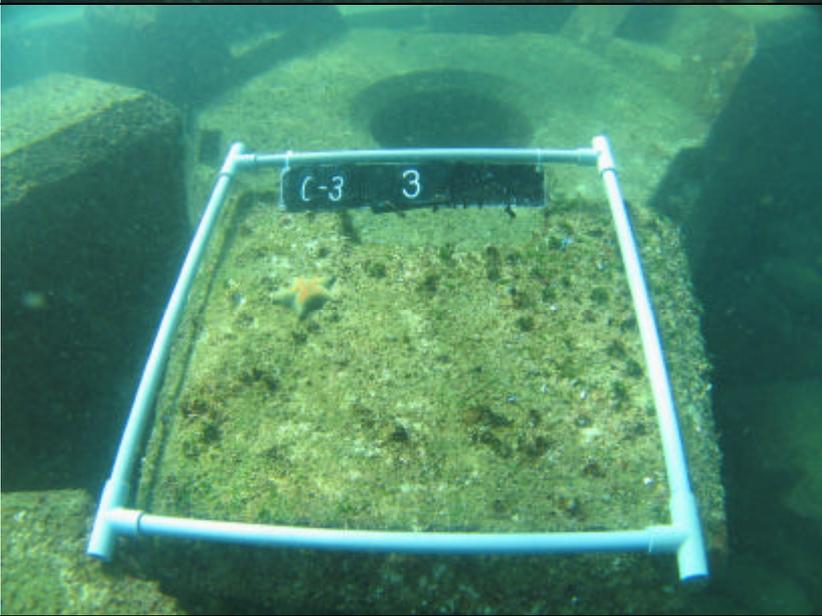
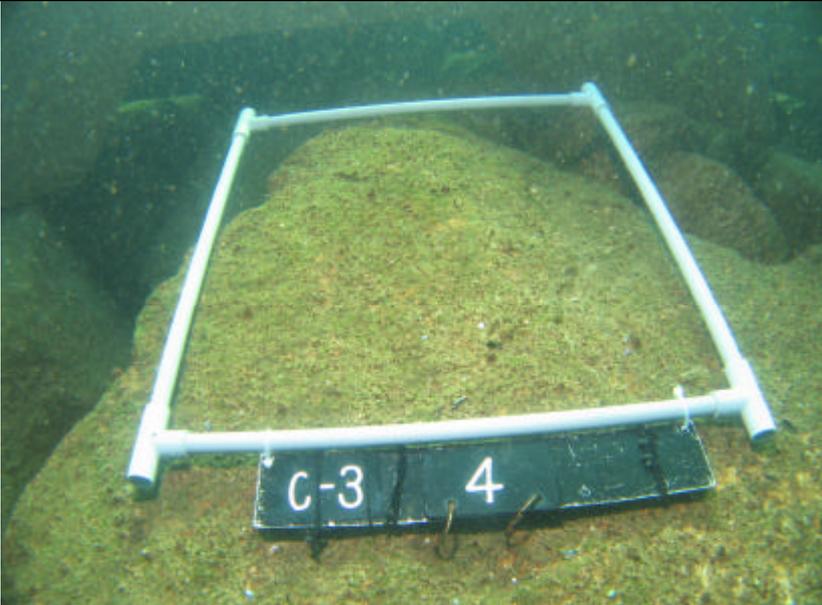
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

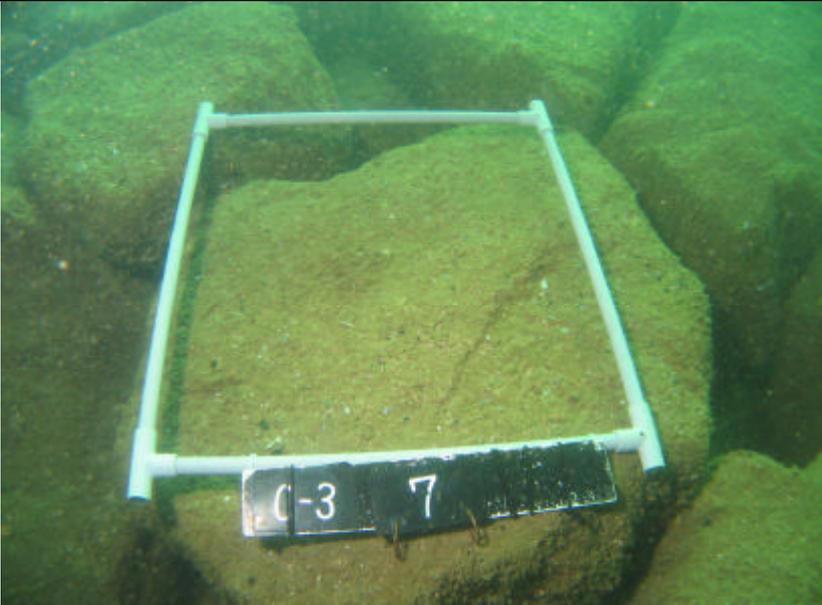
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>シダモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>ボラ</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

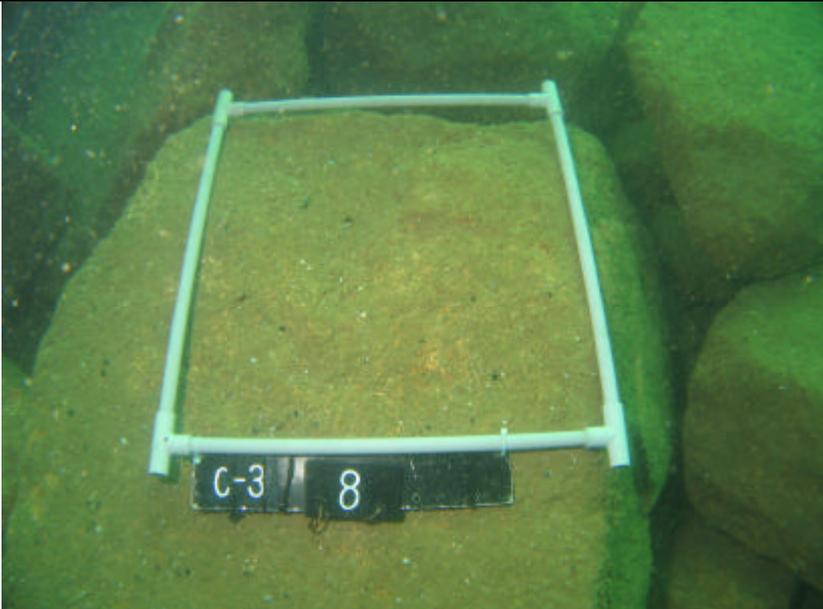
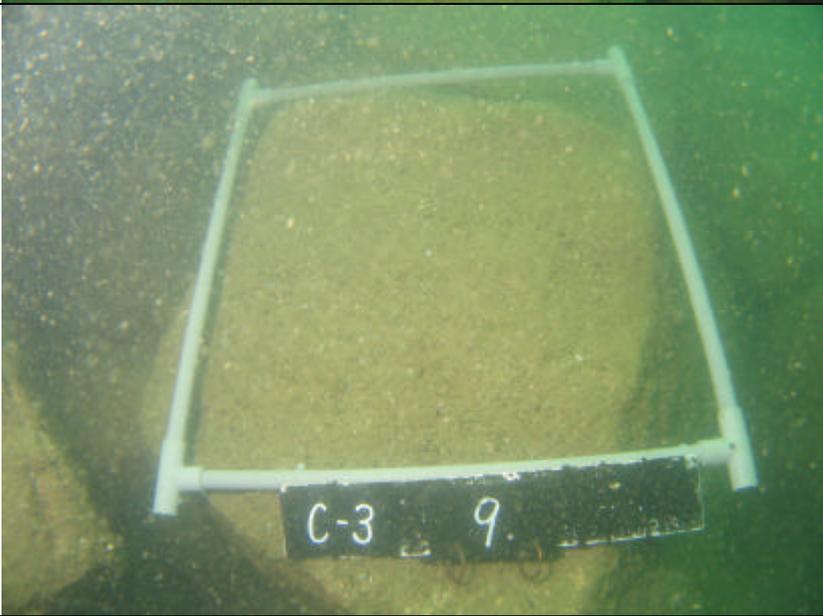
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

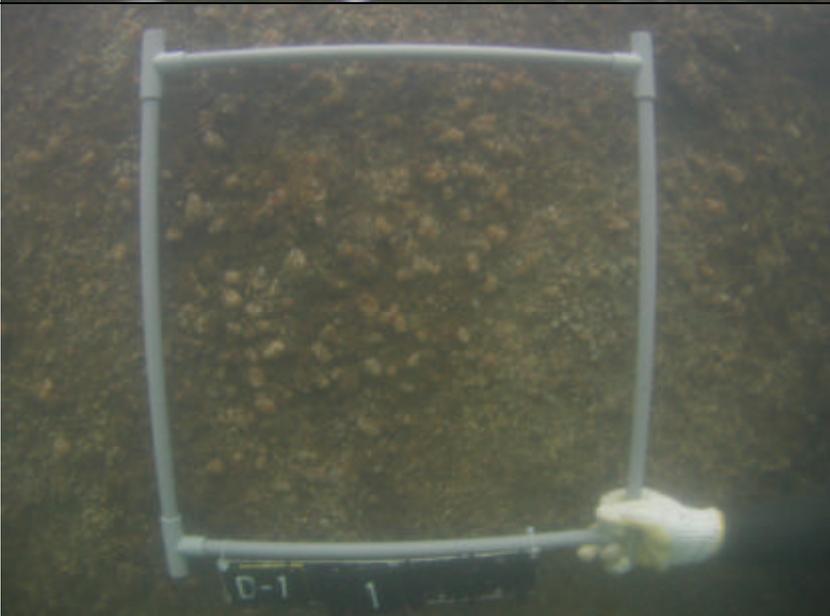
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>アイゴ</p>

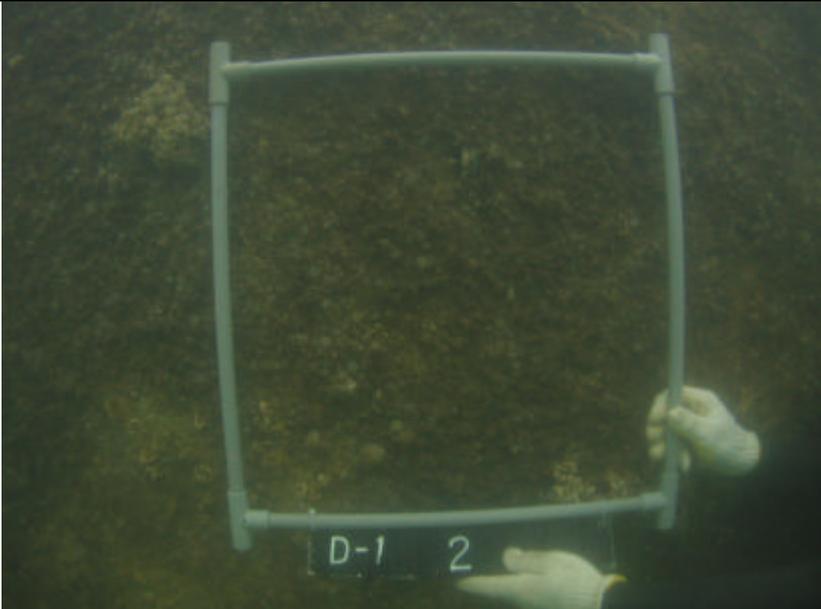
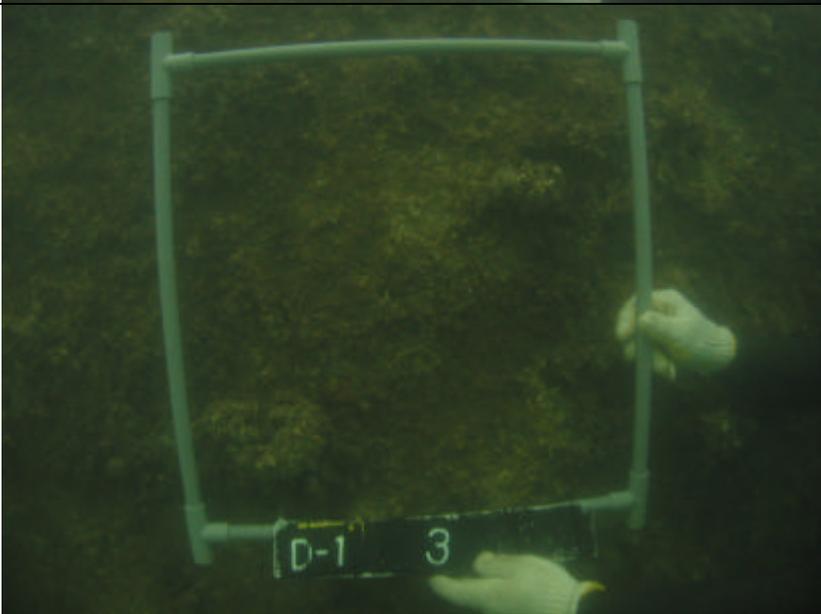
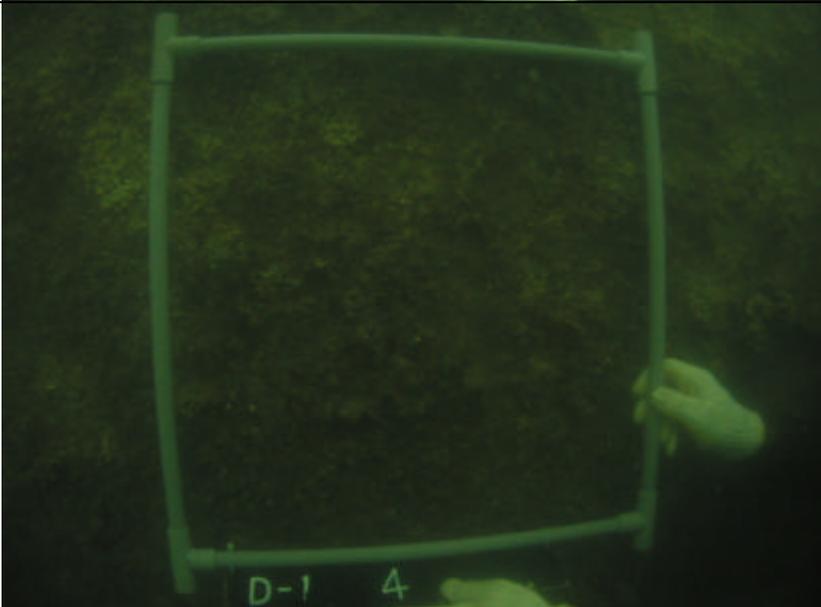
調査日：平成 19 年 11 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>ボラ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>クロダイ スズメダイ ボラ</p>

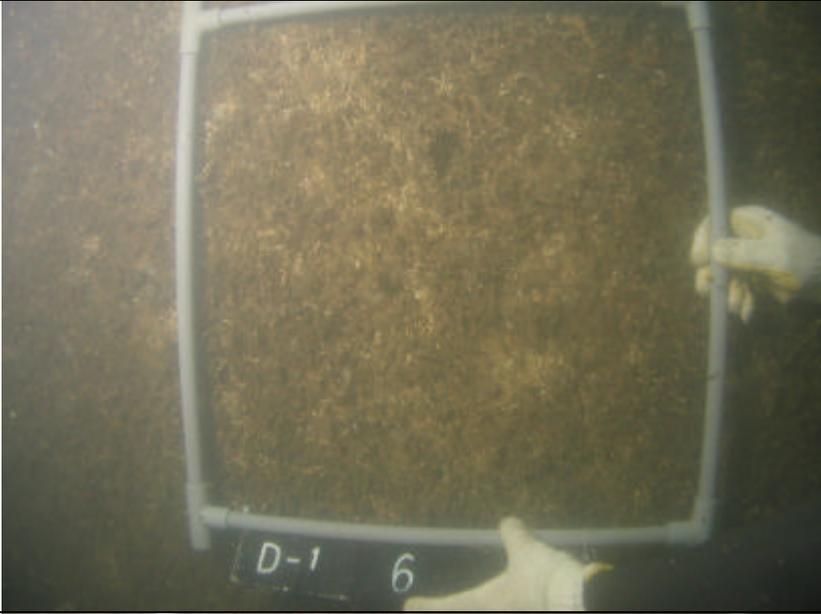
D . 泉大津沖処分場
(平成 19 年 11 月 1 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

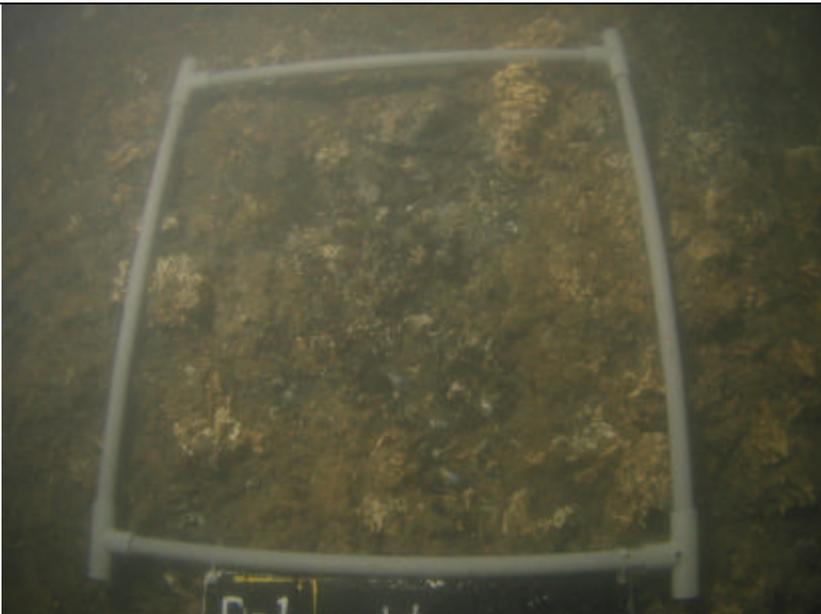
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

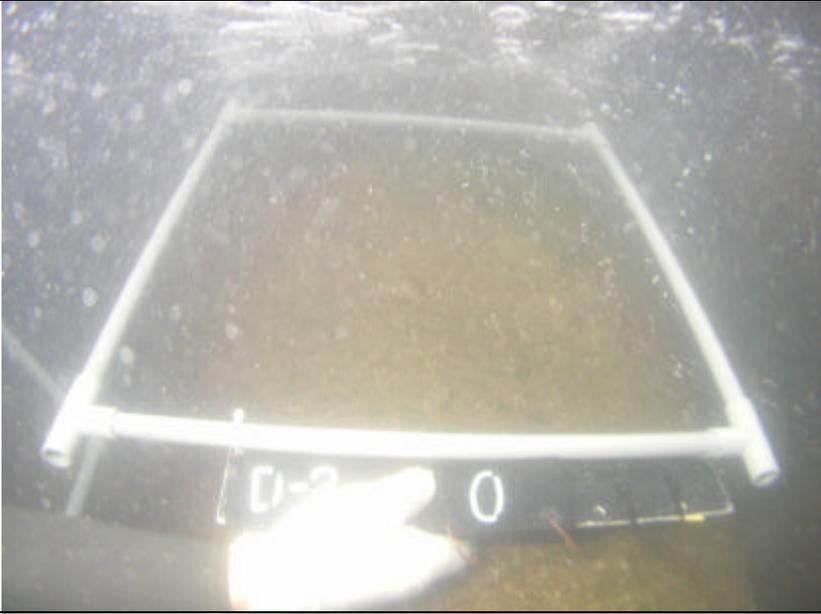
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

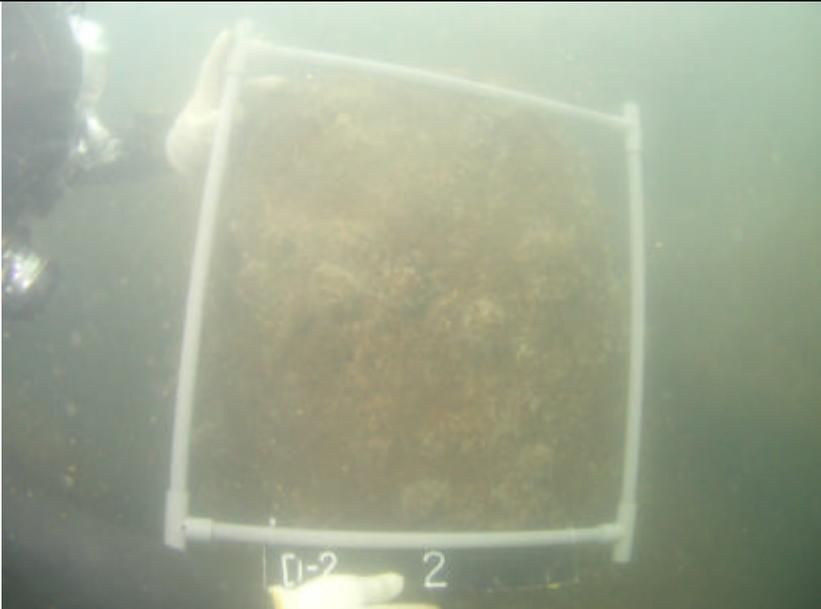
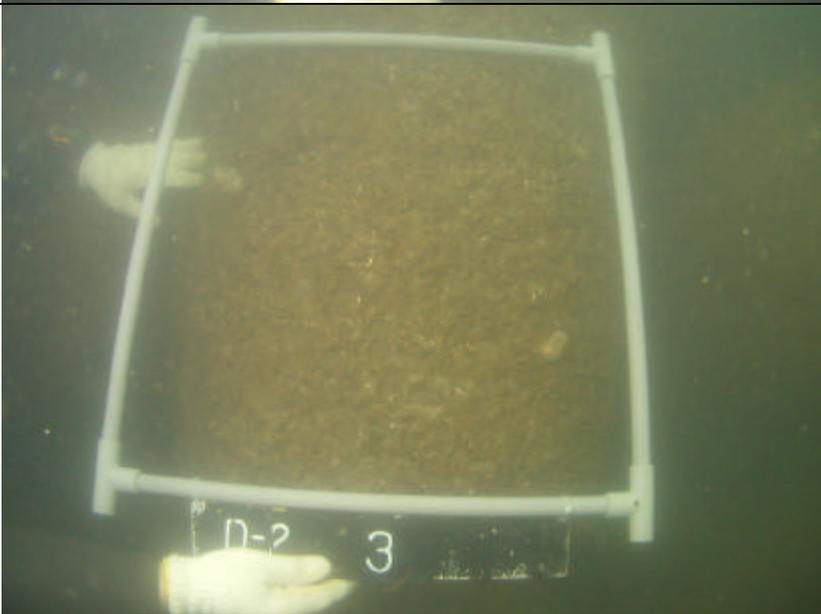
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
--	--	---

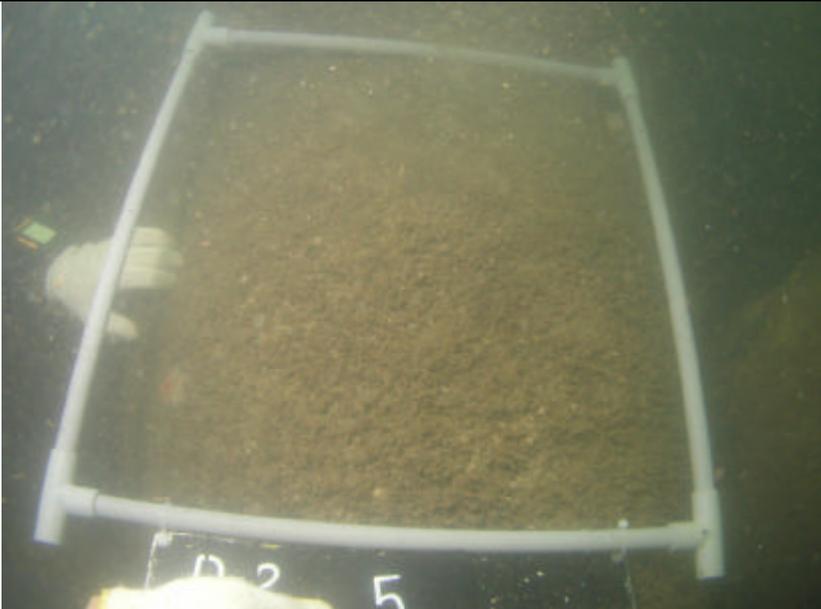
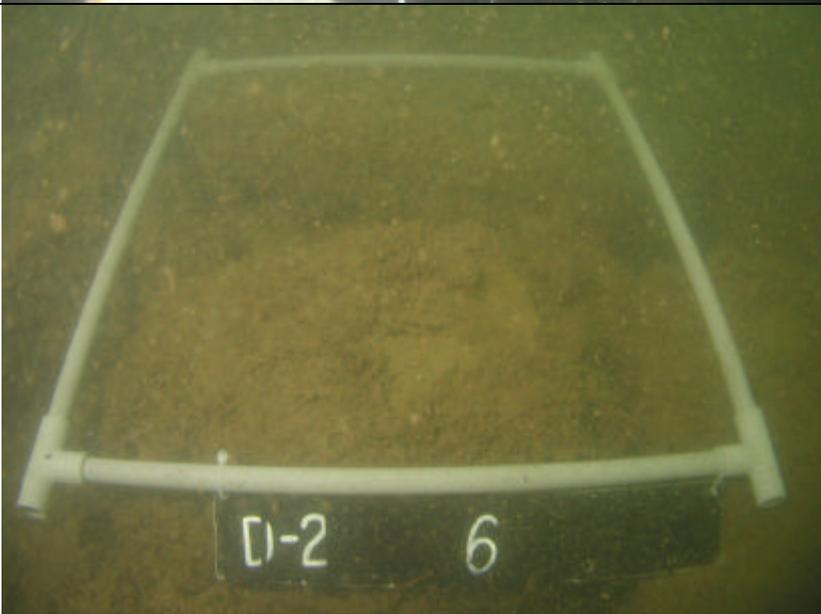
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

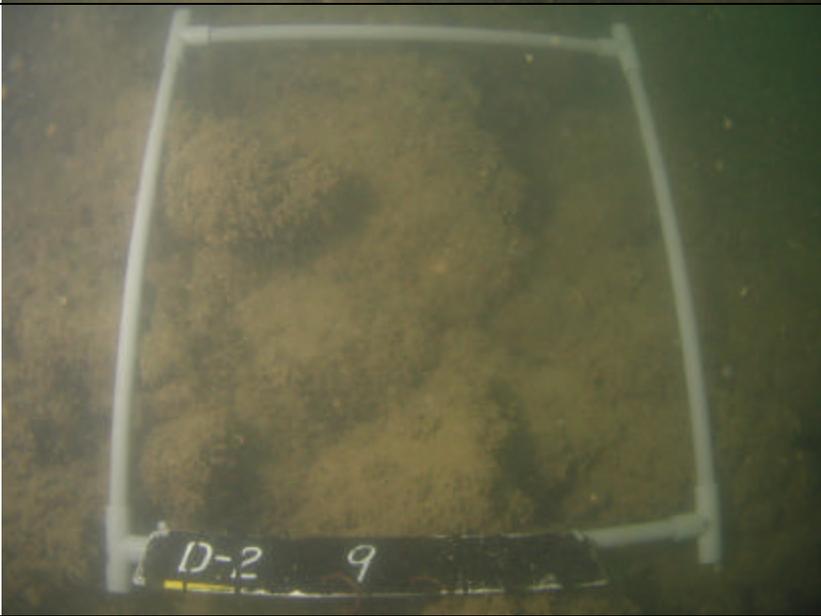
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

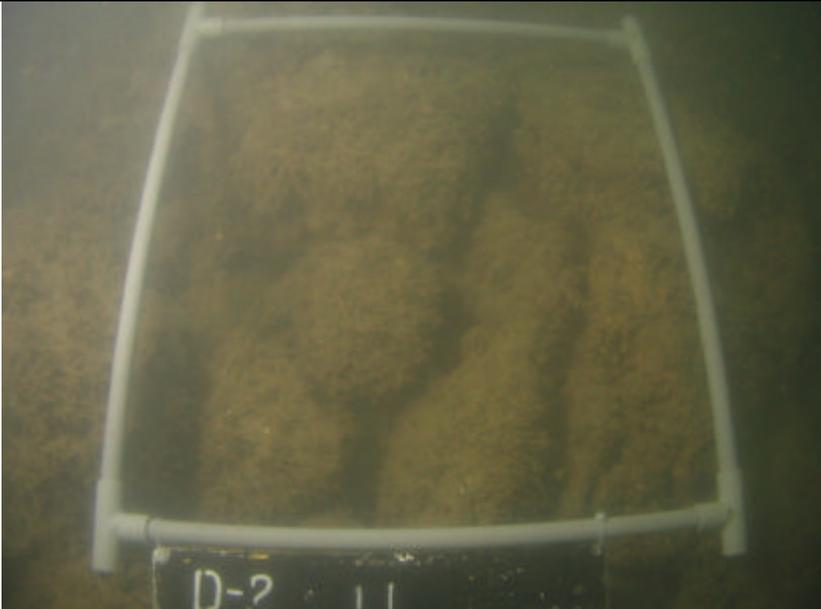
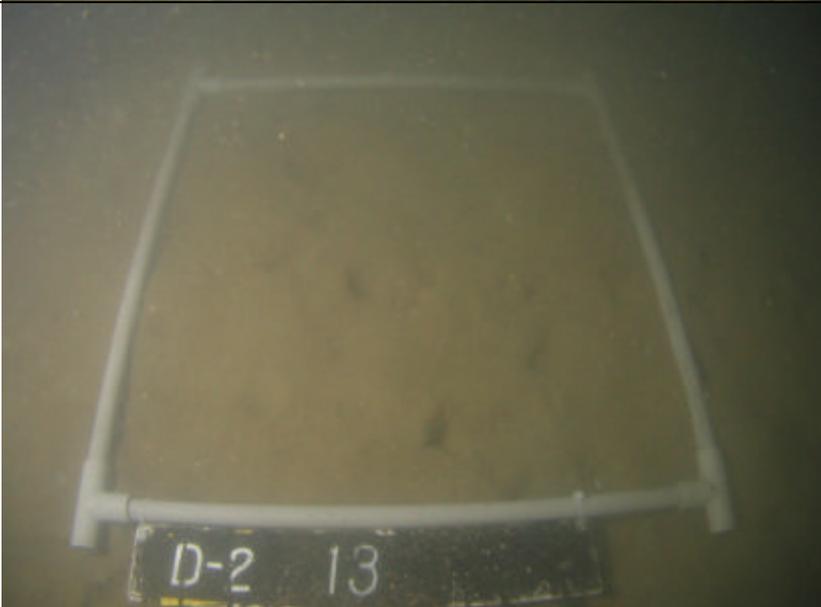
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

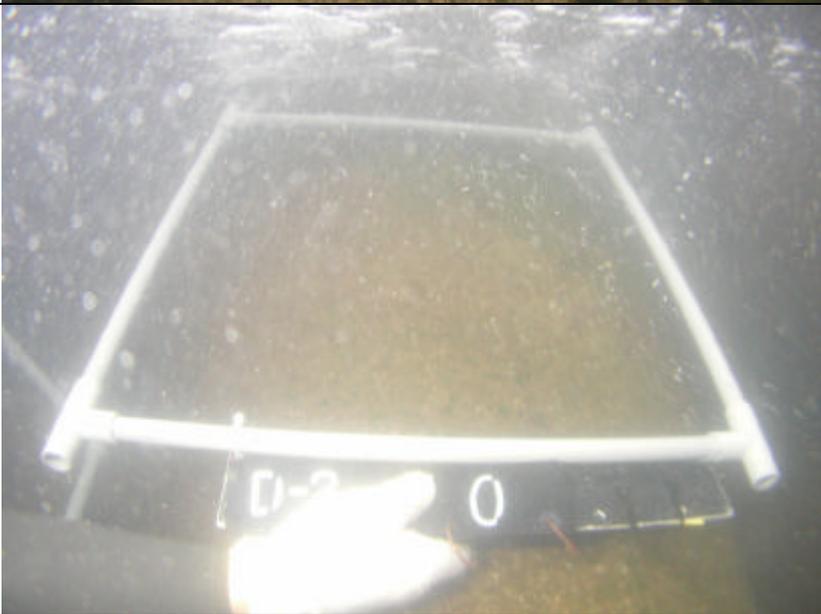
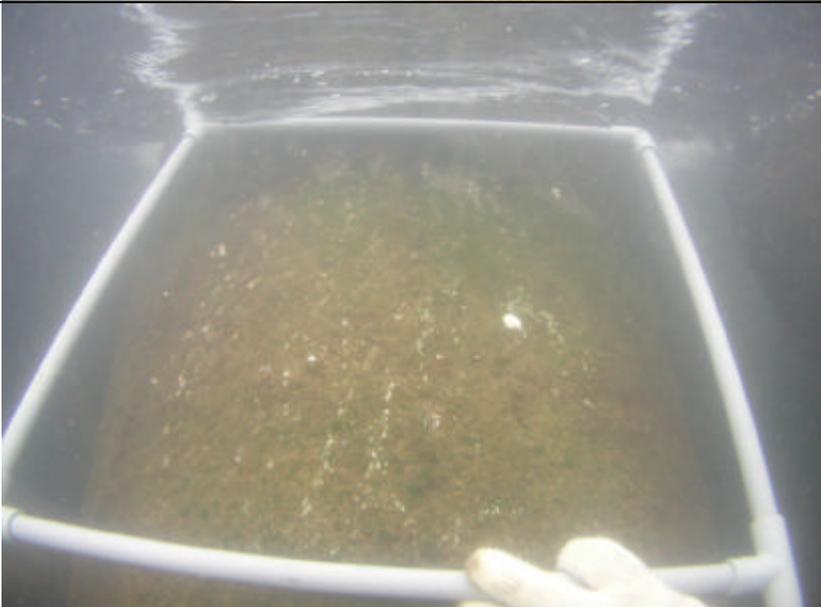
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

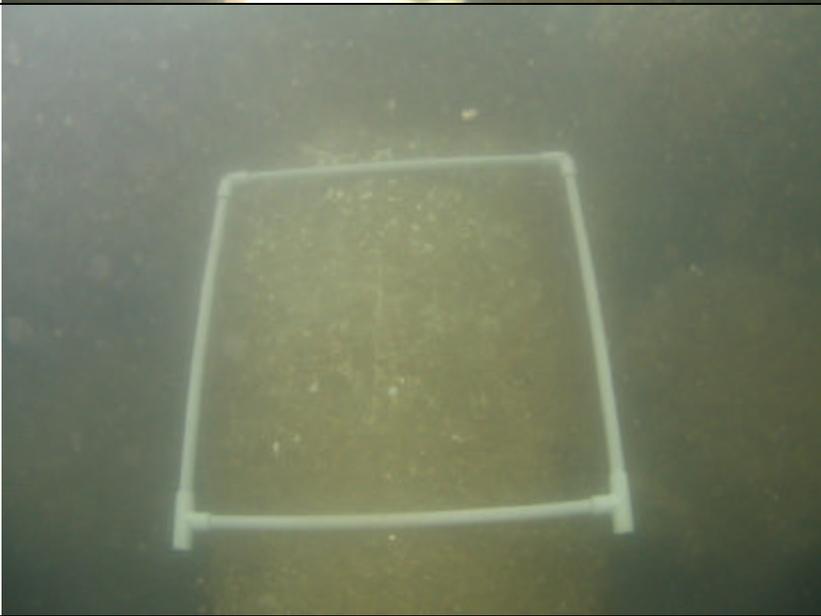
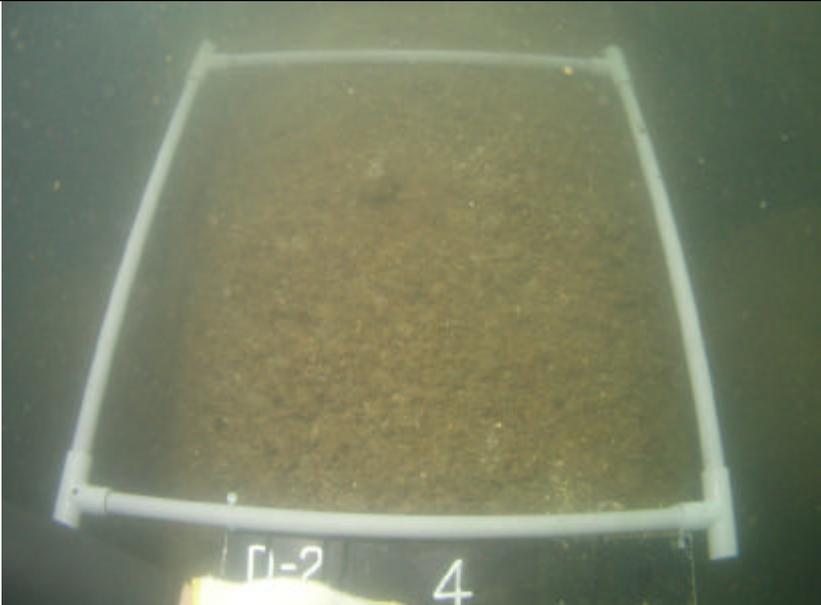
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

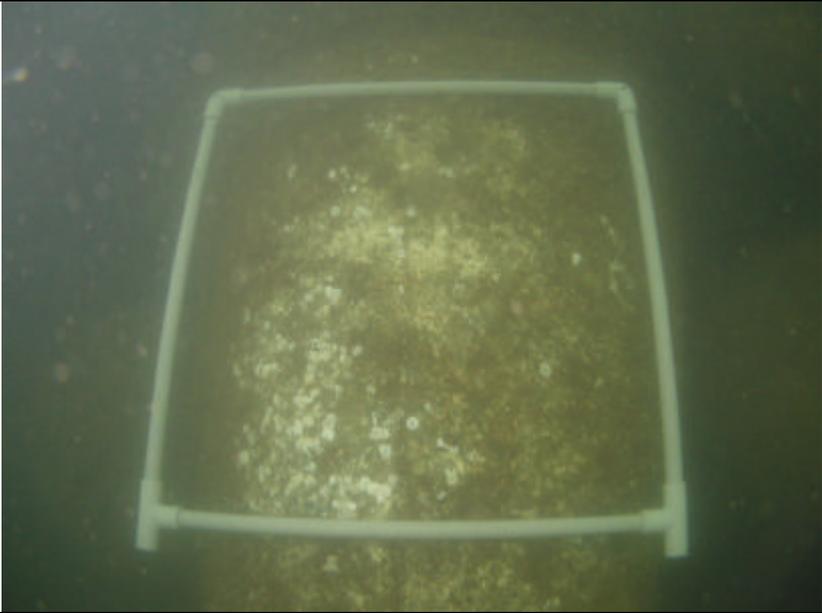
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>オオバツノマタ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>キチヌ</p>

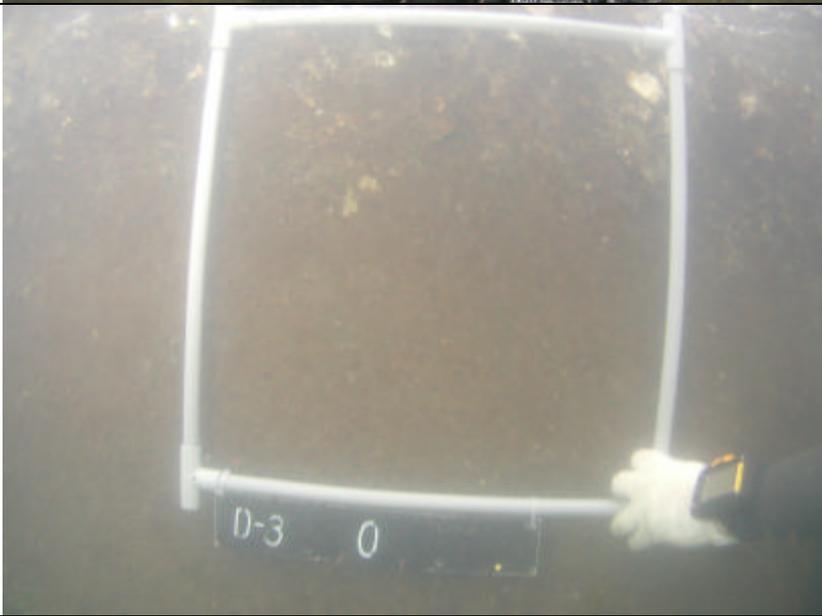
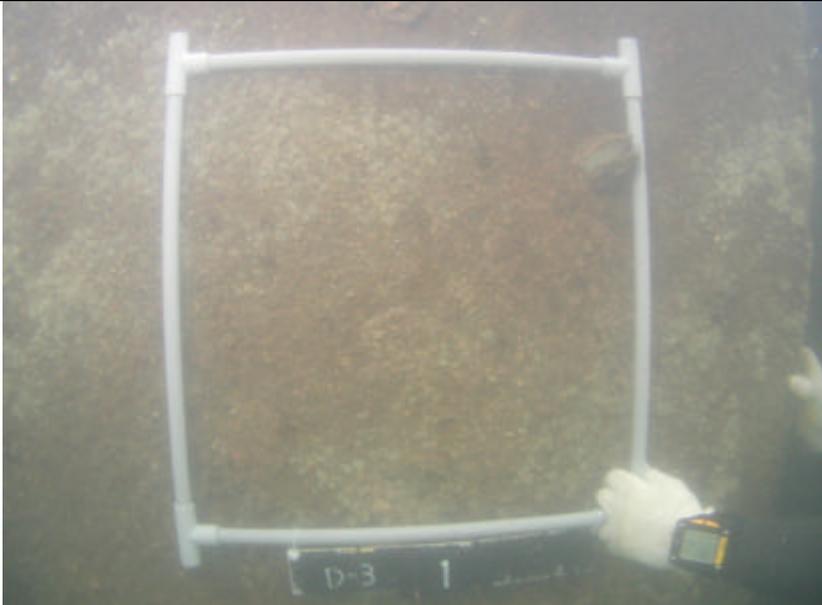
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>粹取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>粹取り後 M.W.L. ±0.0m</p>

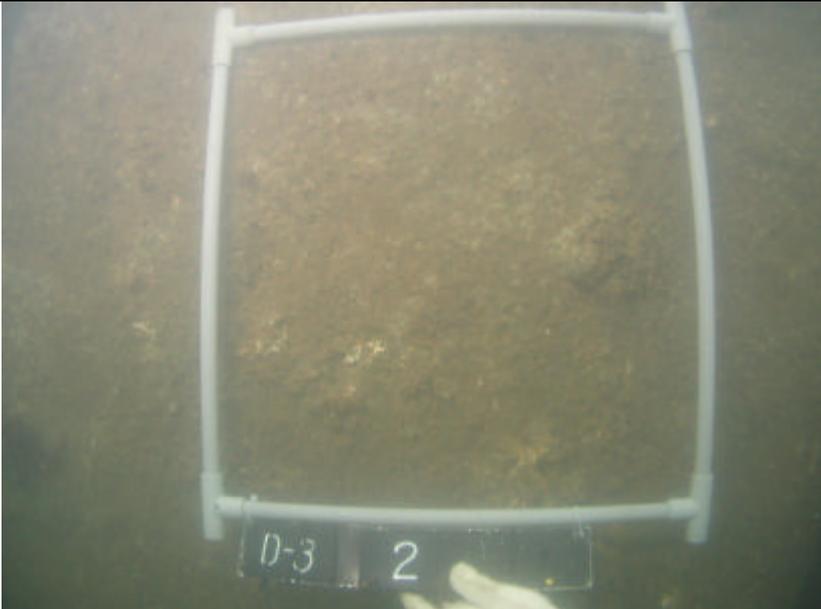
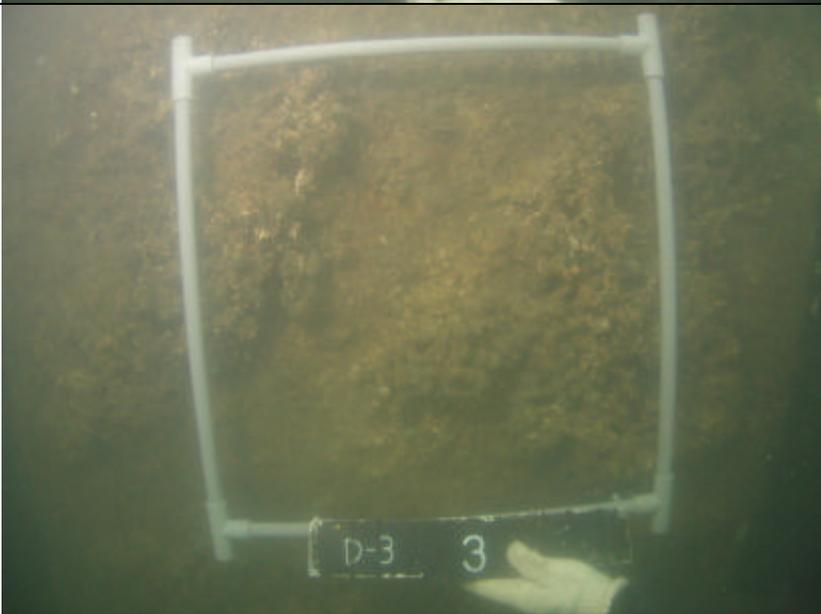
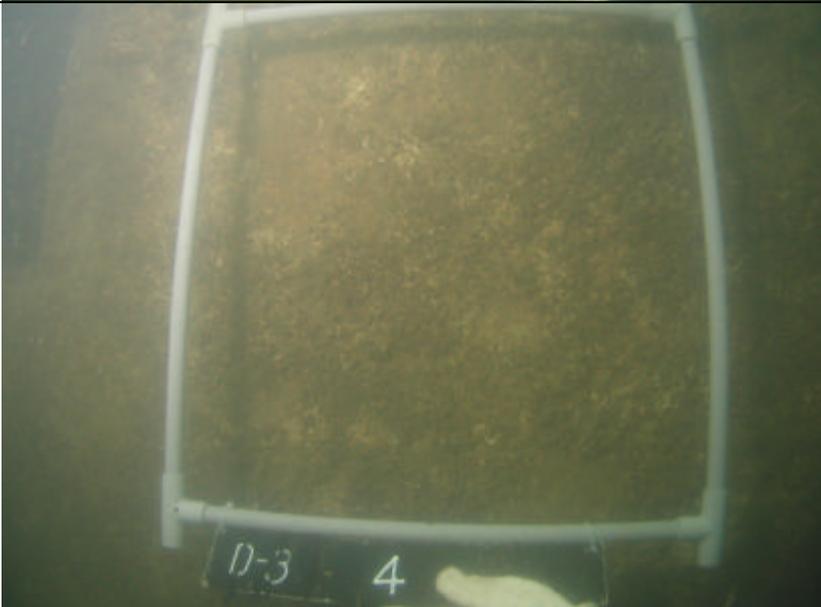
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>
--	--	--

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

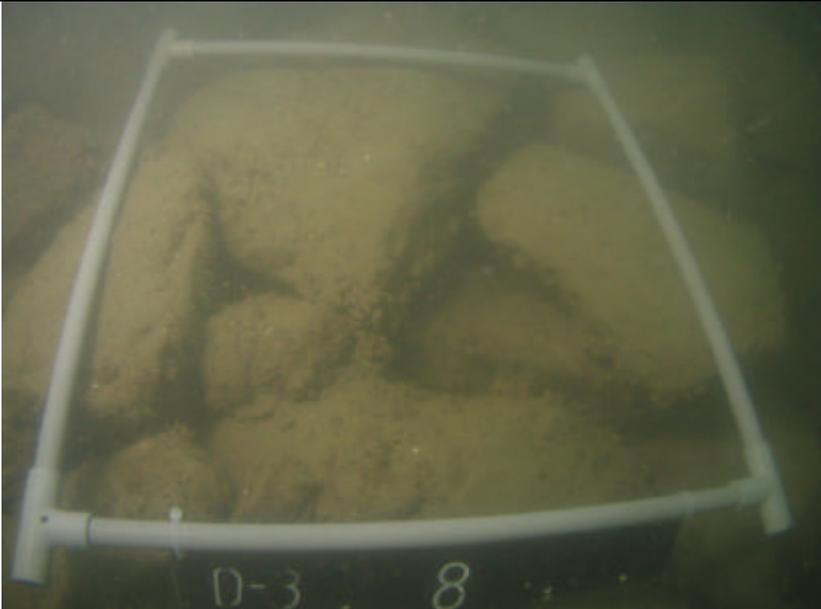
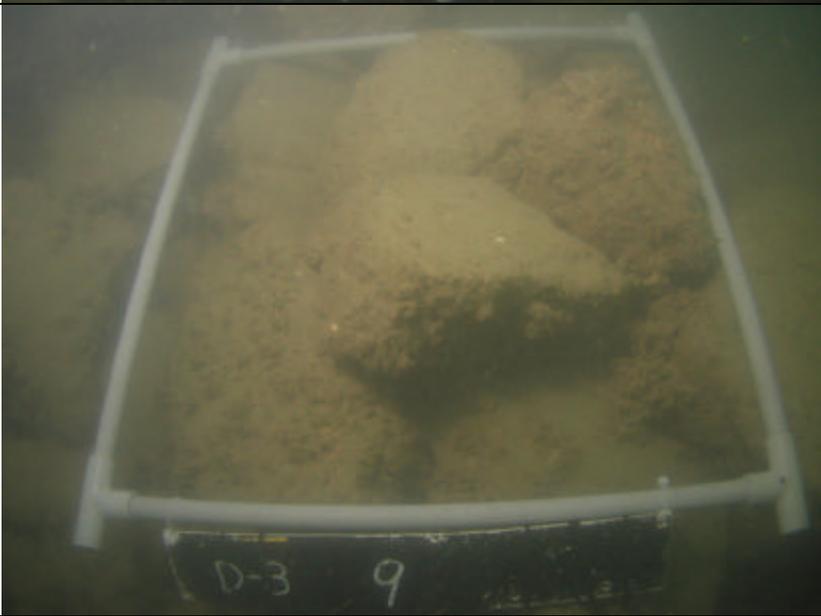
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

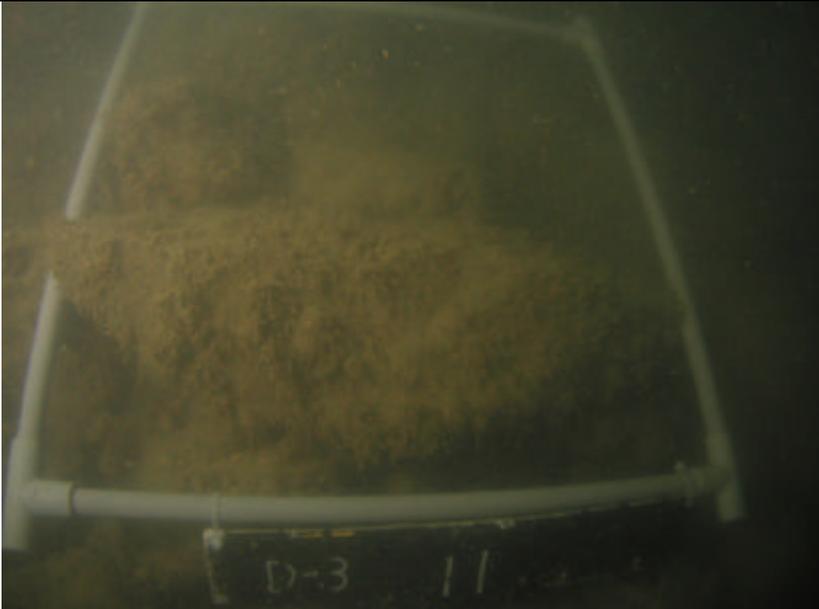
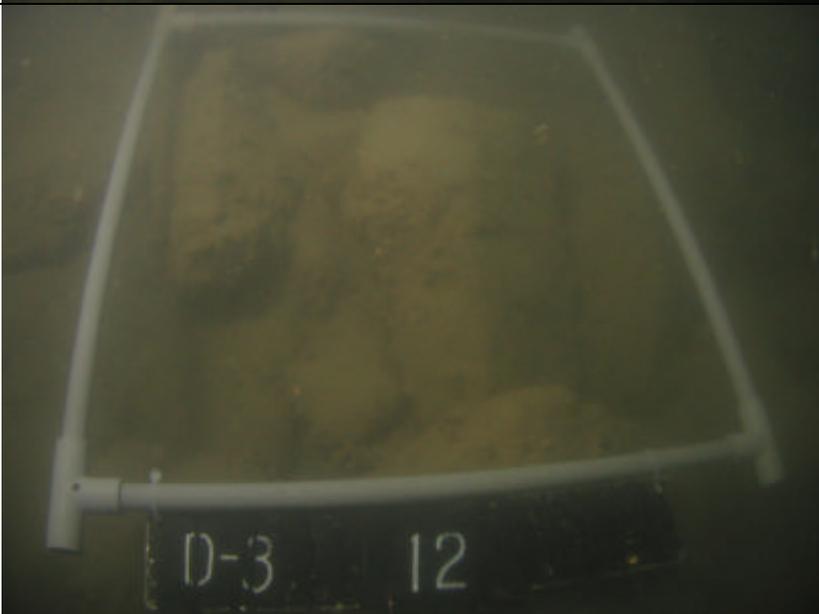
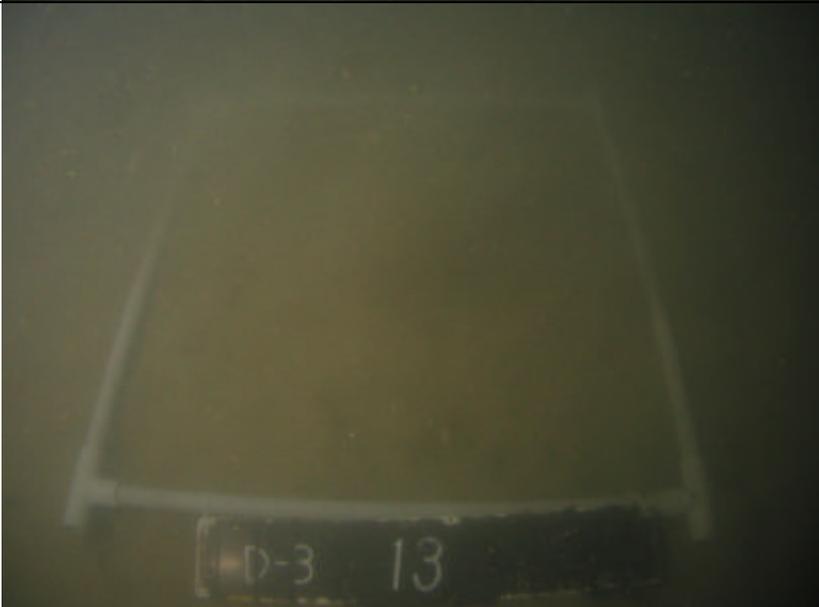
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

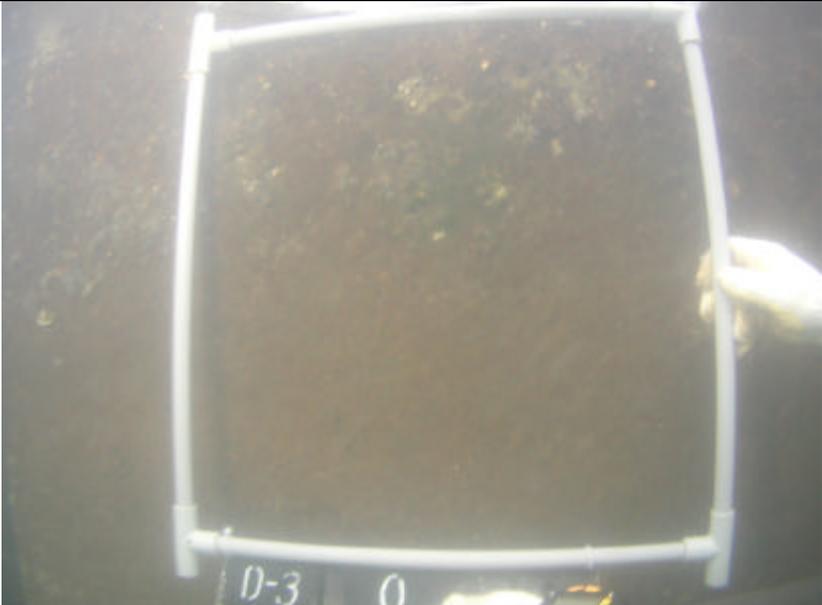
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

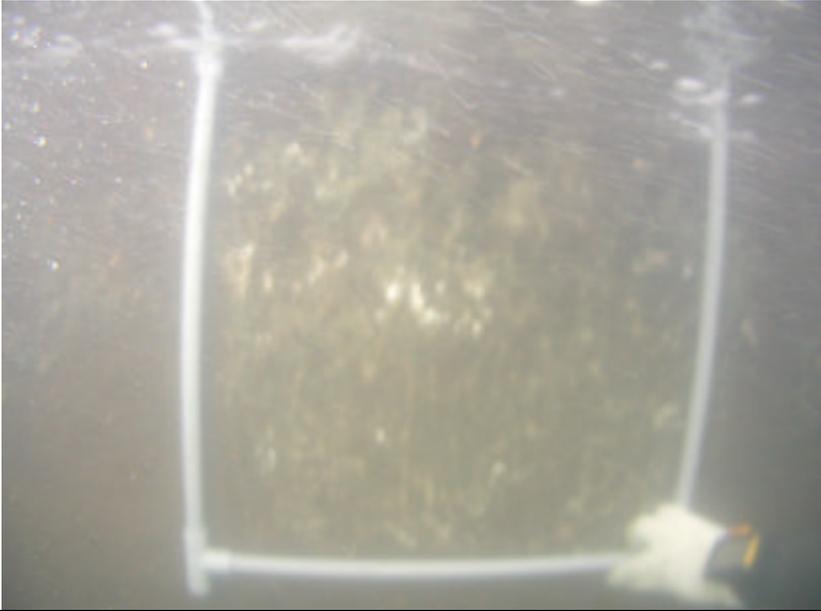
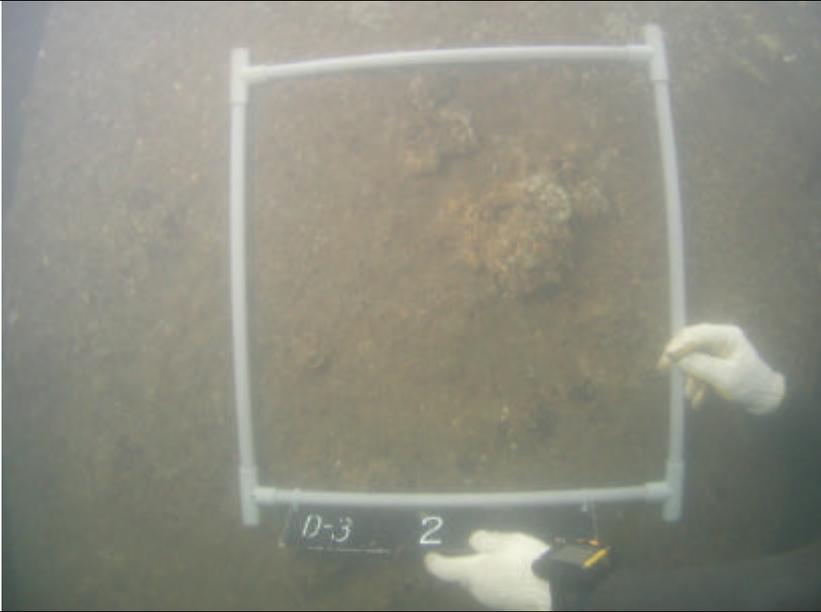
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

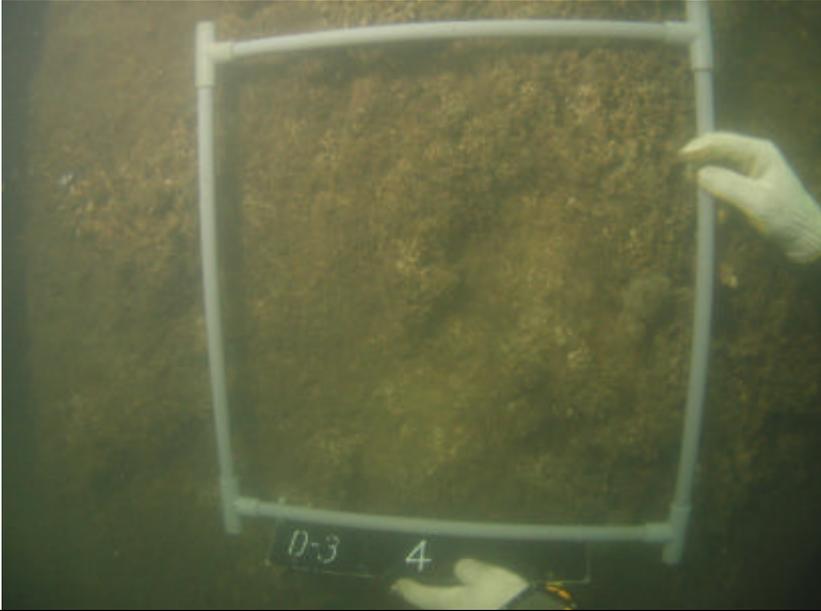
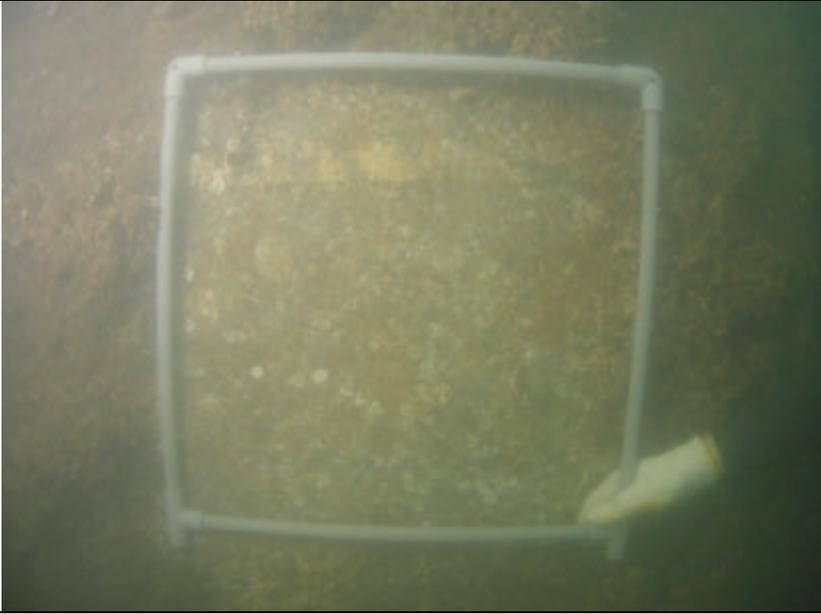
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

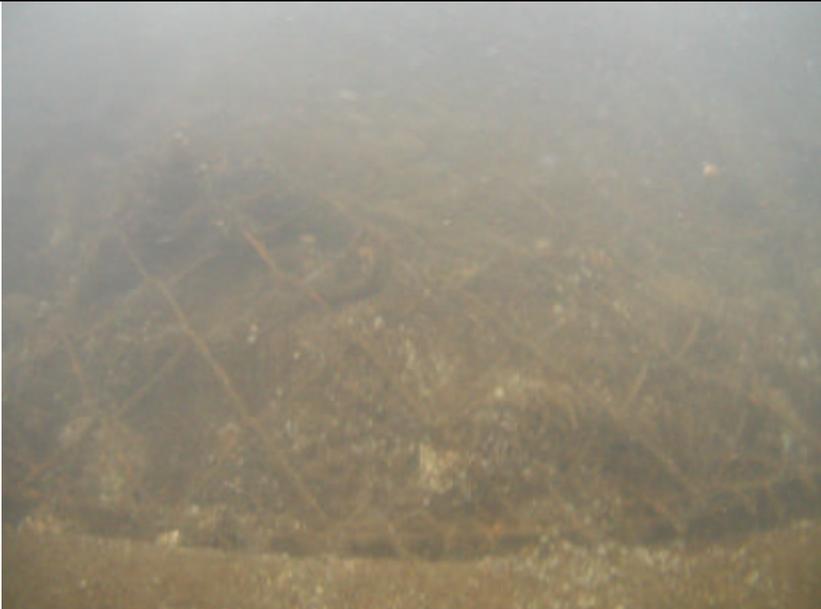
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>シロボヤ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

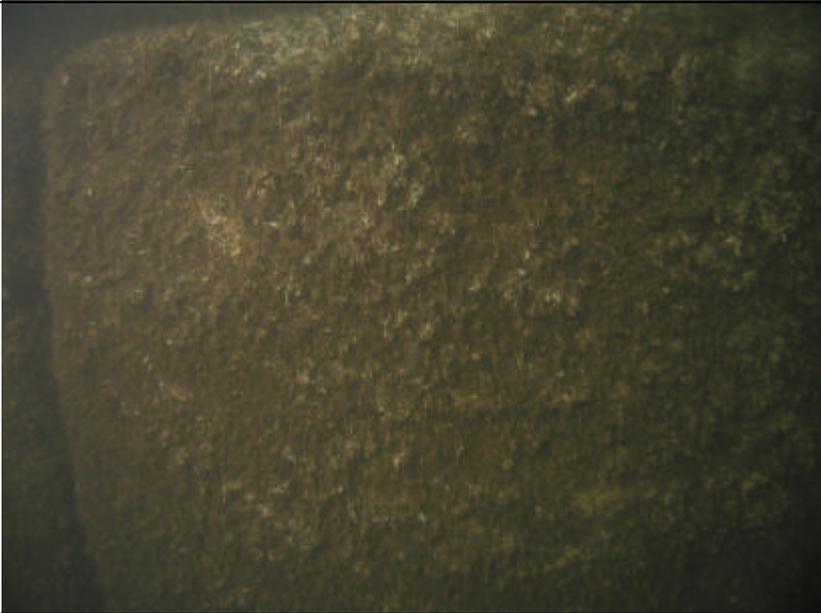
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

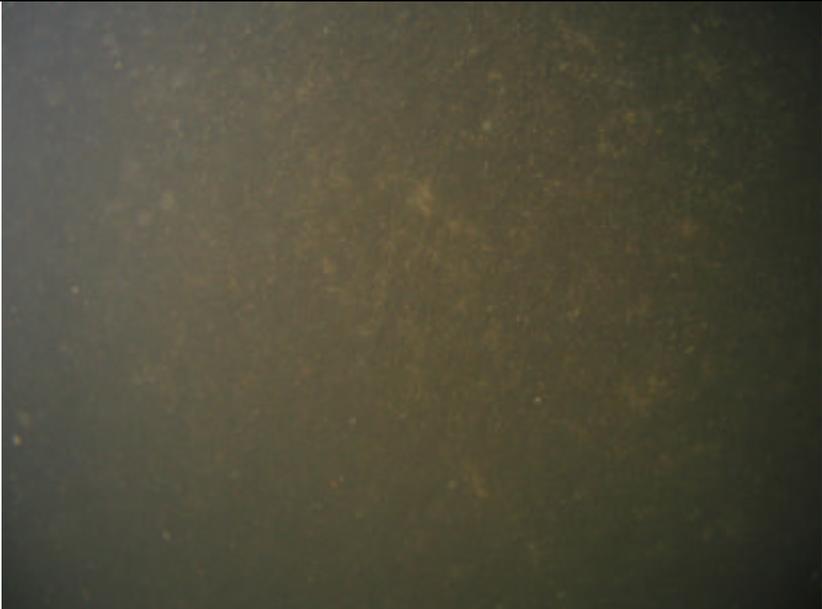
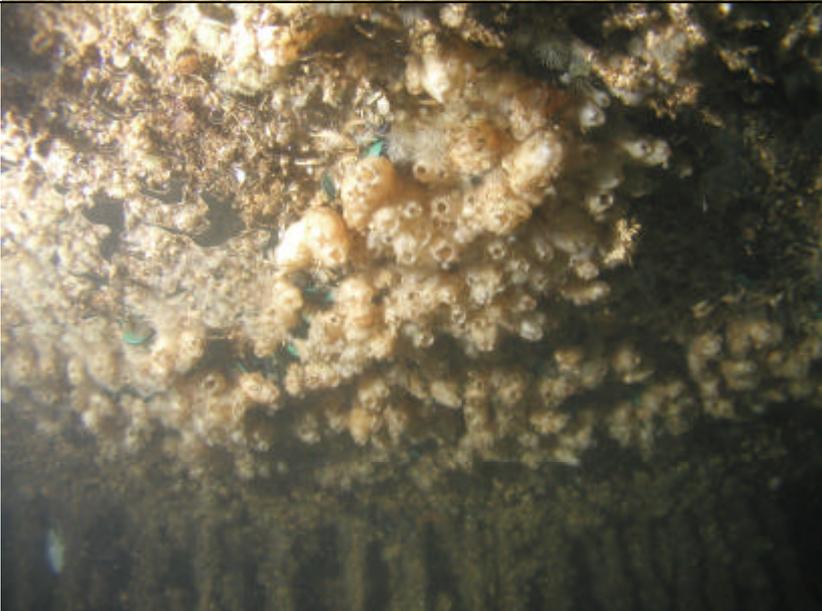
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. + 1.0 ~ ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. ± 0.0 ~ - 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 1.0 ~ - 2.0m</p>

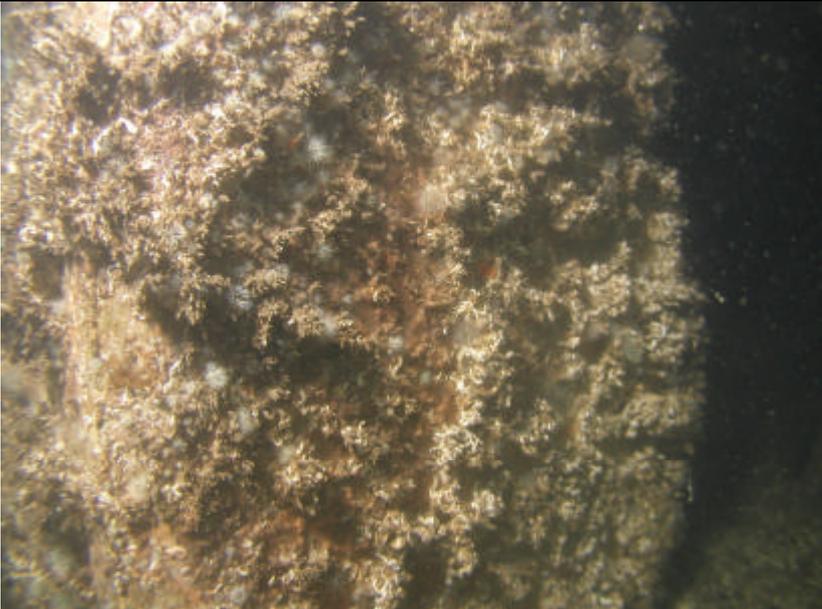
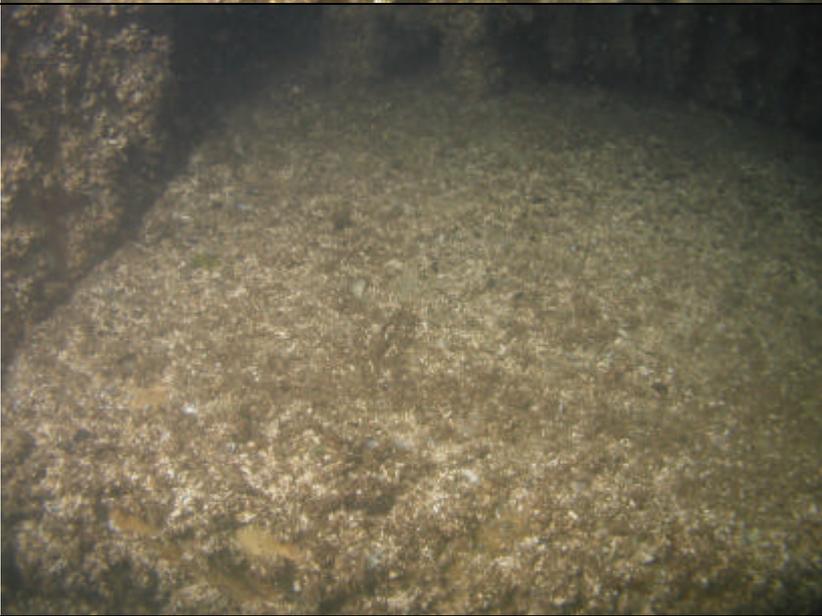
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 2.0 ~ - 3.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 3.0 ~ - 4.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 4.0 ~ - 5.0m</p>

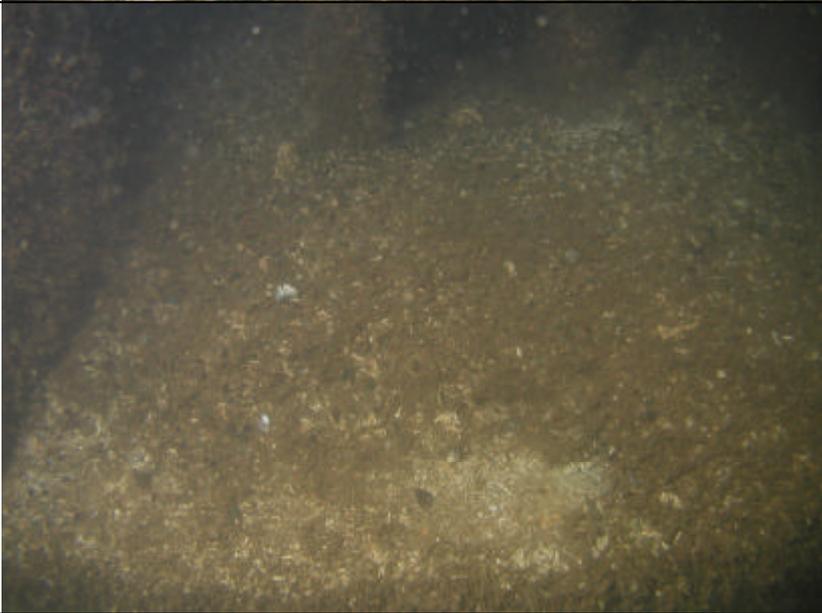
調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 5.0 ~ - 5.5m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室・上面</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 上室・側面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 上室・下面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 下室</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

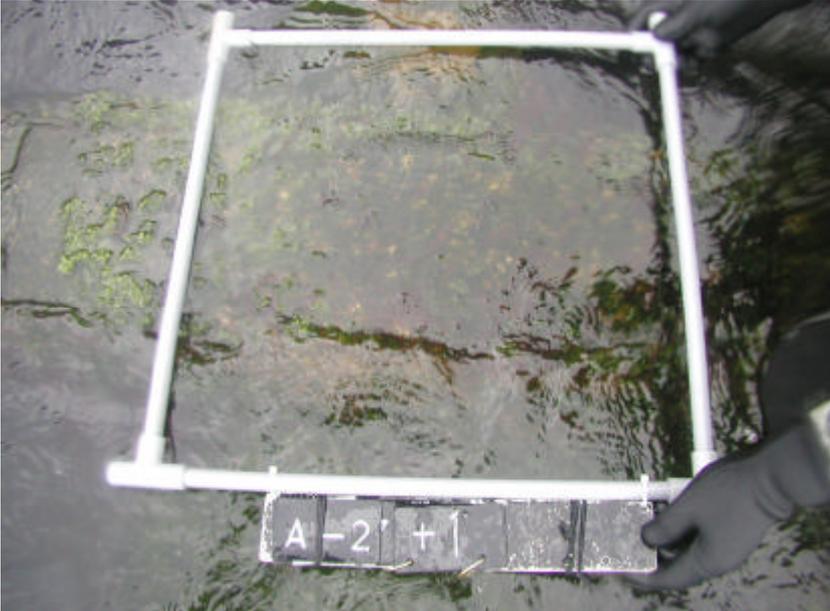
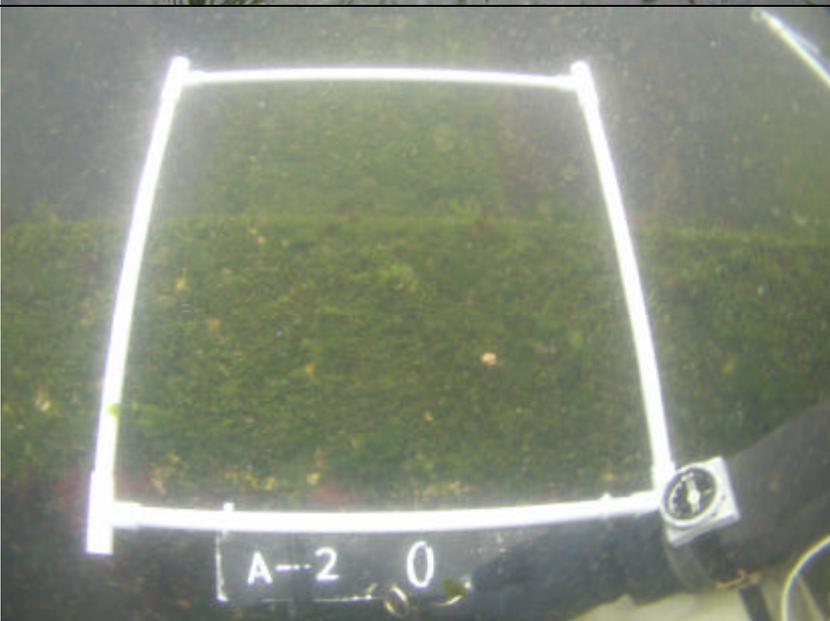
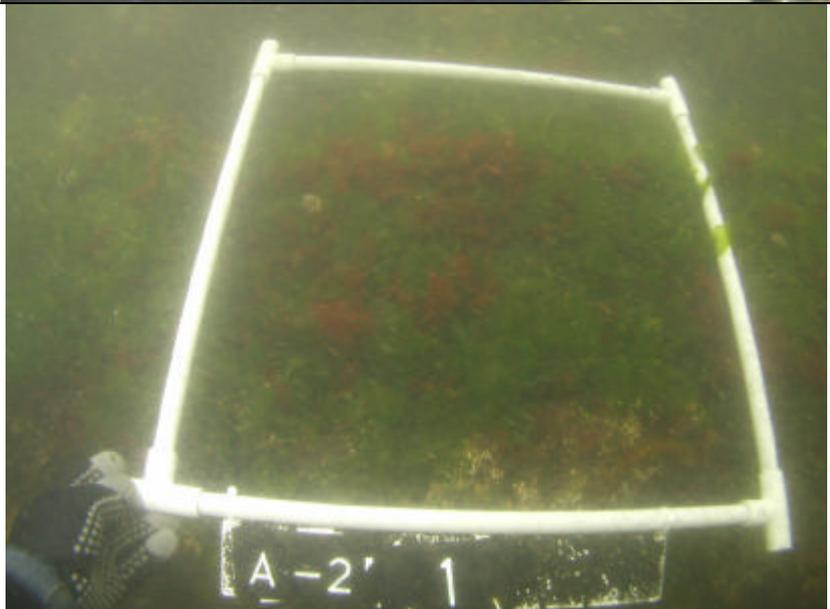
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・上面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・側面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・下面</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

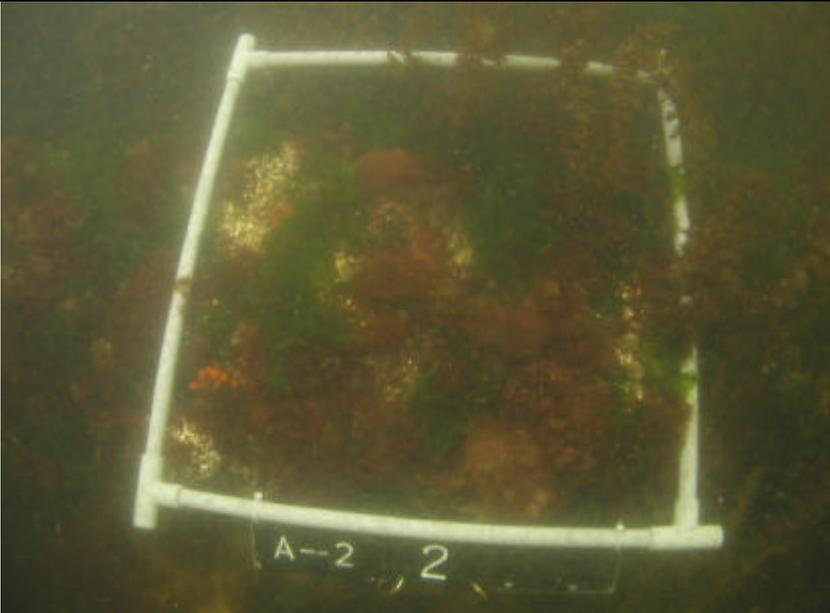
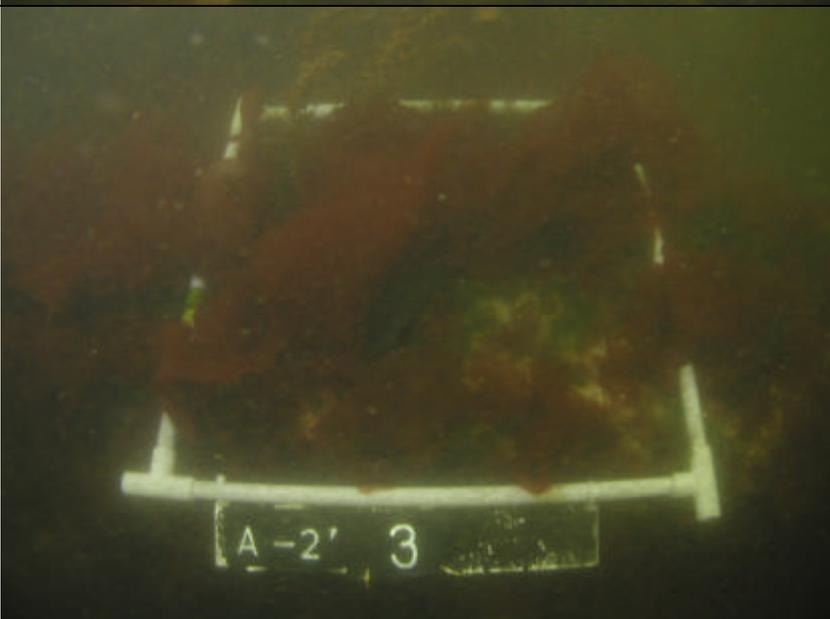
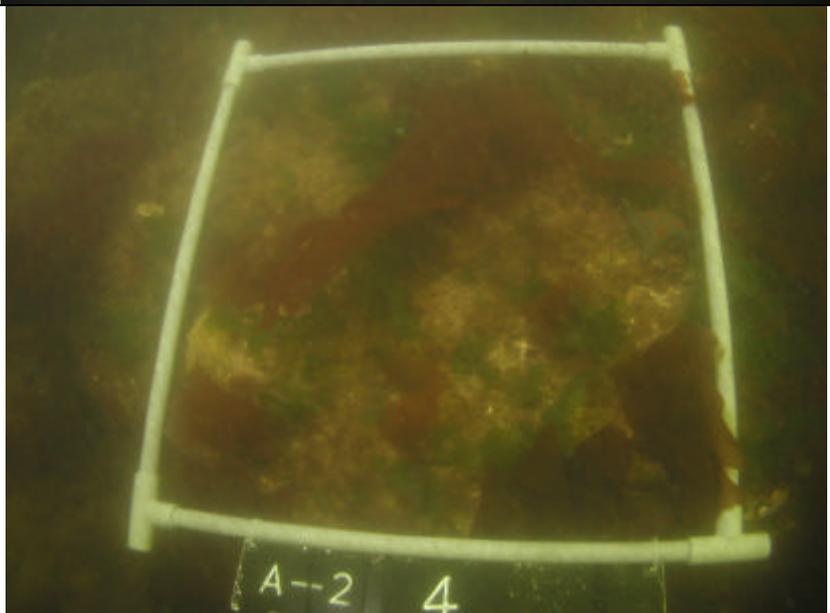
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マアジ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>クロダイ ウミタナゴ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>メバル</p>

調査日：平成 19 年 11 月 1 日

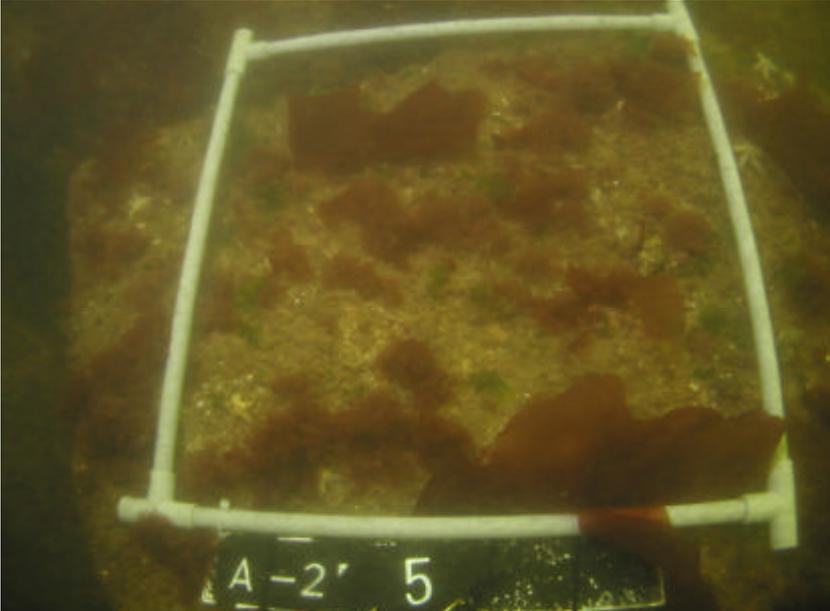
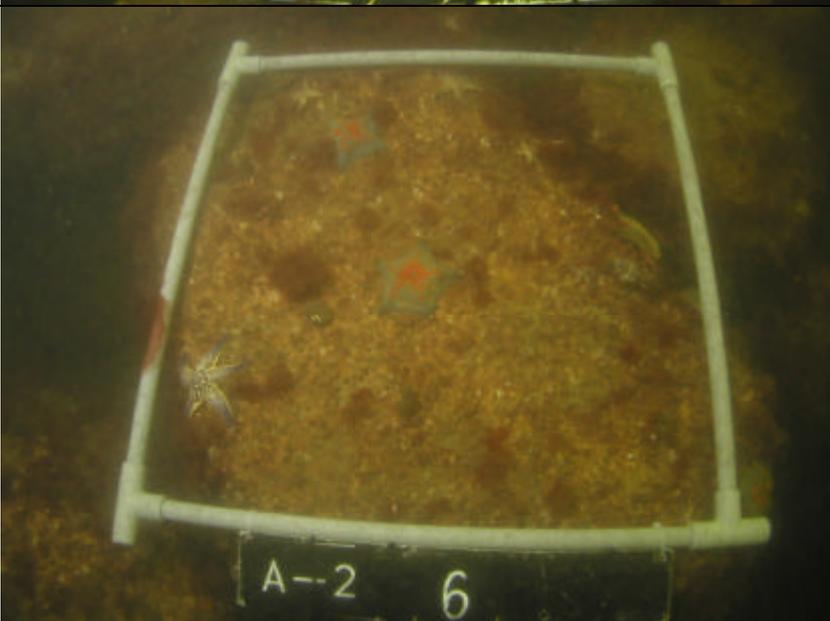
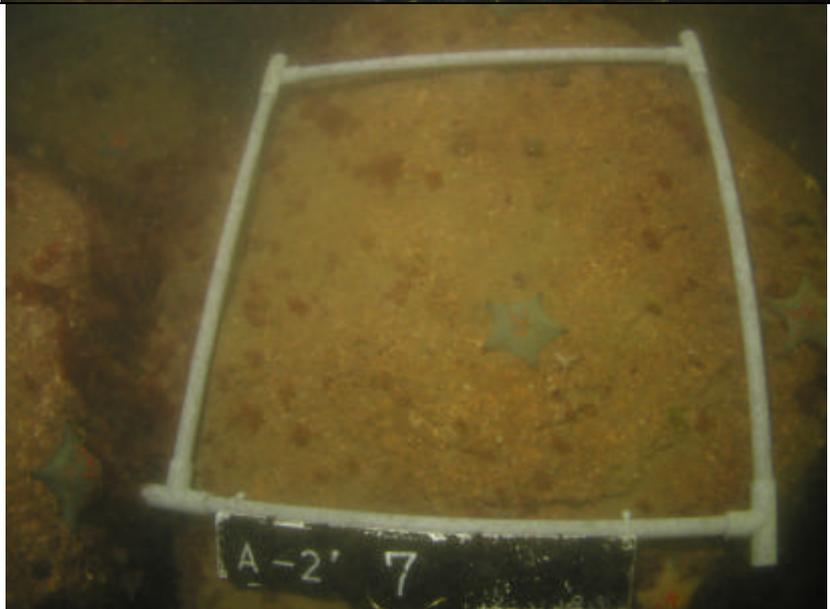
A . 神戸沖処分場
(平成 20 年 2 月 3 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

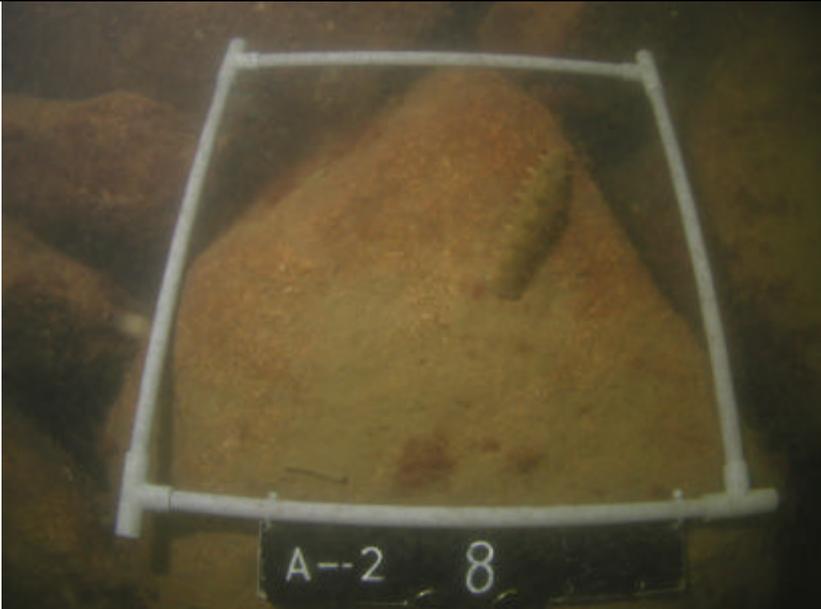
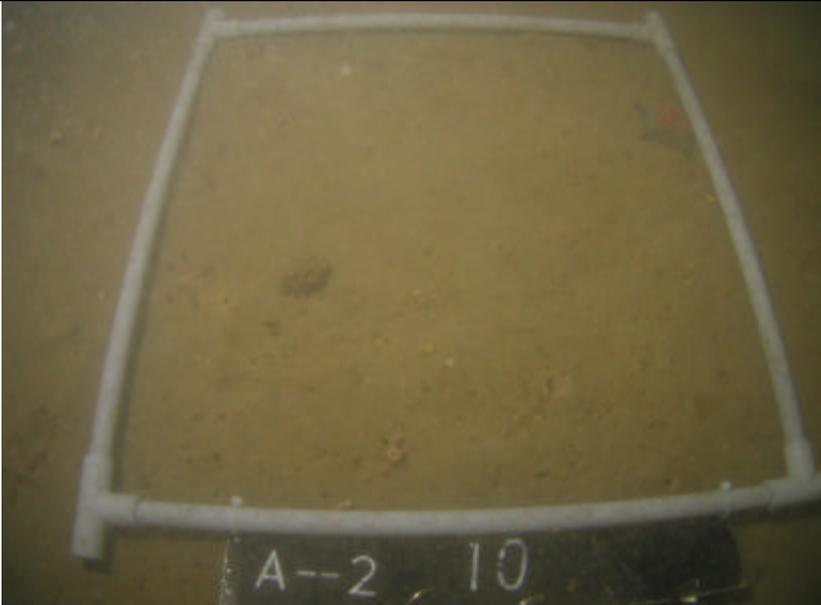
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

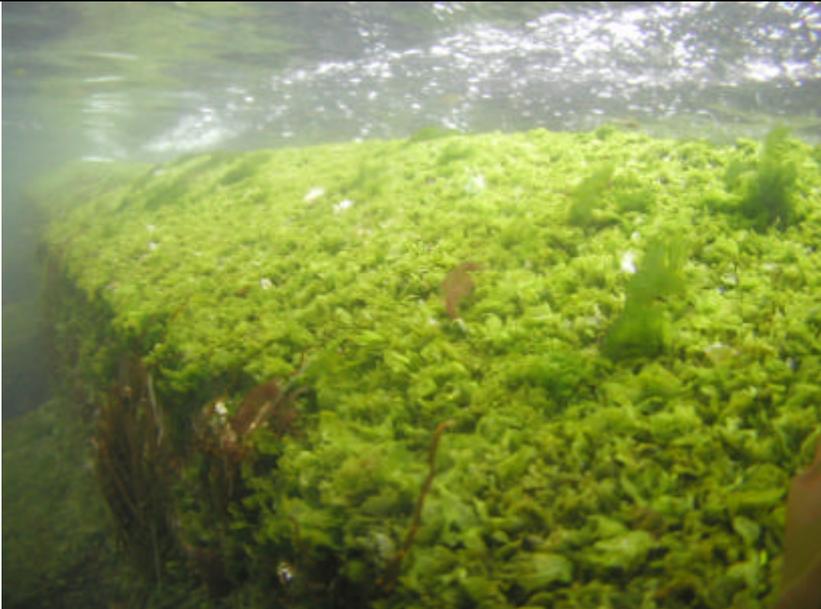
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

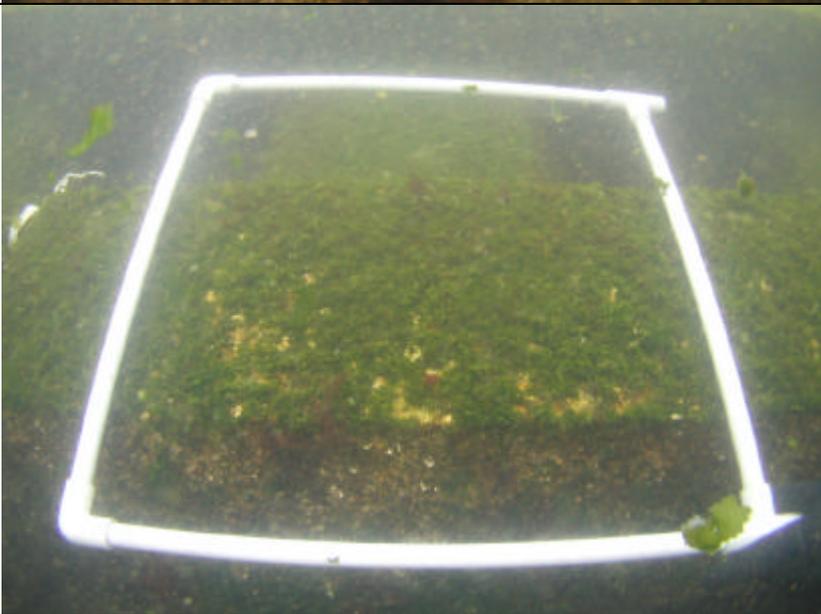
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>アオサ属 カヤモノリ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>アオサ属 フダク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>アオサ属 タマハハキモク</p>

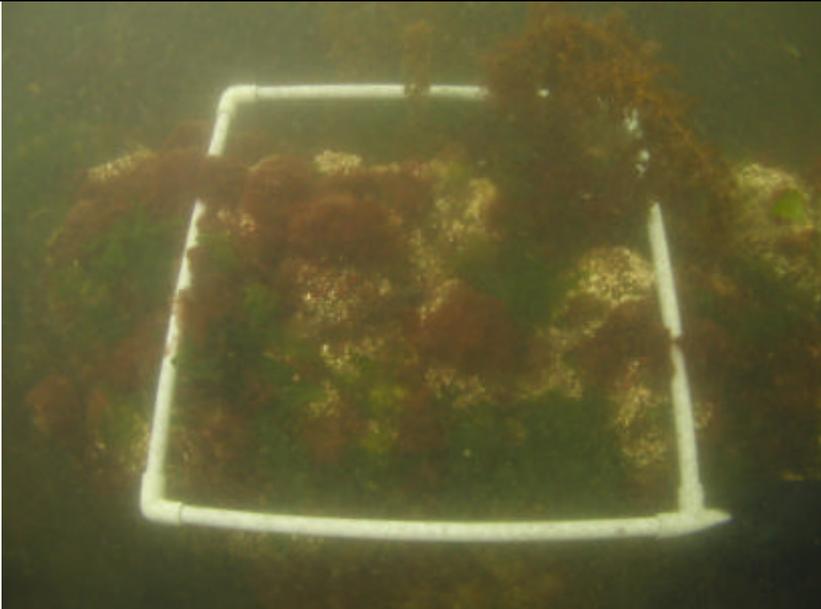
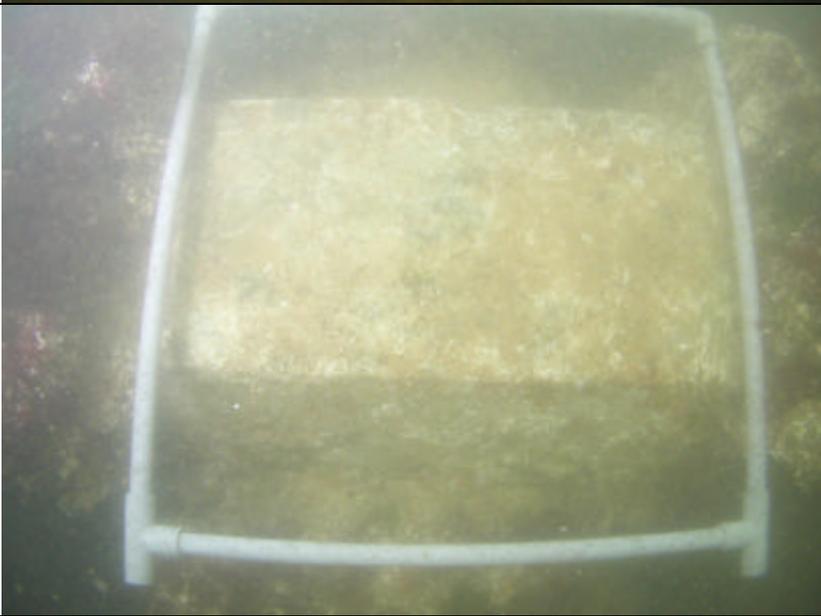
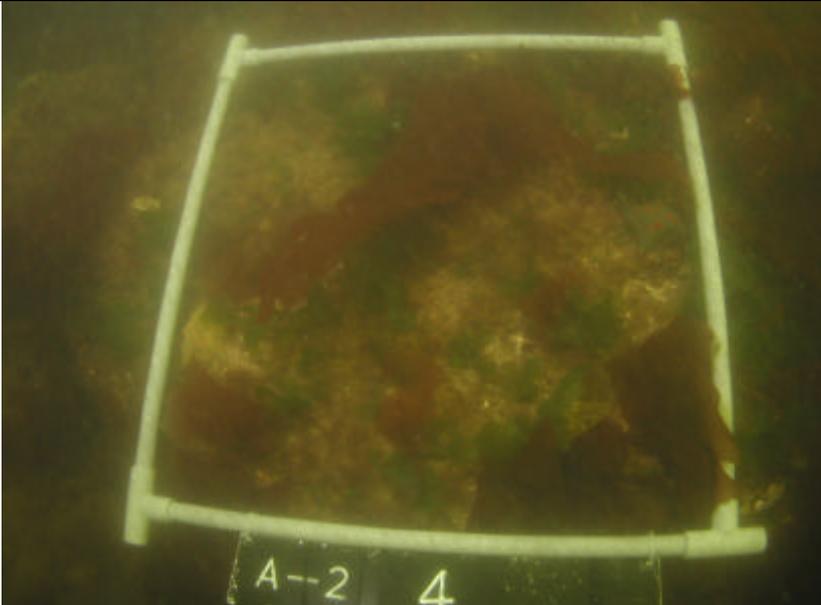
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ススカケベニ</p>

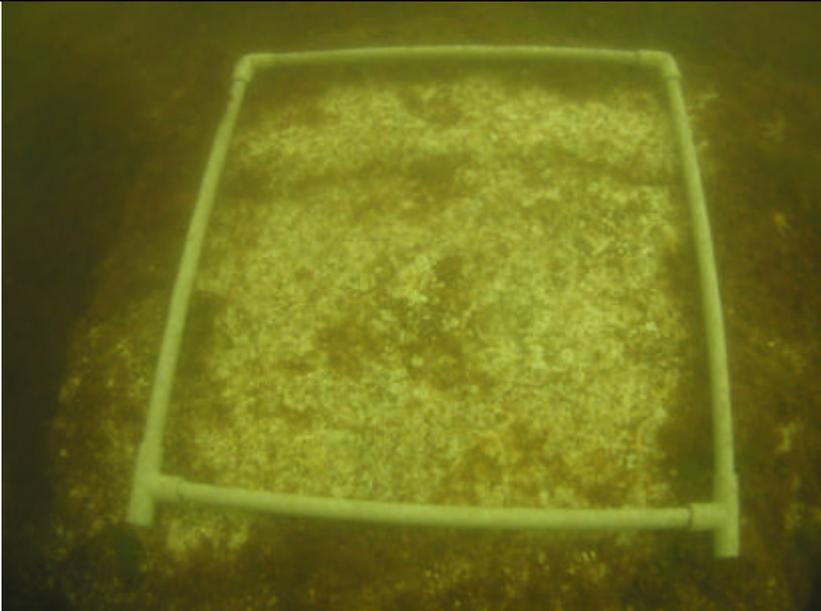
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>粹取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 上層</p> <p>粹取り後 M.W.L. ±0.0m</p>

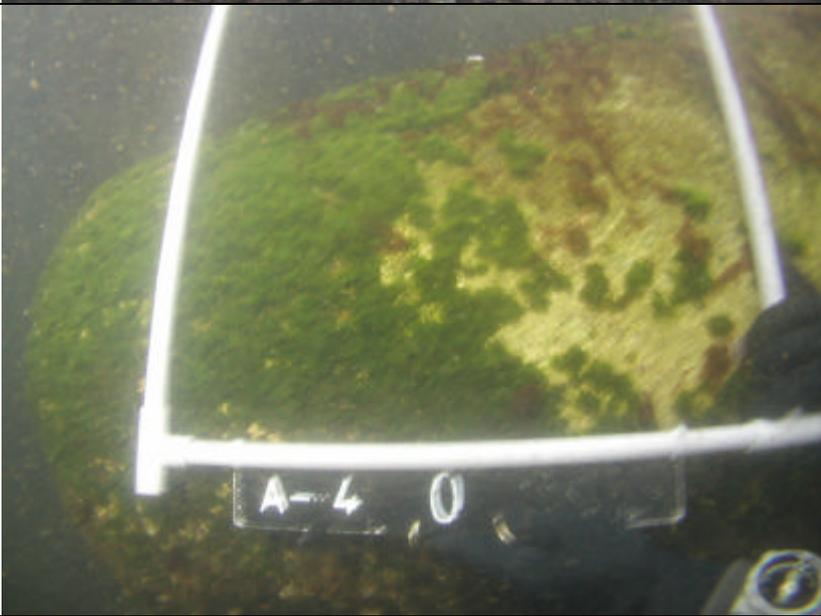
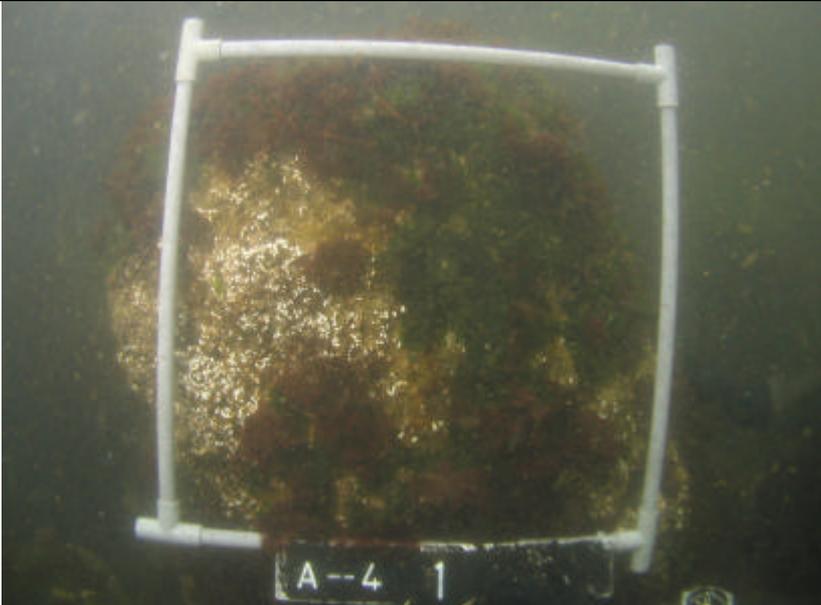
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>採取り前 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 中層</p> <p>採取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>採取り前 M.W.L. - 4.0m</p>

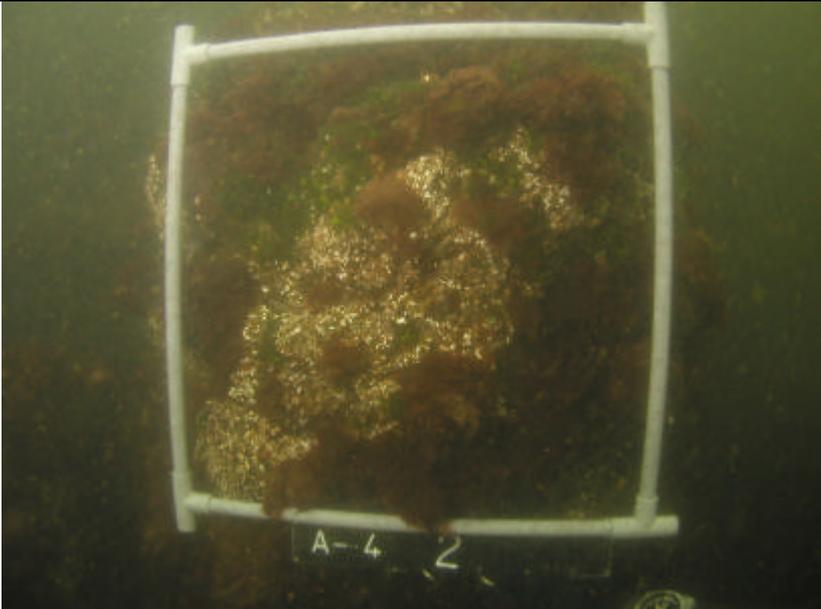
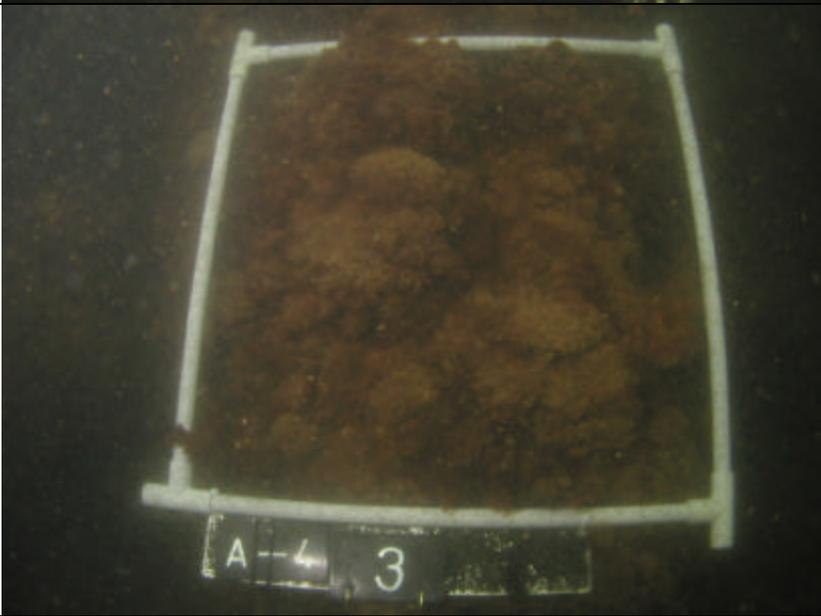
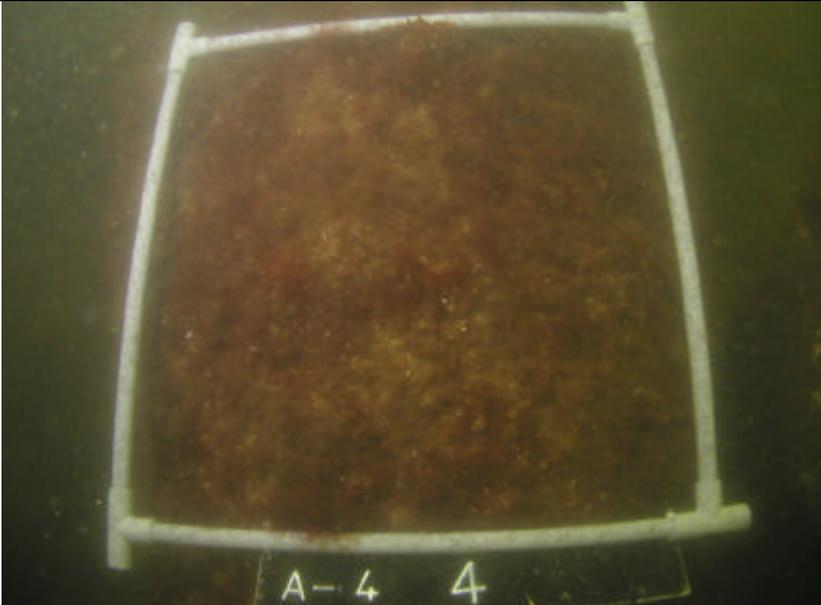
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>
--	--	---

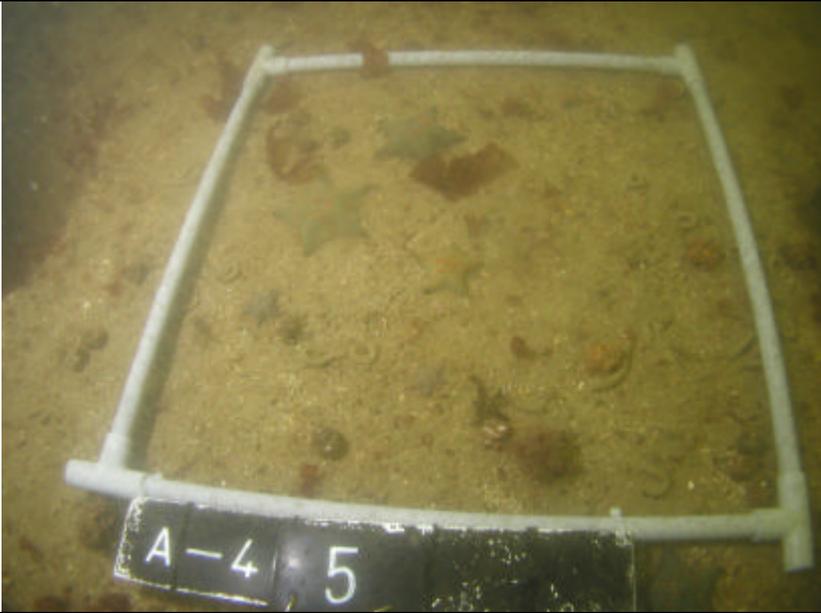
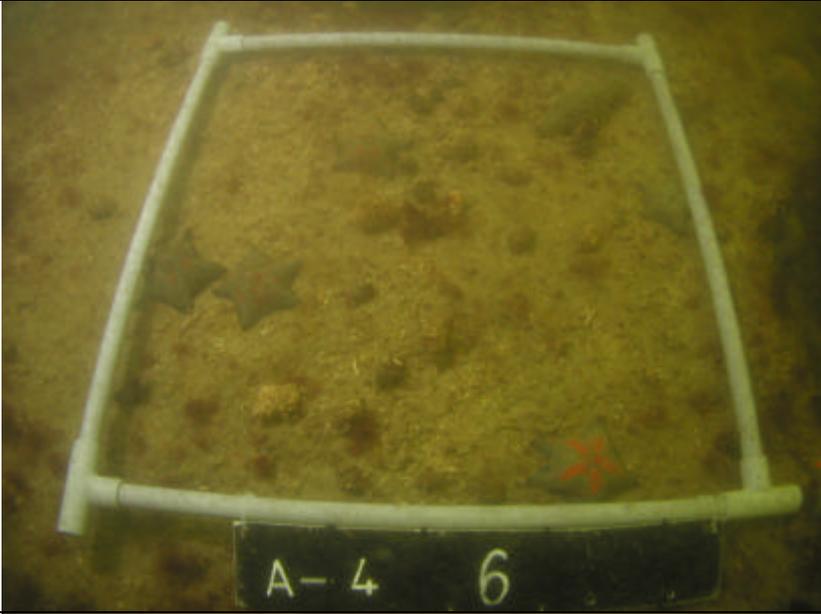
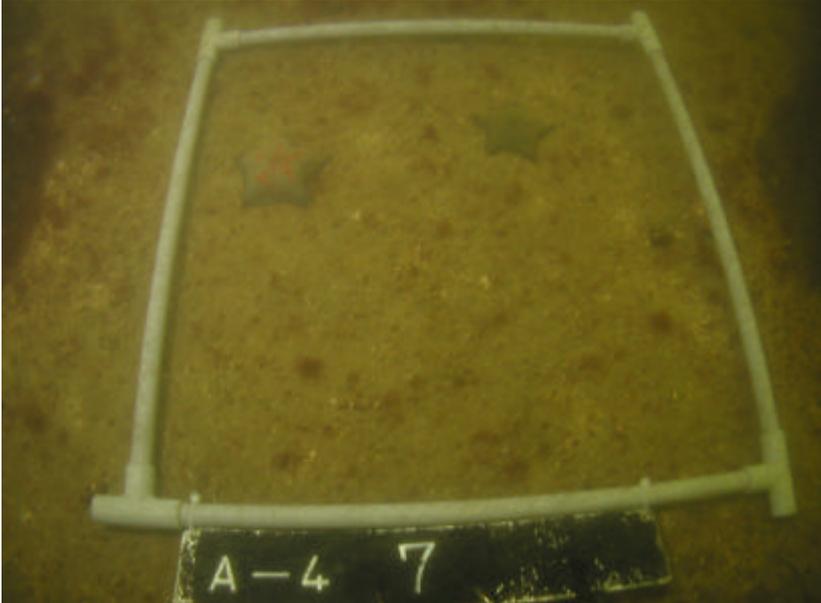
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

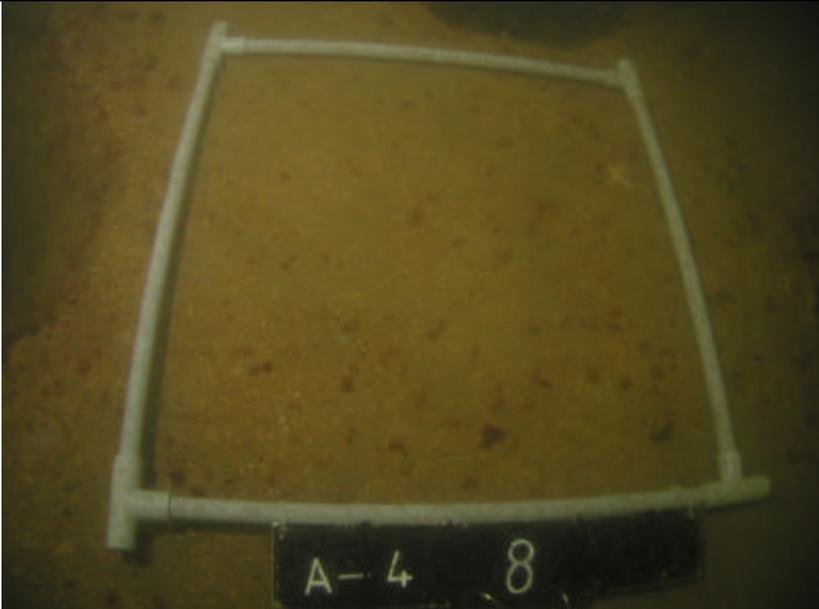
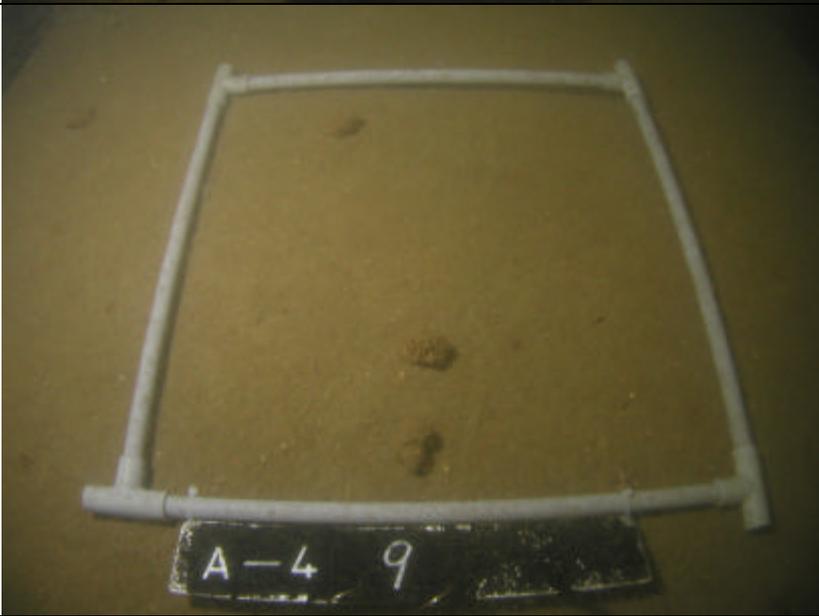
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

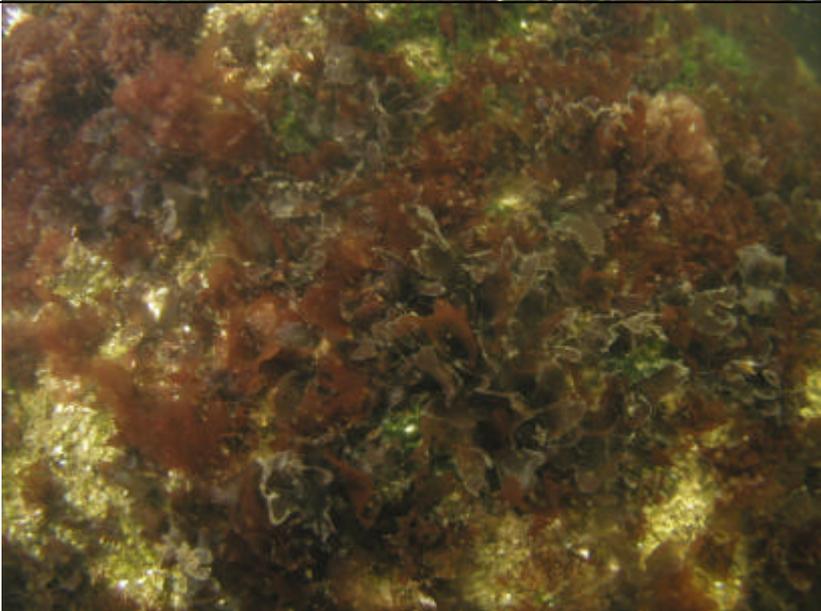
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

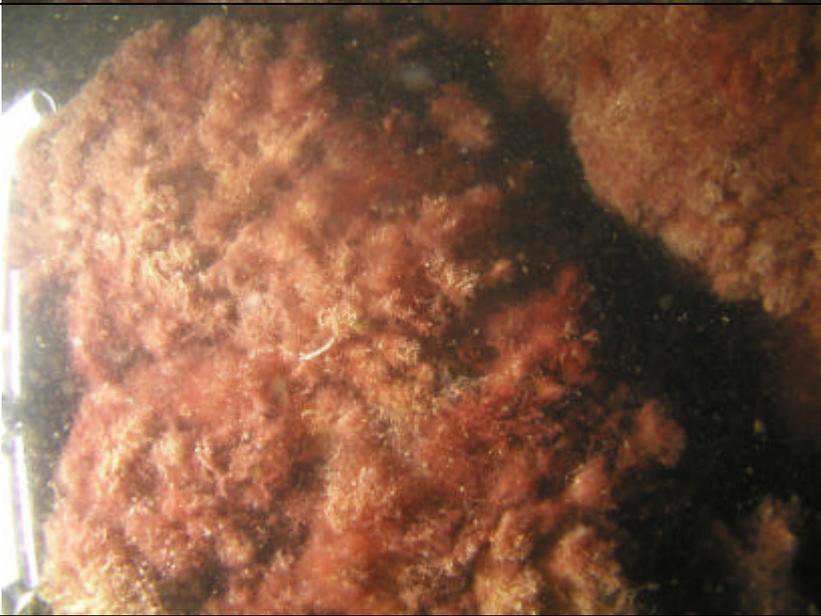
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>カヤモノリ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>コスジフシツナギ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>ツノマタ属</p>

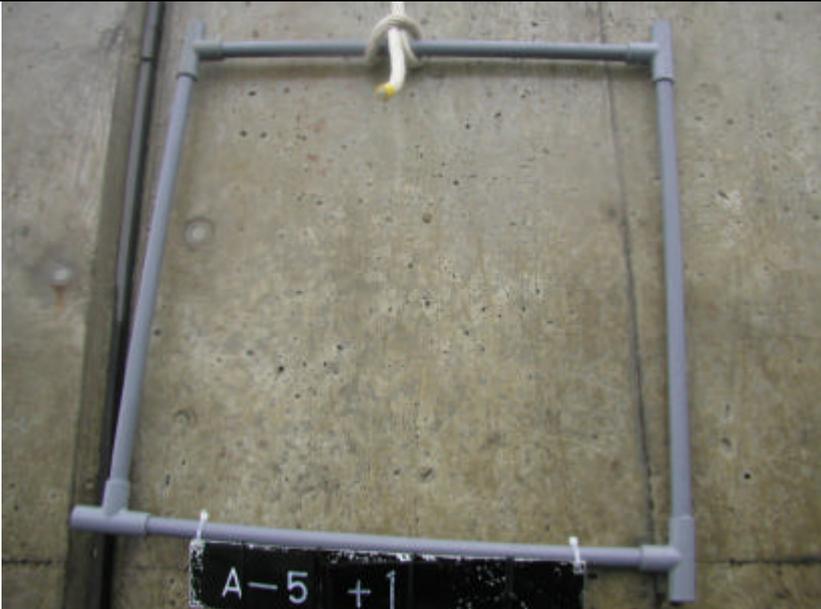
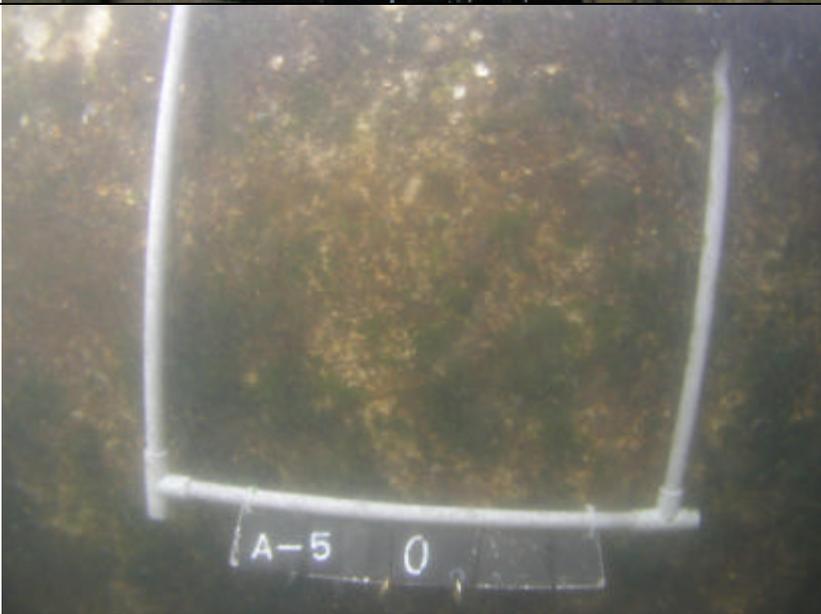
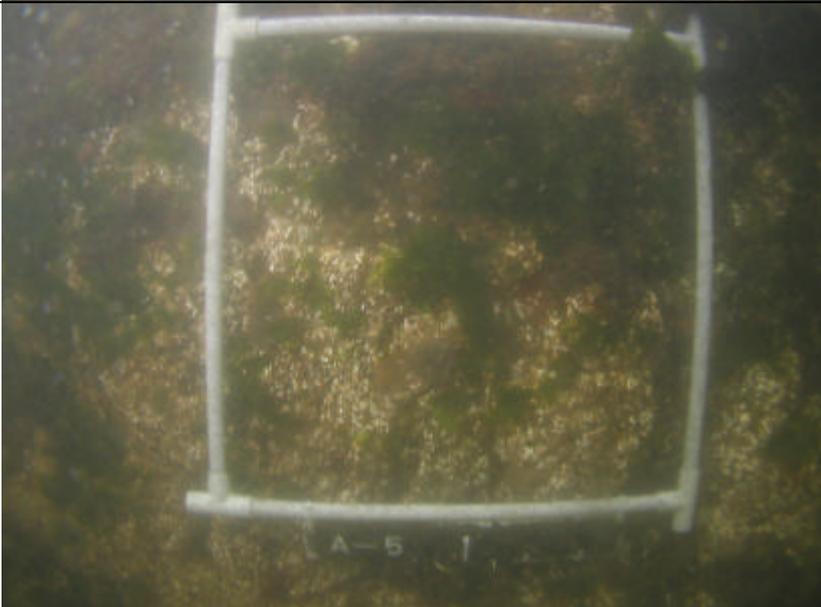
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>ミル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>イギス科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ サンショウウニ</p>

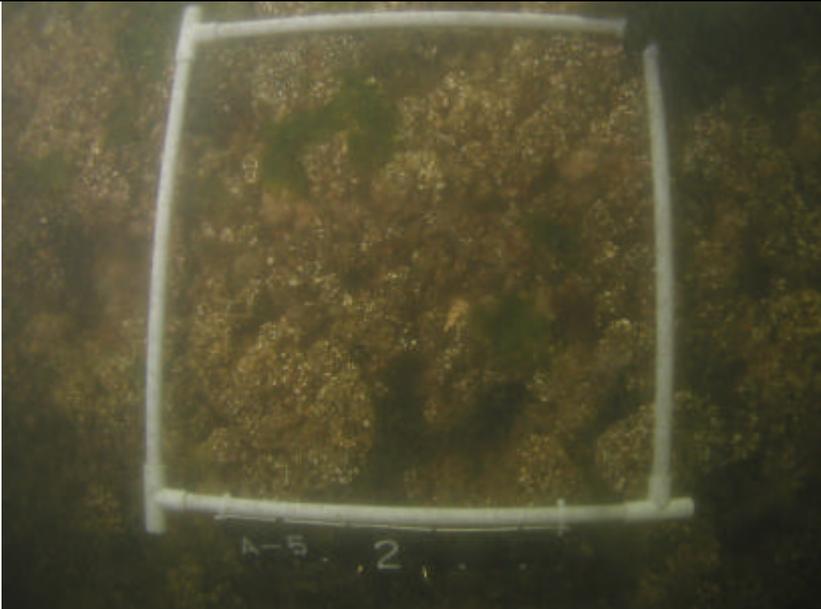
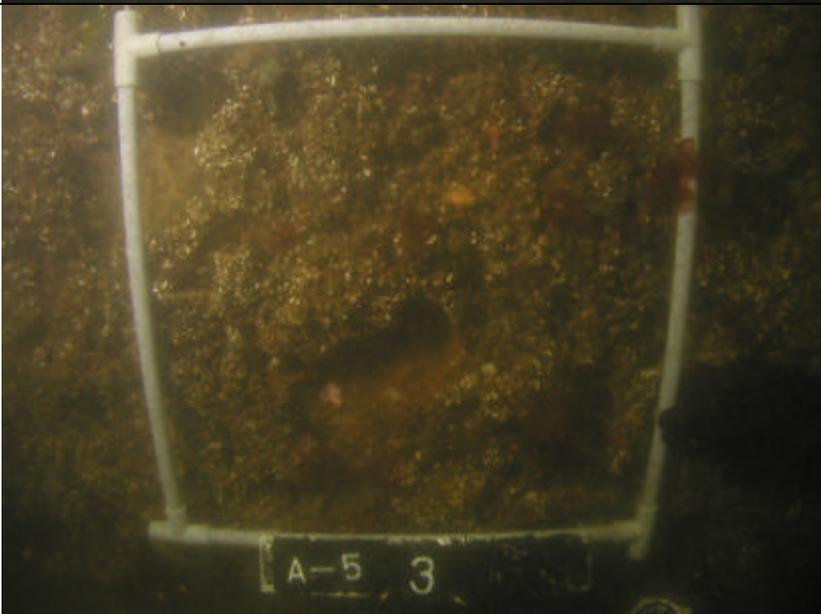
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ マナマコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>ハナギンチャク科</p>

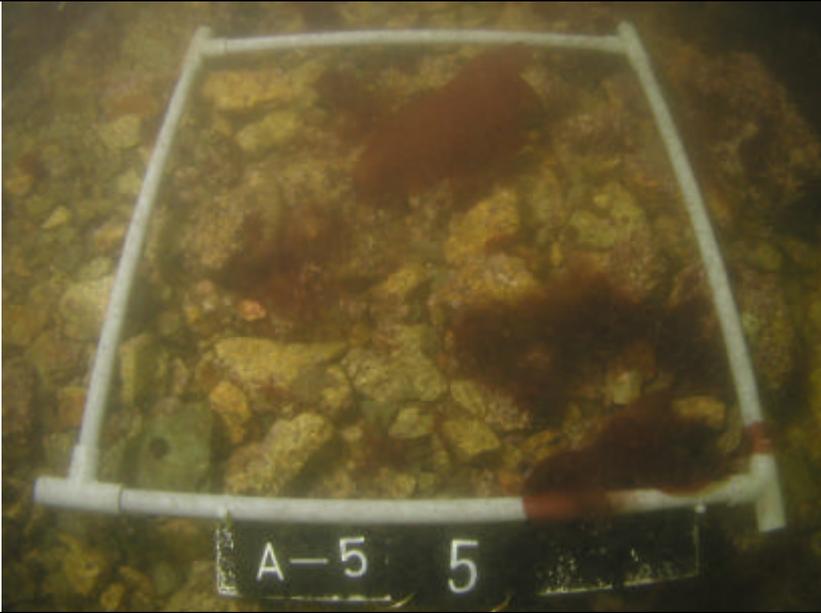
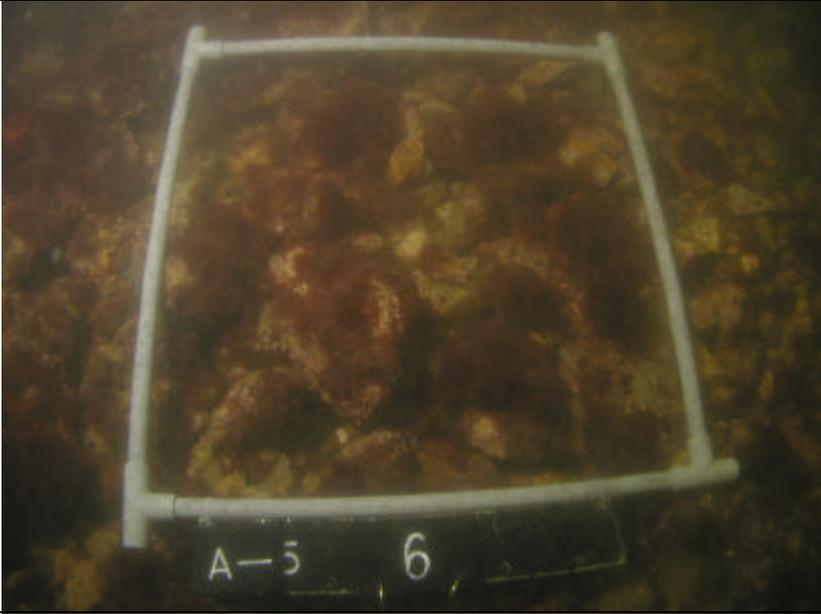
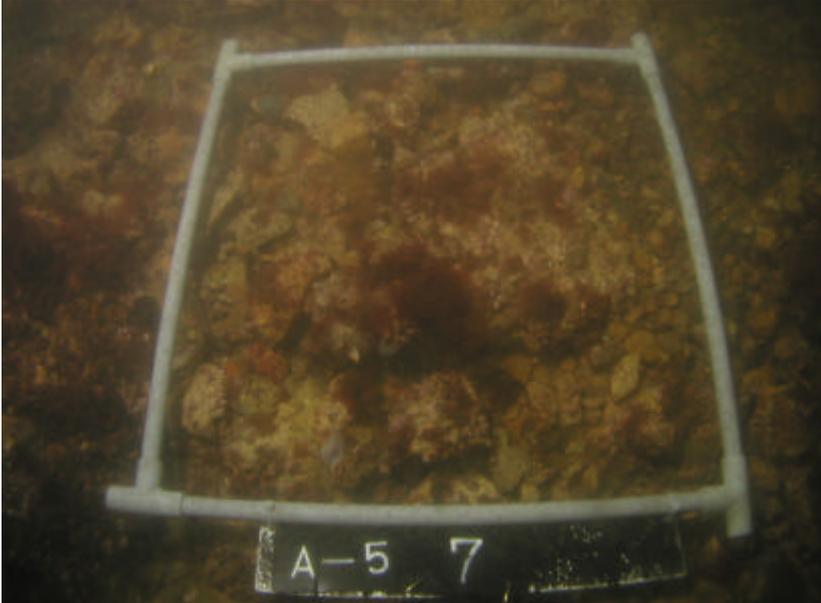
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

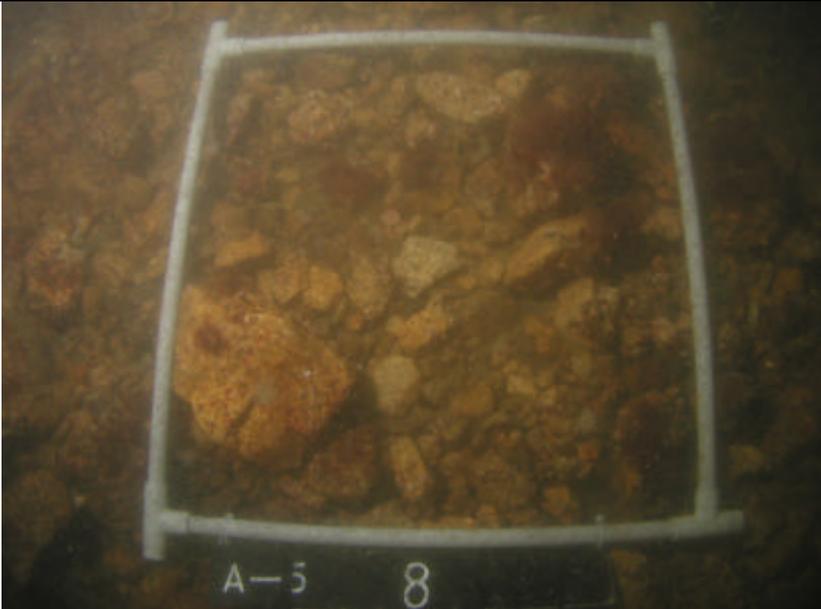
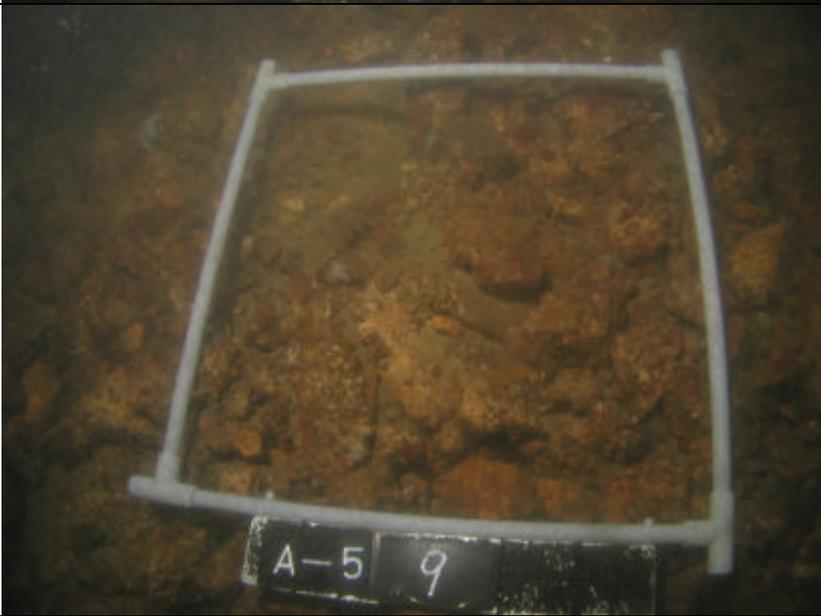
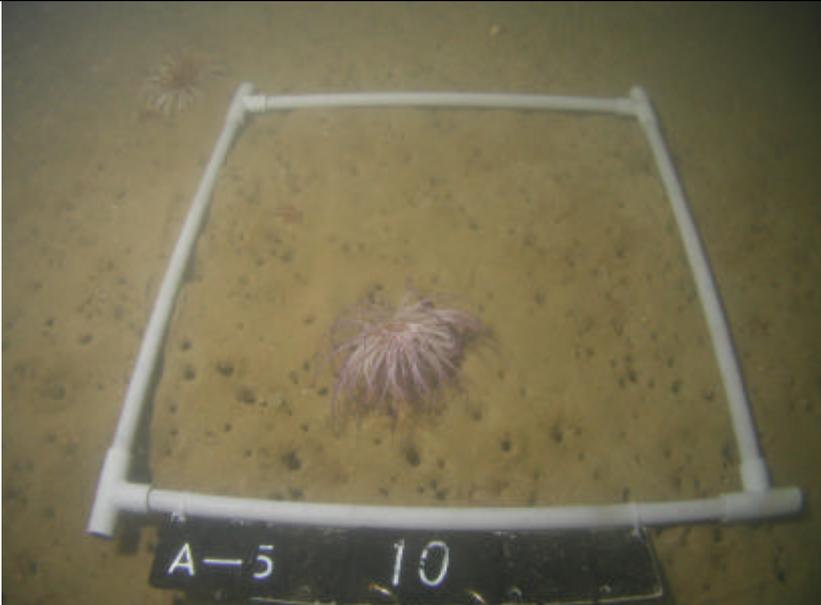
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

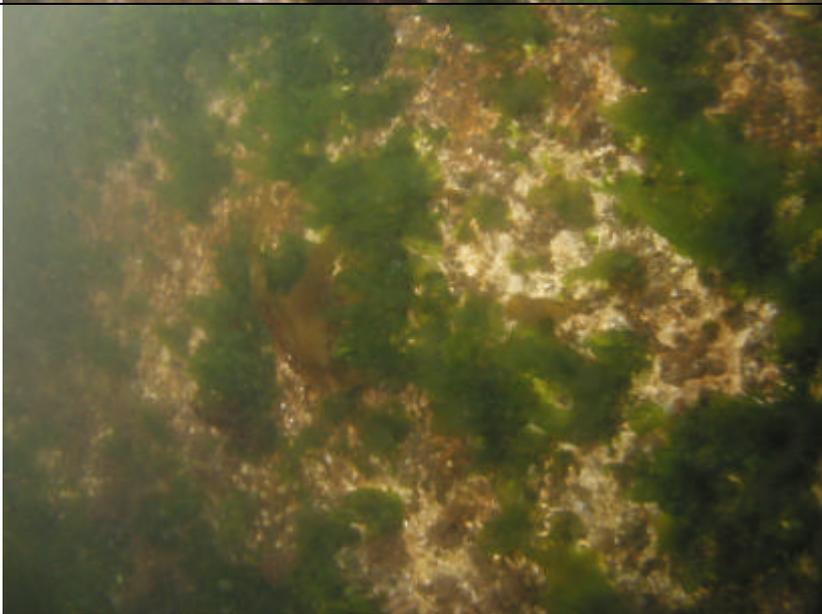
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

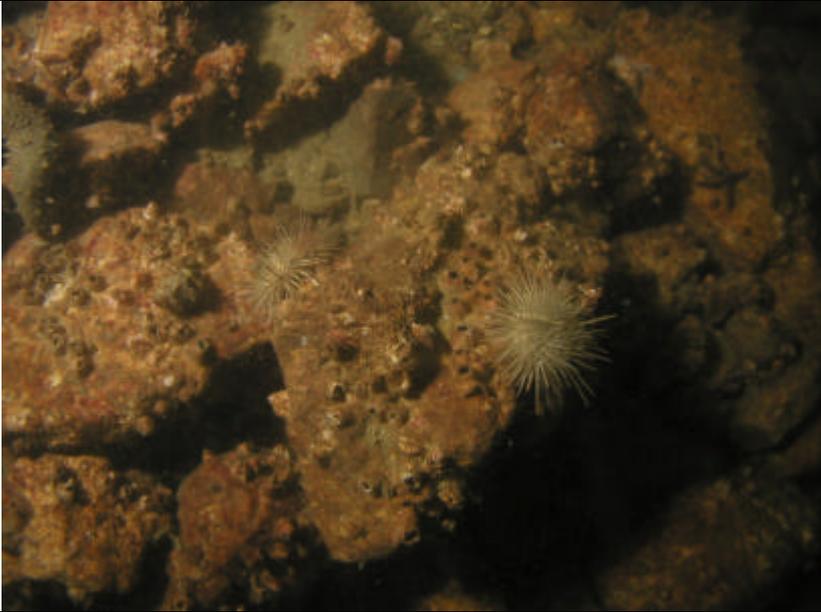
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>アマノリ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>セイヨウハバノリ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>フダラク</p> <p>フサコケムシ科</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>イソギンチャク目</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ススカケベニ</p>

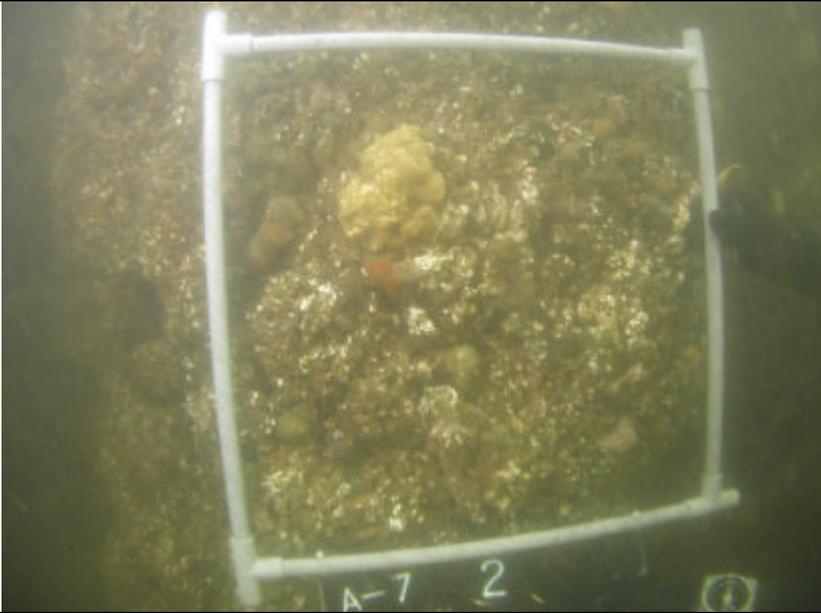
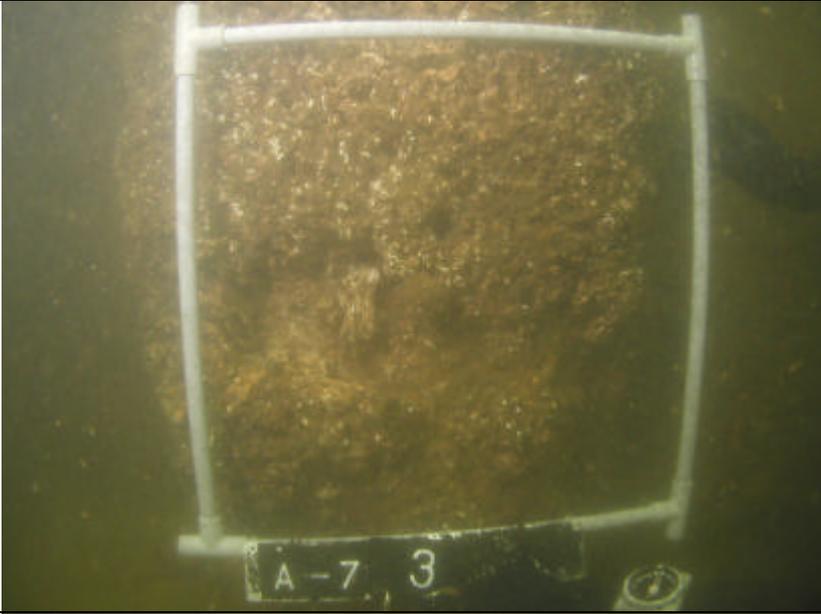
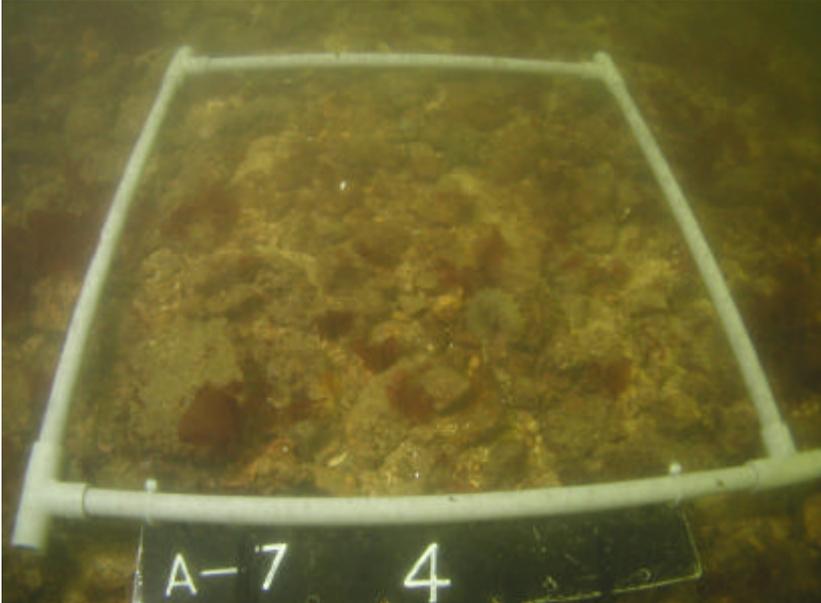
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 9.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M.W.L. - 10.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>

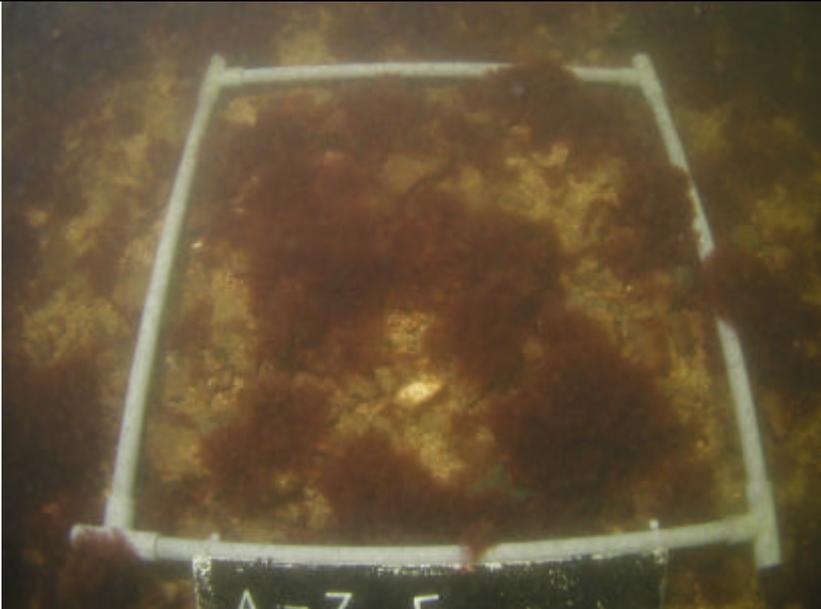
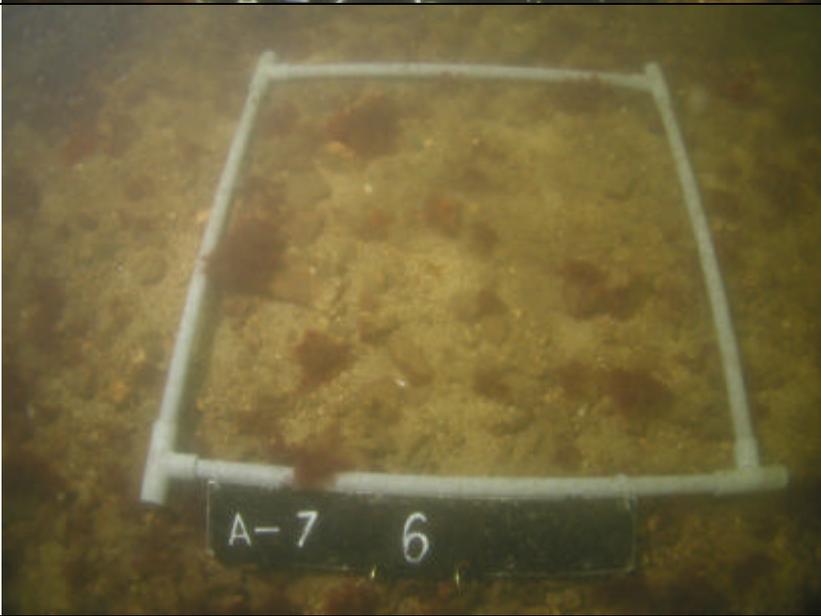
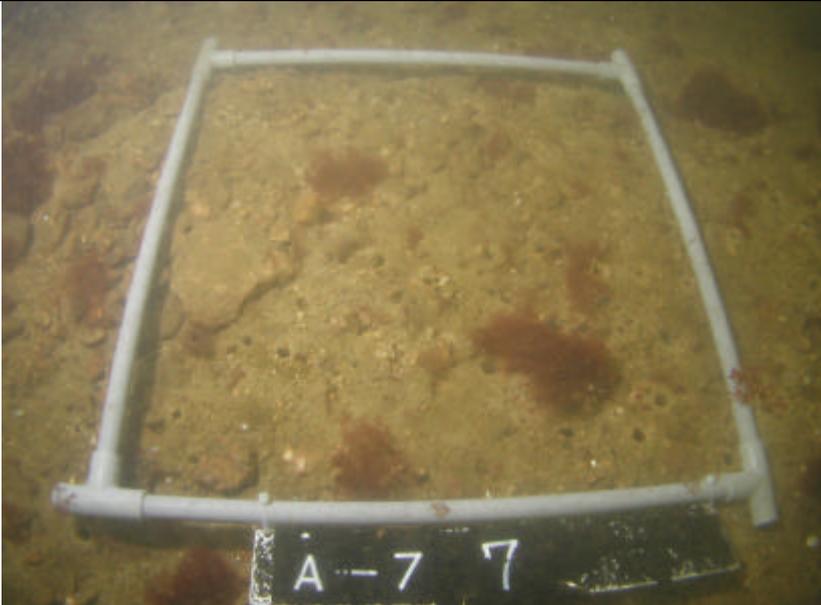
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

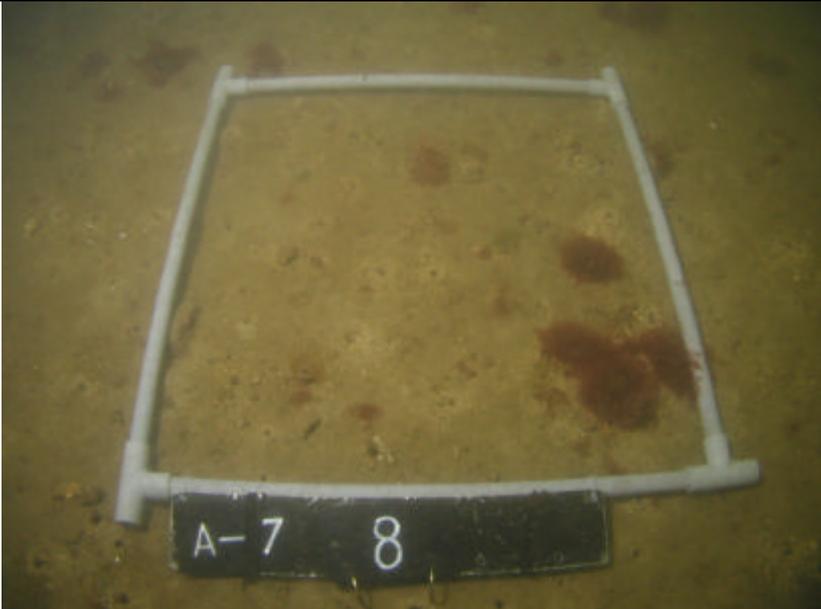
調査日：平成 20 年 2 月 3 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>タデマイソギンチャク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m 付近</p> <p>キヒトデ イトマキヒトデ</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

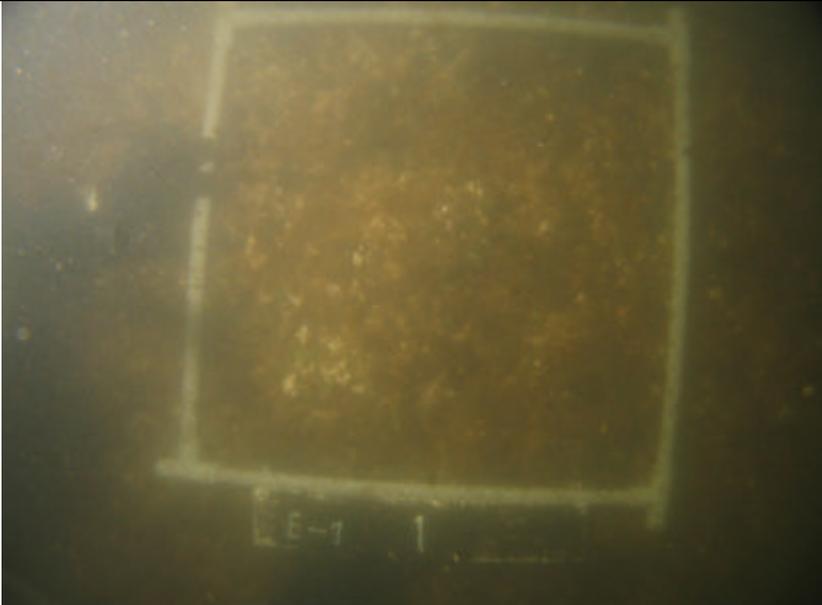
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>サンショウウニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

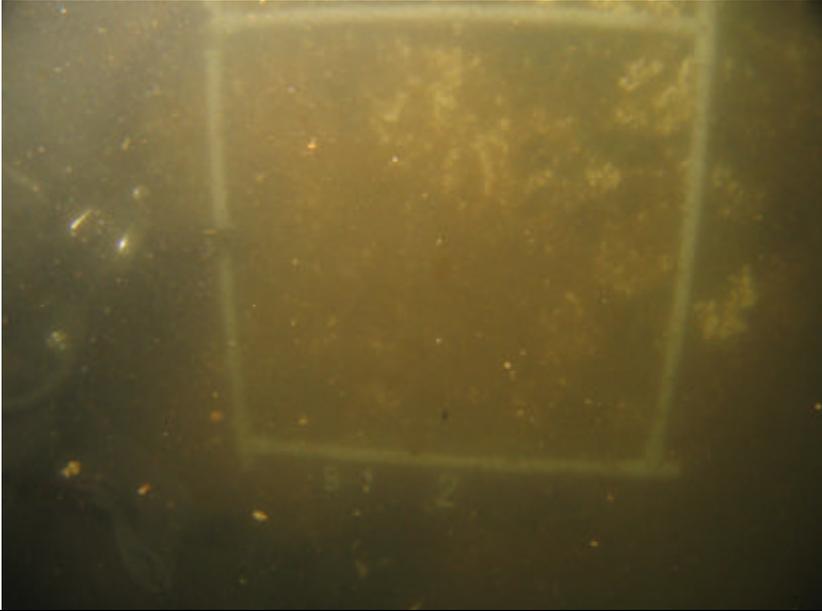
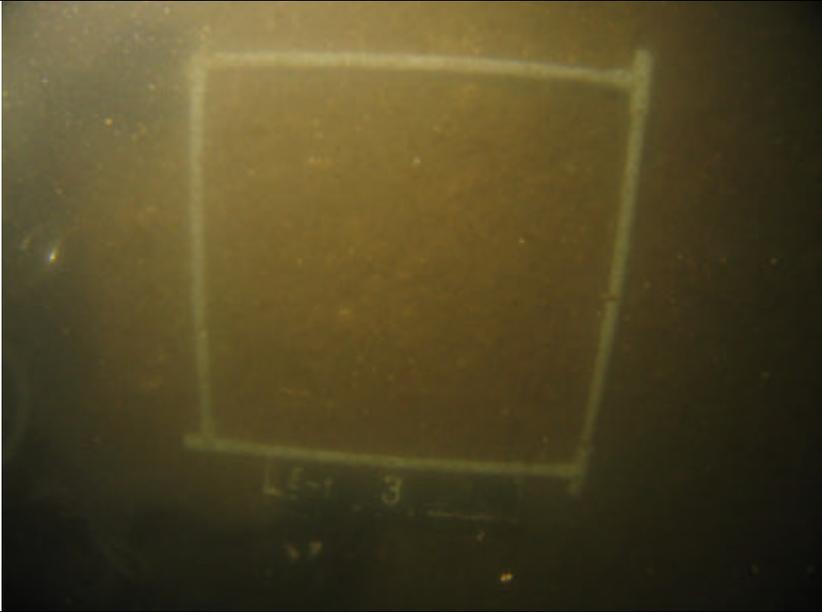
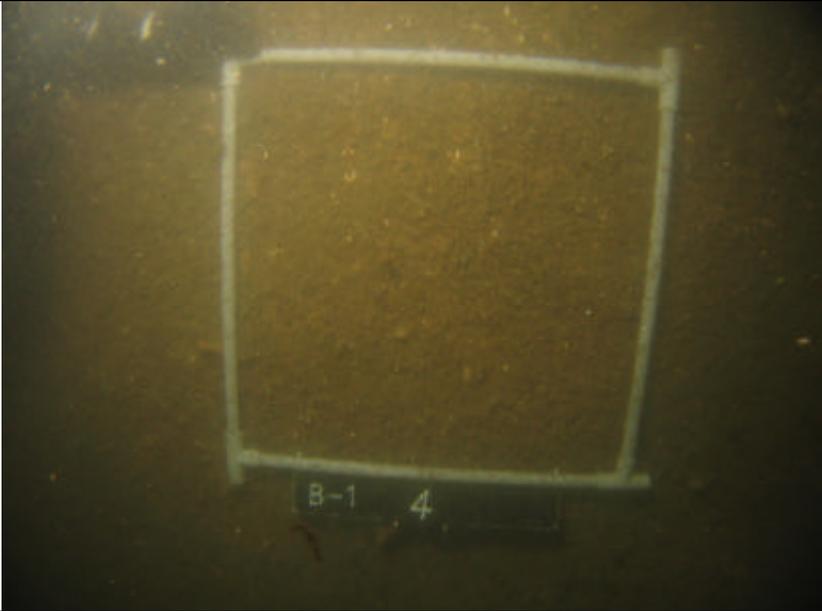
			<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>ダジア科</p>
--	--	--	--

調査日：平成 20 年 2 月 3 日

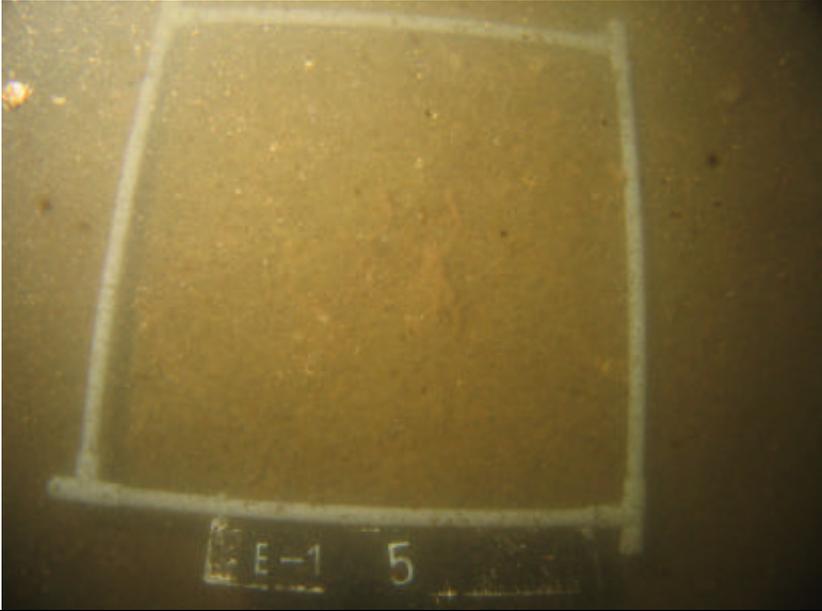
B . 尼崎沖処分場
(平成 20 年 2 月 8 日調査)

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

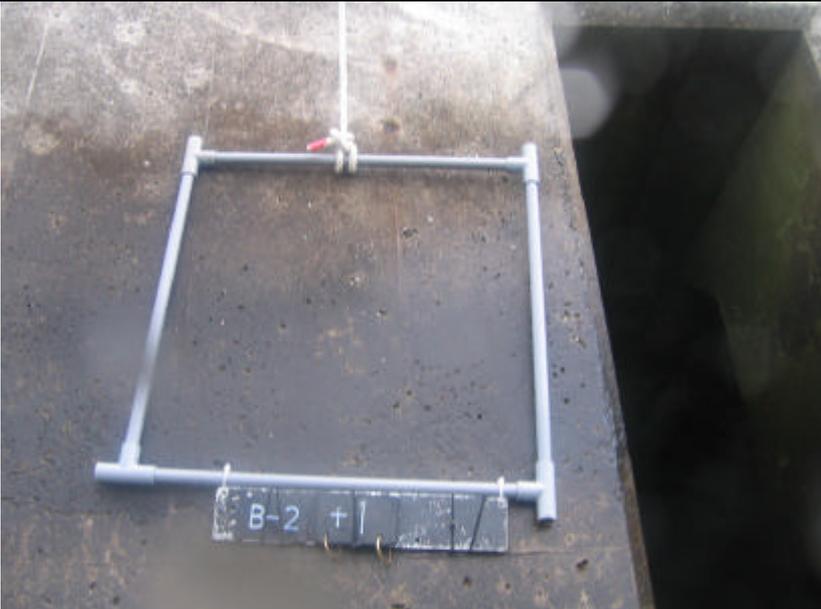
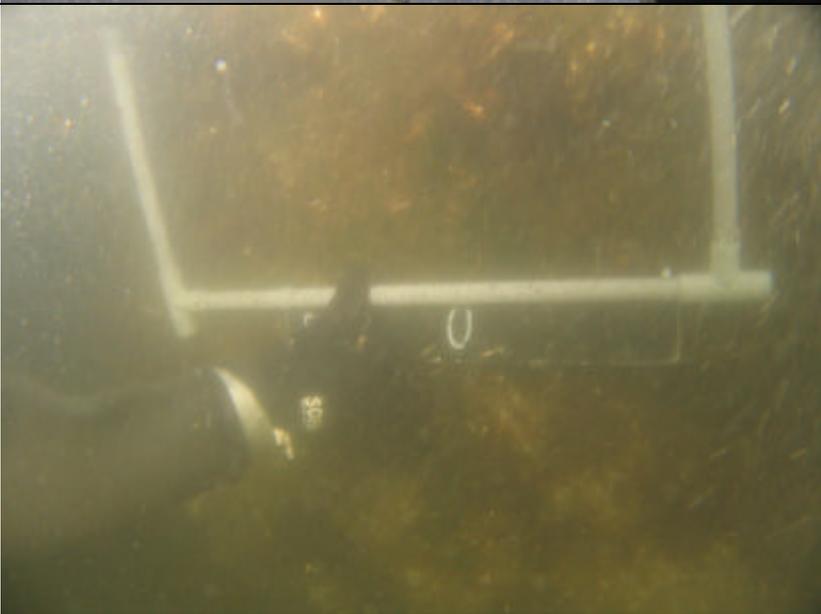
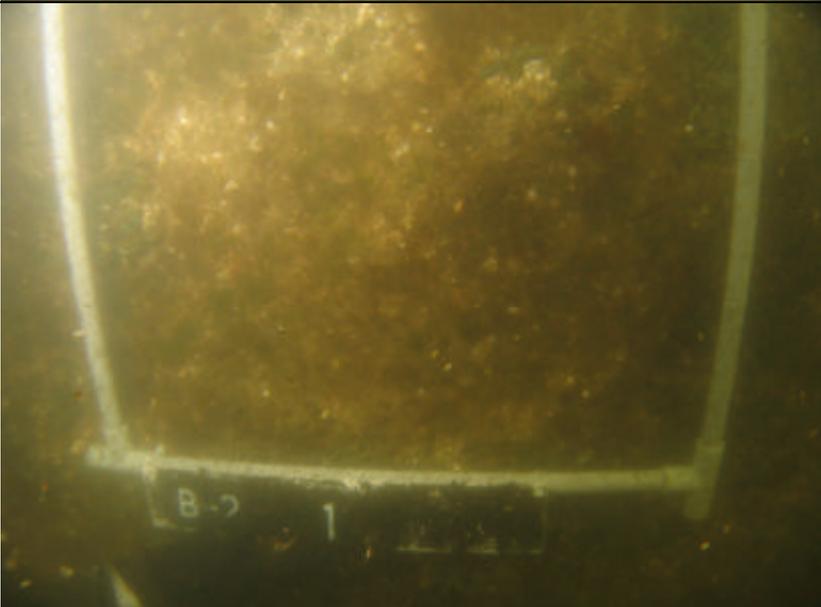
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

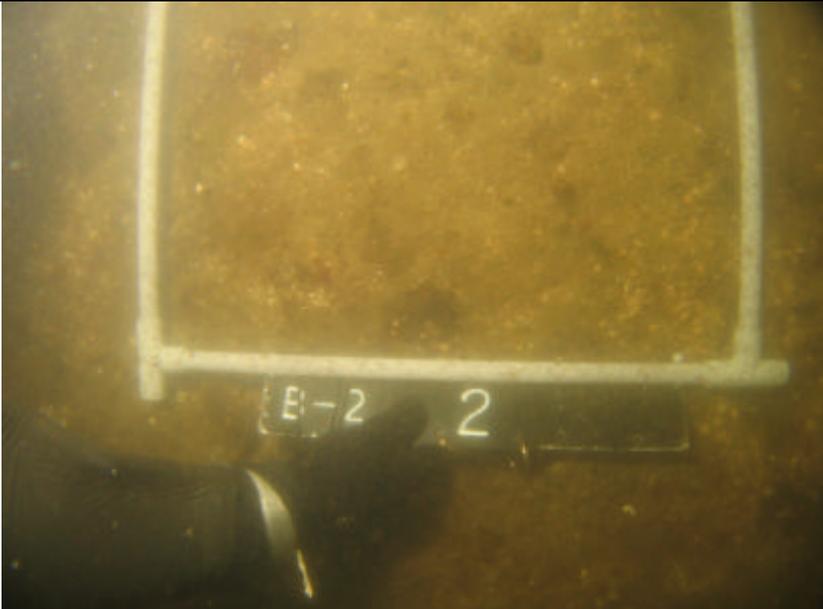
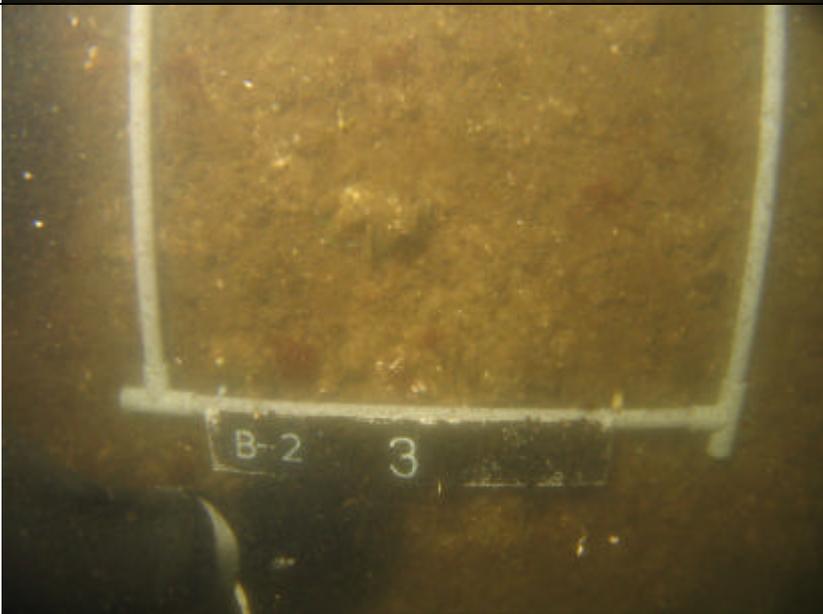
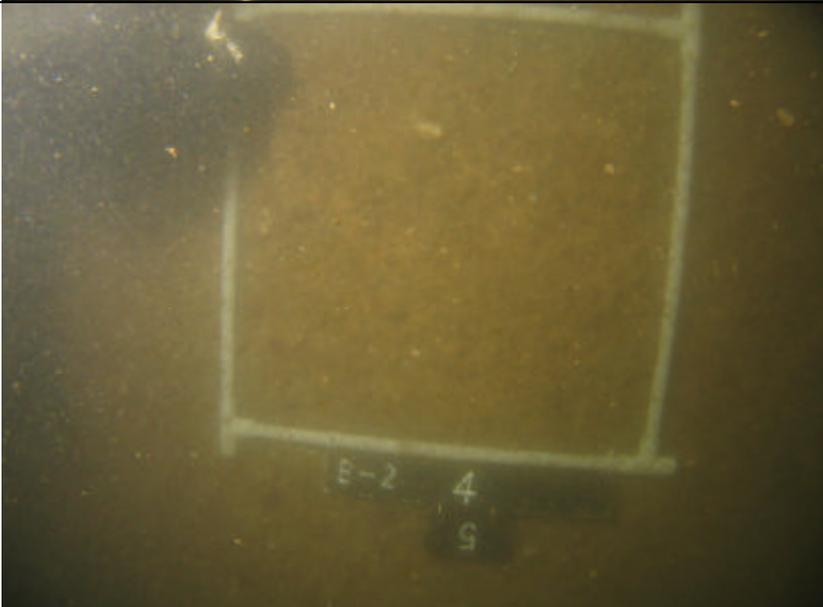
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>

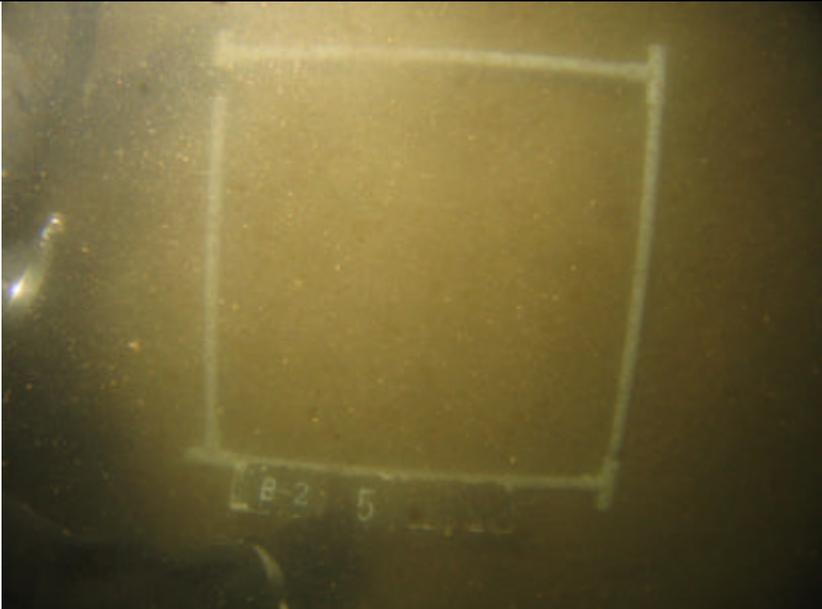
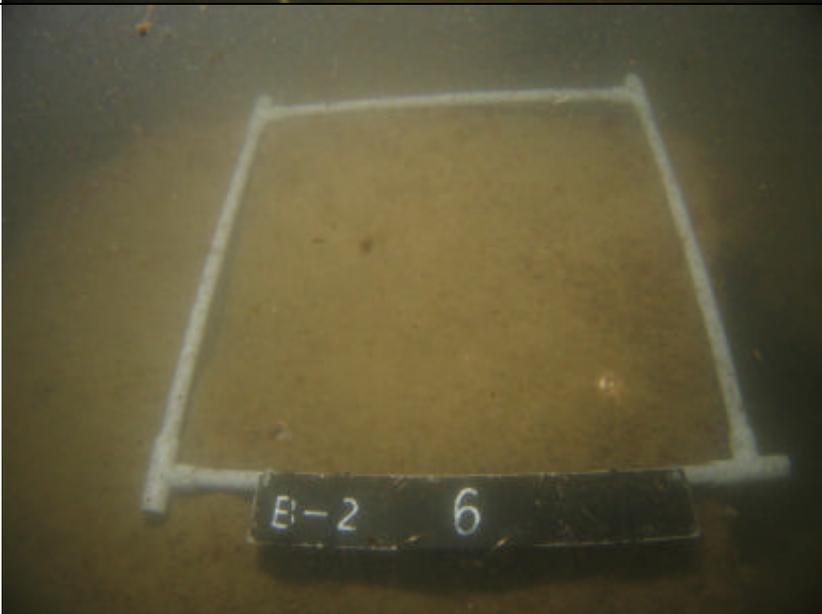
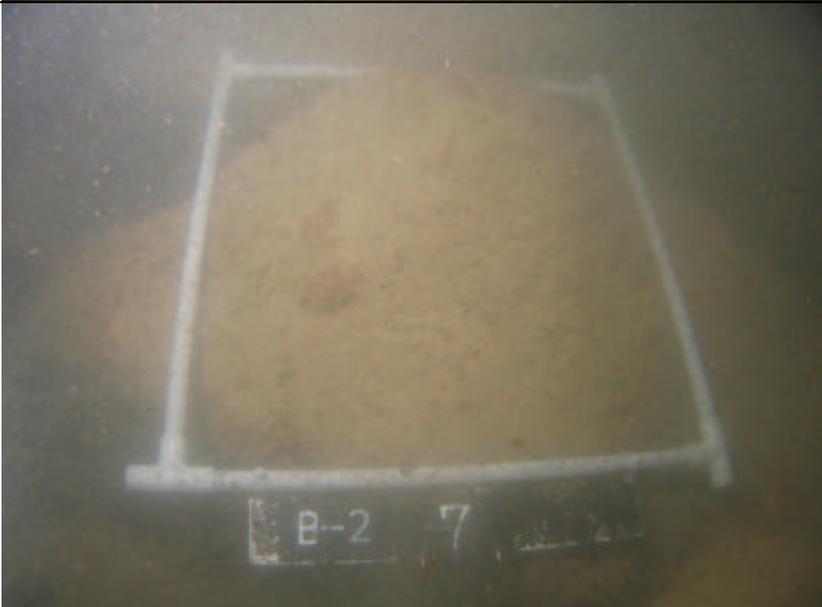
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

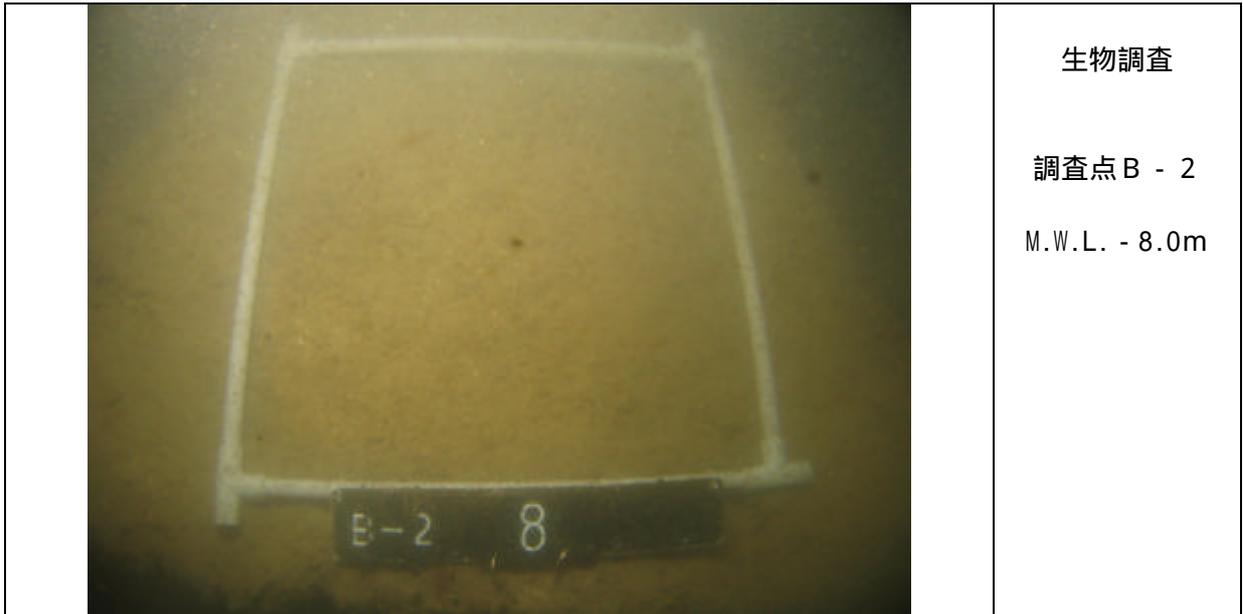
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 8 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 8 日

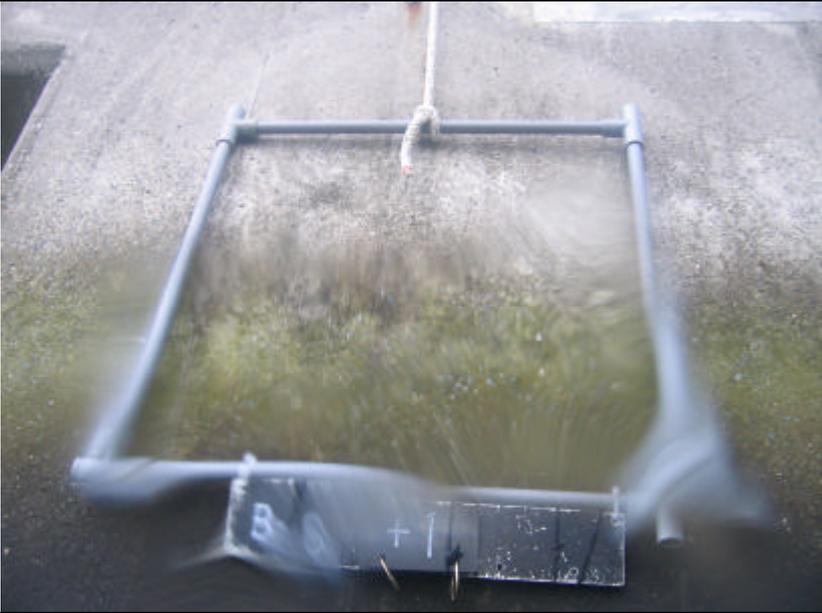
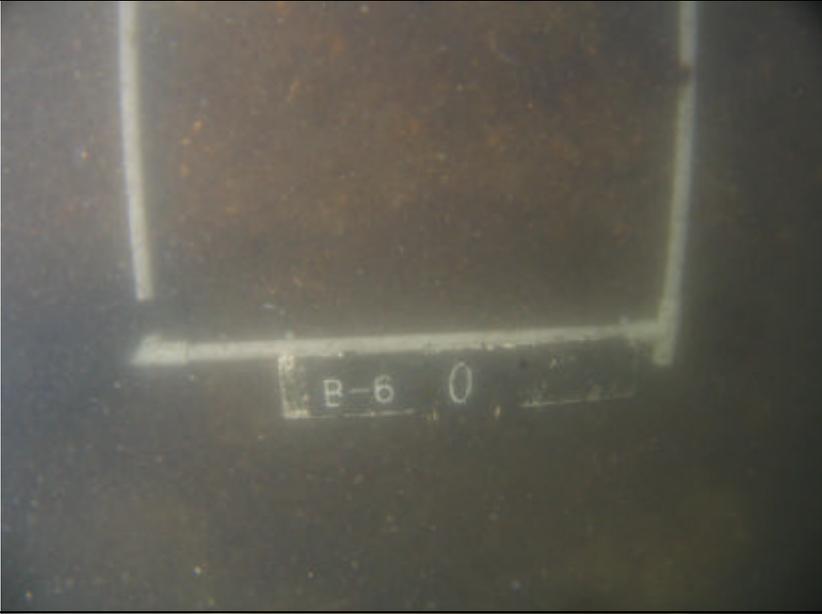
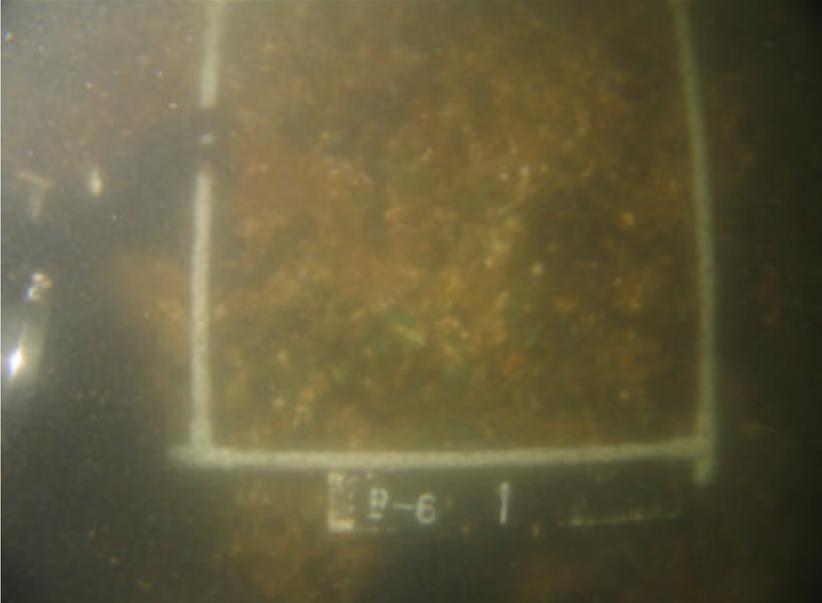


生物調査

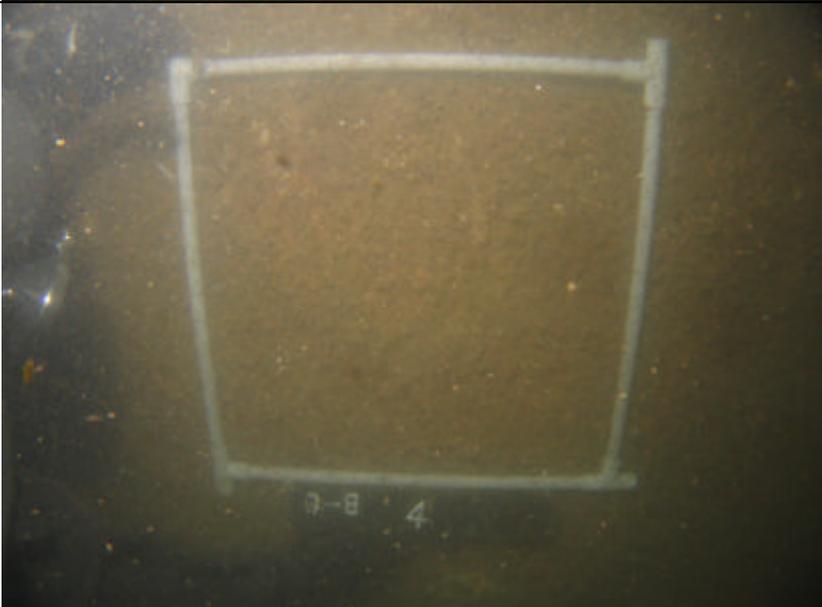
調査点B - 2

M.W.L. - 8.0m

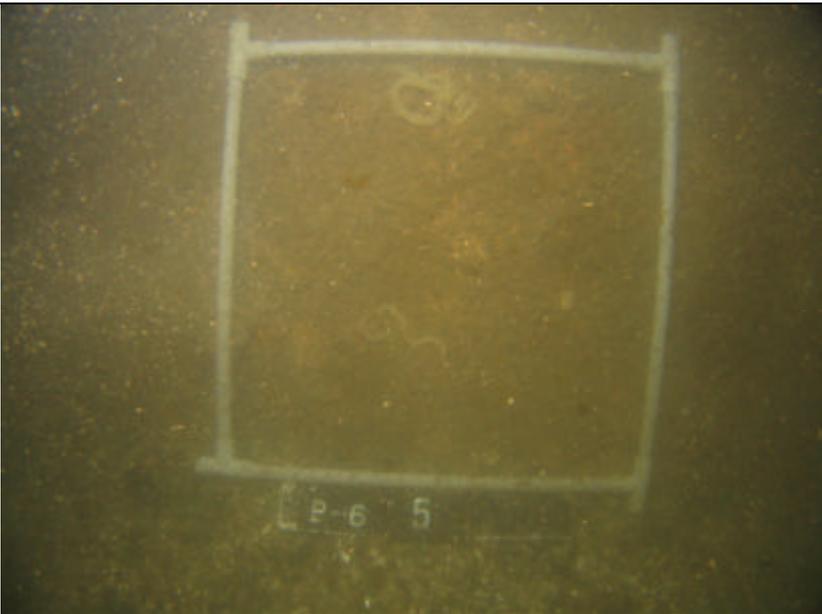
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

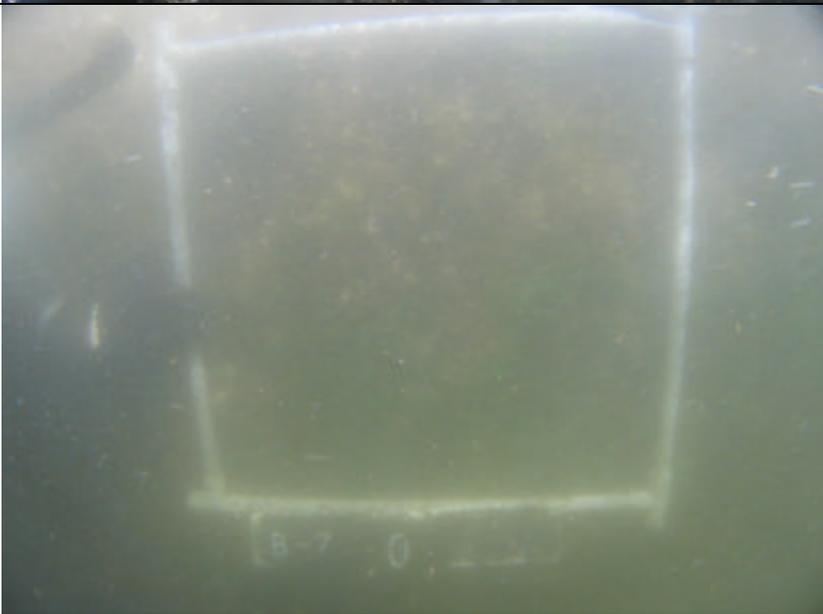
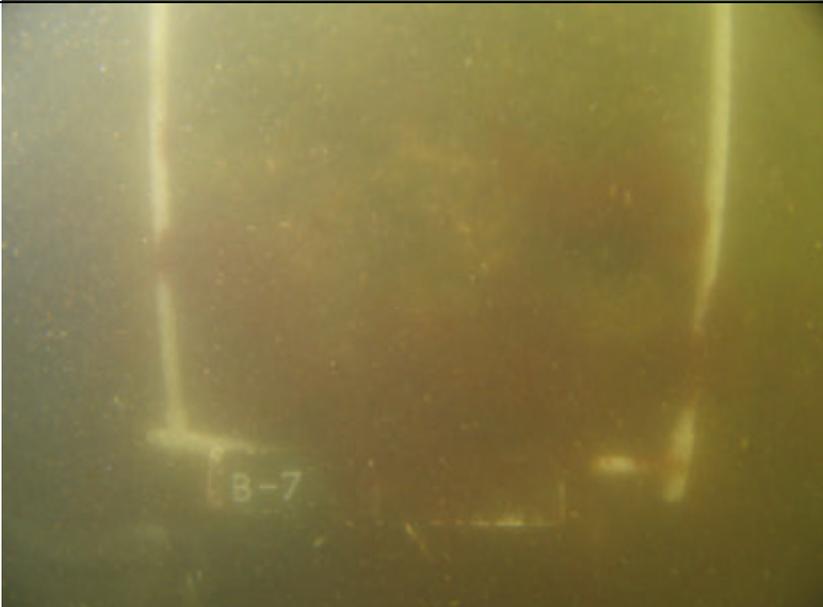
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

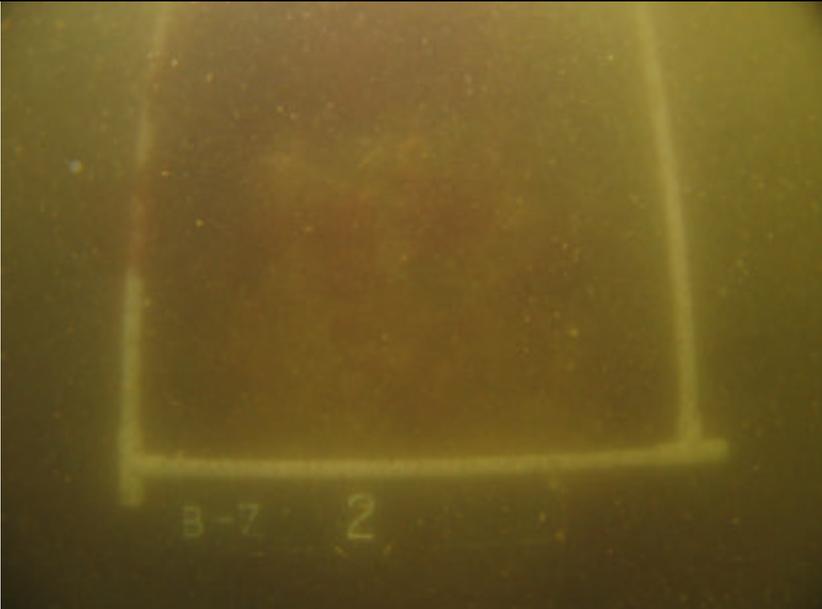
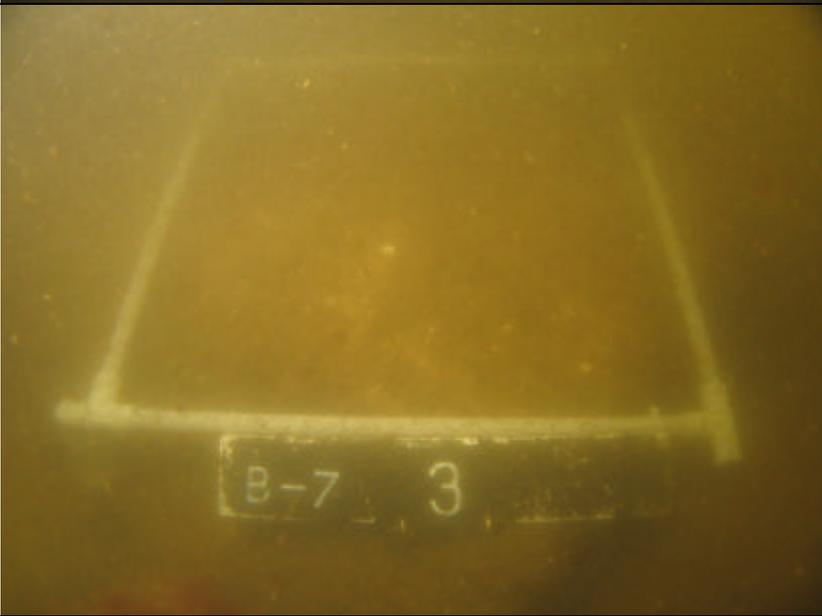
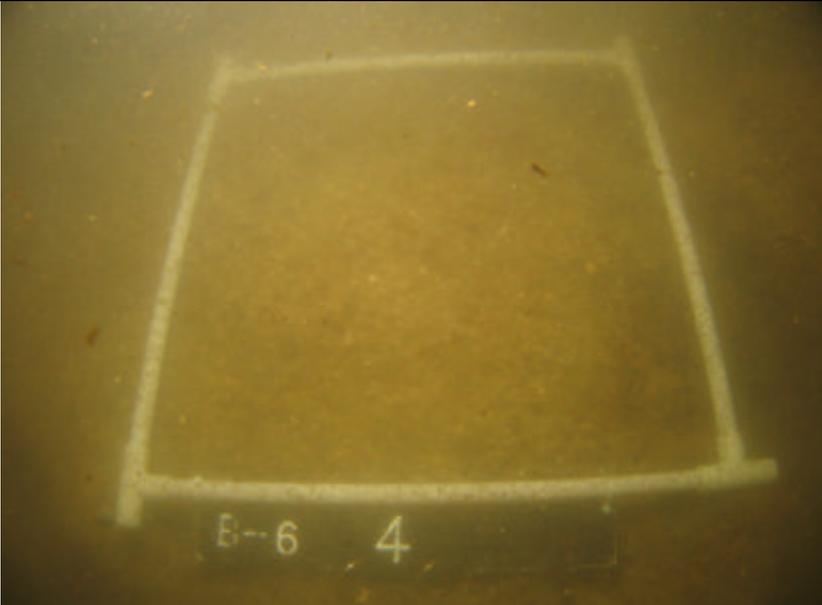
調査日：平成 20 年 2 月 8 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 6</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
--	---

調査日：平成 20 年 2 月 8 日

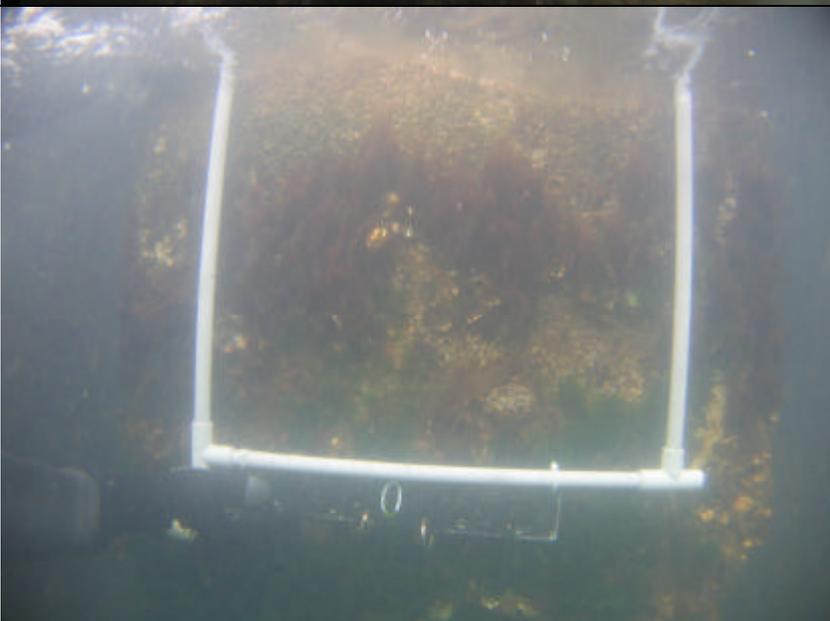
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 8 日

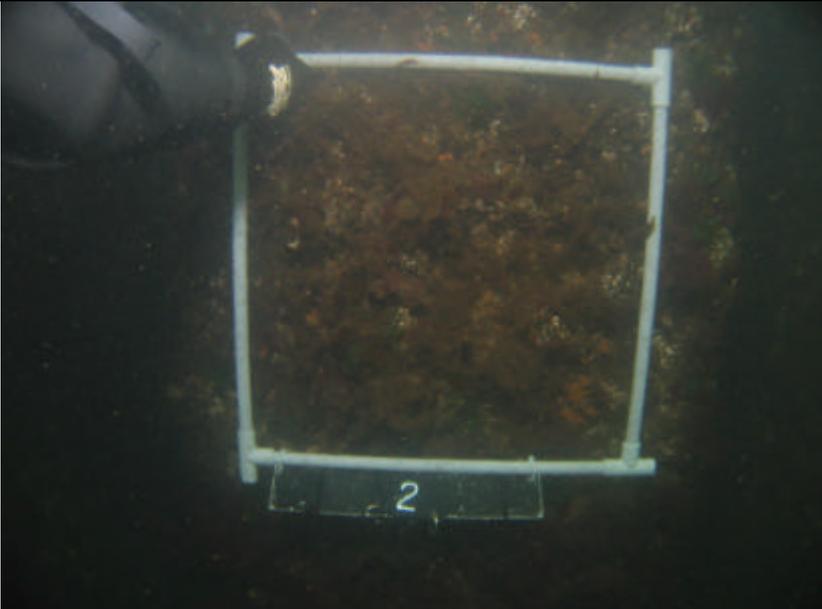
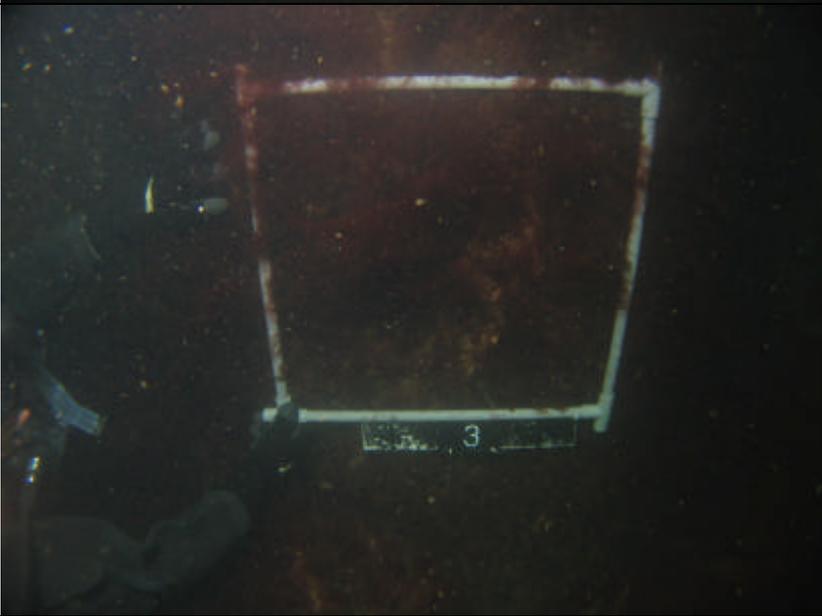
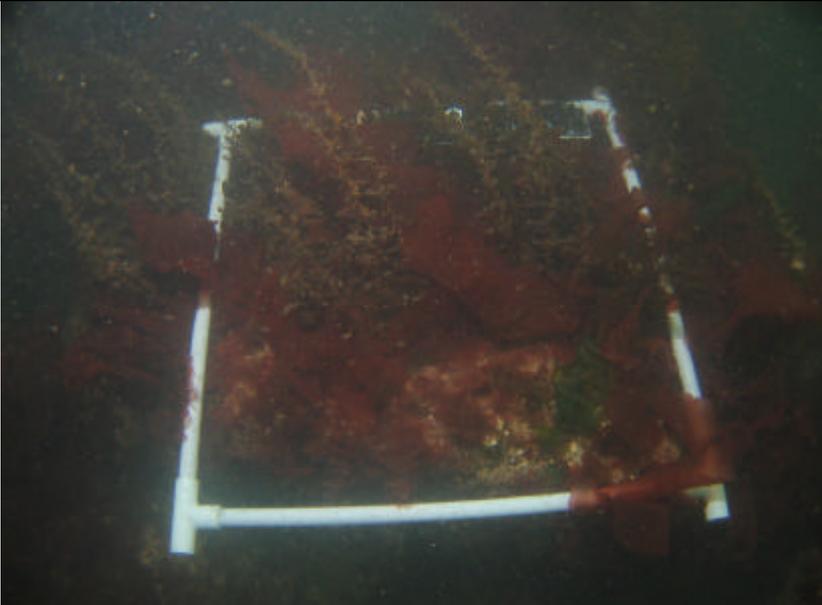
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 B - 7</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 8 日

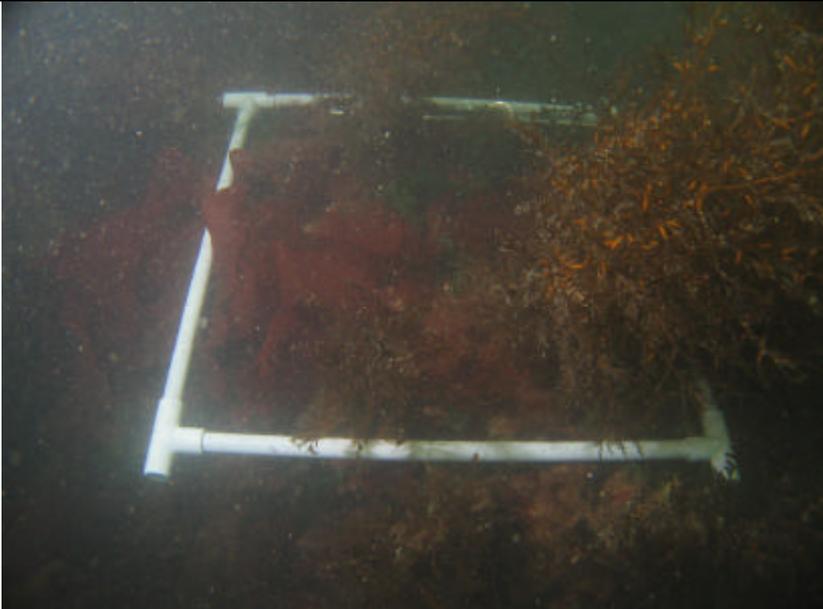
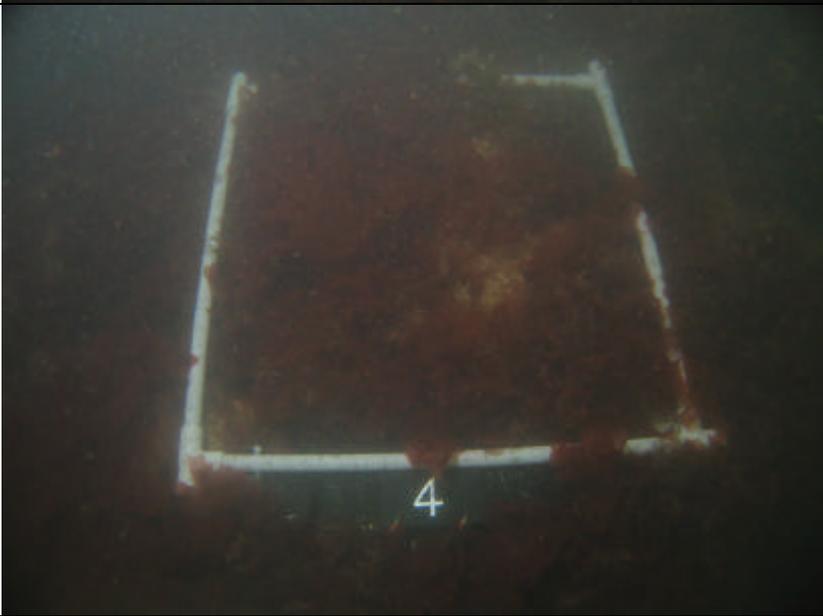
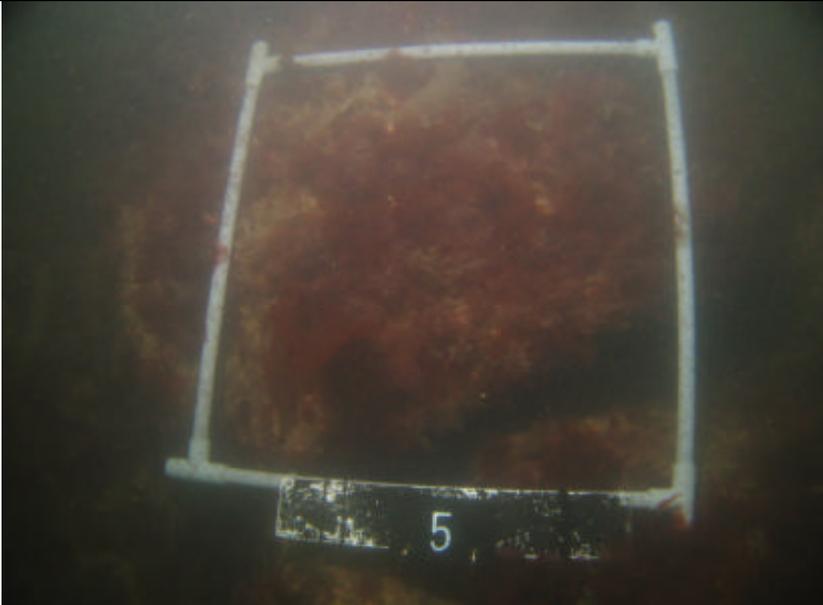
C . 大阪沖処分場
(平成 20 年 2 月 2 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

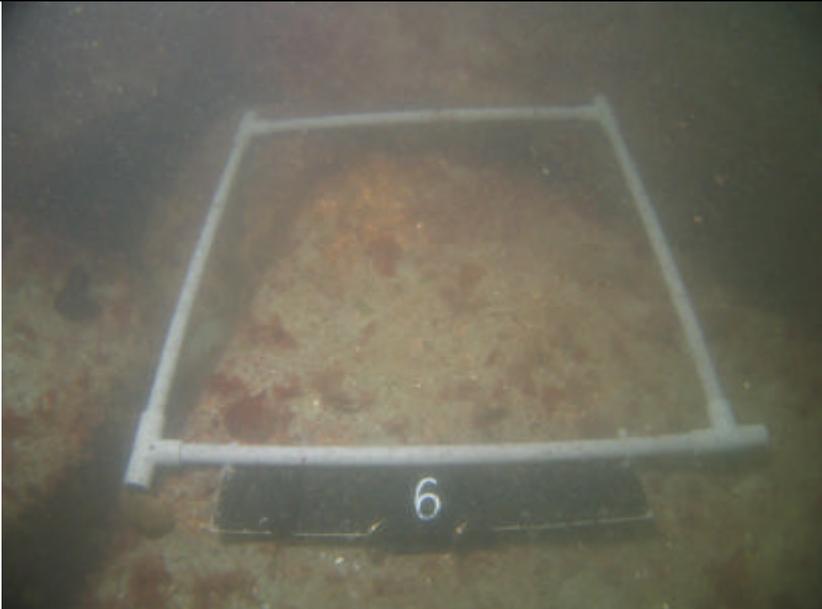
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>

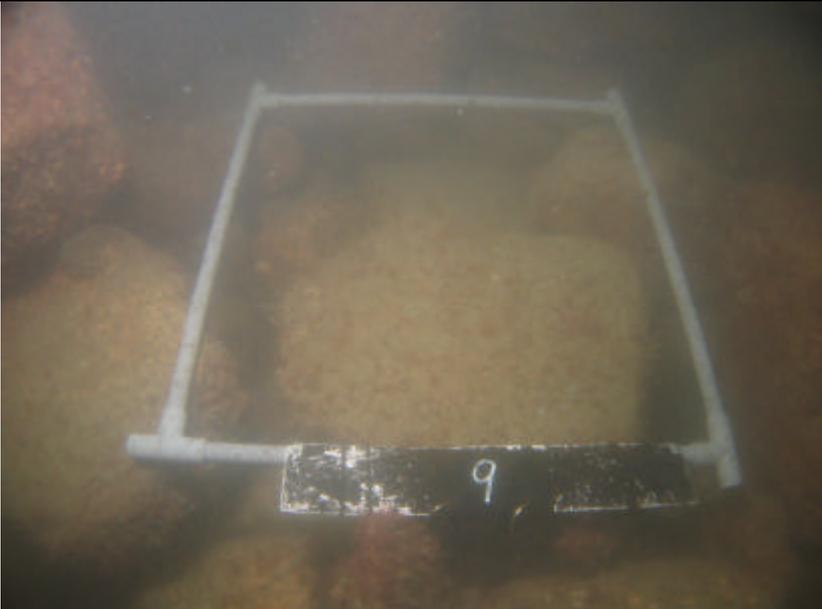
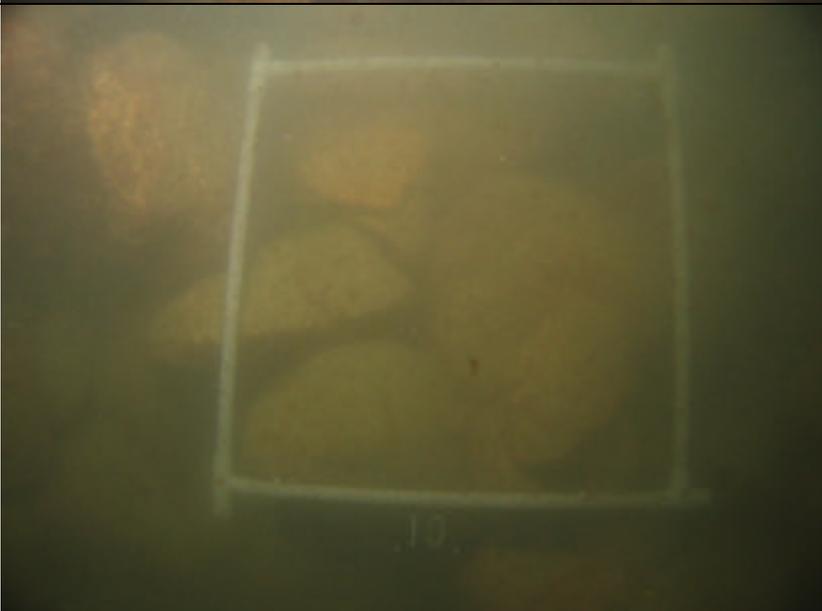
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

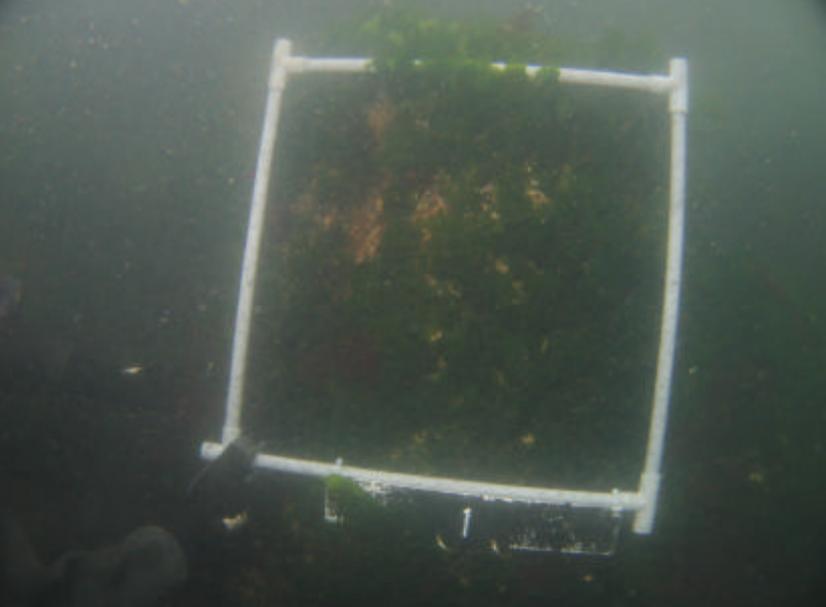
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m (平面部)</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 2 日

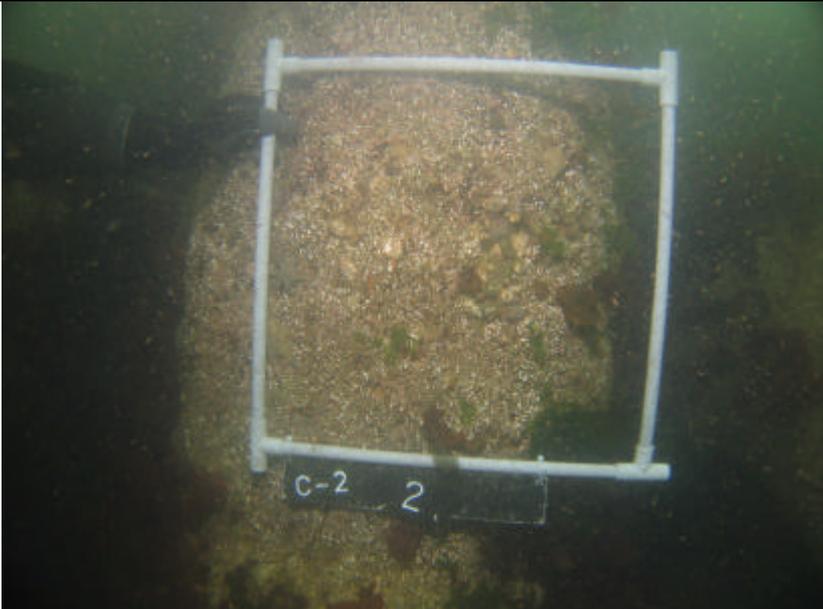
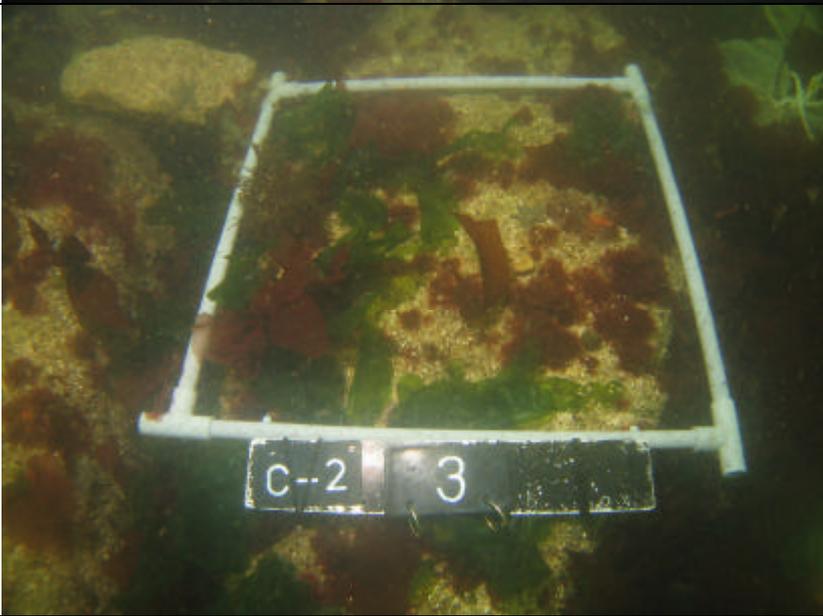
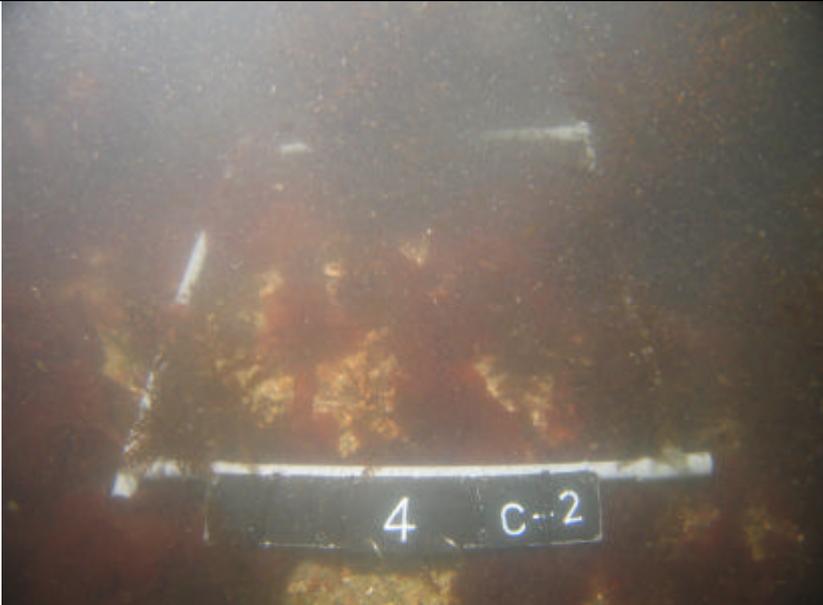
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 2 日

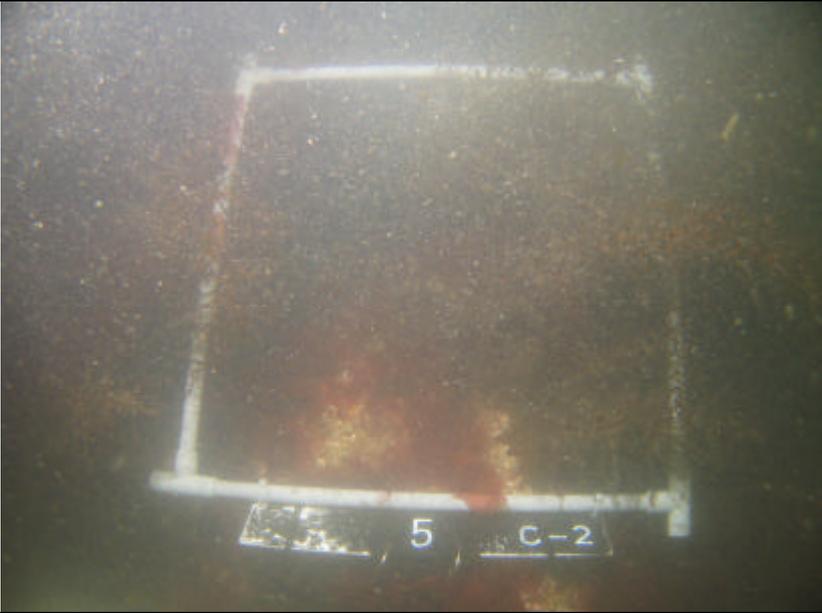
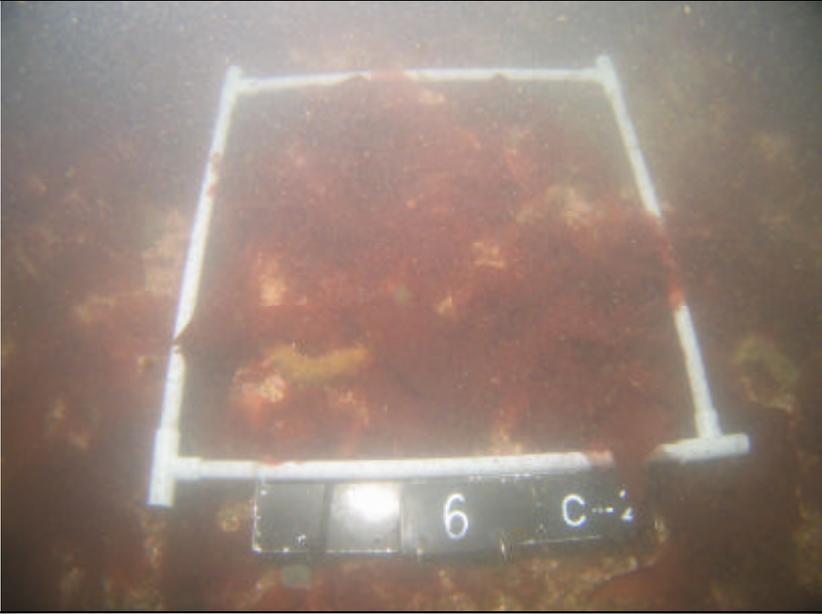
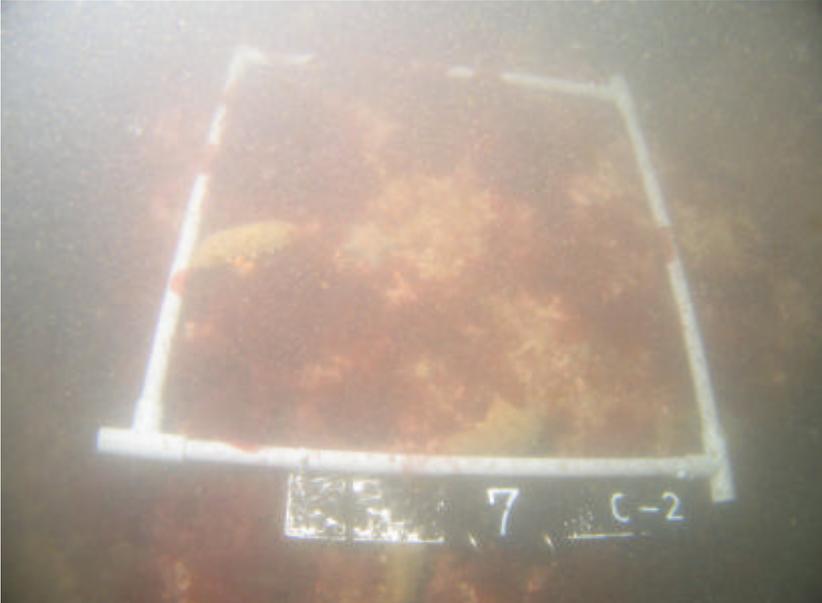
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

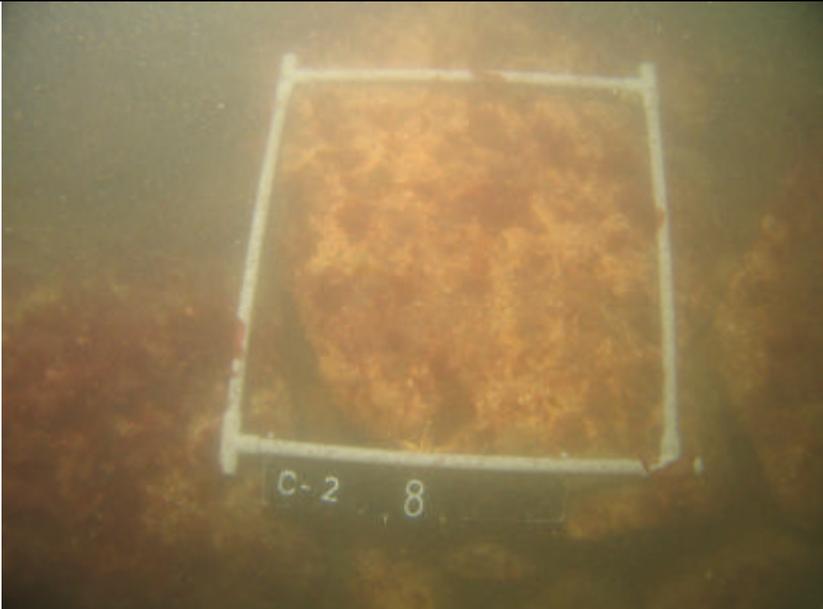
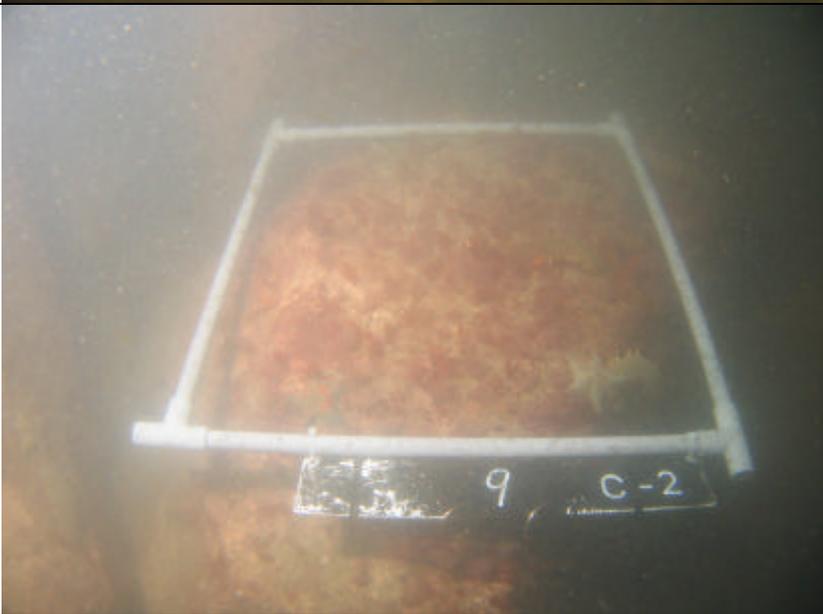
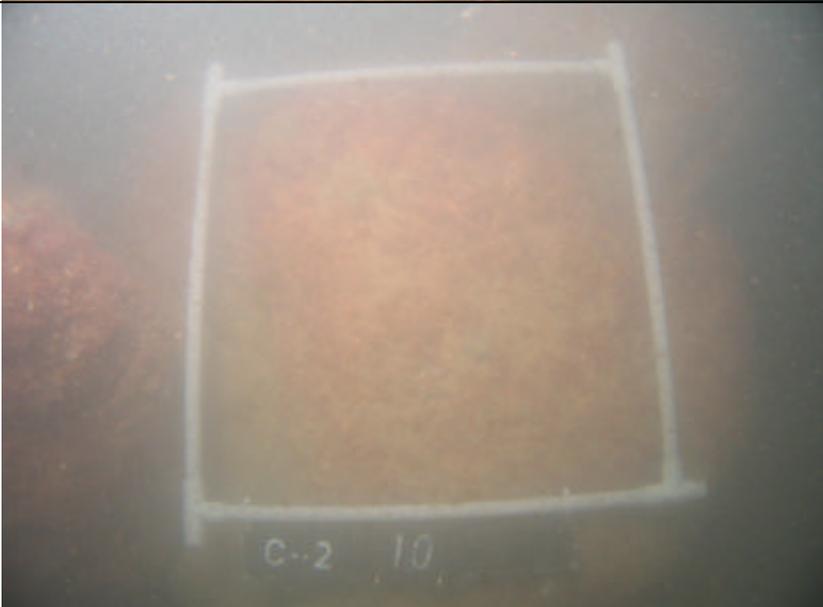
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

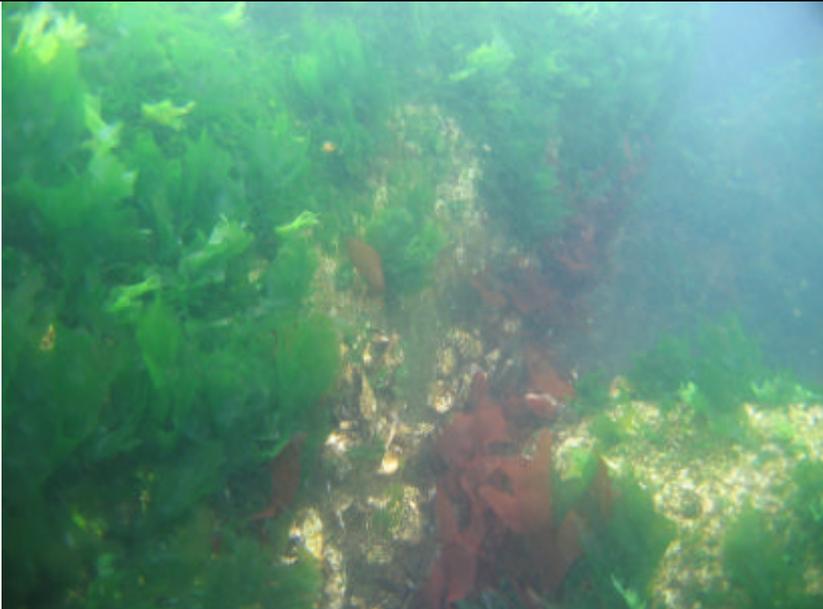
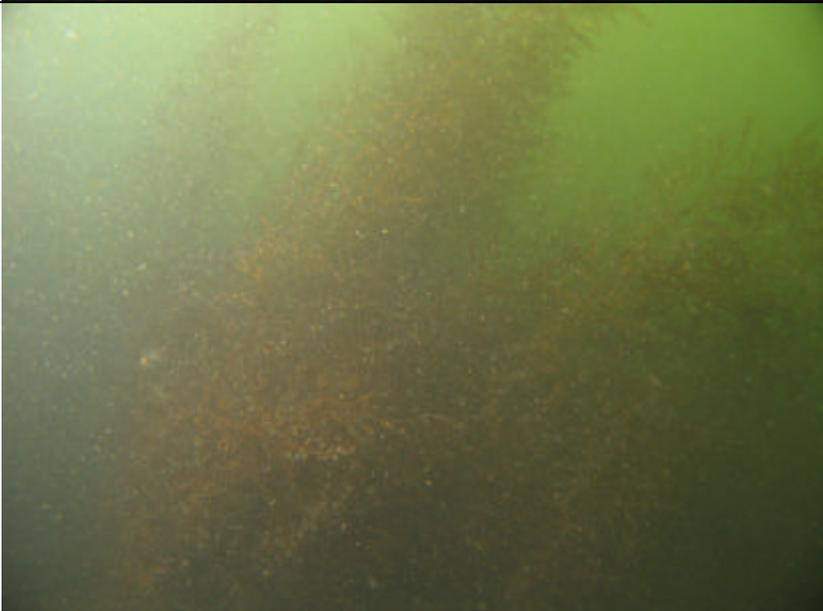
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

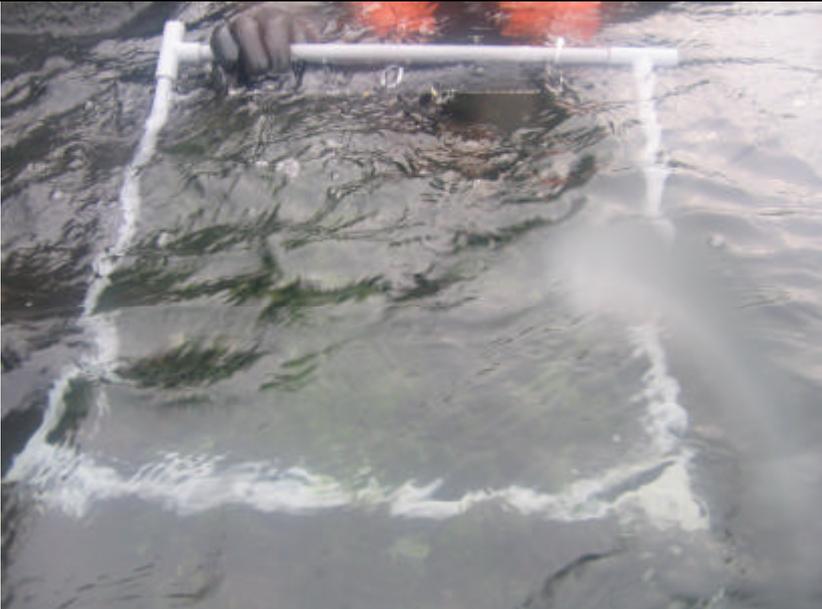
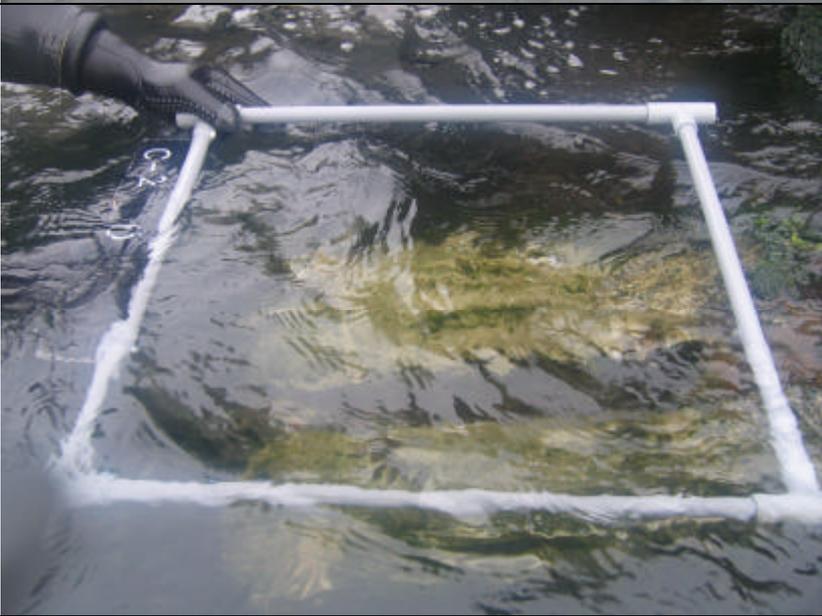
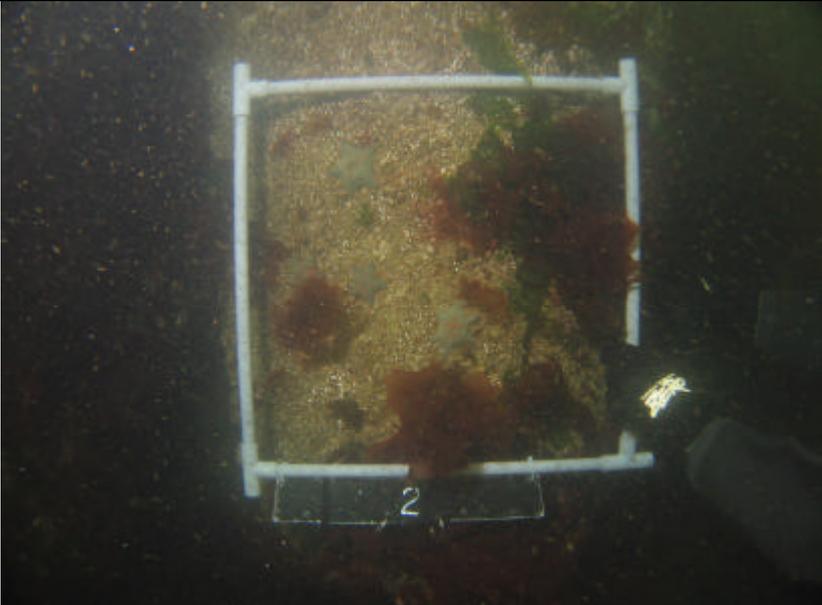
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

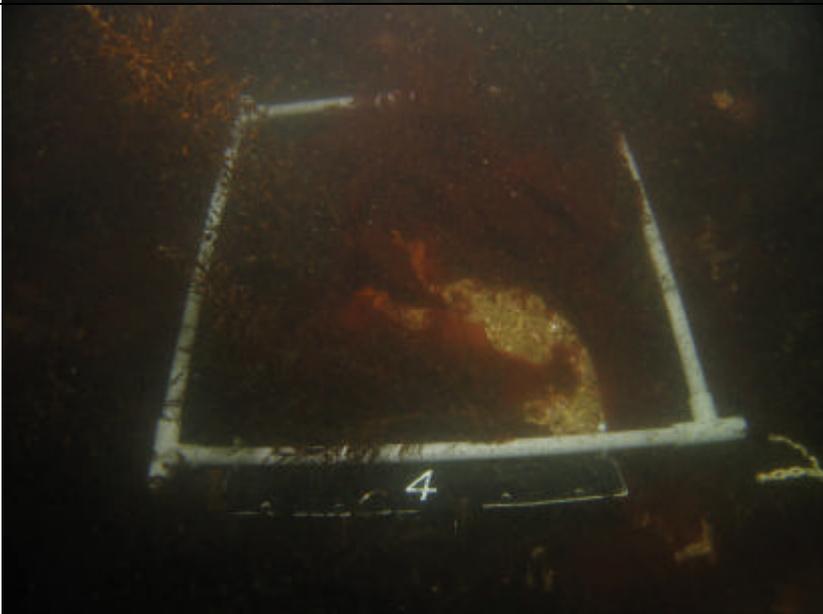
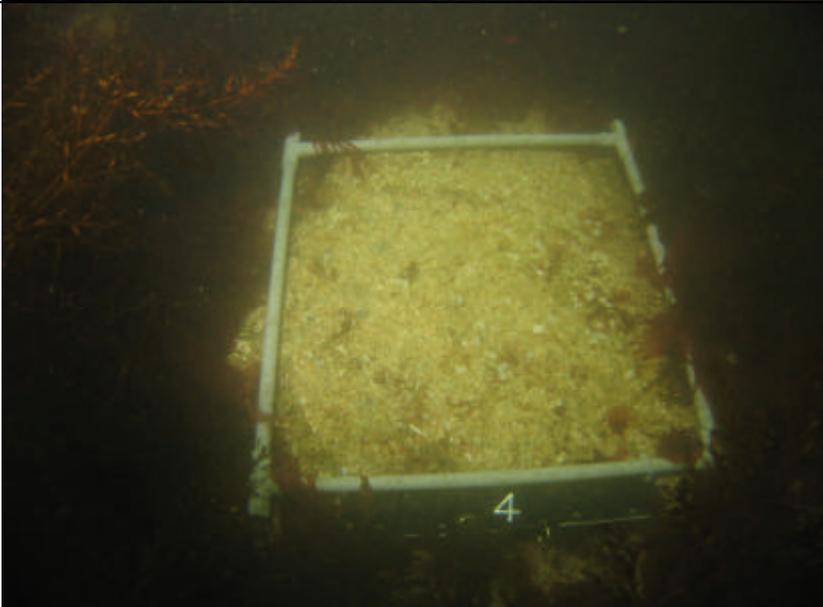
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>アオサ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>フダラク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>シダモク</p>

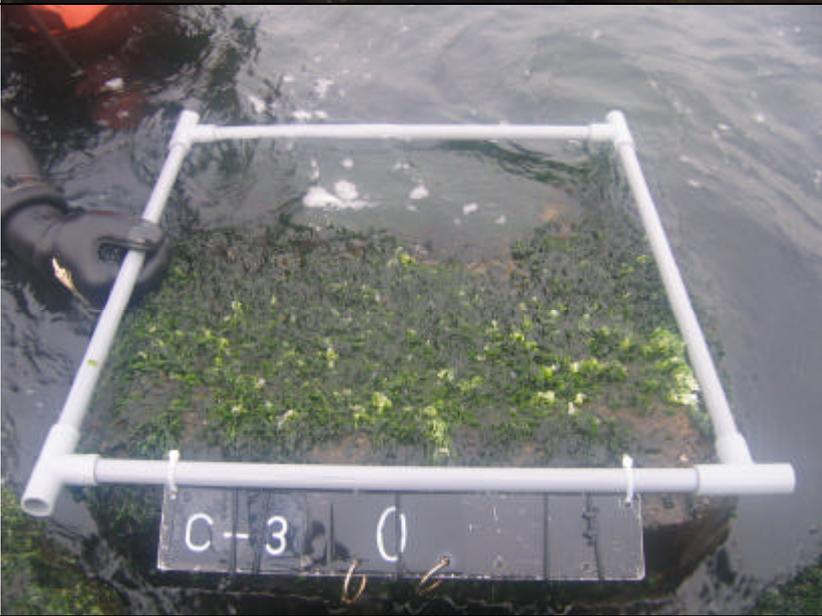
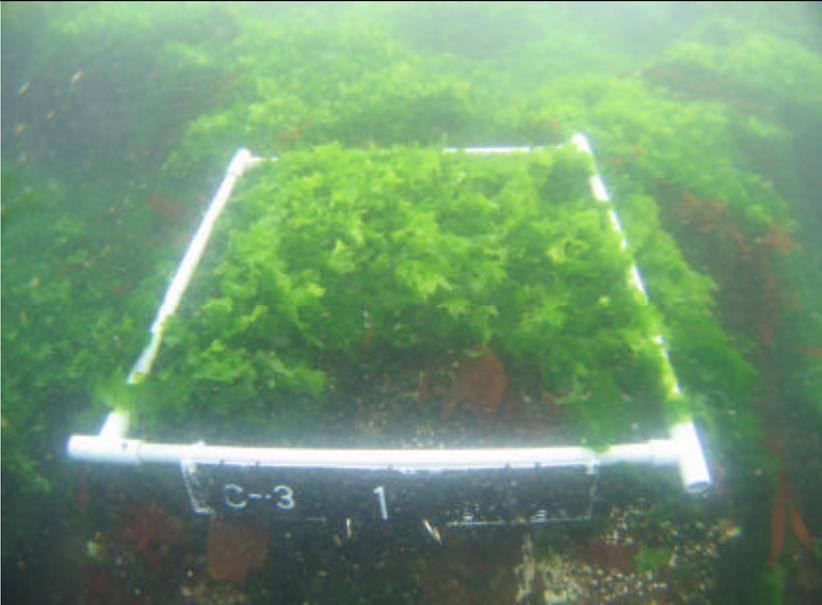
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

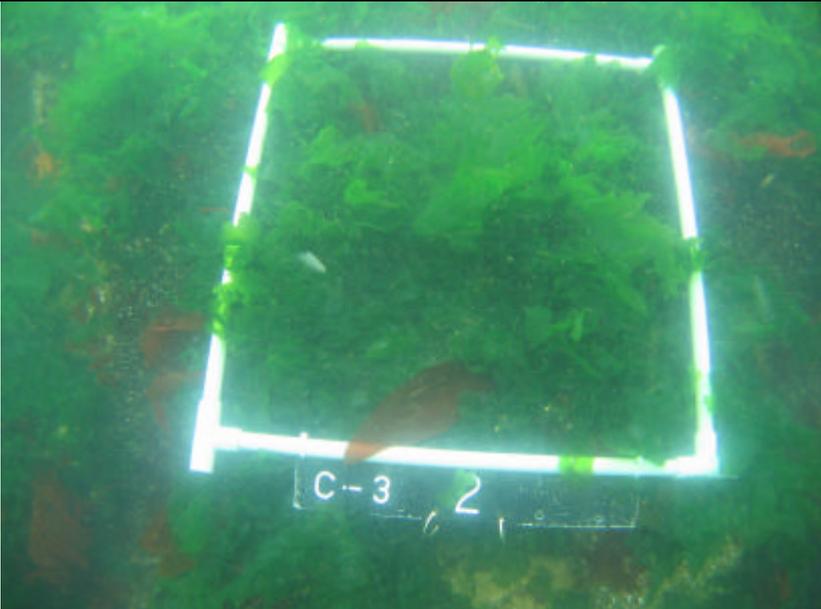
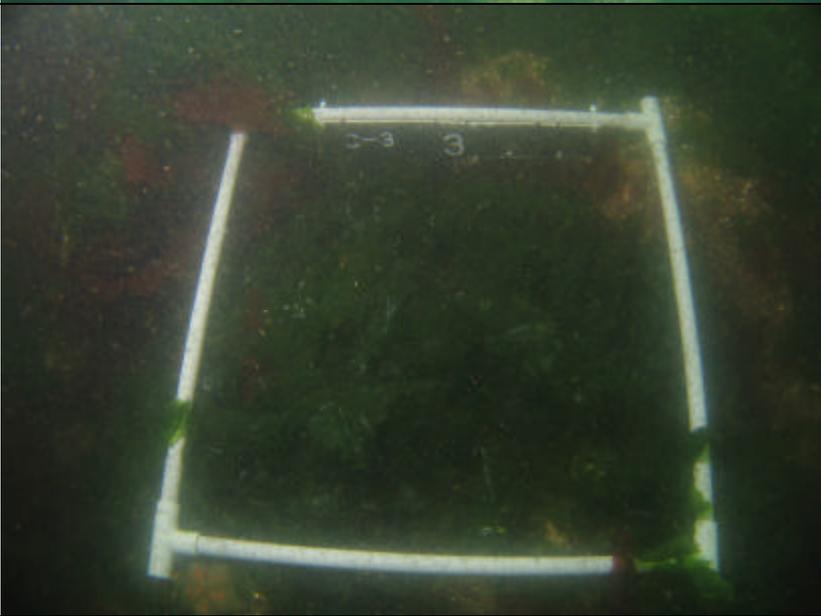
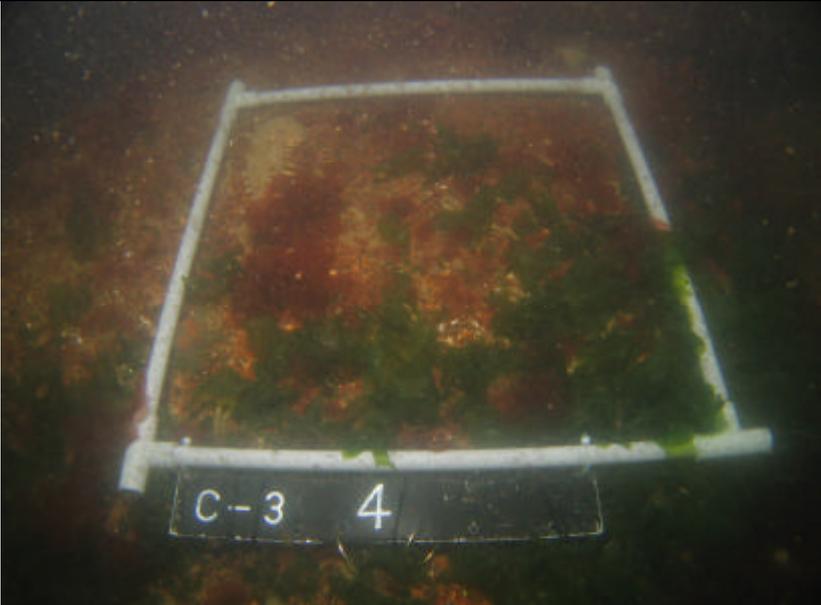
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

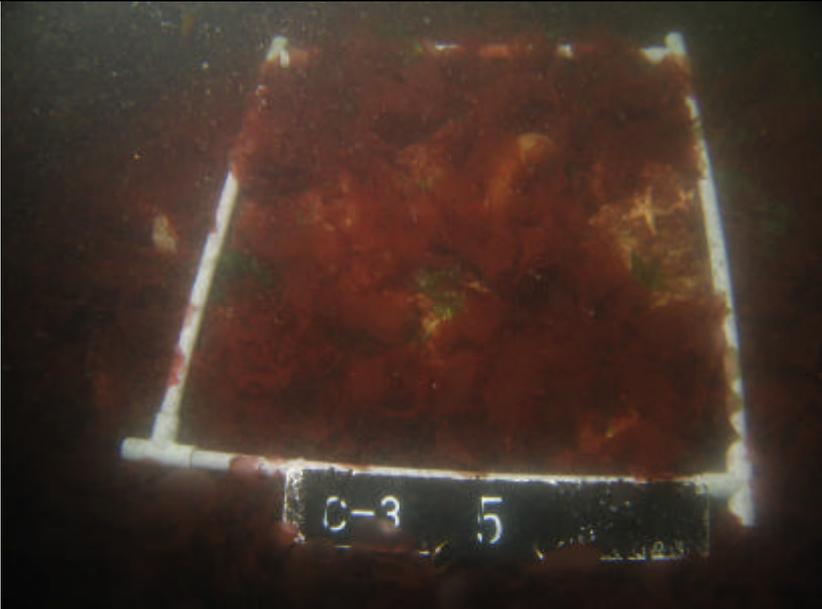
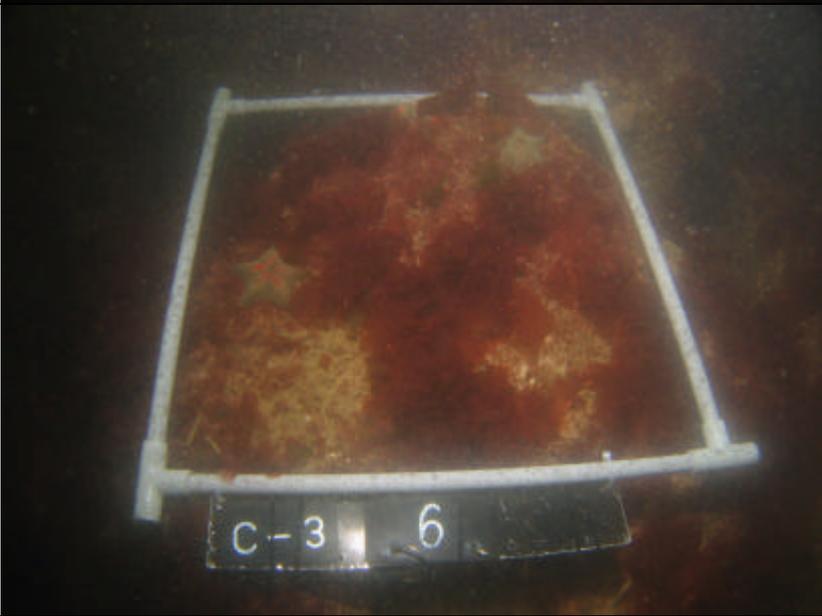
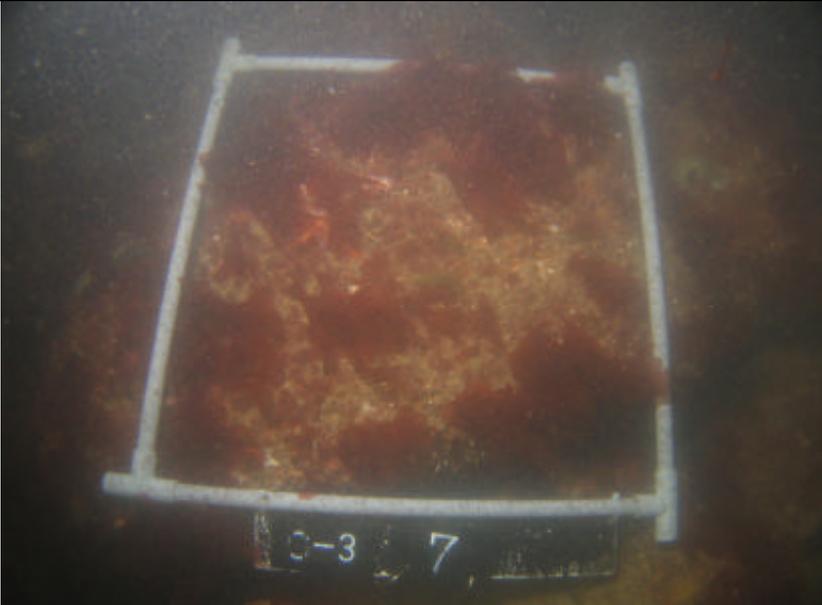
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

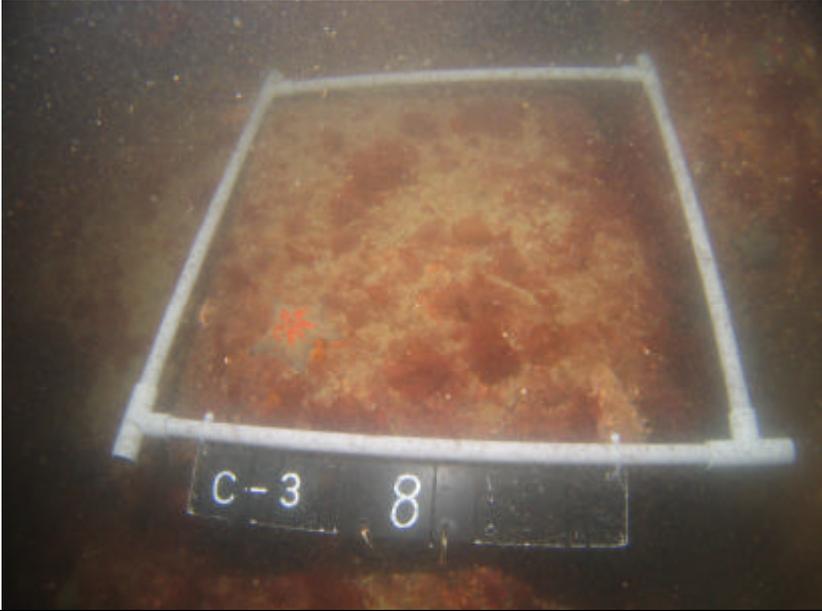
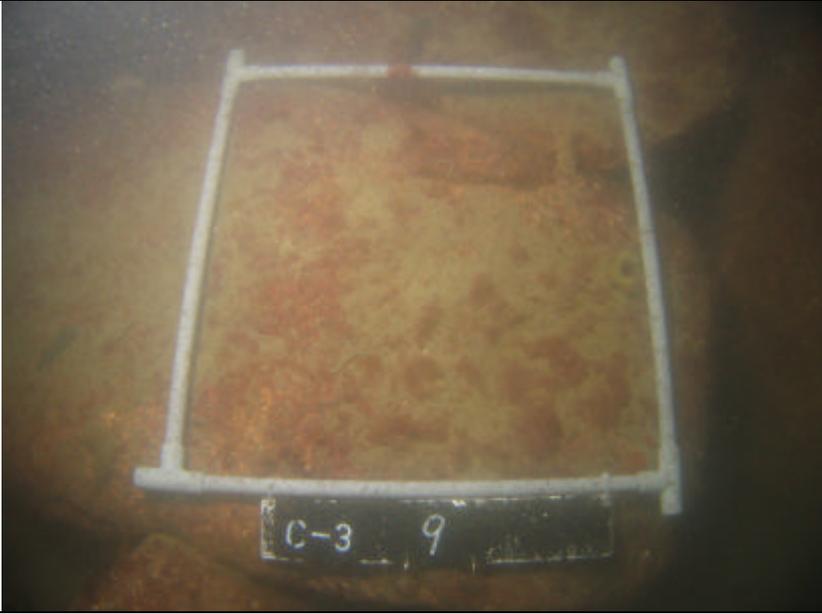
調査日：平成 20 年 2 月 2 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 2 日

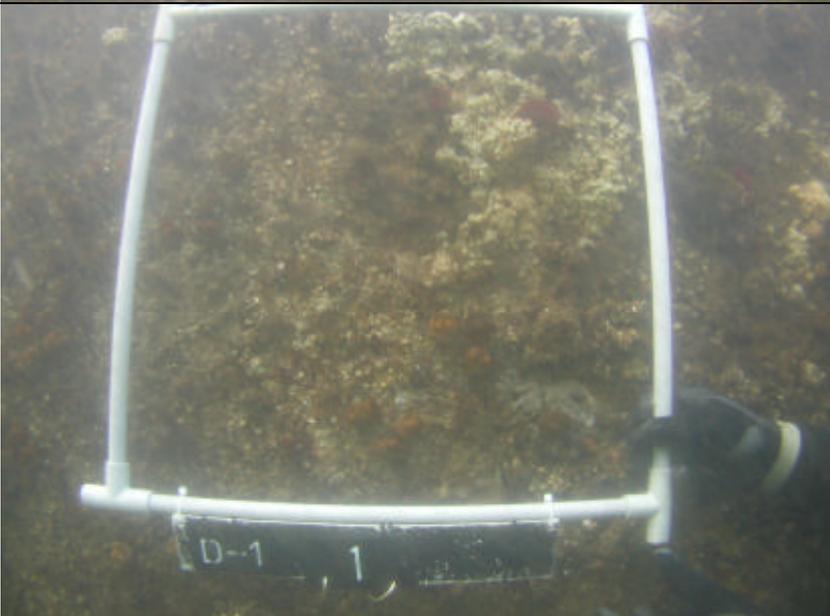
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 2 日

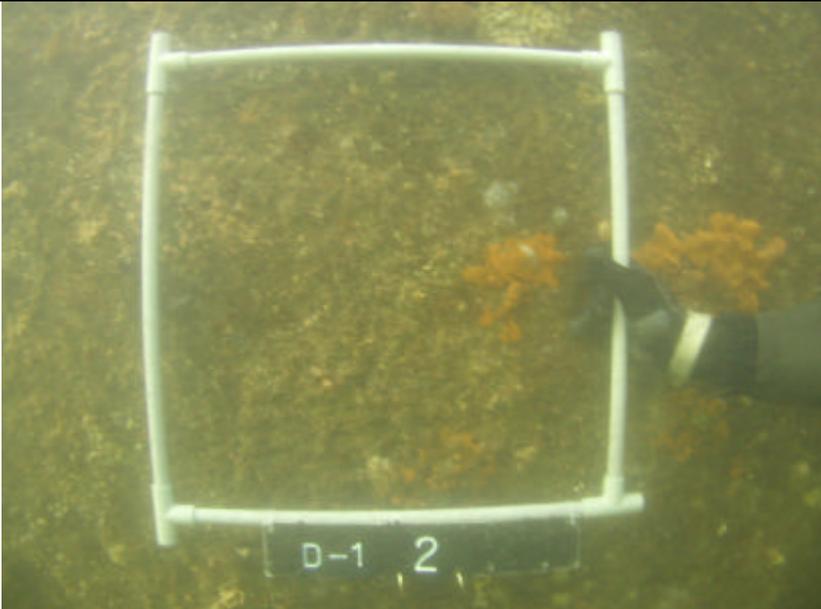
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 2 日

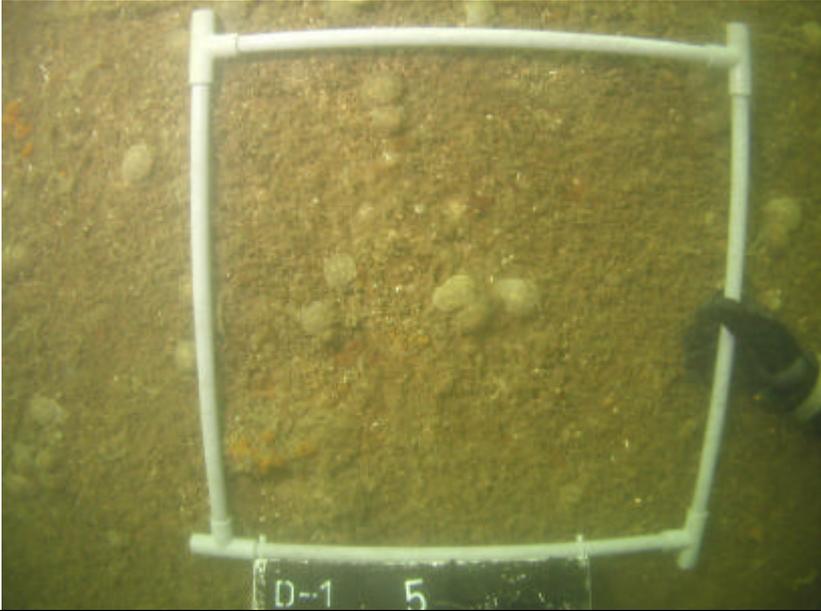
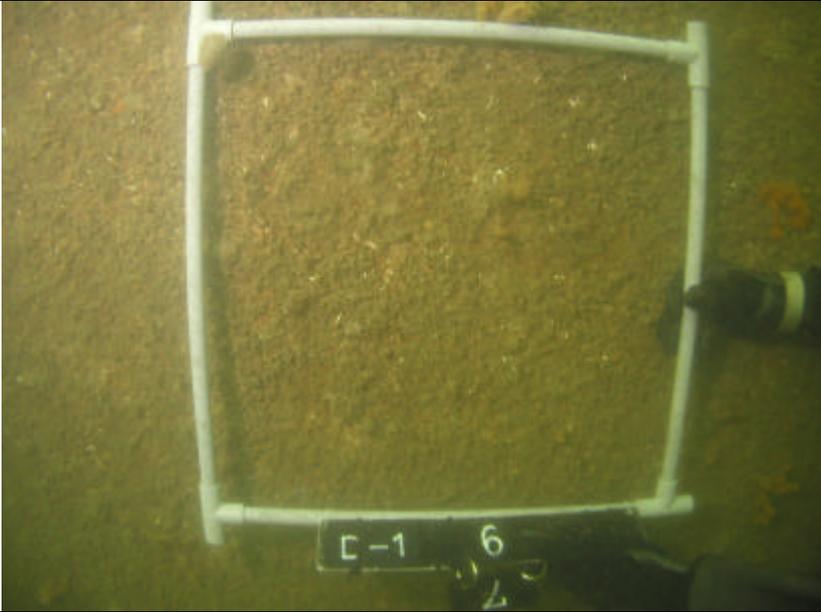
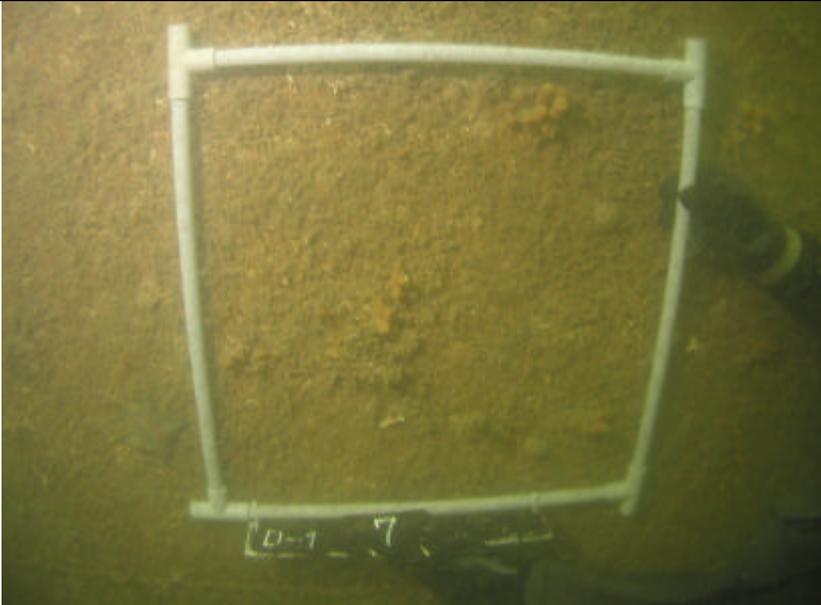
D . 泉大津沖処分場
(平成 20 年 2 月 1 日調査)

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

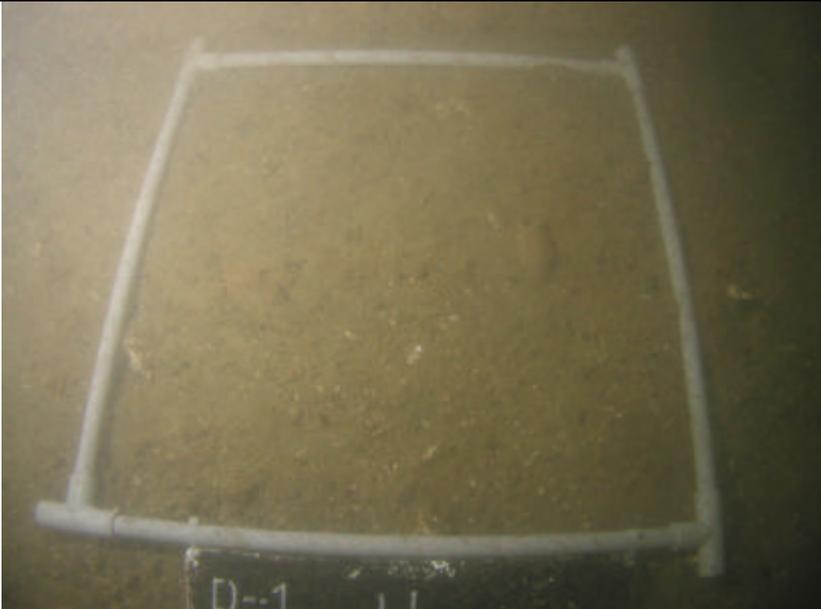
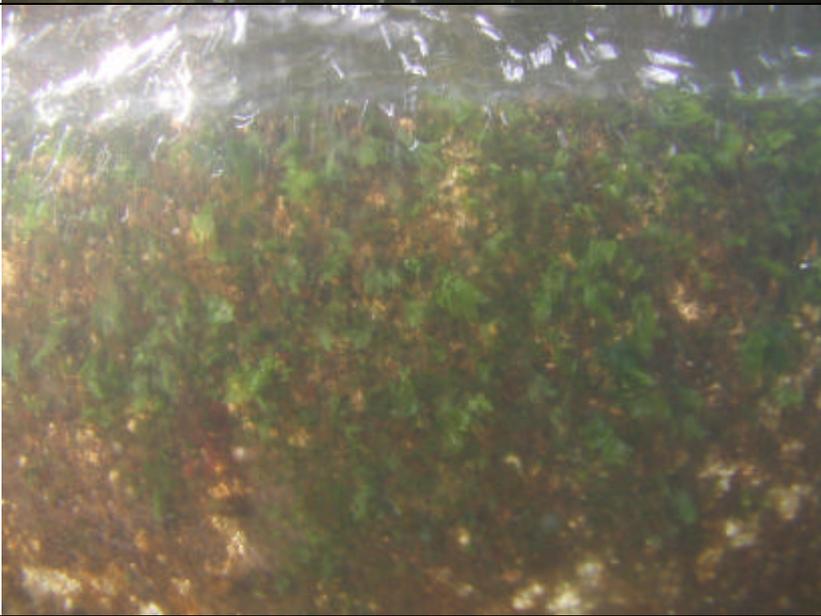
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

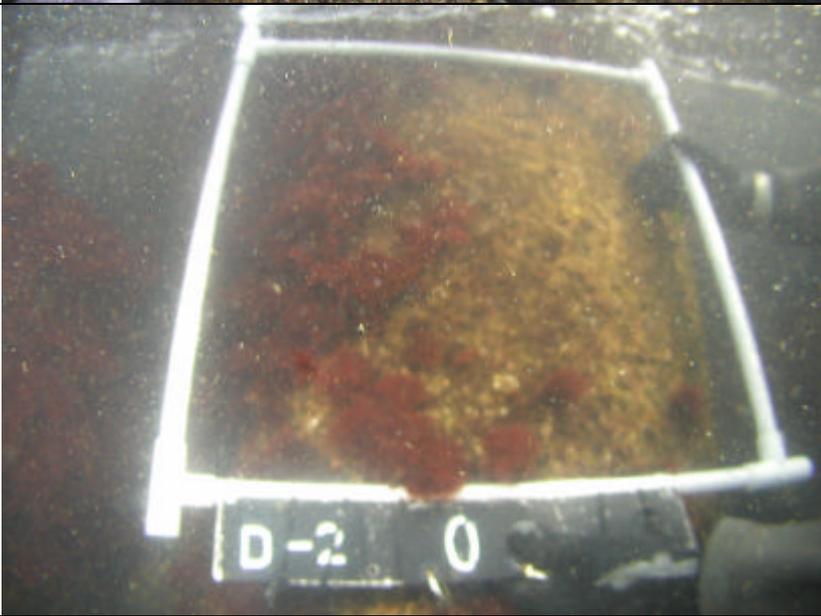
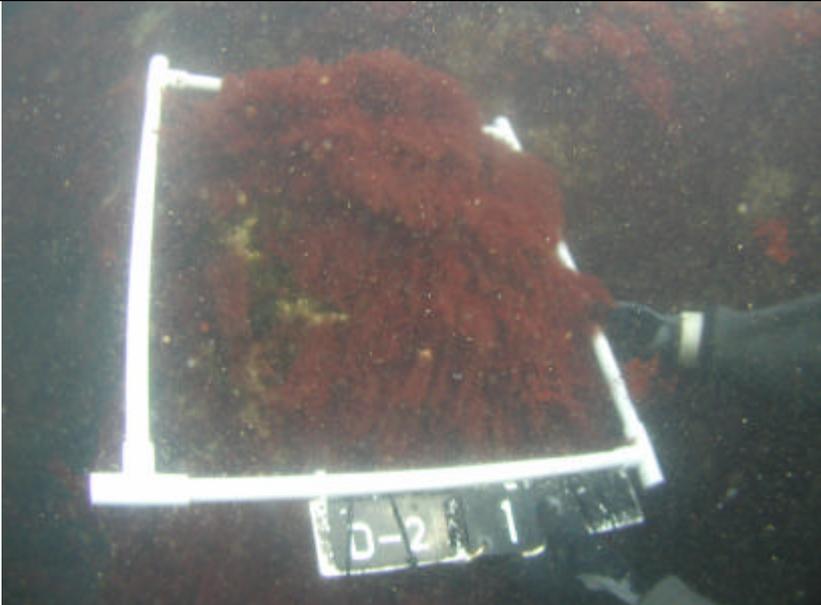
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

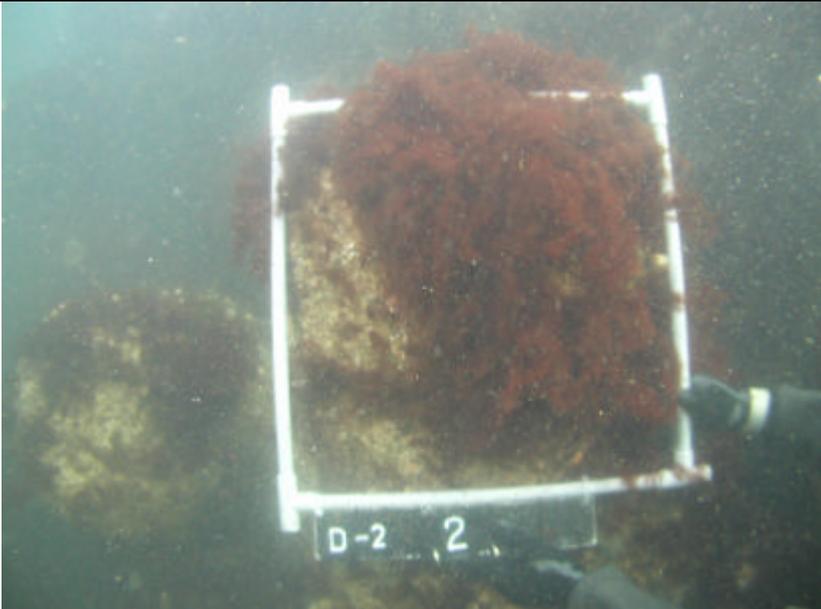
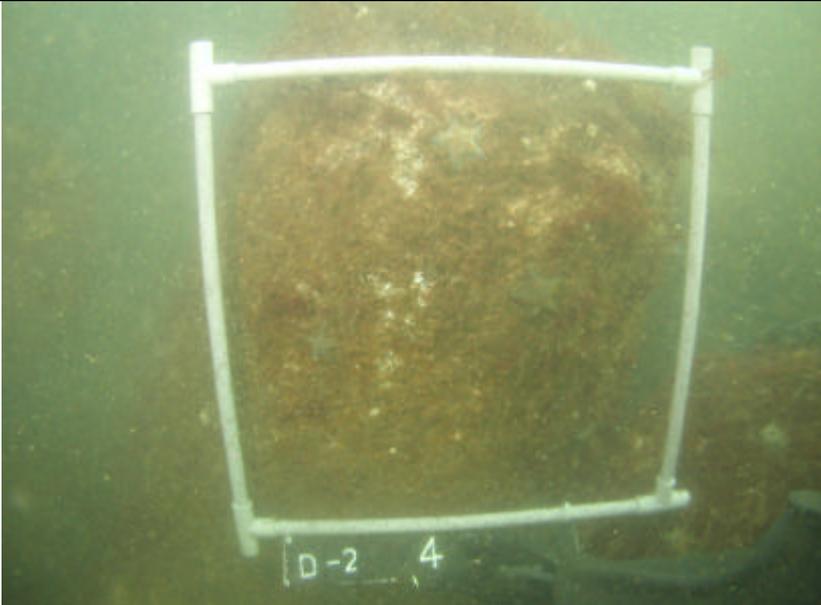
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>アオサ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 1</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>シロボヤ</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

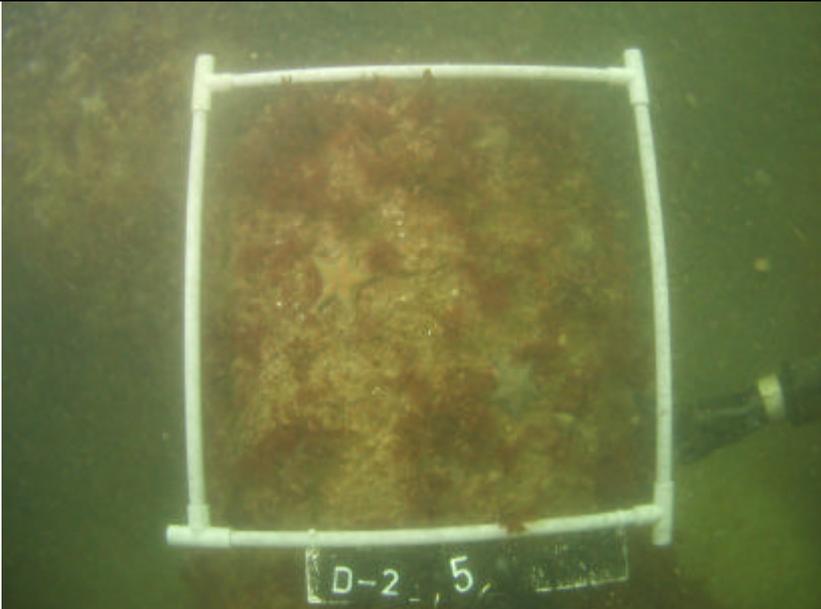
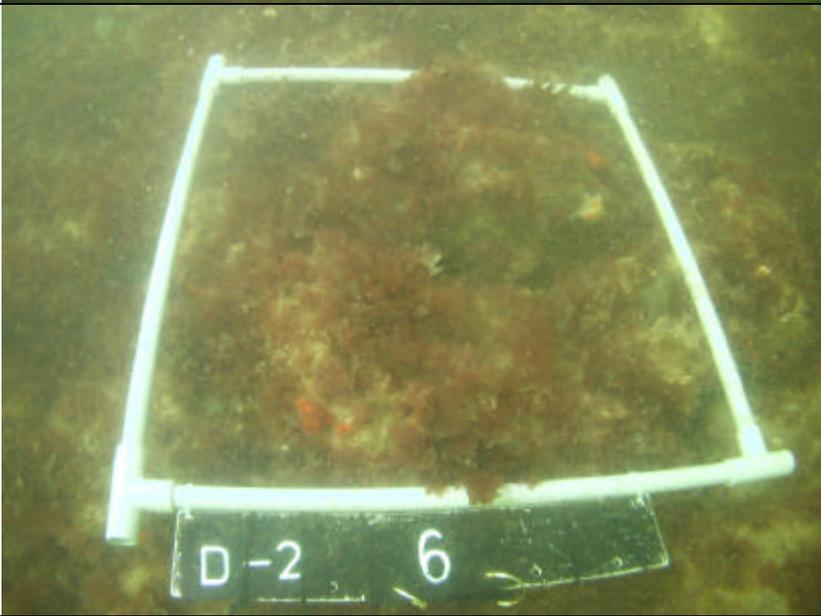
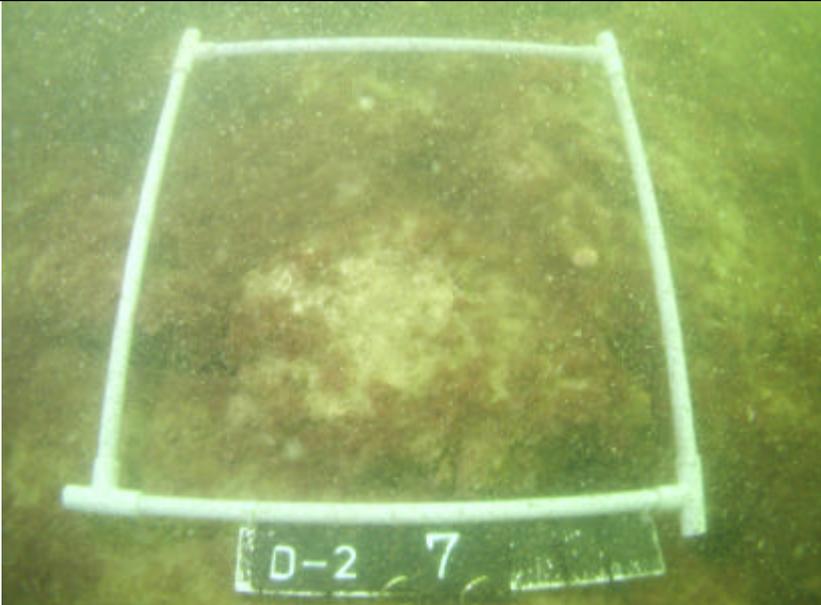
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>フサコケムシ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>ユウレイボヤ属</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 1</p> <p>M.W.L. - 8.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

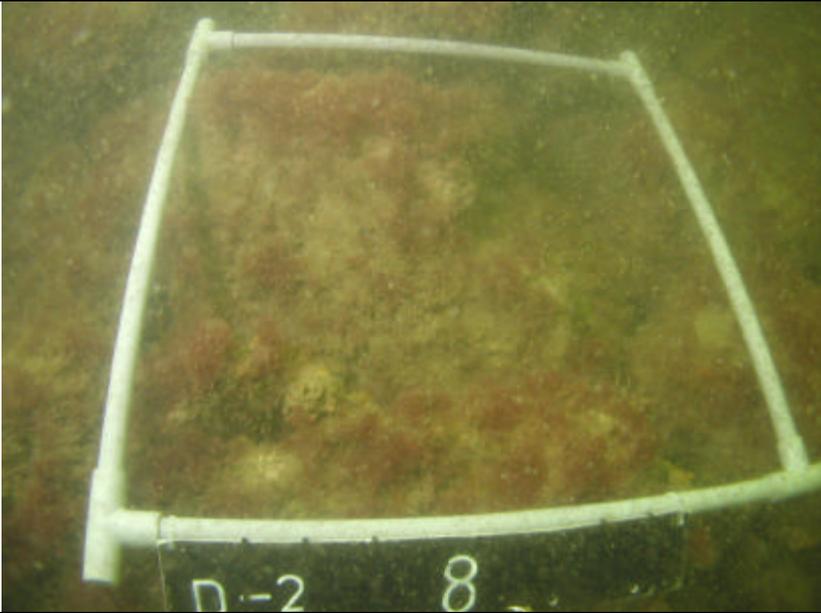
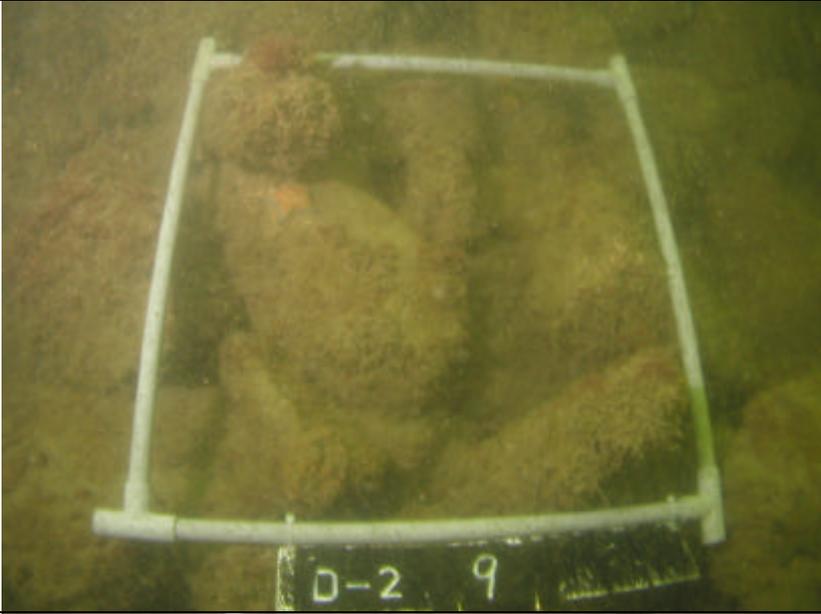
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

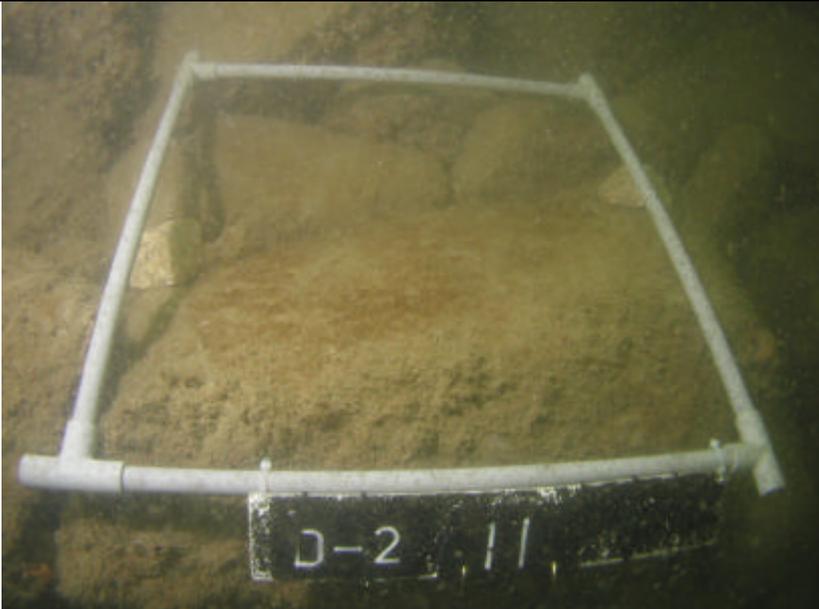
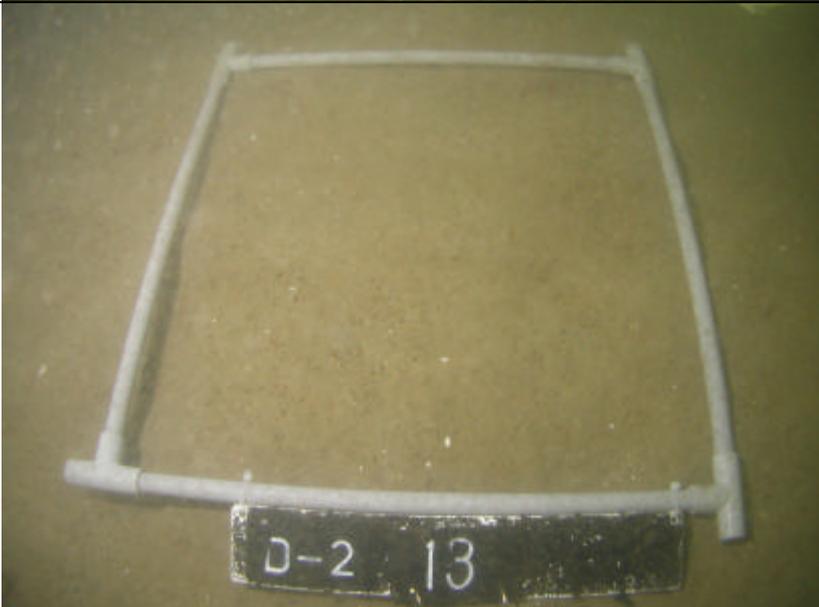
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

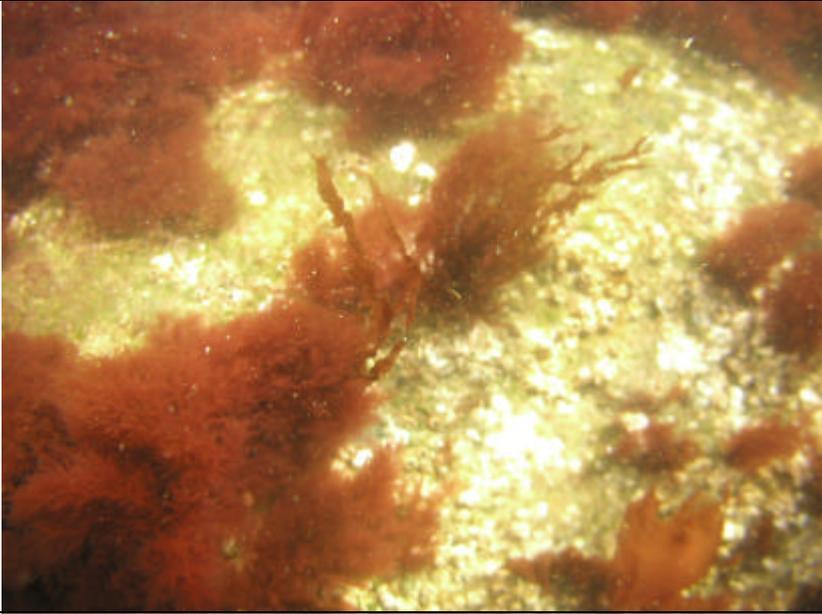
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

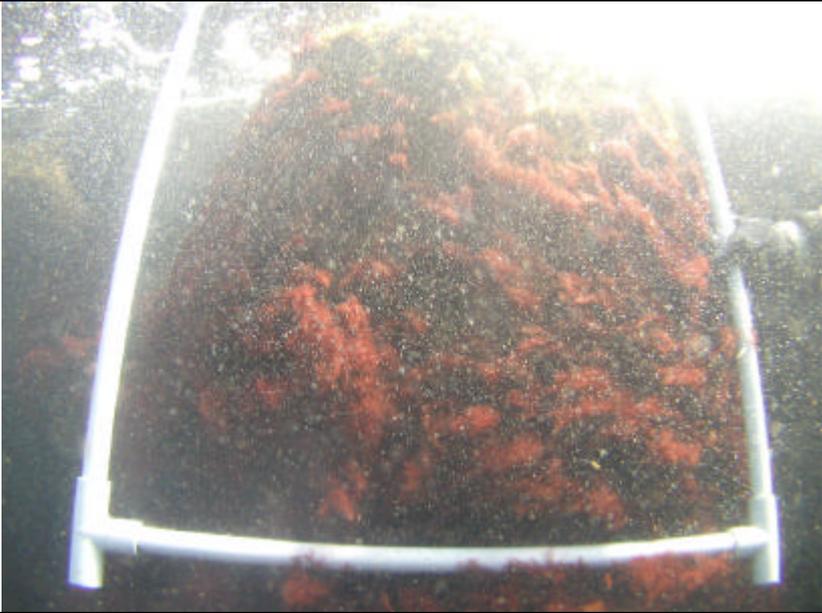
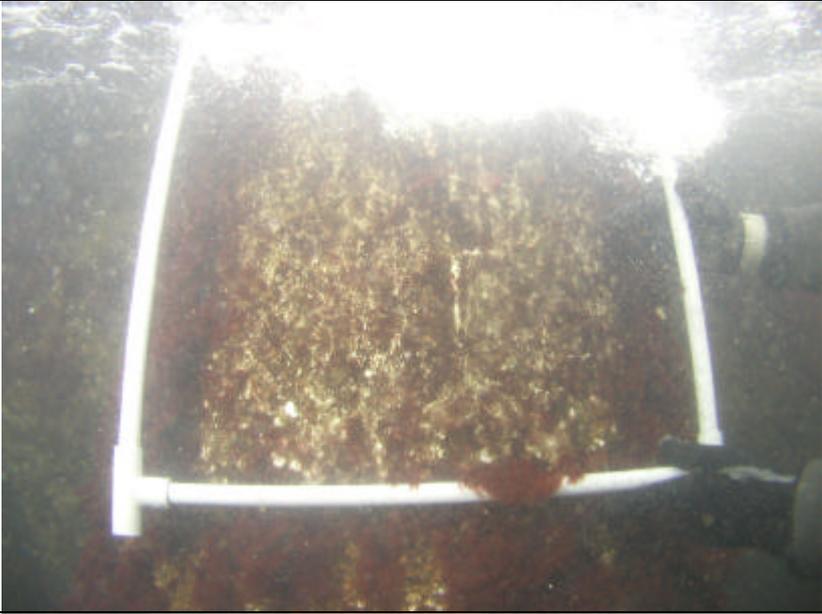
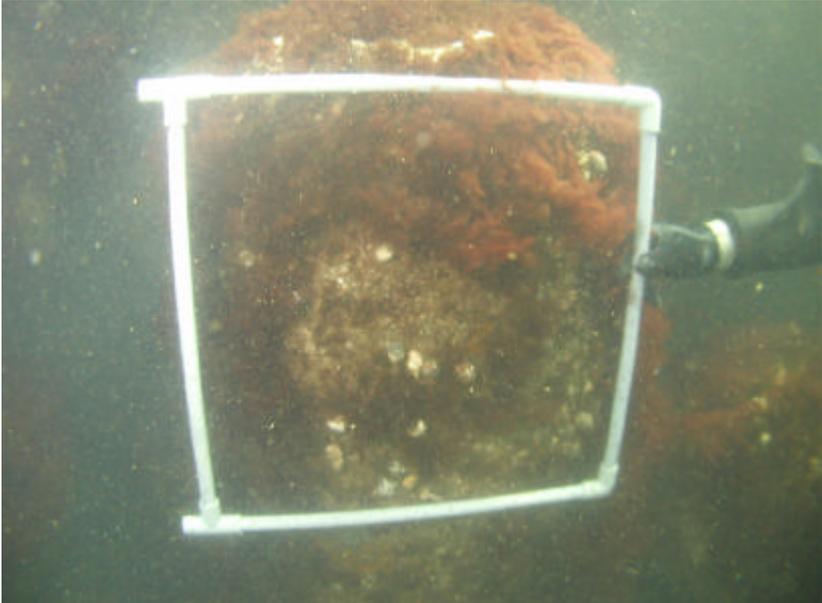
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 2</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

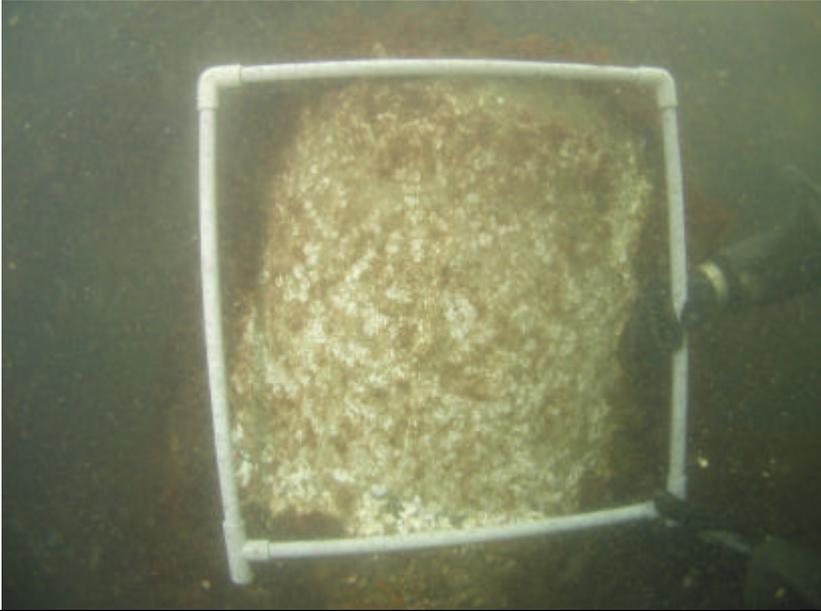
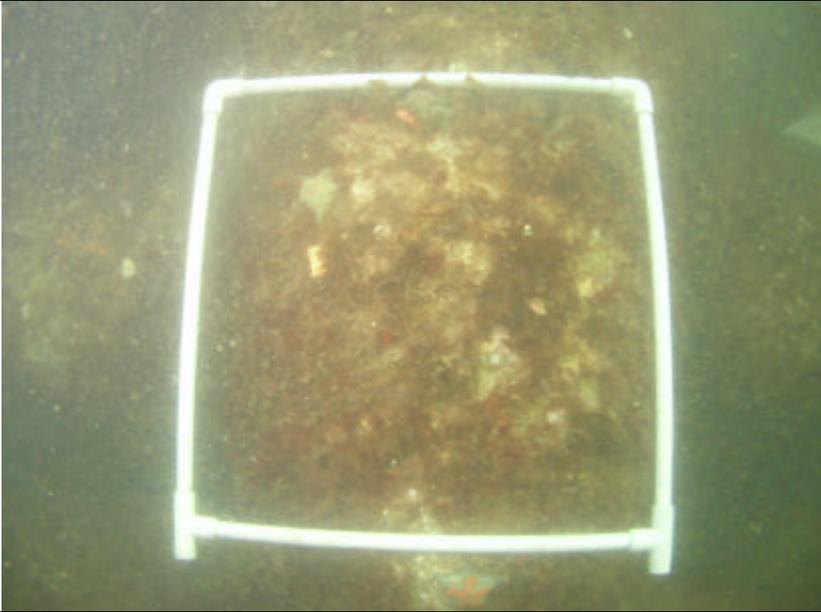
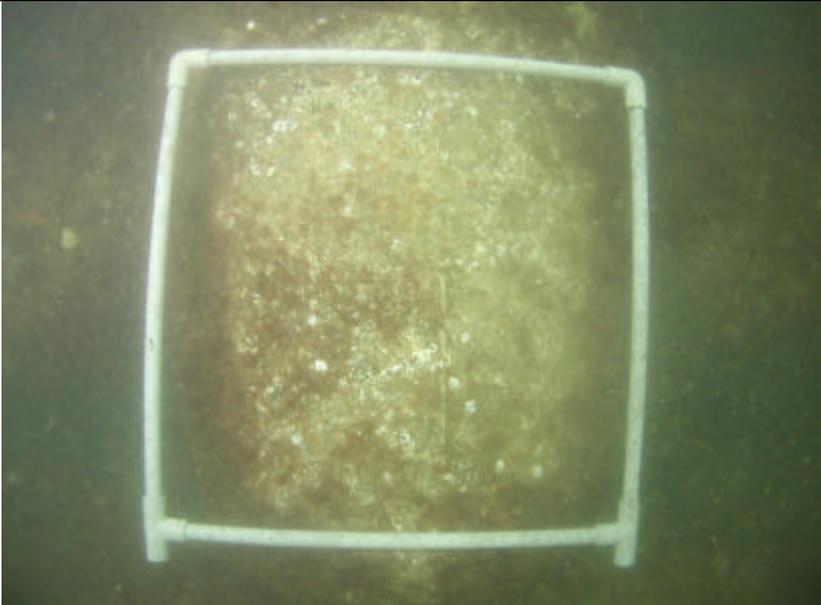
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. ±0.0m 付近</p> <p>イトグサ属</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 3.0m 付近</p> <p>ムカデノリ属</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2</p> <p>M.W.L. - 6.0m 付近</p> <p>ススカケベニ タオヤギソウ</p>

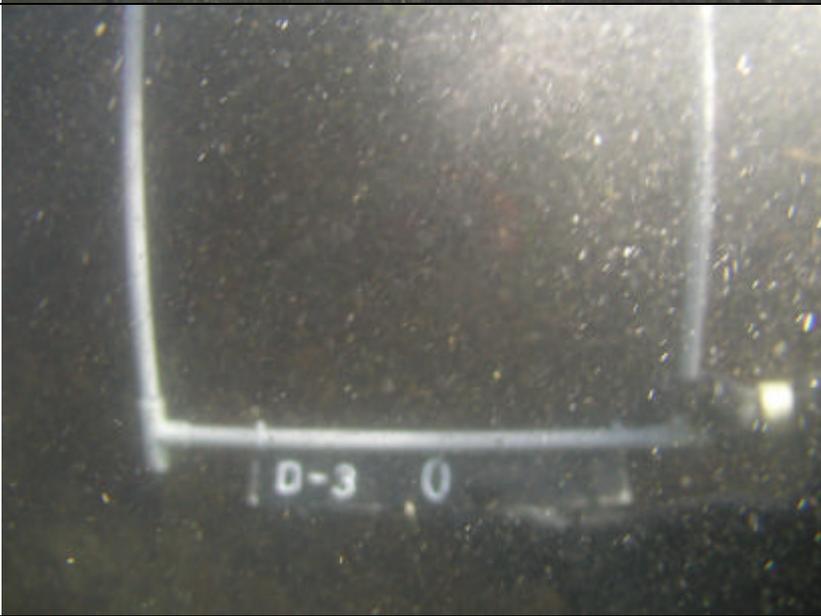
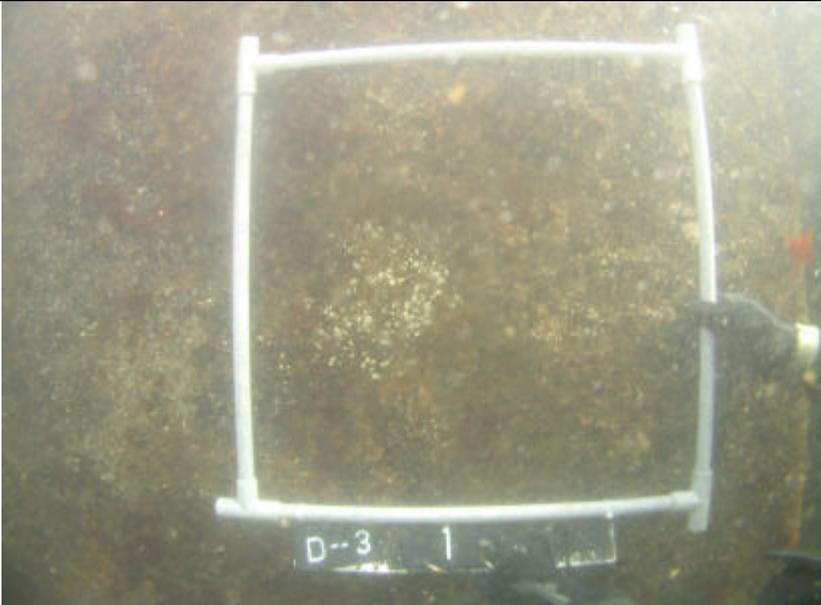
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>採取前 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 上層</p> <p>採取後 M.W.L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>採取前 M.W.L. - 2.0m</p>

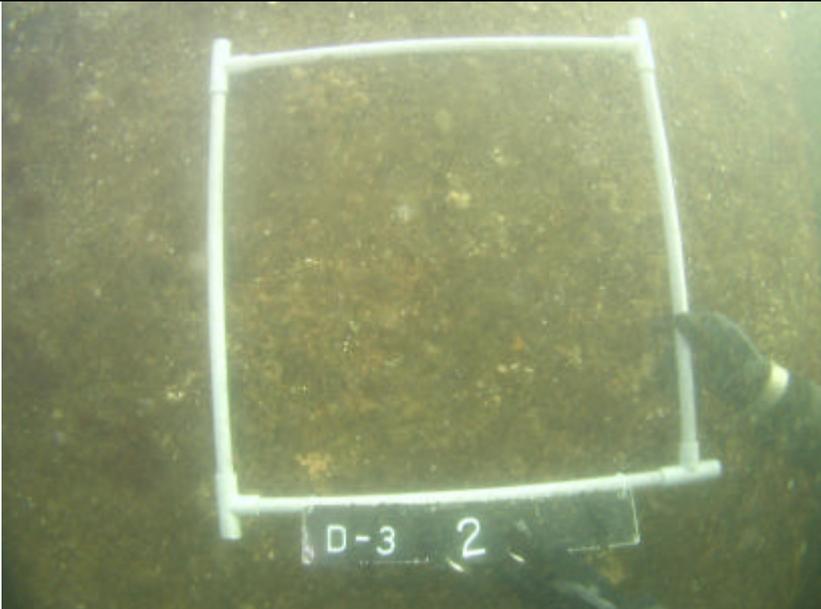
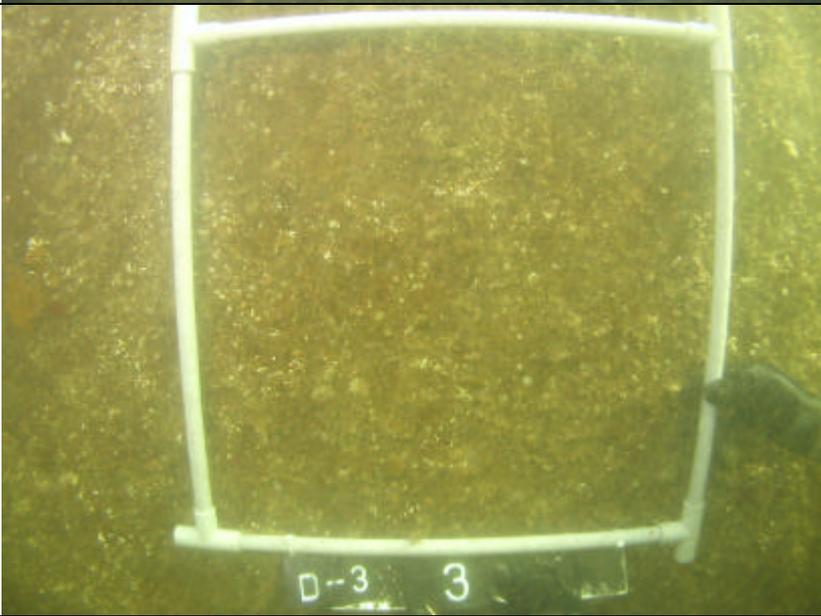
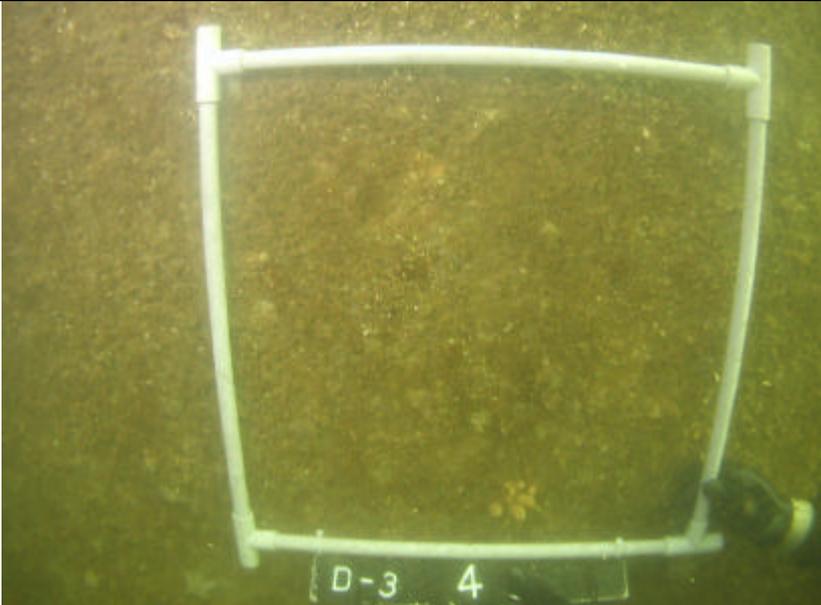
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 中層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 2 下層</p> <p>粹取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

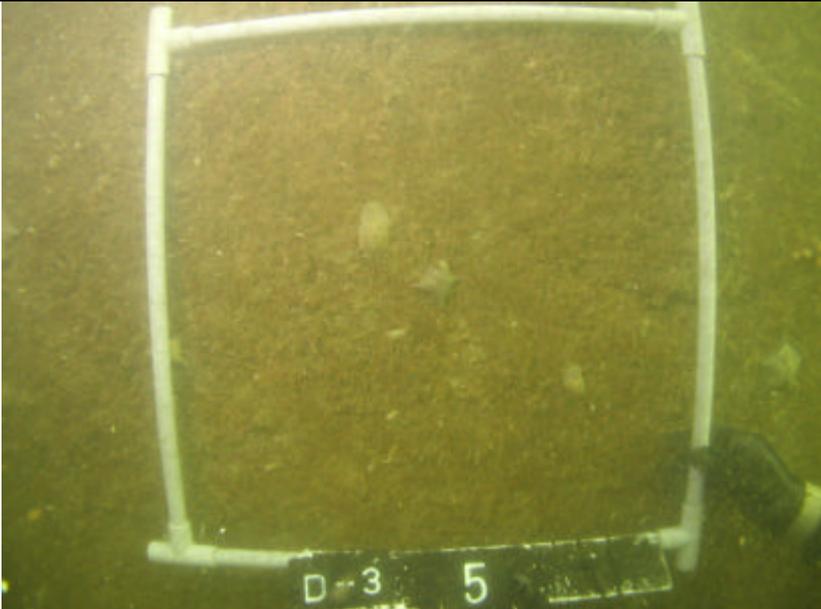
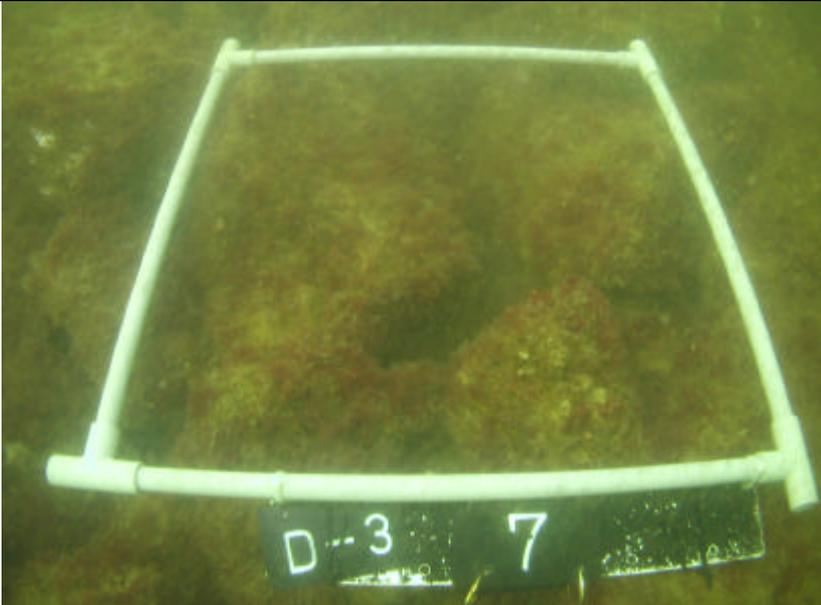
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

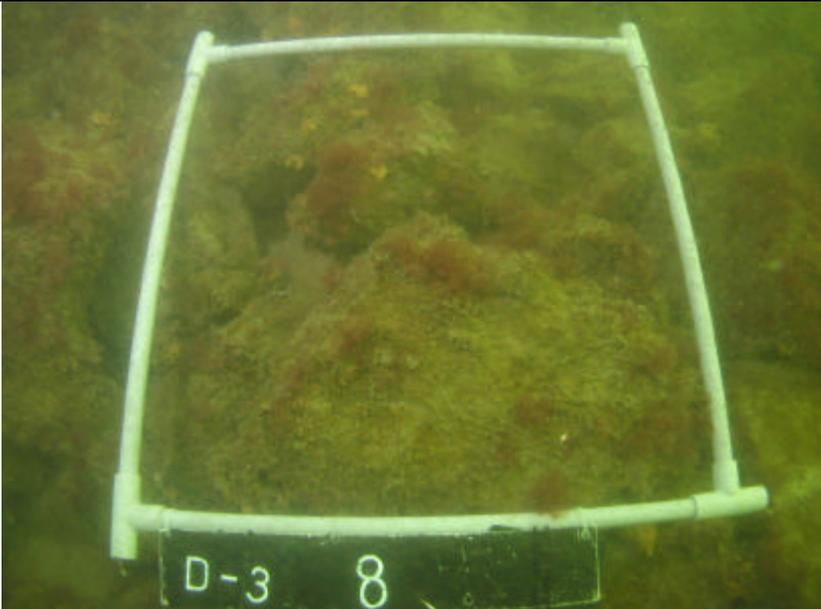
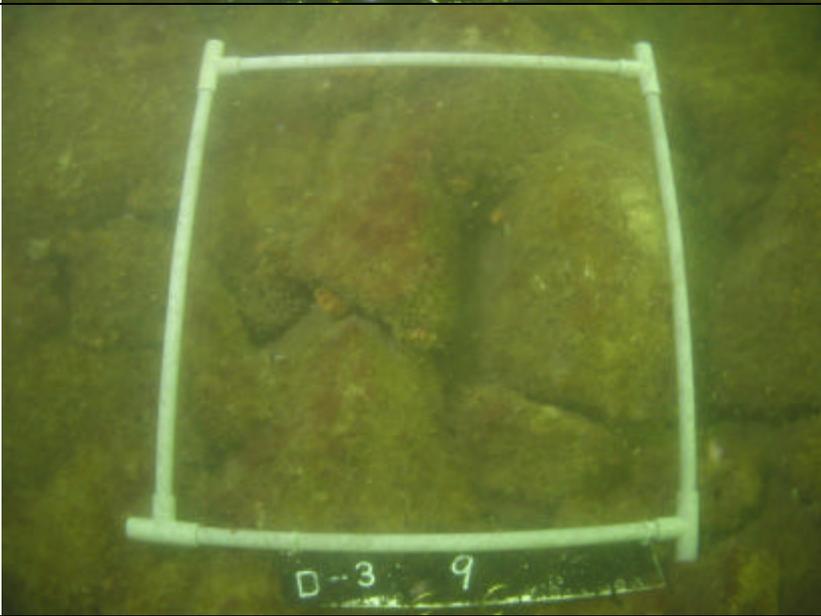
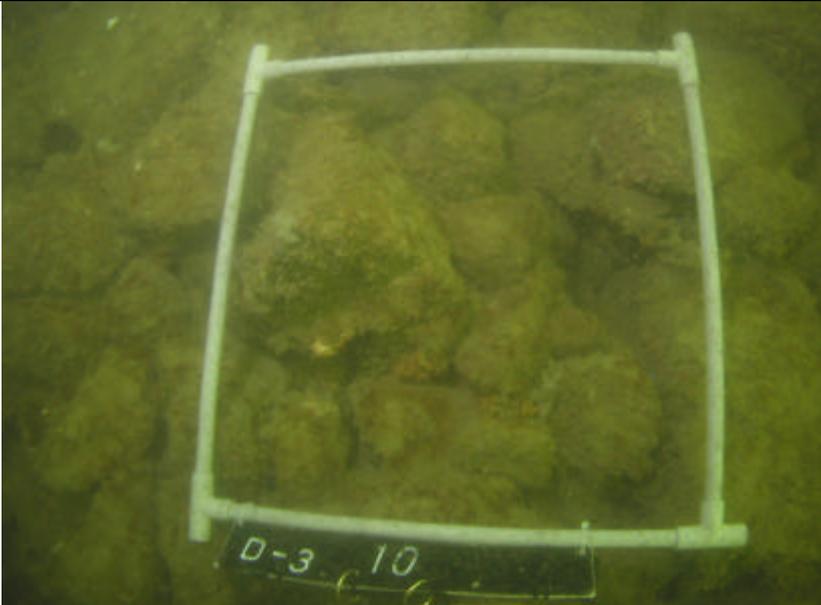
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. + 1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. ± 0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 1.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

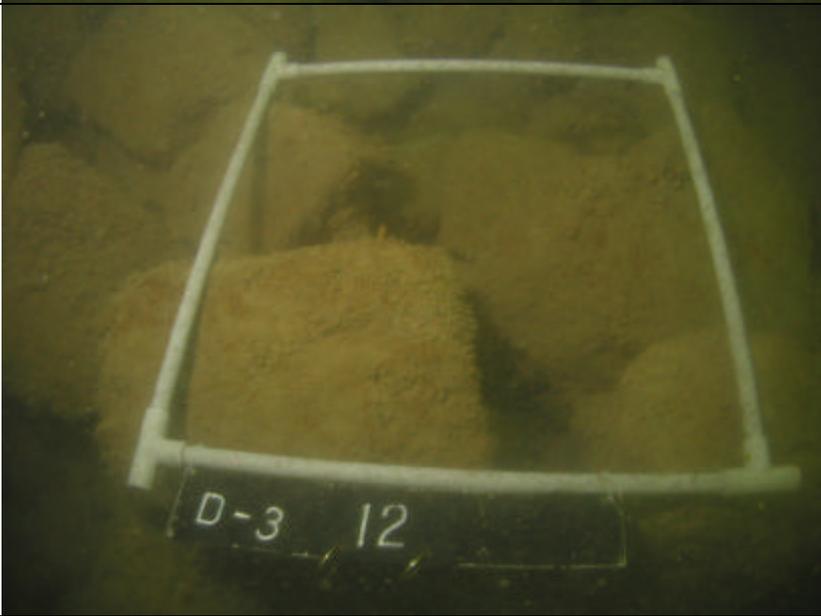
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 4.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 10.0m</p>

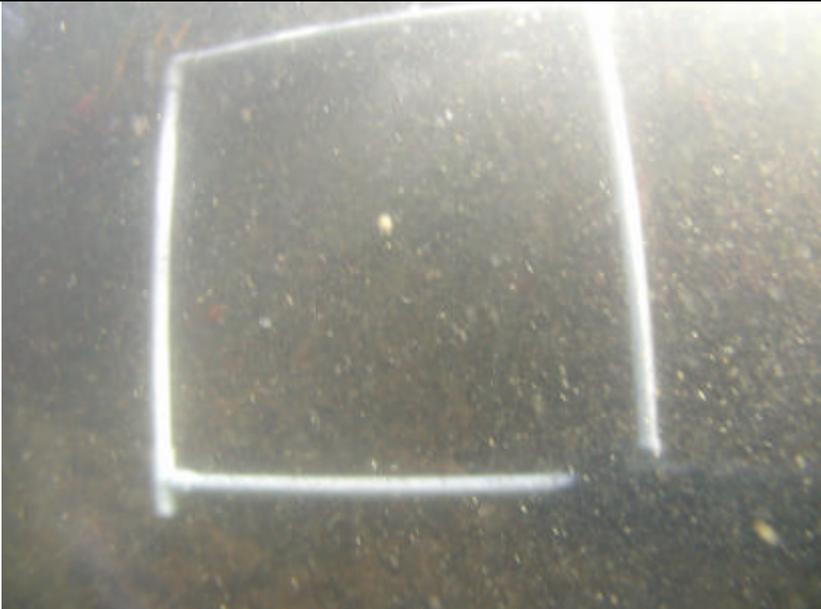
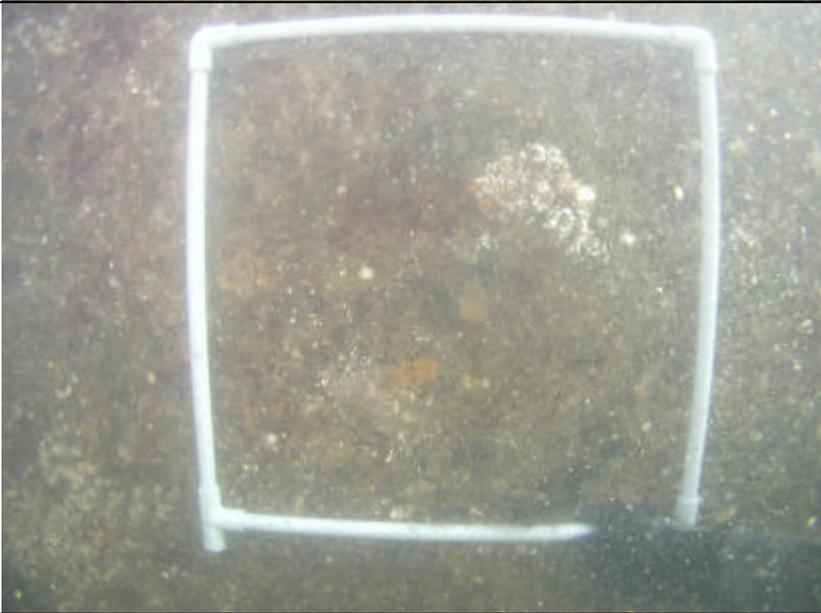
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 12.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 3</p> <p>M.W.L. - 13.0m</p>

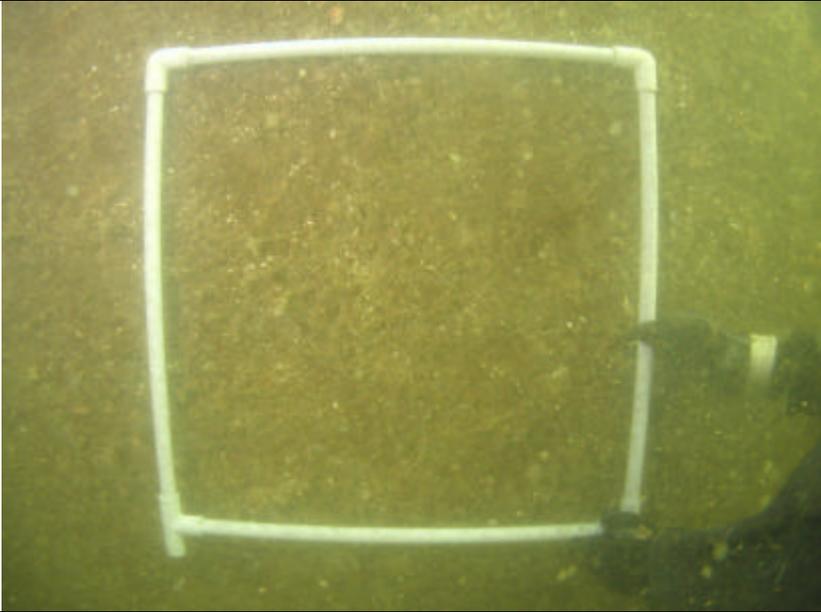
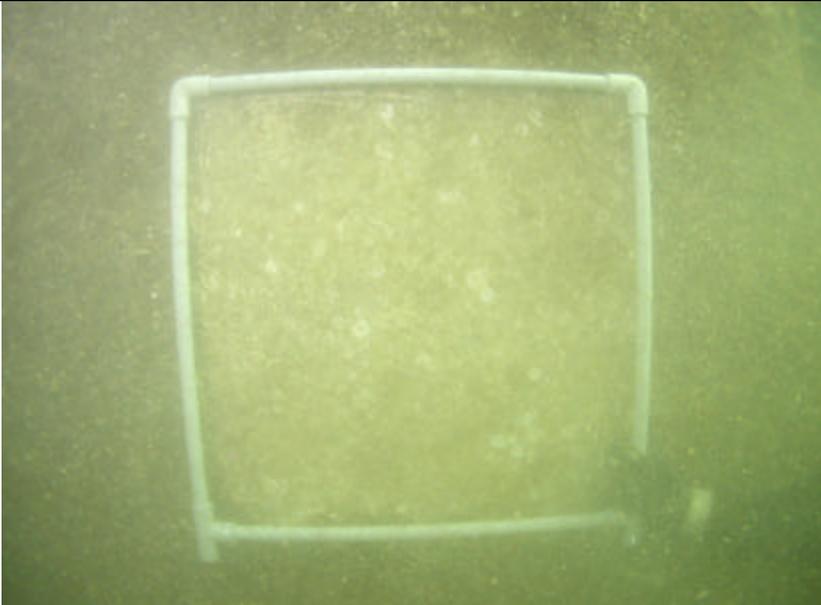
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 2.0m 付近</p> <p>ワカメ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 5.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3</p> <p>M.W.L. - 7.0m 付近</p> <p>ススカベニ</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り前 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 上層</p> <p>枠取り後 M.W.L. ±0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 2.0m</p>

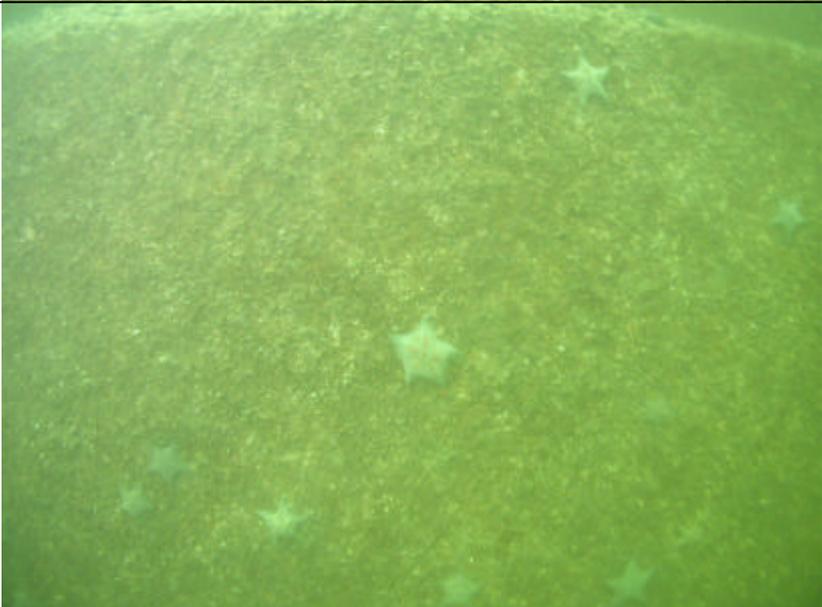
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 中層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>枠取り前 M.W.L. - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 3 下層</p> <p>枠取り後 M.W.L. - 4.0m</p>

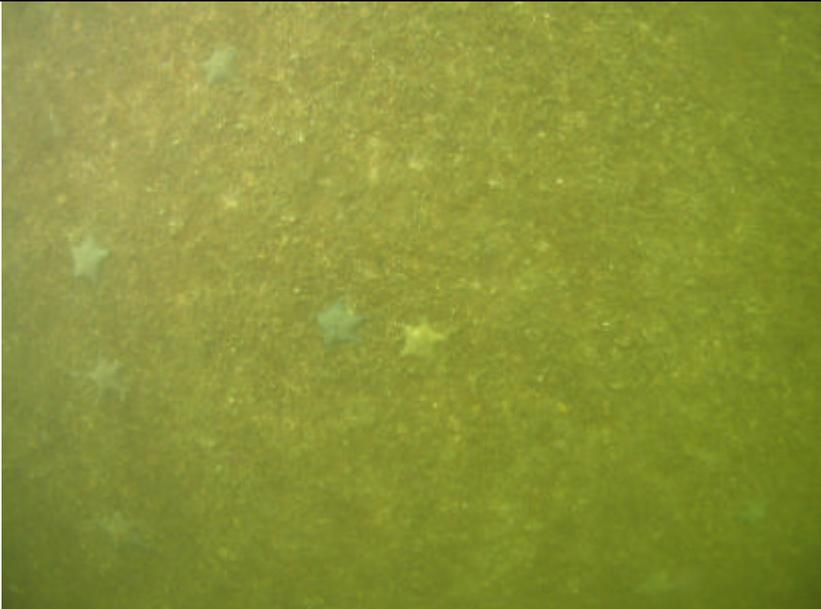
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. + 1.0 ~ ± 0.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. ± 0.0 ~ - 1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 1.0 ~ - 2.0m</p>

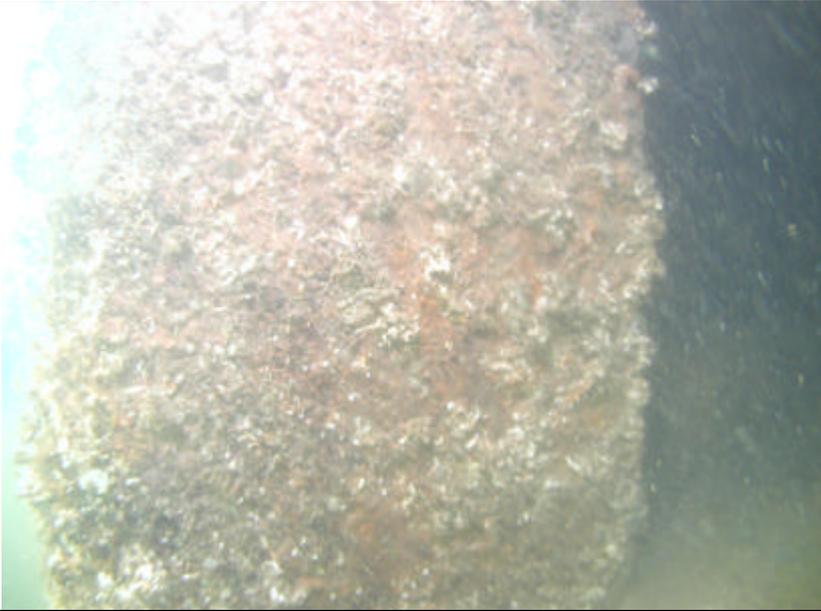
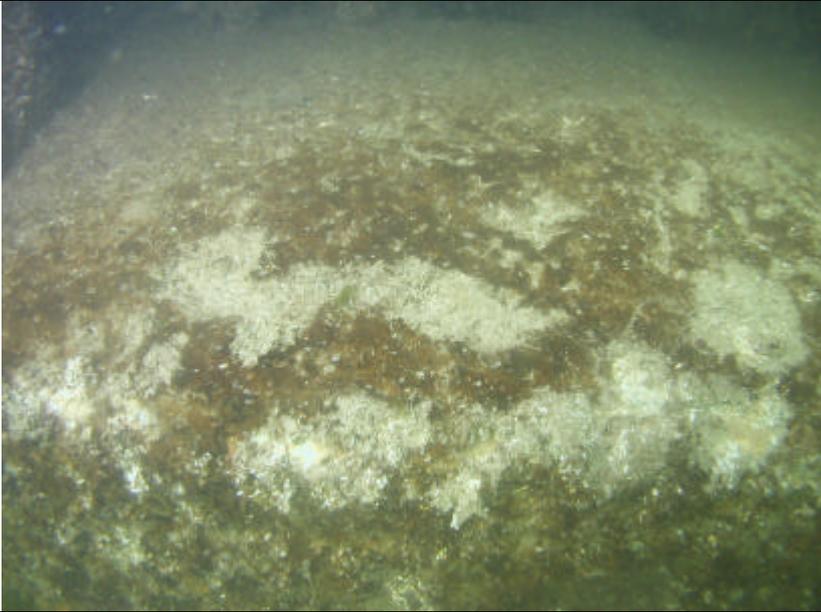
調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 2.0 ~ - 3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 3.0 ~ - 4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 4.0 ~ - 5.0m</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>工口岸壁 M.W.L. - 5.0 ~ - 5.5m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 上室・上面</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 上室・側面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 上室・下面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 下室</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 下室・上面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 下室・側面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D - 5</p> <p>遊水室 下室・下面</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>M.W.L. - 4.0m 付近</p> <p>シダモク</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室</p> <p>マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点D - 5</p> <p>遊水室 下室・貫通孔</p> <p>メバル</p>

調査日：平成 20 年 2 月 1 日